

「八王子未来デザイン2040」
の運用に関する
市民アンケート調査
報告書

調査項目

「八王子未来デザイン2040」
の運用に関する意識調査

令和6年（2024年）3月
八王子市

目 次

I	調査の概要	1
1.	調査目的	3
2.	調査設計	3
3.	調査項目	3
4.	回収結果	3
5.	地域区分	4
6.	報告書の見方	5
7.	標本誤差	6
II	回答者の属性	7
III	調査結果	15
1.	八王子未来デザイン2040の運用に関する市民アンケート調査	17
(1)	「安心して子育てができるまち」になっていると思うか	17
(2)	子育てを支える環境が整っていると思うか	22
(3)	子育て分野において力を入れた方がよいと考える取組	27
(4)	子育てに関して相談できる人の有無	33
(5)	若者の居場所になっているか	38
(6)	子どもと触れ合う機会があったか	45
(7)	子どもや保護者とともに行う活動への参加状況	50
(8)	日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動への参加状況	56
(9)	八王子に関連する文化芸術に触れる機会があったか	61
(10)	生涯学習環境が整っていると思うか	66
(11)	八王子の魅力	71
(12)	「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」の有無	77
(13)	「歩きたくなるまち」になっていると思うか	82
(14)	「災害に強いまち」になっていると思うか	87
(15)	地域の防災訓練への参加状況	92
(16)	“災害時の避難場所”を共有しているか	97
(17)	“災害時の安否確認の方法”を共有しているか	102
(18)	災害時の災害情報入手方法	107
(19)	「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか	114
(20)	「はちまるサポート」の認知度	119
(21)	誰もが活躍できる環境が整っていると思うか	124
(22)	外国人と交流したいと思うか	129
(23)	男女共同参画が実現していると思うか	134
(24)	自然と触れ合う機会の有無	155
(25)	生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったこと	160
(26)	「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか	167
(27)	身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無	172

(28)	身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無.....	177
(29)	気軽に立ち寄れる場所.....	182
(30)	「地域づくり」を進めるための取組の認知度.....	189
(31)	地域づくりの取組を知ったきっかけ.....	194
(32)	地域コミュニティ活動への参加状況.....	200
(33)	地域コミュニティの活動に参加した理由.....	205
(34)	地域コミュニティの活動の参加頻度.....	211
(35)	地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか.....	242
(36)	地域コミュニティ活動への参加意向.....	270
IV	参考資料.....	301

I 調査の概要

1. 調査目的

この調査は、基本構想・基本計画「八王子未来デザイン2040」に設定する数値目標及び重要業績評価指標（KPI）のうち、市民に回答を求める必要のあるデータの現状値等を把握することを目的とする。

2. 調査設計

- (1) 調査地域：八王子市内全域
- (2) 調査対象：満18歳以上の市内在住者個人
- (3) 対象者数：5,000人
- (4) 調査方法：配達配布／郵送または電子申請による回収
- (5) 調査期間：令和5年（2023年）11月1日～11月15日
- (6) 抽出方法：住民基本台帳からの無作為抽出法
 - ・層 化…「八王子未来デザイン2040」で示す6地域・14管内（市民部事務所管内）の調査対象人口に応じて、調査数を比例配分
 - ・対象者抽出…14管内別に単純無作為抽出
- (7) 調査機関：株式会社タイム・エージェント

3. 調査項目

八王子未来デザイン2040の運用に関する市民アンケート調査

4. 回収結果

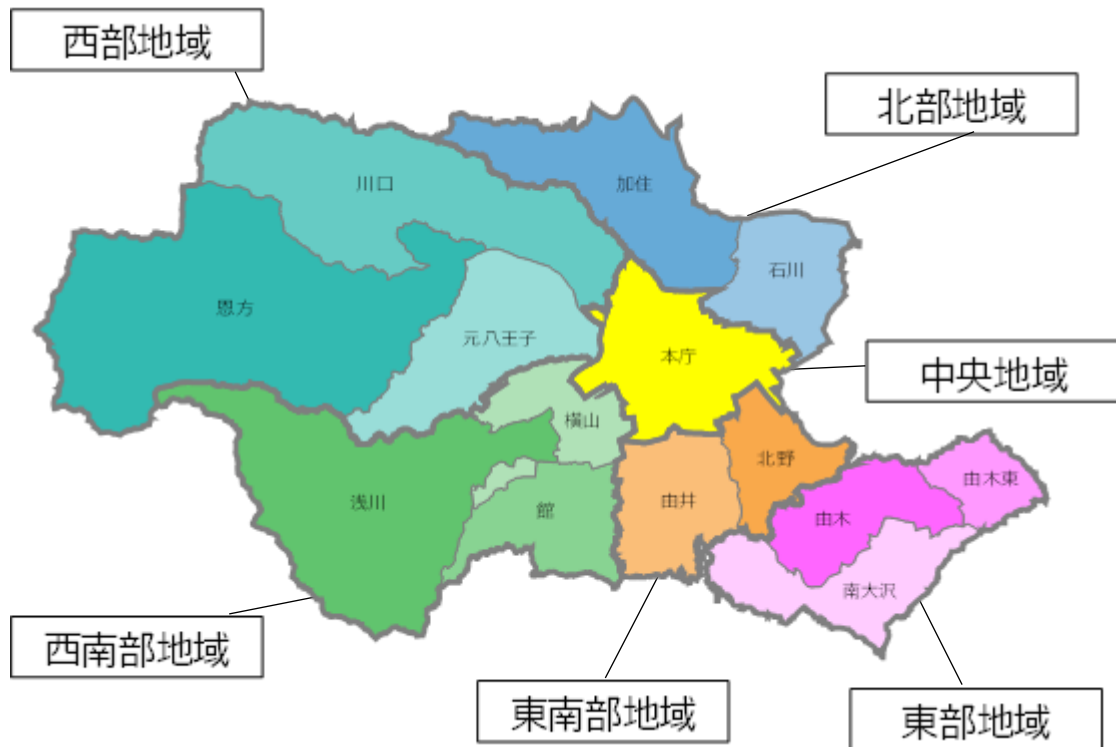
対象者数：5,000人

有効回収数：2,275票（有効回収率45.5%）

回収方法別内訳：

回収方法	有効回収数	内訳
郵送回収	1,643	72.2%
電子申請	632	27.8%
合計	2,275	100.0%

5. 地域区分



地域区分	町名 (五十音順)
本庁管内 (中央地域)	暁町・旭町・東町・上野町・追分町・大横町・大和田町・小門町・清川町・子安町・新町・千人町・台町・田町・寺町・天神町・中町・中野上町・中野山王・中野町・八幡町・日吉町・平岡町・富士見町・本郷町・本町・三崎町・緑町・南新町・南町・明神町・元本郷町・元横山町・八木町・八日町・横山町・万町
元八王子・恩方・川口 (西部地域)	泉町・犬目町・小津町・叶谷町・上壱分方町・上恩方町・上川町・川口町・川町・下恩方町・諏訪町・大楽寺町・檜原町・西寺方町・弐分方町・美山町・元八王子町・横川町・四谷町
浅川・横山・館 (西南部地域)	裏高尾町・大船町・梶田町・散田町・城山手・高尾町・館町・寺田町・廿里町・長房町・並木町・西浅川町・狭間町・初沢町・東浅川町・南浅川町・めじろ台・山田町
加住・石川 (北部地域)	石川町・宇津木町・梅坪町・大谷町・尾崎町・加住町・久保山町・小宮町・左入町・平町・高倉町・高月町・滝山町・丹木町・戸吹町・丸山町・みつい台・宮下町・谷野町
由井・北野 (東南部地域)	打越町・宇津貫町・片倉町・北野台・北野町・絹ヶ丘・小比企町・長沼町・七国・西片倉・兵衛・みなみ野
由木・由木東・南大沢 (東部地域)	大塚・鹿島・上柚木・越野・下柚木・中山・南陽台・東中野・別所・堀之内・松が谷・松木・南大沢・鑓水

6. 報告書の見方

- (1) 集計は、小数第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) 基数となるべき実数は、n(件数)として表示した。その比率はn(件数)を100%として算出した。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (5) クロス集計による分析では、性別や年齢などの分析項目の質問に無回答である回答者の集計結果は図表中に表示していないが、これらの回答結果は図表中の「全体」には含まれる。したがって、図表中に示した分析項目すべてのn(件数)を合計しても、全体のn(件数)と一致しない場合がある。また、クロス集計の分析項目は、性別・年齢別・居住地域別・職業別・世帯構成別・居住年数別としている。
- (6) 調査結果の分析においては、n(件数)が30件を下回る場合には、参考値とみなし該当属性に対するコメントは控えている。
- (7) 割合の表現については、以下の表記を基本とする。

<例>

表記	4割	約4割	4割強	4割台半ば	5割近く	5割弱
割合	40.0%	40.1~40.9%	41.0~43.9%	44.0~45.9%	46.0~48.9%	49.0~49.9%

- (8) 質問における選択肢を統合し、《 》を用いて記述している場合がある。なお、この場合の比率は、個々の選択肢の比率の単純合計である。

<例>「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を統合して《思う》。

7. 標本誤差

標本誤差（サンプル誤差）はおおよそ以下のとおりである。

単純無作為抽出法の標本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、比率算出の基数（ n ）及び回答比率（ P ）によって異なる。

$$b = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数

n = 比率算出の基数（サンプル数）

P = 回答比率

例えば、ある設問の回答者数が 2,275 で、その設問の「そう思う」の回答比率が 20%である場合、標本誤差は 20%を中心に±1.68%の範囲内となり、標本誤差を踏まえた回答比率は 18.32%～21.68%の間であるとみることができる。

同様に計算した標本誤差の早見表を以下に示す。

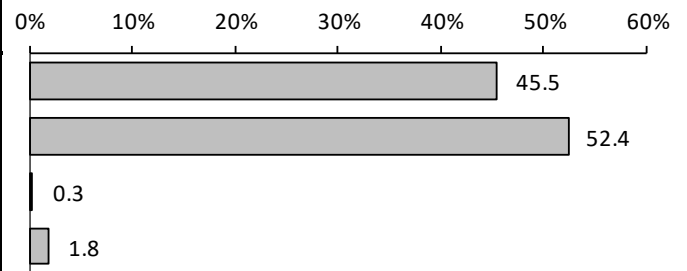
回答比率 (P) 基数 (n)	5% または 95% 前後	10% または 90% 前後	20% または 80% 前後	30% または 70% 前後	40% または 60% 前後	50% 前後
2,275	±0.91	±1.26	±1.68	±1.92	±2.05	±2.10
2,000	±0.97	±1.34	±1.79	±2.05	±2.19	±2.24
1,500	±1.13	±1.55	±2.07	±2.37	±2.53	±2.58
1,000	±1.38	±1.90	±2.53	±2.90	±3.10	±3.16
500	±1.95	±2.68	±3.58	±4.10	±4.38	±4.47

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \cong 1$ として算出している。この表の計算式の信頼度は 95% である。

II 回答者の属性

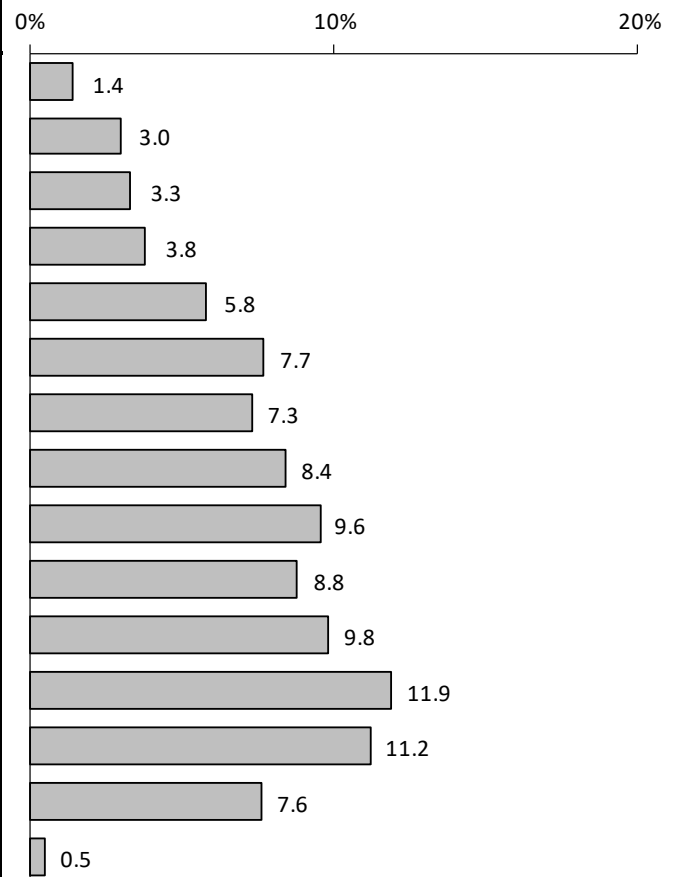
1. 性別

区分	基数 (人)	構成比 (%)
男性	1,036	45.5
女性	1,192	52.4
あてはまらない	6	0.3
無回答	41	1.8
合計	2,275	100.0



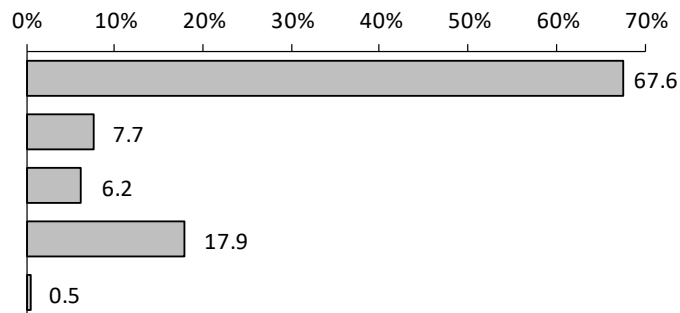
2. 年齢

区分	基数 (人)	構成比 (%)
18～19歳	31	1.4
20～24歳	68	3.0
25～29歳	74	3.3
30～34歳	86	3.8
35～39歳	133	5.8
40～44歳	175	7.7
45～49歳	165	7.3
50～54歳	190	8.4
55～59歳	218	9.6
60～64歳	201	8.8
65～69歳	223	9.8
70～74歳	271	11.9
75～79歳	255	11.2
80歳以上	173	7.6
無回答	12	0.5
合計	2,275	100.0



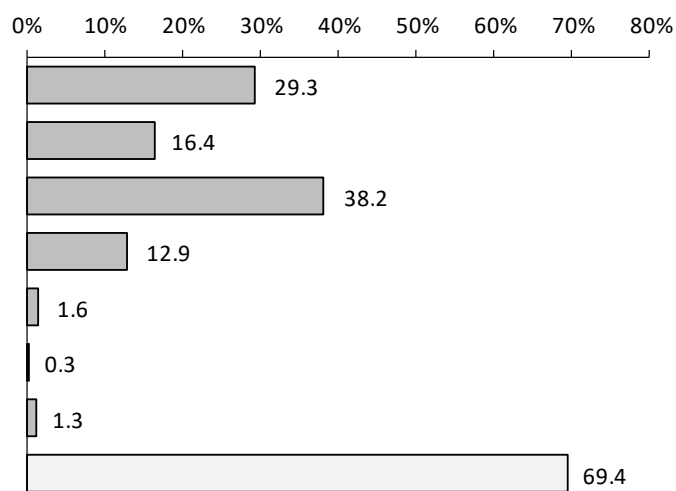
3. 配偶者の有無（事実婚を含む）

区分	基数 (人)	構成比 (%)
いる	1,539	67.6
いない(死別)	176	7.7
いない(離別)	140	6.2
結婚したことはない(未婚)	408	17.9
無回答	12	0.5
合計	2,275	100.0



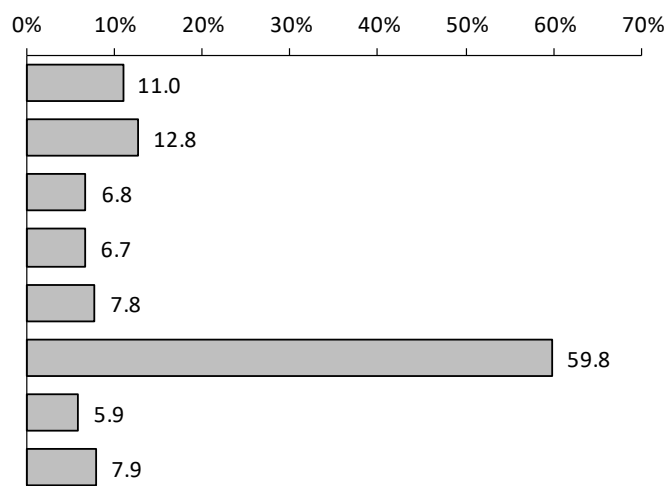
4. 子どもの人数

区分	基数 (人)	構成比 (%)
いない	667	29.3
1人	372	16.4
2人	870	38.2
3人	293	12.9
4人	36	1.6
5人以上	7	0.3
無回答	30	1.3
子どもあり計（※1の合計）	1,578	69.4
合計	2,275	100.0



4-1. 子どもの成長段階（複数回答）

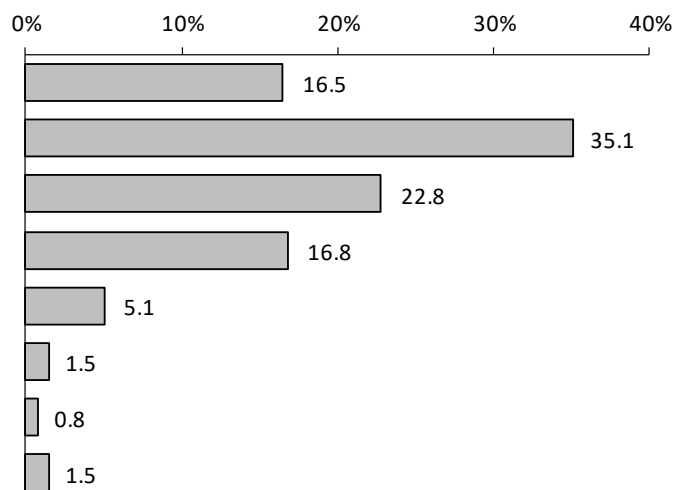
区分	基数 (人)	構成比 (%)
0歳～小学校入学前	174	11.0
小学生	202	12.8
中学生	108	6.8
高校生	106	6.7
大学生(大学院・専門学校等を含む)	123	7.8
学校教育終了(成人・社会人など)	944	59.8
その他	93	5.9
無回答	124	7.9
合計	1,578	100.0



(注) 複数回答につき合計は1,874人であるが、回答者数1,578人を基数として構成比を算出した。

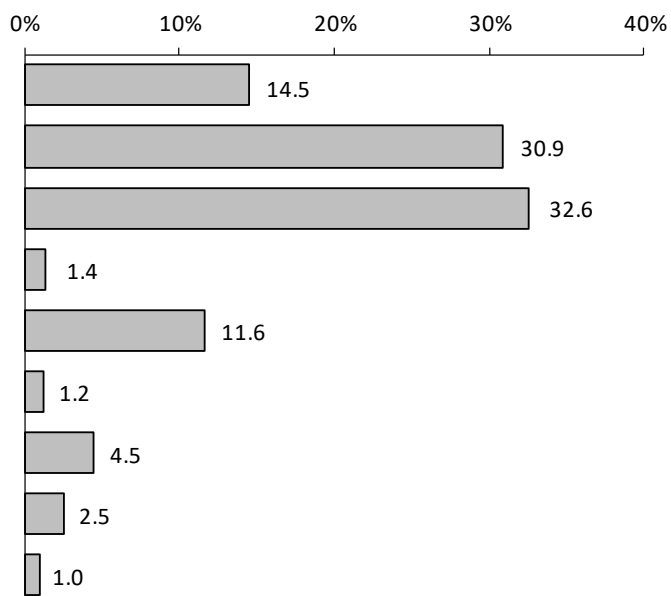
5. 同居人数

区分	基数 (人)	構成比 (%)
1人	375	16.5
2人	798	35.1
3人	519	22.8
4人	382	16.8
5人	115	5.1
6人	33	1.5
7人以上	19	0.8
無回答	34	1.5
合計	2,275	100.0



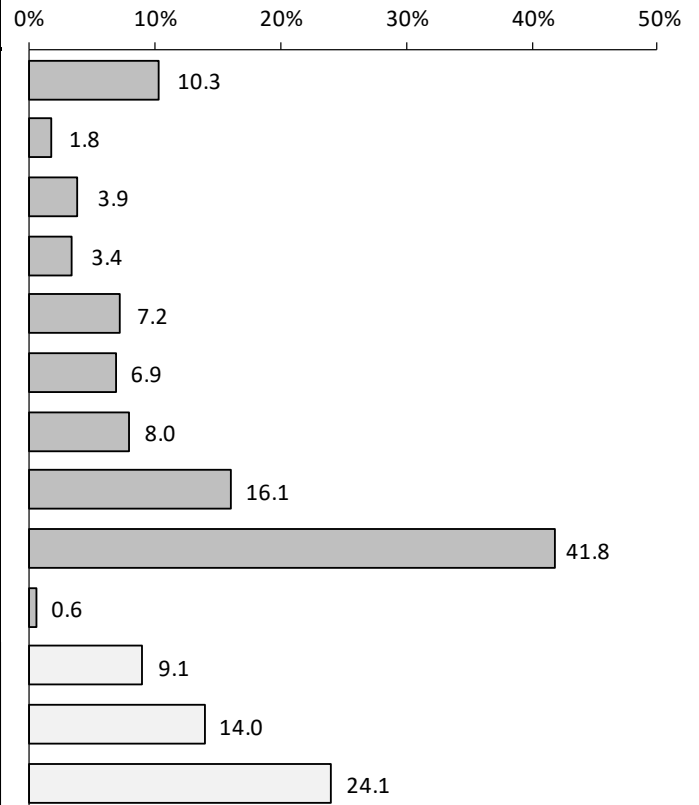
6. 世帯構成

区分	基数 (人)	構成比 (%)
ひとり暮らし	329	14.5
配偶者とふたり暮らし(事実婚を含む)	702	30.9
自分たち夫婦と未婚の子ども (または、自分と未婚の子ども)	742	32.6
自分たち夫婦と子ども夫婦 (または、自分と子ども夫婦)	31	1.4
親と自分のみ (または、親と自分と兄弟・姉妹など)	263	11.6
親と自分たち夫婦	27	1.2
三世代(例えば、自分たち夫婦と子どもと孫、親と自分と子どもなど)	103	4.5
その他(四世代など)	56	2.5
無回答	22	1.0
合計	2,275	100.0



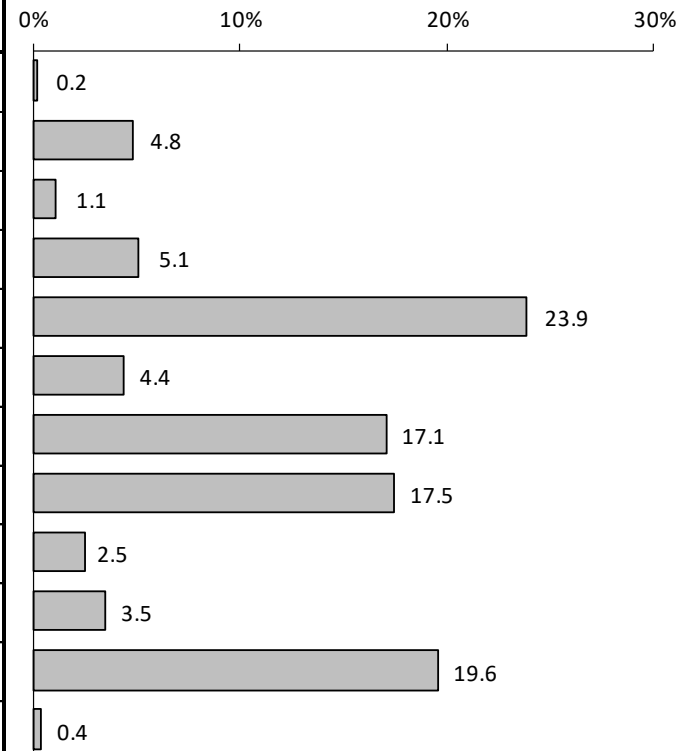
7. 居住年数

区分	基数 (人)	構成比 (%)
生まれてからずっと居住している (年数に関わらず)	235	10.3
1年未満の居住	41	1.8
1～3年未満の居住	88	3.9
3～5年未満の居住	78	3.4
5～10年未満の居住	163	7.2
10～15年未満の居住	156	6.9
15～20年未満の居住	182	8.0
20～30年未満の居住	367	16.1
30年以上の居住	951	41.8
無回答	14	0.6
5年未満計 (※1の合計)	207	9.1
5～15年未満計 (※2の合計)	319	14.0
15～30年未満計 (※3の合計)	549	24.1
合計	2,275	100.0



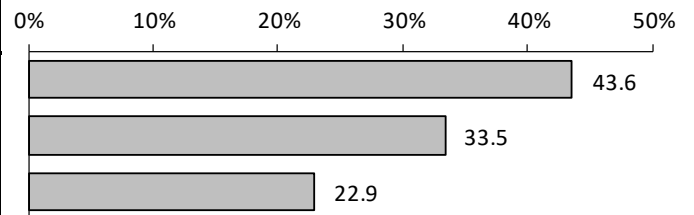
8. 職業

区分	基数 (人)	構成比 (%)
農・林・漁業	4	0.2
自営業	110	4.8
自由業 (開業医、弁護士、司法書士など)	26	1.1
会社や団体の役員	115	5.1
会社・商店・サービス業などの勤め人	543	23.9
教員・公務員	99	4.4
アルバイト・パート	388	17.1
(専業)主婦・主夫	397	17.5
学生	58	2.5
その他	79	3.5
無職	446	19.6
無回答	10	0.4
合計	2,275	100.0



8-1. 仕事場

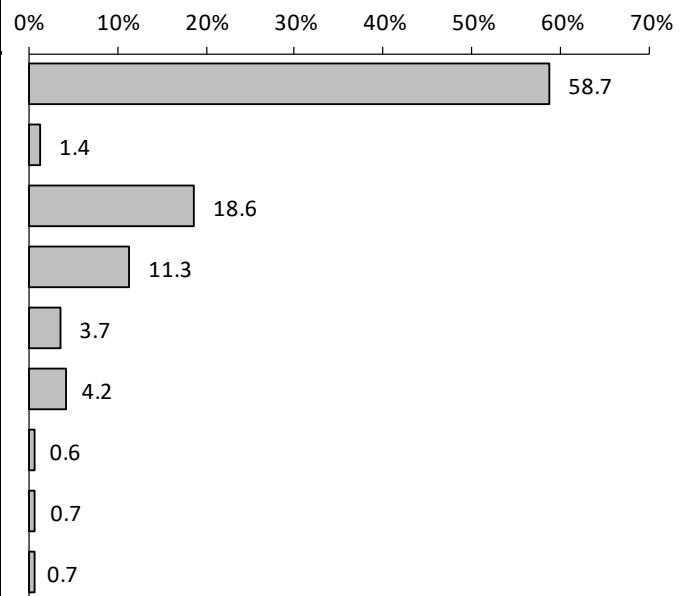
区分	基数 (人)	構成比 (%)
八王子市内	560	43.6
八王子市外	431	33.5
無回答	294	22.9
合計	1,285	100.0



※職業の回答者のうち、(専業)主婦・主夫、学生、その他、無職、無回答を除いた方に対する質問。

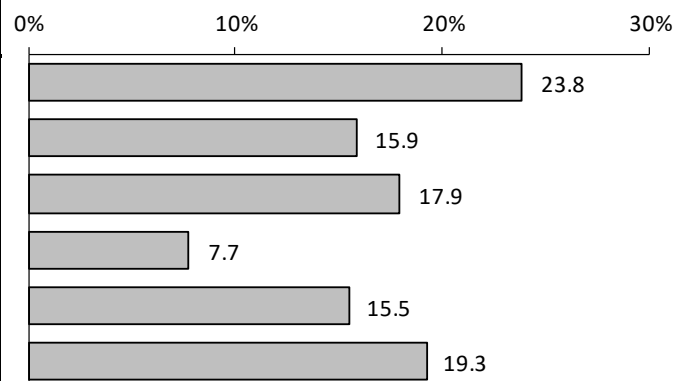
9. 居住形態

区分	基数 (人)	構成比 (%)
戸建て(持ち家)	1,336	58.7
戸建て(借家)	32	1.4
分譲マンション	424	18.6
民間の賃貸アパート・マンション	257	11.3
公営賃貸住宅(都営・市営)	85	3.7
UR(旧公団)・公社の賃貸住宅または 都民住宅	95	4.2
社宅・官舎・寮	14	0.6
その他(間借りなど)	16	0.7
無回答	16	0.7
合計	2,275	100.0



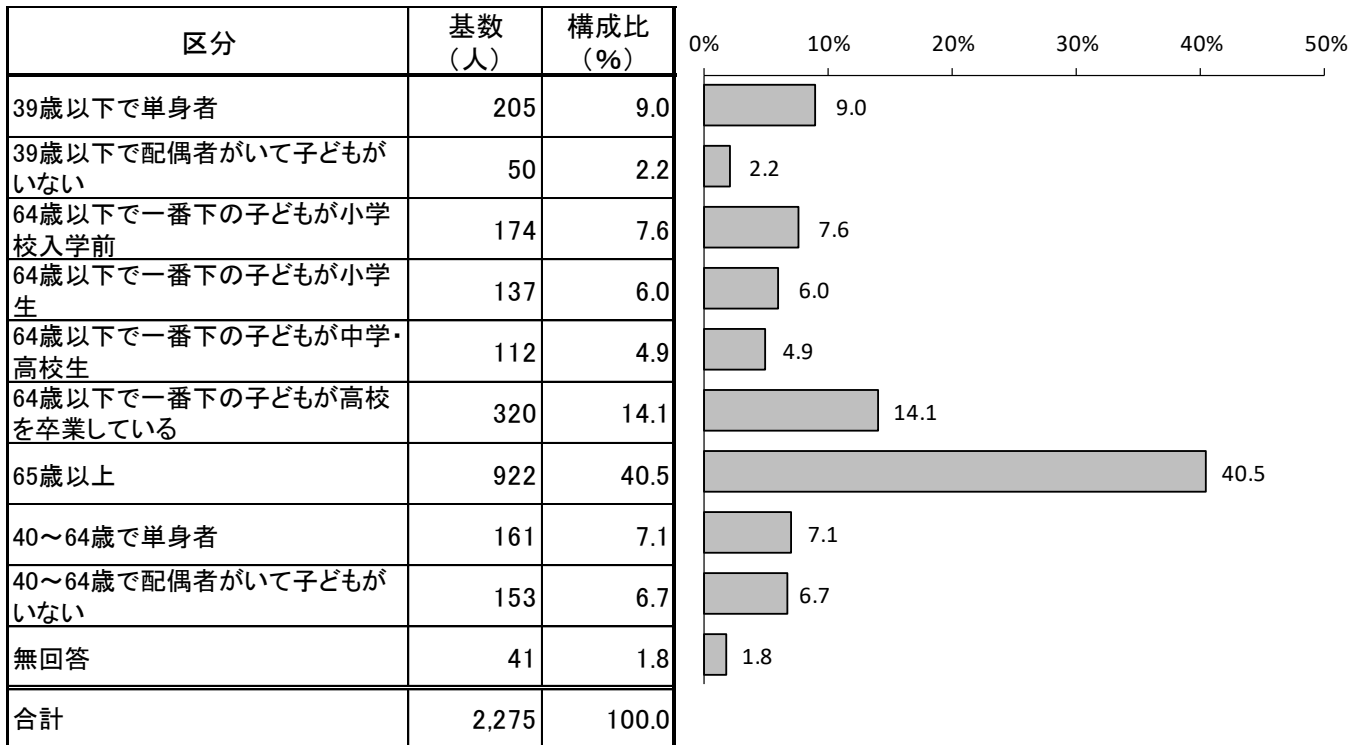
10. 居住地域

区分	基数 (人)	構成比 (%)
本庁管内(中央地域)	541	23.8
元八王子・恩方・川口(西部地域)	361	15.9
浅川・横山・館(西南部地域)	407	17.9
加住・石川(北部地域)	175	7.7
由井・北野(東南部地域)	353	15.5
由木・由木東・南大沢(東部地域)	438	19.3
合計	2,275	100.0

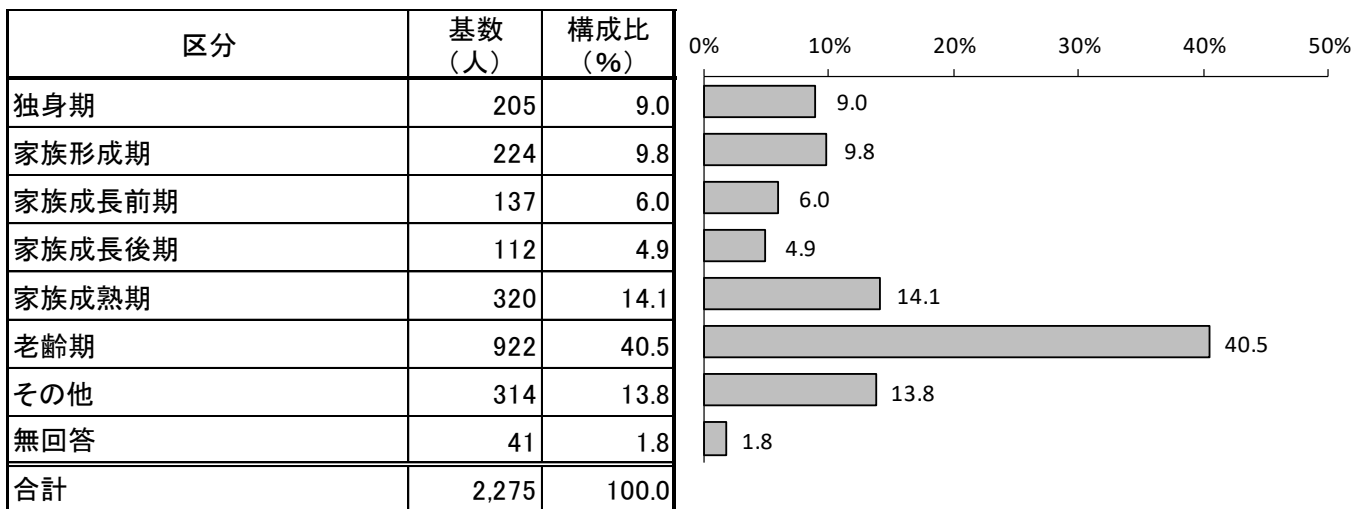


11. ライフステージ

「2. 年齢」「3. 配偶者の有無」「4. 子どもの人数」「4-1. 子どもの成長段階」により、ライフステージの区分を作成。



■ライフステージ（集約型）



■ライフステージ区分

独身期	39歳以下で単身者
家族形成期	39歳以下で配偶者がいて子どもがいないまたは、64歳以下で一番下の子どもが小学校入学前
家族成長前期	64歳以下で一番下の子どもが小学生
家族成長後期	64歳以下で一番下の子どもが中学・高校生
家族成熟期	64歳以下で一番下の子どもが高校を卒業している
老齢期	65歳以上
その他	40～64歳で単身者または、40～64歳で配偶者がいて子どもがいない

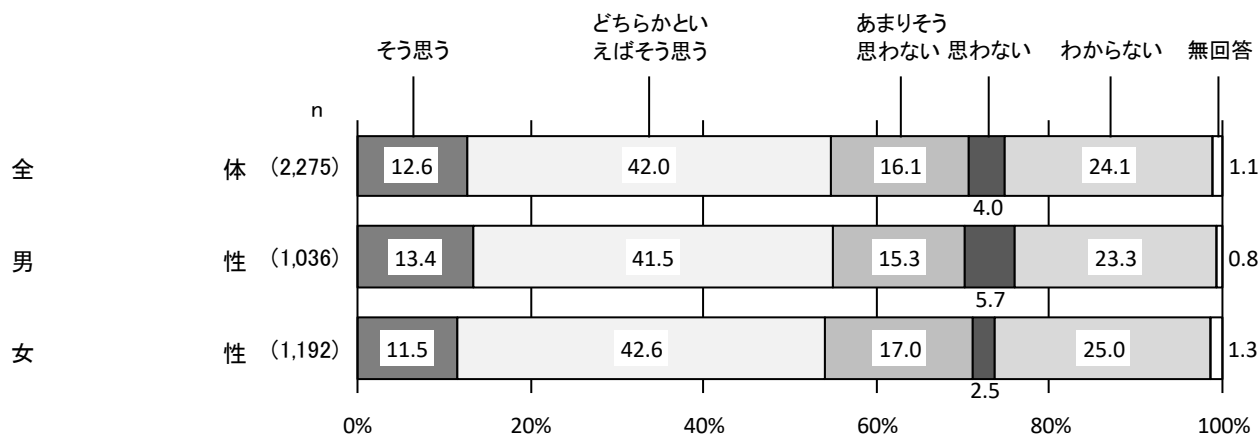
III 調査結果

1. 八王子未来デザイン2040の運用に関する市民アンケート調査

(1) 「安心して子育てができるまち」になっていると思うか

問1 あなたは、八王子市が「安心して子育てができるまち」になっていると思いますか。(〇は1つだけ)

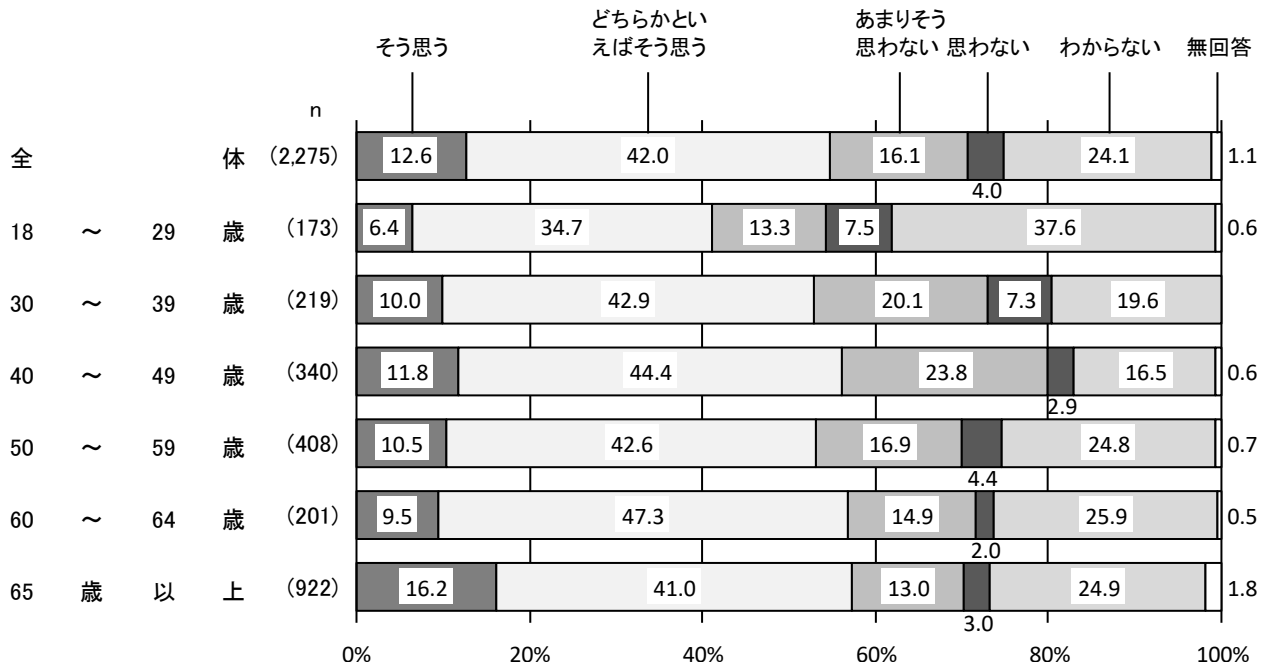
図1-1 「安心して子育てができるまち」になっていると思うか - 全体、性別



「安心して子育てができるまち」になっていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(12.6%)と「どちらかといえばそう思う」(42.0%)を合わせた《思う》(54.6%)は5割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(16.1%)と「思わない」(4.0%)を合わせた《思わない》(20.1%)は約2割となっている。

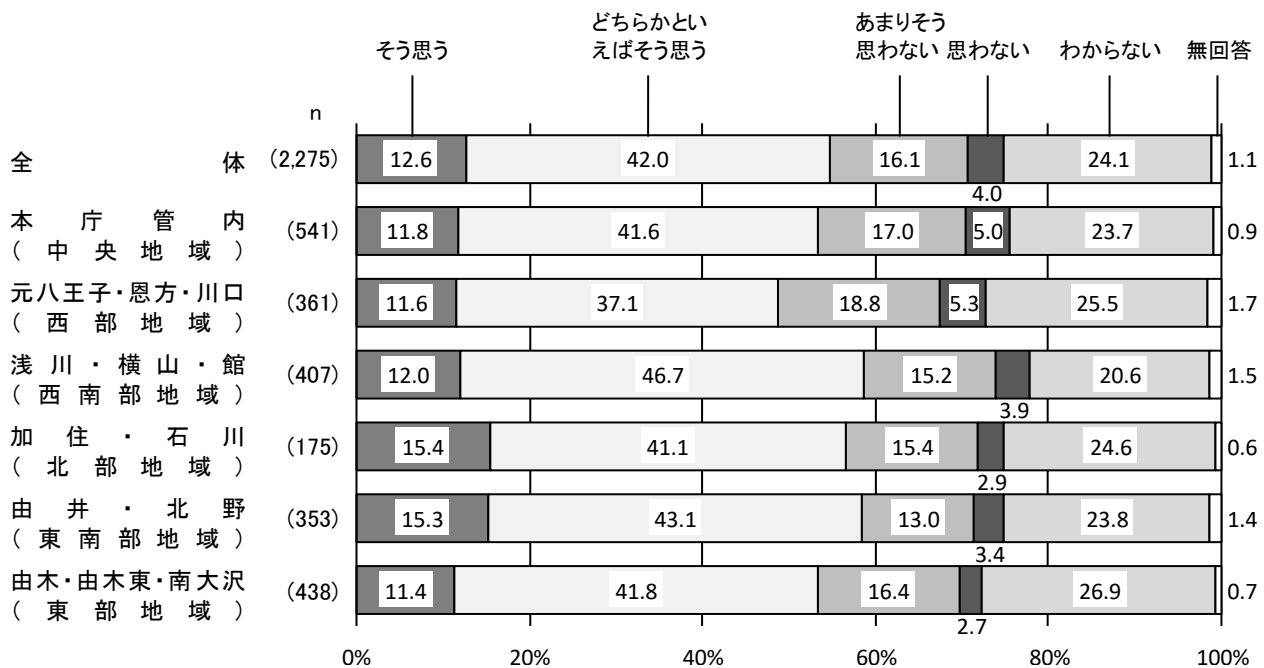
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図1-1)

図1-2 「安心して子育てができるまち」になっていると思うか - 年齢別



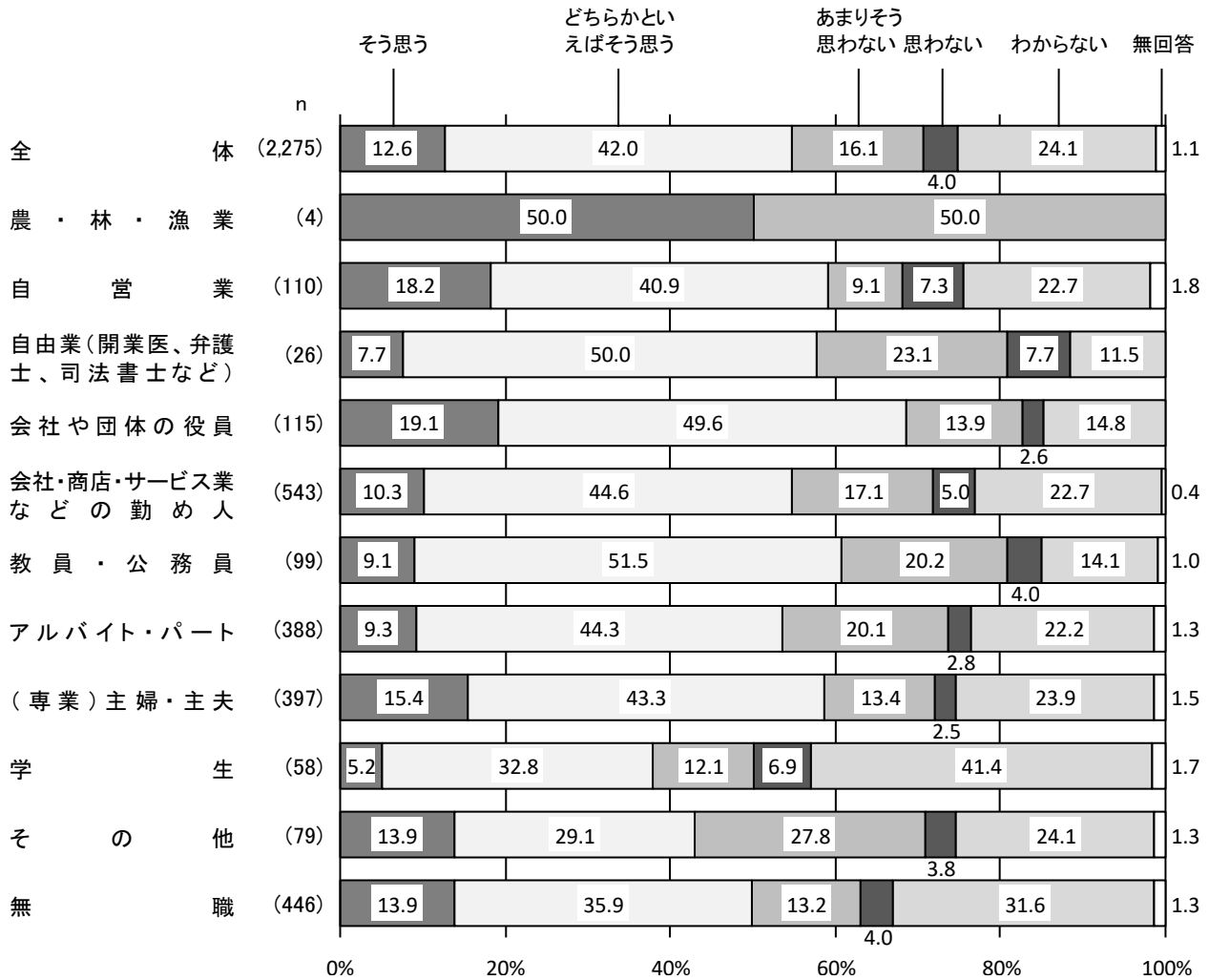
年齢別にみると、「思う」は、18~29歳（41.1%）が4割強と低くなっている。一方、「思わない」は30~39歳（27.4%）、40~49歳（26.7%）がそれぞれ3割近くと高くなっている。（図1-2）

図1-3 「安心して子育てができるまち」になっていると思うか - 居住地域別



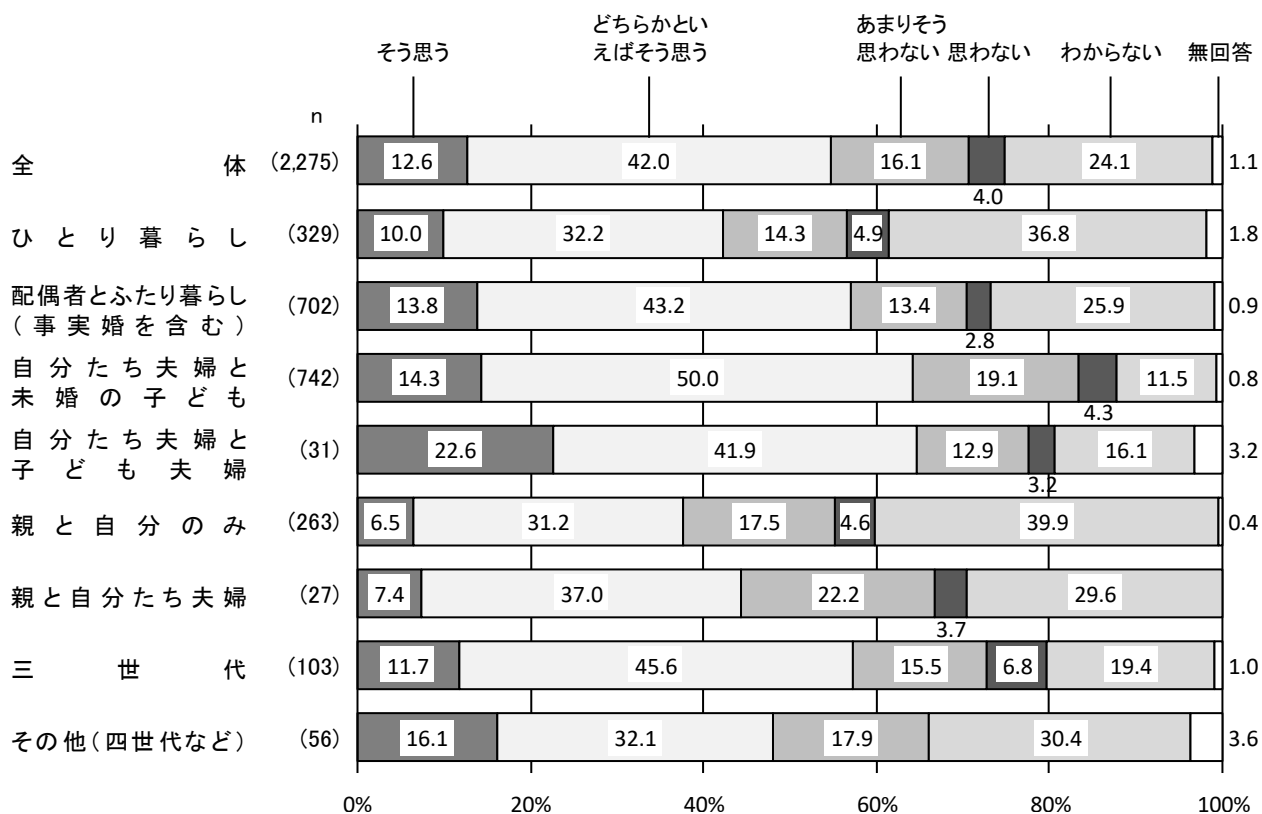
居住地域別にみると、「思う」は、元八王子・恩方・川口（西部地域）（48.7%）が5割近くと低くなっている。（図1-3）

図1-4 「安心して子育てができるまち」になっていると思うか - 職業別



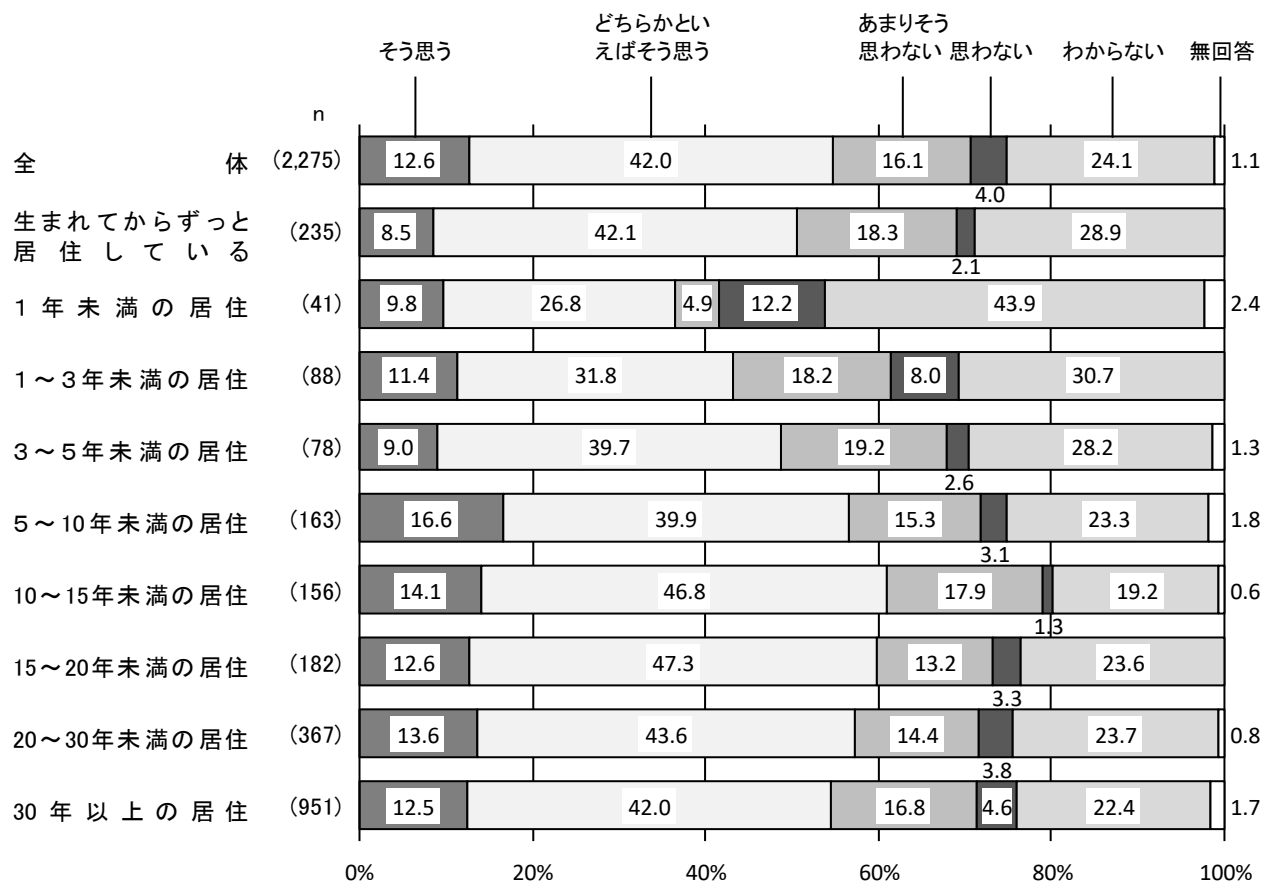
職業別にみると、「思う」は、会社や団体の役員（68.7%）が7割近く、教員・公務員（60.6%）が約6割と高くなっている。一方、「思わない」は、その他（31.6%）が3割強と高くなっている。（図1-4）

図1-5 「安心して子育てができるまち」になっていると思うか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（64.5%）、自分たち夫婦と未婚の子ども（64.3%）がそれぞれ6割台半ばと高くなっている。（図1-5）

図1-6 「安心して子育てができるまち」になっていると思うか - 居住年数別



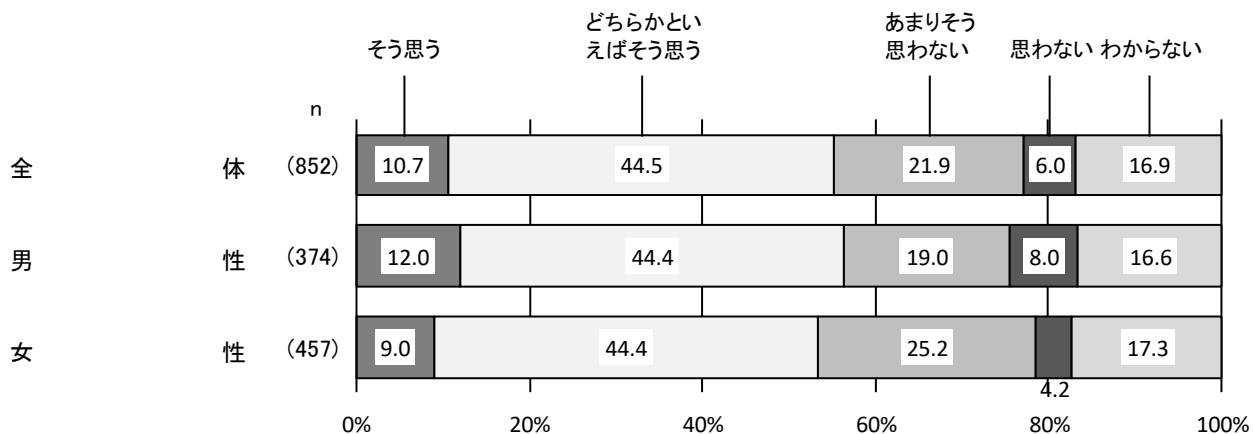
居住年数別にみると、「思う」は、10～15年未満の居住（60.9%）が約6割、15～20年未満の居住（59.9%）が6割弱と高くなっている。一方、「思わない」は、1～3年未満の居住（26.2%）が3割近くと高くなっている。（図1-6）

(2) 子育てを支える環境が整っていると思うか

(子育て中の方へ)

問2 あなたは、市などの様々な支援により、八王子市は子育てを支える環境が整っていると思いますか。
(〇は1つだけ)

図2-1 子育てを支える環境が整っていると思うか - 全体、性別

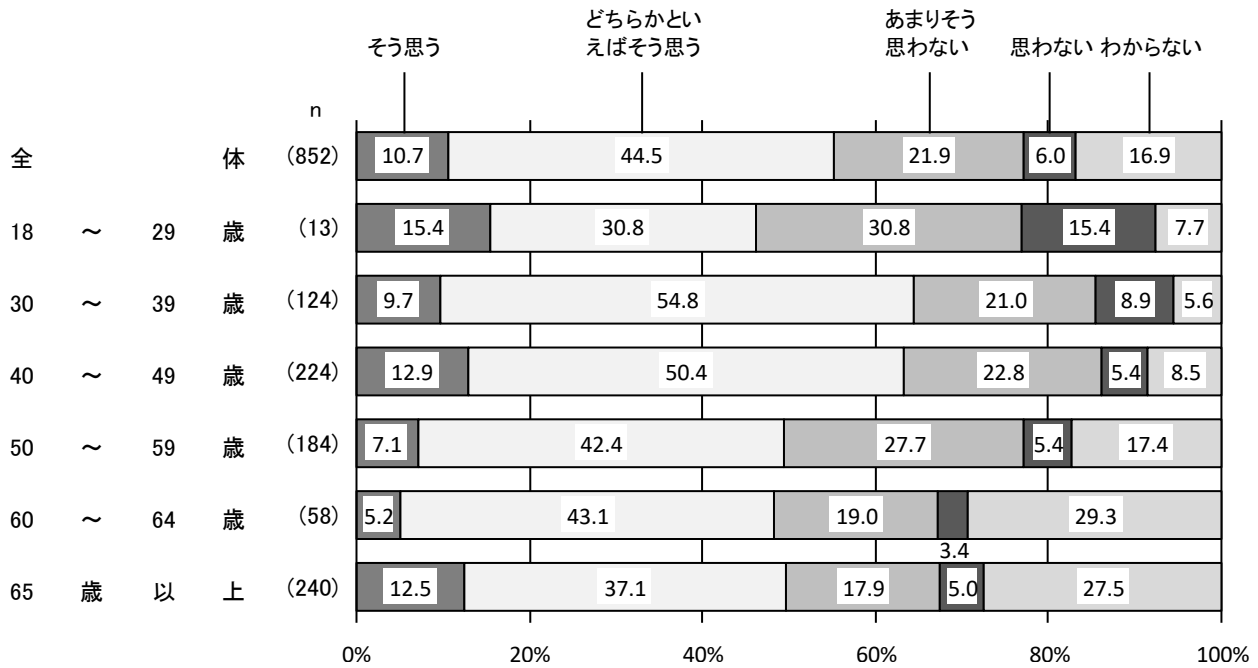


※子どもの有無においては、子どもの数が「1人」から「5人以上」及び無回答で、かつ、本設問において、回答していた方を母数とした。

子育てを支える環境が整っていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(10.7%)と「どちらかといえばそう思う」(44.5%)を合わせた《思う》(55.2%)は5割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(21.9%)と「思わない」(6.0%)を合わせた《思わない》(27.9%)は3割近くとなっている。

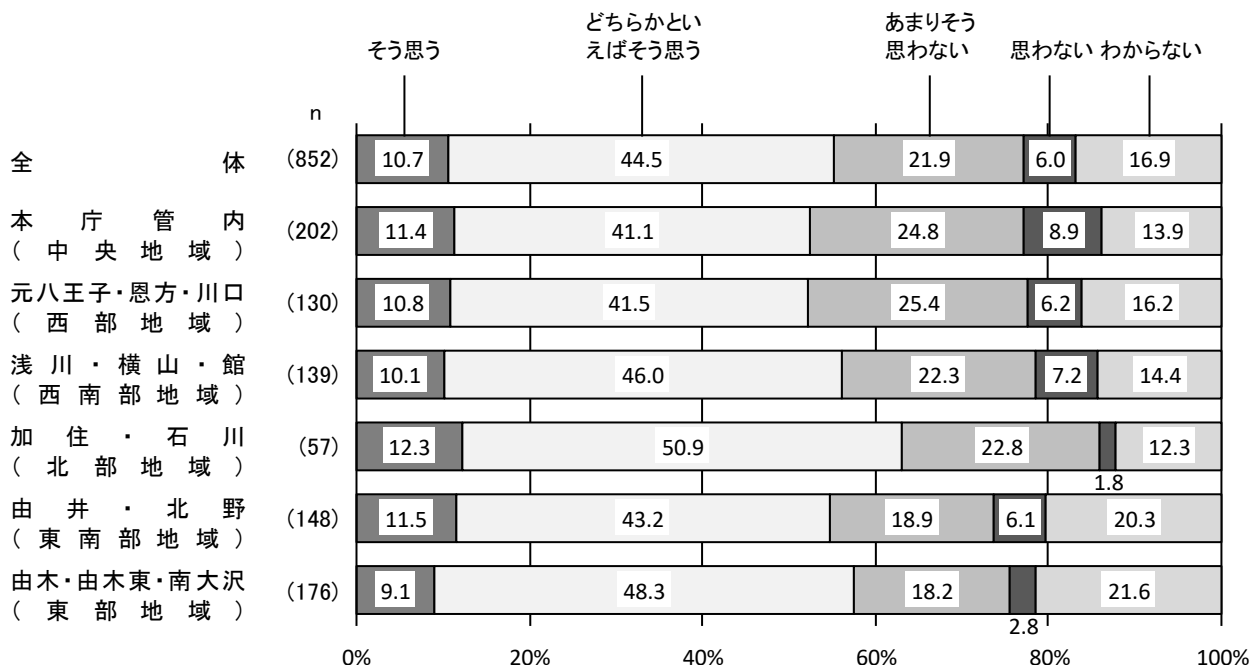
性別にみると、《思わない》は、傾向に大きな違いはみられないが、「あまりそう思わない」は、女性(25.2%)が男性(19.0%)より6.2ポイント高くなっている。(図2-1)

図2-2 子育てを支える環境が整っていると思うか - 年齢別



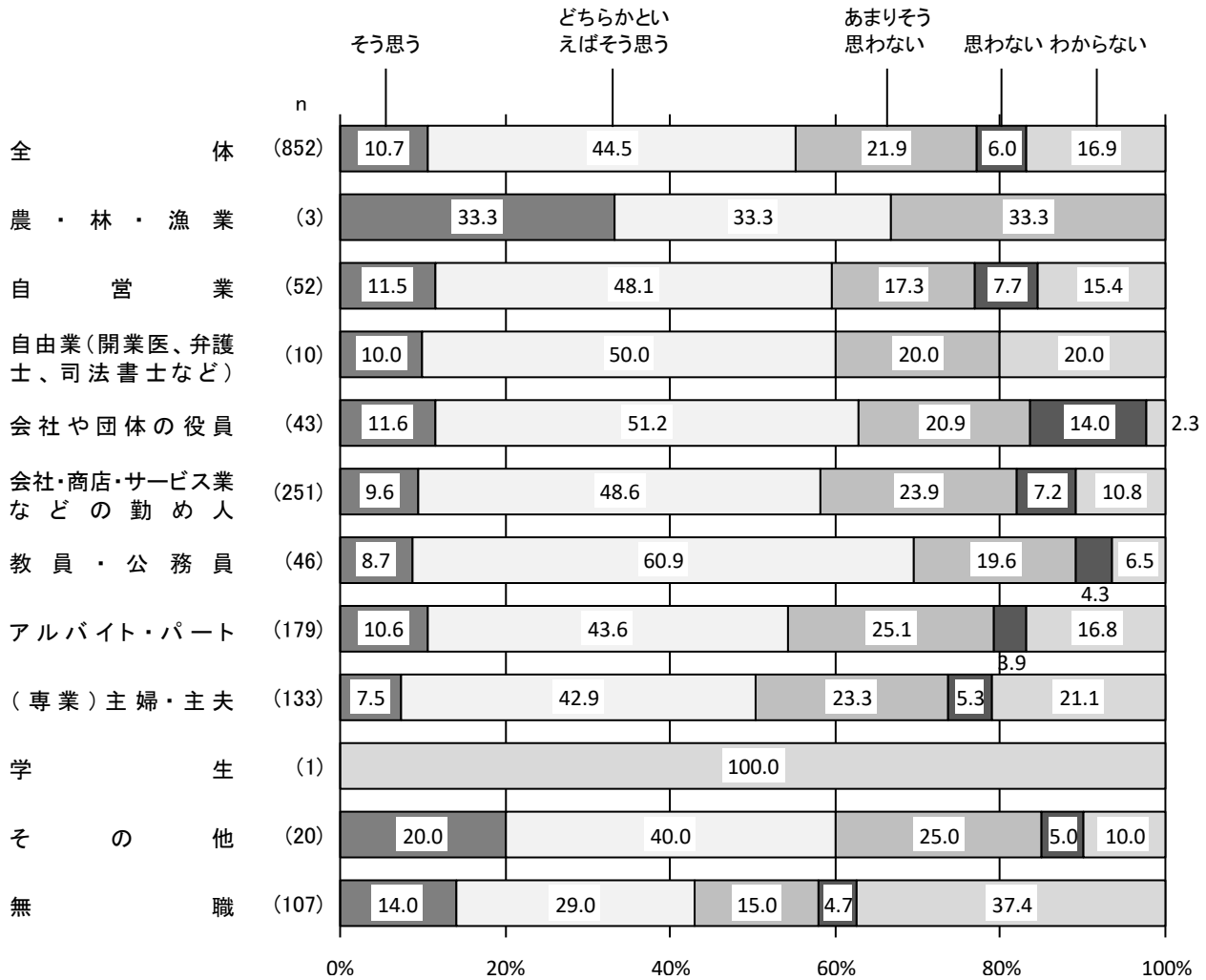
年齢別にみると、「思う」は、30～39歳（64.5%）が6割台半ば、40～49歳（63.3%）が6割強と高くなっている。一方、「思わない」は、50～59歳（33.1%）が3割強と高くなっている。（図2-2）

図2-3 子育てを支える環境が整っていると思うか - 居住地域別



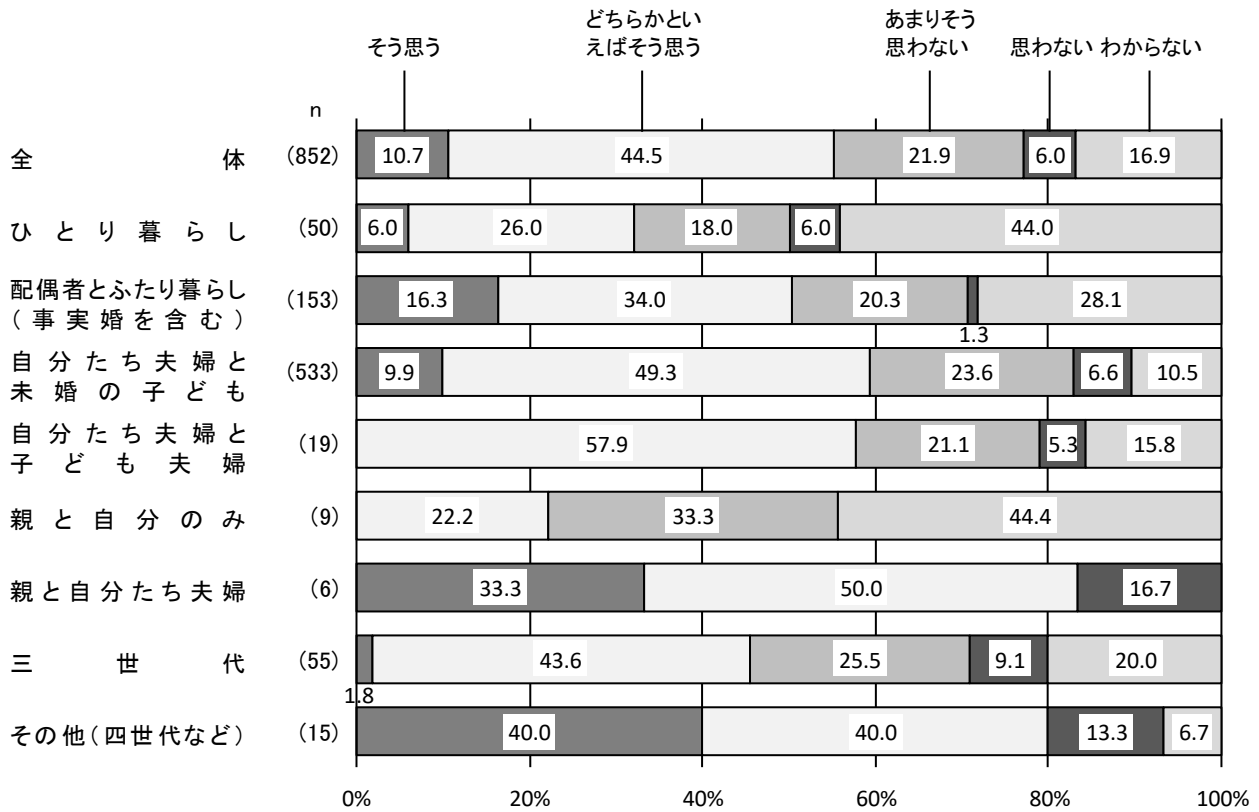
居住地域別にみると、「思う」は、加住・石川（北部地域）（63.2%）が6割強と高くなっている。一方、「思わない」は、本庁管内（中央地域）（33.7%）が3割強と高くなっている。（図2-3）

図2-4 子育てを支える環境が整っていると思うか - 職業別



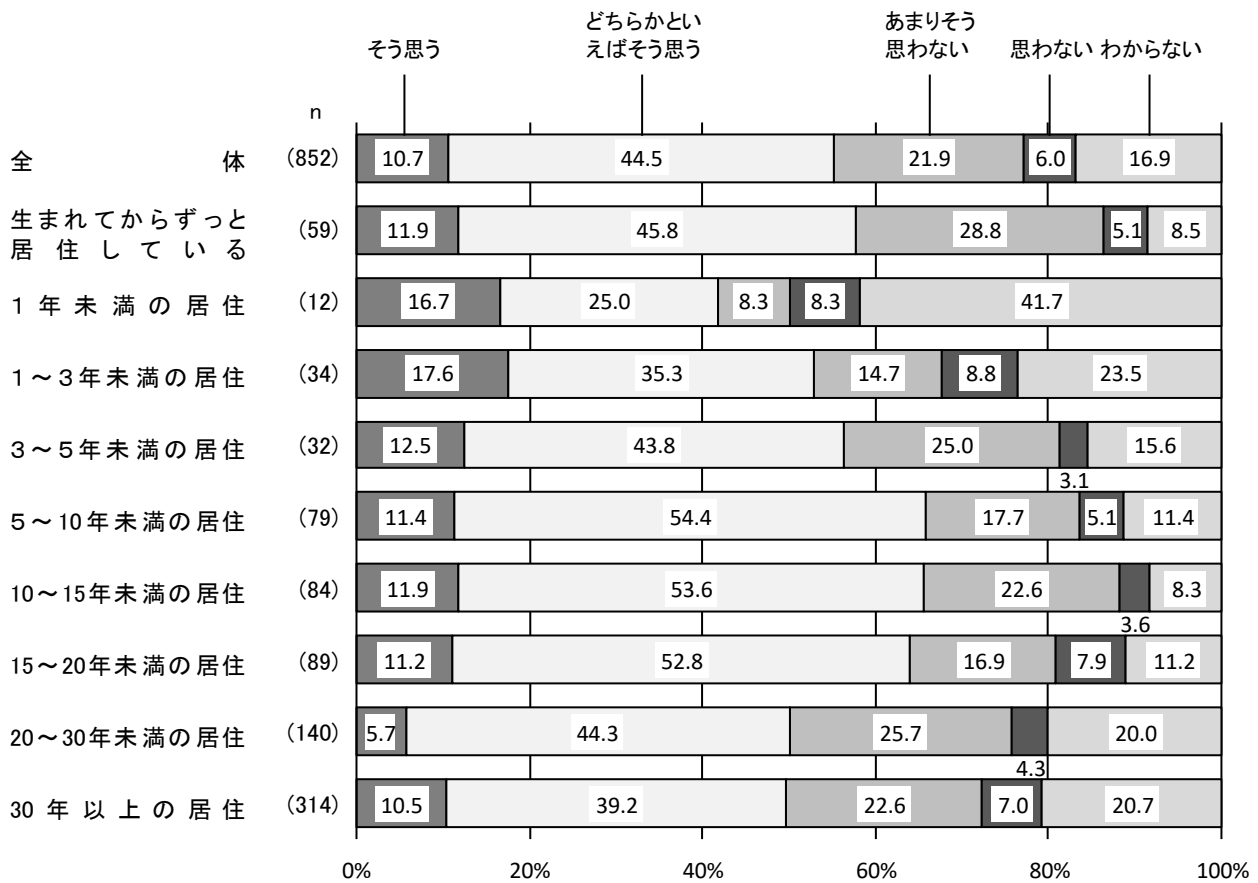
職業別にみると、「思う」は、教員・公務員（69.6%）が7割強、会社や団体の役員（62.8%）が6割強と高くなっている。一方、「思わない」についても、会社や団体の役員（34.9%）が3割台半ばと高くなっている。（図2-4）

図2-5 子育てを支える環境が整っていると思うか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思わない」は、三世代（34.6%）が3割台半ばと高くなっている。（図2-5）

図2-6 子育てを支える環境が整っていると思うか - 居住年数別



居住年数別にみると、「思う」は、5～10年未満の居住（65.8%）、10～15年未満の居住（65.5%）、15～20年未満の居住（64.0%）がそれぞれ6割台半ばと高くなっている。一方、「思わない」は、生まれてからずっと居住している（33.9%）が3割強と高くなっている。（図2-6）

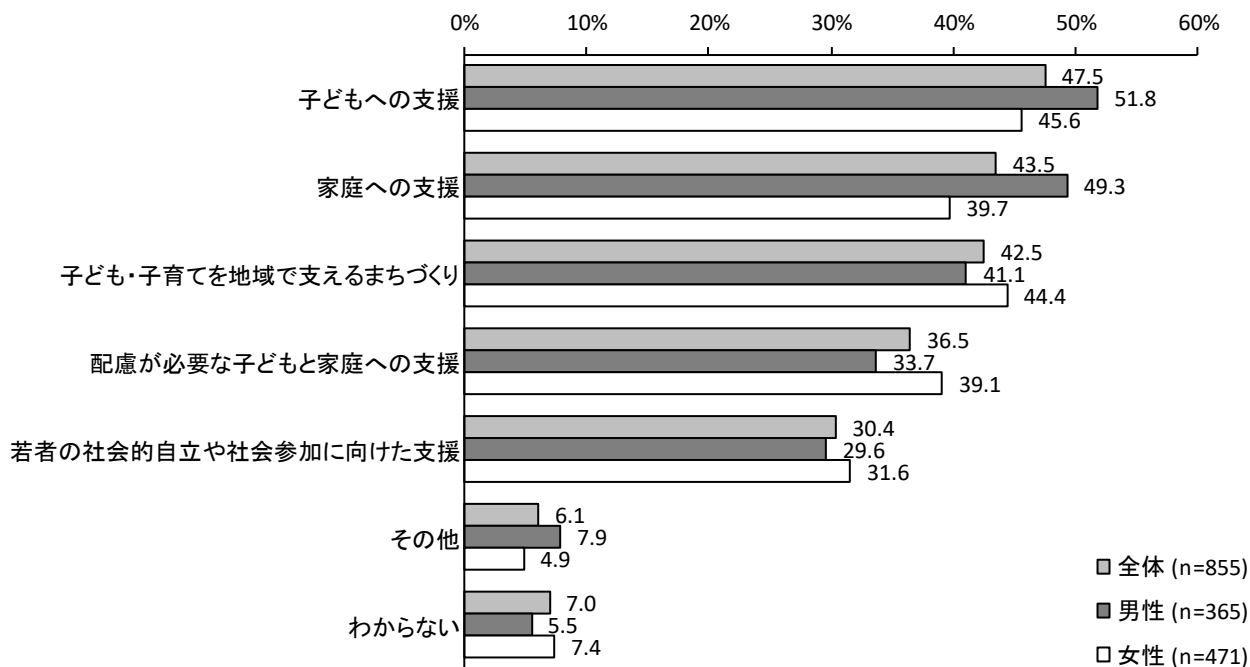
(3) 子育て分野において力を入れた方がよいと考える取組

(子育て中の方へ)

問3 今後、子育て分野において、力を入れた方がよいと考える取組を以下から選択してください。

(〇はいくつでも)

図3-1 子育て分野において力を入れた方がよいと考える取組 - 全体、性別

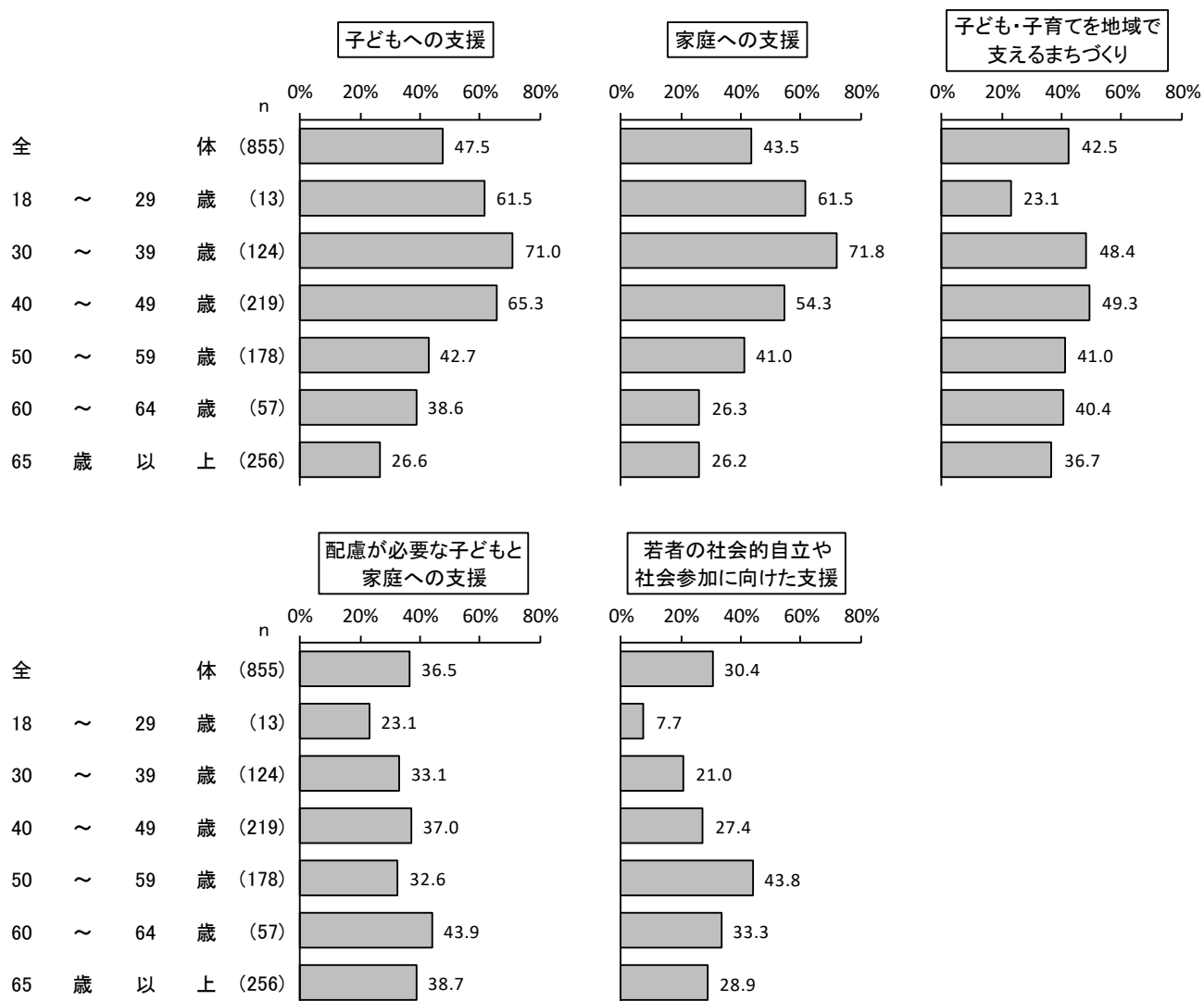


※子どもの有無においては、子どもの数が「1人」から「5人以上」及び無回答で、かつ、本設問において、回答していた方を母数とした。

子育て分野において、力を入れた方がよいと考える取組について聞いたところ、「子どもへの支援」(47.5%)が5割近くと最も高くなっている。次いで、「家庭への支援」(43.5%)、「子ども・子育てを地域で支えるまちづくり」(42.5%)の順となっている。

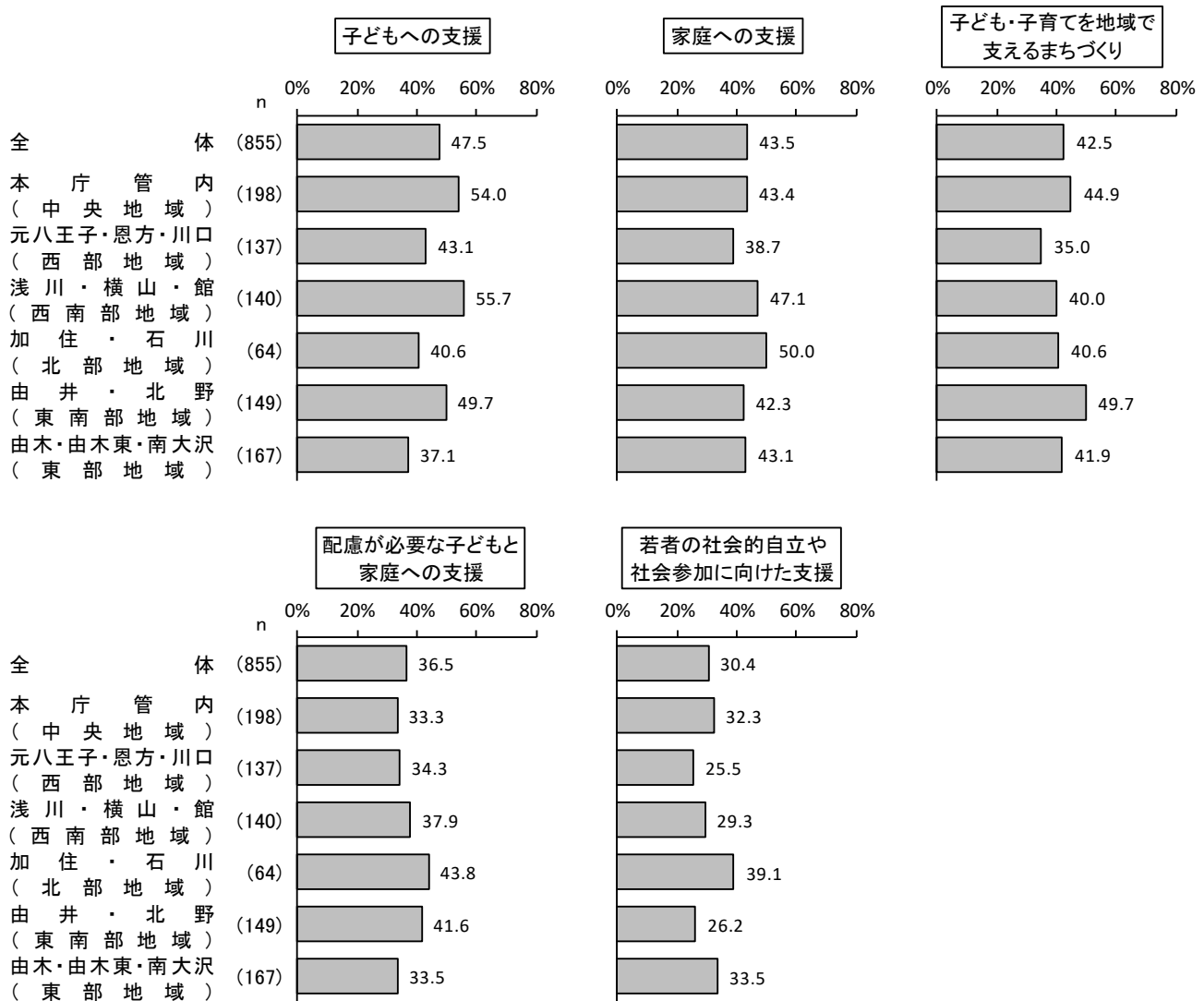
性別にみると、「家庭への支援」は、男性(49.3%)が女性(39.7%)より9.6ポイント、「子どもへの支援」は、男性(51.8%)が女性(45.6%)より6.2ポイント、「配慮が必要な子どもと家庭への支援」は、女性(39.1%)が男性(33.7%)より5.4ポイントそれぞれ高くなっている。(図3-1)

図3-2 子育て分野において力を入れた方がよいと考える取組 — 年齢別



年齢別にみると、「子どもへの支援」は、30～39歳（71.0%）が7割強、40～49歳（65.3%）が6割台半ばと高くなっている。「家庭への支援」は、30～39歳（71.8%）が7割強、40～49歳（54.3%）が5割台半ばと高くなっている。「子ども・子育てを地域で支えるまちづくり」は、40～49歳（49.3%）が5割弱、30～39歳（48.4%）が5割近くと高くなっている。「配慮が必要な子どもと家庭への支援」は、60～64歳（43.9%）が4割強と高くなっている。「若者の社会的自立や社会参加に向けた支援」は、50～59歳（43.8%）が4割強と高くなっている。（図3-2）

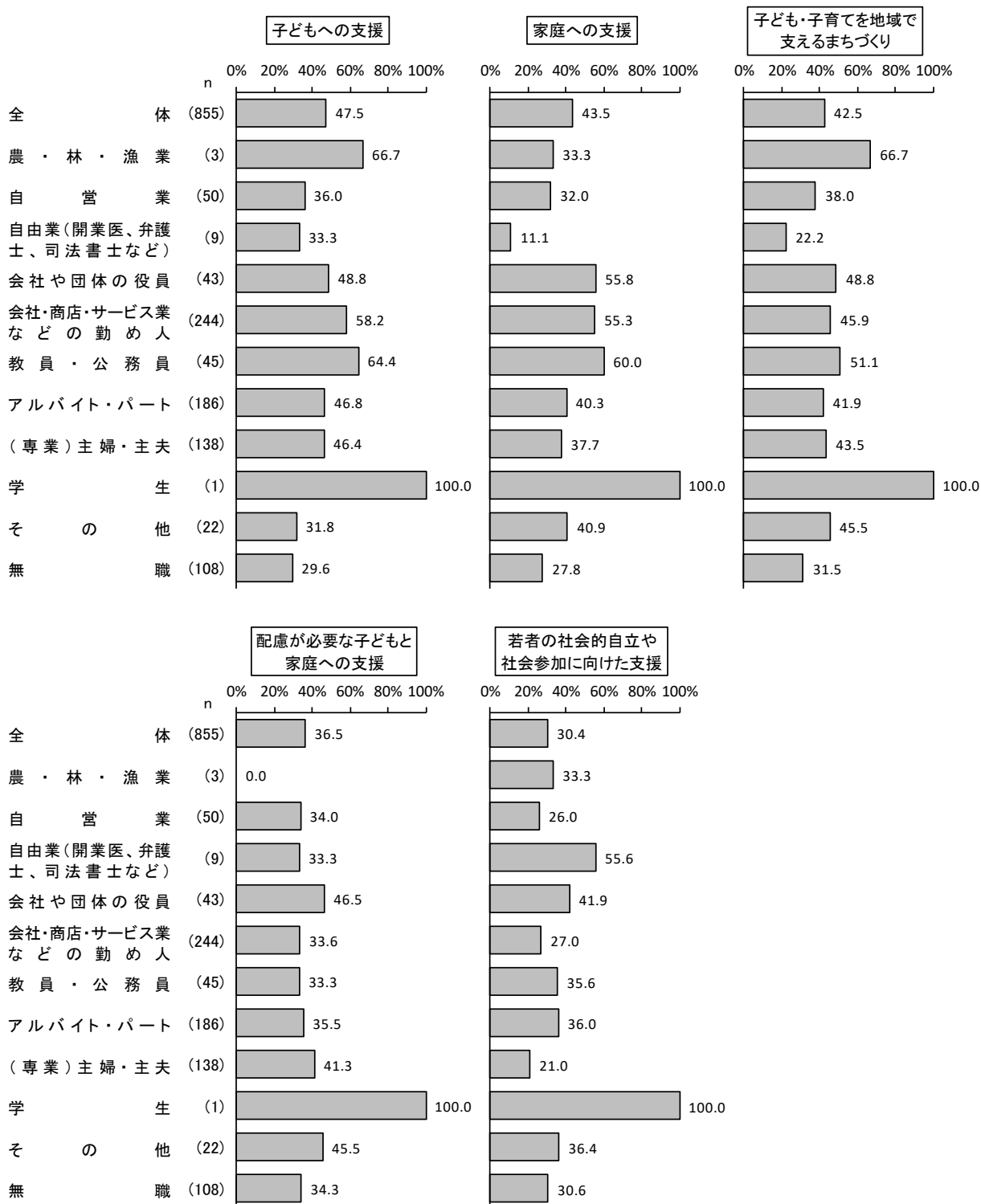
図3-3 子育て分野において力を入れた方がよいと考える取組 — 居住地域別



居住地域別にみると、「子どもへの支援」は、浅川・横山・館（西南部地域）（55.7%）、本庁管内（中央地域）（54.0%）がそれぞれ5割台半ばと高くなっている。「家庭への支援」は、加住・石川（北部地域）（50.0%）が5割と高くなっている。「子ども・子育てを地域で支えるまちづくり」は、由井・北野（東南部地域）（49.7%）が5割弱と高くなっている。「配慮が必要な子どもと家庭への支援」は、加住・石川（北部地域）（43.8%）、由井・北野（東南部地域）（41.6%）がそれぞれ4割強と高くなっている。「若者の社会的自立や社会参加に向けた支援」は、加住・石川（北部地域）（39.1%）が4割弱と高くなっている。

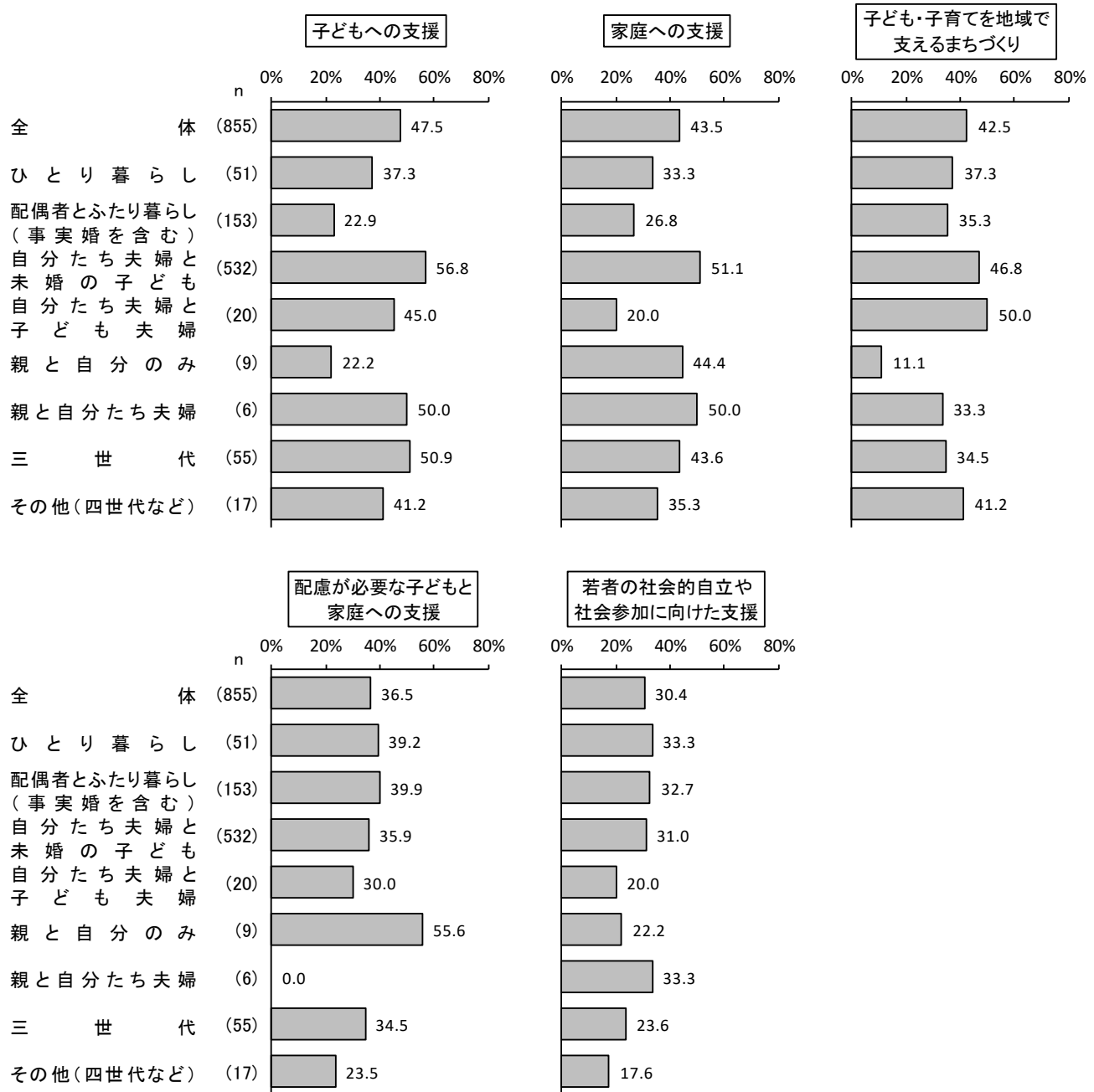
（図3-3）

図3-4 子育て分野において力を入れた方がよいと考える取組 - 職業別



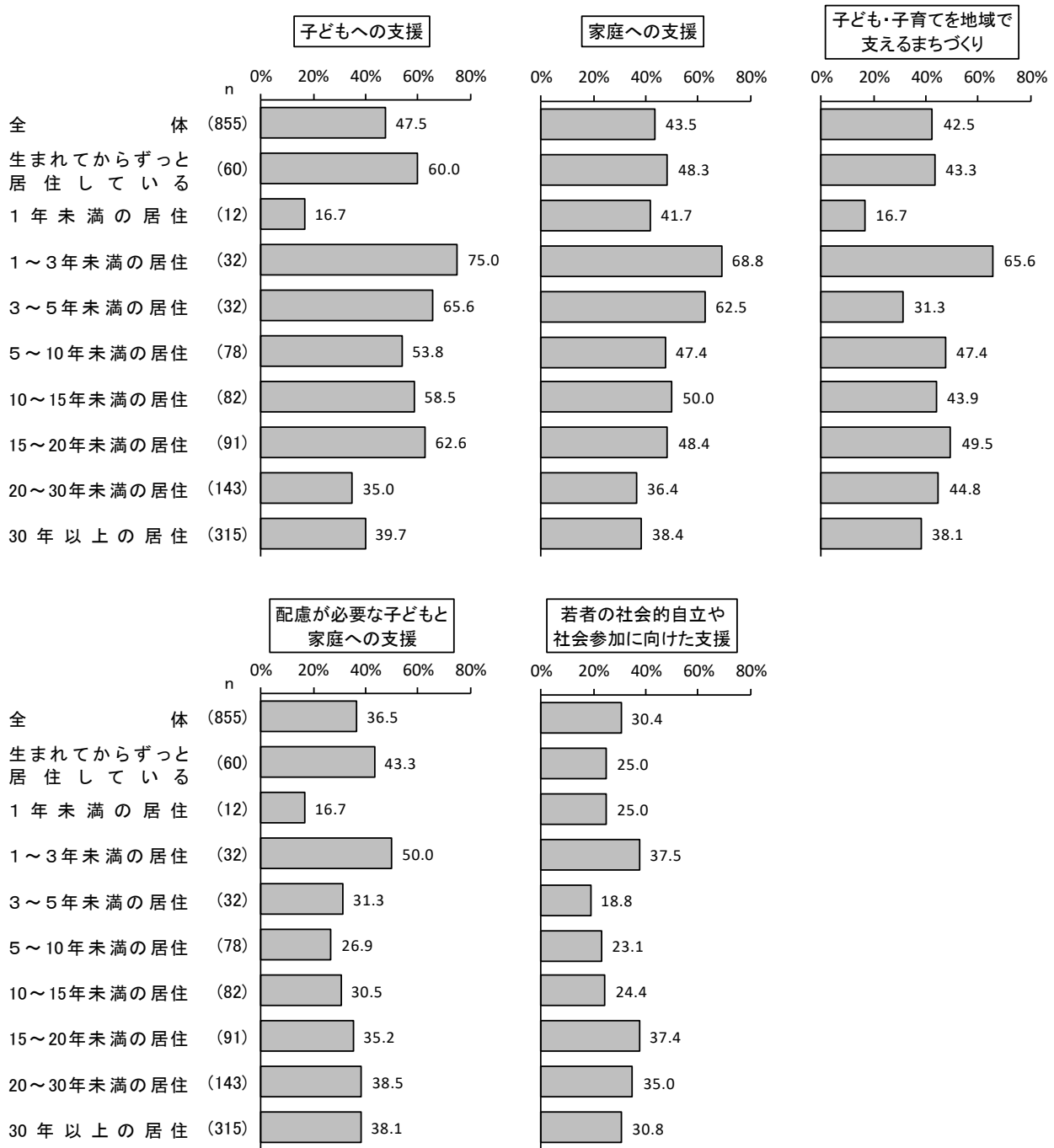
職業別にみると、「子どもへの支援」は、教員・公務員（64.4%）が6割台半ば、会社・商店・サービス業などの勤め人（58.2%）が6割近くと高くなっている。「家庭への支援」は、教員・公務員（60.0%）が6割、会社や団体の役員（55.8%）、会社・商店・サービス業などの勤め人（55.3%）がそれぞれ5割台半ばと高くなっている。「子ども・子育てを地域で支えるまちづくり」は、教員・公務員（51.1%）が5割強、会社や団体の役員（48.8%）が5割近くと高くなっている。「配慮が必要な子どもと家庭への支援」は、会社や団体の役員（46.5%）が5割近くと高くなっている。「若者の社会的自立や社会参加に向けた支援」は、会社や団体の役員（41.9%）が4割強、アルバイト・パート（36.0%）が4割近く、教員・公務員（35.6%）が3割台半ばと高くなっている。（図3-4）

図3-5 子育て分野において力を入れた方がよいと考える取組 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「子どもへの支援」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（56.8%）が6割近くと高くなっている。「家庭への支援」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（51.1%）が5割強と高くなっている。「子ども・子育てを地域で支えるまちづくり」は、三世代（34.5%）が3割台半ばと低くなっている。「若者の社会的自立や社会参加に向けた支援」は、三世代（23.6%）が2割強と低くなっている。（図3-5）

図3-6 子育て分野において力を入れた方がよいと考える取組 — 居住年数別



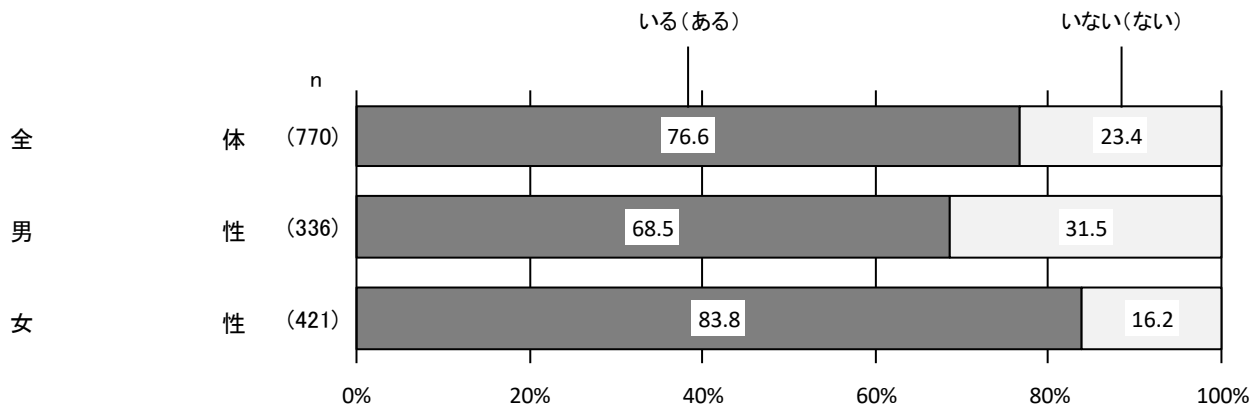
居住年数別にみると、「子どもへの支援」は、1～3年未満の居住（75.0%）が7割台半ば、3～5年未満の居住（65.6%）が6割台半ば、15～20年未満の居住（62.6%）が6割強、生まれてからずっと居住している（60.0%）が6割、10～15年未満の居住（58.5%）が6割近く、5～10年未満の居住（53.8%）が5割強と高くなっている。「家庭への支援」は、1～3年未満の居住（68.8%）が7割近く、3～5年未満の居住（62.5%）が6割強、10～15年未満の居住（50.0%）が5割と高くなっている。「子ども・子育てを地域で支えるまちづくり」は、1～3年未満の居住（65.6%）が6割台半ば、15～20年未満の居住（49.5%）が5割弱と高くなっている。「配慮が必要な子どもと家庭への支援」は、1～3年未満の居住（50.0%）が5割、生まれてからずっと居住している（43.3%）が4割強と高くなっている。「若者の社会的自立や社会参加に向けた支援」は、1～3年未満の居住（37.5%）、15～20年未満の居住（37.4%）がそれぞれ4割近くと高くなっている。（図3-6）

(4) 子育てに関して相談できる人の有無

(子育て中の方へ)

問4 あなたは、子育てに関して困ったときに、いつでも相談できる人がいますか(場がありますか)。
(〇は1つだけ)

図4-1 子育てに関して相談できる人の有無 - 全体、性別



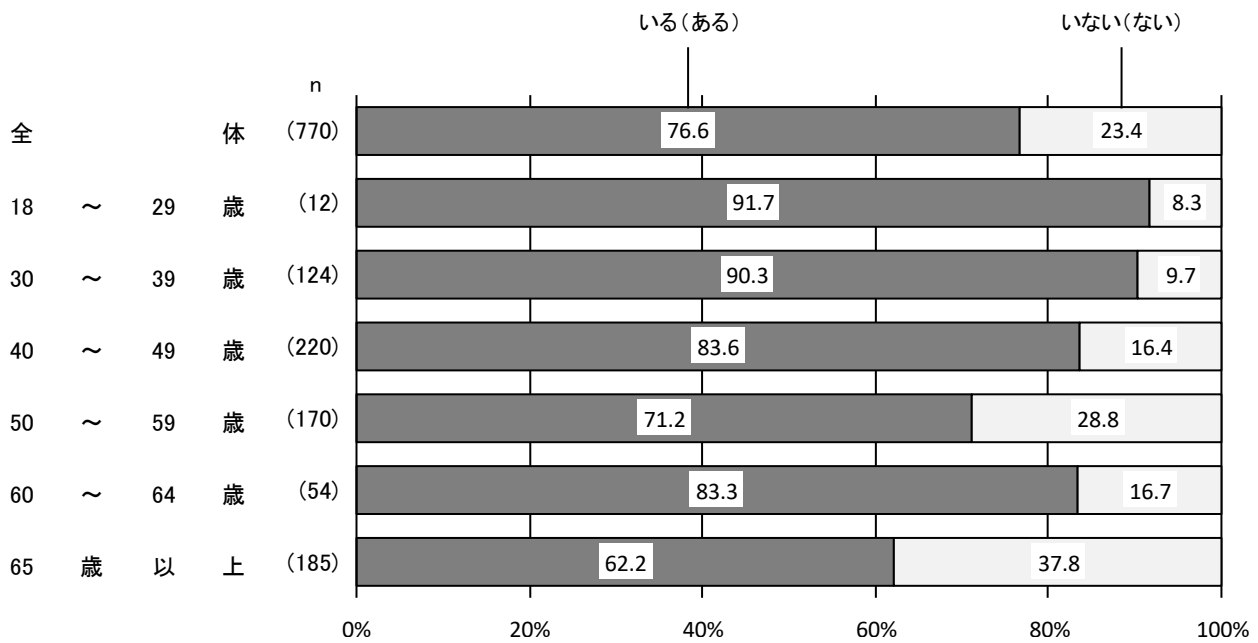
※子どもの有無においては、子どもの数が「1人」から「5人以上」及び無回答で、かつ、本設問において、回答していた方を母数とした。

子育てに関して困ったときに、いつでも相談できる人がいるかを聞いたところ、「いる(ある)」(76.6%)は8割近くとなっている。一方、「いない(ない)」(23.4%)は2割強となっている。

性別にみると、「いる(ある)」は、女性(83.8%)が男性(68.5%)より15.3ポイント高くなっている。

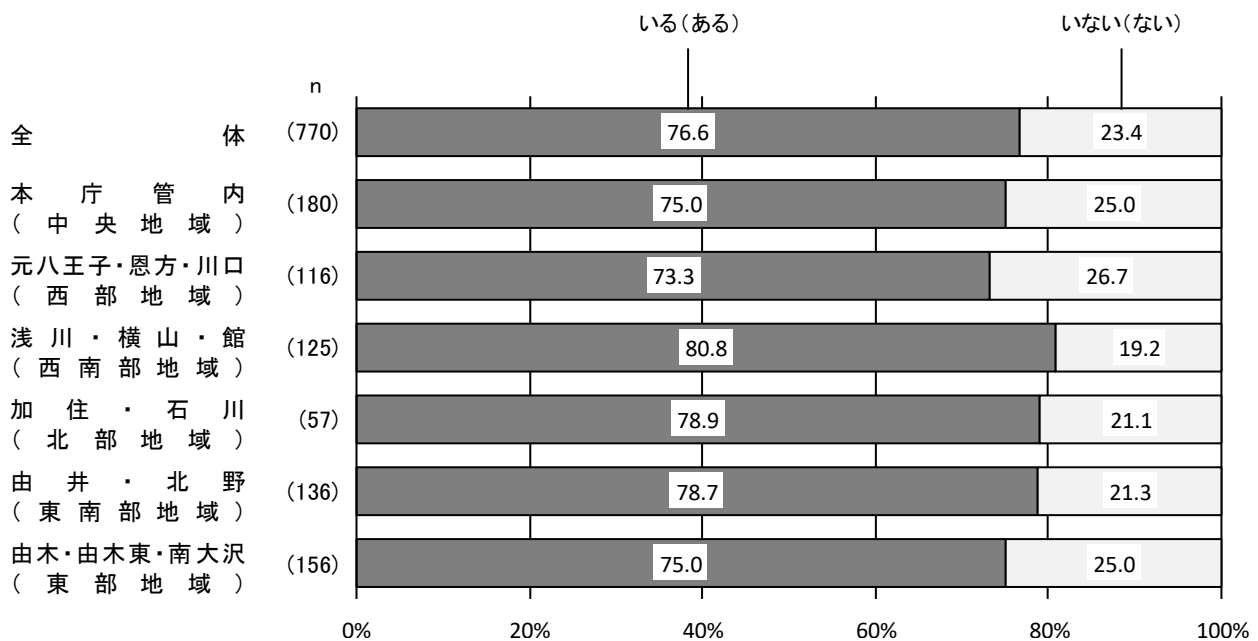
(図4-1)

図4-2 子育てに関して相談できる人の有無 - 年齢別



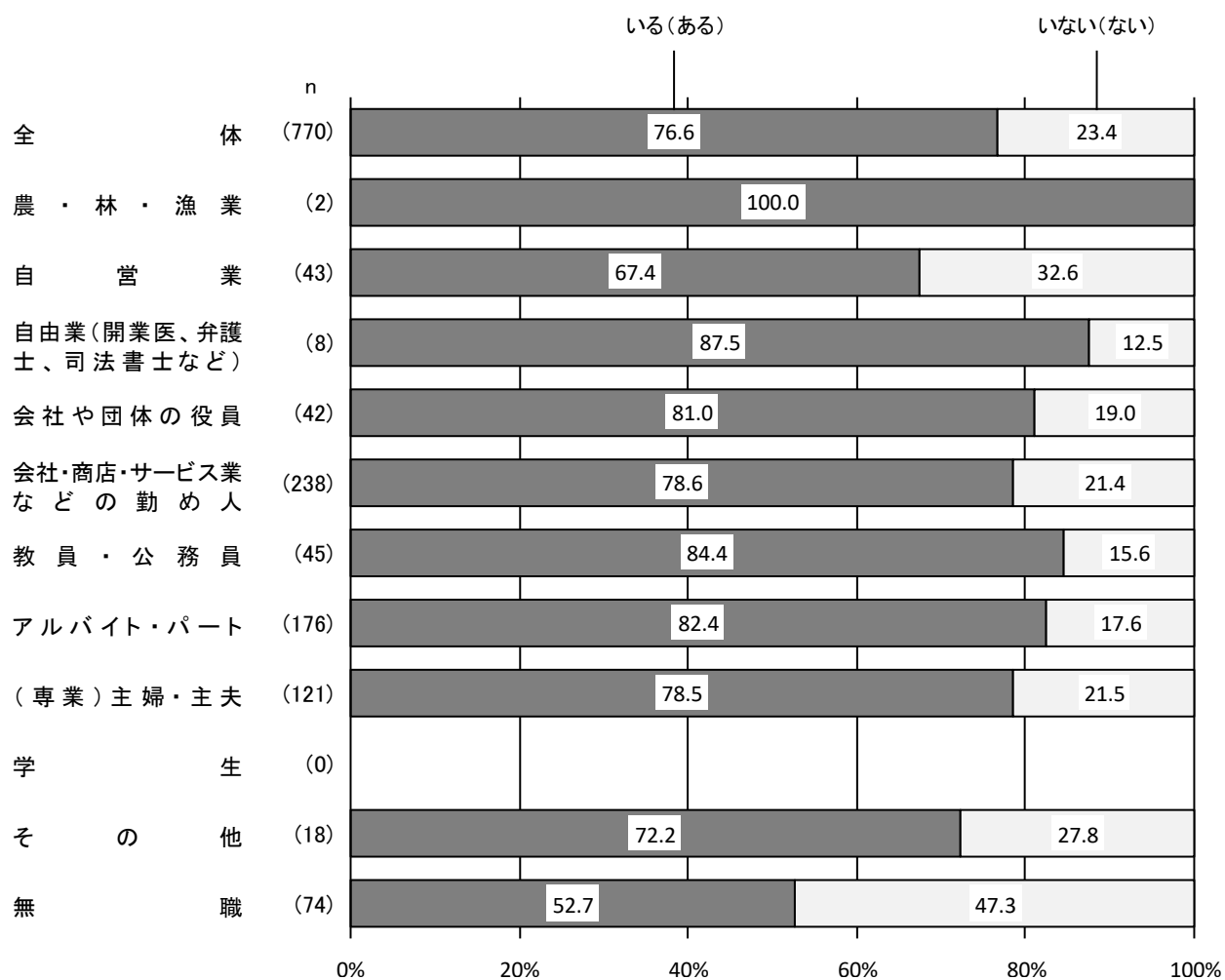
年齢別にみると、「いる(ある)」は、30~39歳(90.3%)が約9割、40~49歳(83.6%)、60~64歳(83.3%)がそれぞれ8割強と高くなっている。一方、「いない(ない)」は、65歳以上(37.8%)が4割近く、50~59歳(28.8%)が3割近くと高くなっている。(図4-2)

図4-3 子育てに関して相談できる人の有無 - 居住地域別



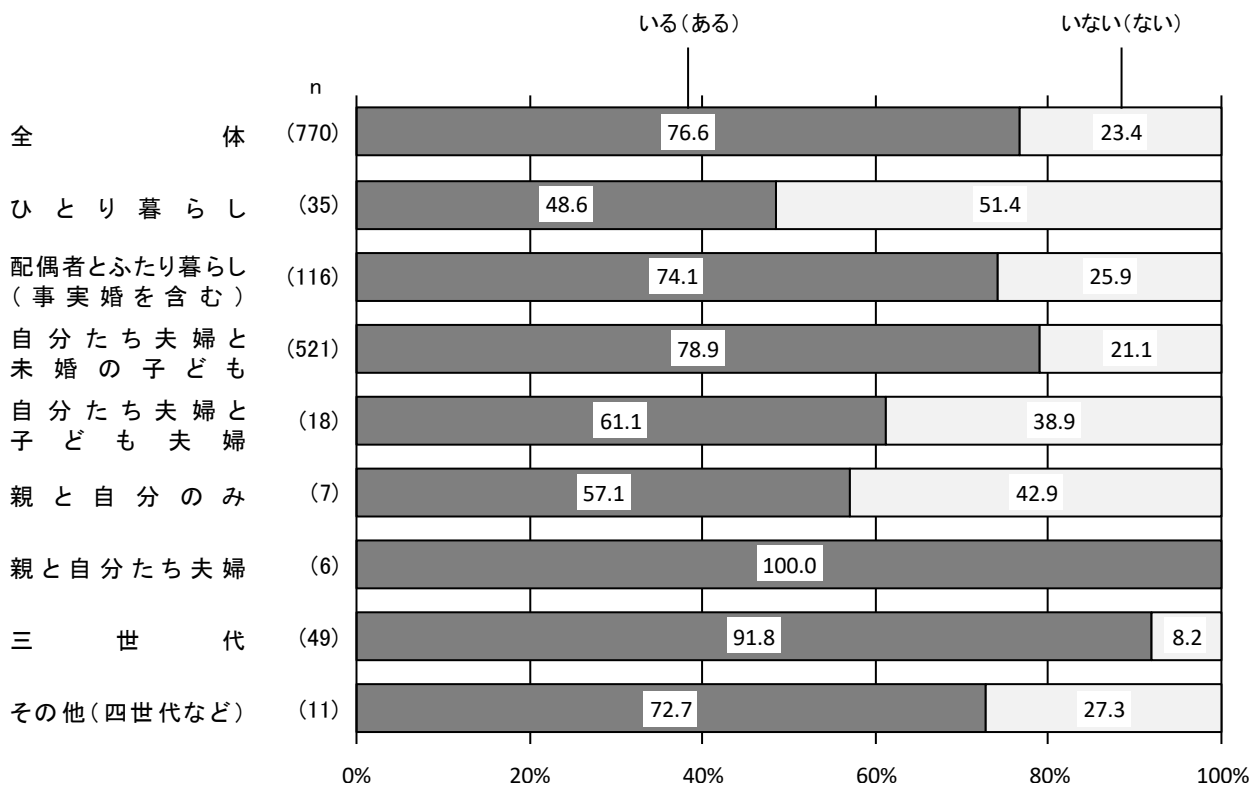
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図4-3)

図4-4 子育てに関して相談できる人の有無 - 職業別



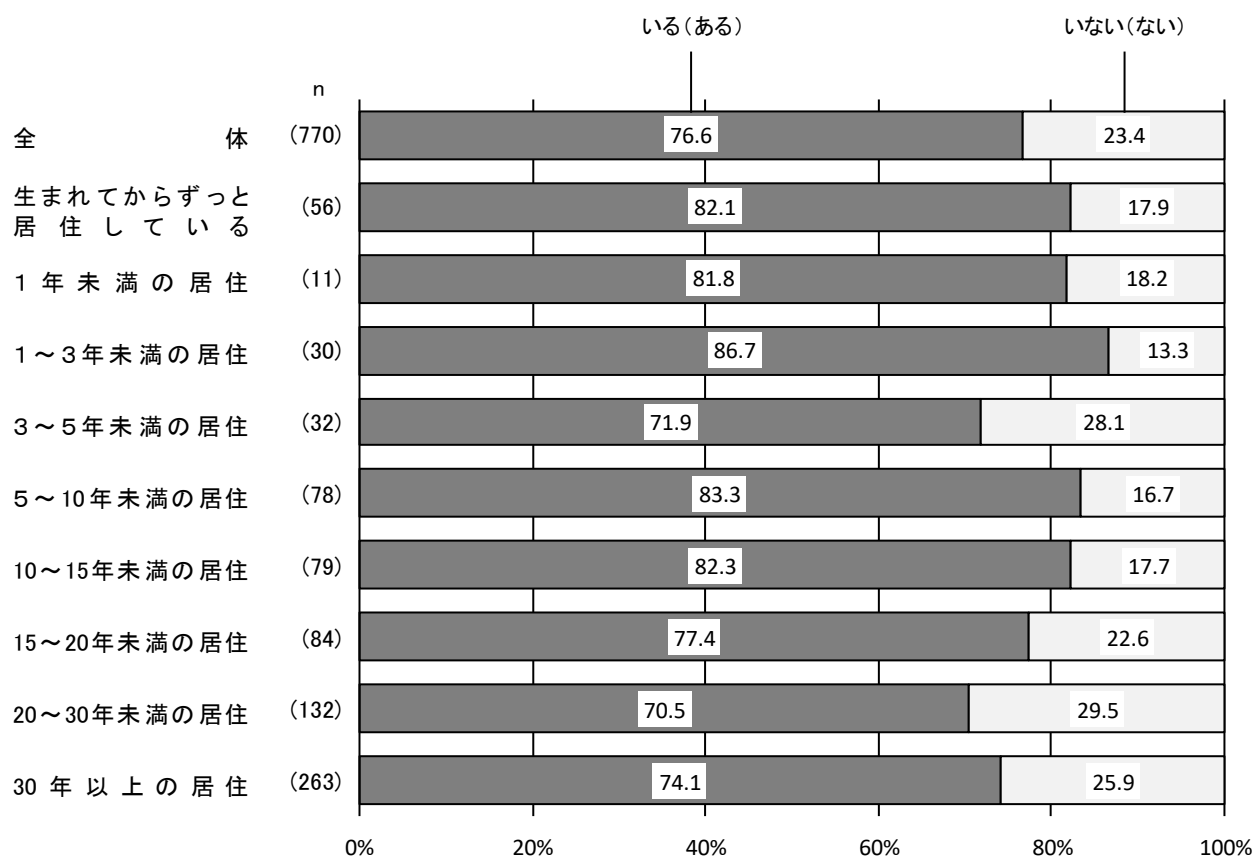
職業別にみると、「いる(ある)」は、教員・公務員(84.4%)が8割台半ば、アルバイト・パート(82.4%)が8割強と高くなっている。一方、「いない(ない)」は、無職(47.3%)が5割近く、自営業(32.6%)が3割強と高くなっている。(図4-4)

図4-5 子育てに関して相談できる人の有無 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「いる(ある)」は、三世代(91.8%)が9割強と高くなっている。(図4-5)

図4-6 子育てに関して相談できる人の有無 - 居住年数別



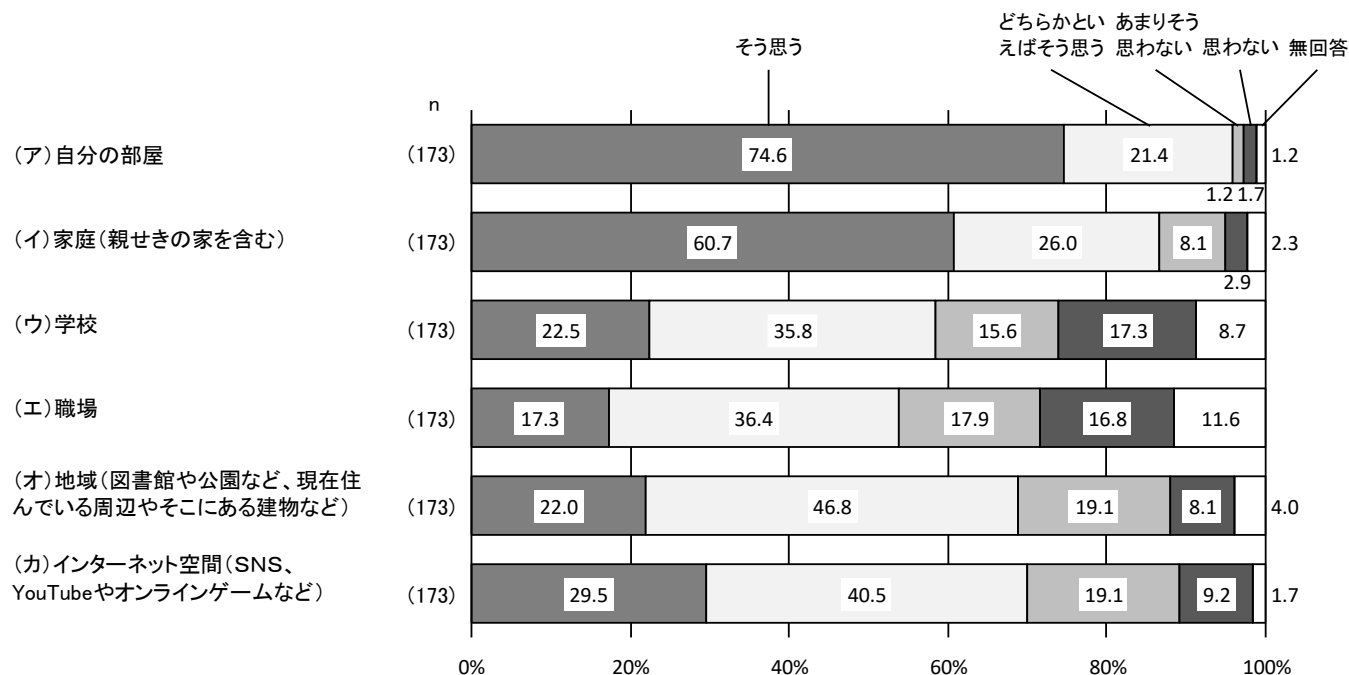
居住年数別にみると、「いる(ある)」は、1～3年未満の居住(86.7%)が9割近く、5～10年未満の居住(83.3%)、10～15年未満の居住(82.3%)、生まれてからずっと居住している(82.1%)がそれぞれ8割強と高くなっている。一方、「いない(ない)」は、20～30年未満の居住(29.5%)が3割弱と高くなっている。(図4-6)

(5) 若者の居場所になっているか

(現在 18 歳から 29 歳の方へ)

問5 次の(ア)～(カ)の場所は、今のあなたにとって居場所(ほっとできる場所、安心できる場所)になっていますか。(ア)～(カ)の各項目それぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

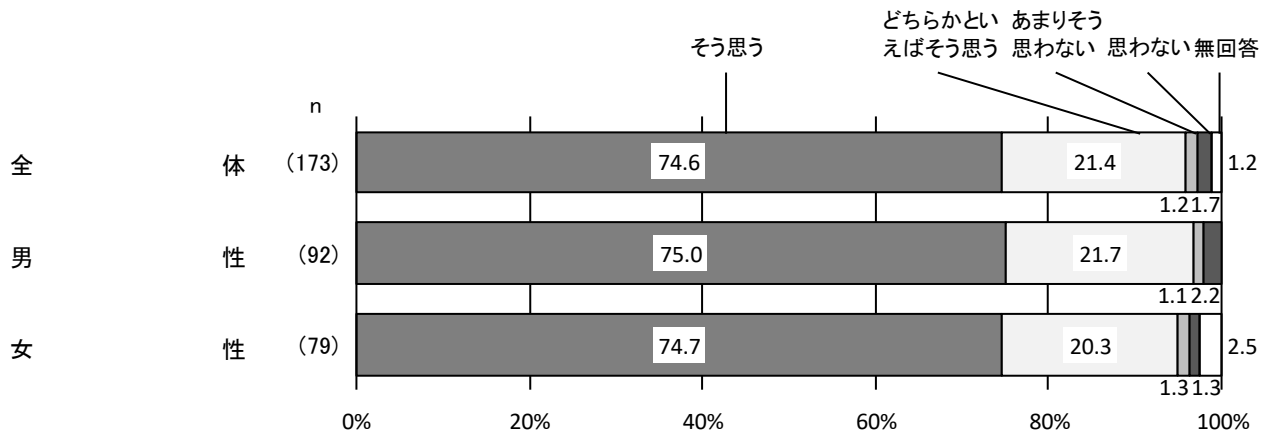
図5-1 若者の居場所になっているか - 全体



※年齢において、「18～19歳」、「20～24歳」及び「25～29歳」と回答していた方を母数とした。

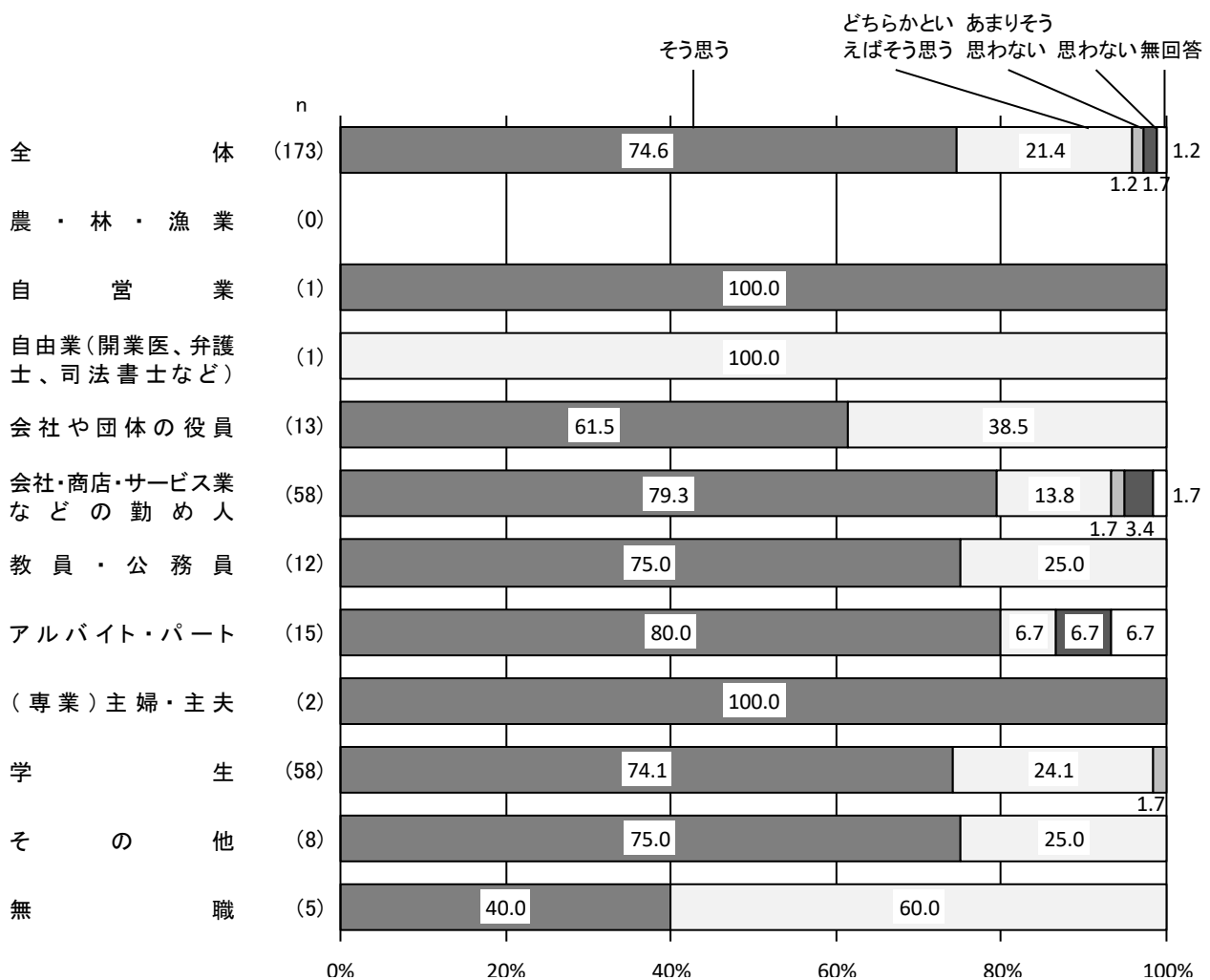
18歳から29歳の方を対象に、どの場所が今のあなたにとって居場所(ほっとできる場所、安心できる場所)になっているかを聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《思う》は、「自分の部屋」(96.0%)が10割近くと最も高くなっている。次いで、「家庭(親せきの家を含む)」(86.7%)が9割近く、「インターネット空間(SNS、YouTubeやオンラインゲームなど)」(70.0%)が7割と高くなっている。一方、「あまりそう思わない」と「思わない」を合わせた《思わない》は、「職場」(34.7%)が3割台半ばと最も高くなっている。次いで、「学校」(32.9%)が3割強と高くなっている。(図5-1)

図5-2 若者の居場所になっているか（ア）自分の部屋 - 性別



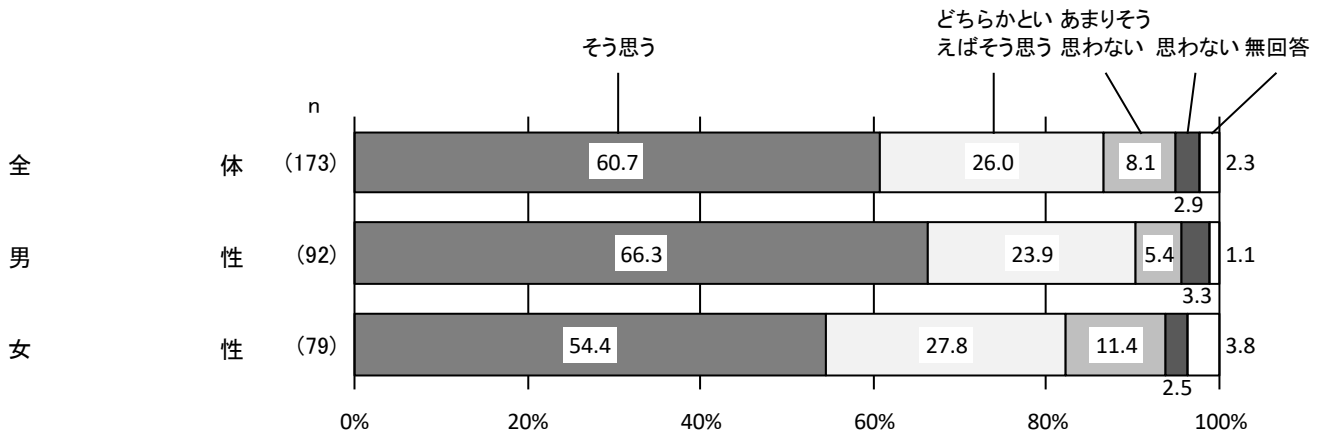
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図5-2)

図5-3 若者の居場所になっているか（ア）自分の部屋 - 職業別



職業別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図5-3)

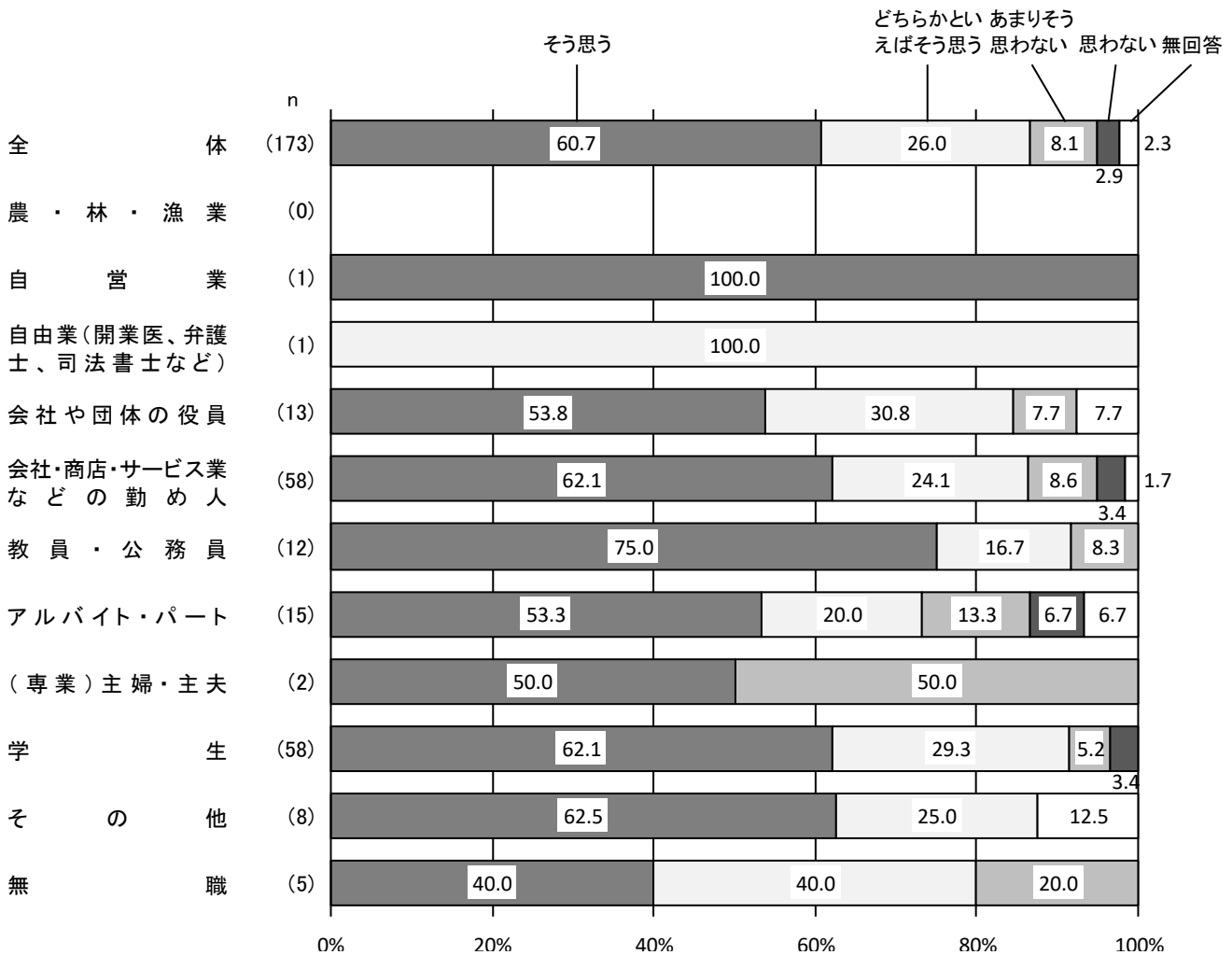
図5-4 若者の居場所になっているか（イ）家庭（親せきの家を含む）－性別



性別にみると、「思う」は、男性（90.2%）が女性（82.2%）より8.0ポイント高くなっている。

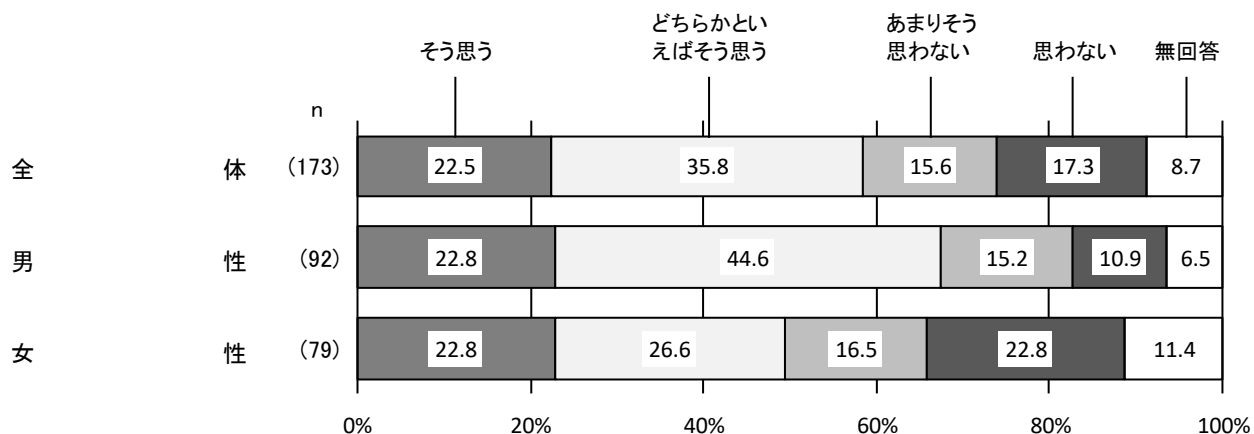
（図5-4）

図5-5 若者の居場所になっているか（イ）家庭（親せきの家を含む）－職業別



職業別にみると、傾向に大きな違いはみられない。（図5-5）

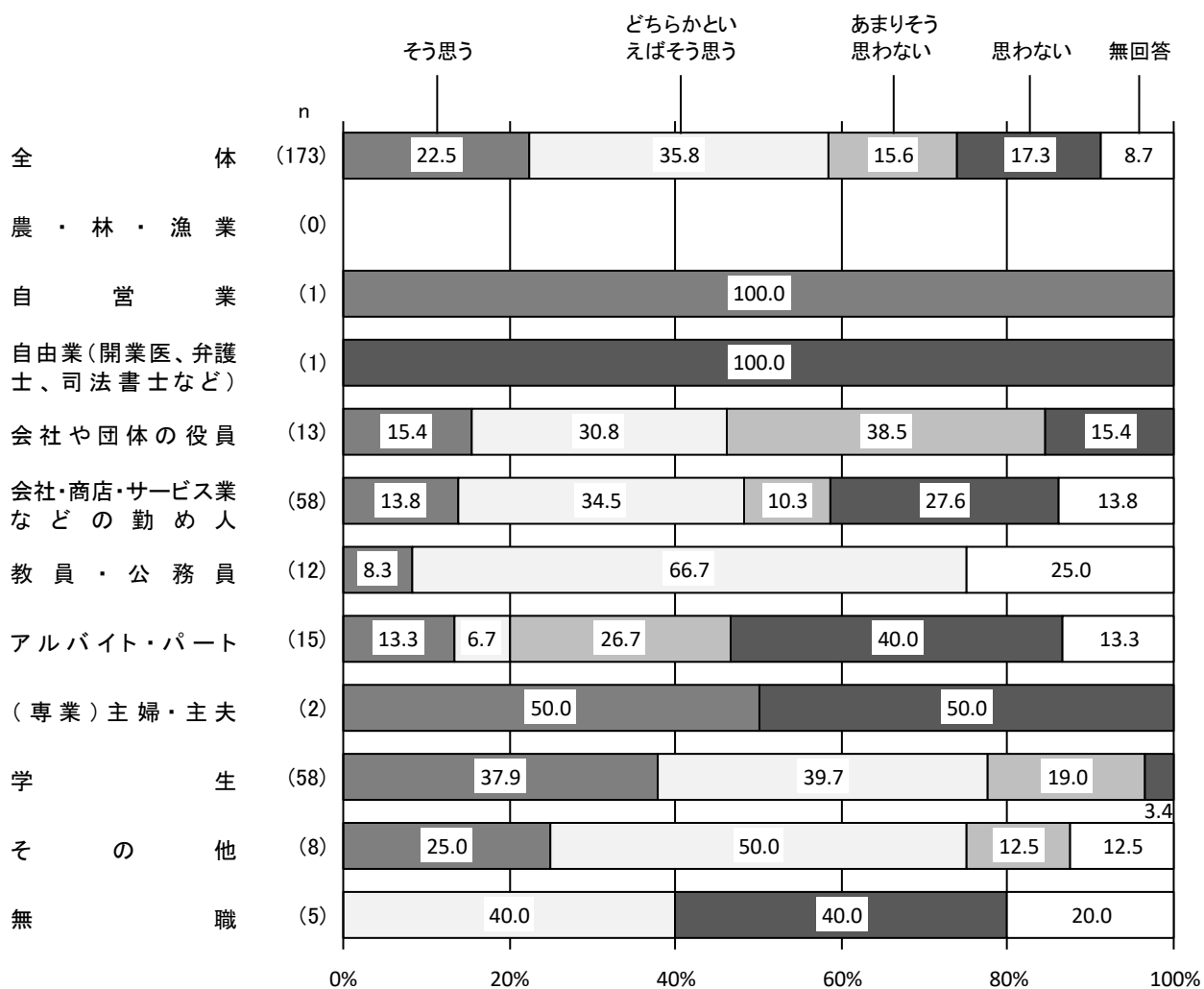
図5-6 若者の居場所になっているか (ウ) 学校 - 性別



性別にみると、《思う》は、男性 (67.4%) が女性 (49.4%) より 18.0 ポイント高くなっている。

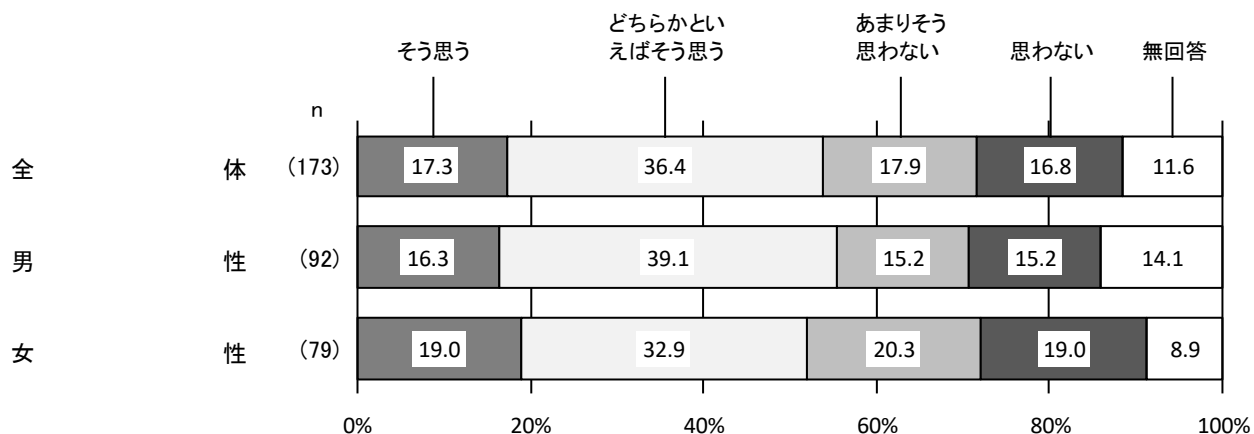
(図5-6)

図5-7 若者の居場所になっているか (ウ) 学校 - 職業別



職業別にみると、《思う》は、学生 (77.6%) が8割近くと高くなっている。(図5-7)

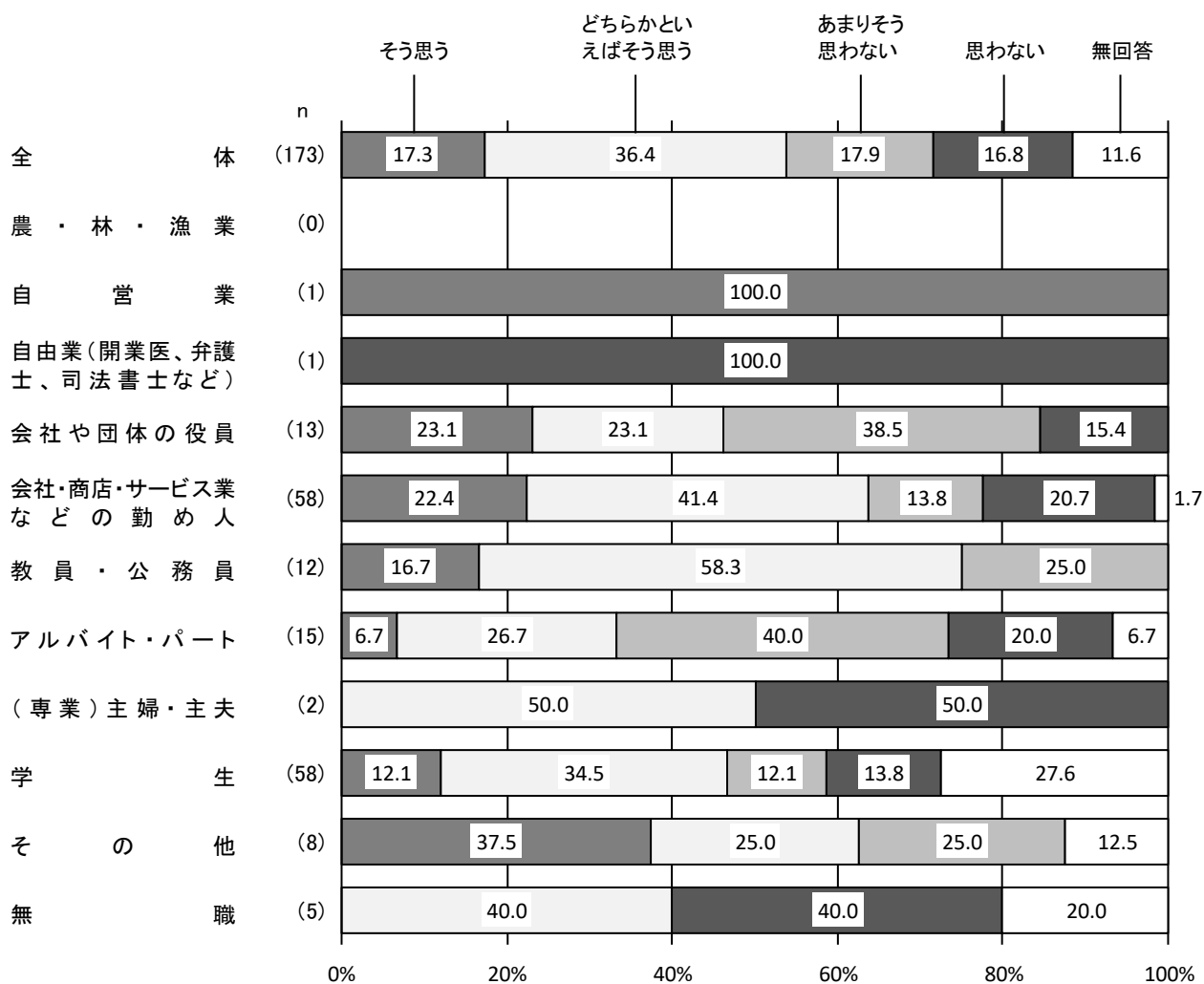
図5-8 若者の居場所になっているか（エ）職場 - 性別



性別にみると、「思わない」は、女性（39.3%）が男性（30.4%）より 8.9 ポイント高くなっている。

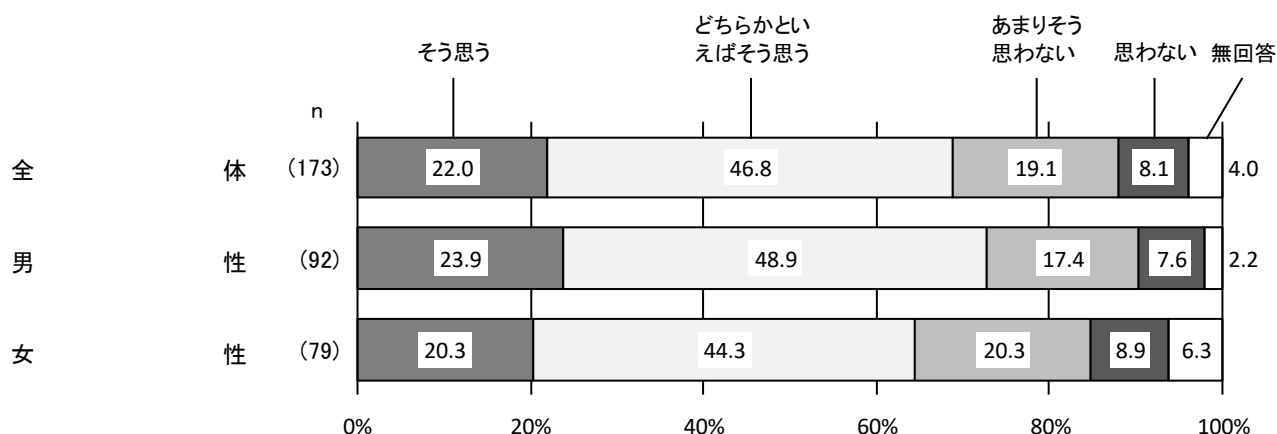
（図5-8）

図5-9 若者の居場所になっているか（エ）職場 - 職業別



職業別にみると、「思う」は、会社・商店・サービス業などの勤め人（63.8%）が6割強と高くなっている。（図5-9）

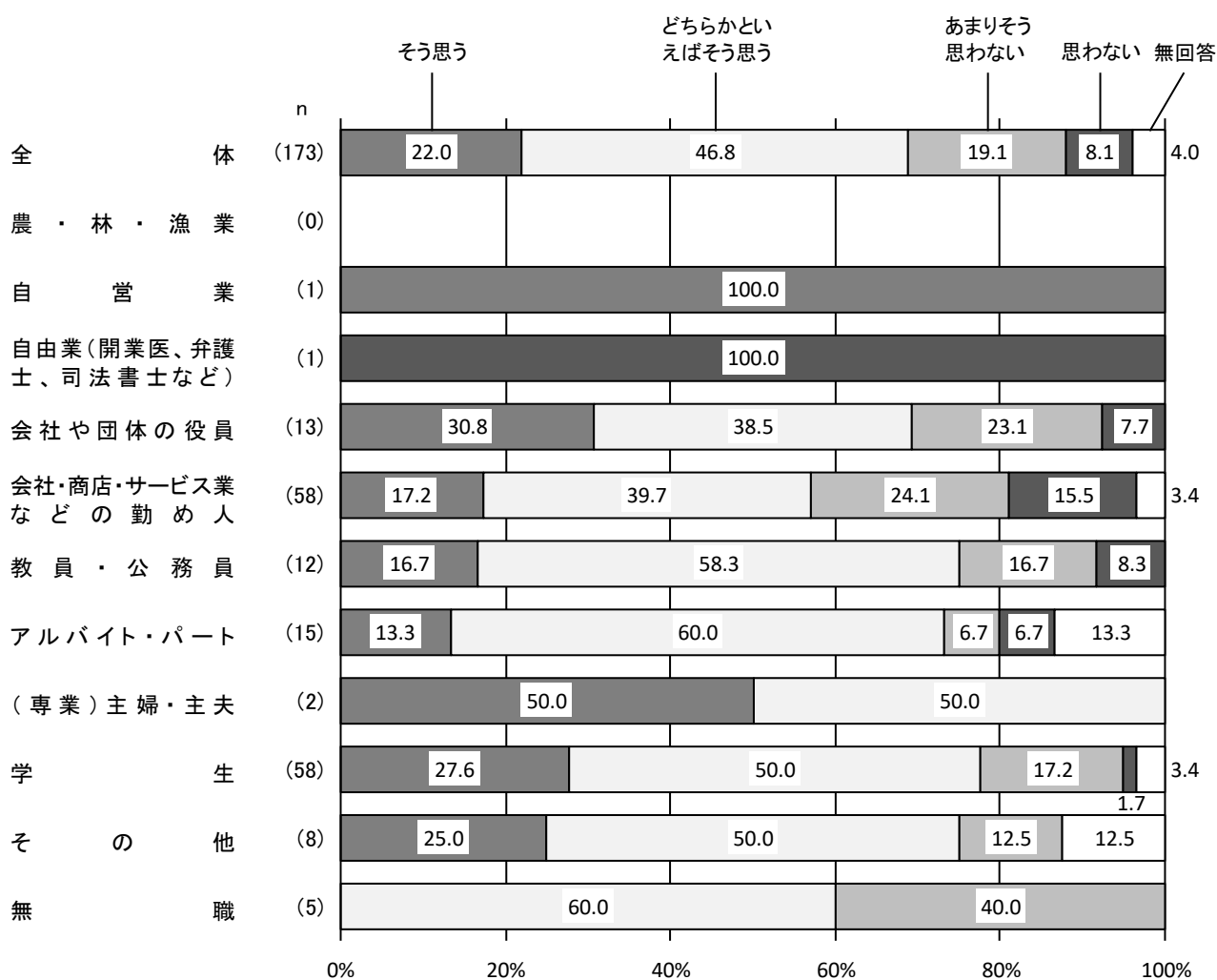
図5-10 若者の居場所になっているか（オ）地域
 （図書館や公園など、現在住んでいる周辺やそこにある建物など）－ 性別



性別にみると、《思う》は、男性（72.8%）が女性（64.6%）より8.2ポイント高くなっている。

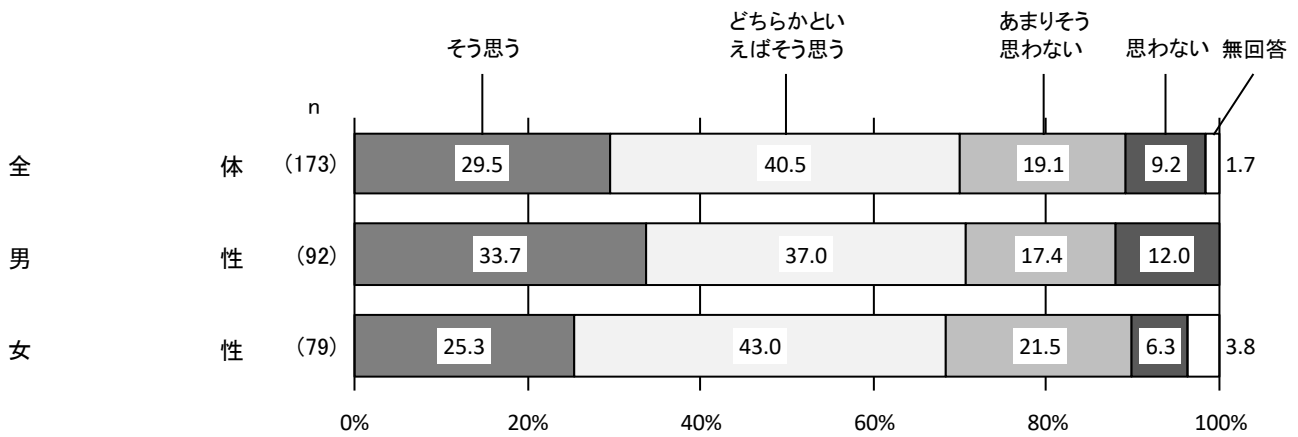
（図5-10）

図5-11 若者の居場所になっているか（オ）地域
 （図書館や公園など、現在住んでいる周辺やそこにある建物など）－ 職業別



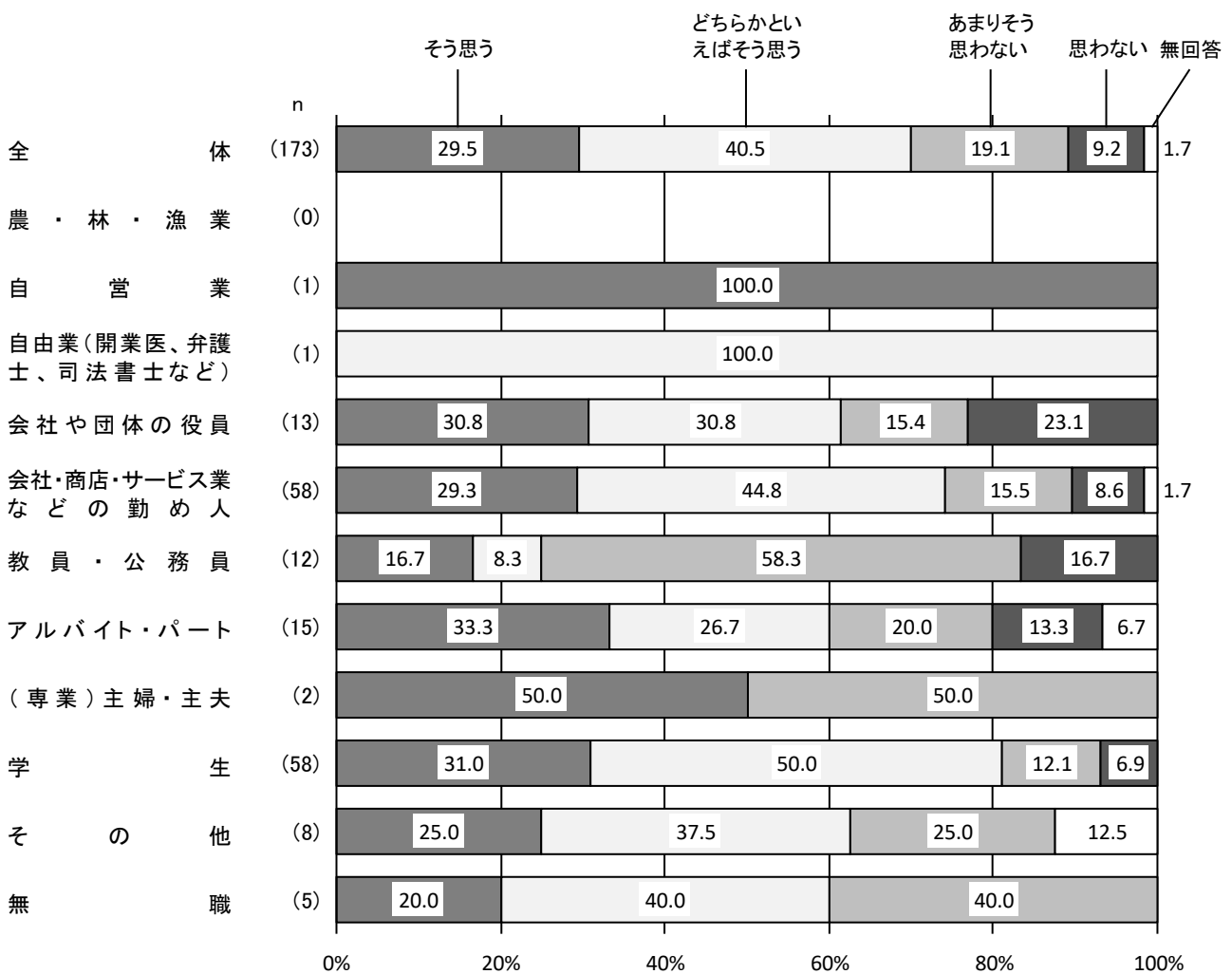
職業別にみると、《思う》は、学生（77.6%）が8割近くと高くなっている。一方、《思わない》は、会社・商店・サービス業などの勤め人（39.6%）が4割弱と高くなっている。（図5-11）

図5-12 若者の居場所になっているか（カ）インターネット空間
（SNS、YouTube やオンラインゲームなど）－ 性別



性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図5-12)

図5-13 若者の居場所になっているか（カ）インターネット空間
（SNS、YouTube やオンラインゲームなど）－ 職業別

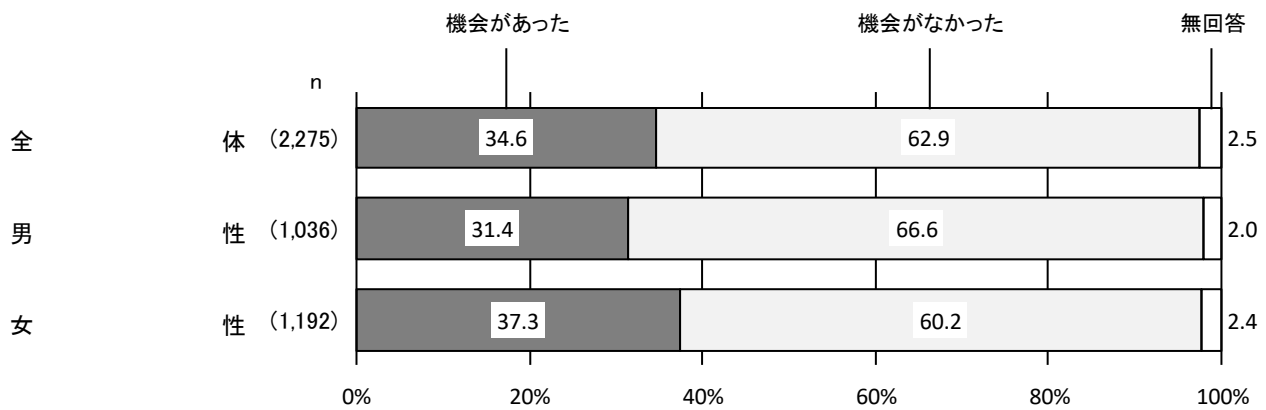


職業別にみると、《思う》は、学生(81.0%)が8割強と高くなっている。(図5-13)

(6) 子どもと触れ合う機会があったか

問6 あなたは、この1年間に、地域の子どもに触れ合う機会がありましたか。(○は1つだけ)

図6-1 子どもと触れ合う機会があったか - 全体、性別

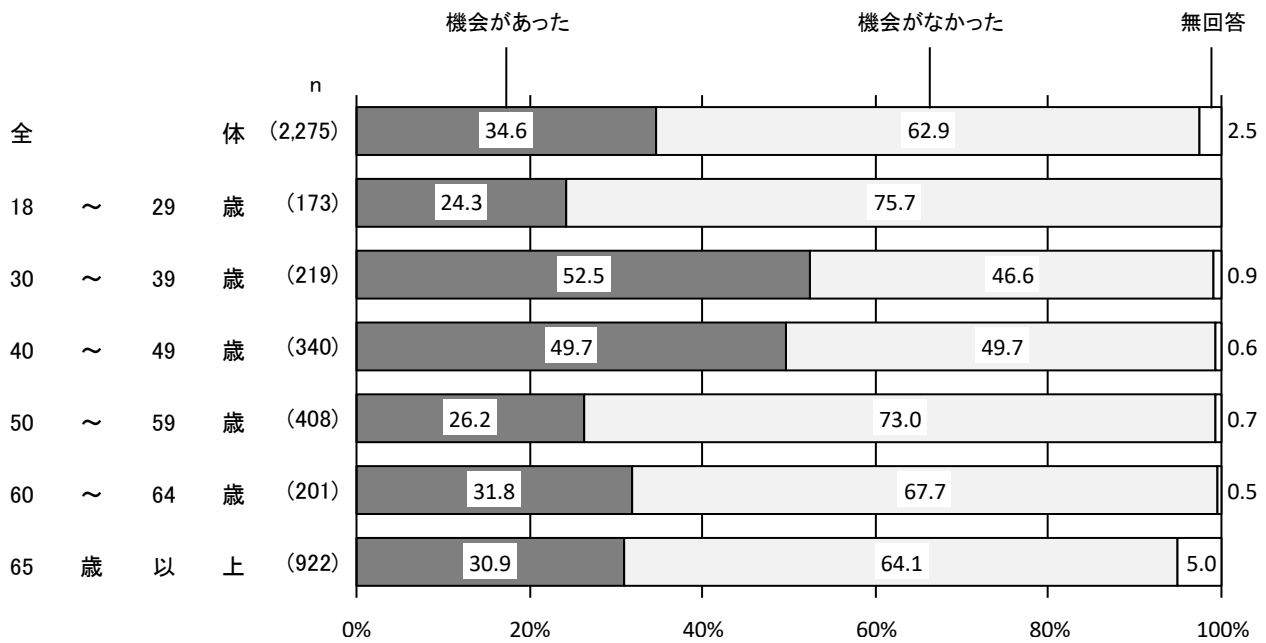


地域の子どもに触れ合う機会があるか聞いたところ、「機会がなかった」(62.9%)は6割強となっている。一方、「機会があった」(34.6%)は3割台半ばとなっている。

性別にみると、「機会がなかった」は、男性(66.6%)が女性(60.2%)より6.4ポイント高くなっている。

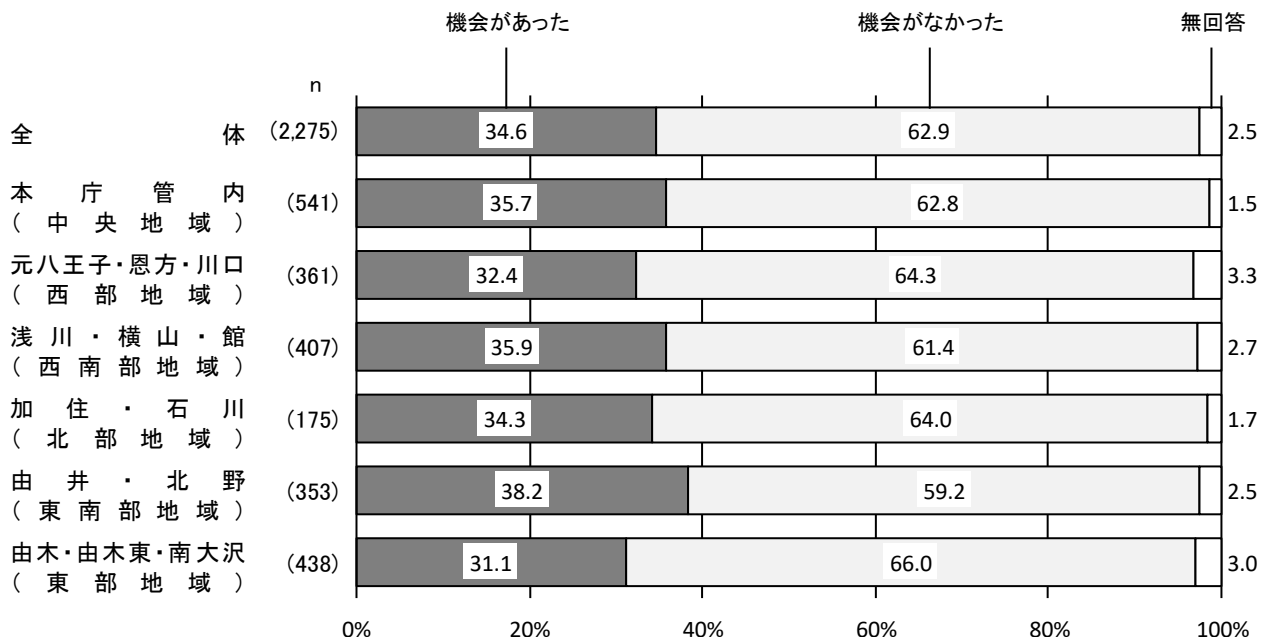
(図6-1)

図6-2 子どもと触れ合う機会があったか - 年齢別



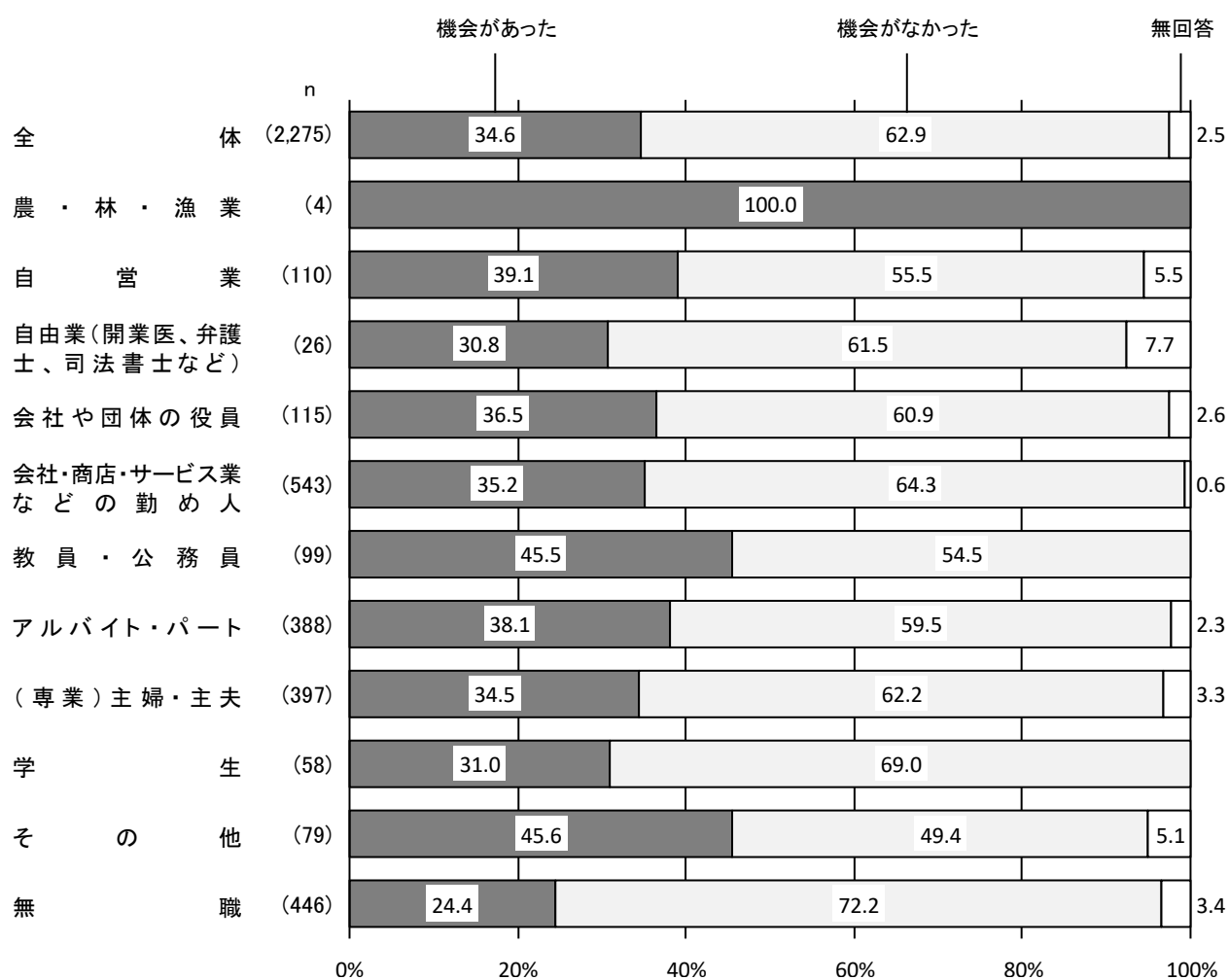
年齢別にみると、「機会があった」は、30～39歳（52.5%）が5割強、40～49歳（49.7%）が5割弱と高くなっている。一方、「機会がなかった」は、18～29歳（75.7%）が7割台半ば、50～59歳（73.0%）が7割強と高くなっている。（図6-2）

図6-3 子どもと触れ合う機会があったか - 居住地域別



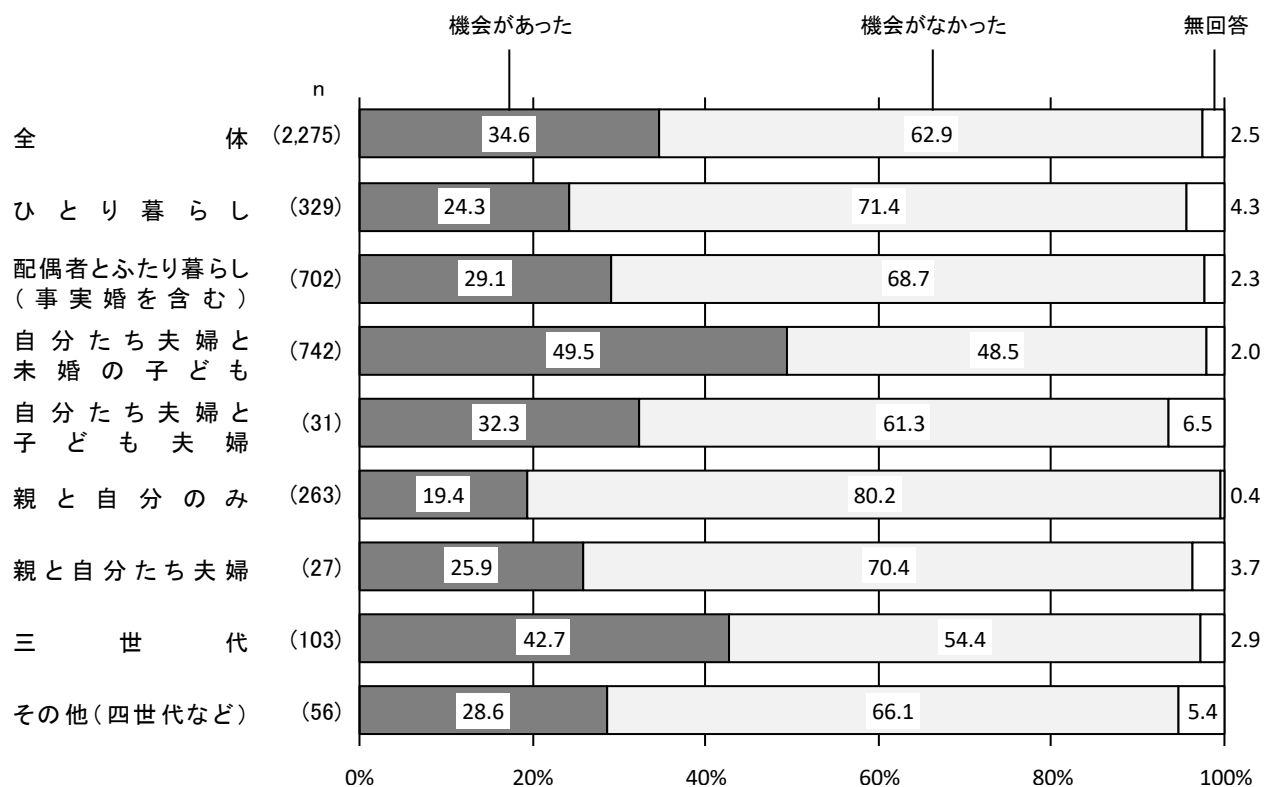
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。（図6-3）

図6-4 子どもと触れ合う機会があったか - 職業別



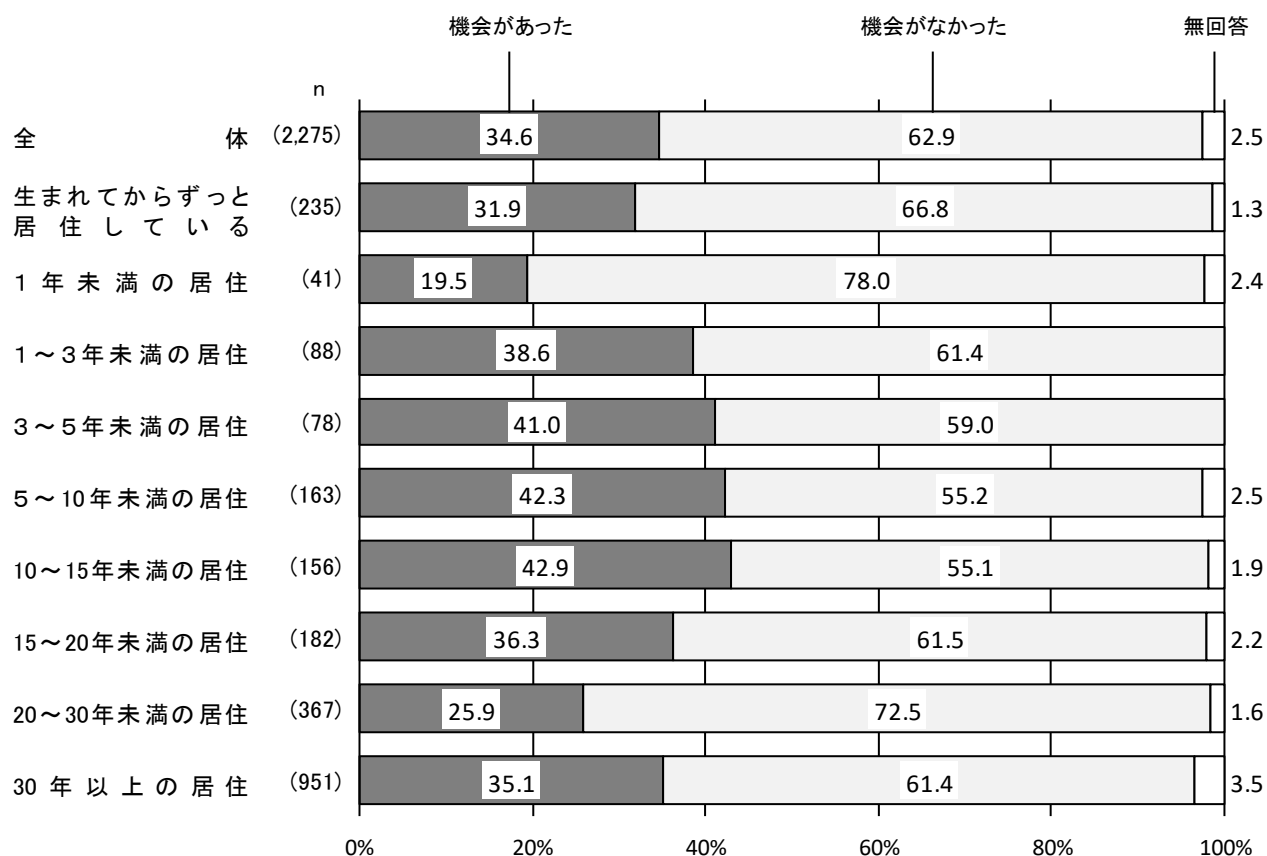
職業別にみると、「機会があった」は、その他(45.6%)、教員・公務員(45.5%)がそれぞれ4割台半ばと高くなっている。一方、「機会がなかった」は、無職(72.2%)が7割強、学生(69.0%)が7割弱と高くなっている。(図6-4)

図6-5 子どもと触れ合う機会があったか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「機会があった」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（49.5%）が5割弱、三世代（42.7%）が4割強と高くなっている。一方、「機会がなかった」は、親と自分のみ（80.2%）が約8割、ひとり暮らし（71.4%）が7割強、配偶者とふたり暮らし（事実婚を含む）（68.7%）が7割近くと高くなっている。（図6-5）

図6-6 子どもと触れ合う機会があったか - 居住年数別



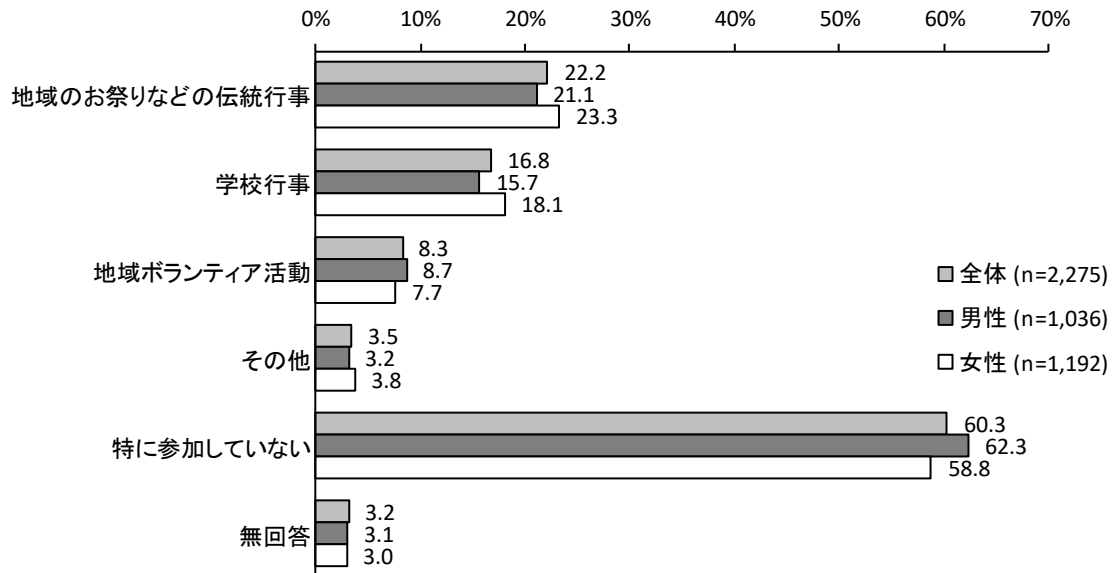
居住年数別にみると、「機会があった」は、10～15年未満の居住（42.9%）、5～10年未満の居住（42.3%）、3～5年未満の居住（41.0%）がそれぞれ4割強と高くなっている。一方、「機会がなかった」は、1年未満の居住（78.0%）が8割近く、20～30年未満の居住（72.5%）が7割強と高くなっている。

(図6-6)

(7) 子どもや保護者とともに行う活動への参加状況

問7 あなたは、この1年間に、子どもやその保護者とともに行う次のような活動に参加しましたか。
(〇はいくつでも)

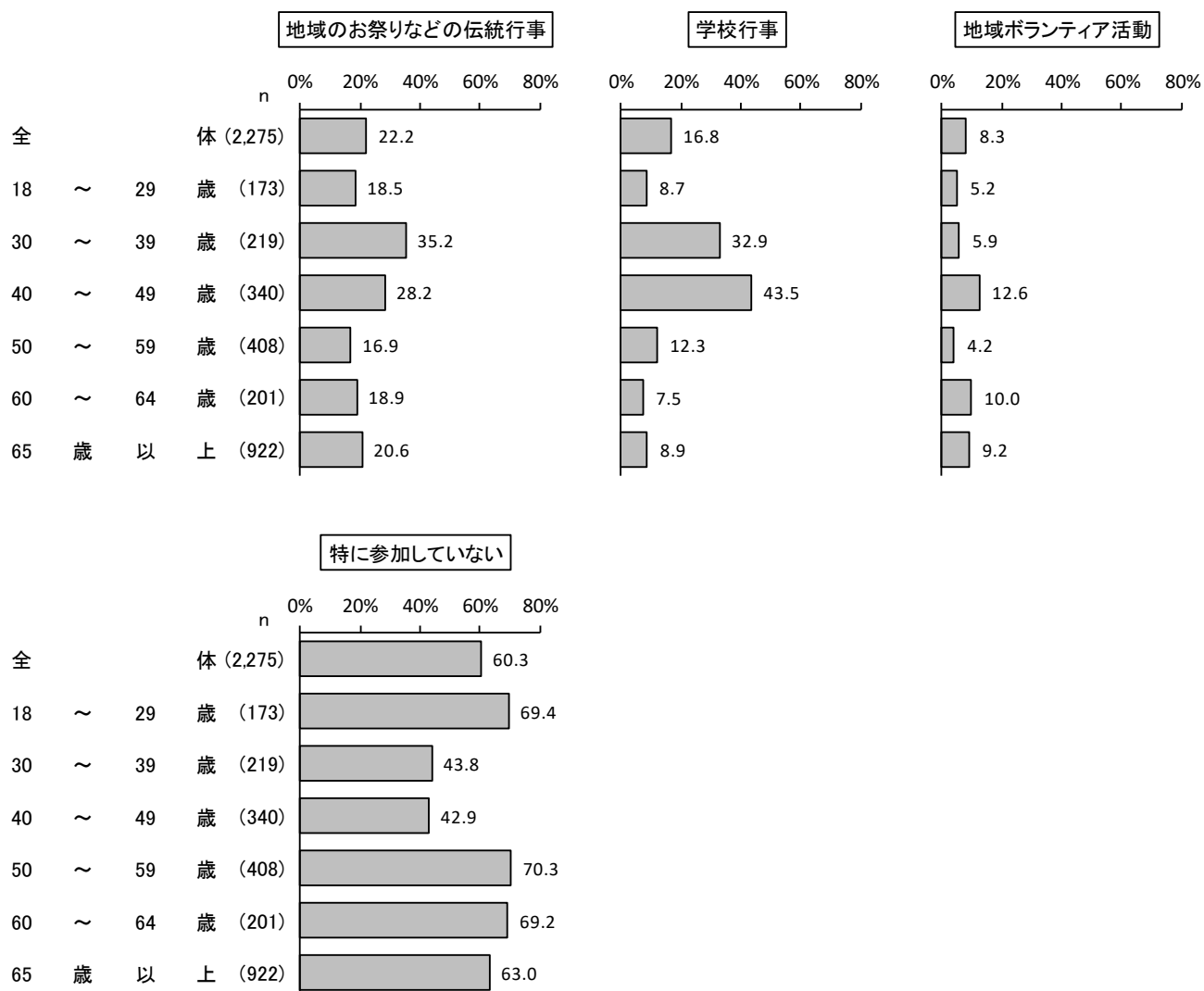
図7-1 子どもや保護者とともに行う活動への参加状況 — 全体、性別



子どもやその保護者とともに行う活動への参加について聞いたところ、「特に参加していない」(60.3%)が約6割と最も高くなっている。次いで、「地域のお祭りなどの伝統行事」(22.2%)、「学校行事」(16.8%)、「地域ボランティア活動」(8.3%)の順となっている。

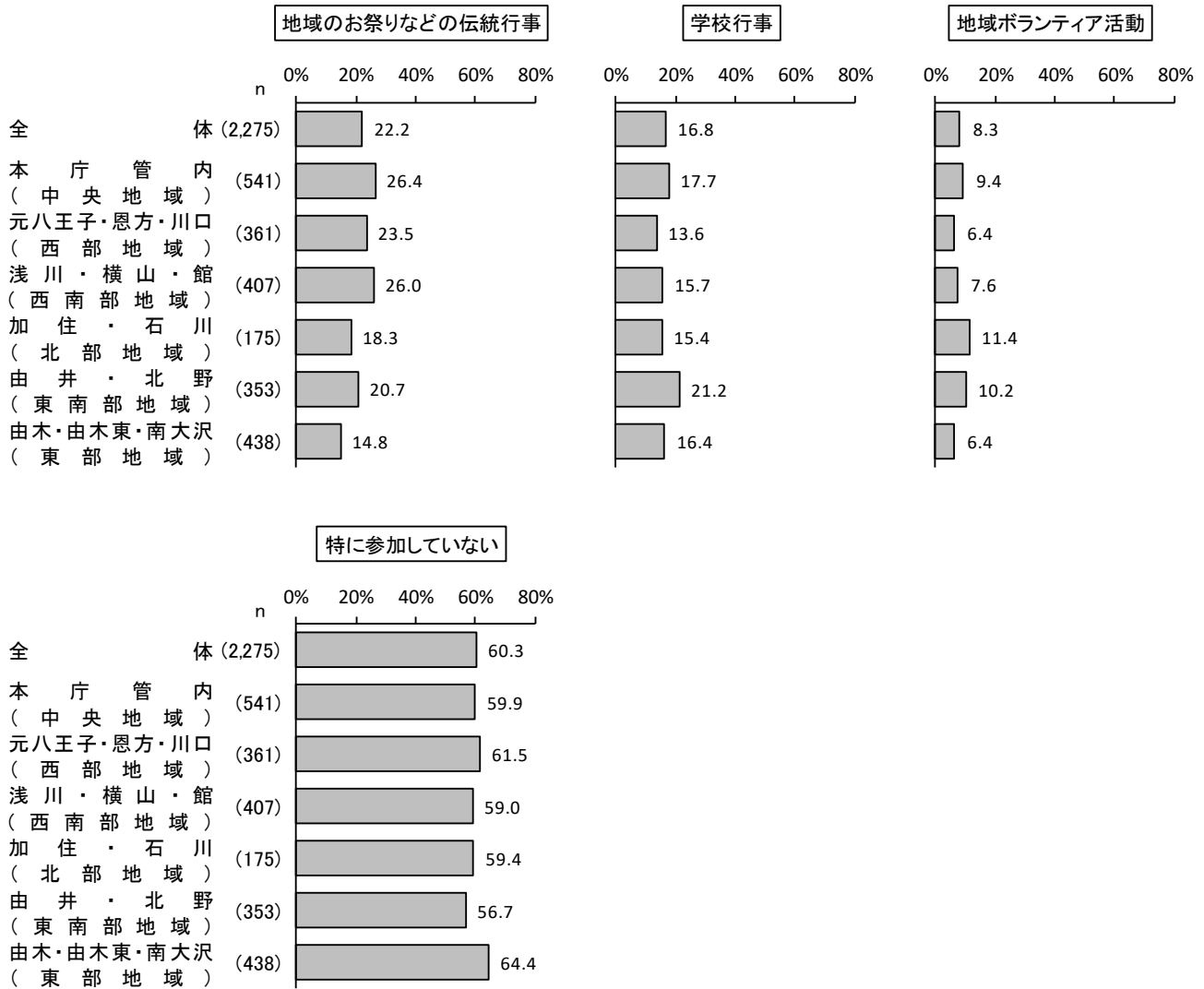
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図7-1)

図7-2 子どもや保護者とともに行う活動への参加状況 — 年齢別



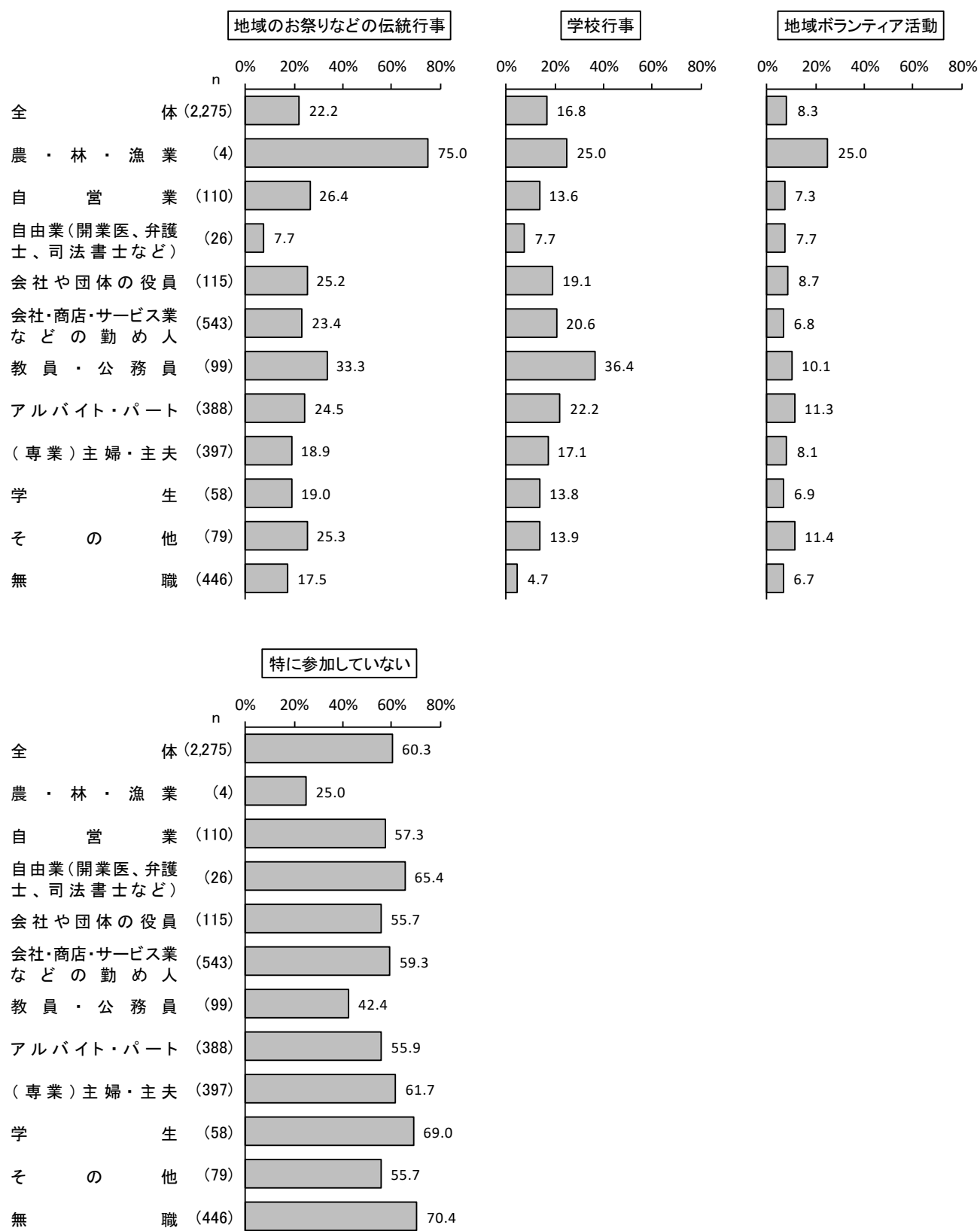
年齢別にみると、「地域のお祭りなどの伝統行事」は、30～39歳（35.2%）が3割台半ば、40～49歳（28.2%）が3割近くと高くなっている。「学校行事」は、40～49歳（43.5%）が4割強、30～39歳（32.9%）が3割強と高くなっている。「特に参加していない」は、50～59歳（70.3%）が約7割、18～29歳（69.4%）、60～64歳（69.2%）がそれぞれ7割弱と高くなっている。（図7-2）

図7-3 子どもや保護者とともに行う活動への参加状況 — 居住地域別



居住地域別にみると、「地域のお祭りなどの伝統行事」は、由木・由木東・南大沢（東部地域）（14.8%）が1割台半ばと低くなっている。（図7-3）

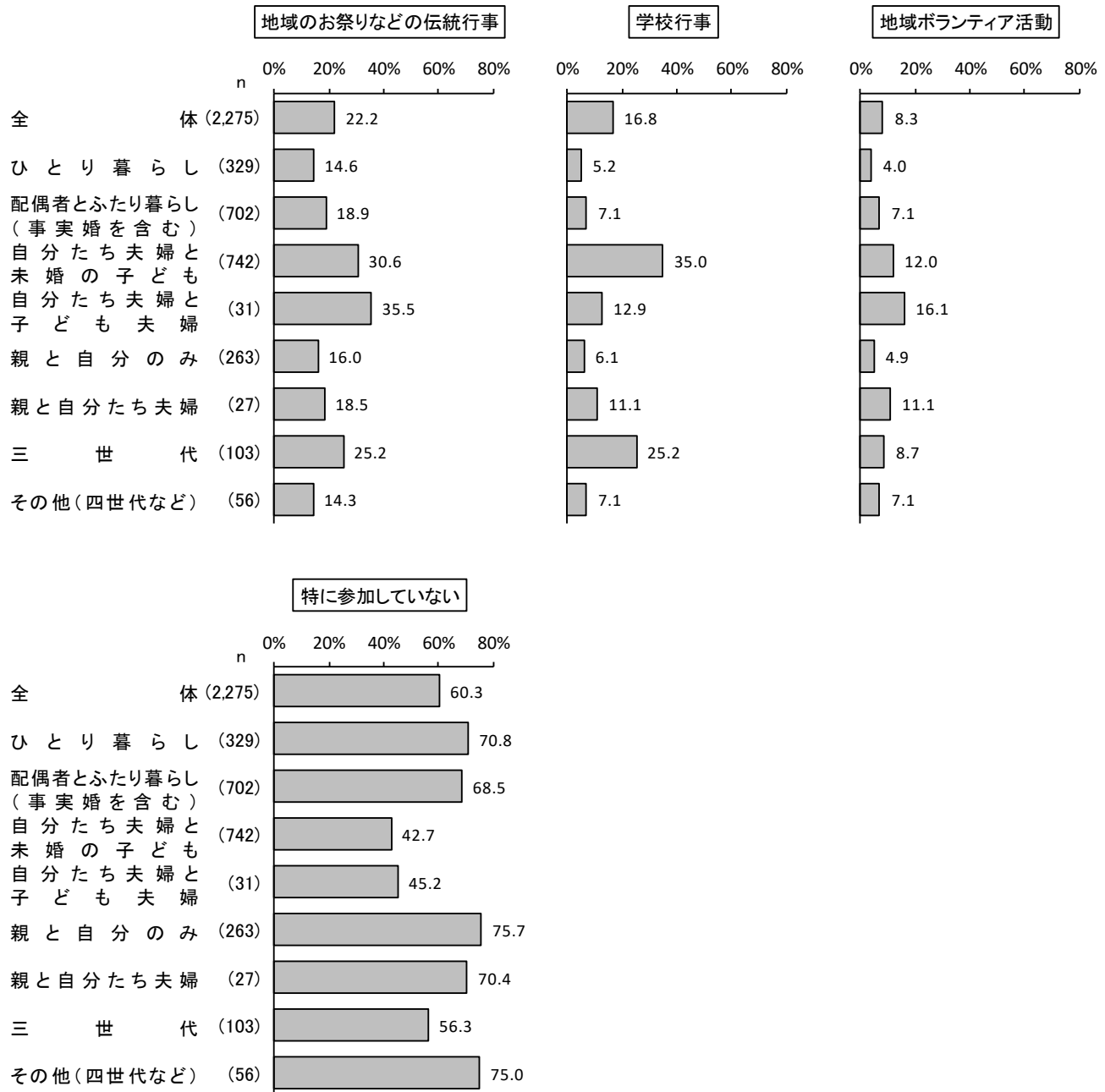
図7-4 子どもや保護者とともに行動への参加状況 — 職業別



職業別にみると、「地域のお祭りなどの伝統行事」は、教員・公務員（33.3%）が3割強と高くなっている。「学校行事」は、教員・公務員（36.4%）が4割近く、アルバイト・パート（22.2%）が2割強と高くなっている。「特に参加していない」は、無職（70.4%）が約7割、学生（69.0%）が7割弱と高くなっている。

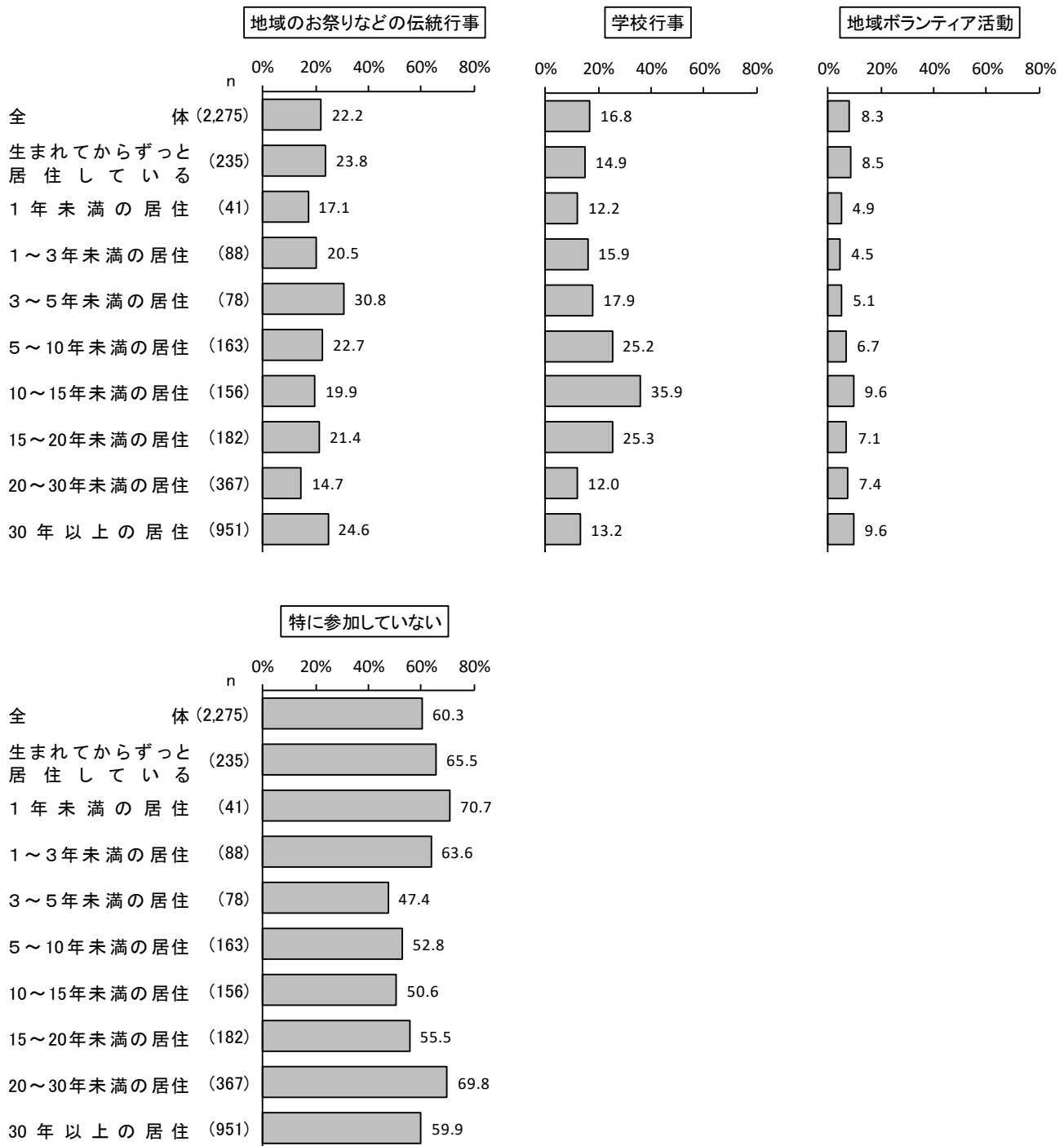
(図7-4)

図7-5 子どもや保護者とともに行う活動への参加状況 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「地域のお祭りなどの伝統行事」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（35.5%）が3割台半ば、自分たち夫婦と未婚の子ども（30.6%）が約3割と高くなっている。「学校行事」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（35.0%）が3割台半ば、三世代（25.2%）が2割台半ばと高くなっている。「地域ボランティア活動」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（16.1%）が2割近くと高くなっている。「特に参加していない」は、親と自分のみ（75.7%）、その他（四世代など）（75.0%）がそれぞれ7割台半ば、ひとり暮らし（70.8%）が約7割、配偶者とふたり暮らし（事実婚を含む）（68.5%）が7割近くと高くなっている。（図7-5）

図7-6 子どもや保護者とともに行う活動への参加状況 — 居住年数別

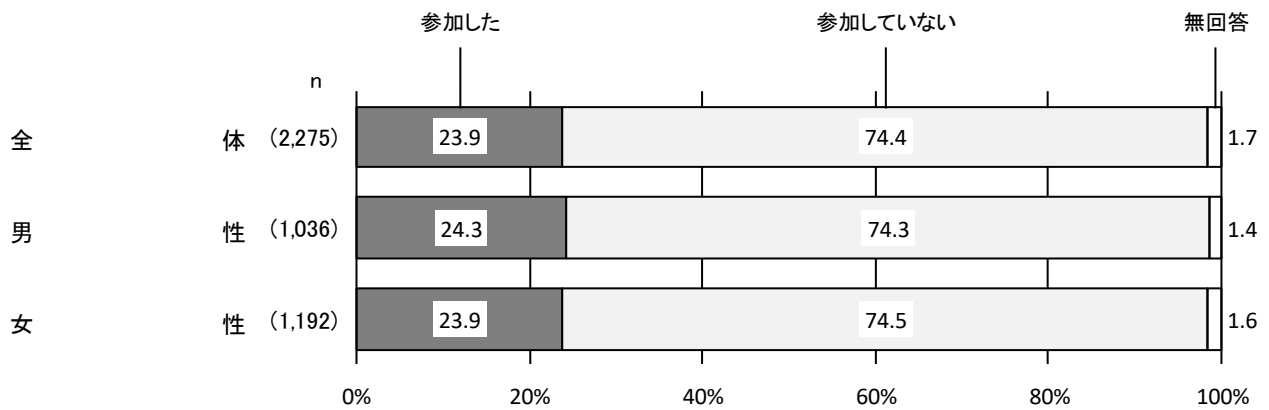


居住年数別にみると、「地域のお祭りなどの伝統行事」は、3～5年未満の居住（30.8%）が約3割と高くなっている。「学校行事」は、10～15年未満の居住（35.9%）が3割台半ば、15～20年未満の居住（25.3%）、5～10年未満の居住（25.2%）がそれぞれ2割台半ばと高くなっている。「特に参加していない」は、1年未満の居住（70.7%）が約7割、20～30年未満の居住（69.8%）が7割弱、生まれてからずっと居住している（65.5%）が6割台半ばと高くなっている。（図7-6）

(8) 日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動への参加状況

問8 あなたは、この1年間に、日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動に参加しましたか。
(〇は1つだけ)

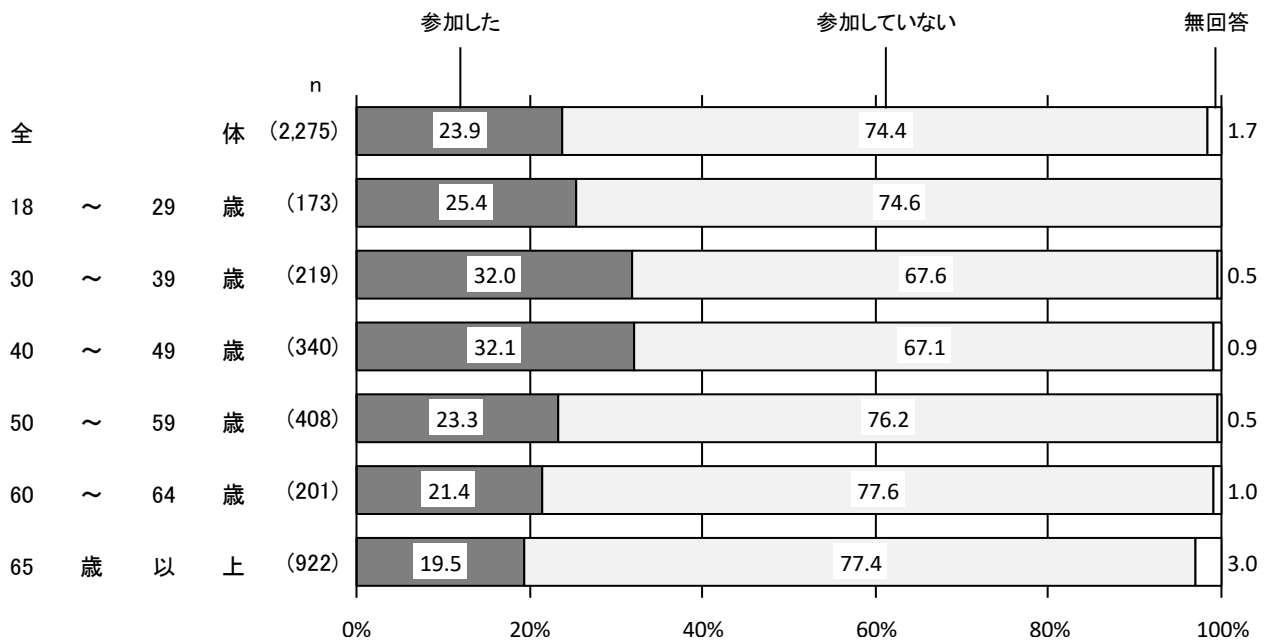
図8-1 日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動への参加状況 — 全体、性別



日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動への参加状況を聞いたところ、「参加した」(23.9%)は2割強となっている。一方、「参加していない」(74.4%)は7割台半ばとなっている。

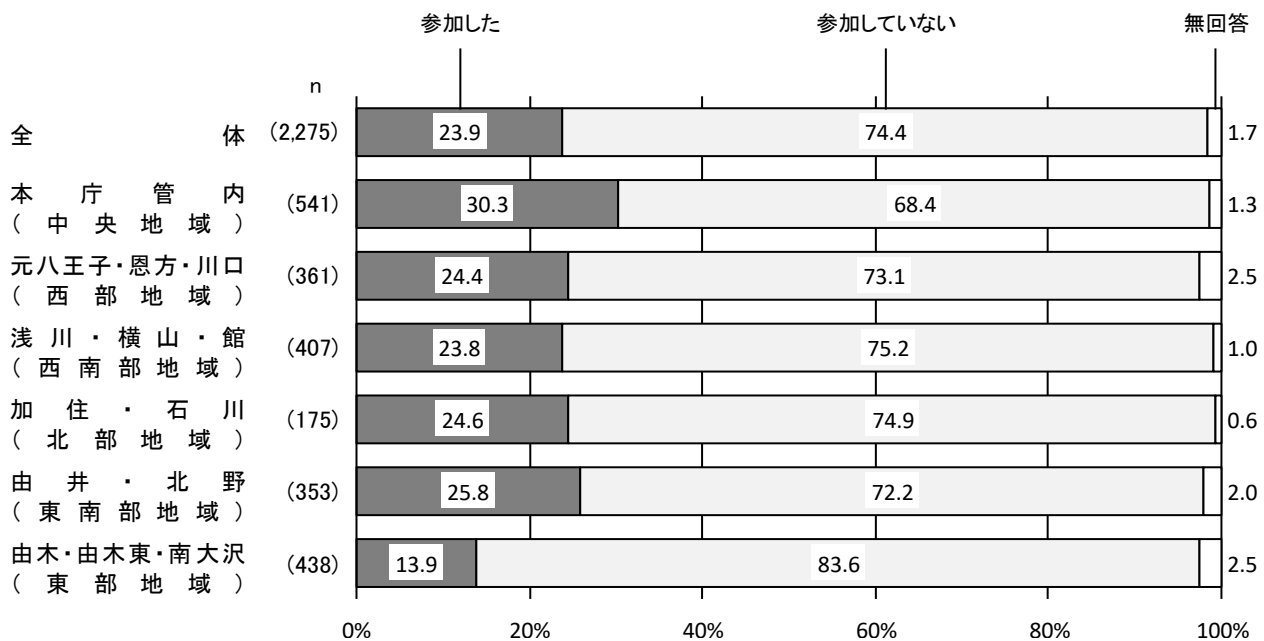
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図8-1)

図8-2 日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動への参加状況 — 年齢別



年齢別にみると、「参加した」は、40~49 歳 (32.1%)、30~39 歳 (32.0%) がそれぞれ 3 割強と高くなっている。(図8-2)

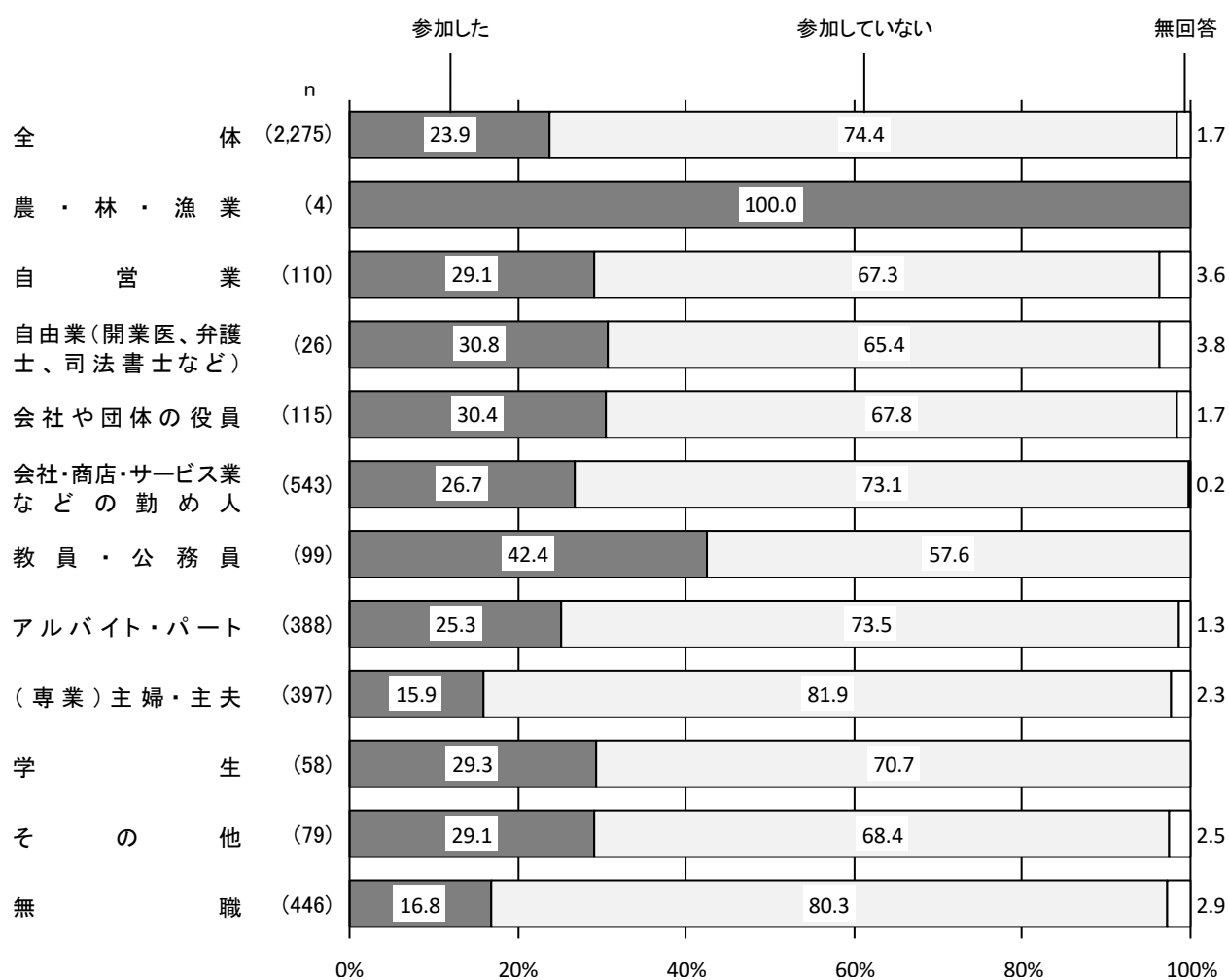
図8-3 日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動への参加状況 — 居住地域別



居住地域別にみると、「参加した」は、本庁管内 (中央地域) (30.3%) が約 3 割と高くなっている。一方、「参加していない」は、由木・由木東・南大沢 (東部地域) (83.6%) が 8 割強と高くなっている。

(図8-3)

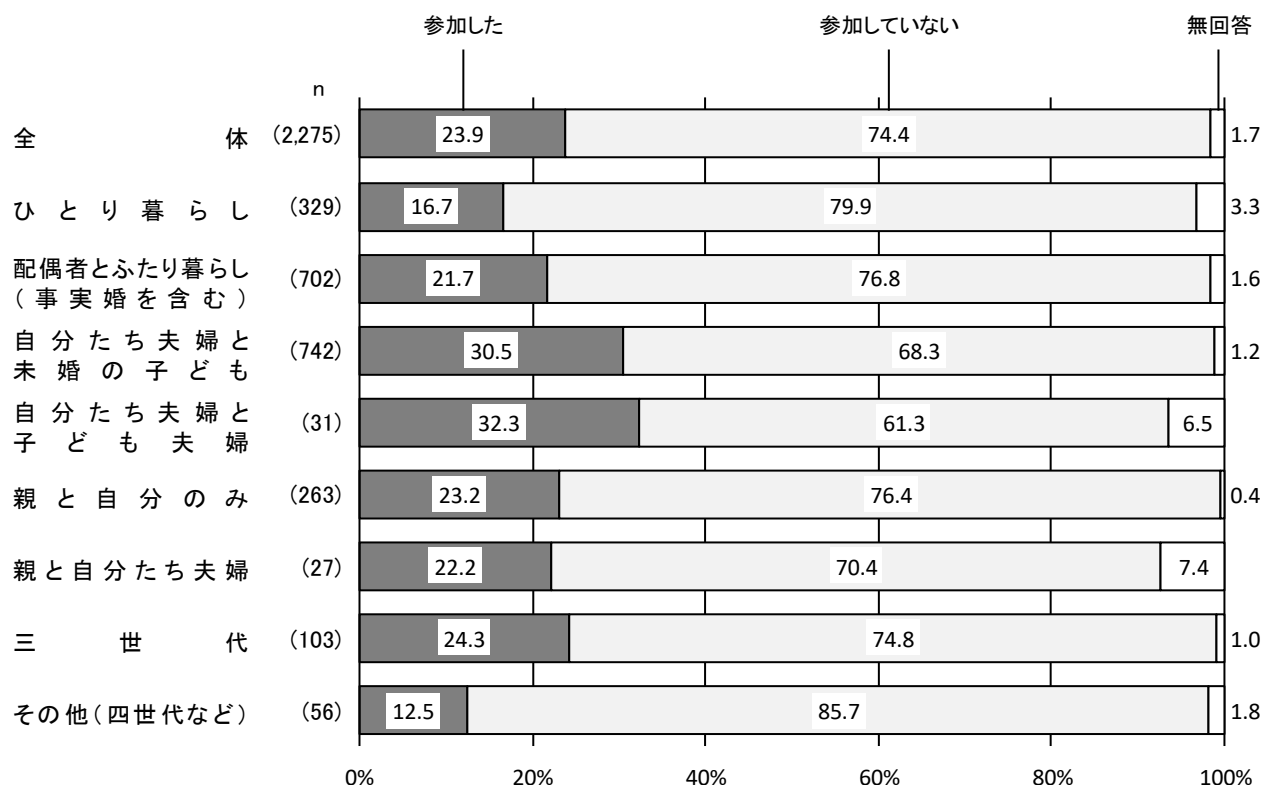
図8-4 日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動への参加状況 — 職業別



職業別にみると、「参加した」は、教員・公務員(42.4%)が4割強、会社や団体の役員(30.4%)が約3割、学生(29.3%)、自営業(29.1%)、その他(29.1%)がそれぞれ3割弱と高くなっている。一方、「参加していない」は、(専業)主婦・主夫(81.9%)が8割強、無職(80.3%)が約8割と高くなっている。

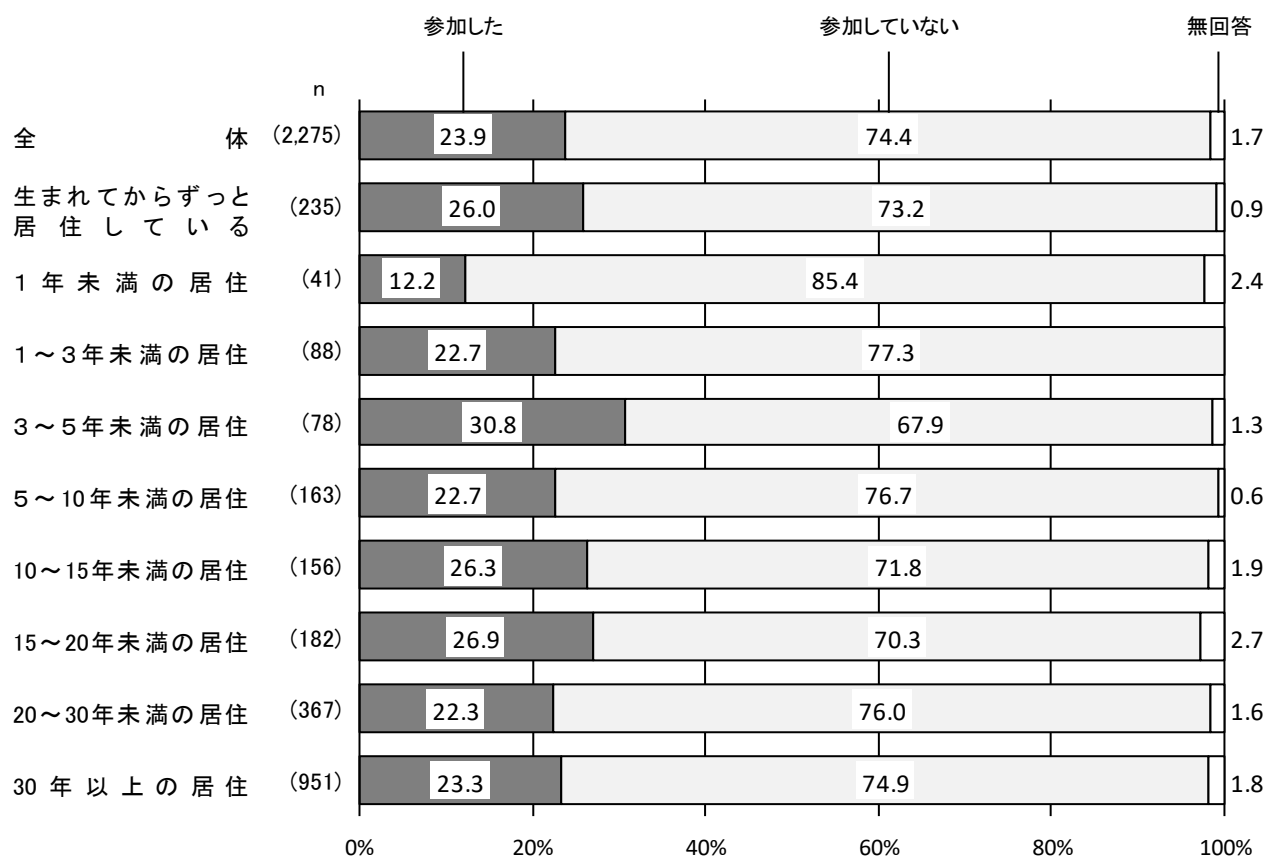
(図8-4)

図8-5 日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動への参加状況 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「参加した」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（32.3%）が3割強、自分たち夫婦と未婚の子ども（30.5%）が約3割と高くなっている。一方、「参加していない」は、その他（四世代など）（85.7%）が8割台半ば、ひとり暮らし（79.9%）が8割弱と高くなっている。（図8-5）

図8-6 日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動への参加状況 — 居住年数別

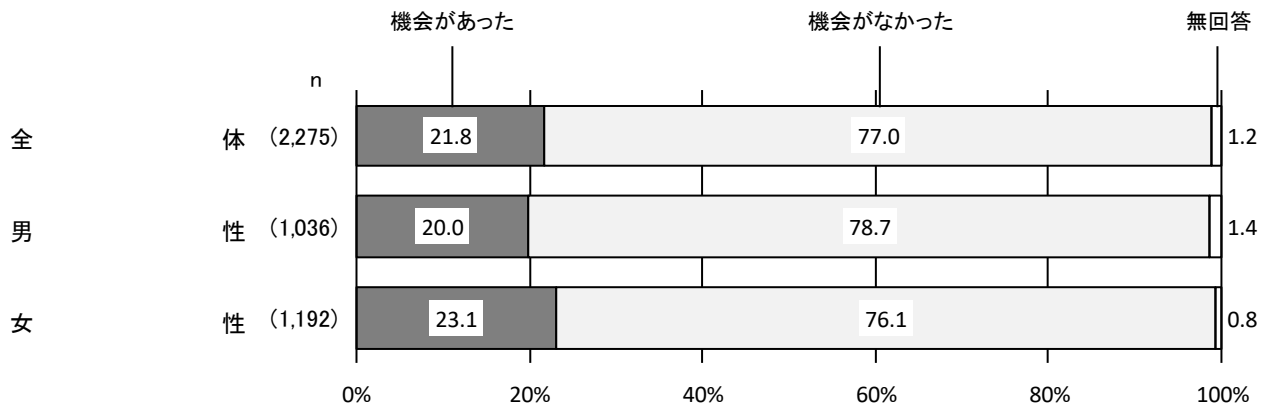


居住年数別にみると、「参加した」は、3～5年未満の居住（30.8%）が約3割と高くなっている。一方、「参加していない」は、1年未満の居住（85.4%）が8割台半ばと高くなっている。（図8-6）

(9) 八王子に関連する文化芸術に触れる機会があったか

問9 あなたは、この1年間に、八王子に関連する文化芸術に触れる機会がありましたか。(○は1つだけ)

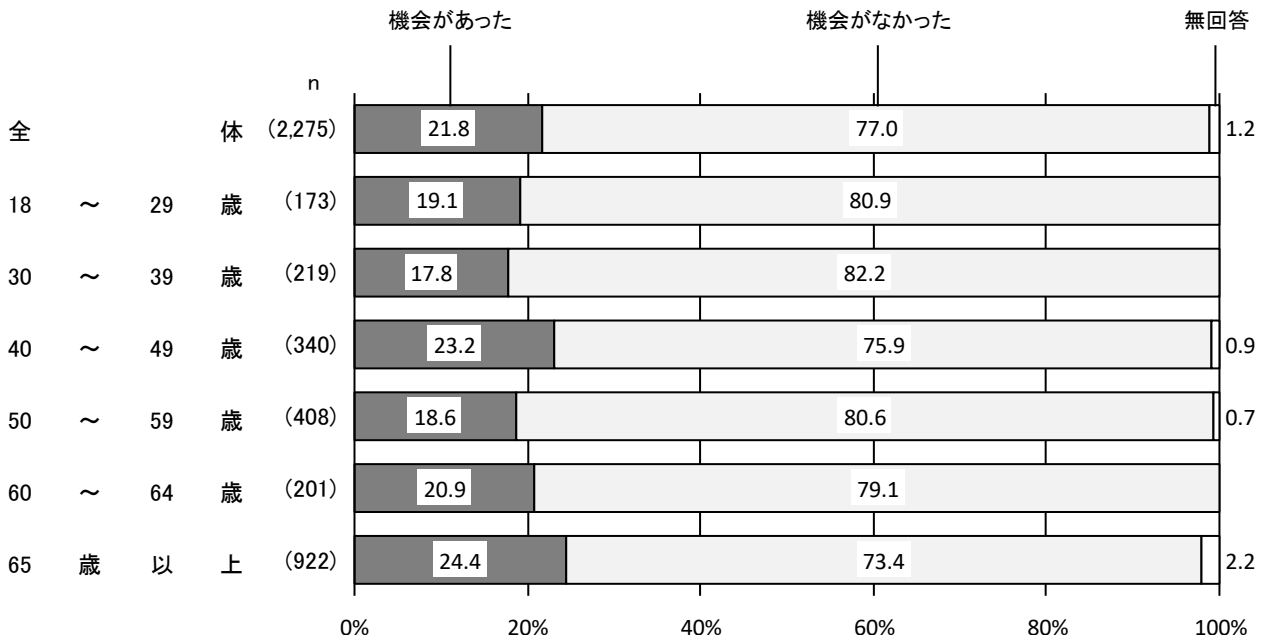
図9-1 八王子に関連する文化芸術に触れる機会があったか - 全体、性別



八王子に関連する文化芸術に触れる機会があるかを聞いたところ、「機会があった」(21.8%)は2割強となっている。一方、「機会がなかった」(77.0%)は8割近くとなっている。

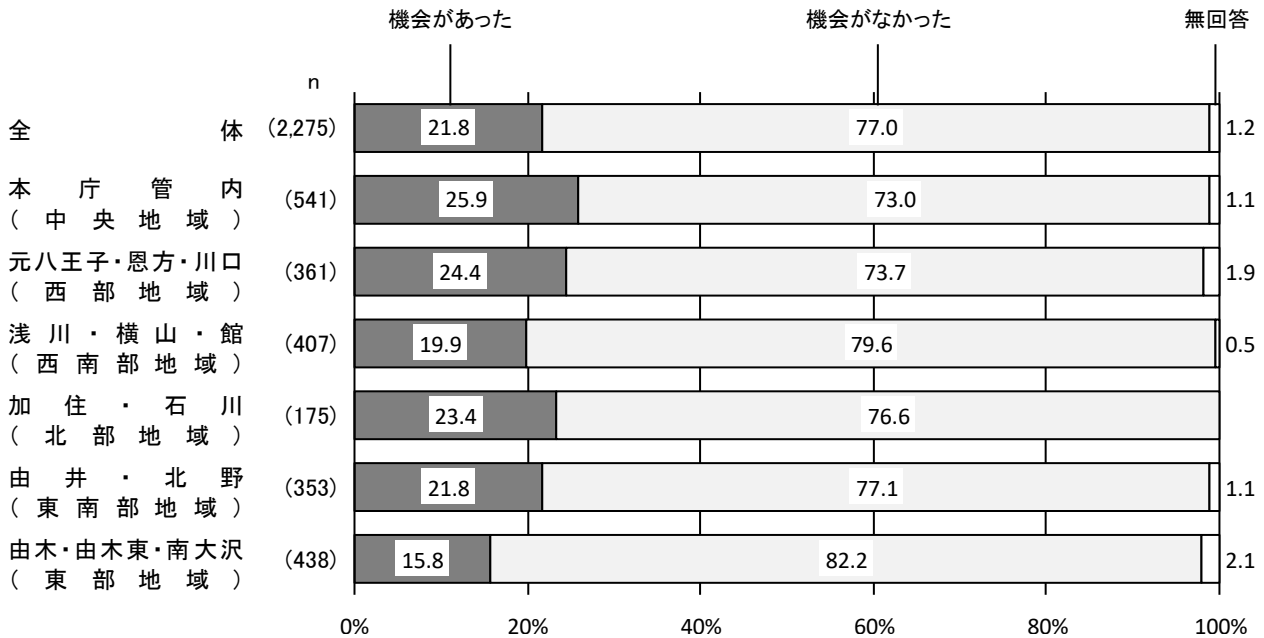
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図9-1)

図9-2 八王子に関連する文化芸術に触れる機会があったか - 年齢別



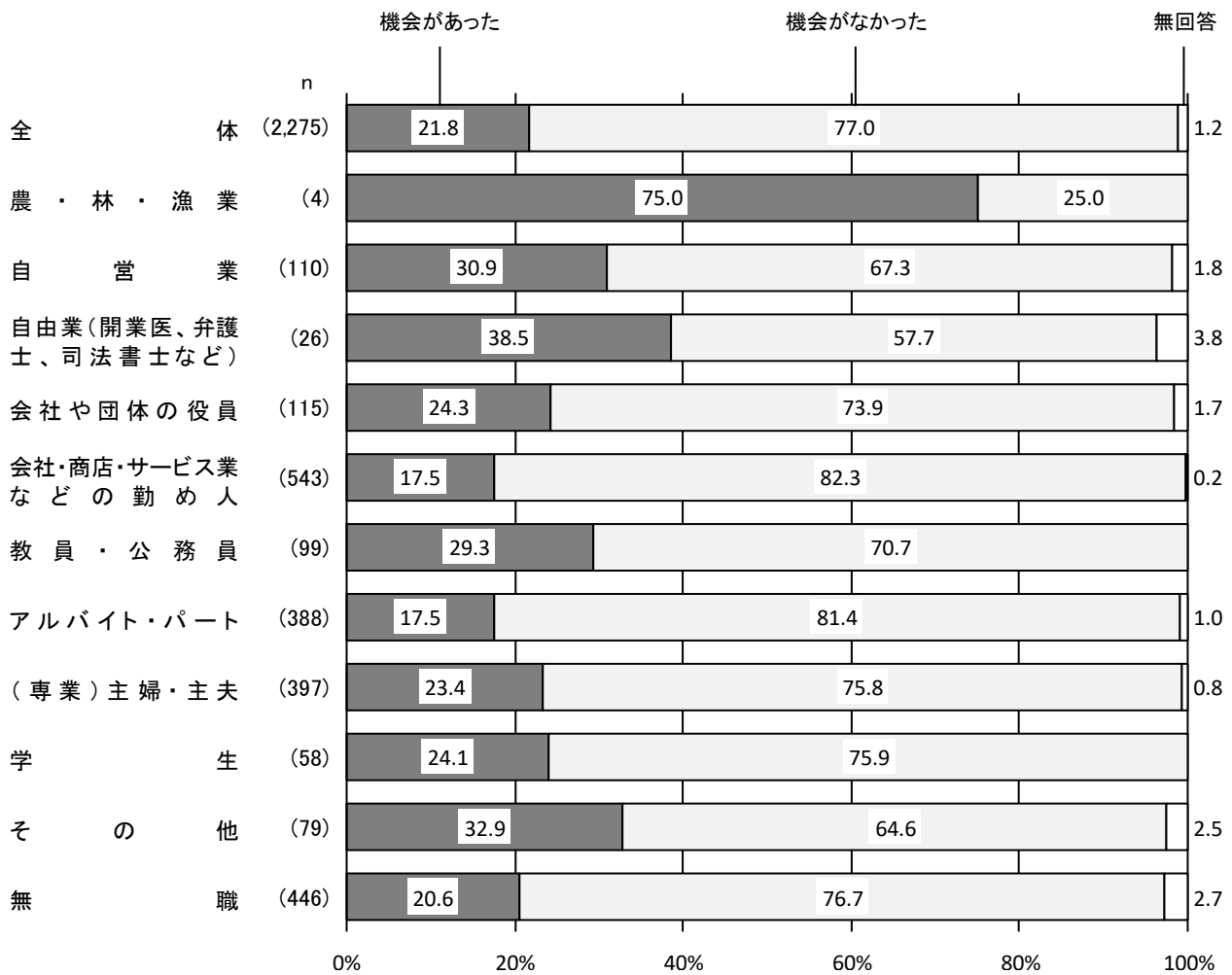
年齢別にみると、「機会がなかった」は、30~39歳（82.2%）が8割強と高くなっている。（図9-2）

図9-3 八王子に関連する文化芸術に触れる機会があったか - 居住地域別



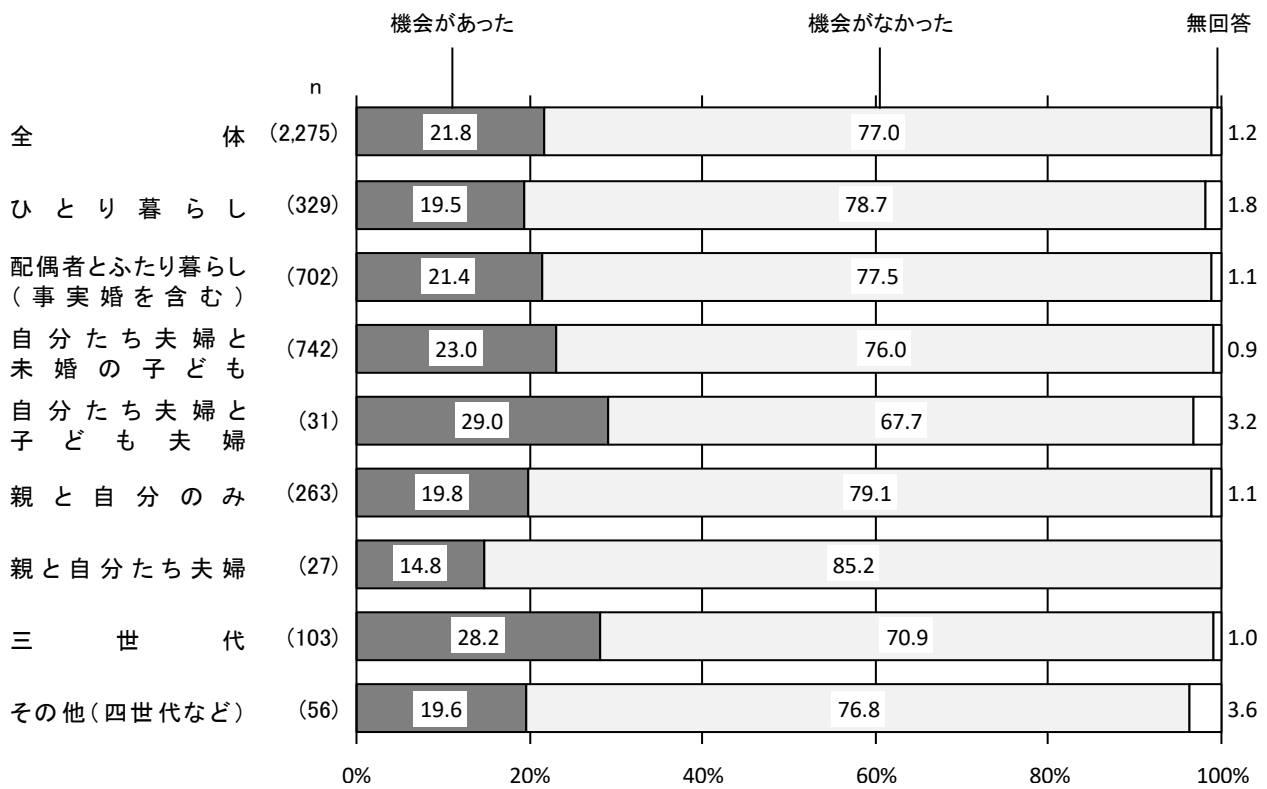
居住地域別にみると、「機会がなかった」は、由木・由木東・南大沢（東部地域）（82.2%）が8割強と高くなっている。（図9-3）

図9-4 八王子に関連する文化芸術に触れる機会があったか - 職業別



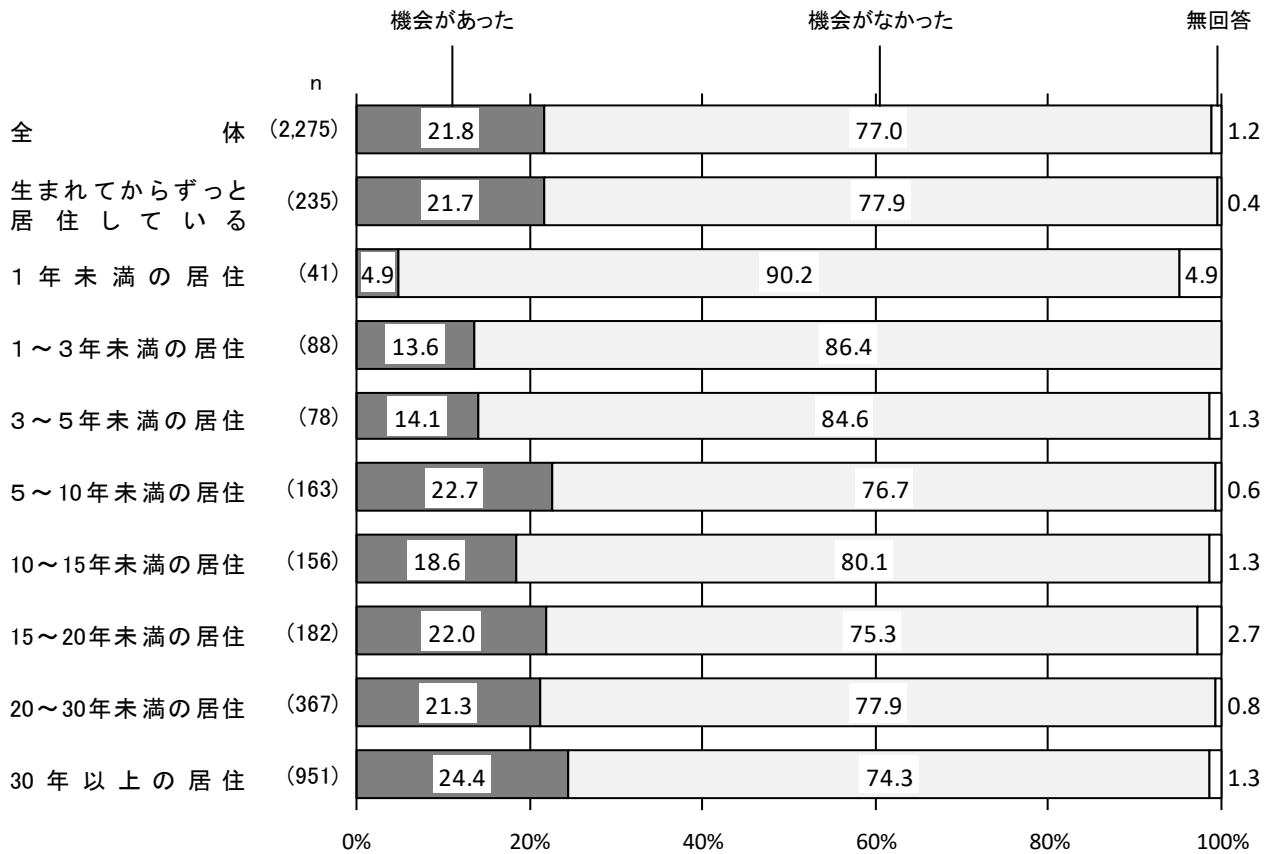
職業別にみると、「機会があった」は、その他(32.9%)が3割強、自営業(30.9%)が約3割、教員・公務員(29.3%)が3割弱と高くなっている。一方、「機会がなかった」は、会社・商店・サービス業などの勤め人(82.3%)が8割強と高くなっている。(図9-4)

図9-5 八王子に関連する文化芸術に触れる機会があったか — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「機会があった」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（29.0%）が3割弱、三世代（28.2%）が3割近くと高くなっている。（図9-5）

図9-6 八王子に関連する文化芸術に触れる機会があったか - 居住年数別

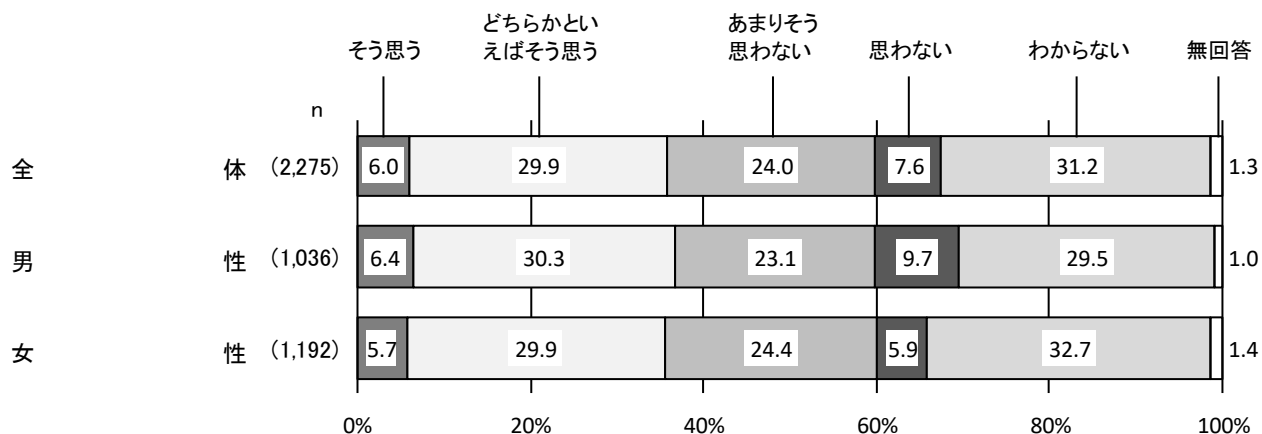


居住年数別にみると、「機会がなかった」は、1年未満の居住（90.2%）が約9割、1～3年未満の居住（86.4%）が9割近く、3～5年未満の居住（84.6%）が8割台半ばと高くなっている。（図9-6）

(10) 生涯学習環境が整っていると思うか

問 10 あなたは、八王子市が「誰もが学び、学んだことを活かせる環境が整っているまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ)

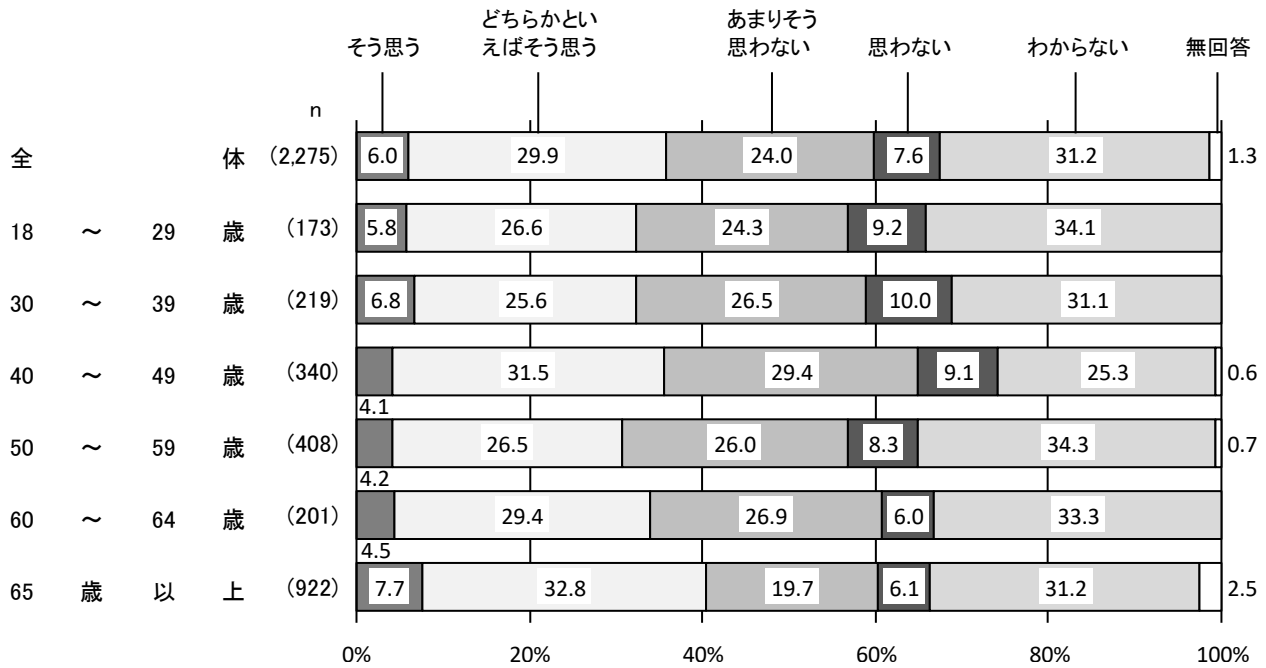
図 10-1 生涯学習環境が整っていると思うか - 全体、性別



「誰もが学び、学んだことを活かせる環境が整っているまち」になっていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(6.0%)と「どちらかといえばそう思う」(29.9%)を合わせた《思う》(35.9%)は3割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(24.0%)と「思わない」(7.6%)を合わせた《思わない》(31.6%)は3割強となっている。

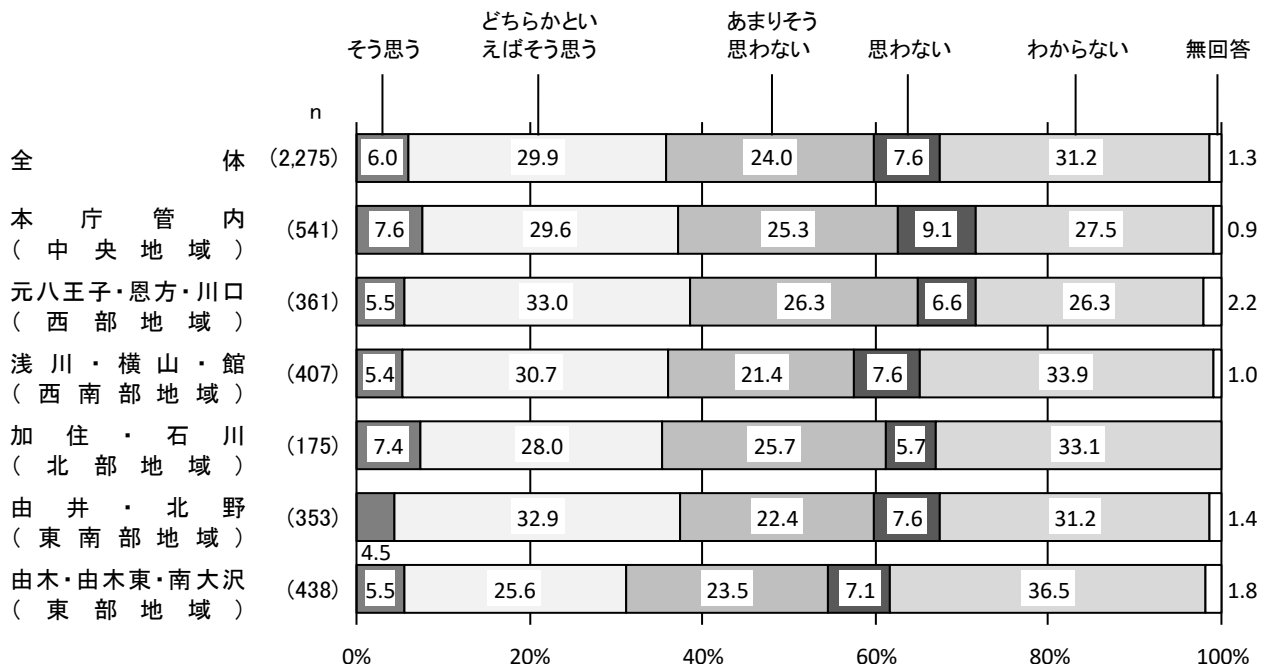
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 10-1)

図 10-2 生涯学習環境が整っていると思うかー 年齢別



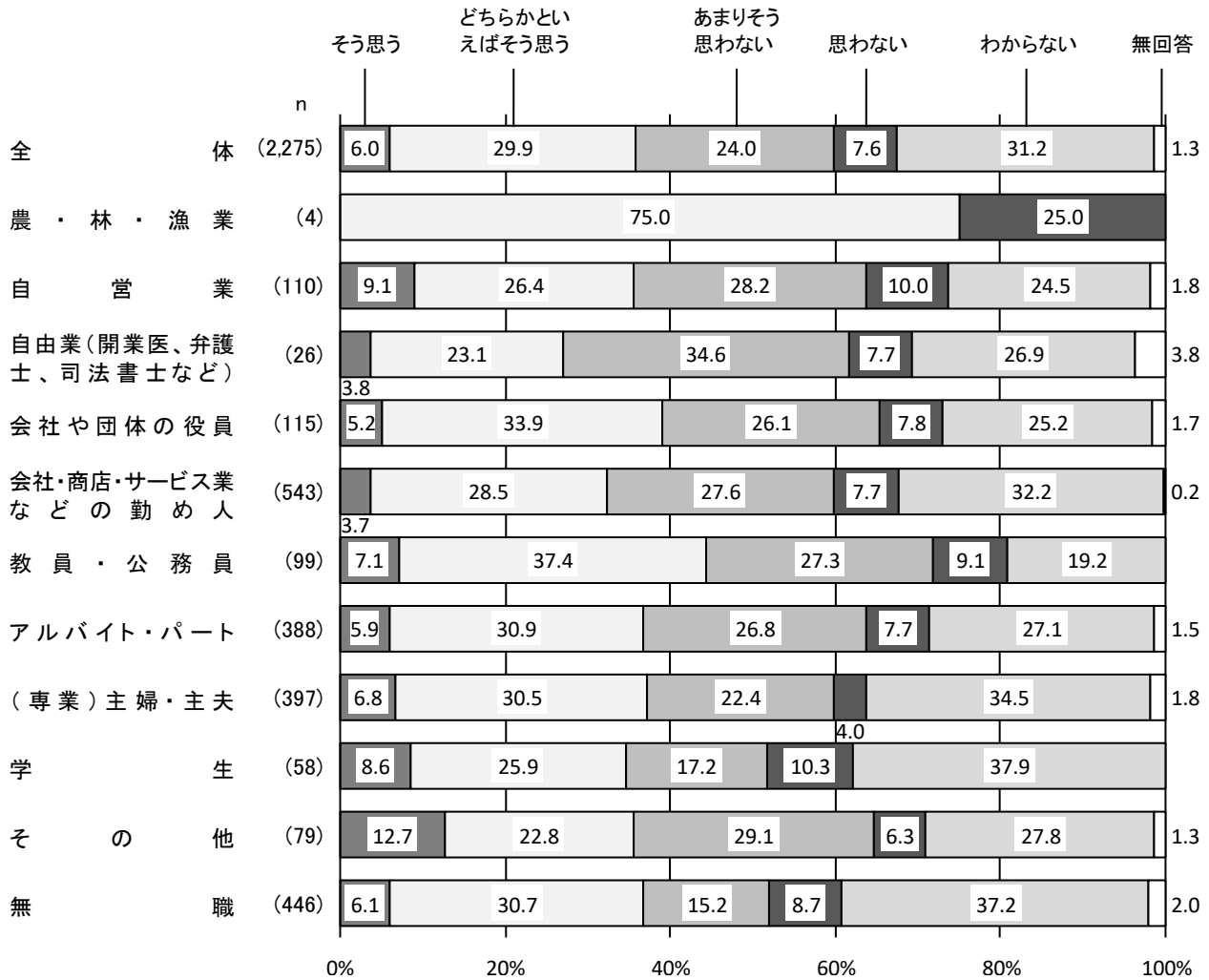
年齢別にみると、「思わない」は、40～49歳（38.5%）が4割近くと高くなっている。（図 10-2）

図 10-3 生涯学習環境が整っていると思うかー 居住地域別



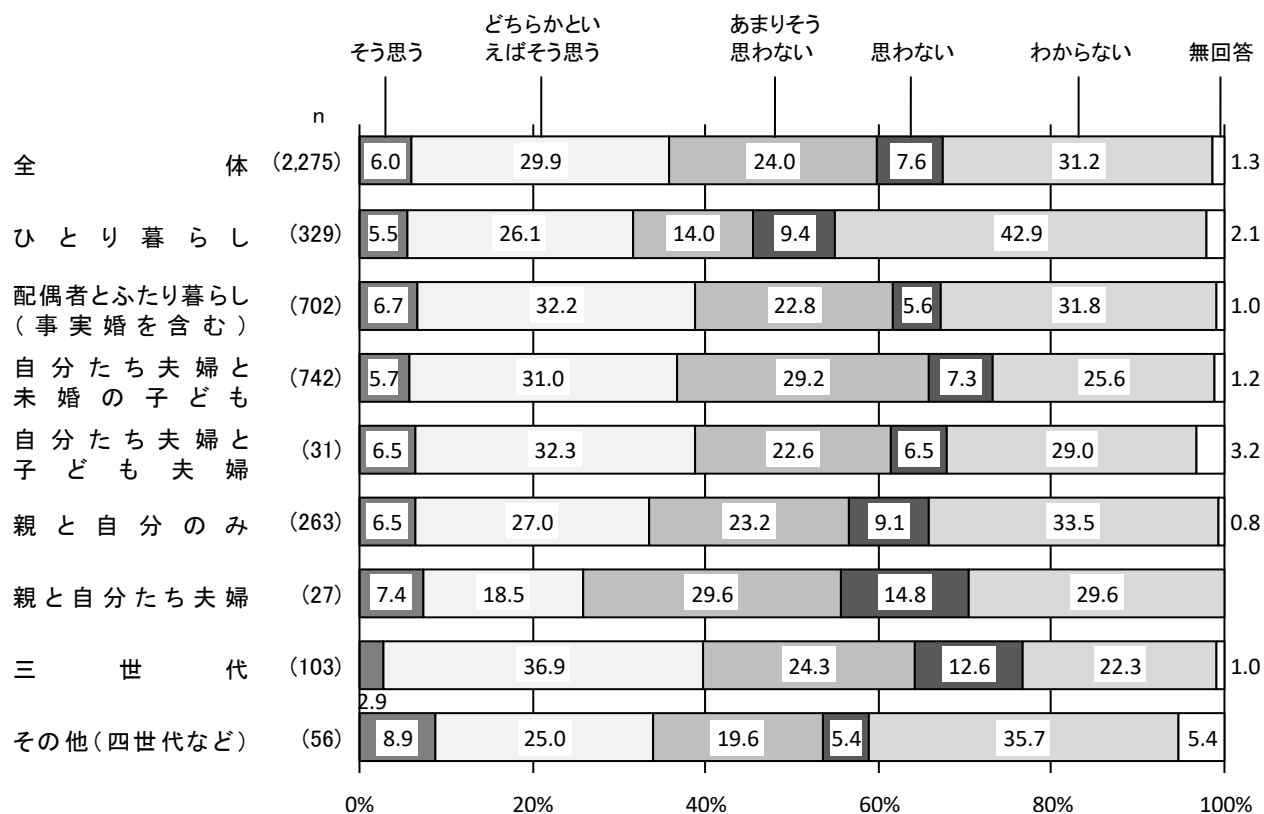
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。（図 10-3）

図 10-4 生涯学習環境が整っていると思うか — 職業別



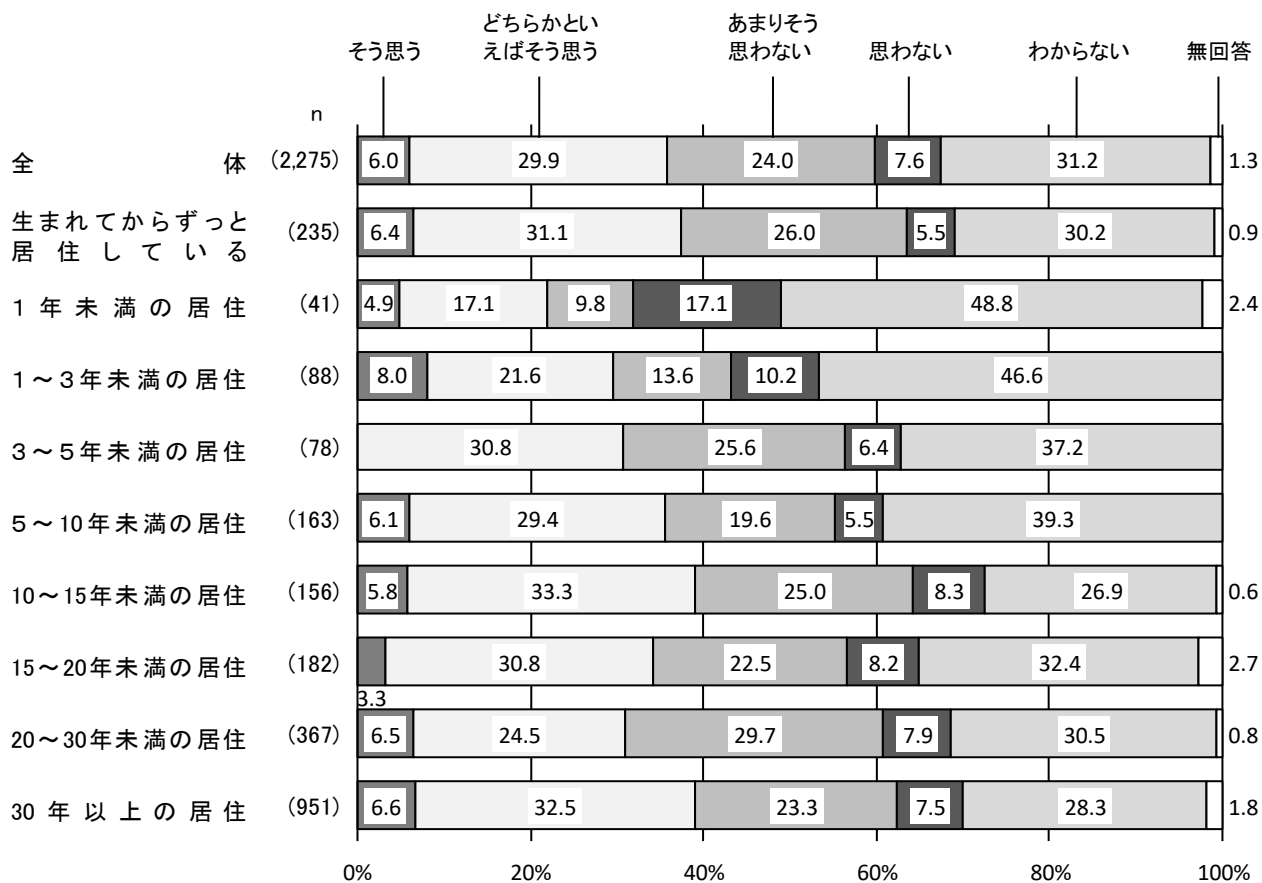
職業別にみると、「思う」は、教員・公務員（44.5%）が4割台半ばと高くなっている。一方、「思わない」は、自営業（38.2%）が4割近くと高くなっている。（図 10-4）

図10-5 生涯学習環境が整っていると思うか — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思わない」は、三世代（36.9%）が4割近くと高くなっている。（図10-5）

図 10-6 生涯学習環境が整っていると思うか — 居住年数別



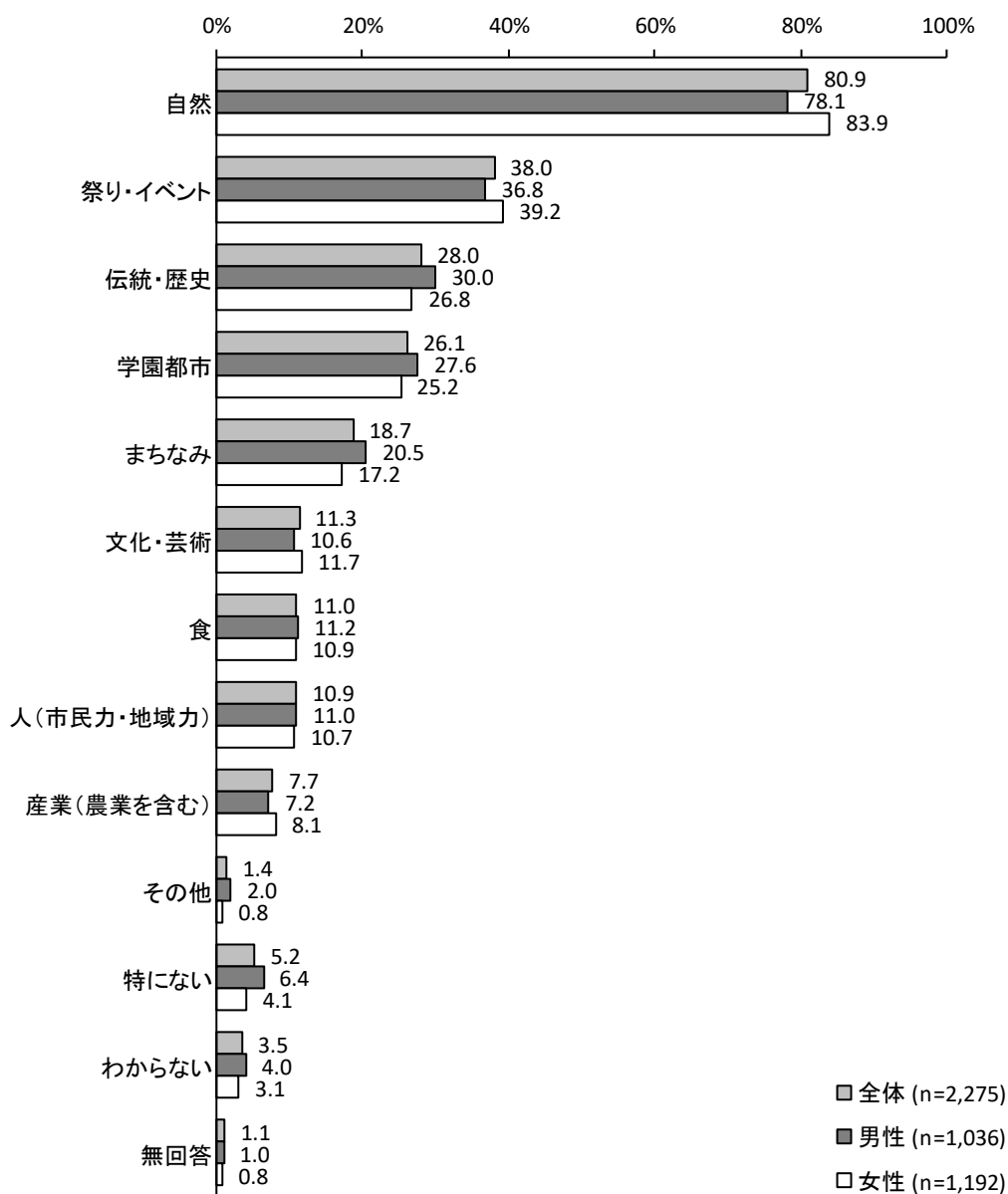
居住年数別にみると、「思わない」は、20～30年未満の居住（37.6%）が4割近くと高くなっている。

(図 10-6)

(11) 八王子の魅力

問11 あなたが思う、八王子の魅力を以下から選択してください。(〇はいくつでも)

図11-1 八王子の魅力 — 全体、性別

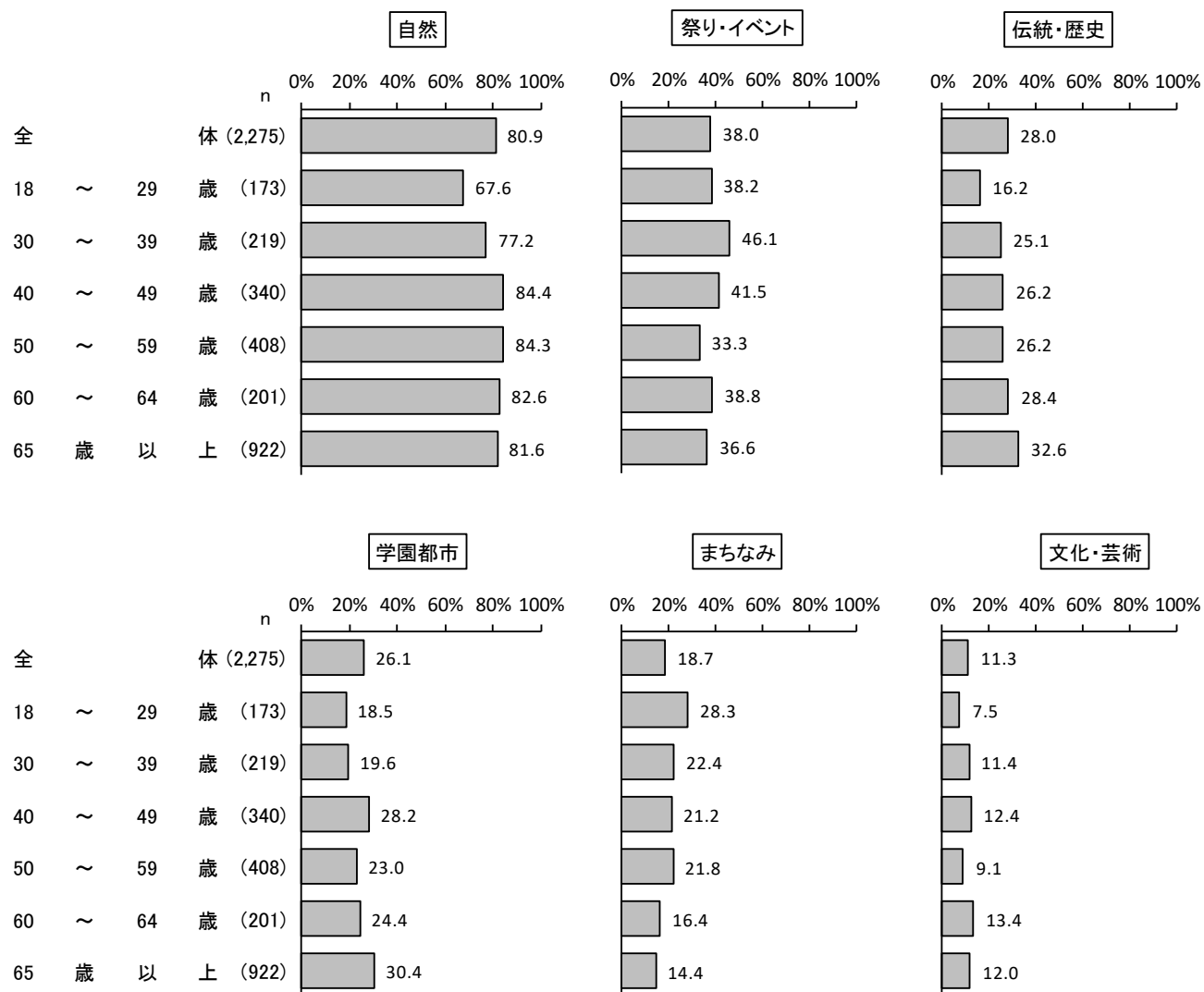


八王子の魅力について聞いたところ、「自然」(80.9%)が約8割と最も高くなっている。次いで、「祭り・イベント」(38.0%)、「伝統・歴史」(28.0%)、「学園都市」(26.1%)などの順となっている。

性別にみると、「自然」は、女性(83.9%)が男性(78.1%)より5.8ポイント高くなっている。

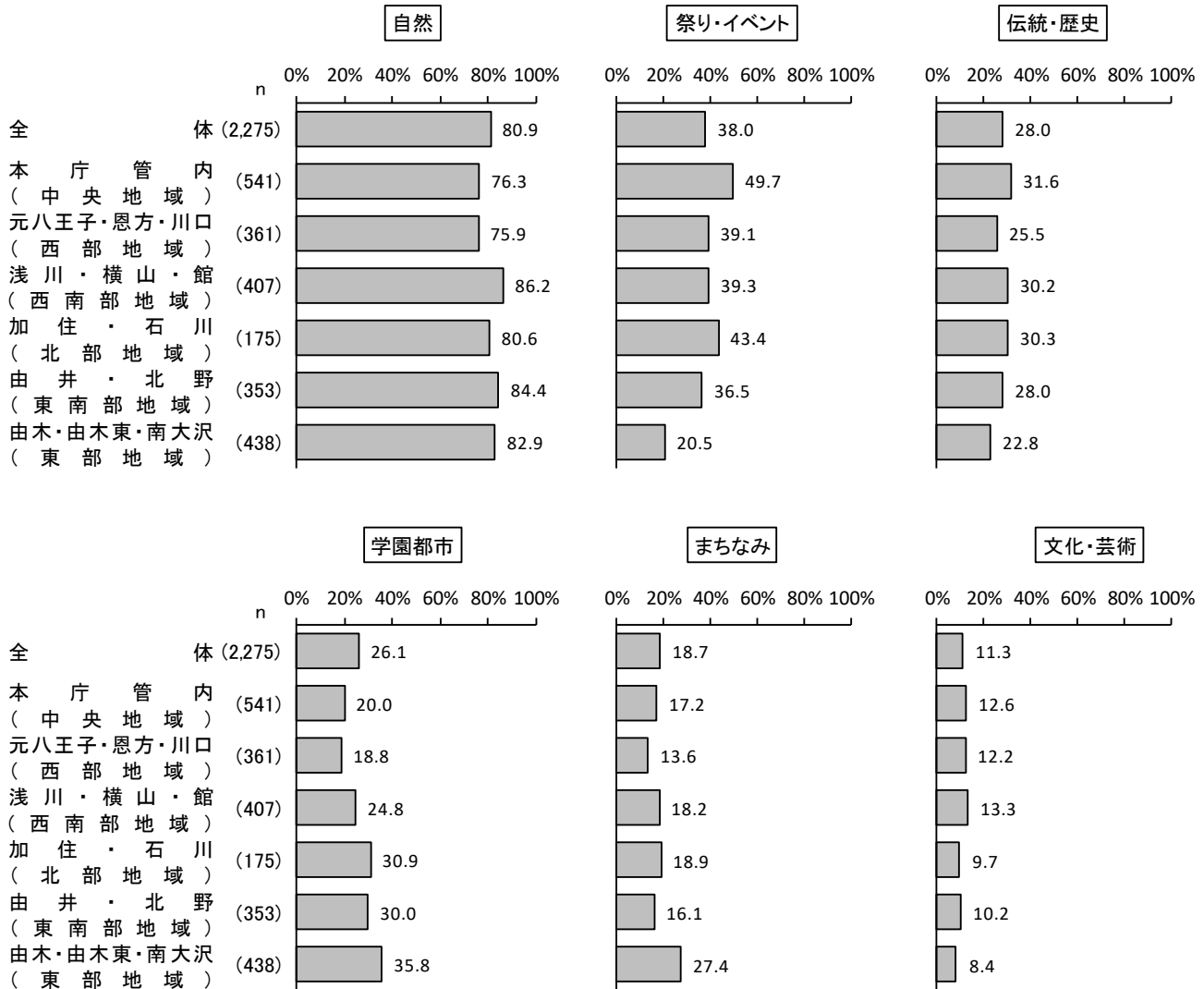
(図11-1)

図 11-2 八王子の魅力 - 年齢別（上位6位）



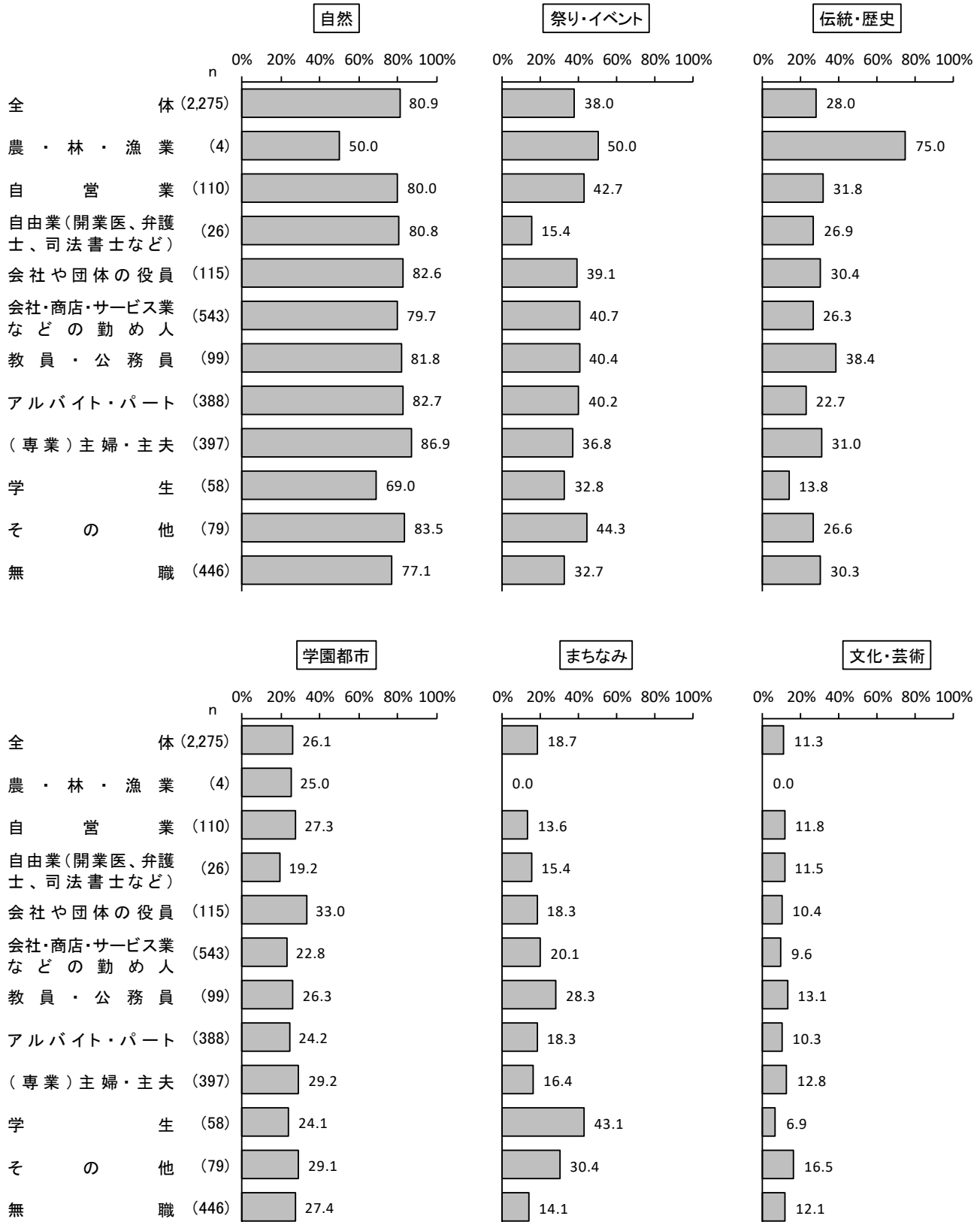
年齢別にみると、「自然」は、18～29歳（67.6%）が7割近くと低くなっている。「祭り・イベント」は、30～39歳（46.1%）が5割近くと高くなっている。「伝統・歴史」は、18～29歳（16.2%）が2割近くと低くなっている。「学園都市」は、18～29歳（18.5%）が2割近くと低くなっている。「まちなみ」は、18～29歳（28.3%）が3割近くと高くなっている。（図 11-2）

図 11-3 八王子の魅力 — 居住地域別（上位6位）



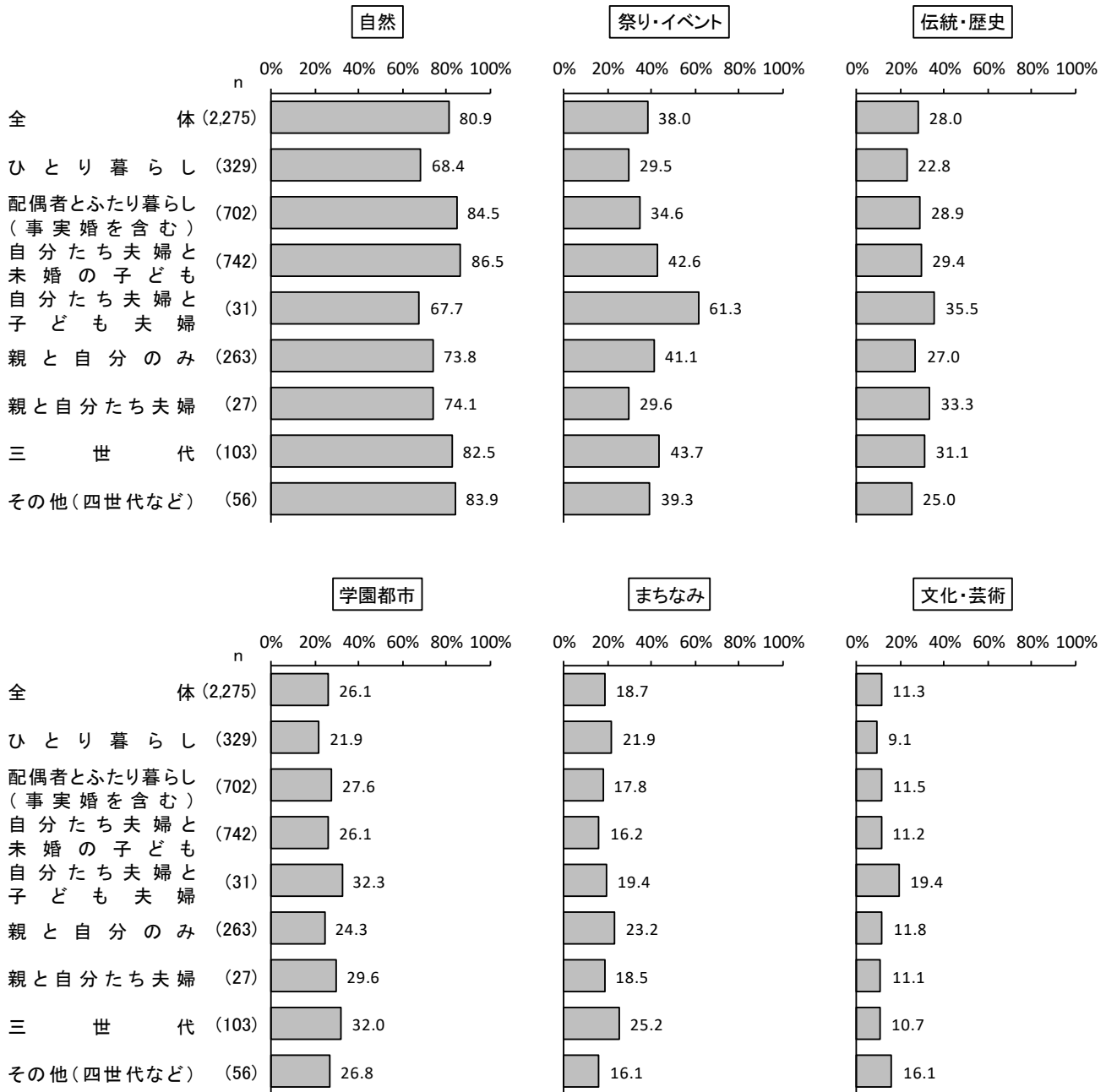
居住地域別にみると、「自然」は、浅川・横山・館（西南部地域）（86.2%）が9割近くと高くなっている。「祭り・イベント」は、本庁管内（中央地域）（49.7%）が5割弱、加住・石川（北部地域）（43.4%）が4割強と高くなっている。「伝統・歴史」は、由木・由木東・南大沢（東部地域）（22.8%）が2割強と低くなっている。「学園都市」は、由木・由木東・南大沢（東部地域）（35.8%）が3割台半ばと高くなっている。「まちなみ」は、由木・由木東・南大沢（東部地域）（27.4%）が3割近くと高くなっている。（図 11-3）

図 11-4 八王子の魅力 - 職業別（上位6位）



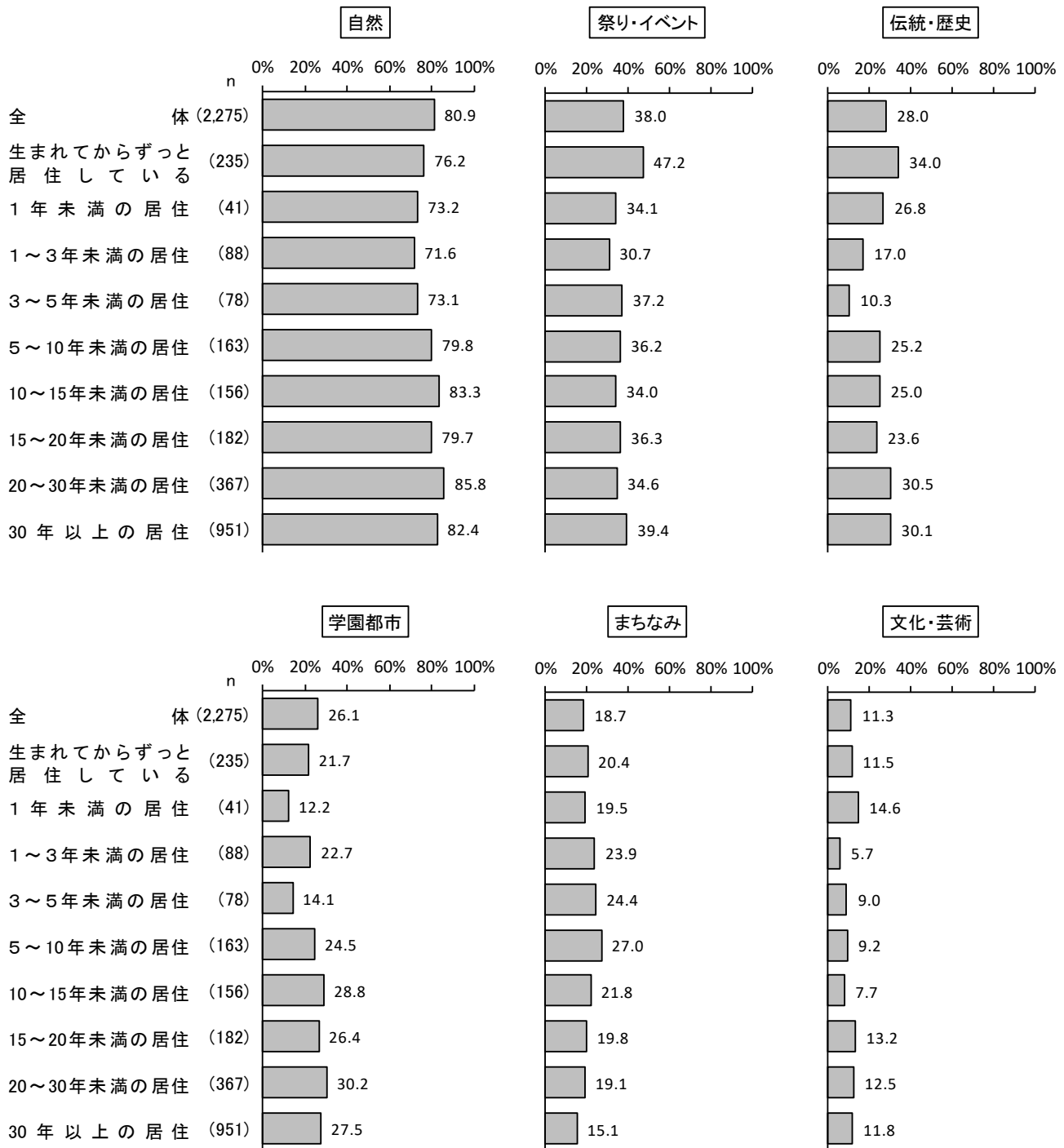
職業別に見ると、「自然」は、(専業)主婦・主夫(86.9%)が9割近くと高くなっている。「祭り・イベント」は、その他(44.3%)が4割台半ばと高くなっている。「伝統・歴史」は、教員・公務員(38.4%)が4割近くと高くなっている。「学園都市」は、会社や団体の役員(33.0%)が3割強と高くなっている。「まちなみ」は、学生(43.1%)が4割強、その他(30.4%)が約3割、教員・公務員(28.3%)が3割近くと高くなっている。「文化・芸術」は、その他(16.5%)が2割近くと高くなっている。(図 11-4)

図 11-5 八王子の魅力 - 世帯構成別（上位6位）



世帯構成別にみると、「自然」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（86.5%）が9割近くと高くなっている。「祭り・イベント」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（61.3%）が6割強、三世代（43.7%）が4割強と高くなっている。「伝統・歴史」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（35.5%）が3割台半ばと高くなっている。「学園都市」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（32.3%）、三世代（32.0%）がそれぞれ3割強と高くなっている。「まちなみ」は、三世代（25.2%）が2割台半ばと高くなっている。「文化・芸術」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（19.4%）が2割弱と高くなっている。（図 11-5）

図 11-6 八王子の魅力 - 居住年数別 (上位6位)

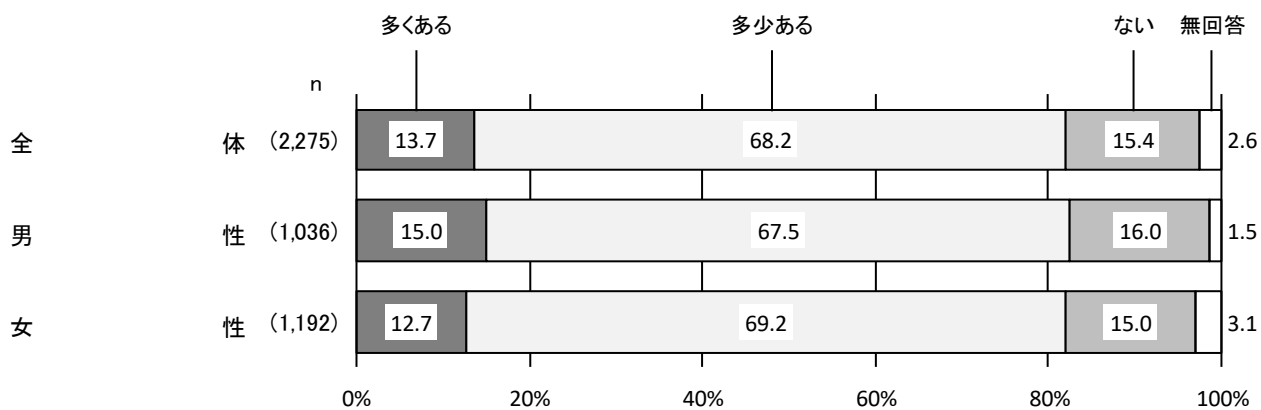


居住年数別にみると、「自然」は、1～3年未満の居住 (71.6%) が7割強と低くなっている。「祭り・イベント」は、生まれてからずっと居住している (47.2%) が5割近くと高くなっている。「伝統・歴史」は、生まれてからずっと居住している (34.0%) が3割台半ばと高くなっている。「学園都市」は、1年未満の居住 (12.2%) が1割強と低くなっている。「まちなみ」は、5～10年未満の居住 (27.0%) が3割近く、3～5年未満の居住 (24.4%) が2割台半ば、1～3年未満の居住 (23.9%) が2割強と高くなっている。「文化・芸術」は、1～3年未満の居住 (5.7%) が1割未満と低くなっている。(図 11-6)

(12) 「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」の有無

問12 あなたは、八王子市に「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」がありますか。(○は1つだけ)

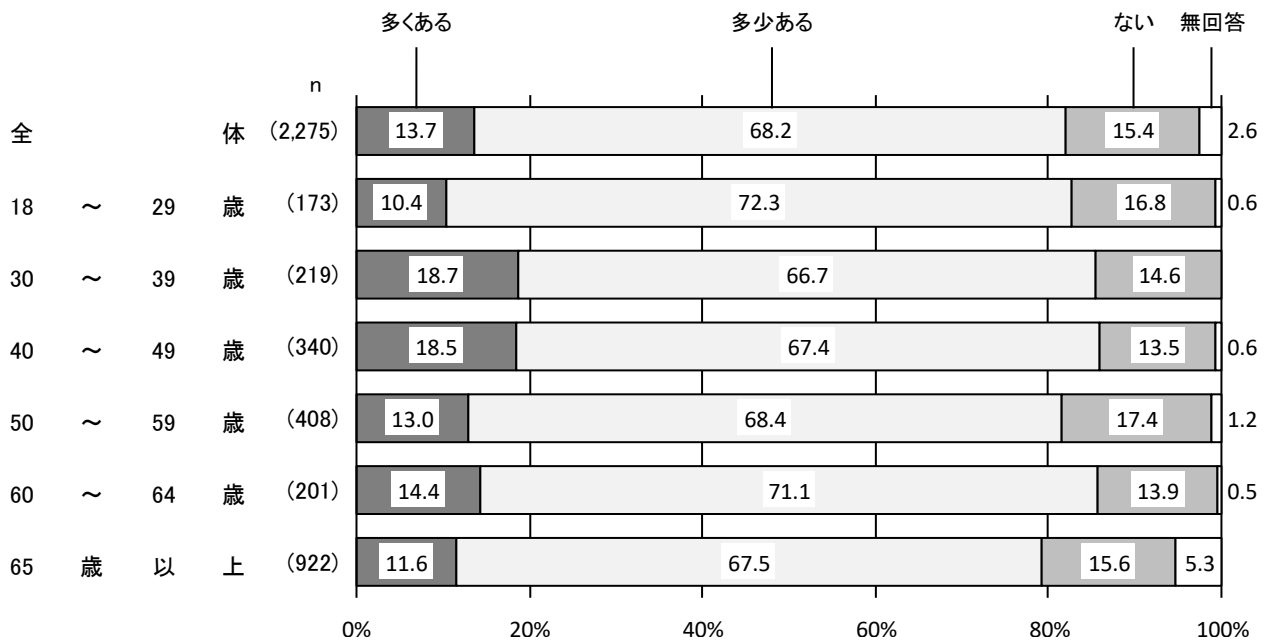
図12-1 「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」の有無 — 全体、性別



八王子市に「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」があるかを聞いたところ、「多くある」(13.7%)は1割強、「多少ある」(68.2%)は7割近く、「ない」(15.4%)は1割台半ばとなっている。

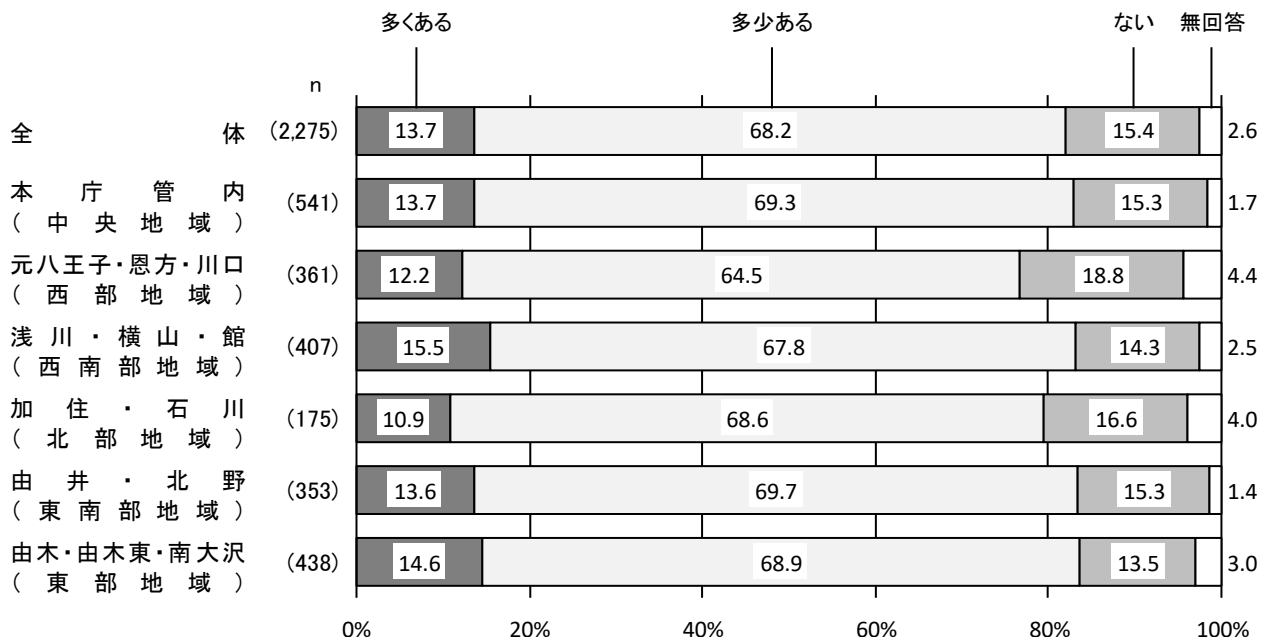
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図12-1)

図 12-2 「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」の有無 - 年齢別



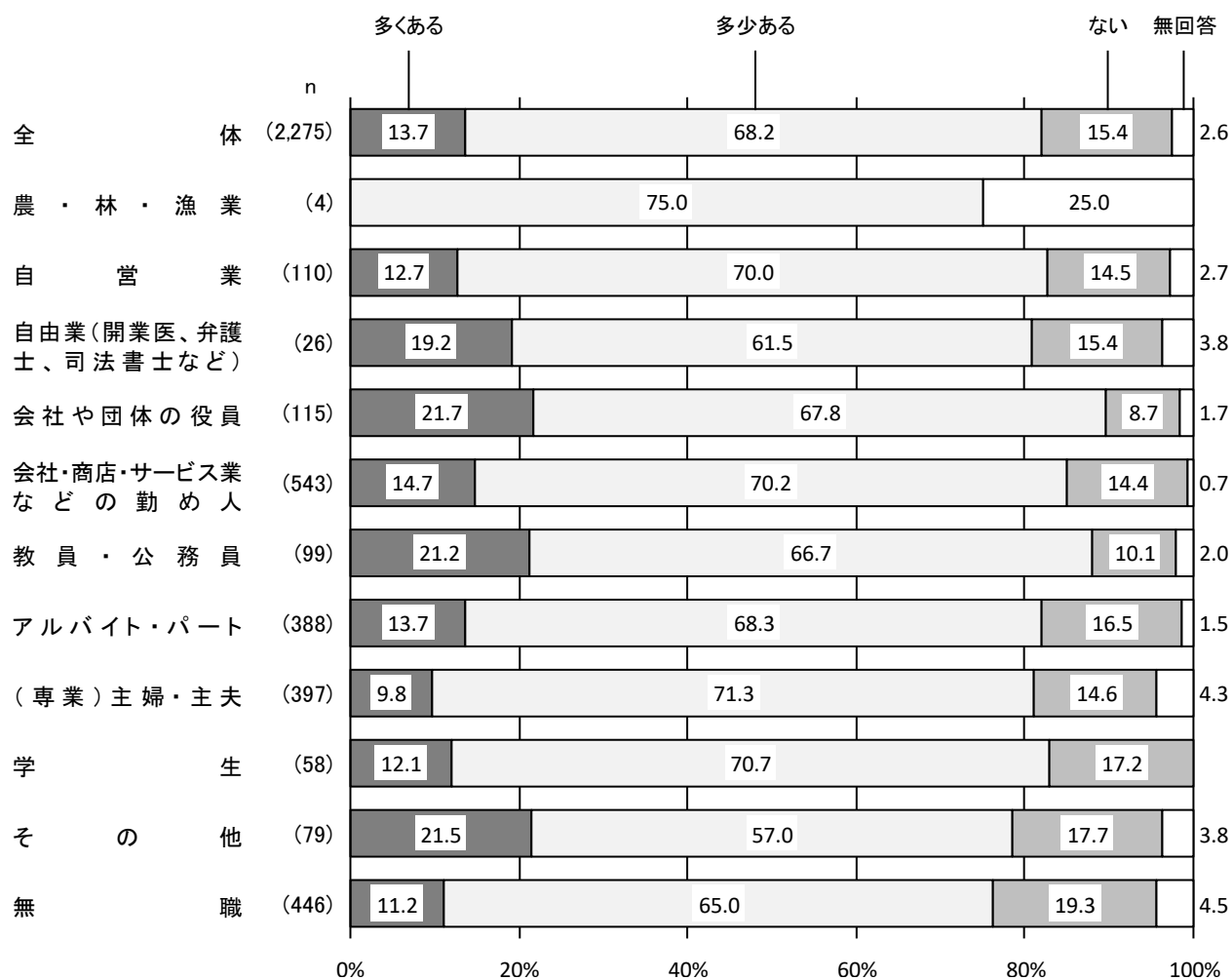
年齢別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 12-2)

図 12-3 「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」の有無 - 居住地域別



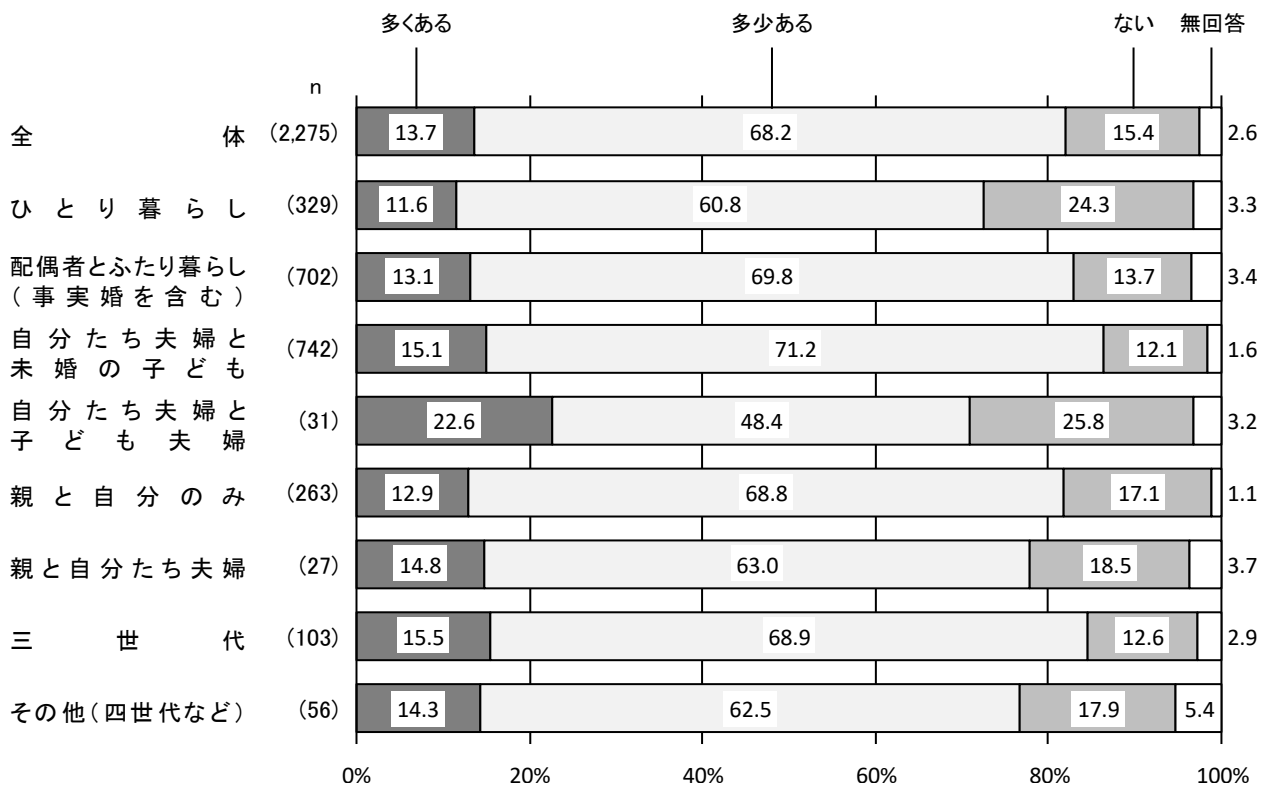
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 12-3)

図 12-4 「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」の有無 - 職業別



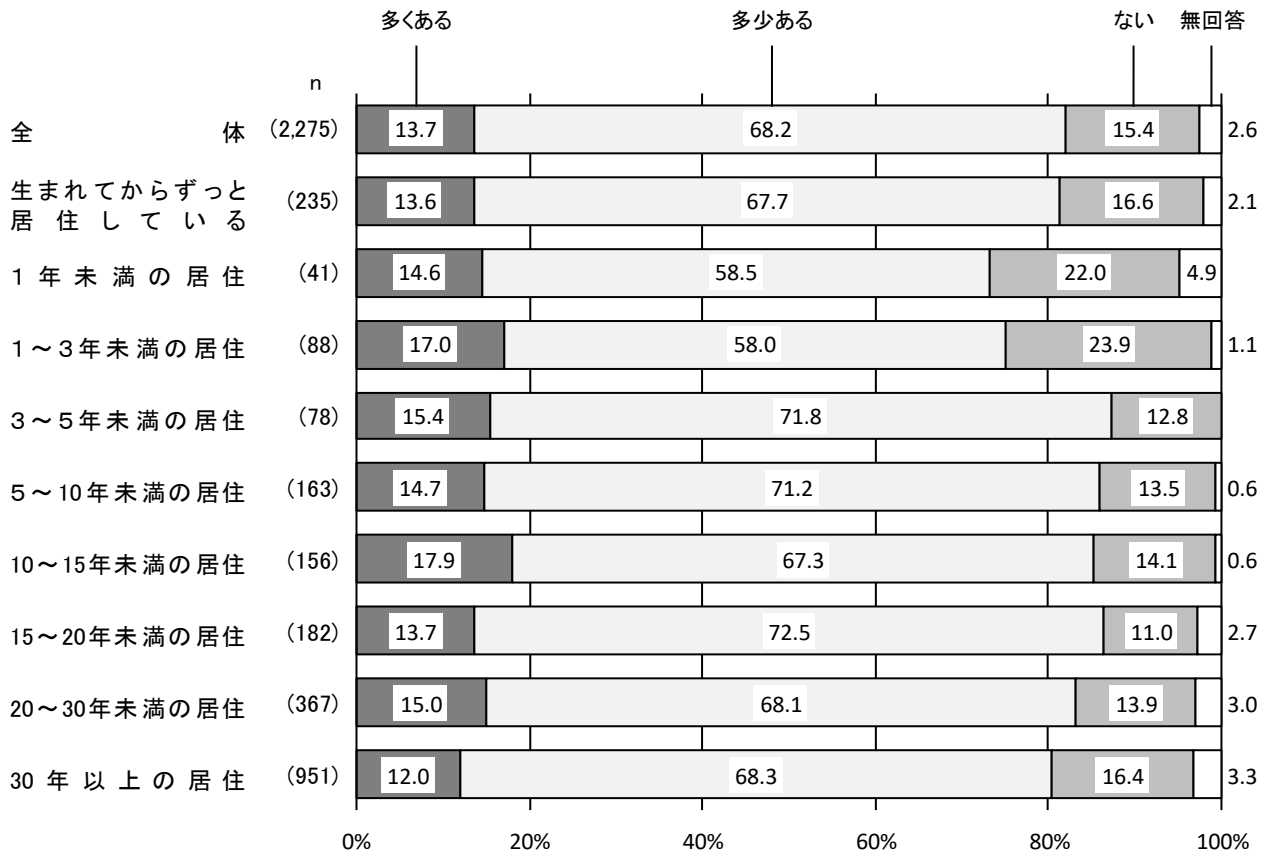
職業別にみると、「多くある」は、会社や団体の役員 (21.7%)、その他 (21.5%)、教員・公務員 (21.2%) がそれぞれ2割強と高くなっている。(図 12-4)

図 12-5 「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」の有無 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「多くある」は、自分たち夫婦と子ども夫婦 (22.6%) が2割強と高くなっている。一方、「ない」についても、自分たち夫婦と子ども夫婦 (25.8%)、ひとり暮らし (24.3%) がそれぞれ2割台半ばと高くなっている。(図 12-5)

図 12-6 「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」の有無 — 居住年数別



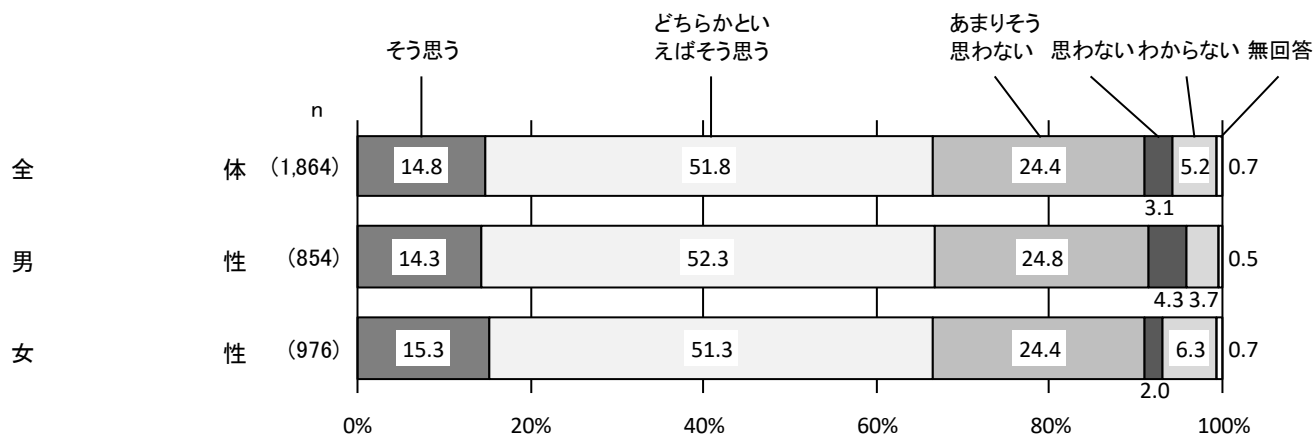
居住年数別にみると、「ない」は、1～3年未満の居住（23.9%）、1年未満の居住（22.0%）がそれぞれ2割強と高くなっている。（図 12-6）

(13) 「歩きたくなるまち」になっていると思うか

(問12で、「1 多くある」または「2 多少ある」とお答えの方へ)

問12-1 あなたは、八王子市が「歩きたくなるまち」になっていると思いますか。(〇は1つだけ)

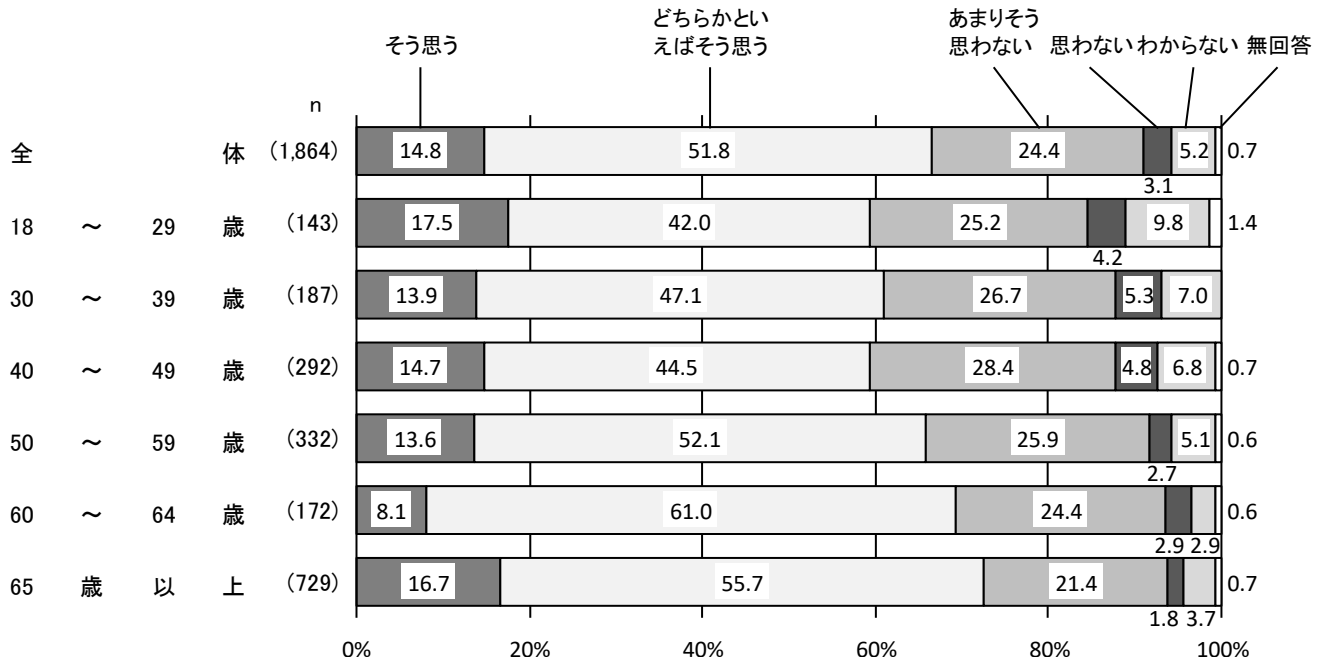
図13-1 「歩きたくなるまち」になっていると思うか - 全体、性別



「歩きたくなるまち」になっていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(14.8%)と「どちらかといえばそう思う」(51.8%)を合わせた《思う》(66.6%)は7割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(24.4%)と「思わない」(3.1%)を合わせた《思わない》(27.5%)は3割近くとなっている。

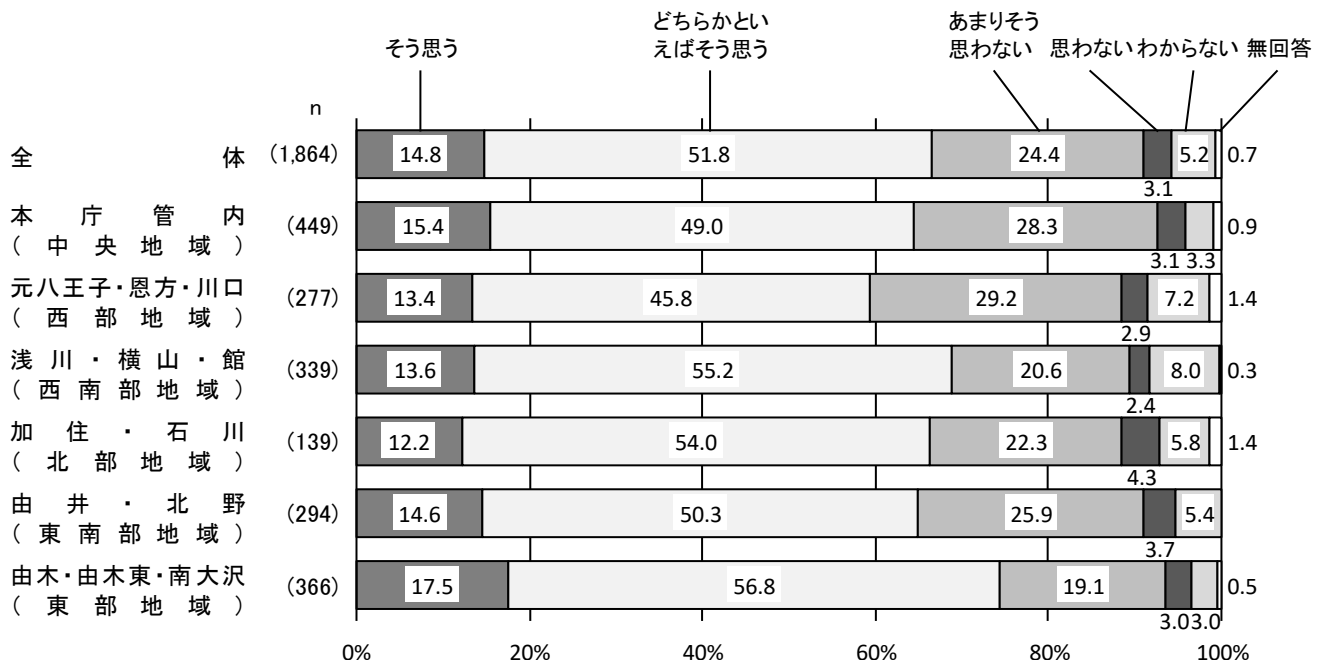
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図13-1)

図 13-2 「歩きたくなるまち」になっていると思うか - 年齢別



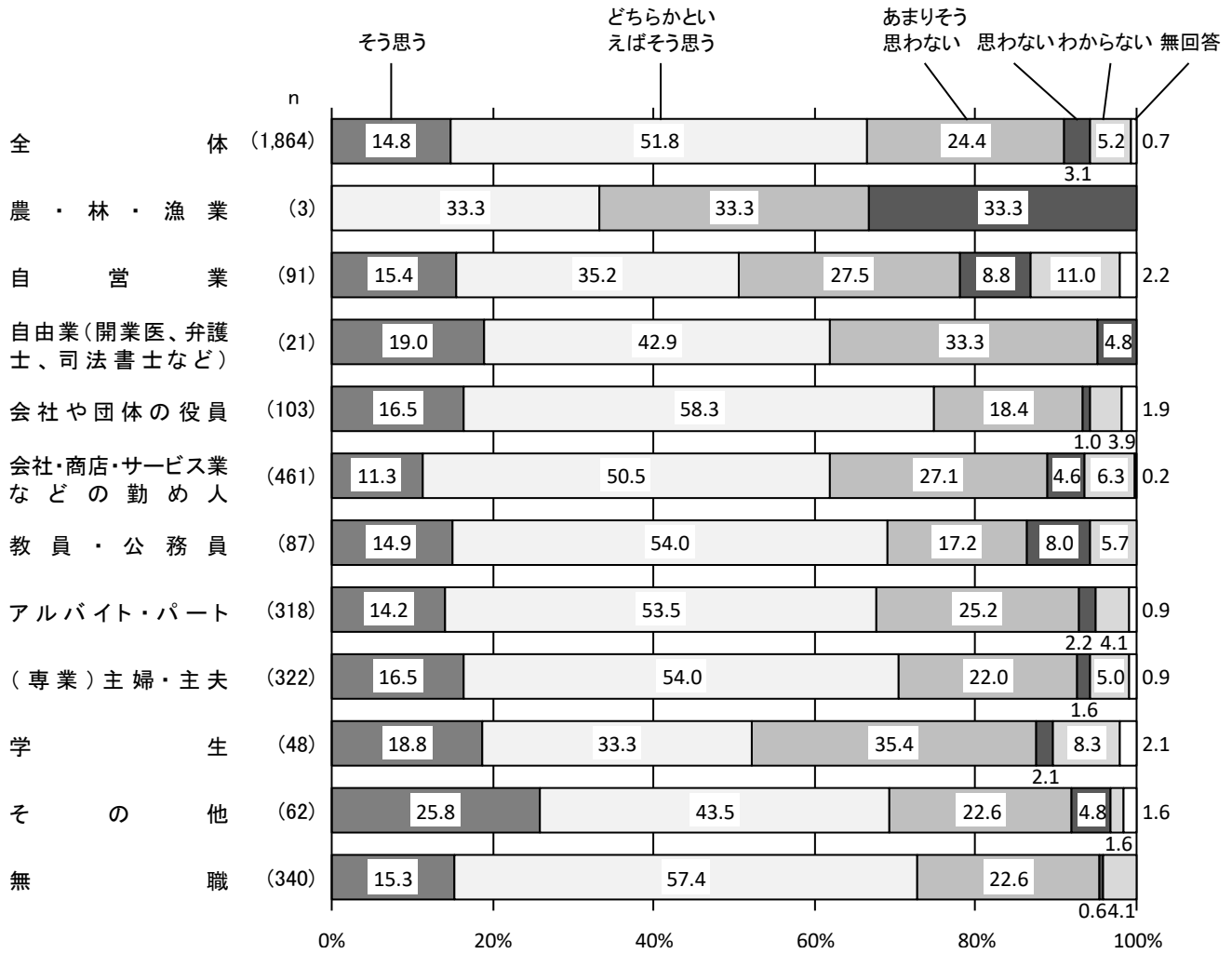
年齢別にみると、「《思う》」は、65 歳以上（72.4%）が 7 割強と高くなっている。一方、「《思わない》」は、40~49 歳（33.2%）が 3 割強と高くなっている。（図 13-2）

図 13-3 「歩きたくなるまち」になっていると思うか - 居住地域別



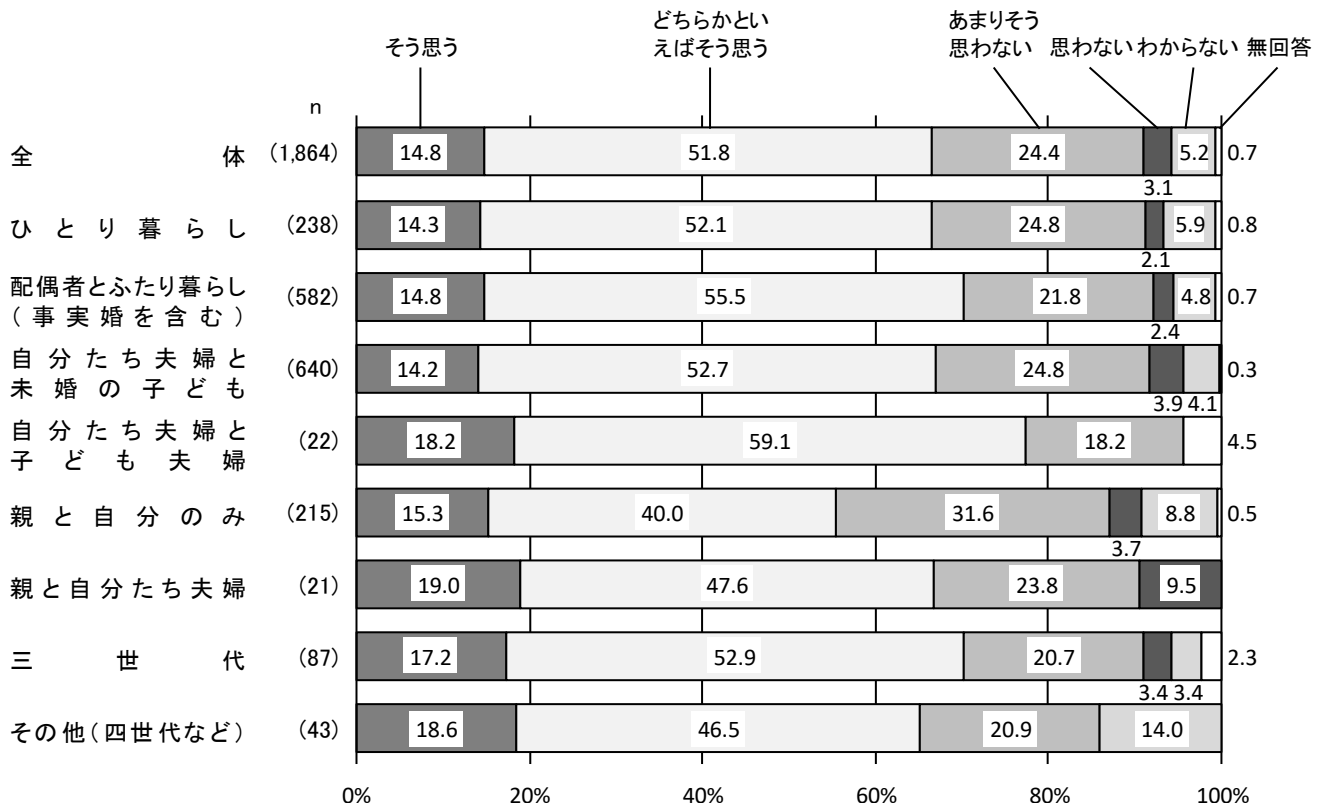
居住地域別にみると、「《思う》」は、由木・由木東・南大沢（東部地域）（74.3%）が 7 割台半ばと高くなっている。（図 13-3）

図 13-4 「歩きたくなるまち」になっていると思うかー 職業別



職業別にみると、「思う」は、会社や団体の役員 (74.8%) が7割台半ば、無職 (72.7%) が7割強と高くなっている。一方、「思わない」は、学生 (37.5%)、自営業 (36.3%) がそれぞれ4割近くと高くなっている。(図 13-4)

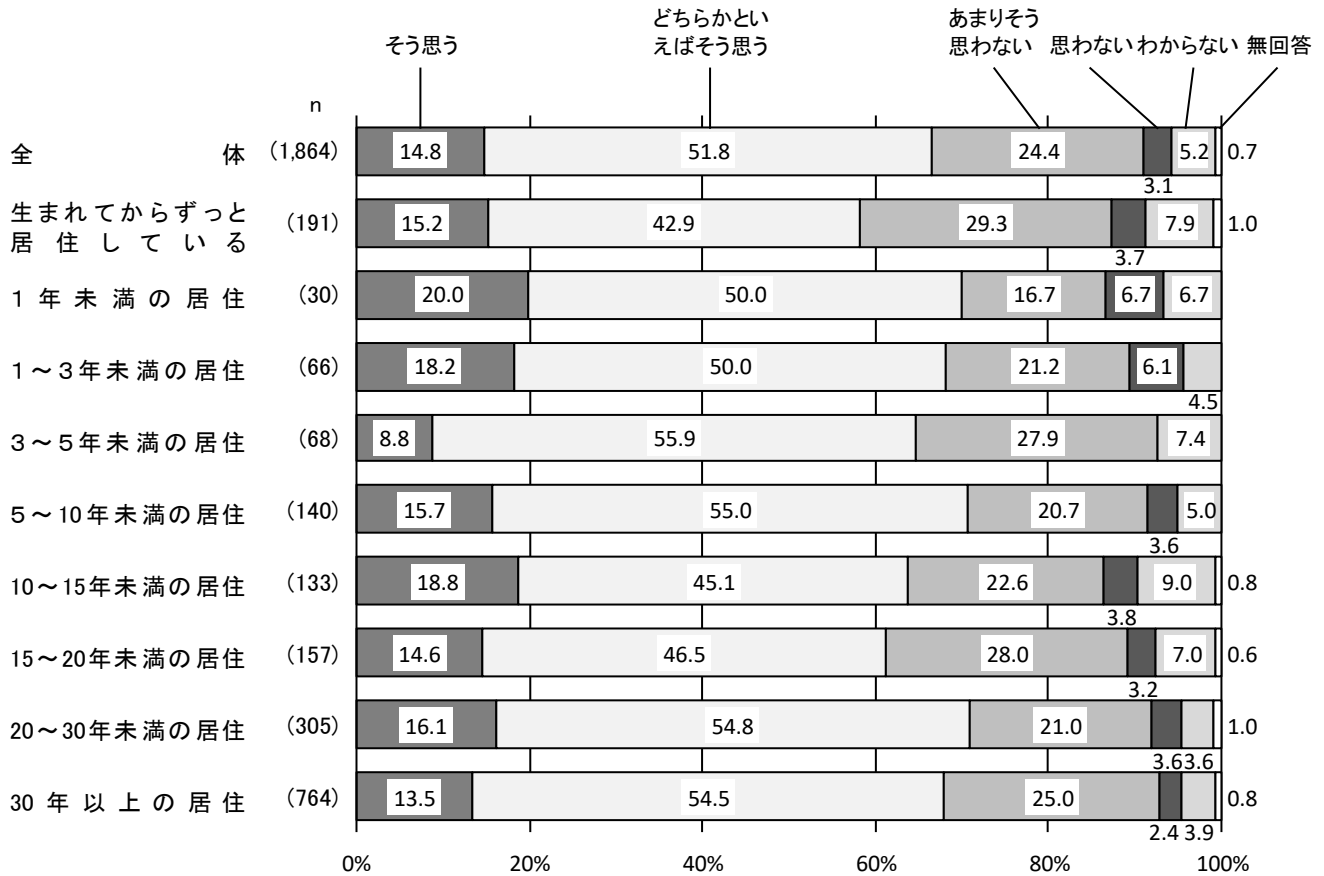
図13-5 「歩きたくなるまち」になっていると思うかー 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思わない」は、親と自分のみ（35.3%）が3割台半ばと高くなっている。

(図13-5)

図 13-6 「歩きたくなるまち」になっていると思うか - 居住年数別

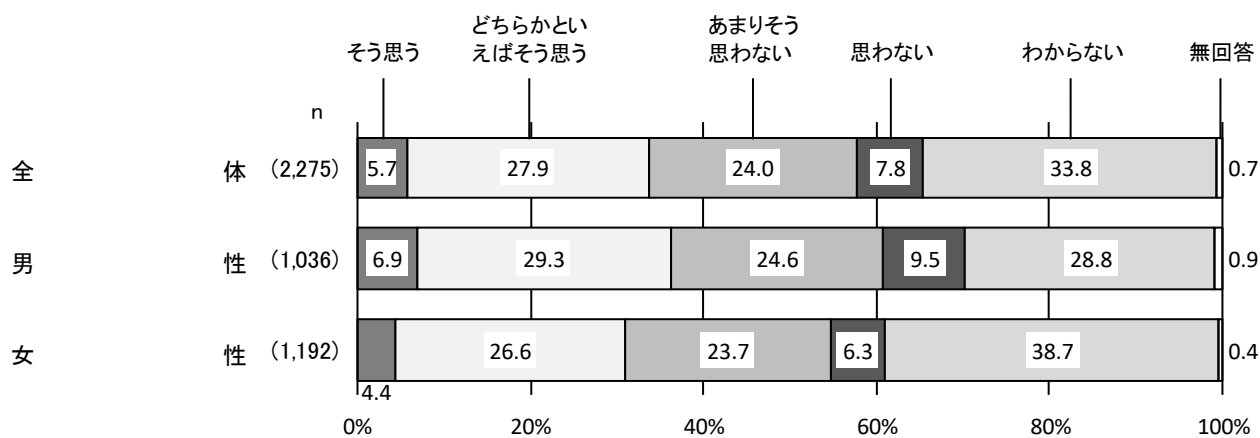


居住年数別にみると、「思わない」は、生まれてからずっと居住している（33.0%）が3割強と高くなっている。（図 13-6）

(14) 「災害に強いまち」になっていると思うか

問 13 あなたは、八王子市が「災害に強いまち」になっていると思いますか。(〇は1つだけ)

図 14-1 「災害に強いまち」になっていると思うか - 全体、性別

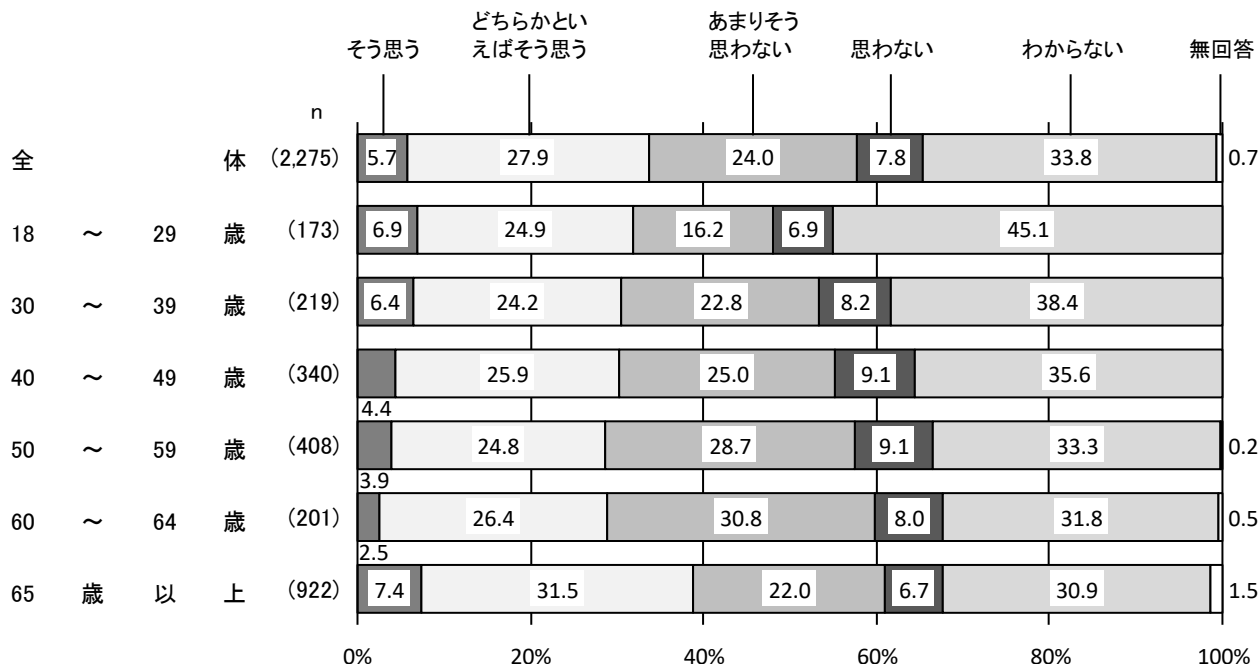


「災害に強いまち」になっていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(5.7%)と「どちらかといえばそう思う」(27.9%)を合わせた《思う》(33.6%)は3割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(24.0%)と「思わない」(7.8%)を合わせた《思わない》(31.8%)は3割強となっている。

性別にみると、《思う》は、男性(36.2%)が女性(31.0%)より5.2ポイント高くなっている。

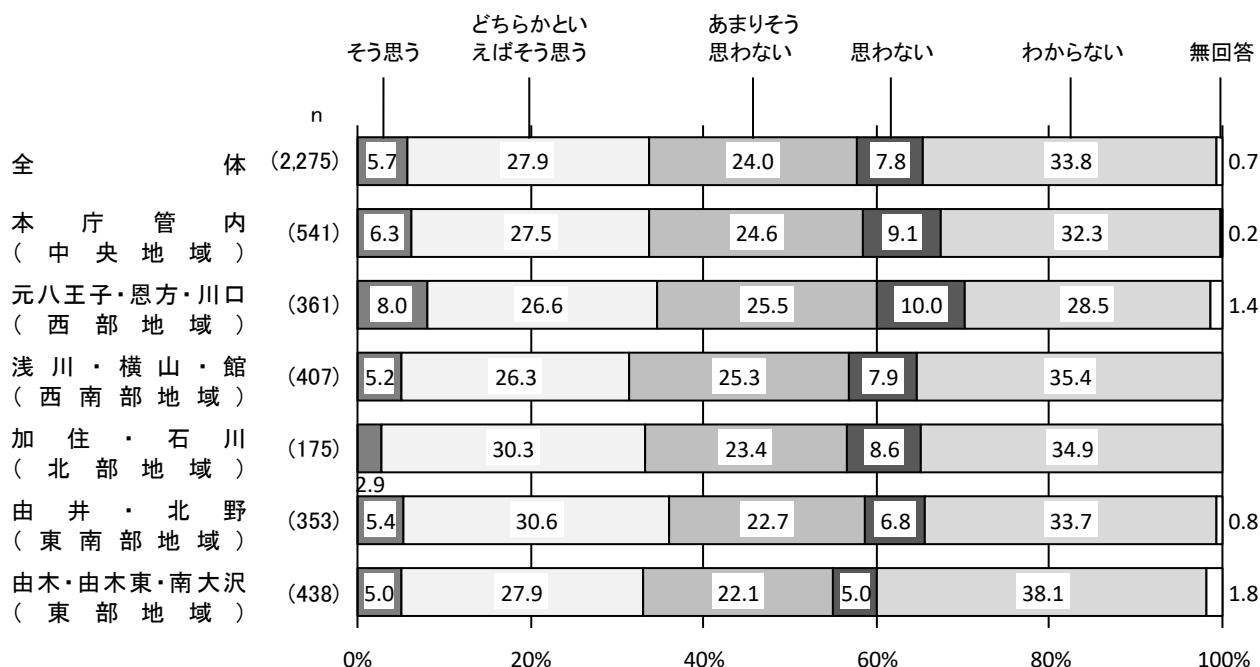
(図 14-1)

図 14-2 「災害に強いまち」になっていると思うか - 年齢別



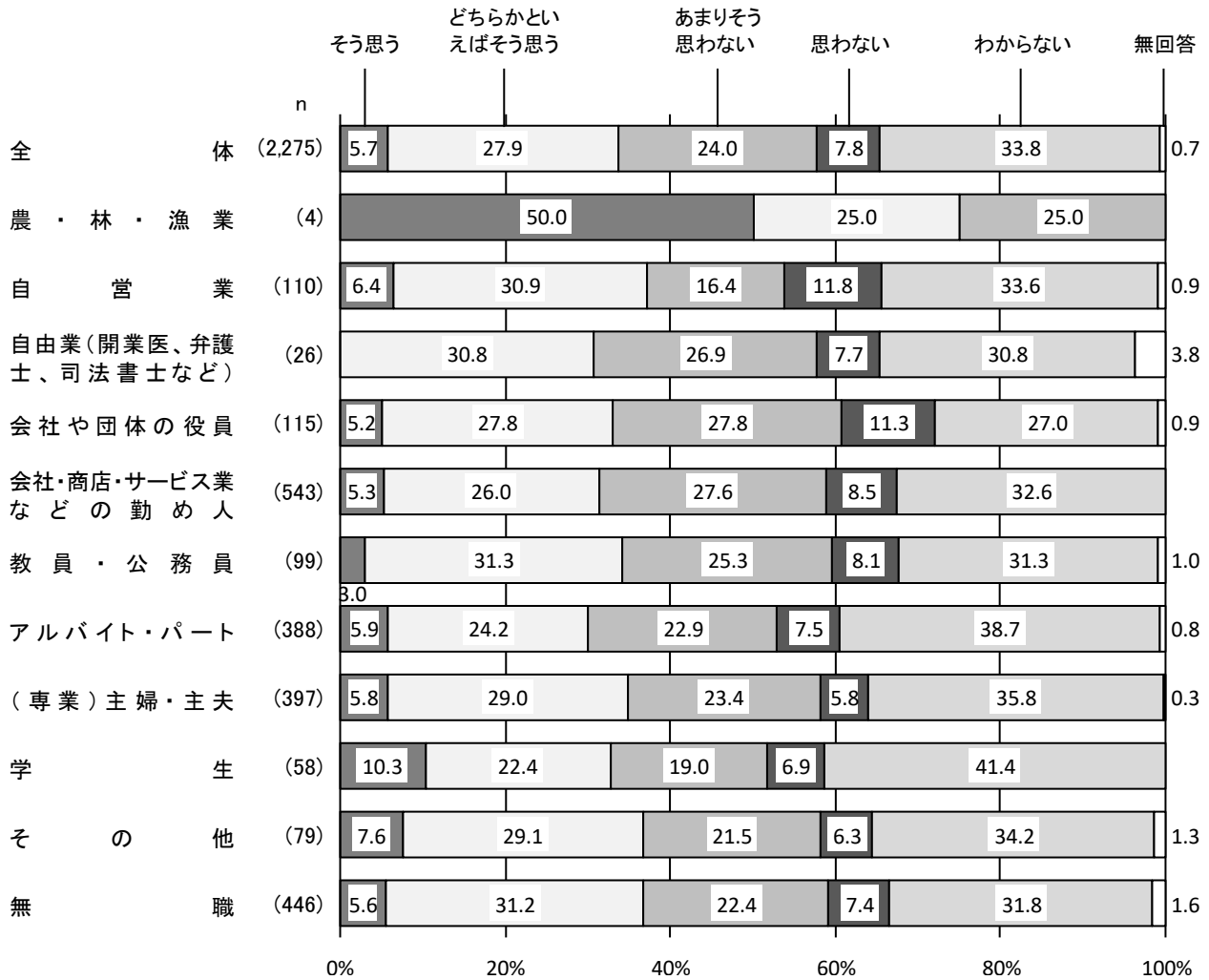
年齢別にみると、「思う」は、65歳以上（38.9%）が4割近くと高くなっている。一方、「思わない」は、60～64歳（38.8%）、50～59歳（37.8%）がそれぞれ4割近くと高くなっている。（図 14-2）

図 14-3 「災害に強いまち」になっていると思うか - 居住地域別



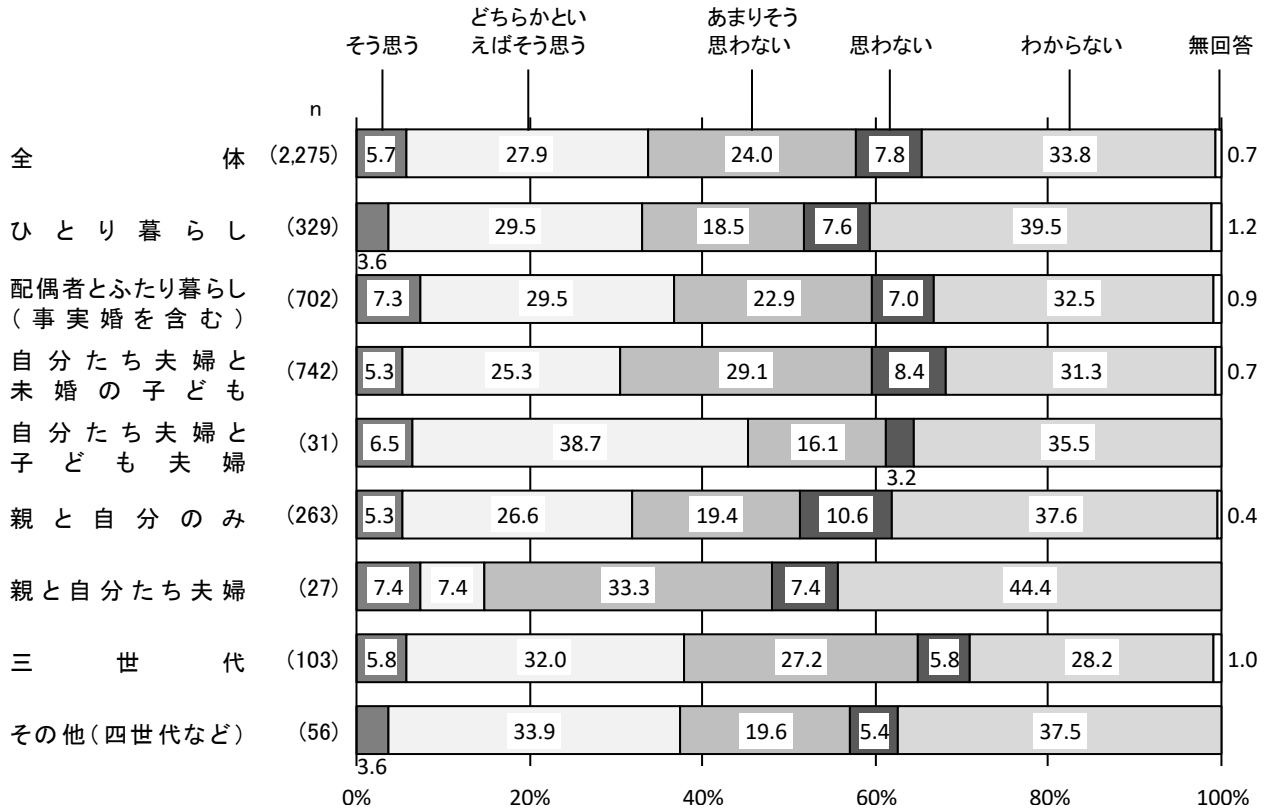
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。（図 14-3）

図 14-4 「災害に強いまち」になっていると思うか - 職業別



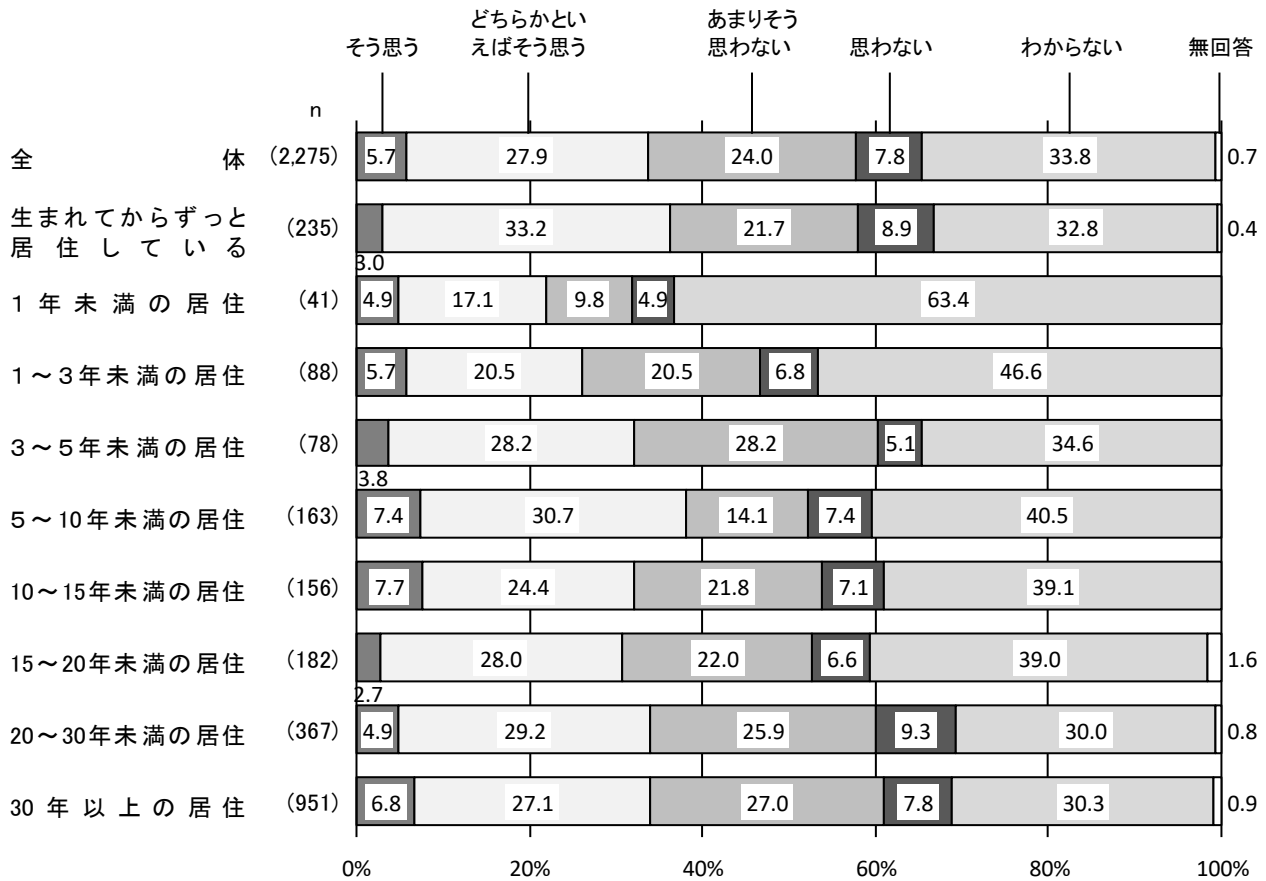
職業別にみると、「思わない」は、会社や団体の役員（39.1%）が4割弱と高くなっている。（図 14-4）

図 14-5 「災害に強いまち」になっていると思うか — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（45.2%）が4割台半ばと高くなっている。一方、「思わない」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（37.5%）が4割近くと高くなっている。（図 14-5）

図 14-6 「災害に強いまち」になっていると思うか - 居住年数別



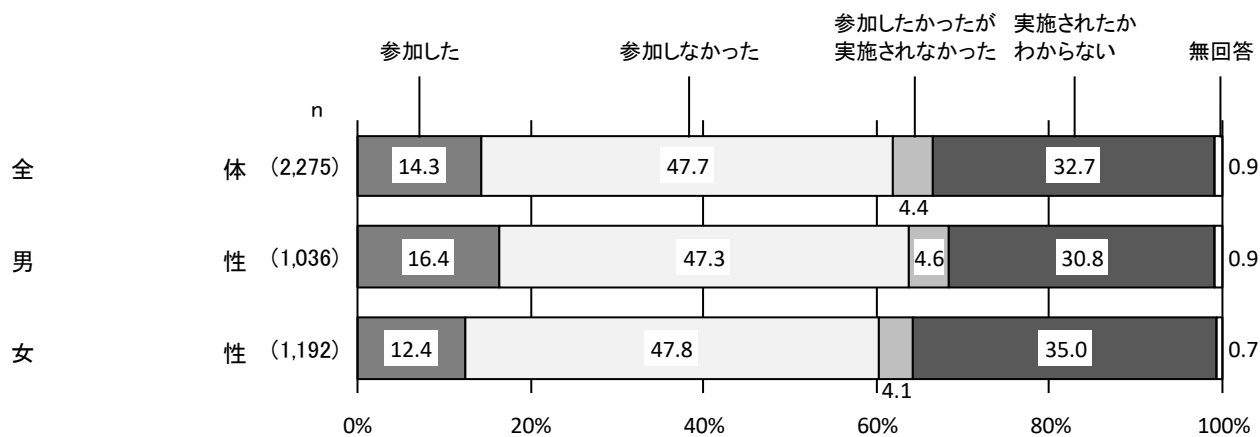
居住年数別にみると、「思わない」は、1年未満の居住（14.7%）が1割台半ばと低くなっている。

(図 14-6)

(15) 地域の防災訓練への参加状況

問 14 あなたは、この1年間に、市や町会・自治会、マンション管理組合などが主催する地域の防災訓練に参加しましたか。(〇は1つだけ)

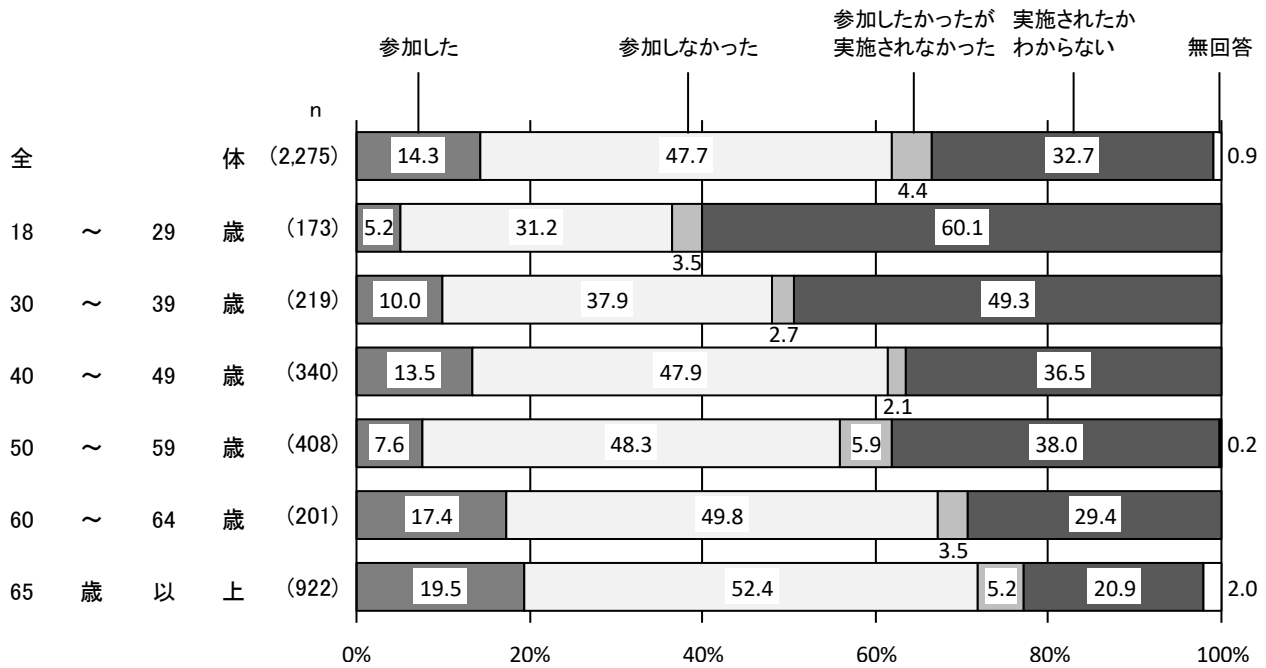
図 15-1 地域の防災訓練への参加状況 — 全体、性別



市や町会・自治会、マンション管理組合などが主催する地域の防災訓練への参加状況を聞いたところ、「参加した」(14.3%)は1割台半ばとなっている。一方、「参加しなかった」(47.7%)は5割近く、「参加しなかったが実施されなかった」(4.4%)は1割未満、「実施されたかわからない」(32.7%)は3割強となっている。

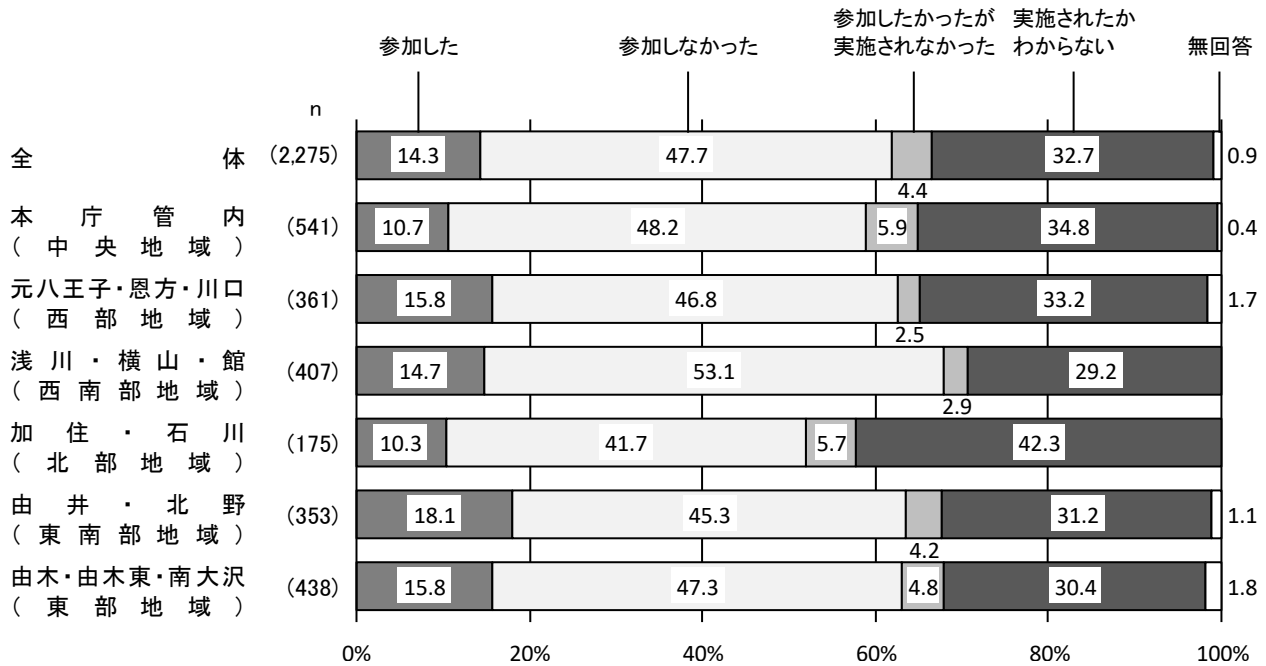
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 15-1)

図 15-2 地域の防災訓練への参加状況 — 年齢別



年齢別にみると、「参加した」は、65 歳以上（19.5%）が2割弱と高くなっている。「実施されたかわからない」は、18~29 歳（60.1%）が約6割、30~39 歳（49.3%）が5割弱、50~59 歳（38.0%）が4割近くと高くなっている。（図 15-2）

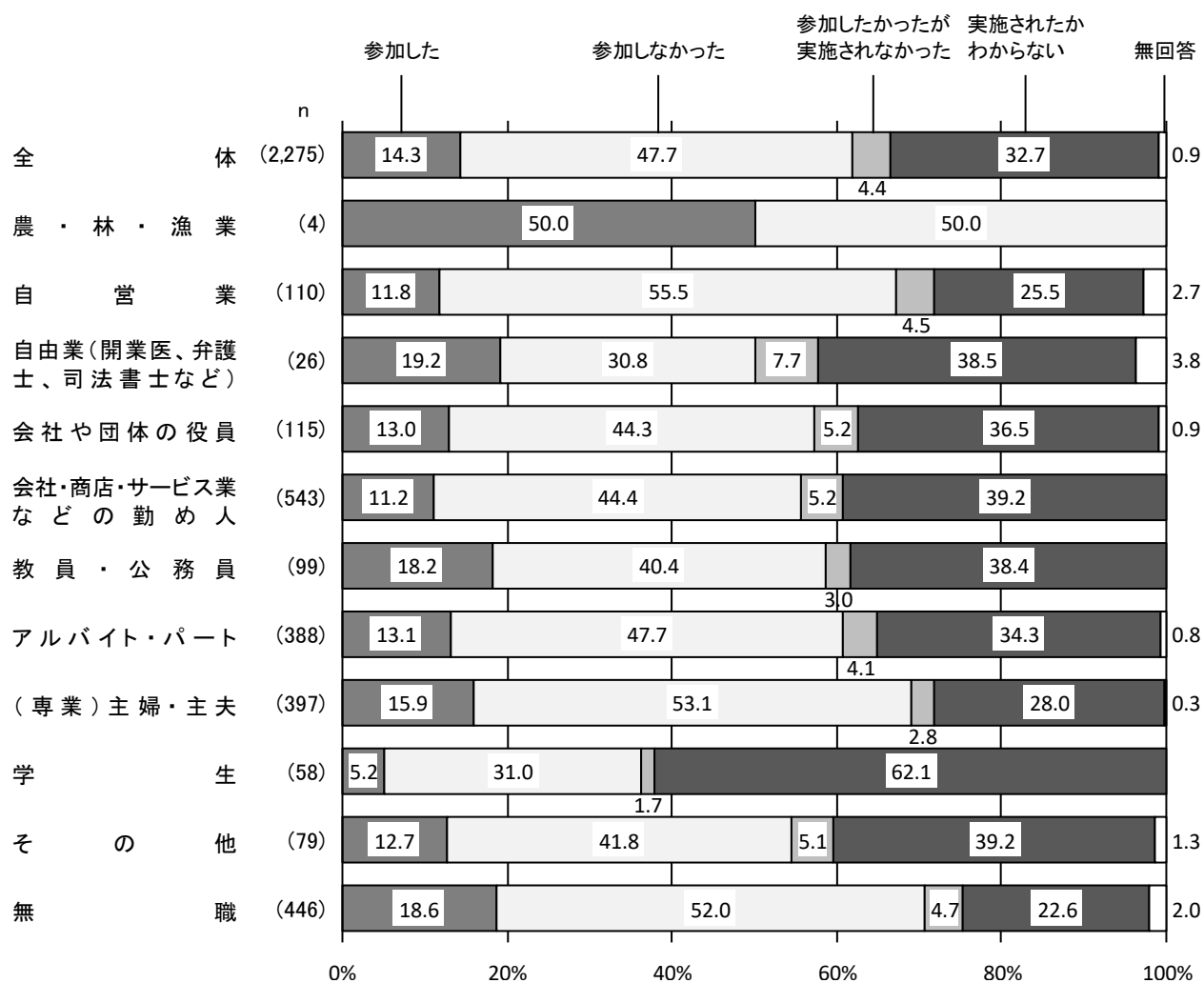
図 15-3 地域の防災訓練への参加状況 — 居住地域別



居住地域別にみると、「参加しなかった」は、浅川・横山・館（西南部地域）（53.1%）が5割強と高くなっている。「実施されたかわからない」は、加住・石川（北部地域）（42.3%）が4割強と高くなっている。

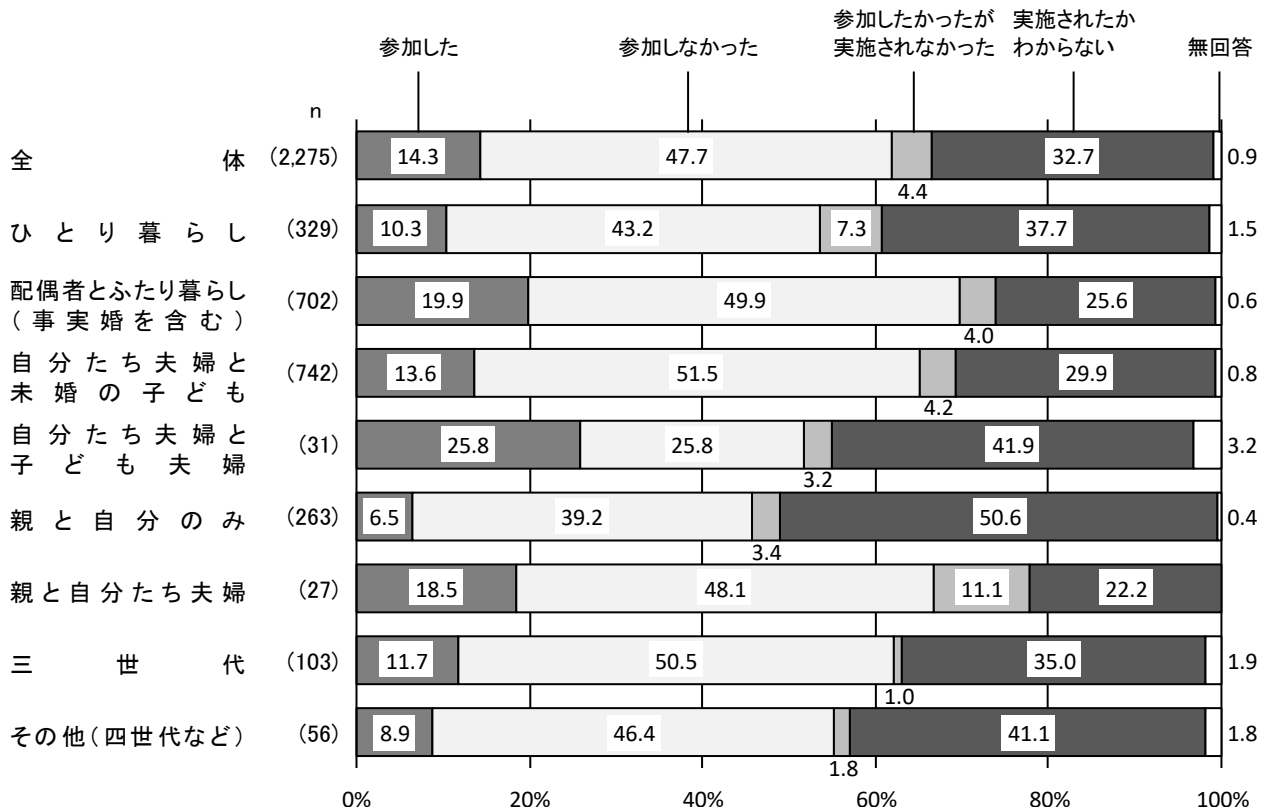
（図 15-3）

図 15-4 地域の防災訓練への参加状況 — 職業別



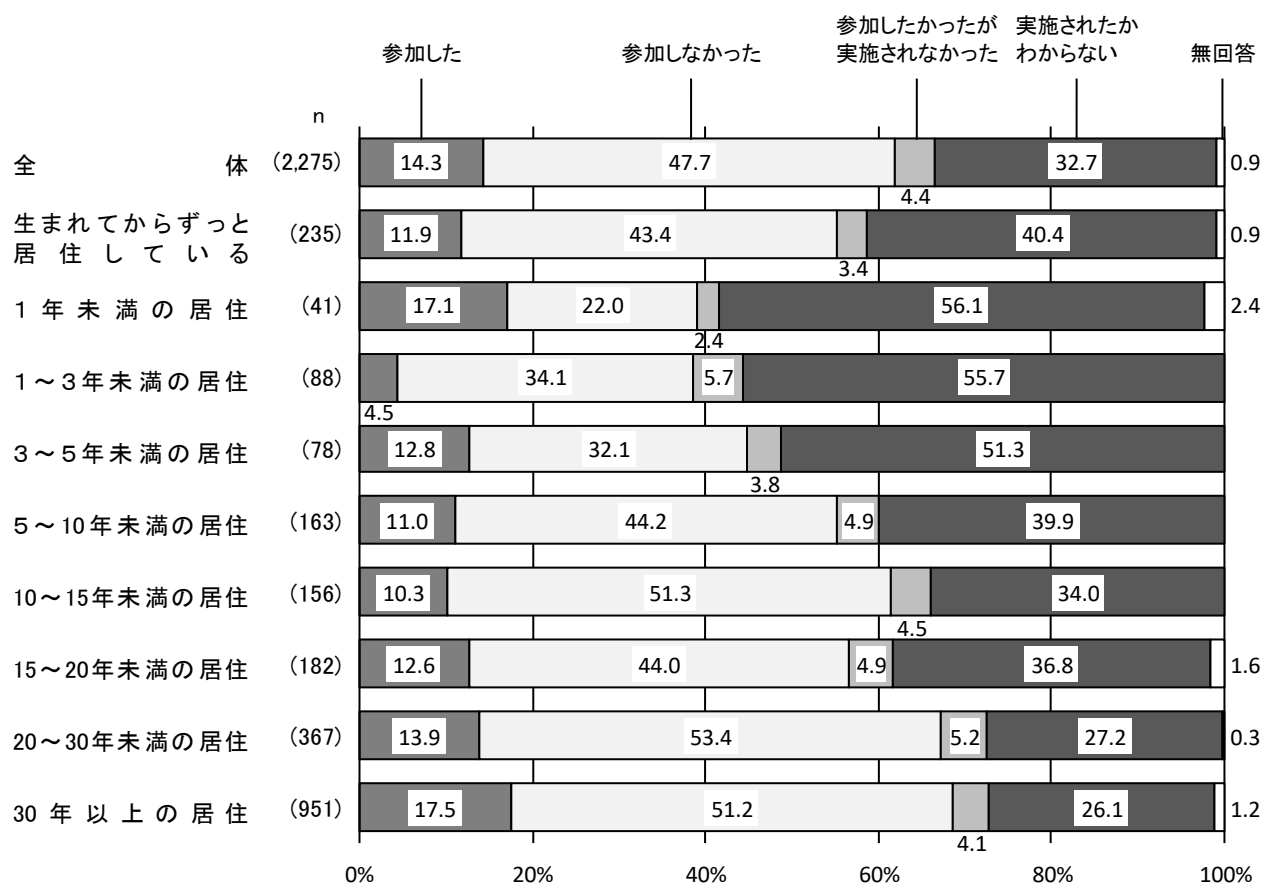
職業別にみると、「参加しなかった」は、自営業 (55.5%) が5割台半ば、(専業) 主婦・主夫 (53.1%) が5割強と高くなっている。「実施されたかわからない」は、学生 (62.1%) が6割強、会社・商店・サービス業などの勤め人 (39.2%)、その他 (39.2%) がそれぞれ4割弱、教員・公務員 (38.4%) が4割近くと高くなっている。(図 15-4)

図 15-5 地域の防災訓練への参加状況 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「参加した」は、自分たち夫婦と子ども夫婦 (25.8%) が2割台半ば、配偶者とふたり暮らし (事実婚を含む) (19.9%) が2割弱と高くなっている。「実施されたかわからない」は、親と自分のみ (50.6%) が約5割、自分たち夫婦と子ども夫婦 (41.9%)、その他 (四世代など) (41.1%) がそれぞれ4割強と高くなっている。(図 15-5)

図 15-6 地域の防災訓練への参加状況 — 居住年数別

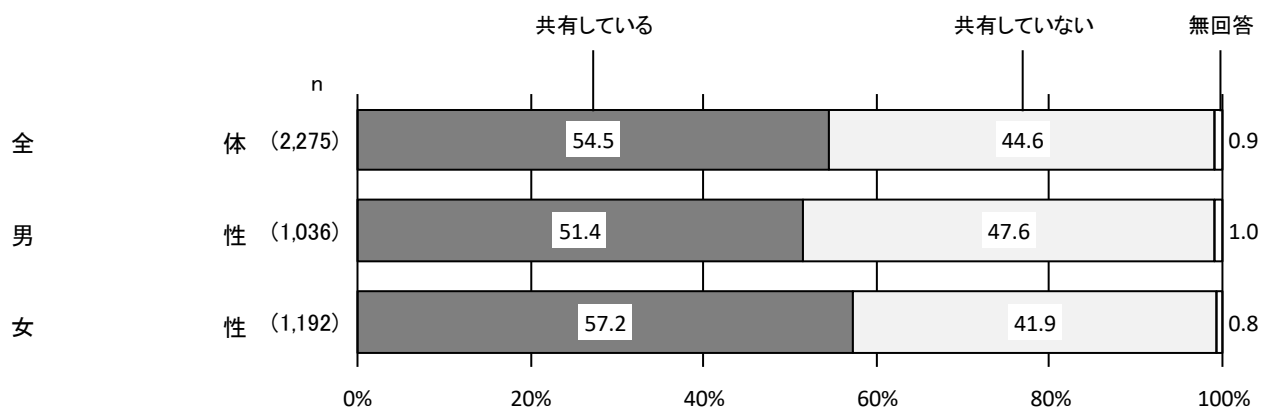


居住年数別にみると、「参加しなかった」は、20～30年未満の居住（53.4%）が5割強と高くなっている。「実施されたかわからない」は、1年未満の居住（56.1%）が6割近く、1～3年未満の居住（55.7%）が5割台半ば、3～5年未満の居住（51.3%）が5割強、生まれてからずっと居住している（40.4%）が約4割、5～10年未満の居住（39.9%）が4割弱と高くなっている。（図 15-6）

(16) “災害時の避難場所”を共有しているか

問 15 あなたは、“災害時の避難場所”を家族や友人などと共有していますか。(○は1つだけ)

図 16-1 “災害時の避難場所”を共有しているか — 全体、性別

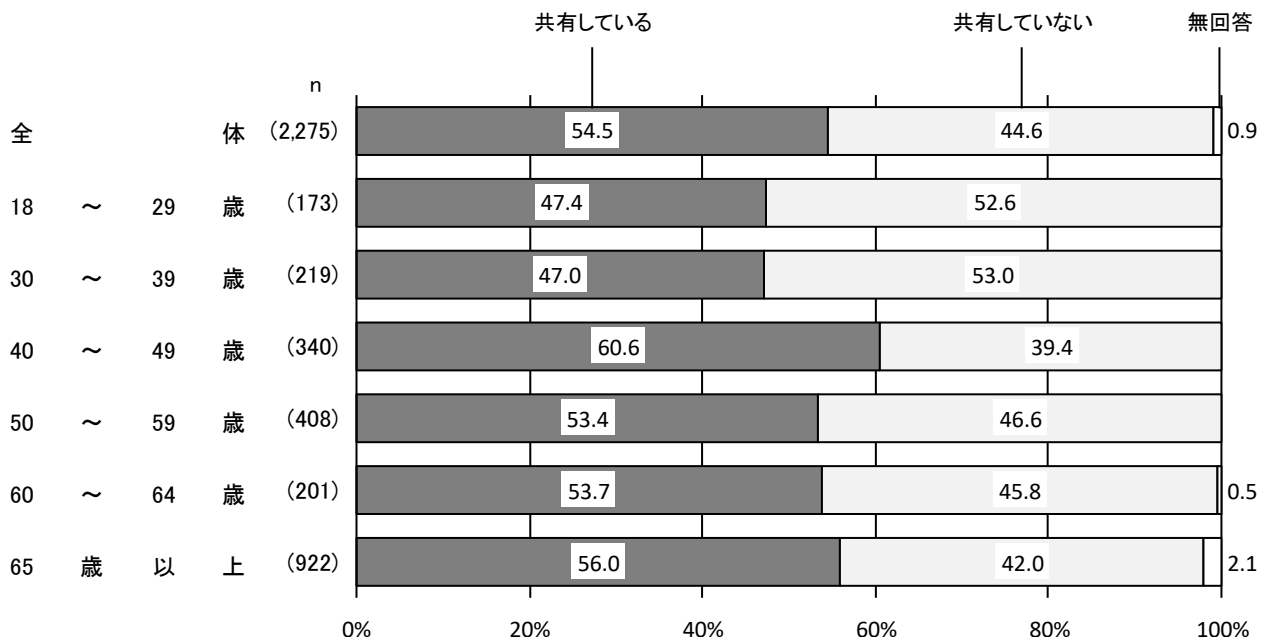


“災害時の避難場所”を家族や友人などと共有しているかを聞いたところ、「共有している」(54.5%)は5割台半ばとなっている。一方、「共有していない」(44.6%)は4割台半ばとなっている。

性別にみると、「共有している」は、女性(57.2%)が男性(51.4%)より5.8ポイント高くなっている。

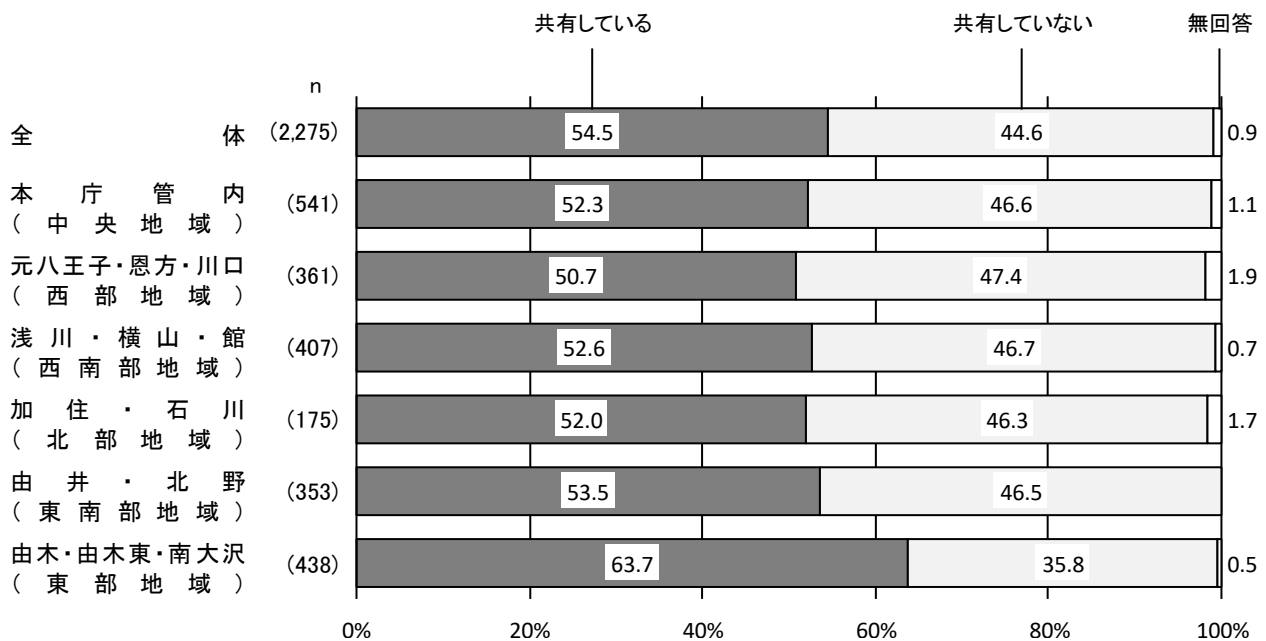
(図 16-1)

図 16-2 “災害時の避難場所”を共有しているか - 年齢別



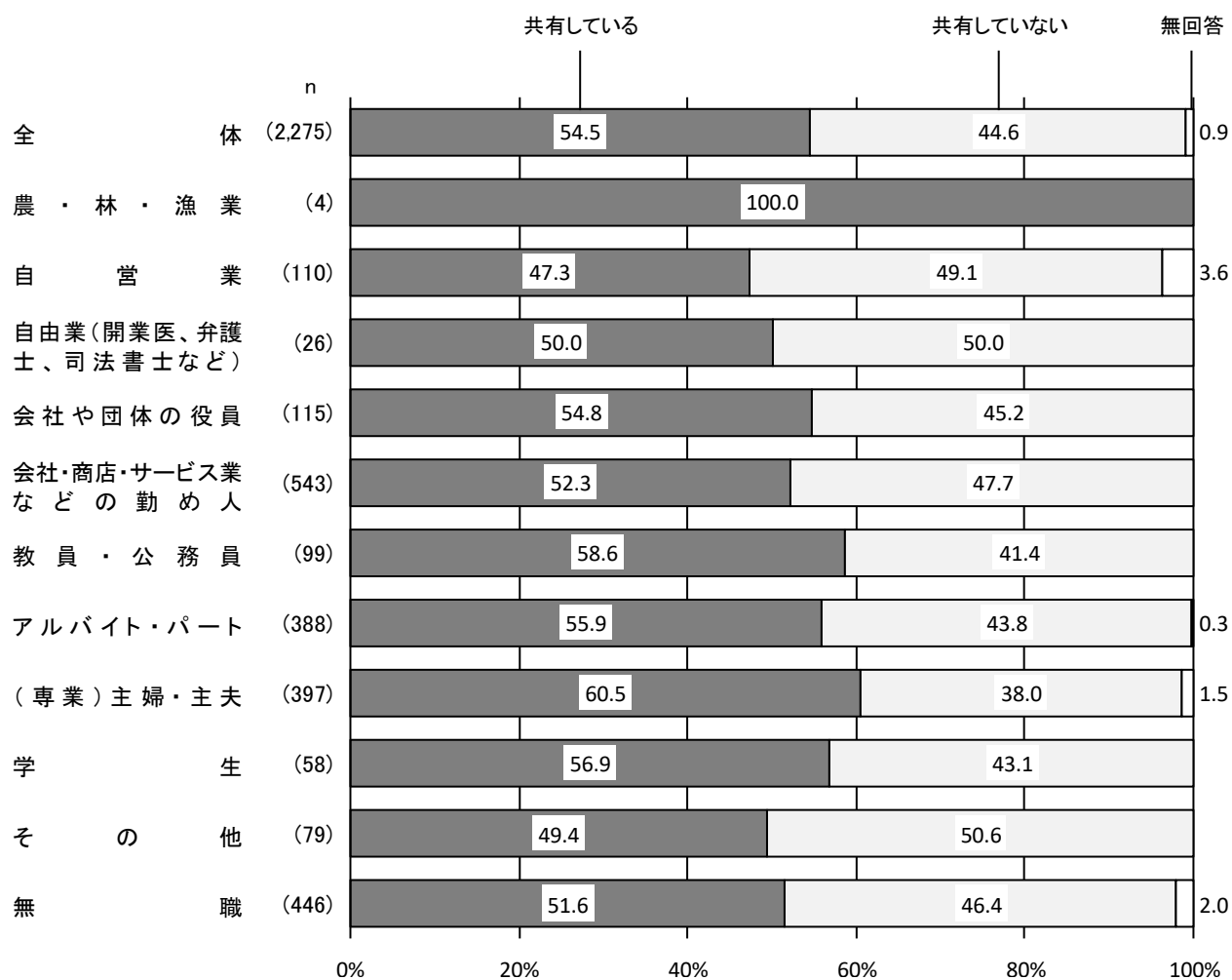
年齢別にみると、「共有している」は、40～49 歳（60.6%）が約6割と高くなっている。一方、「共有していない」は、30～39 歳（53.0%）、18～29 歳（52.6%）がそれぞれ5割強と高くなっている。（図 16-2）

図 16-3 “災害時の避難場所”を共有しているか - 居住地域別



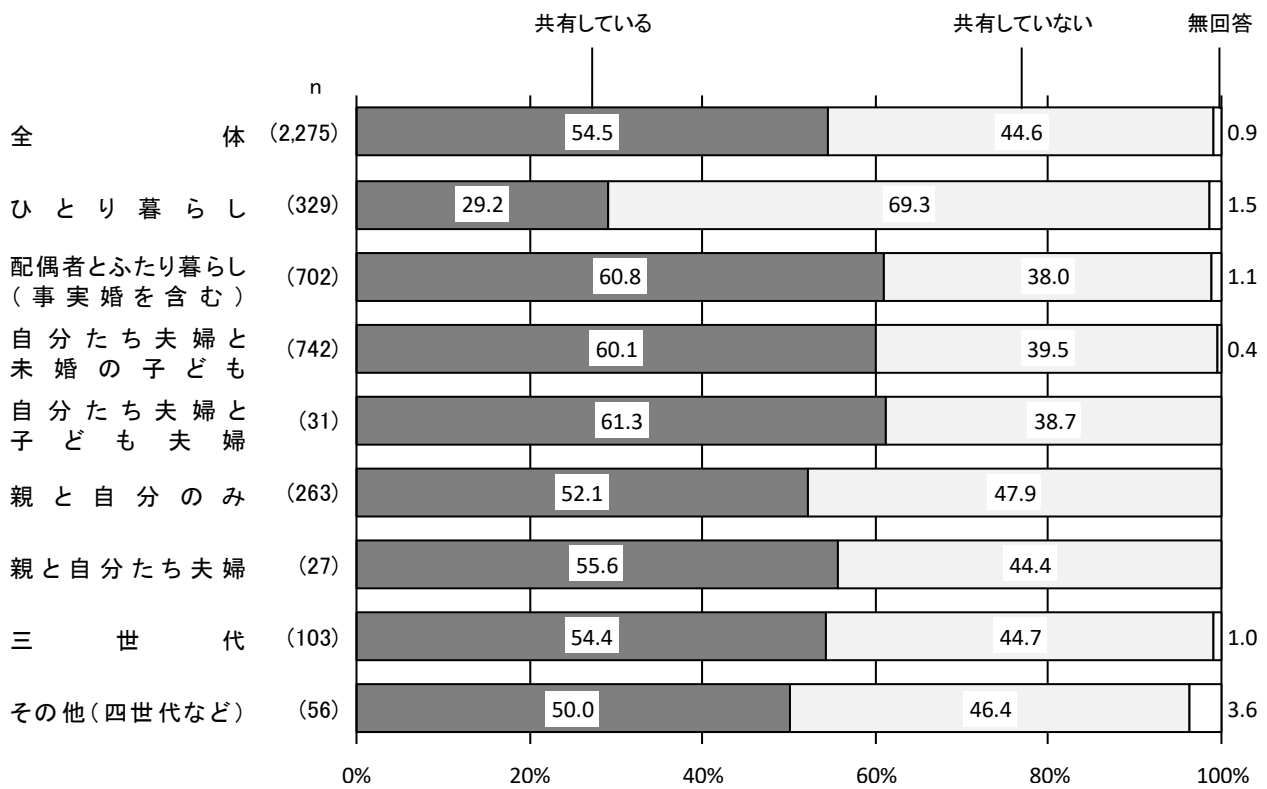
居住地域別にみると、「共有している」は、由木・由木東・南大沢（東部地域）（63.7%）が6割強と高くなっている。（図 16-3）

図 16-4 “災害時の避難場所”を共有しているか - 職業別



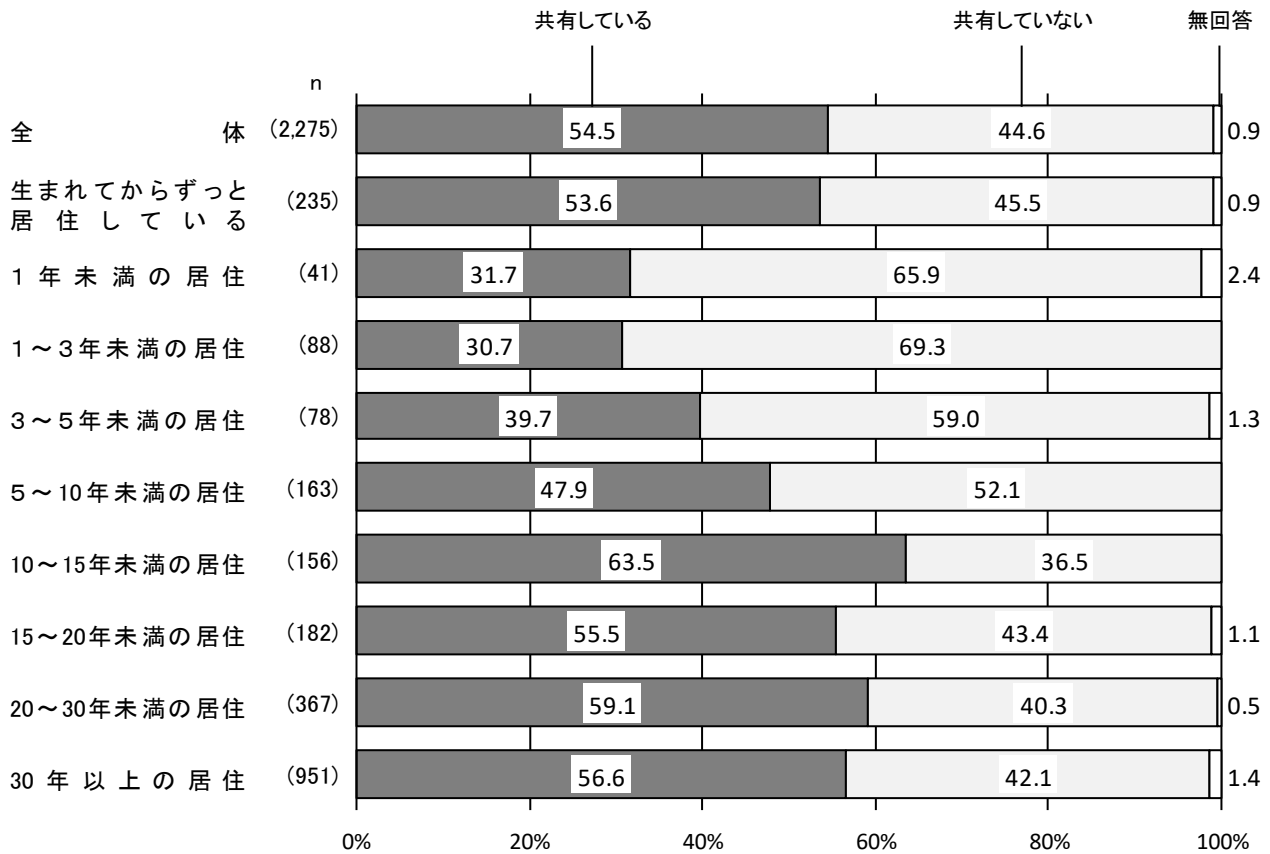
職業別にみると、「共有している」は、(専業)主婦・主夫(60.5%)が約6割と高くなっている。一方、「共有していない」は、その他(50.6%)が約5割と高くなっている。(図 16-4)

図 16-5 “災害時の避難場所”を共有しているか — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「共有している」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（61.3%）が6割強、配偶者とふたり暮らし（事実婚を含む）（60.8%）、自分たち夫婦と未婚の子ども（60.1%）がそれぞれ約6割と高くなっている。一方、「共有していない」は、ひとり暮らし（69.3%）が7割弱と高くなっている。（図 16-5）

図 16-6 “災害時の避難場所”を共有しているか — 居住年数別



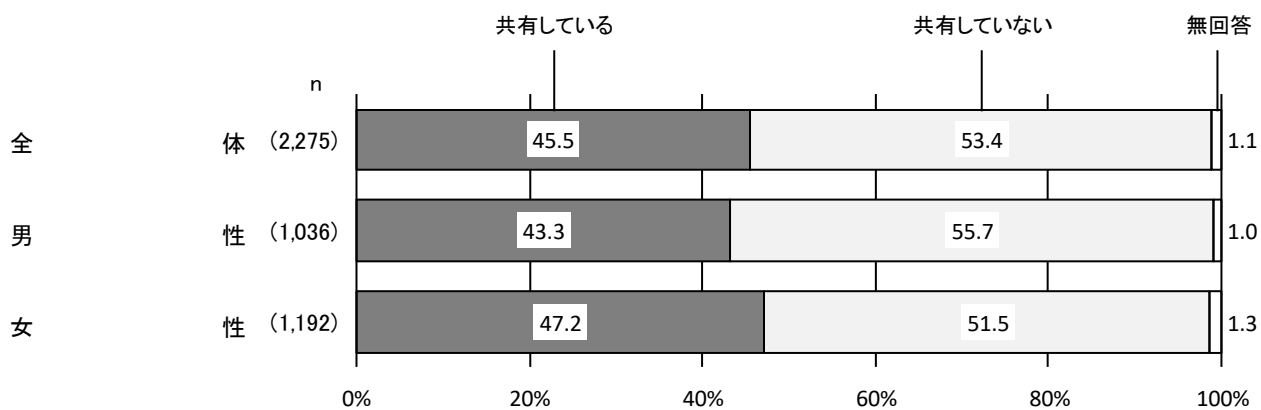
居住年数別にみると、「共有している」は、10～15年未満の居住（63.5%）が6割強と高くなっている。一方、「共有していない」は、1～3年未満の居住（69.3%）が7割弱、1年未満の居住（65.9%）が6割台半ば、3～5年未満の居住（59.0%）が6割弱、5～10年未満の居住（52.1%）が5割強と高くなっている。

(図 16-6)

(17) “災害時の安否確認の方法”を共有しているか

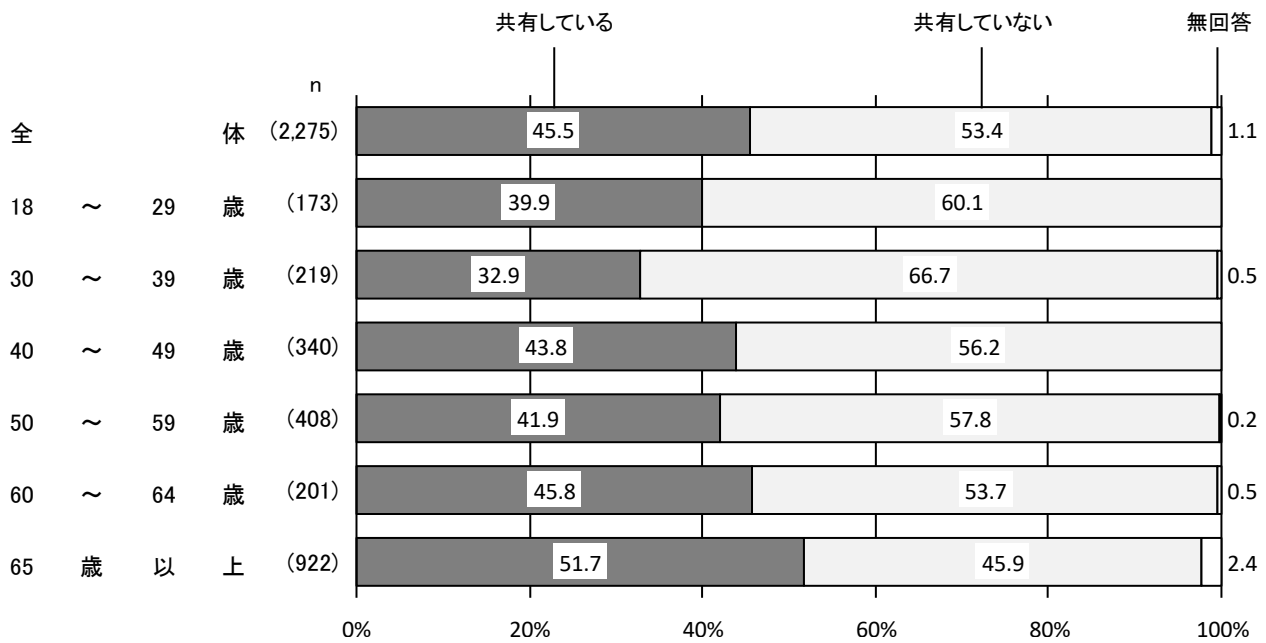
問 16 あなたは、“災害時の安否確認の方法”を家族や友人などと共有していますか。(○は1つだけ)

図 17-1 “災害時の安否確認の方法”を共有しているか - 全体、性別



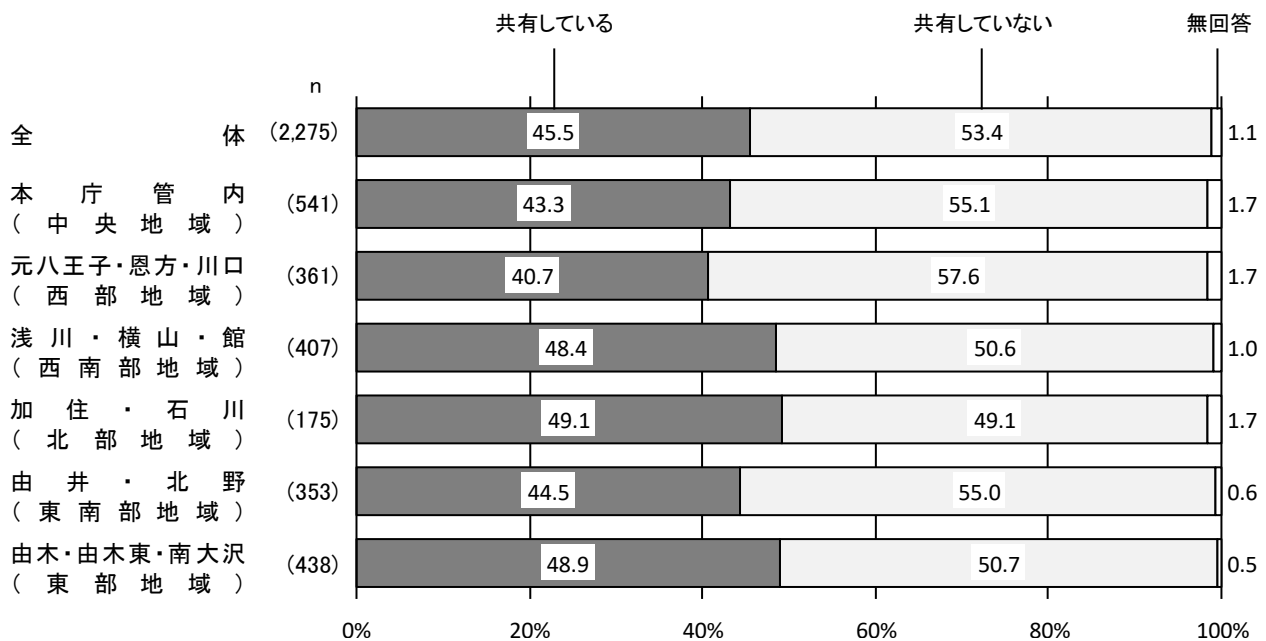
“災害時の安否確認の方法”を家族や友人などと共有しているかを聞いたところ、「共有している」(45.5%)は4割台半ばとなっている。一方、「共有していない」(53.4%)は5割強となっている。性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 17-1)

図 17-2 “災害時の安否確認の方法”を共有しているか - 年齢別



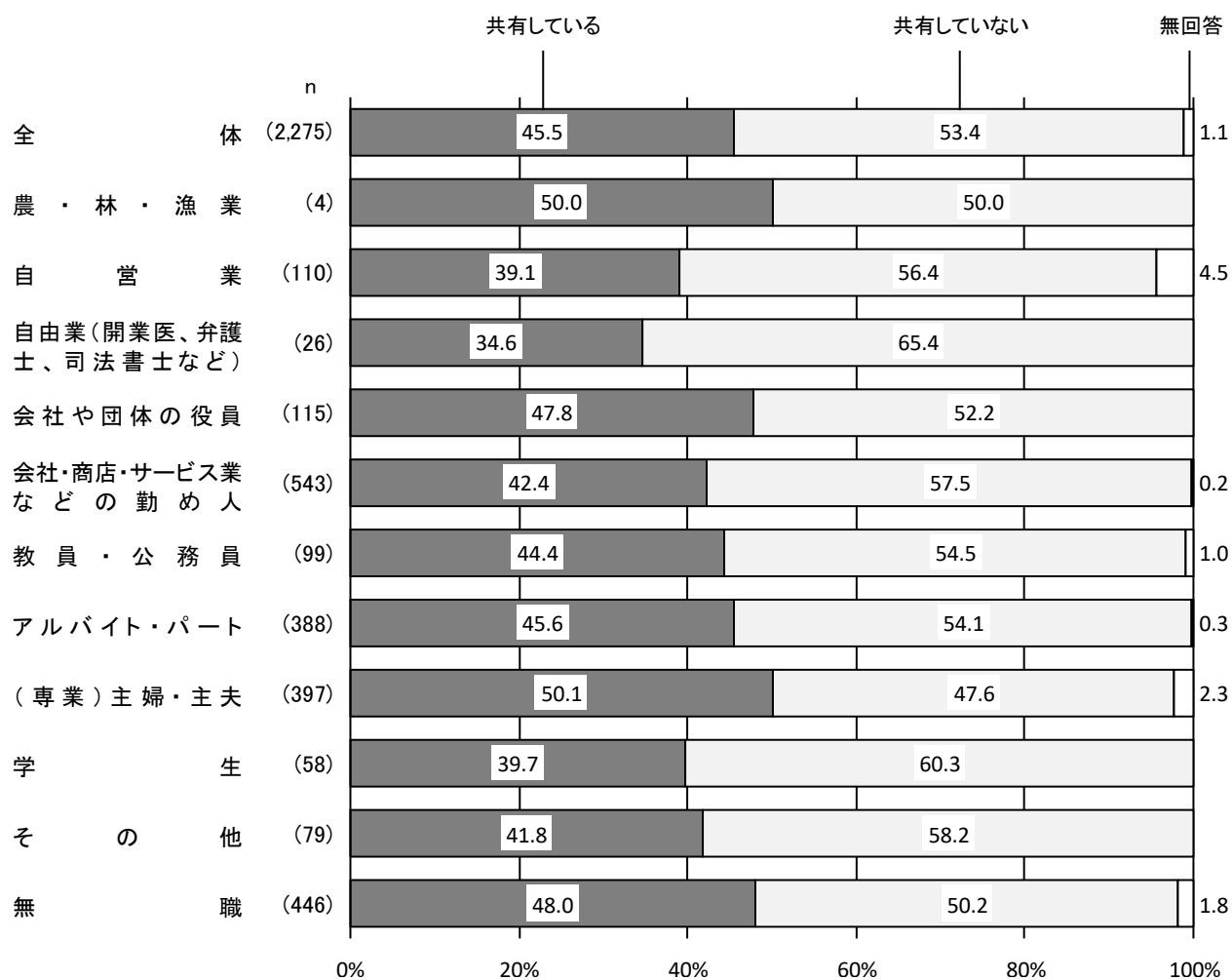
年齢別にみると、「共有している」は、65 歳以上 (51.7%) が 5 割強と高くなっている。一方、「共有していない」は、30~39 歳 (66.7%) が 7 割近く、18~29 歳 (60.1%) が約 6 割と高くなっている。(図 17-2)

図 17-3 “災害時の安否確認の方法”を共有しているか - 居住地域別



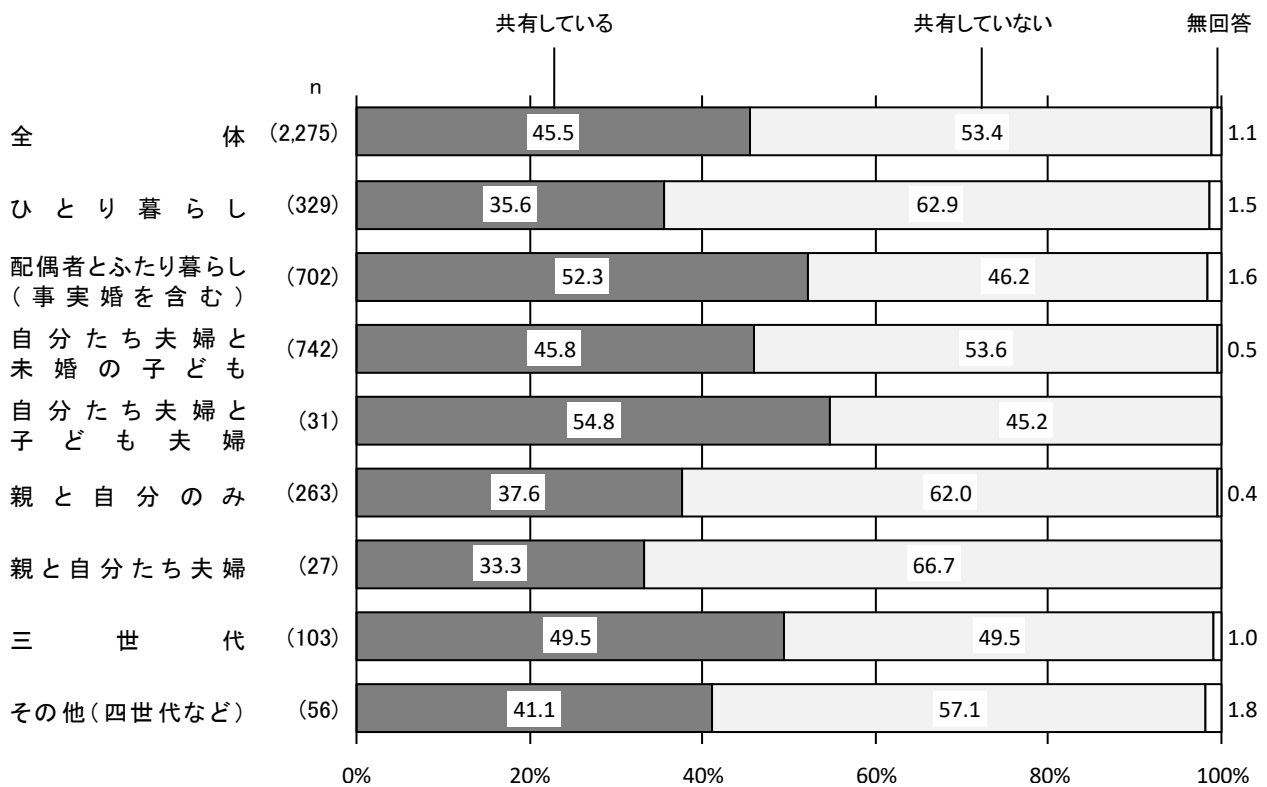
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 17-3)

図 17-4 “災害時の安否確認の方法”を共有しているか - 職業別



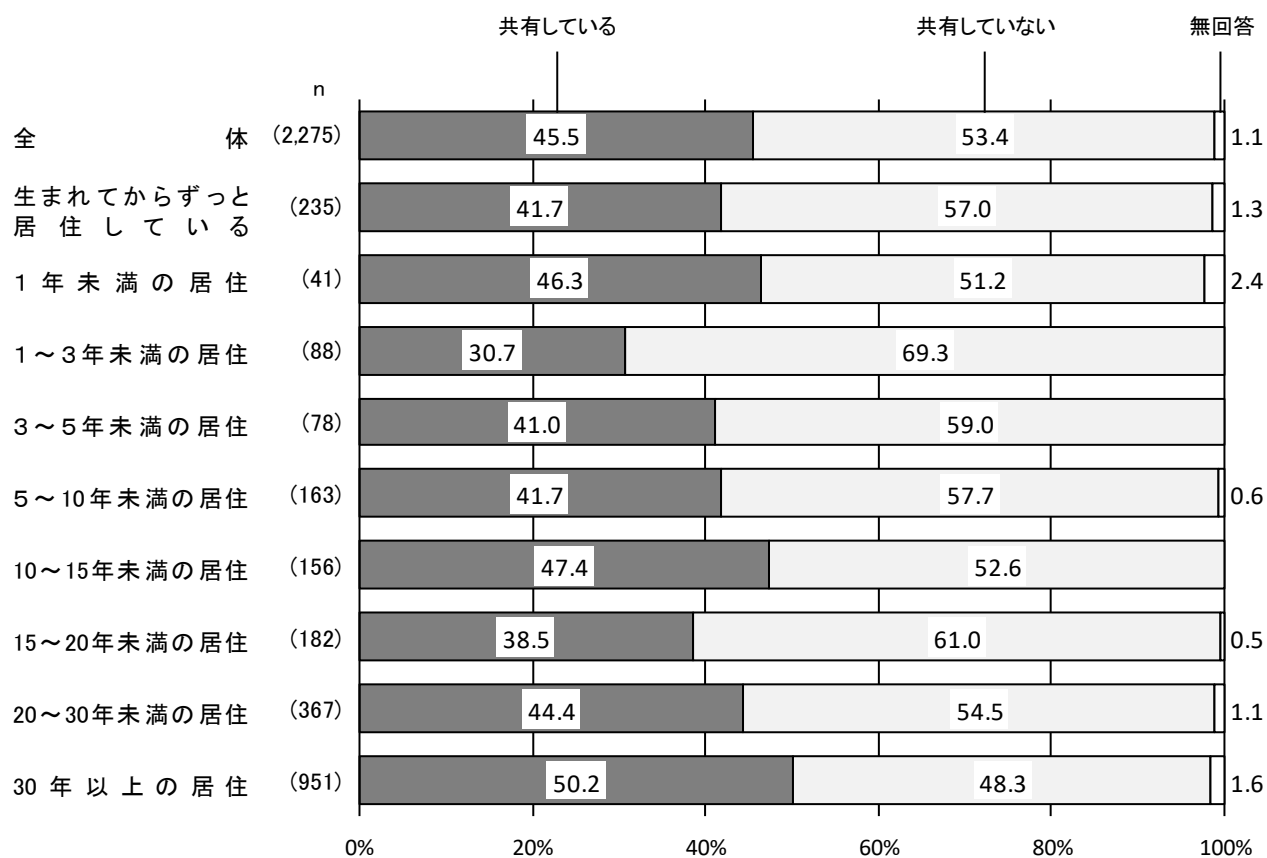
職業別にみると、「共有していない」は、学生 (60.3%) が約6割と高くなっている。(図 17-4)

図 17-5 “災害時の安否確認の方法”を共有しているか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「共有している」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（54.8%）が5割台半ば、配偶者とふたり暮らし（事実婚を含む）（52.3%）が5割強と高くなっている。一方、「共有していない」は、ひとり暮らし（62.9%）、親と自分のみ（62.0%）がそれぞれ6割強と高くなっている。（図 17-5）

図 17-6 “災害時の安否確認の方法”を共有しているか - 居住年数別

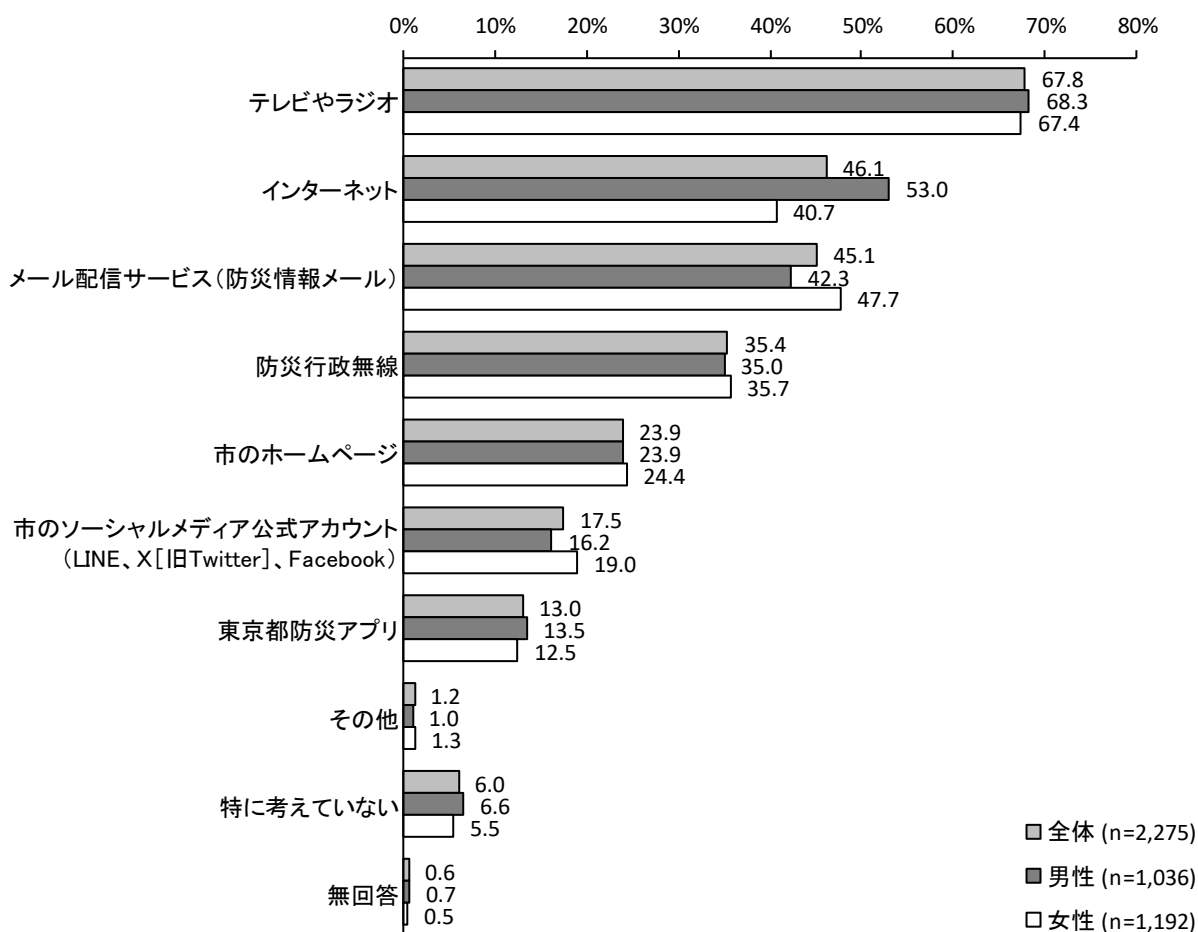


居住年数別にみると、「共有していない」は、1～3年未満の居住（69.3%）が7割弱、15～20年未満の居住（61.0%）が6割強、3～5年未満の居住（59.0%）が6割弱と高くなっている。（図 17-6）

(18) 災害時の災害情報入手方法

問17 あなたの家庭では、災害時にどのような方法で災害情報を入手する考えですか。(〇はいくつでも)

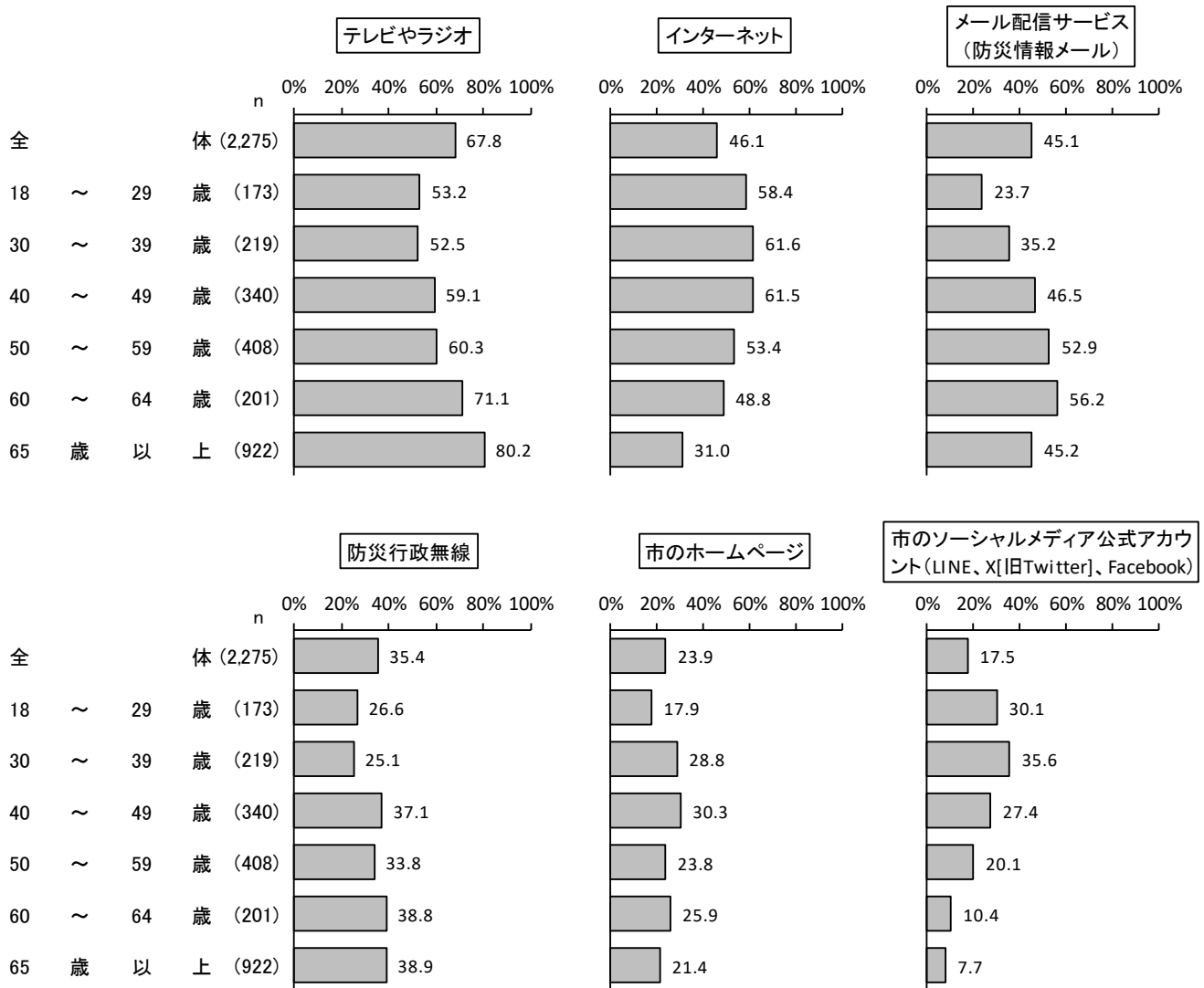
図 18-1 災害時の災害情報入手方法 — 全体、性別



災害時にどのような方法で災害情報を入手するかについて聞いたところ、「テレビやラジオ」(67.8%)が7割近くと最も高くなっている。次いで、「インターネット」(46.1%)、「メール配信サービス(防災情報メール)」(45.1%)、「防災行政無線」(35.4%)などの順となっている。

性別にみると、「インターネット」は、男性(53.0%)が女性(40.7%)より12.3ポイント高くなっている。「メール配信サービス(防災情報メール)」は、女性(47.7%)が男性(42.3%)より5.4ポイント高くなっている。(図18-1)

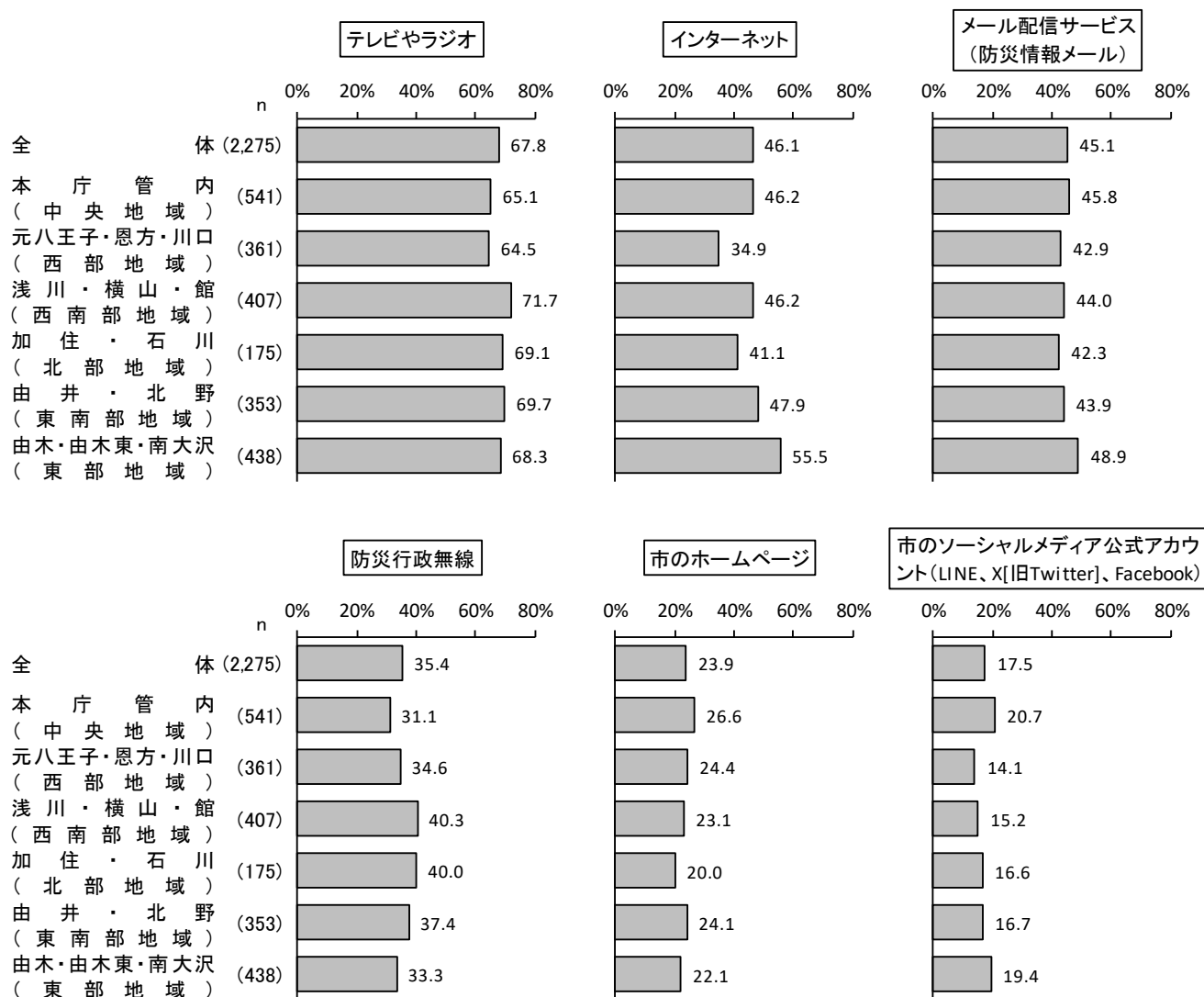
図 18-2 災害時の災害情報入手方法 — 年齢別（上位 6 位）



年齢別にみると、「テレビやラジオ」は、65 歳以上（80.2%）が約 8 割と高くなっている。「インターネット」は、30～39 歳（61.6%）、40～49 歳（61.5%）がそれぞれ 6 割強、18～29 歳（58.4%）が 6 割近く、50～59 歳（53.4%）が 5 割強と高くなっている。「メール配信サービス（防災情報メール）」は、60～64 歳（56.2%）が 6 割近く、50～59 歳（52.9%）が 5 割強と高くなっている。「防災行政無線」は、30～39 歳（25.1%）が 2 割台半ばと低くなっている。「市のホームページ」は、40～49 歳（30.3%）が約 3 割と高くなっている。「市のソーシャルメディア公式アカウント（LINE、X [旧 Twitter]、Facebook）」は、30～39 歳（35.6%）が 3 割台半ば、18～29 歳（30.1%）が約 3 割、40～49 歳（27.4%）が 3 割近くと高くなっている。

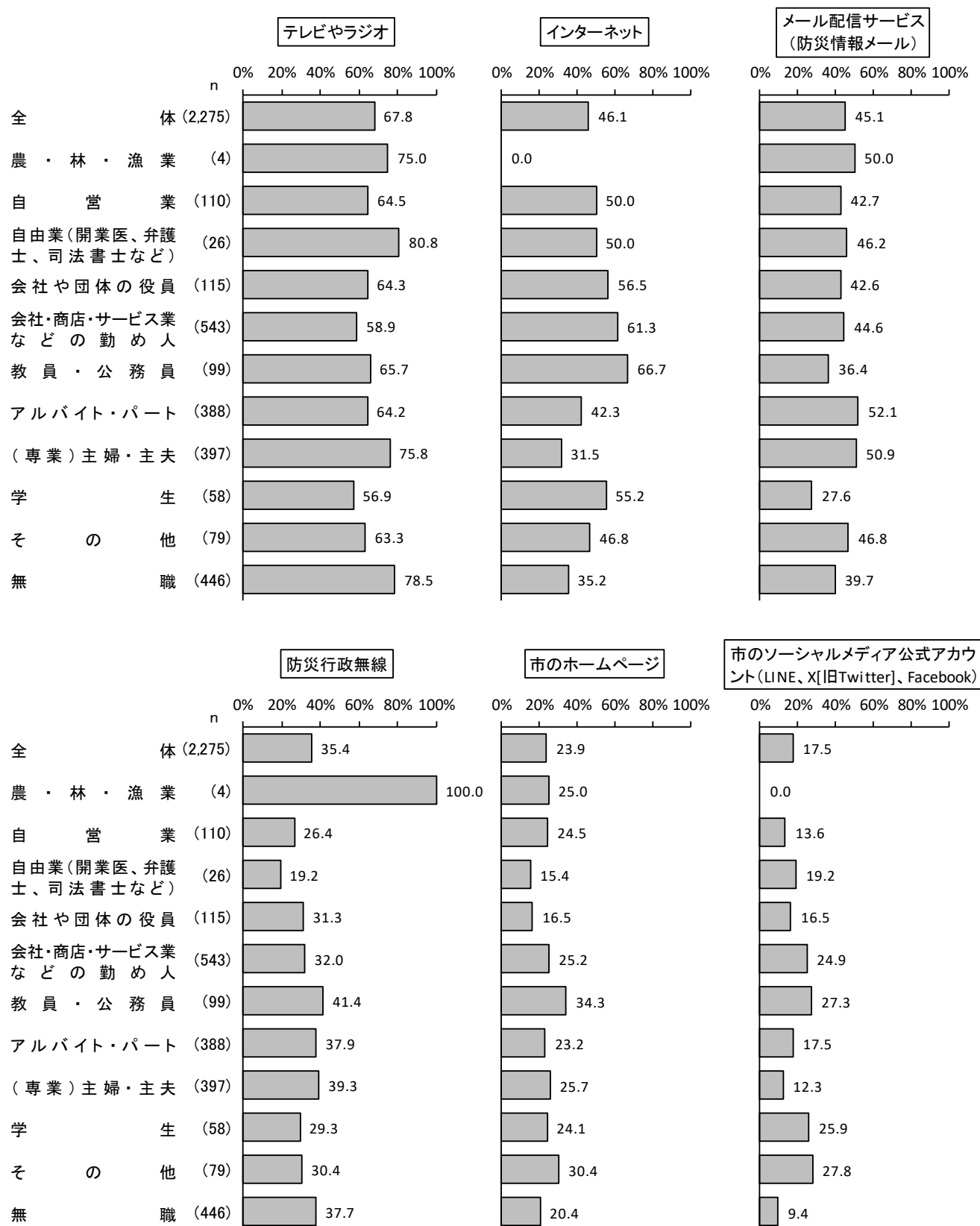
（図 18-2）

図 18-3 災害時の災害情報入手方法 - 居住地域別（上位6位）



居住地域別にみると、「インターネット」は、由木・由木東・南大沢（東部地域）（55.5%）が5割台半ばと高くなっている。（図 18-3）

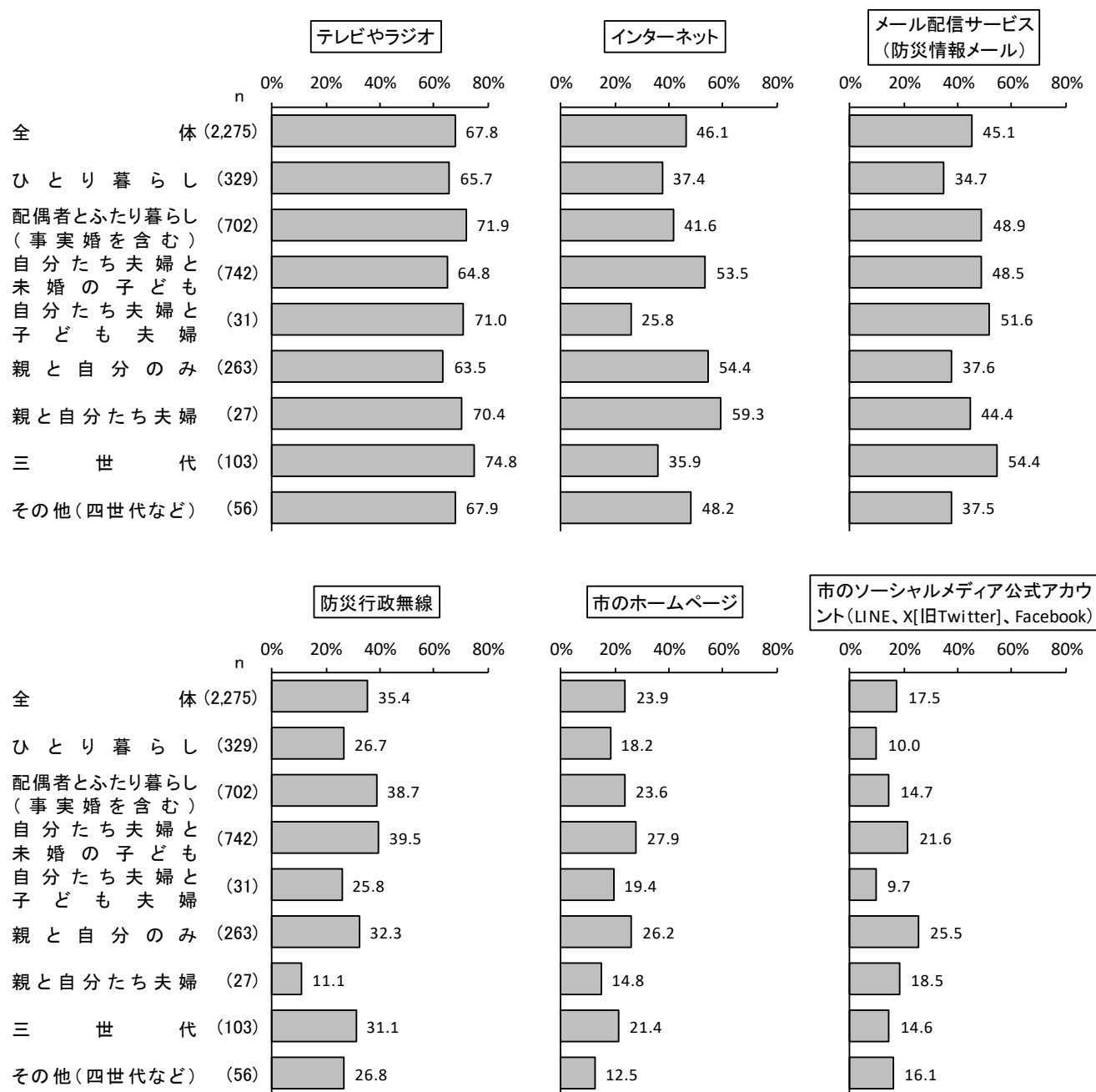
図 18-4 災害時の災害情報入手方法 - 職業別（上位 6 位）



職業別にみると、「テレビやラジオ」は、無職（78.5%）が8割近く、（専業）主婦・主夫（75.8%）が7割台半ばと高くなっている。「インターネット」は、教員・公務員（66.7%）が7割近く、会社・商店・サービス業などの勤め人（61.3%）が6割強、会社や団体の役員（56.5%）が6割近く、学生（55.2%）が5割

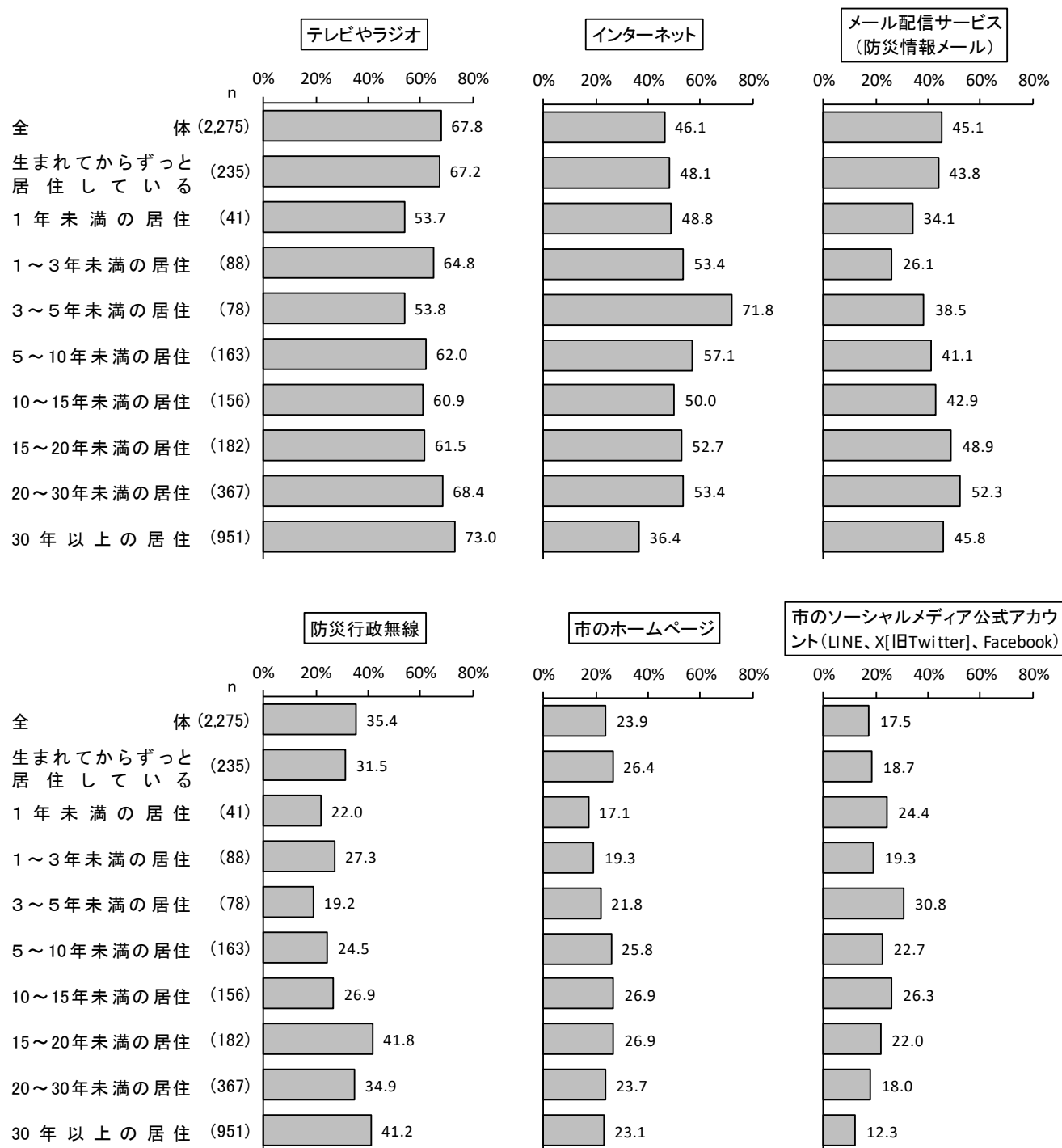
台半ばと高くなっている。「メール配信サービス（防災情報メール）」は、アルバイト・パート（52.1%）が5割強、（専業）主婦・主夫（50.9%）が約5割と高くなっている。「防災行政無線」は、教員・公務員（41.4%）が4割強と高くなっている。「市のホームページ」は、教員・公務員（34.3%）が3割台半ば、その他（30.4%）が約3割と高くなっている。「市のソーシャルメディア公式アカウント（LINE、X〔旧Twitter〕、Facebook）」は、その他（27.8%）、教員・公務員（27.3%）がそれぞれ3割近く、学生（25.9%）、会社・商店・サービス業などの勤め人（24.9%）がそれぞれ2割台半ばと高くなっている。（図18-4）

図 18-5 災害時の災害情報入手方法 - 世帯構成別（上位6位）



世帯構成別にみると、「テレビやラジオ」は、三世代（74.8%）が7割台半ばと高くなっている。「インターネット」は、親と自分のみ（54.4%）が5割台半ば、自分たち夫婦と未婚の子ども（53.5%）が5割強と高くなっている。「メール配信サービス（防災情報メール）」は、三世代（54.4%）が5割台半ば、自分たち夫婦と子ども夫婦（51.6%）が5割強と高くなっている。「防災行政無線」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（25.8%）が2割台半ばと低くなっている。「市のホームページ」は、その他（四世代など）（12.5%）が1割強と低くなっている。「市のソーシャルメディア公式アカウント（LINE、X [旧 Twitter]、Facebook）」は、親と自分のみ（25.5%）が2割台半ばと高くなっている。（図 18-5）

図 18-6 災害時の災害情報入手方法 - 居住年数別 (上位6位)

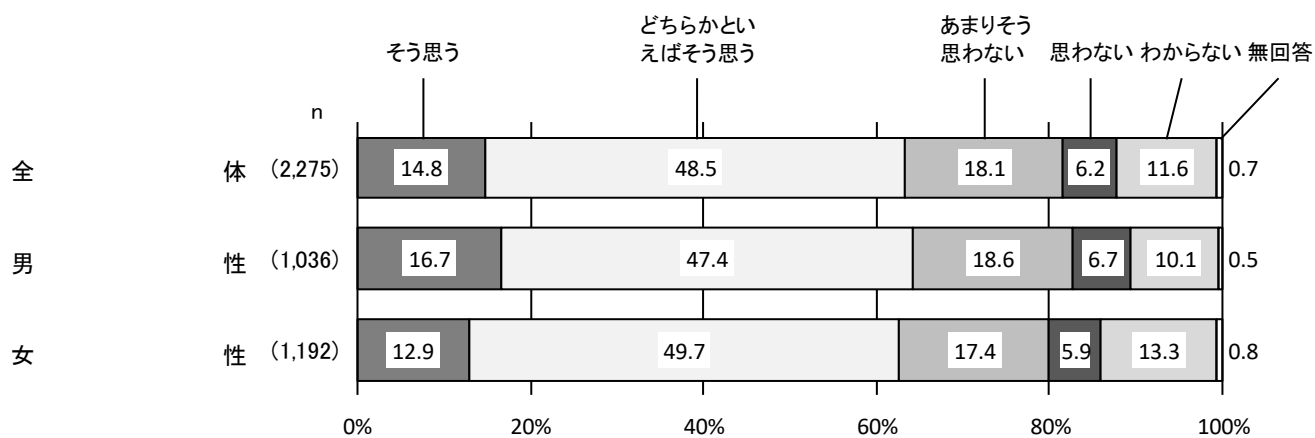


居住年数別にみると、「テレビやラジオ」は、30年以上の居住（73.0%）が7割強と高くなっている。「インターネット」は、3～5年未満の居住（71.8%）が7割強、5～10年未満の居住（57.1%）が6割近く、1～3年未満の居住（53.4%）、20～30年未満の居住（53.4%）、15～20年未満の居住（52.7%）がそれぞれ5割強と高くなっている。「メール配信サービス（防災情報メール）」は、20～30年未満の居住（52.3%）が5割強と高くなっている。「防災行政無線」は、15～20年未満の居住（41.8%）、30年以上の居住（41.2%）がそれぞれ4割強と高くなっている。「市のホームページ」は、1年未満の居住（17.1%）が2割近くと低くなっている。「市のソーシャルメディア公式アカウント（LINE、X [旧 Twitter]、Facebook）」は、3～5年未満の居住（30.8%）が約3割、10～15年未満の居住（26.3%）が3割近く、1年未満の居住（24.4%）が2割台半ば、5～10年未満の居住（22.7%）が2割強と高くなっている。（図 18-6）

(19) 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか

問 18 あなたは、八王子市が「安心して医療を受けられるまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ)

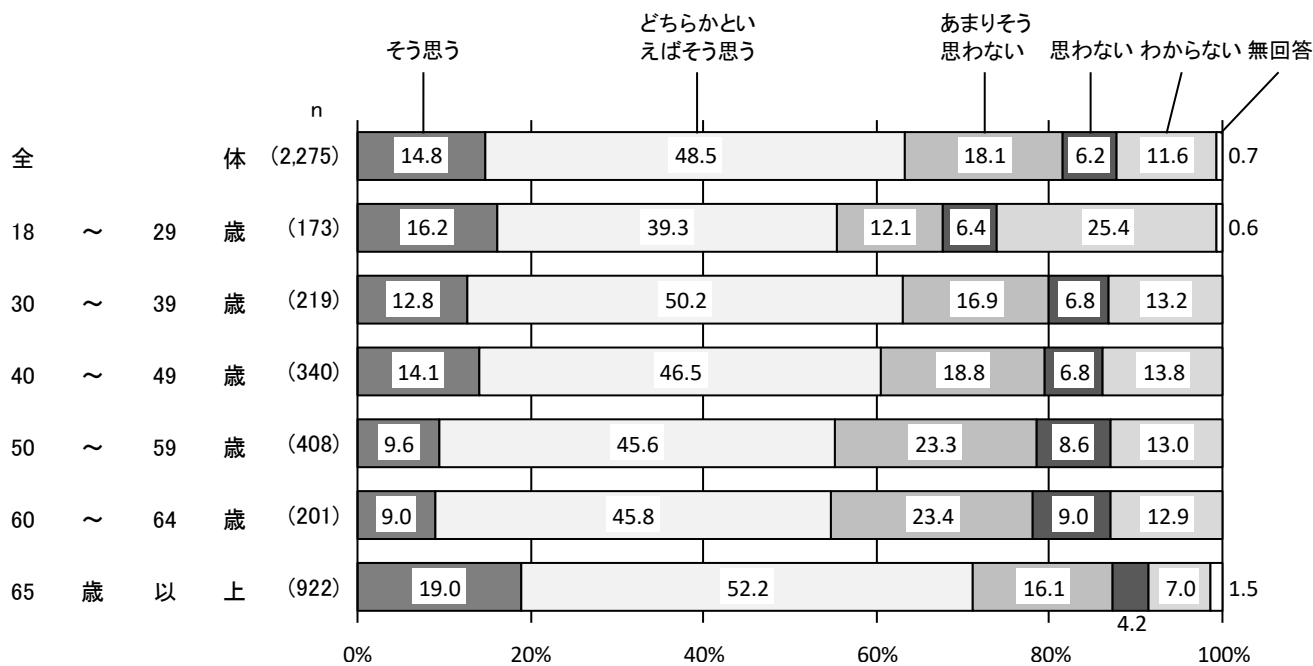
図 19-1 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか - 全体、性別



「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(14.8%)と「どちらかといえばそう思う」(48.5%)を合わせた《思う》(63.3%)は6割強となっている。一方、「あまりそう思わない」(18.1%)と「思わない」(6.2%)を合わせた《思わない》(24.3%)は2割台半ばとなっている。

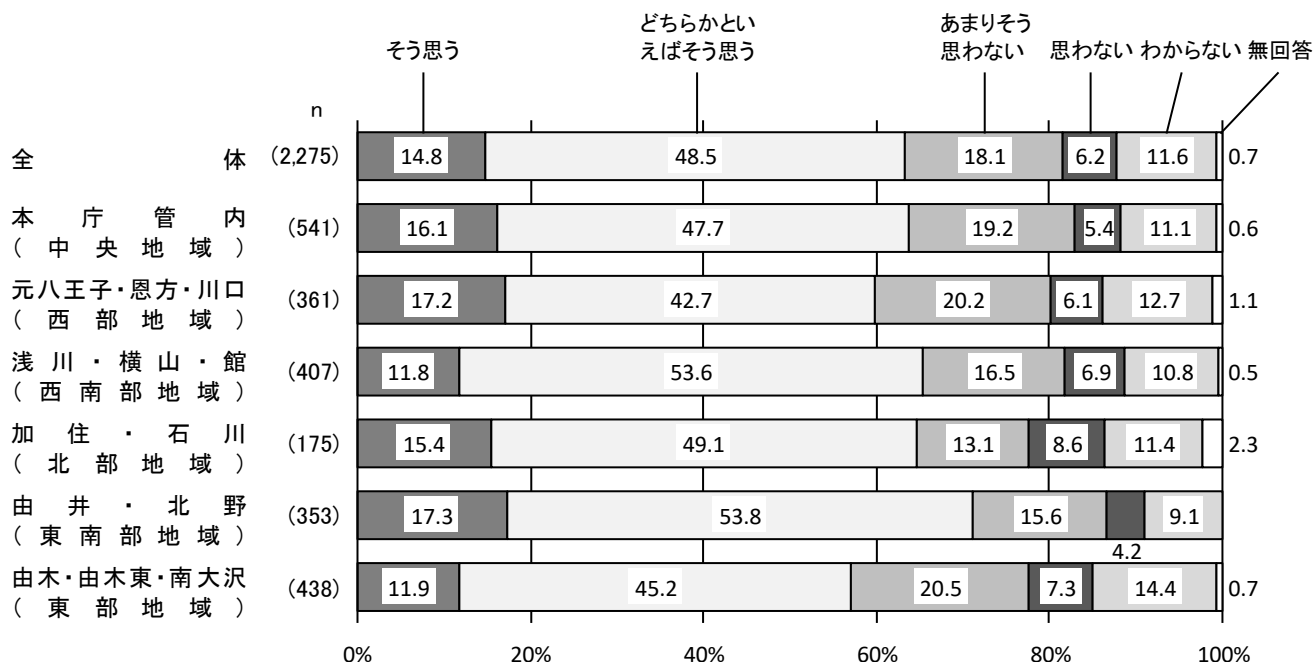
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 19-1)

図 19-2 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか - 年齢別



年齢別にみると、「思う」は、65 歳以上（71.2%）が 7 割強と高くなっている。一方、「思わない」は、60～64 歳（32.4%）、50～59 歳（31.9%）がそれぞれ 3 割強と高くなっている。（図 19-2）

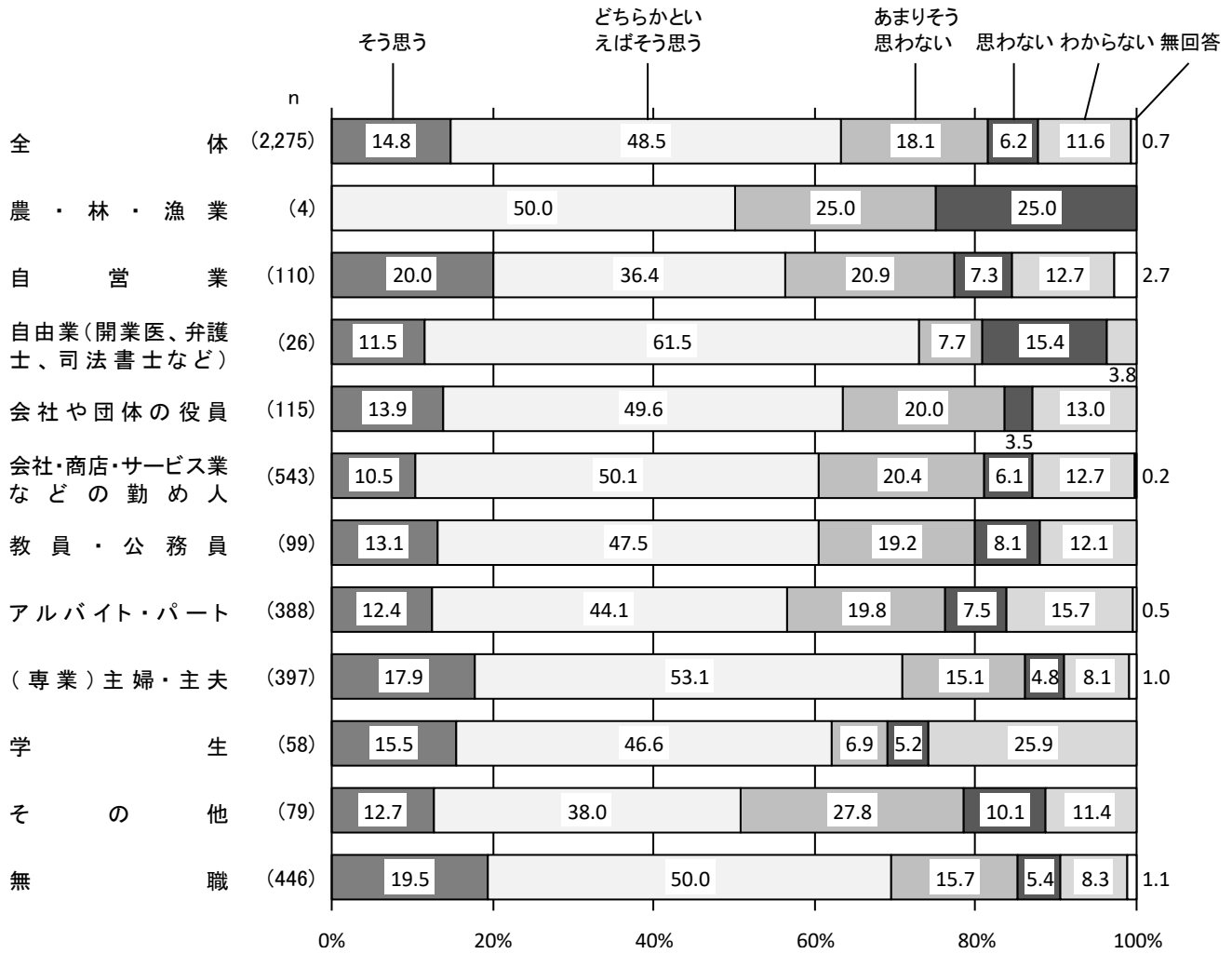
図 19-3 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか - 居住地域別



居住地域別にみると、「思う」は、由井・北野（東南部地域）（71.1%）が 7 割強と高くなっている。

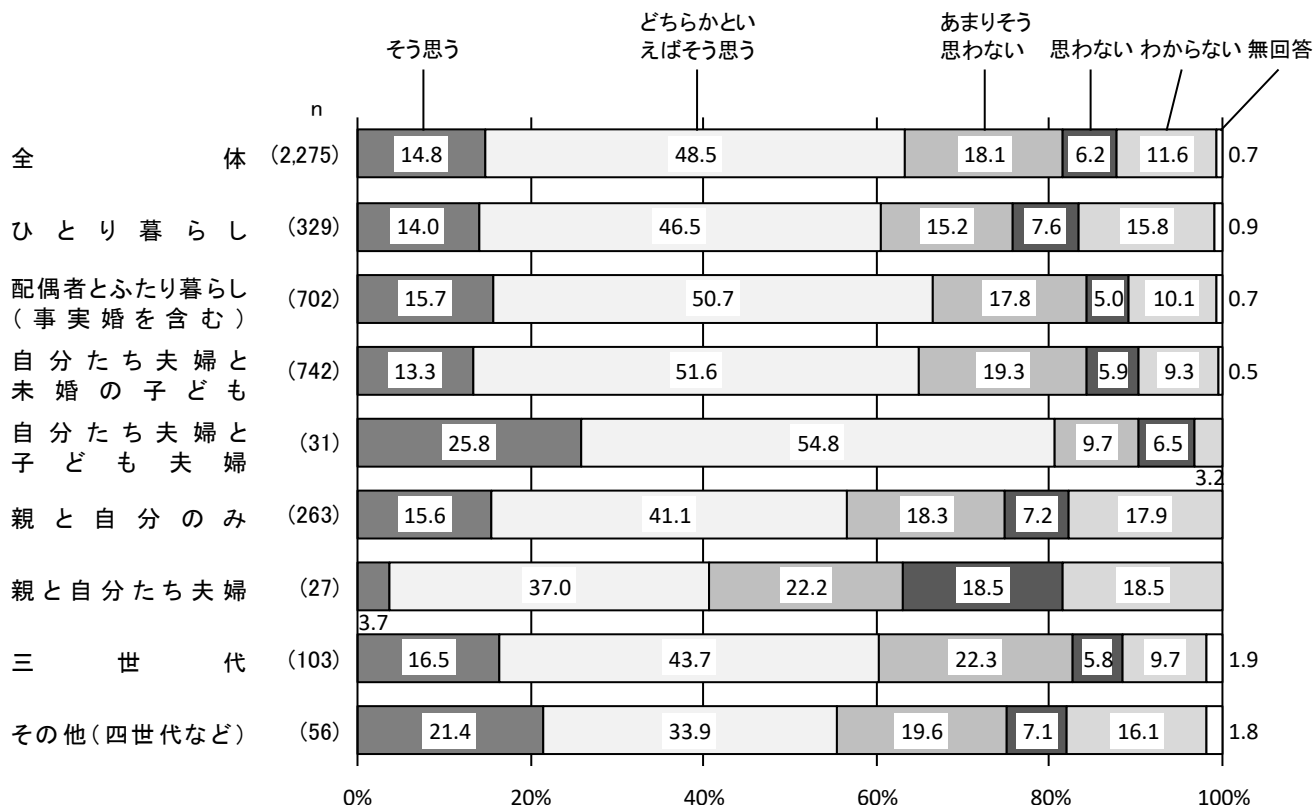
（図 19-3）

図 19-4 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか - 職業別



職業別にみると、「思う」は、(専業)主婦・主夫(71.0%)が7割強、無職(69.5%)が7割弱と高くなっている。一方、「思わない」は、その他(37.9%)が4割近くと高くなっている。(図 19-4)

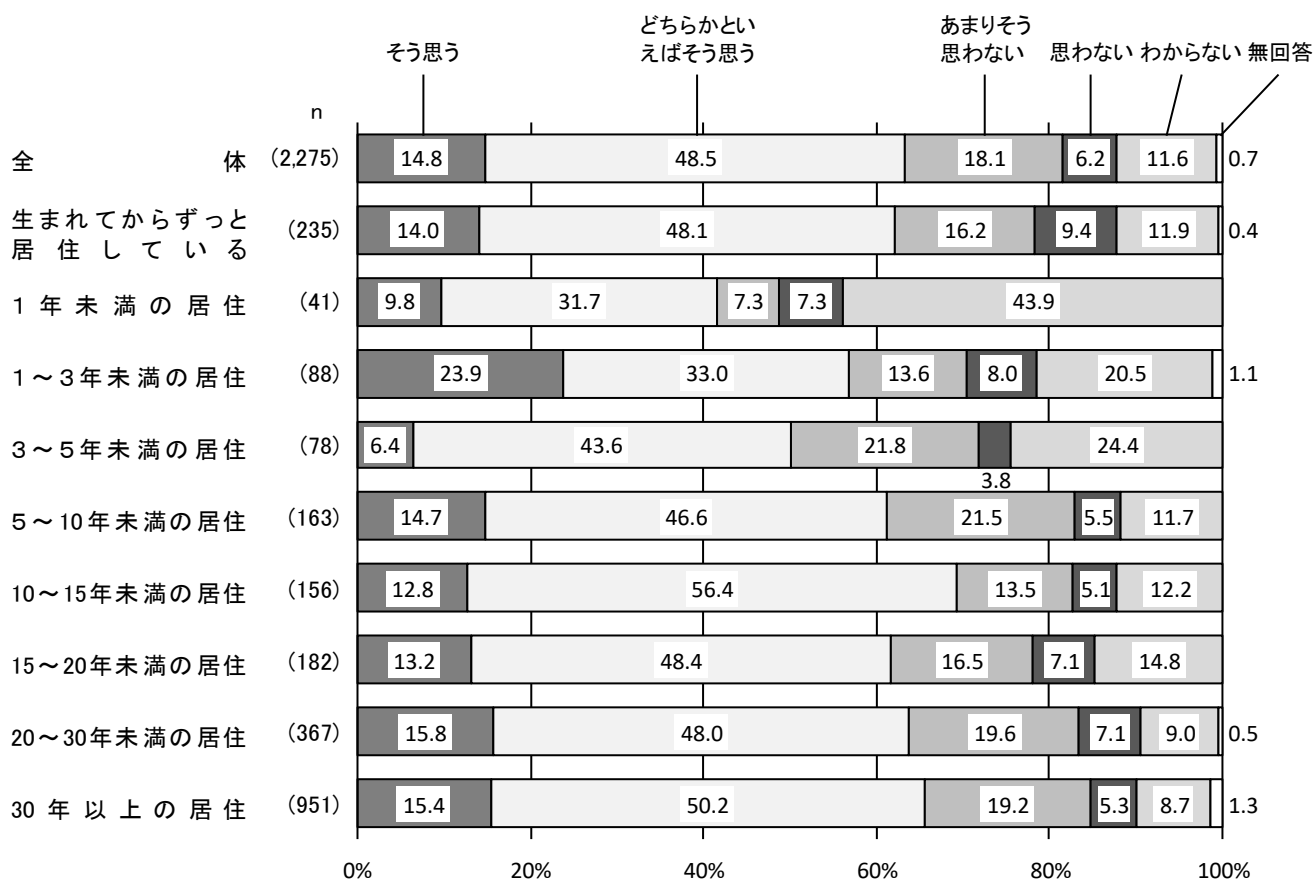
図 19-5 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（80.6%）が約8割と高くなっている。

(図 19-5)

図 19-6 「安心して医療を受けられるまち」になっていると思うか - 居住年数別



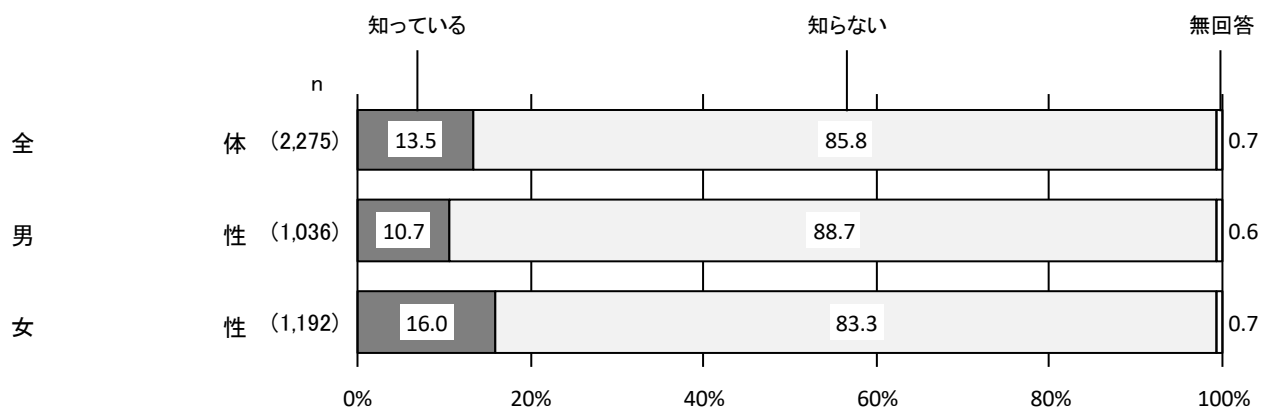
居住年数別にみると、《思う》は、10～15年未満の居住（69.2%）が7割弱と高くなっている。

(図 19-6)

(20) 「はちまるサポート」の認知度

問19 あなたは、「はちまるサポート」を知っていますか。(○は1つだけ)

図20-1 「はちまるサポート」の認知度 - 全体、性別

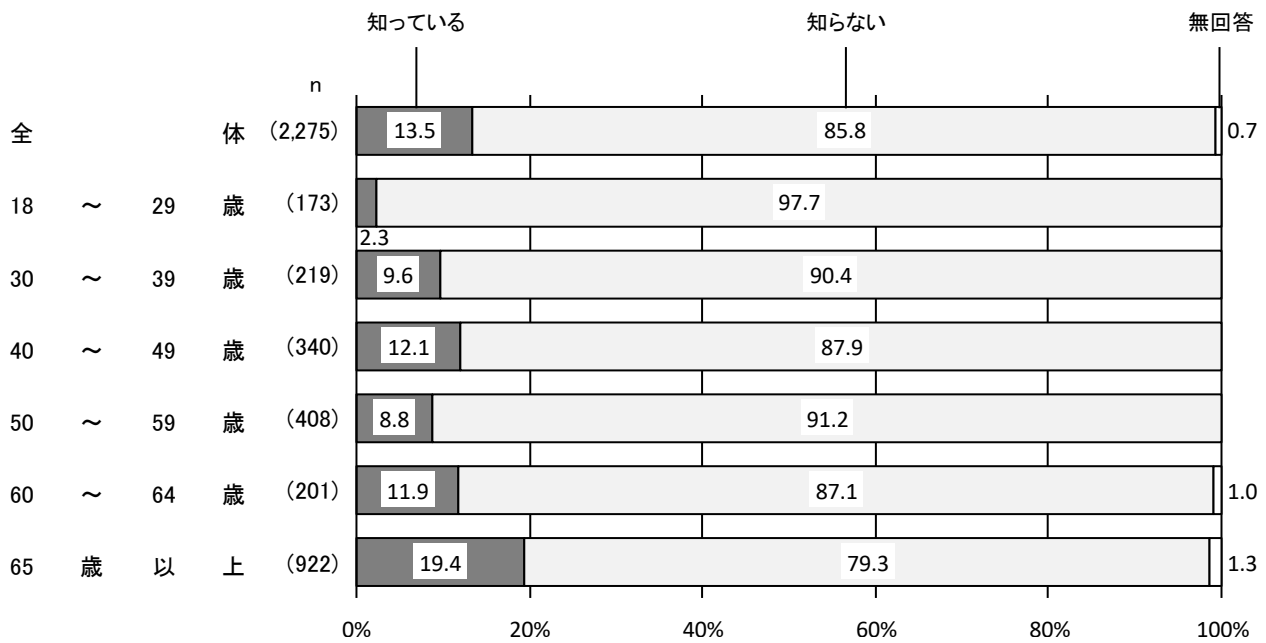


「はちまるサポート」を知っているかを聞いたところ、「知らない」(85.8%)は8割台半ばとなっている。一方、「知っている」(13.5%)は1割強となっている。

性別にみると、「知らない」は、男性(88.7%)が女性(83.3%)より5.4ポイント高くなっている。

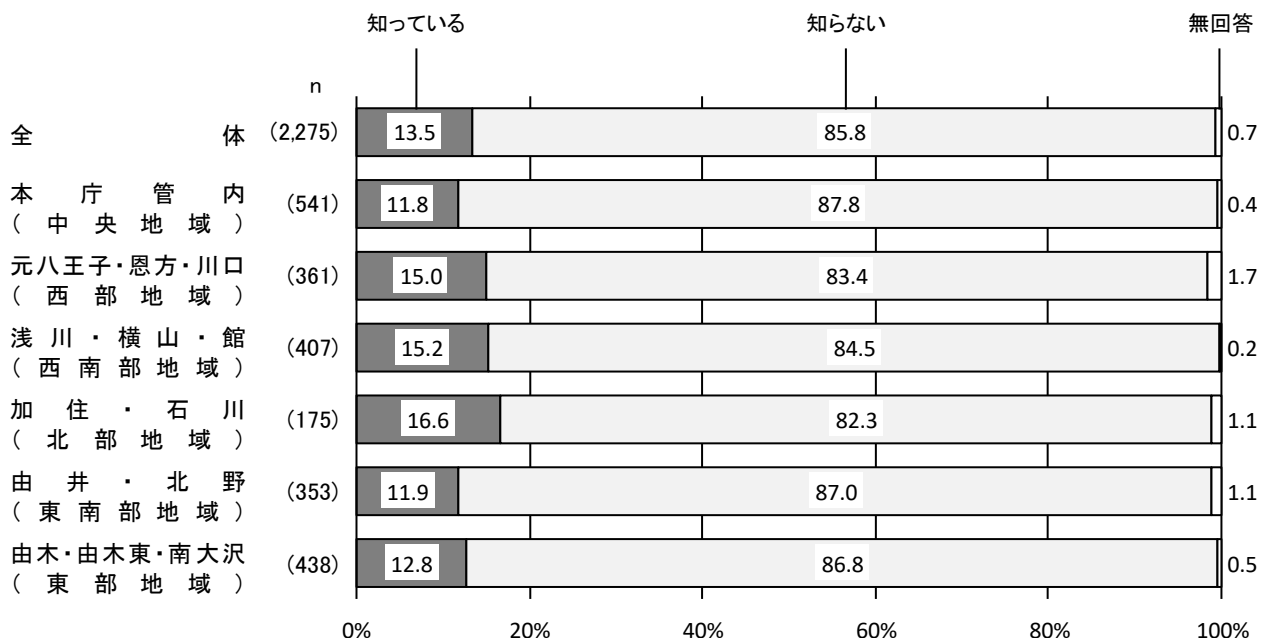
(図20-1)

図 20-2 「はちまるサポート」の認知度 - 年齢別



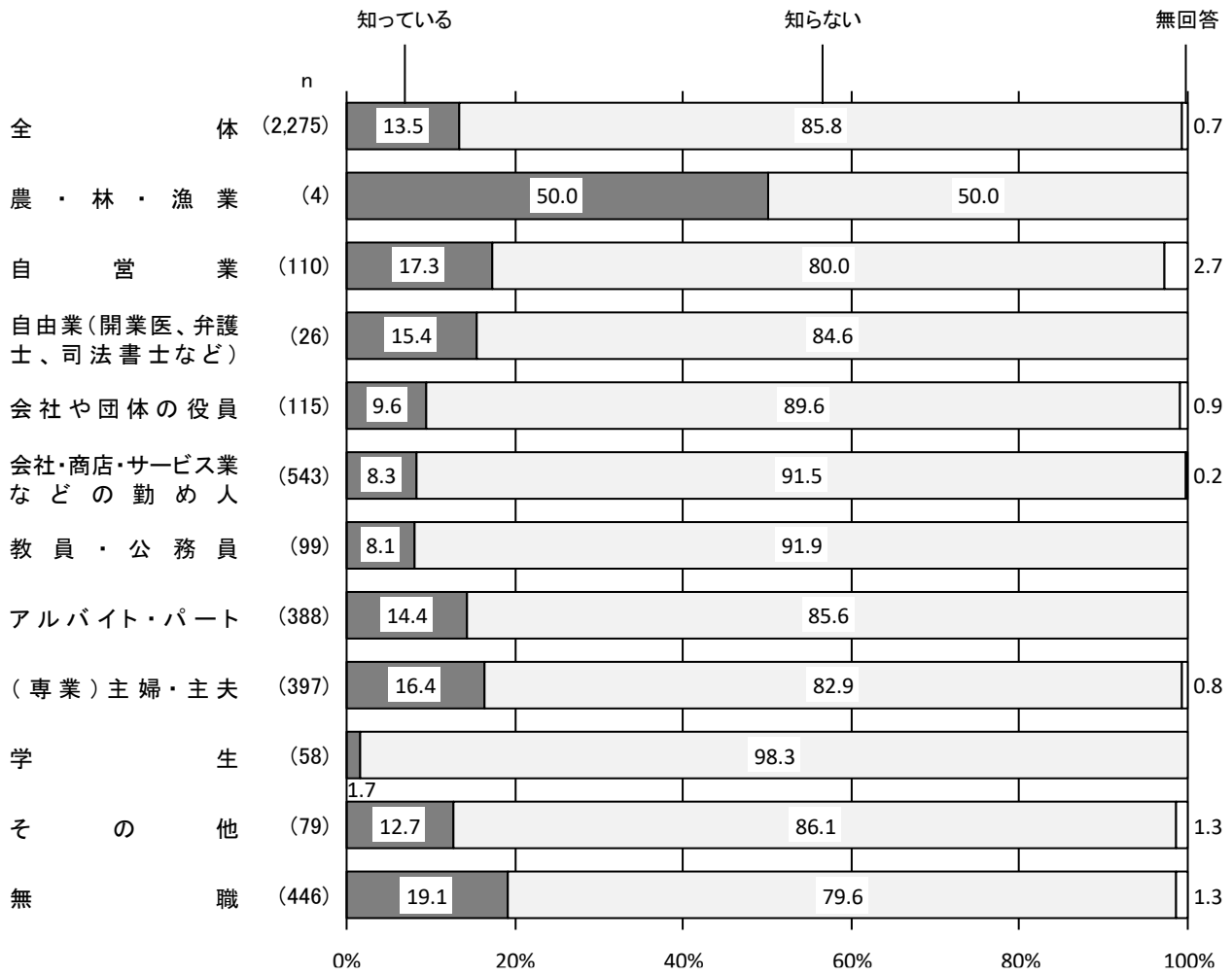
年齢別にみると、「知っている」は、65 歳以上 (19.4%) が 2 割弱と高くなっている。一方、「知らない」は、18~29 歳 (97.7%) が 10 割近く、50~59 歳 (91.2%) が 9 割強と高くなっている。(図 20-2)

図 20-3 「はちまるサポート」の認知度 - 居住地域別



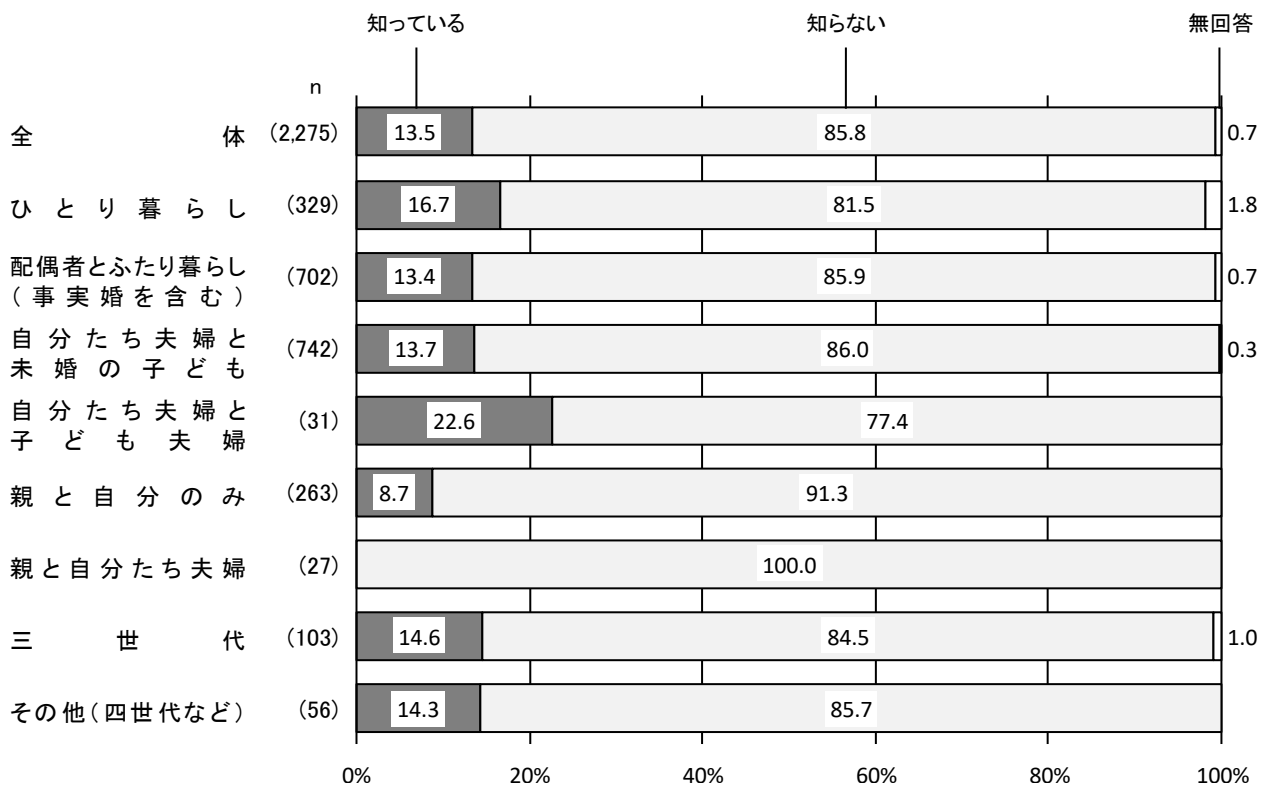
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 20-3)

図 20-4 「はちまるサポート」の認知度 - 職業別



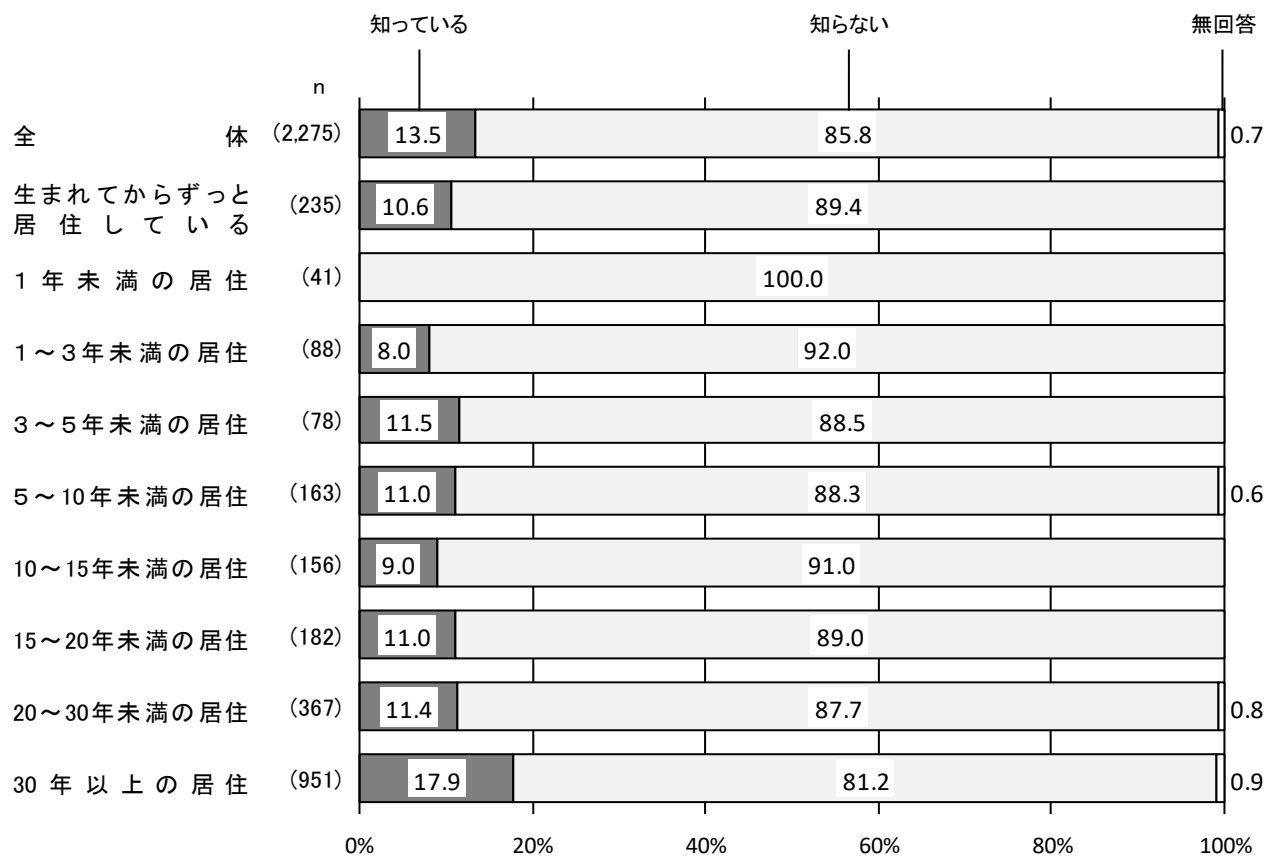
職業別にみると、「知っている」は、無職（19.1%）が2割弱と高くなっている。一方、「知らない」は、学生（98.3%）が10割近く、教員・公務員（91.9%）、会社・商店・サービス業などの勤め人（91.5%）がそれぞれ9割強と高くなっている。（図20-4）

図 20-5 「はちまるサポート」の認知度 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「知っている」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（22.6%）が2割強と高くなっている。一方、「知らない」は、親と自分のみ（91.3%）が9割強と高くなっている。（図 20-5）

図 20-6 「はちまるサポート」の認知度 - 居住年数別

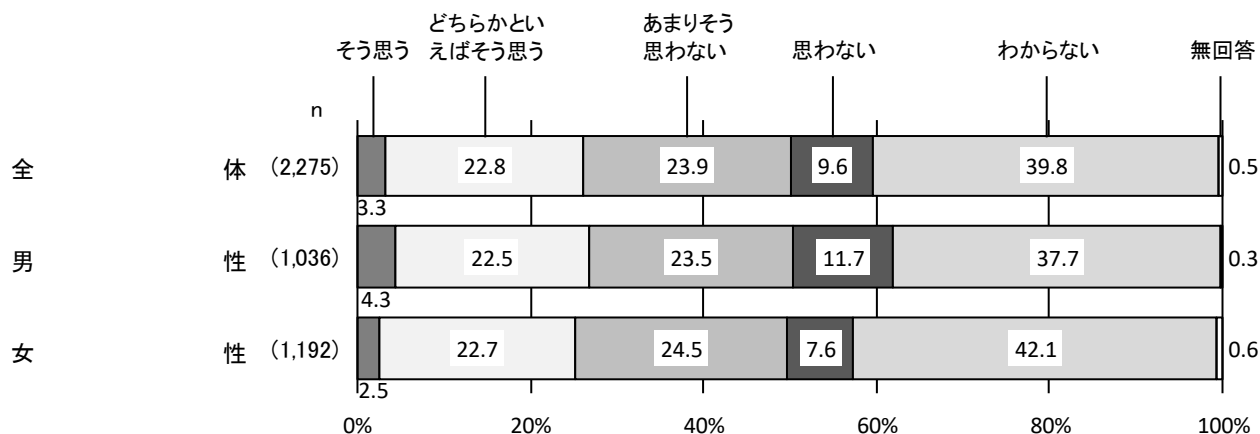


居住年数別にみると、「知らない」は、1年未満の居住（100.0%）が10割、1～3年未満の居住（92.0%）、10～15年未満の居住（91.0%）がそれぞれ9割強と高くなっている。（図 20-6）

(21) 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか

問 20 あなたは、八王子市が、「年齢、性別、国籍、障害の有無などにかかわらず誰もが活躍できる環境が整っているまち」になっていると思いますか。(〇は1つだけ)

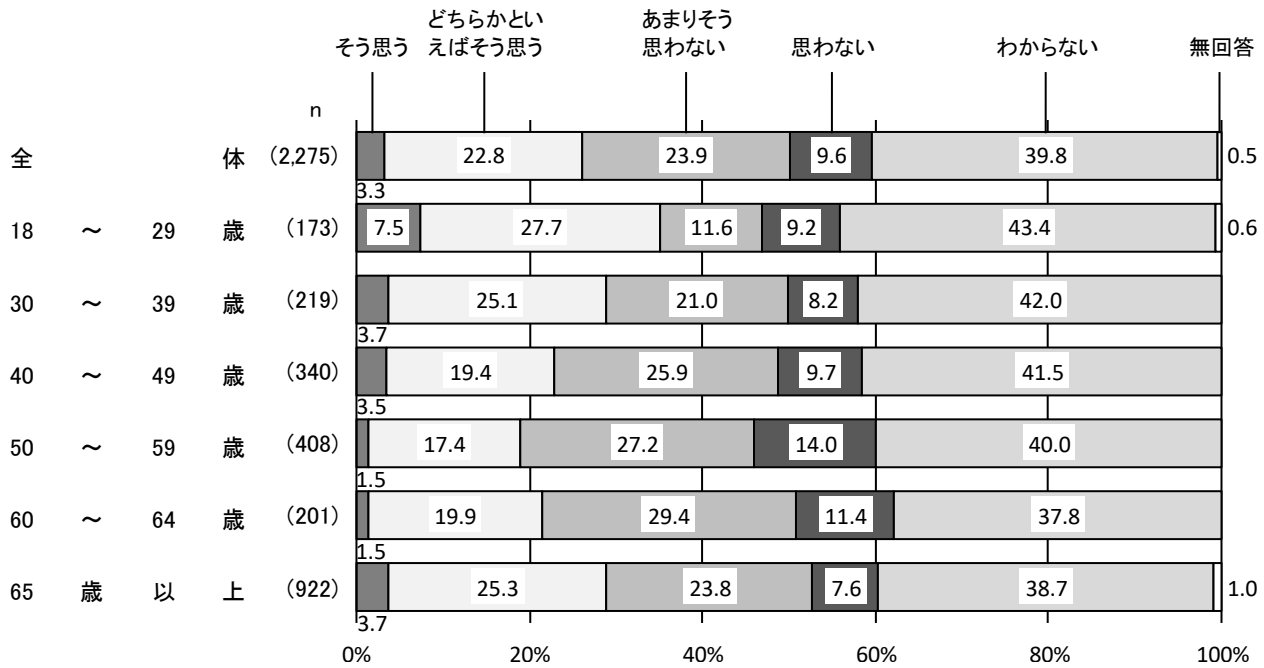
図 21-1 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか - 全体、性別



「年齢、性別、国籍、障害の有無などにかかわらず誰もが活躍できる環境が整っているまち」になっていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(3.3%)と「どちらかといえばそう思う」(22.8%)を合わせた《思う》(26.1%)は3割近くとなっている。一方、「あまりそう思わない」(23.9%)と「思わない」(9.6%)を合わせた《思わない》(33.5%)は3割強となっている。

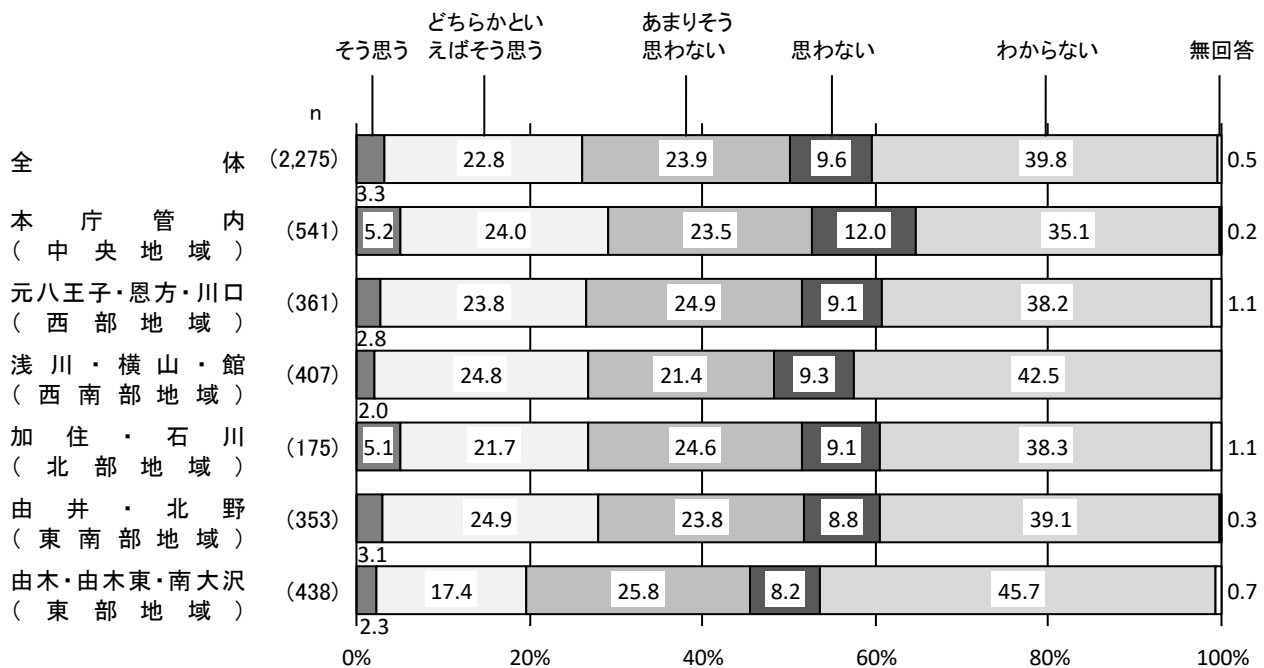
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 21-1)

図 21-2 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか - 年齢別



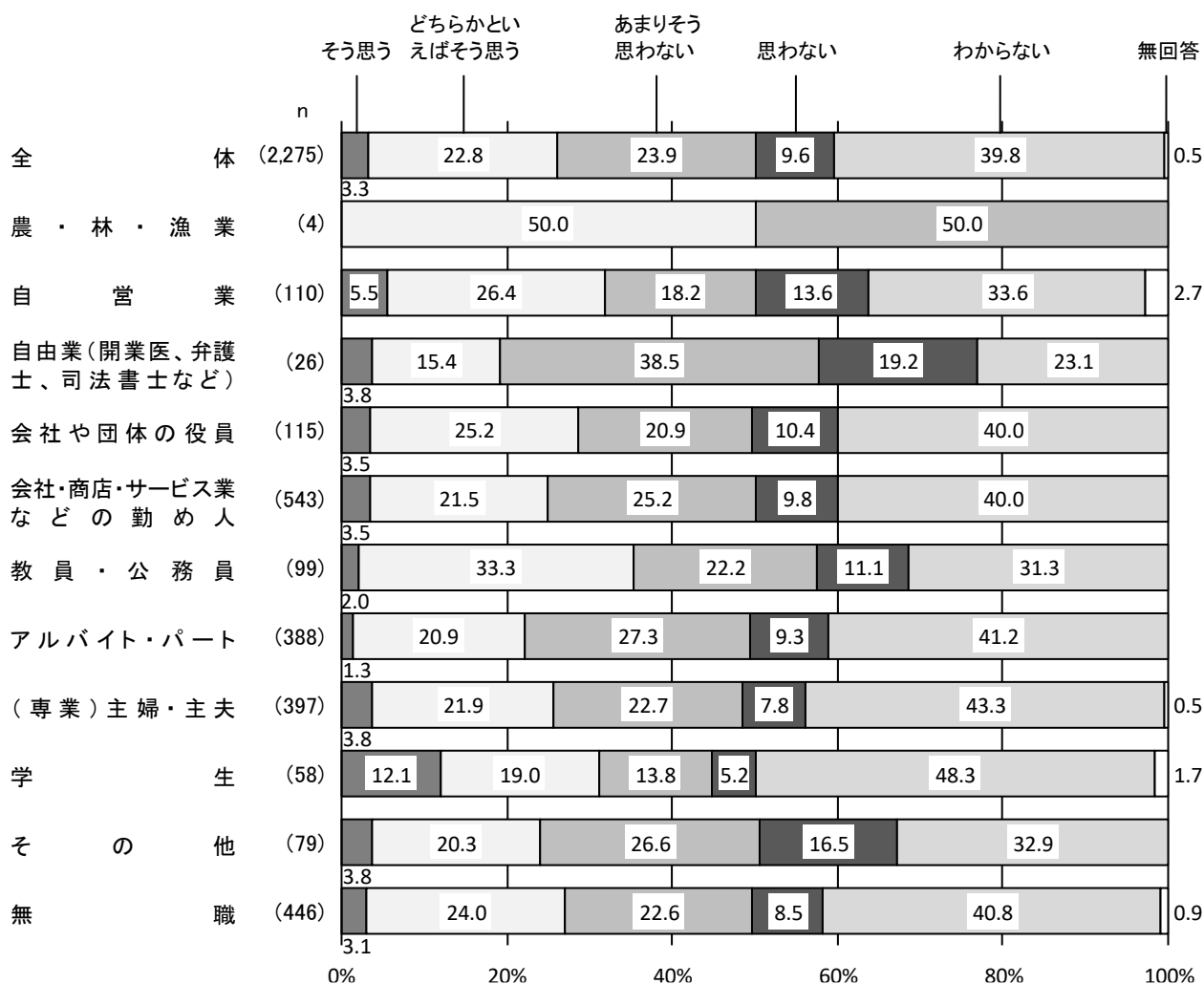
年齢別にみると、「思う」は、18~29 歳 (35.2%) が 3 割台半ばと高くなっている。一方、「思わない」は、50~59 歳 (41.2%) が 4 割強、60~64 歳 (40.8%) が約 4 割と高くなっている。(図 21-2)

図 21-3 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか - 居住地域別



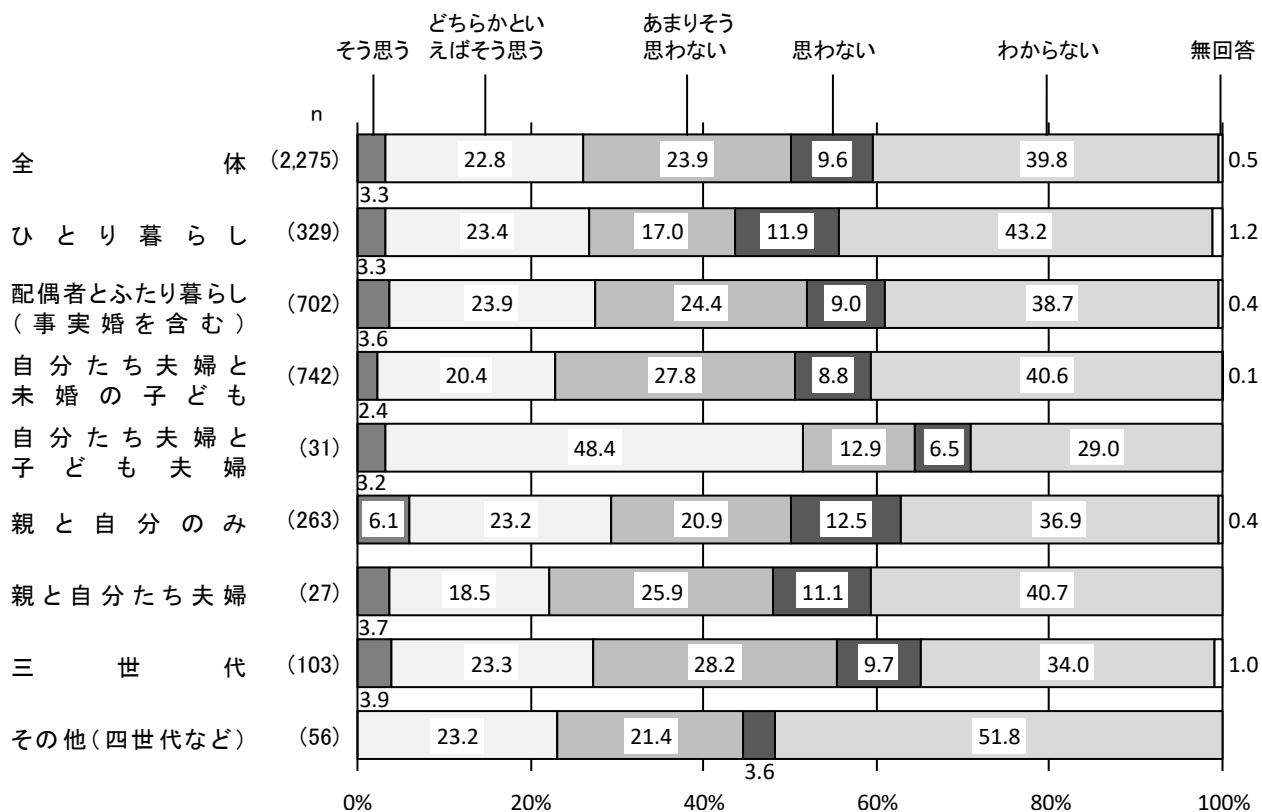
居住地域別にみると、「思う」は、由木・由木東・南大沢 (東部地域) (19.7%) が 2 割弱と低くなっている。(図 21-3)

図 21-4 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか - 職業別



職業別にみると、「思う」は、教員・公務員（35.3%）が3割台半ば、自営業（31.9%）が3割強と高くなっている。一方、「思わない」は、その他（43.1%）が4割強と高くなっている。（図 21-4）

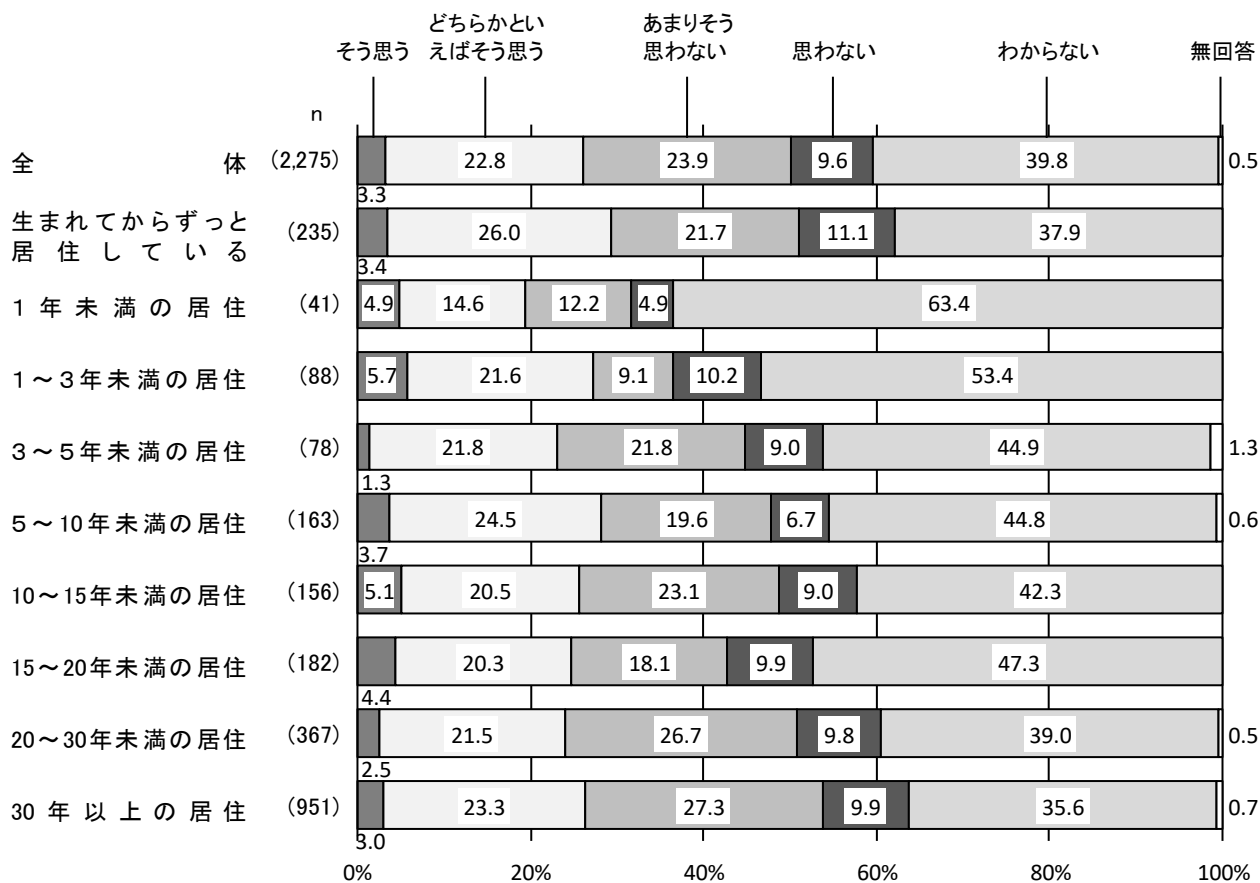
図 21-5 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（51.6%）が5割強と高くなっている。

(図 21-5)

図 21-6 誰もが活躍できる環境が整っていると思うか - 居住年数別



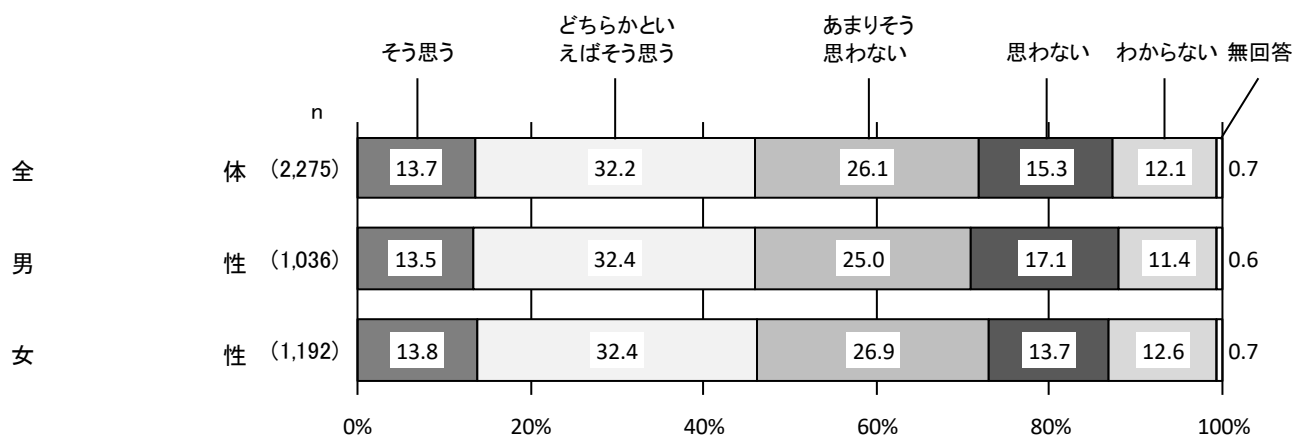
居住年数別にみると、「思わない」は、1年未満の居住（17.1%）が2割近くと低くなっている。

(図 21-6)

(22) 外国人と交流したいと思うか

問 21 あなたは、外国人と交流したいと思いますか。(○は1つだけ)

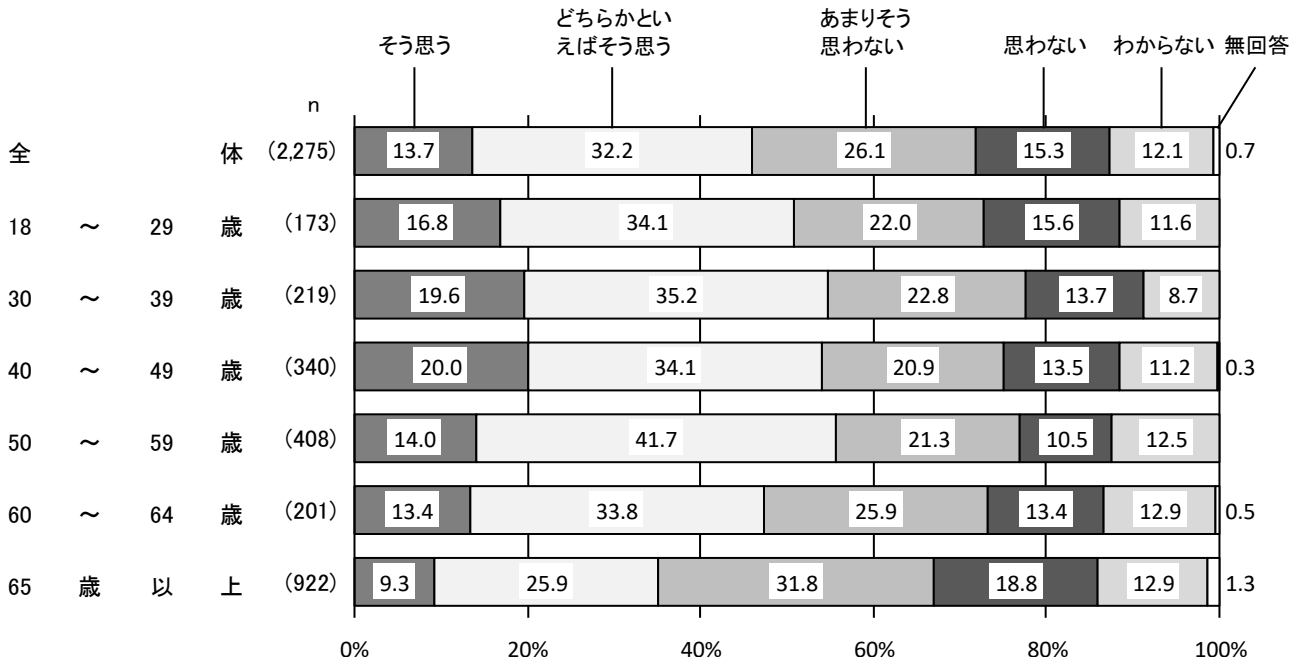
図 22-1 外国人と交流したいと思うか — 全体、性別



外国人と交流したいと思うかを聞いたところ、「そう思う」(13.7%)と「どちらかといえばそう思う」(32.2%)を合わせた《思う》(45.9%)は4割台半ばとなっている。一方、「あまりそう思わない」(26.1%)と「思わない」(15.3%)を合わせた《思わない》(41.4%)は4割強となっている。

性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 22-1)

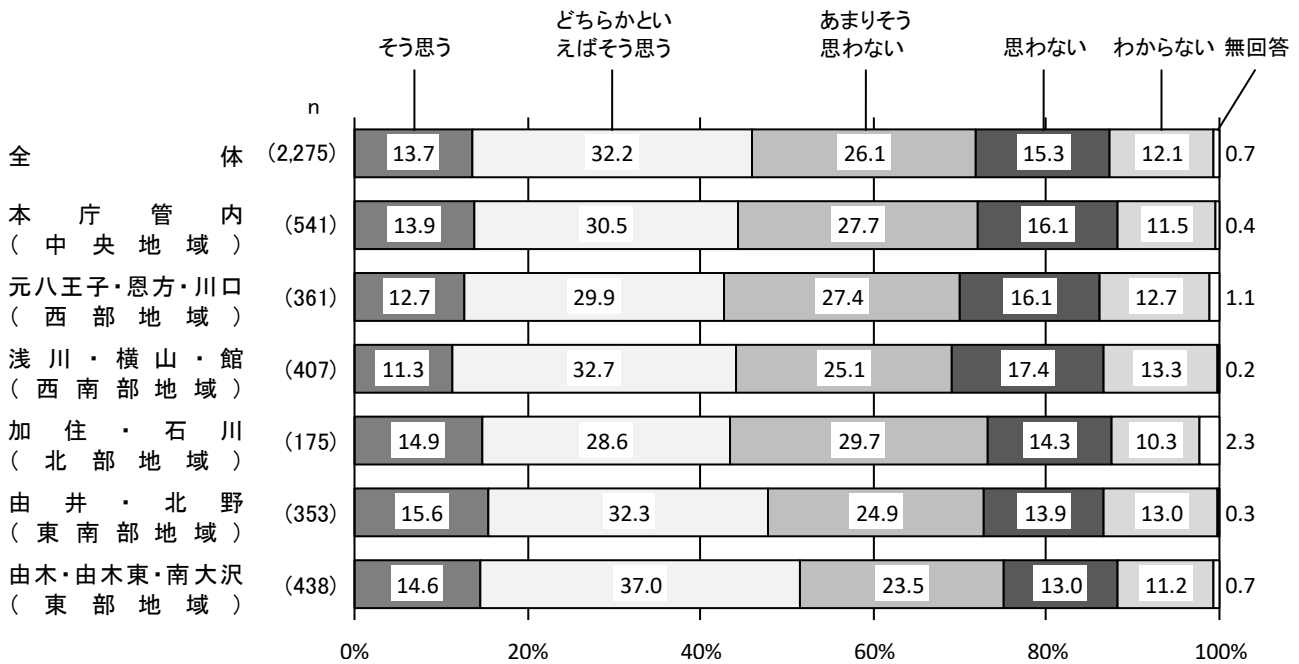
図 22-2 外国人と交流したいと思うか - 年齢別



年齢別にみると、「思う」は、50～59歳（55.7%）、30～39歳（54.8%）、40～49歳（54.1%）がそれぞれ5割台半ばと高くなっている。一方、「思わない」は、65歳以上（50.6%）が約5割と高くなっている。

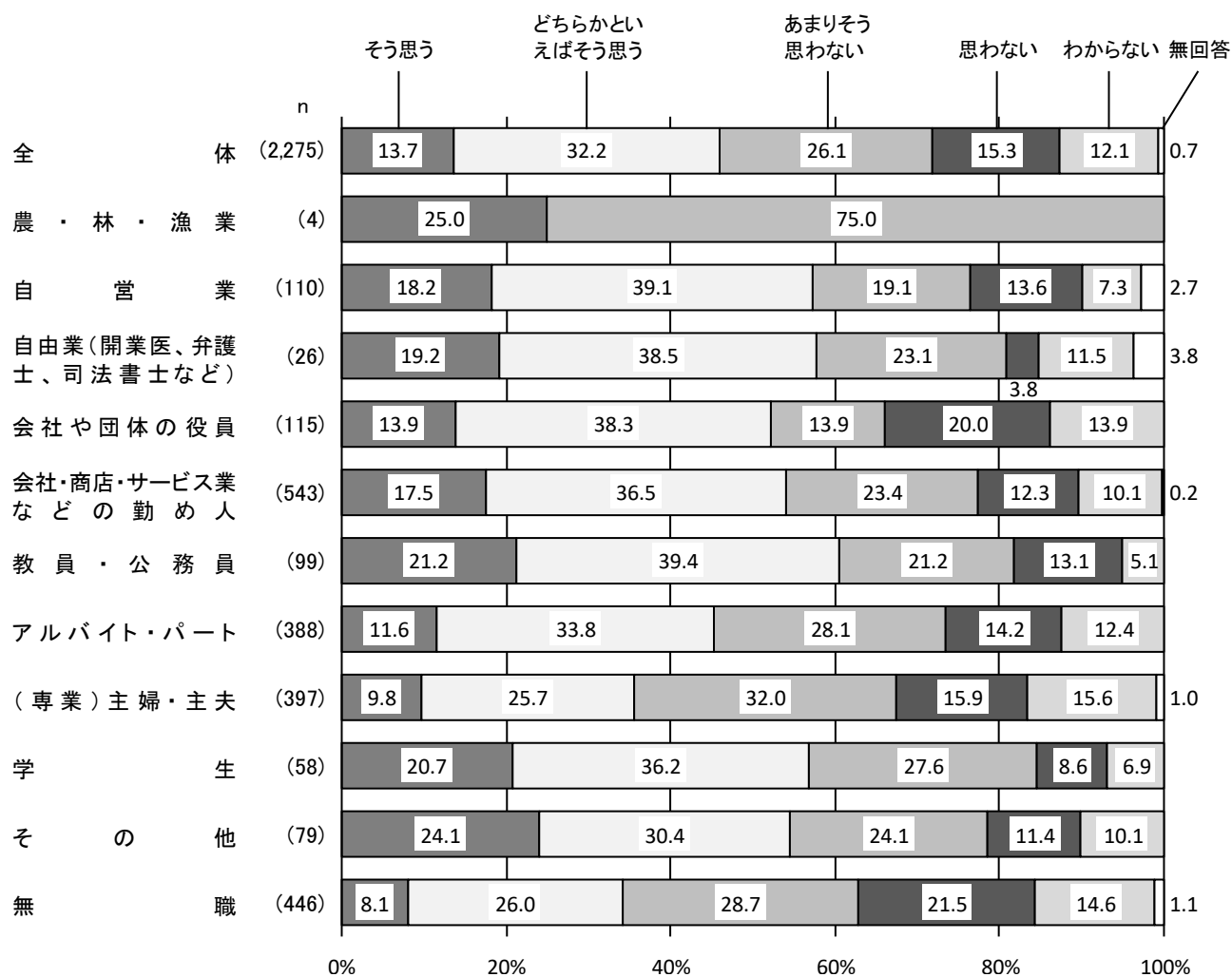
(図 22-2)

図 22-3 外国人と交流したいと思うか - 居住地域別



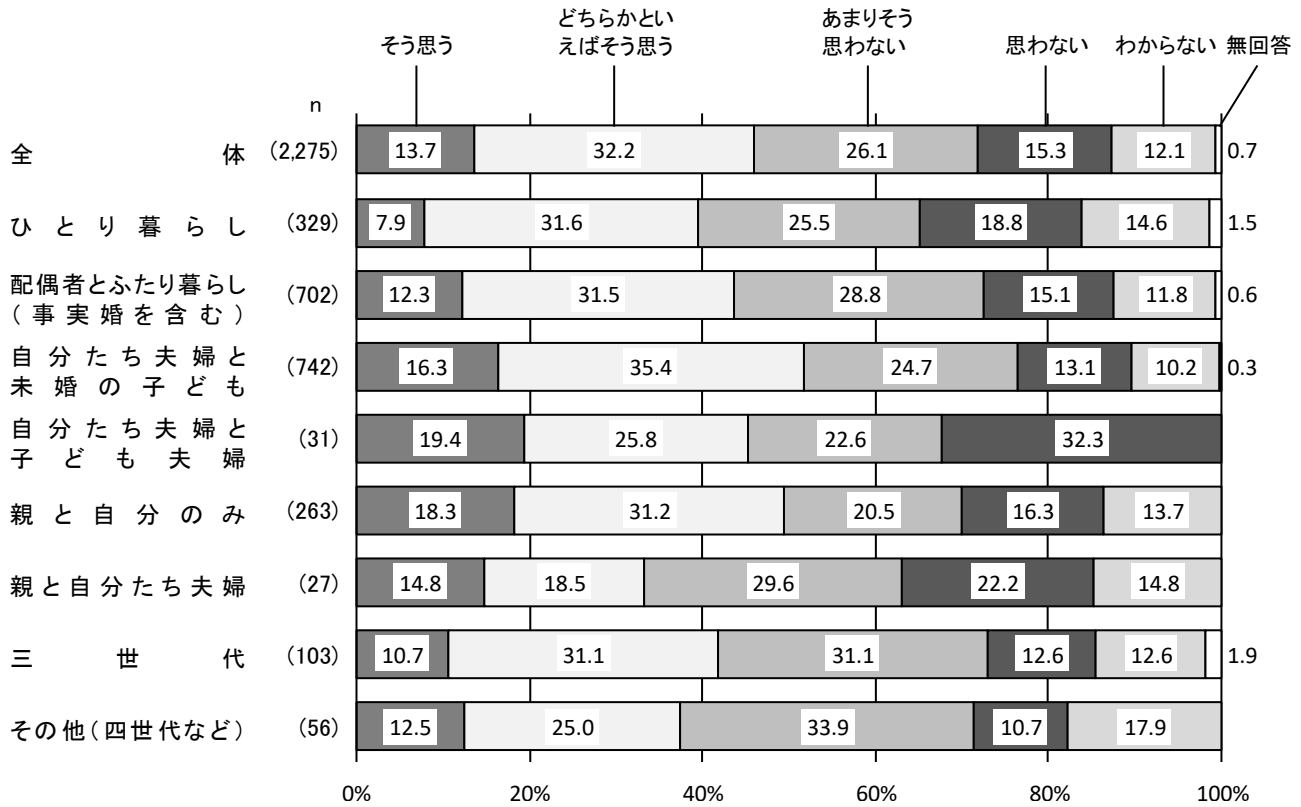
居住地域別にみると、「思う」は、由木・由木東・南大沢（東部地域）（51.6%）が5割強と高くなっている。（図 22-3）

図 22-4 外国人と交流したいと思うか - 職業別



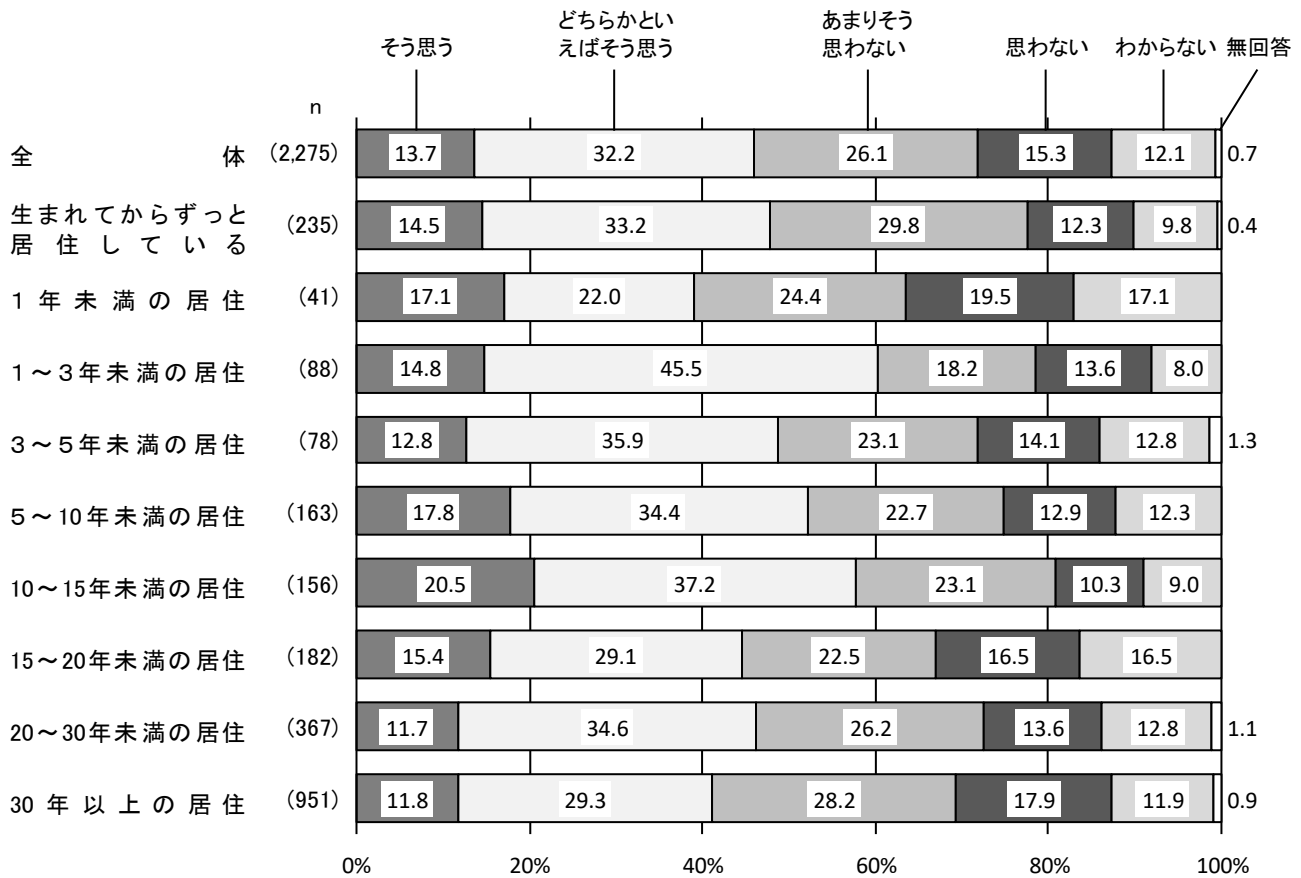
職業別にみると、「思う」は、教員・公務員 (60.6%) が約6割、自営業 (57.3%)、学生 (56.9%) がそれぞれ6割近く、その他 (54.5%)、会社・商店・サービス業などの勤め人 (54.0%) がそれぞれ5割台半ば、会社や団体の役員 (52.2%) が5割強と高くなっている。一方、「思わない」は、無職 (50.2%) が約5割、(専業)主婦・主夫 (47.9%) が5割近くと高くなっている。(図 22-4)

図 22-5 外国人と交流したいと思うか — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（51.7%）が5割強と高くなっている。一方、「思わない」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（54.9%）が5割台半ばと高くなっている。（図 22-5）

図 22-6 外国人と交流したいと思うか — 居住年数別

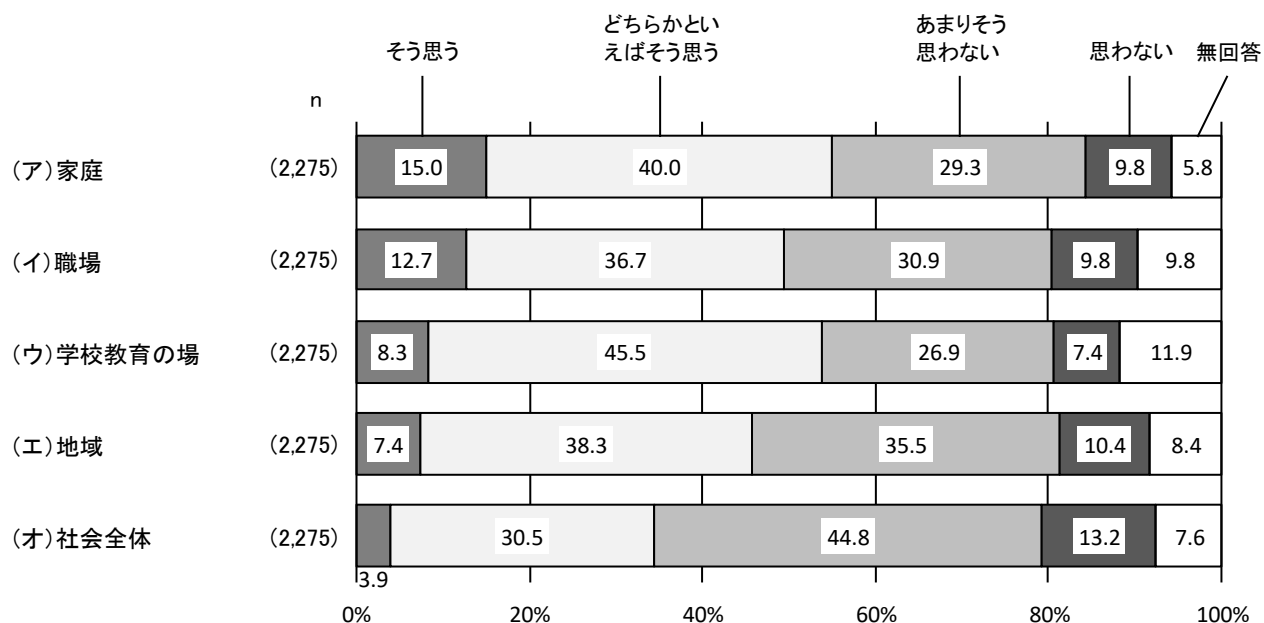


居住年数別にみると、「思う」は、1～3年未満の居住（60.3%）が約6割、10～15年未満の居住（57.7%）が6割近く、5～10年未満の居住（52.2%）が5割強と高くなっている。（図 22-6）

(23) 男女共同参画が実現していると思うか

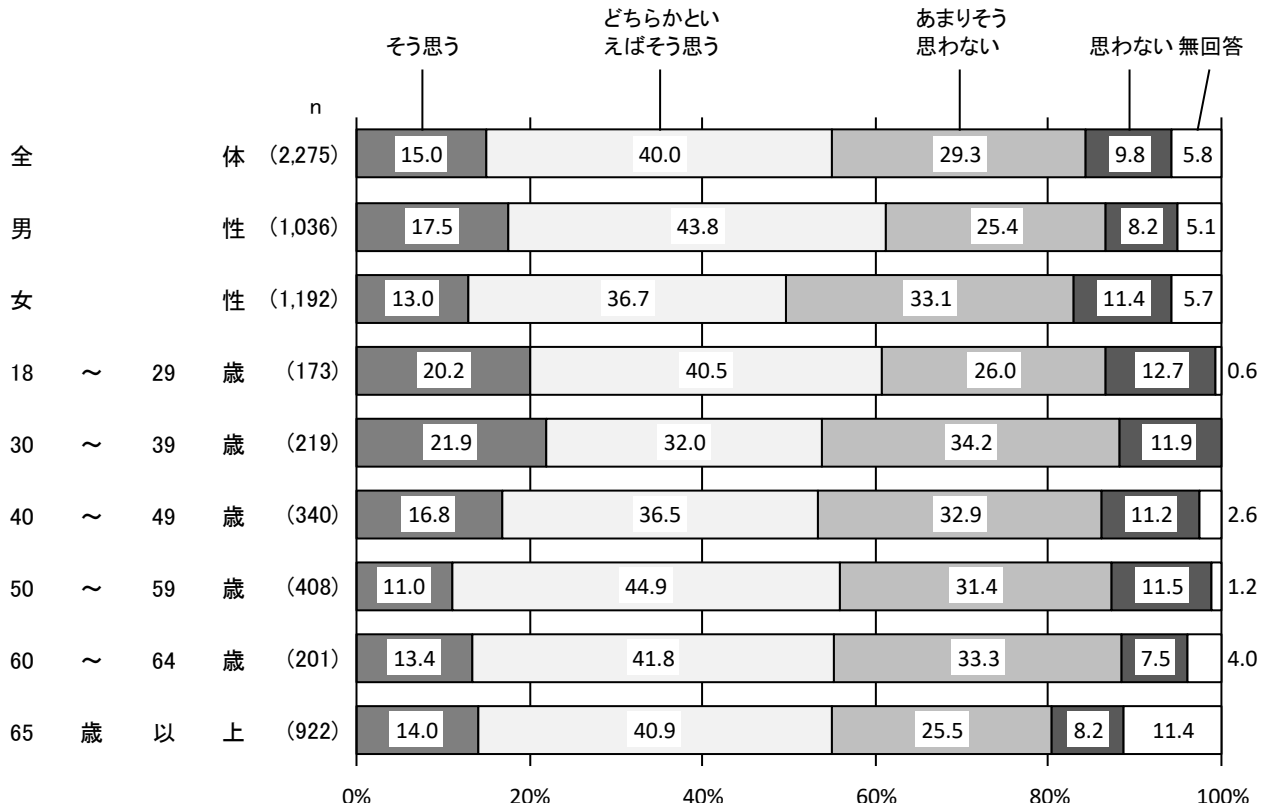
問 22 あなたは、次の（ア）～（オ）の分野で男女共同参画が実現していると思いますか。（ア）～（オ）の各項目それぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。（〇はそれぞれ1つずつ）

図 23-1 男女共同参画が実現していると思うか - 全体



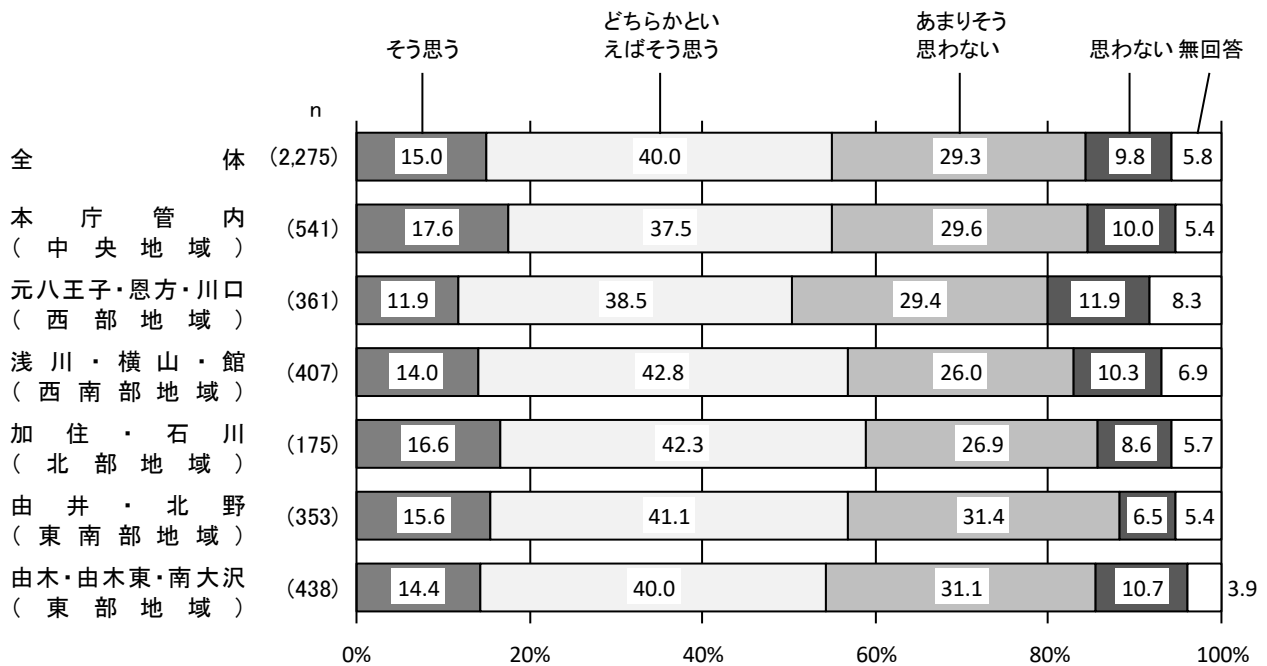
男女共同参画が実現していると思うかを聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた《思う》は、「家庭」(55.0%)が5割台半ばと最も高くなっている。次いで、「学校教育の場」(53.8%)が5割強、「職場」(49.4%)が5割弱と高くなっている。一方、「あまりそう思わない」と「思わない」を合わせた《思わない》は、「社会全体」(58.0%)が6割近くと最も高くなっている。次いで、「地域」(45.9%)が4割台半ばと高くなっている。(図 23-1)

図 23-2 男女共同参画が実現していると思うか（ア）家庭 — 性別、年齢別



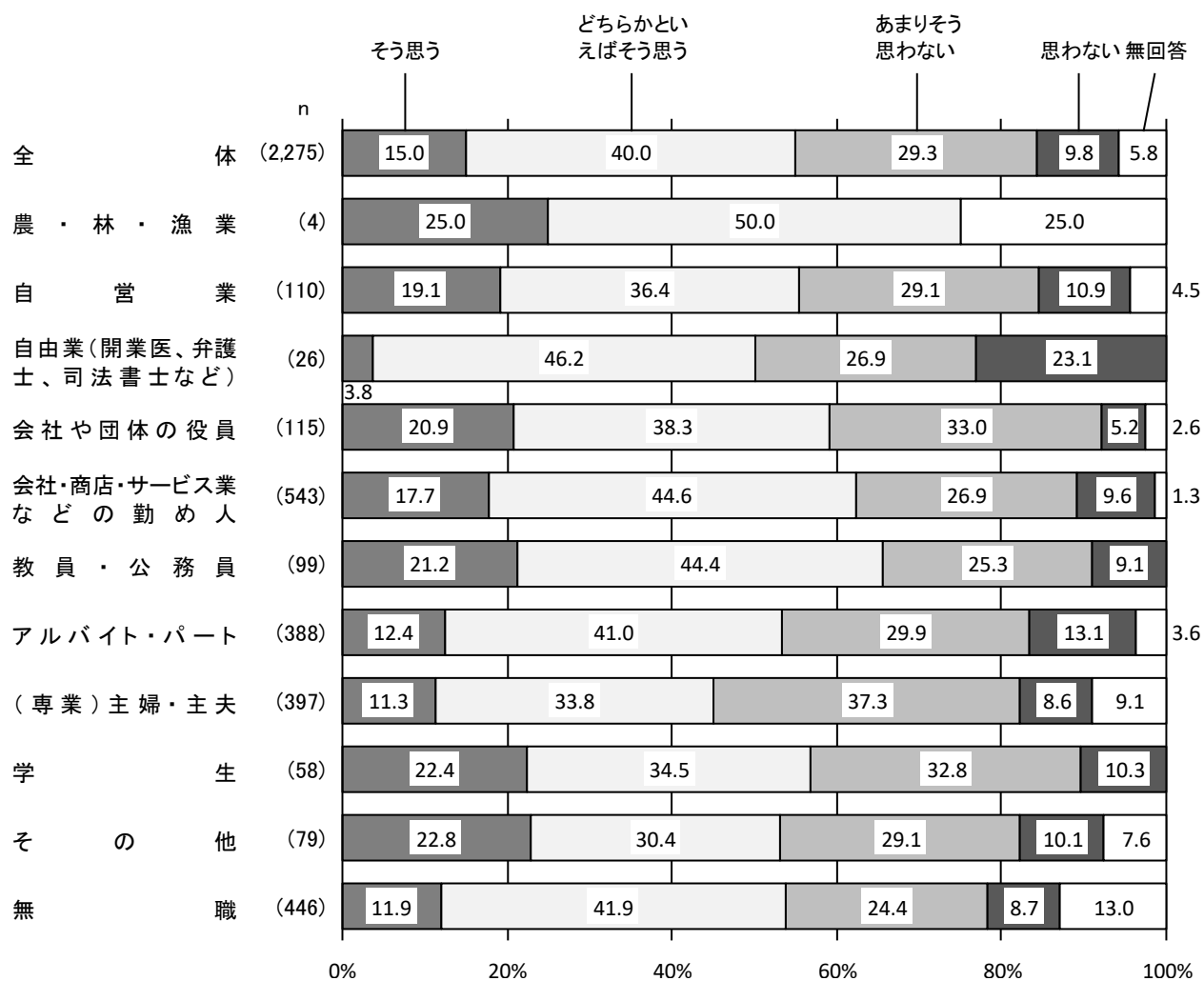
性別にみると、「思う」は、男性（61.3%）が女性（49.7%）より 11.6 ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、「思う」は、18～29 歳（60.7%）が約 6 割と高くなっている。一方、「思わない」は、30～39 歳（46.1%）が 5 割近くと高くなっている。（図 23-2）

図 23-3 男女共同参画が実現していると思うか（ア）家庭 — 居住地域別



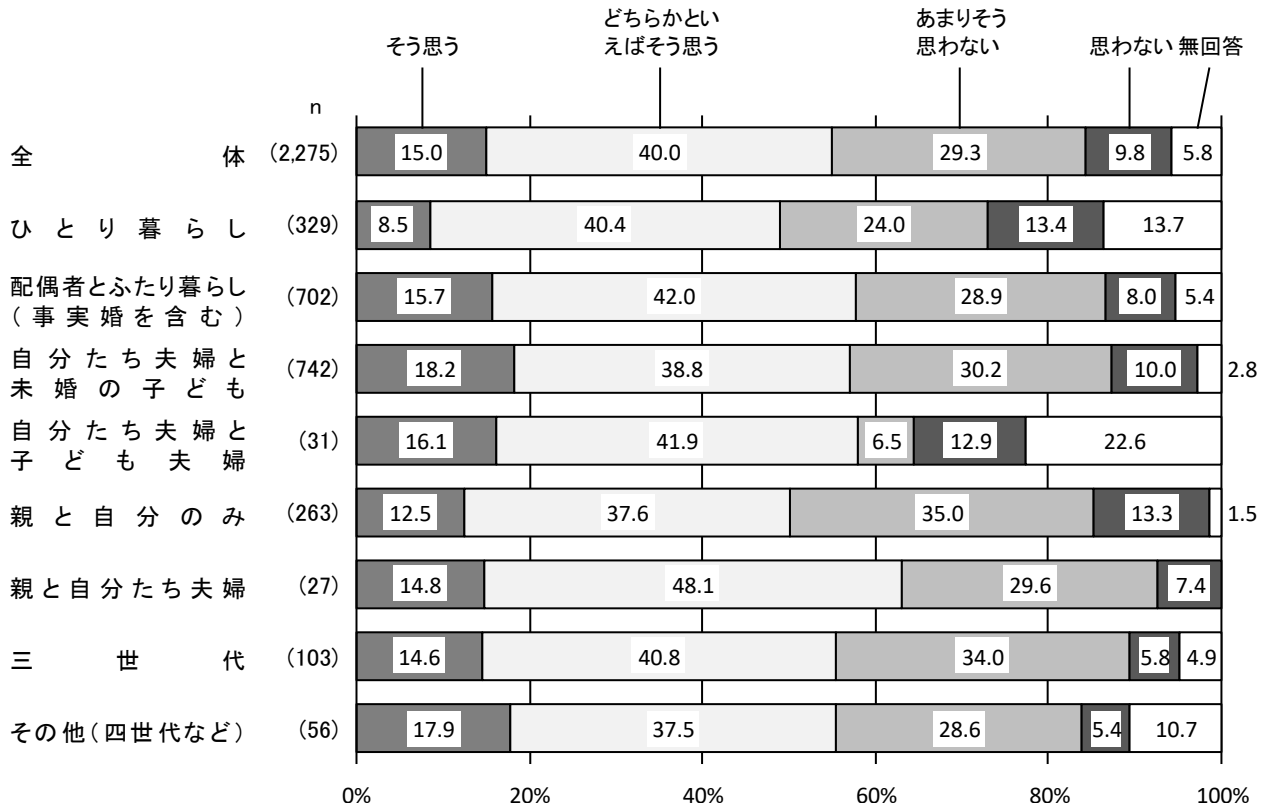
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。（図 23-3）

図 23-4 男女共同参画が実現していると思うか（ア）家庭 — 職業別



職業別にみると、「思う」は、教員・公務員（65.6%）が6割台半ば、会社・商店・サービス業などの勤め人（62.3%）が6割強と高くなっている。一方、「思わない」は、(専業)主婦・主夫（45.9%）が4割台半ばと高くなっている。(図 23-4)

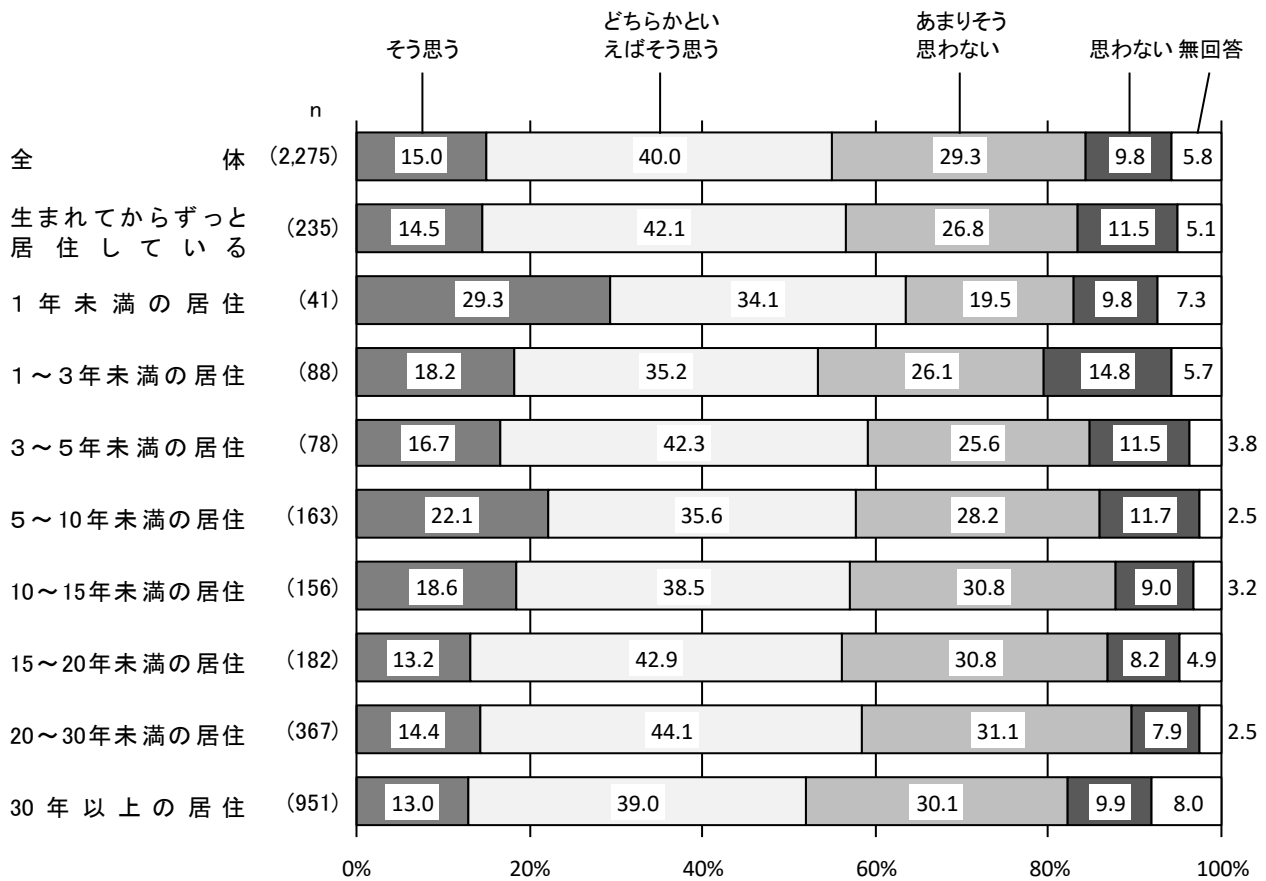
図 23-5 男女共同参画が実現していると思うか（ア）家庭 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思わない」は、親と自分のみ（48.3%）が5割近くと高くなっている。

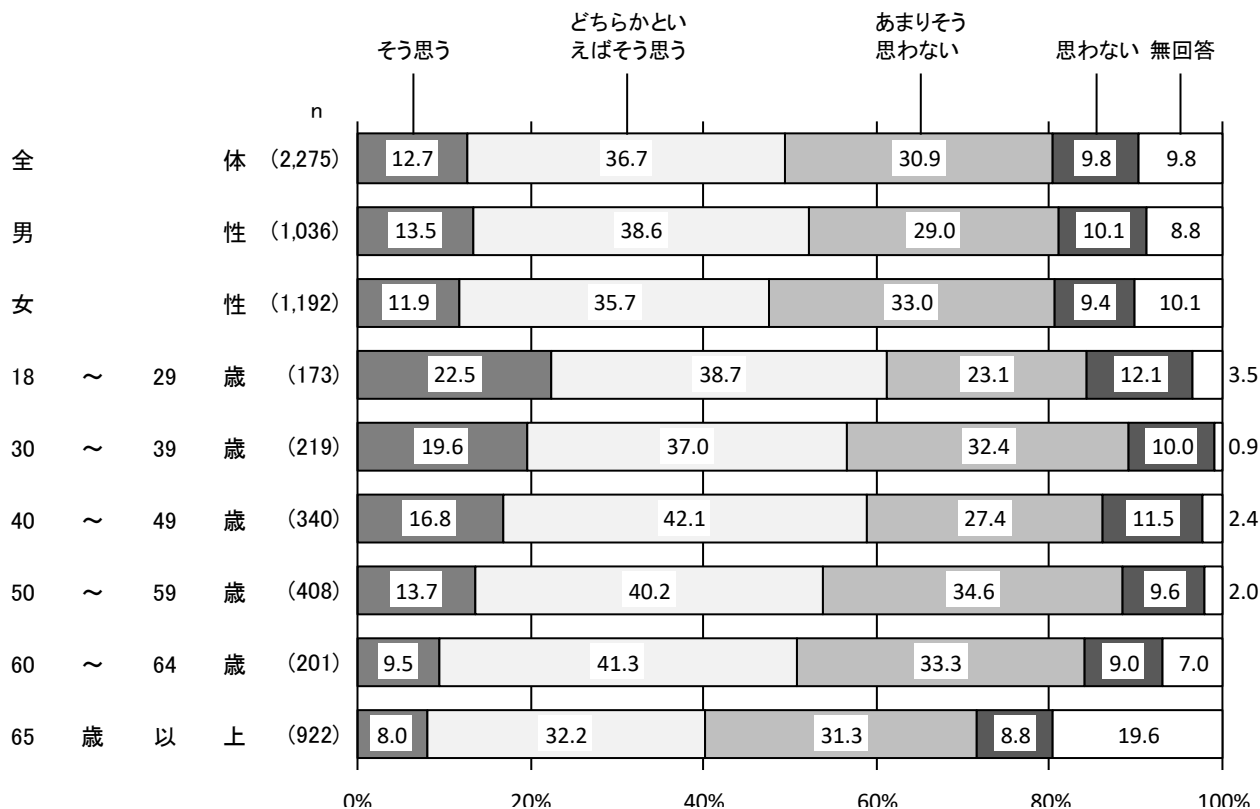
(図 23-5)

図 23-6 男女共同参画が実現していると思うか（ア）家庭 — 居住年数別



居住年数別にみると、「思う」は、1年未満の居住（63.4%）が6割強と高くなっている。（図 23-6）

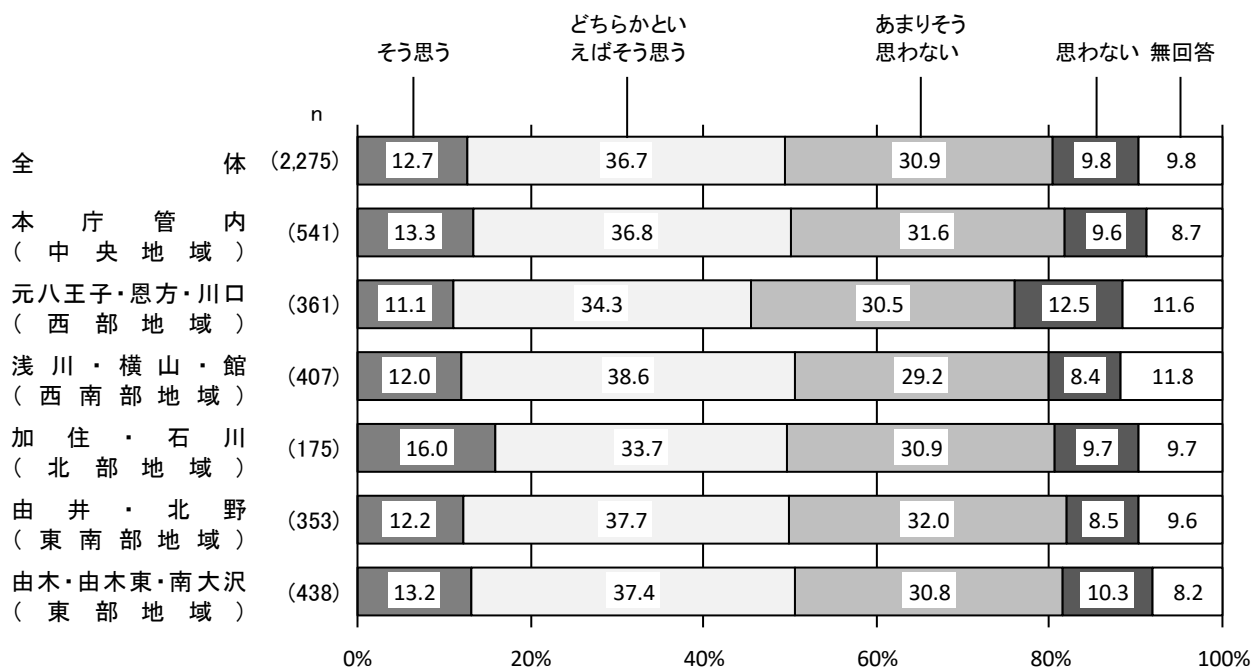
図 23-7 男女共同参画が実現していると思うか (イ) 職場 — 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。

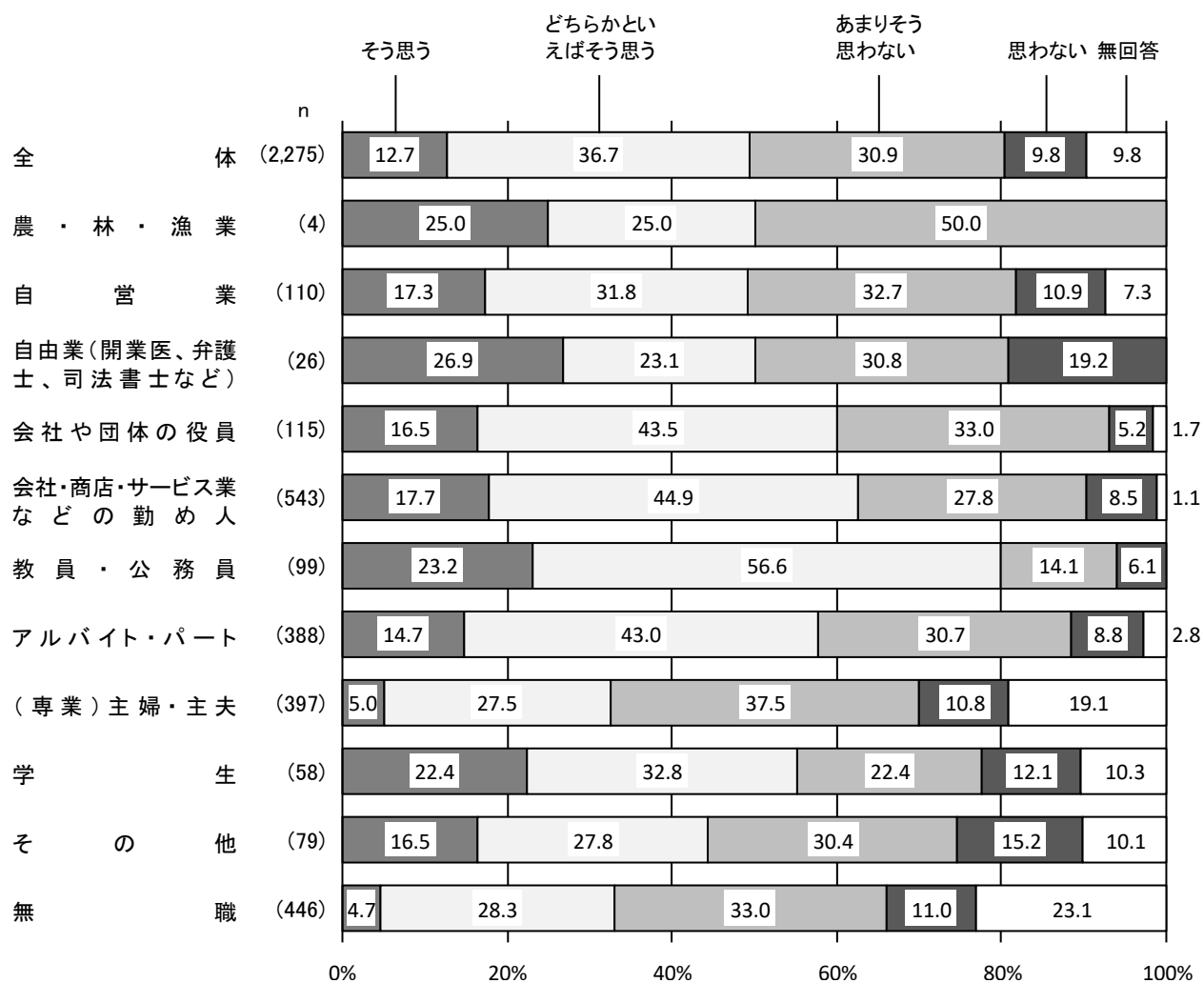
年齢別にみると、「思う」は、18~29歳 (61.2%) が6割強、40~49歳 (58.9%)、30~39歳 (56.6%) がそれぞれ6割近くと高くなっている。(図 23-7)

図 23-8 男女共同参画が実現していると思うか (イ) 職場 — 居住地域別



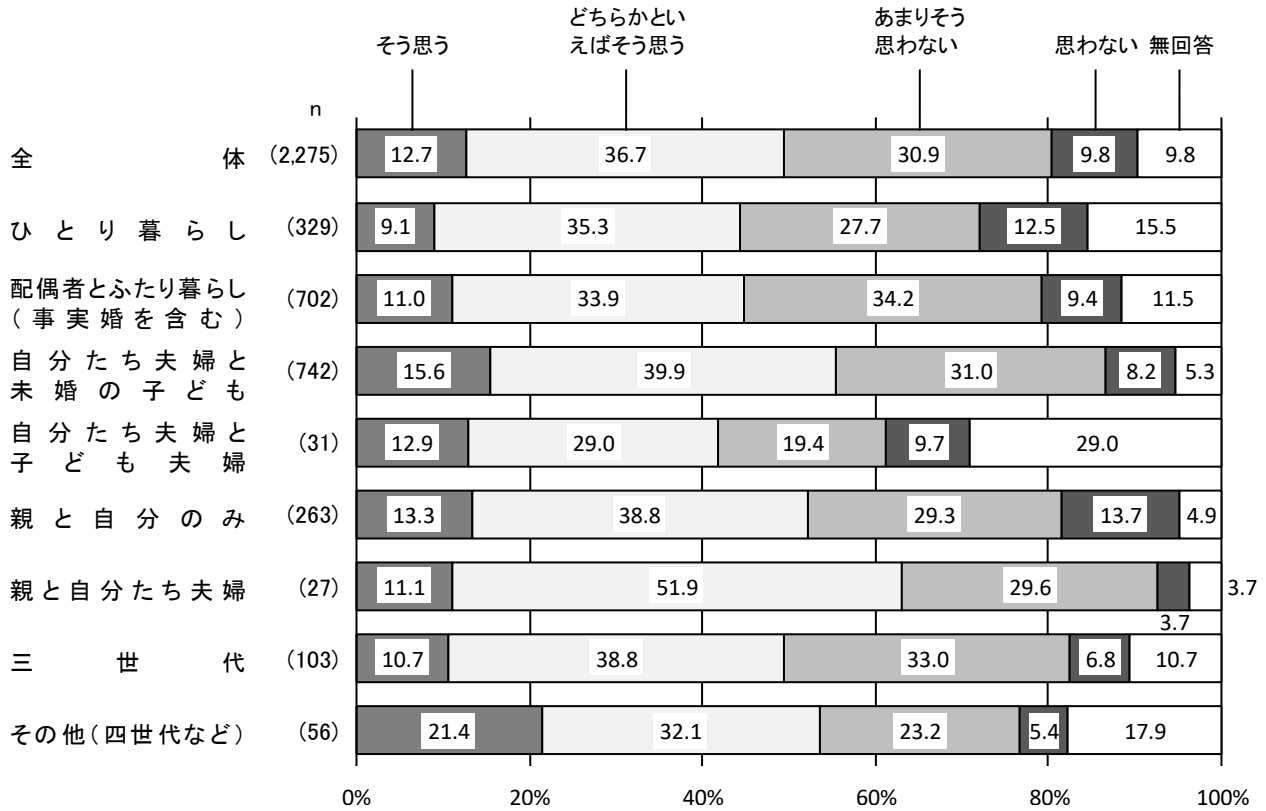
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 23-8)

図 23-9 男女共同参画が実現していると思うか (イ) 職場 — 職業別



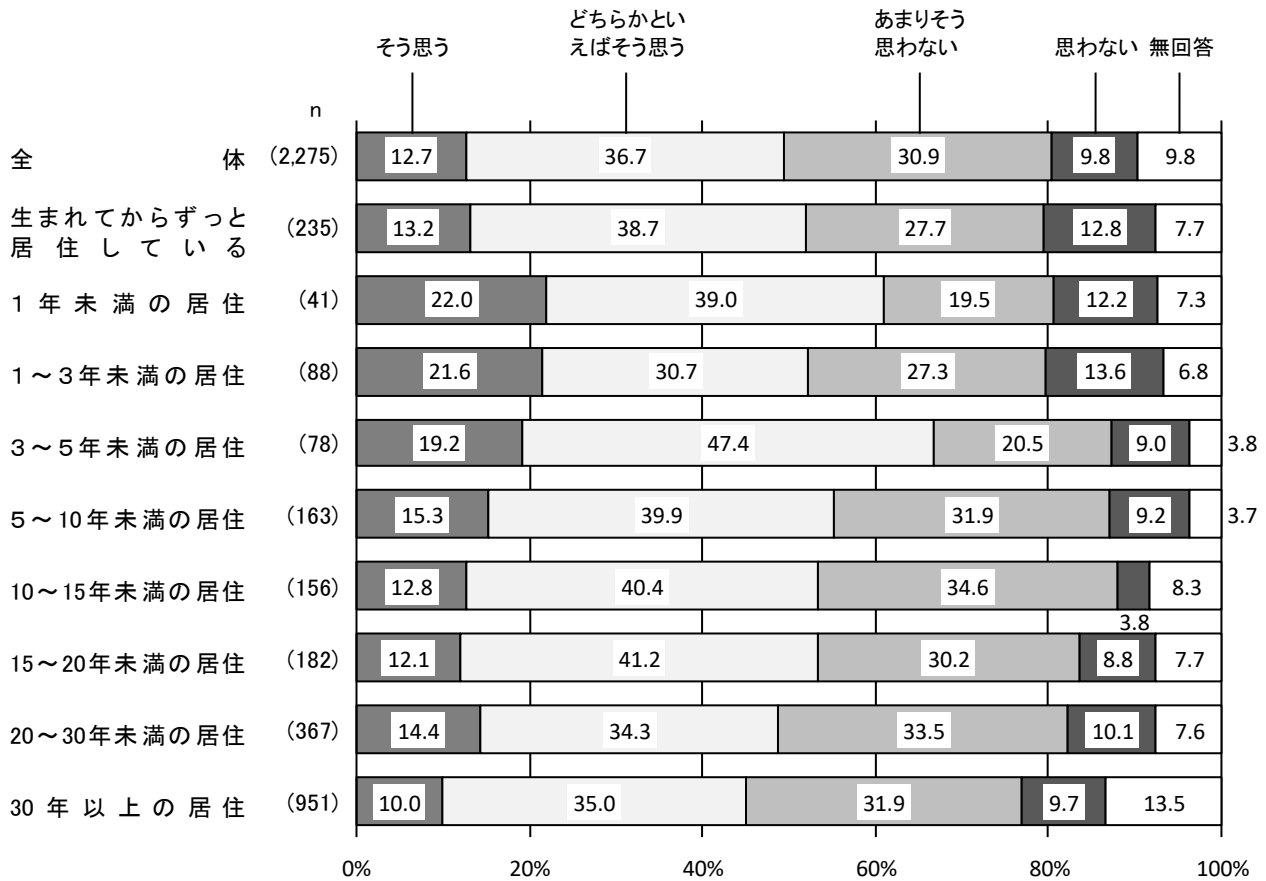
職業別にみると、「思う」は、教員・公務員（79.8%）が8割弱、会社・商店・サービス業などの勤め人（62.6%）が6割強、会社や団体の役員（60.0%）が6割、アルバイト・パート（57.7%）が6割近く、学生（55.2%）が5割台半ばと高くなっている。一方、「思わない」は、(専業)主婦・主夫（48.3%）が5割近くと高くなっている。(図 23-9)

図 23-10 男女共同参画が実現していると思うか (イ) 職場 — 世帯構成別



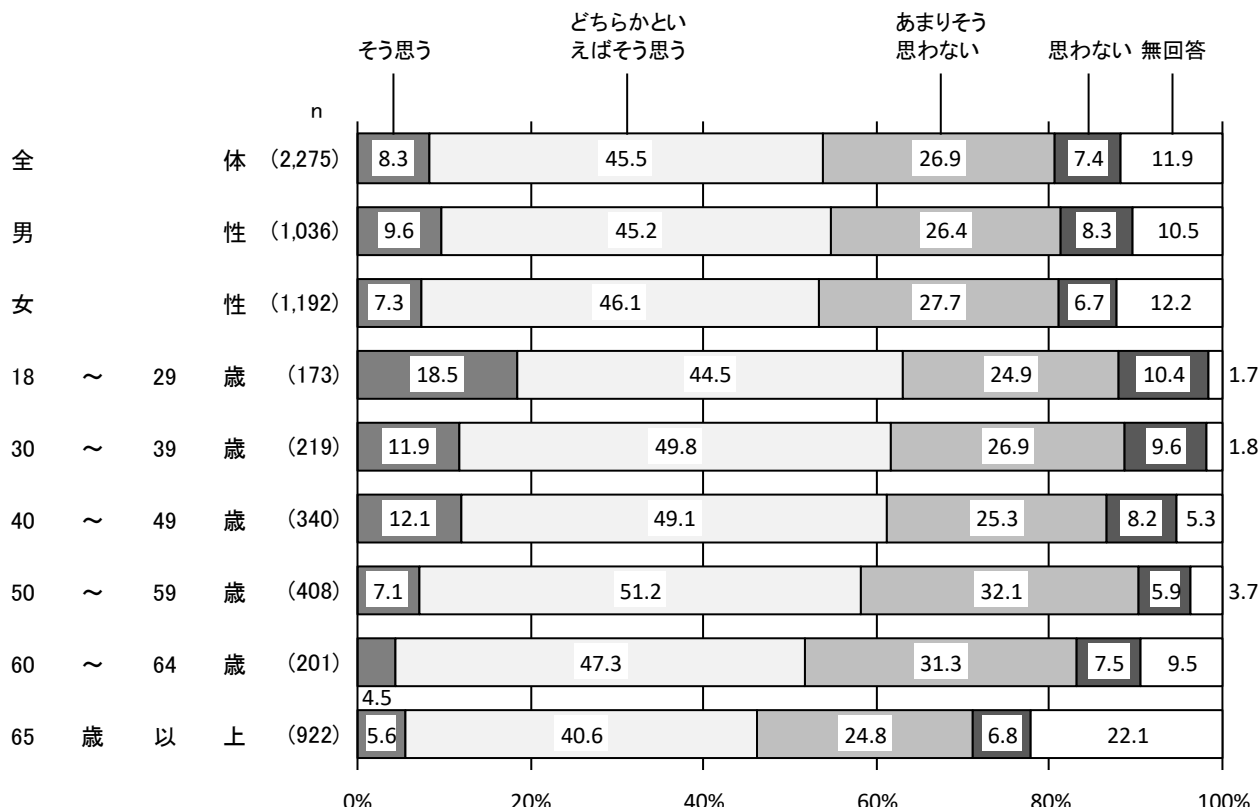
世帯構成別にみると、「思う」は、自分たち夫婦と未婚の子ども (55.5%) が5割台半ばと高くなっている。(図 23-10)

図 23-11 男女共同参画が実現していると思うか（イ）職場 — 居住年数別



居住年数別にみると、「思う」は、3～5年未満の居住（66.6%）が7割近く、1年未満の居住（61.0%）が6割強、5～10年未満の居住（55.2%）が5割台半ばと高くなっている。（図 23-11）

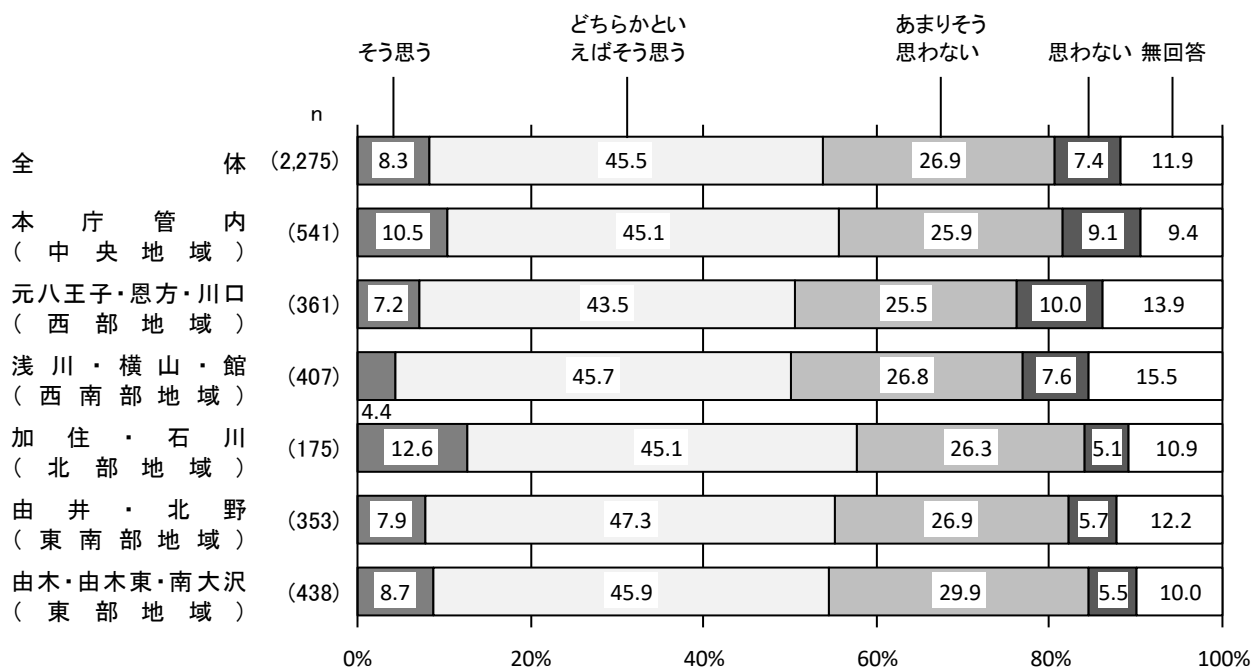
図 23-12 男女共同参画が実現していると思うか（ウ）学校教育の場 — 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。

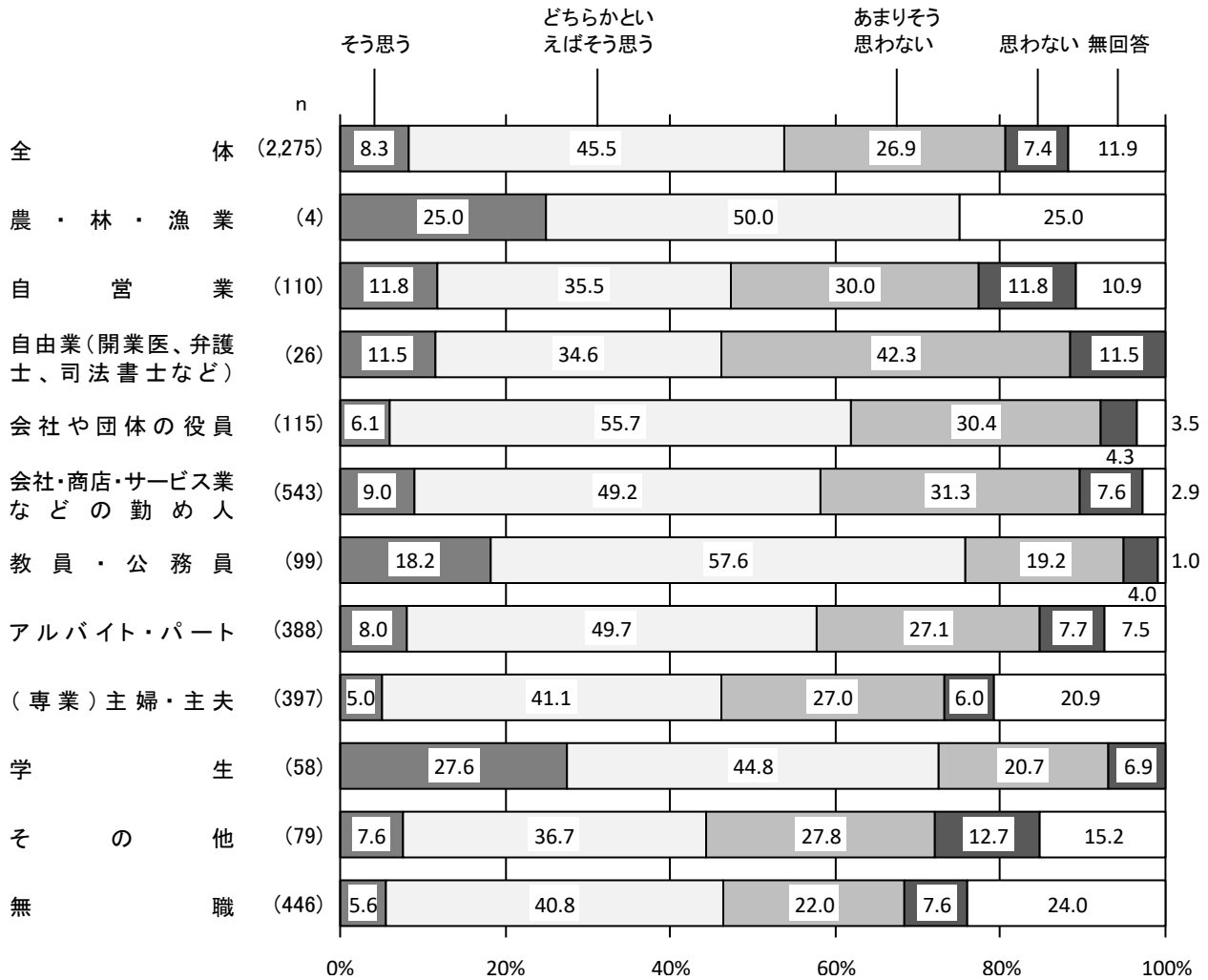
年齢別にみると、「思う」は、18～29歳（63.0%）、30～39歳（61.7%）、40～49歳（61.2%）がそれぞれ6割強と高くなっている。（図 23-12）

図 23-13 男女共同参画が実現していると思うか（ウ）学校教育の場 — 居住地域別



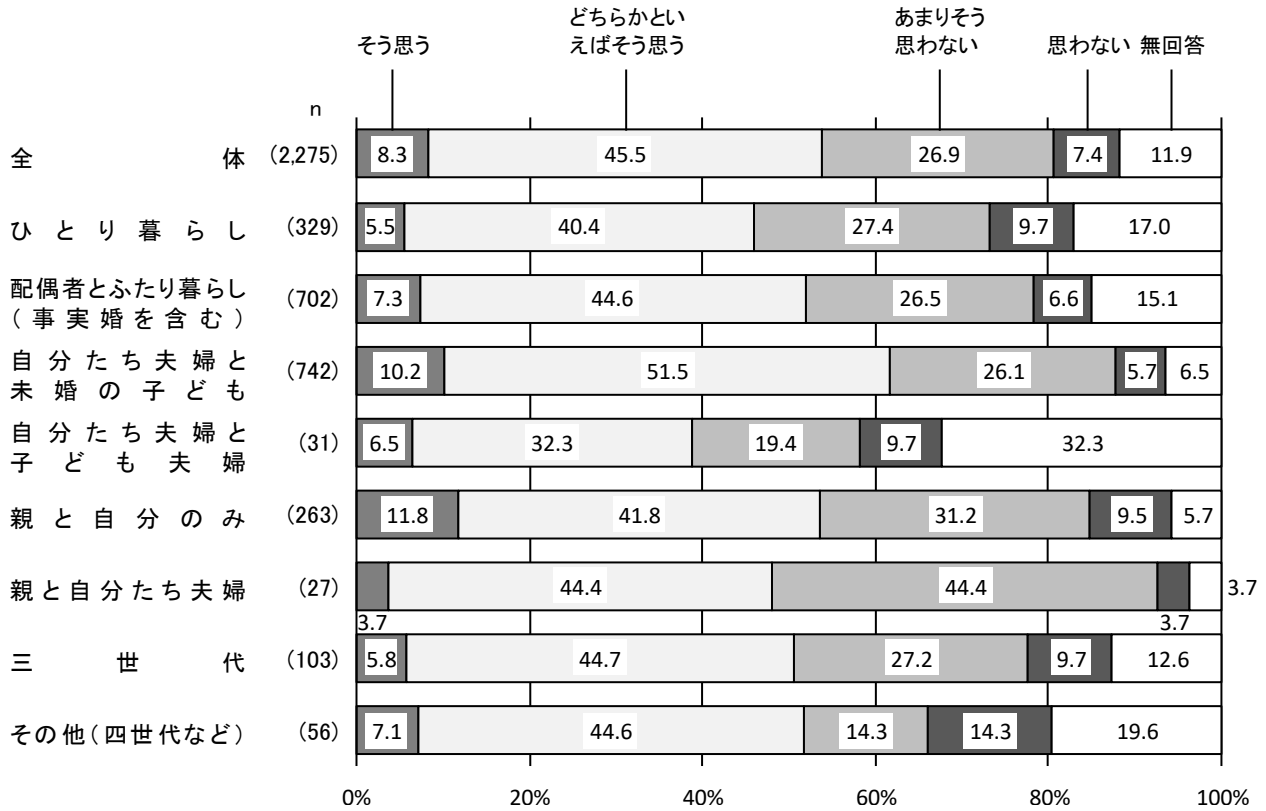
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。（図 23-13）

図 23-14 男女共同参画が実現していると思うか（ウ）学校教育の場 — 職業別



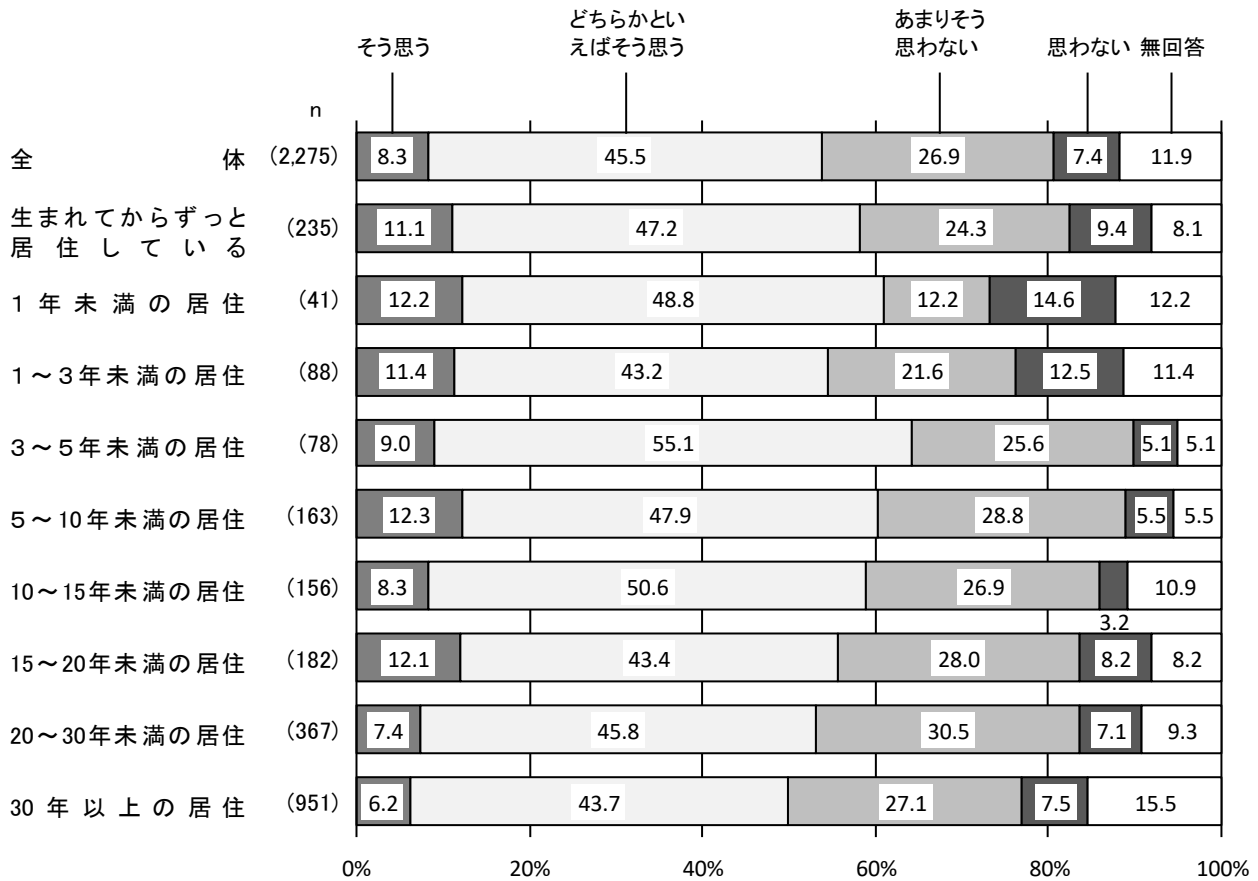
職業別にみると、「思う」は、教員・公務員（75.8%）が7割台半ば、学生（72.4%）が7割強、会社や団体の役員（61.8%）が6割強と高くなっている。一方、「思わない」は、自営業（41.8%）が4割強、その他（40.5%）が約4割と高くなっている。（図 23-14）

図 23-15 男女共同参画が実現していると思うか（ウ）学校教育の場 — 世帯構成別



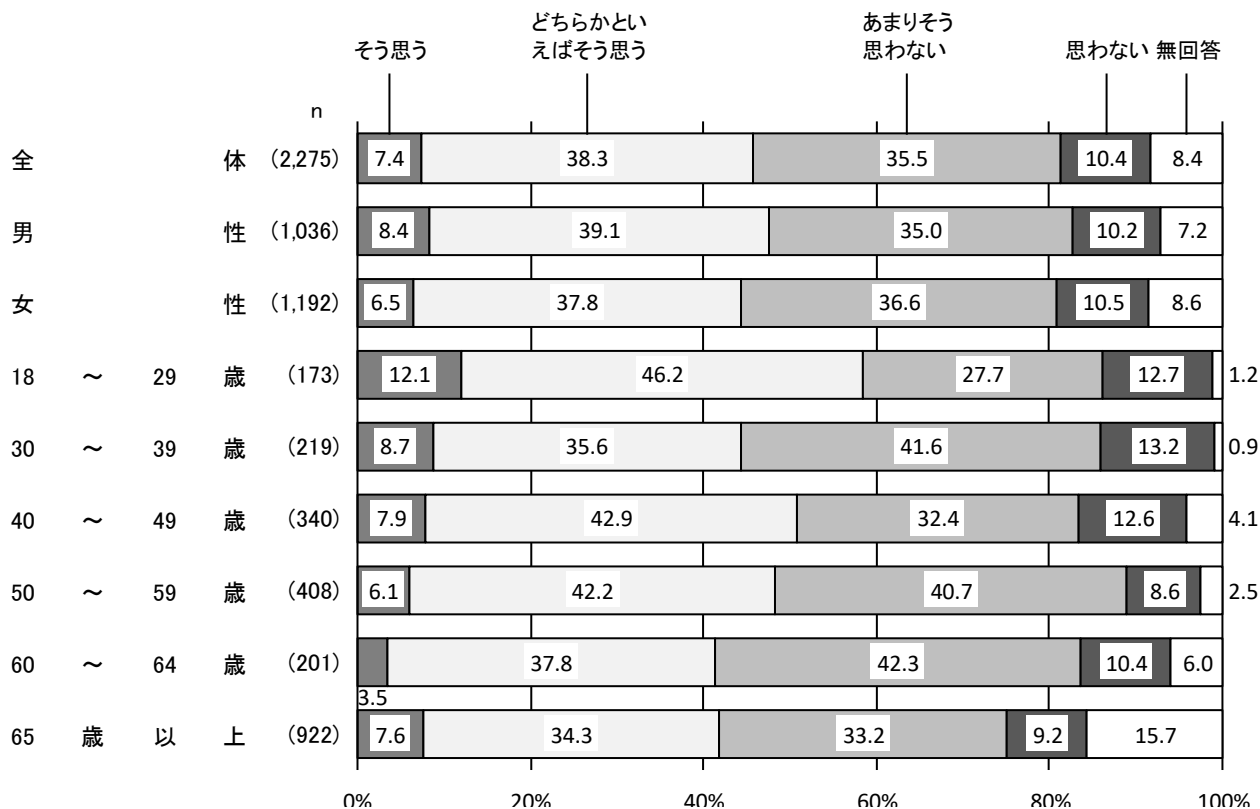
世帯構成別にみると、「思う」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（61.7%）が6割強と高くなっている。一方、「思わない」は、親と自分のみ（40.7%）が約4割と高くなっている。（図 23-15）

図 23-16 男女共同参画が実現していると思うか（ウ）学校教育の場 — 居住年数別



居住年数別にみると、「思う」は、3～5年未満の居住（64.1%）が6割台半ば、1年未満の居住（61.0%）が6割強、5～10年未満の居住（60.2%）が約6割、10～15年未満の居住（58.9%）が6割近くと高くなっている。（図 23-16）

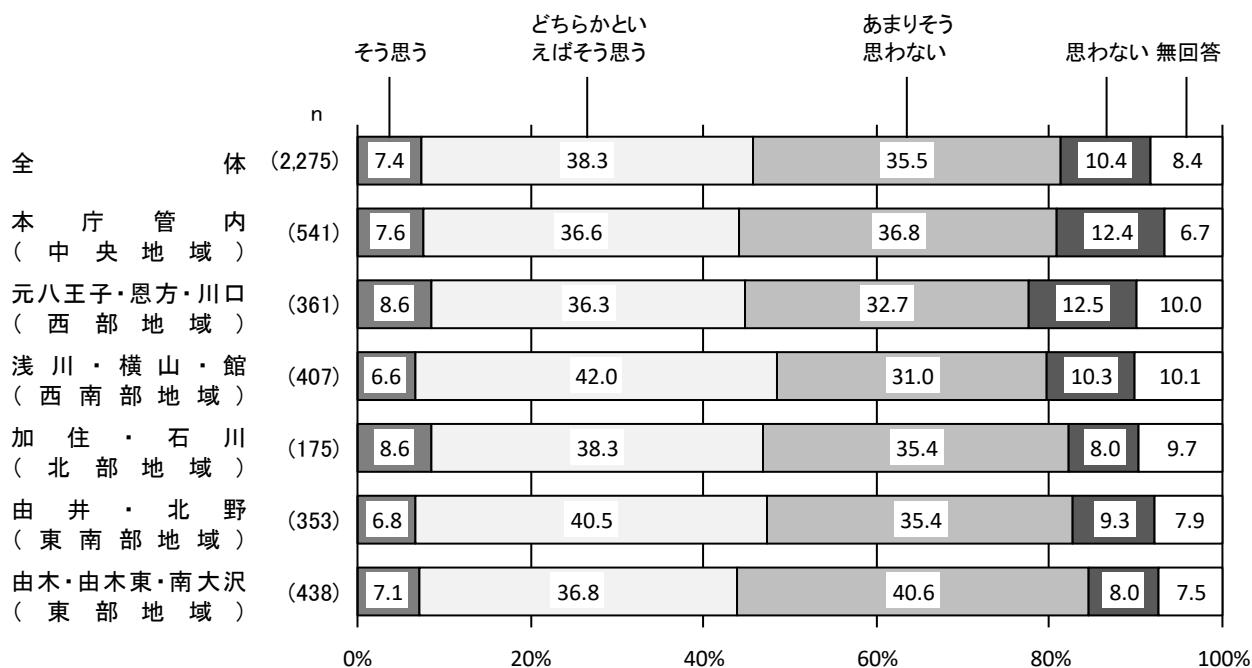
図 23-17 男女共同参画が実現していると思うか（エ）地域 — 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。

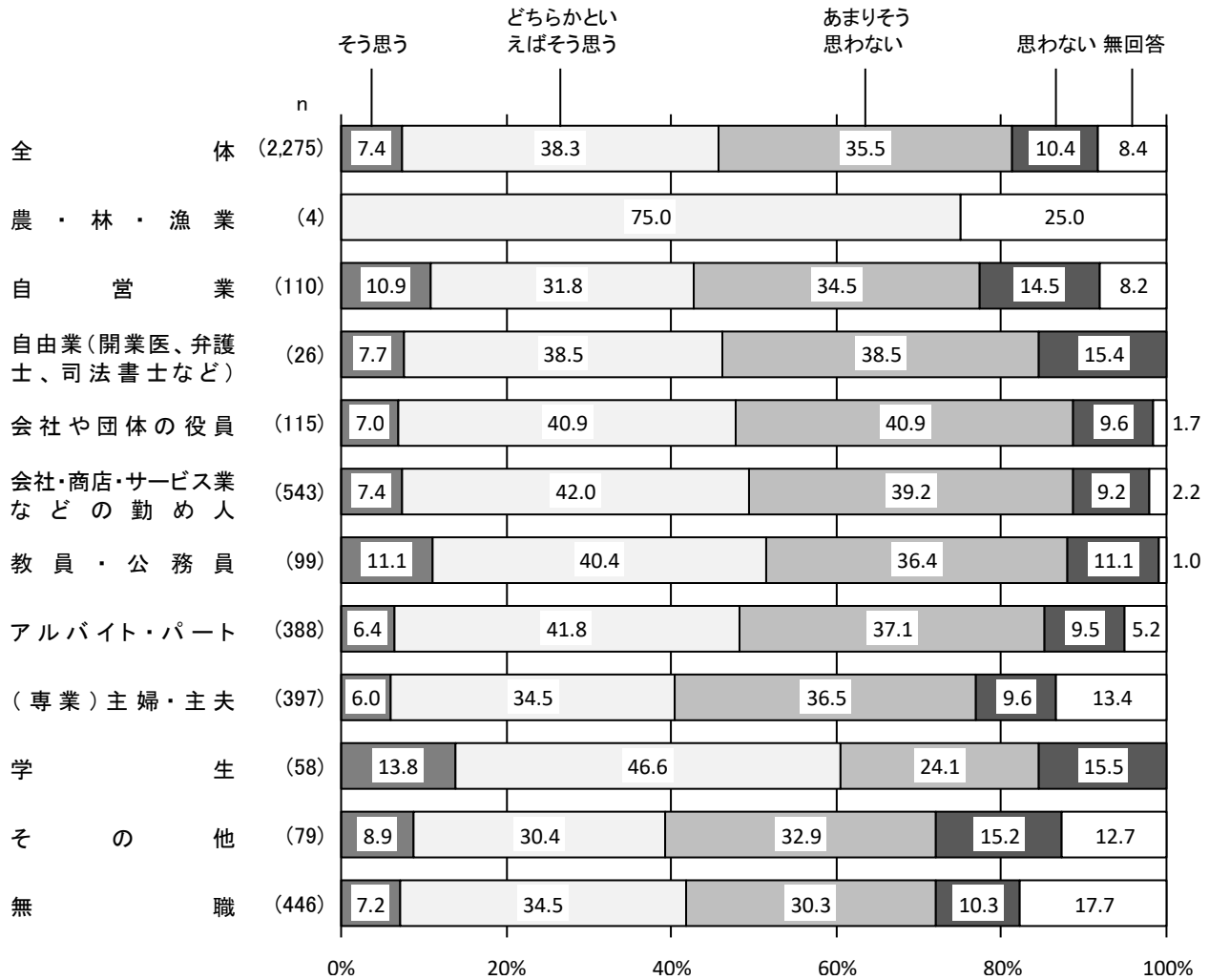
年齢別にみると、「思う」は、18～29歳（58.3%）が6割近く、40～49歳（50.8%）が約5割と高くなっている。一方、「思わない」は、30～39歳（54.8%）が5割台半ば、60～64歳（52.7%）が5割強と高くなっている。（図 23-17）

図 23-18 男女共同参画が実現していると思うか（エ）地域 — 居住地域別



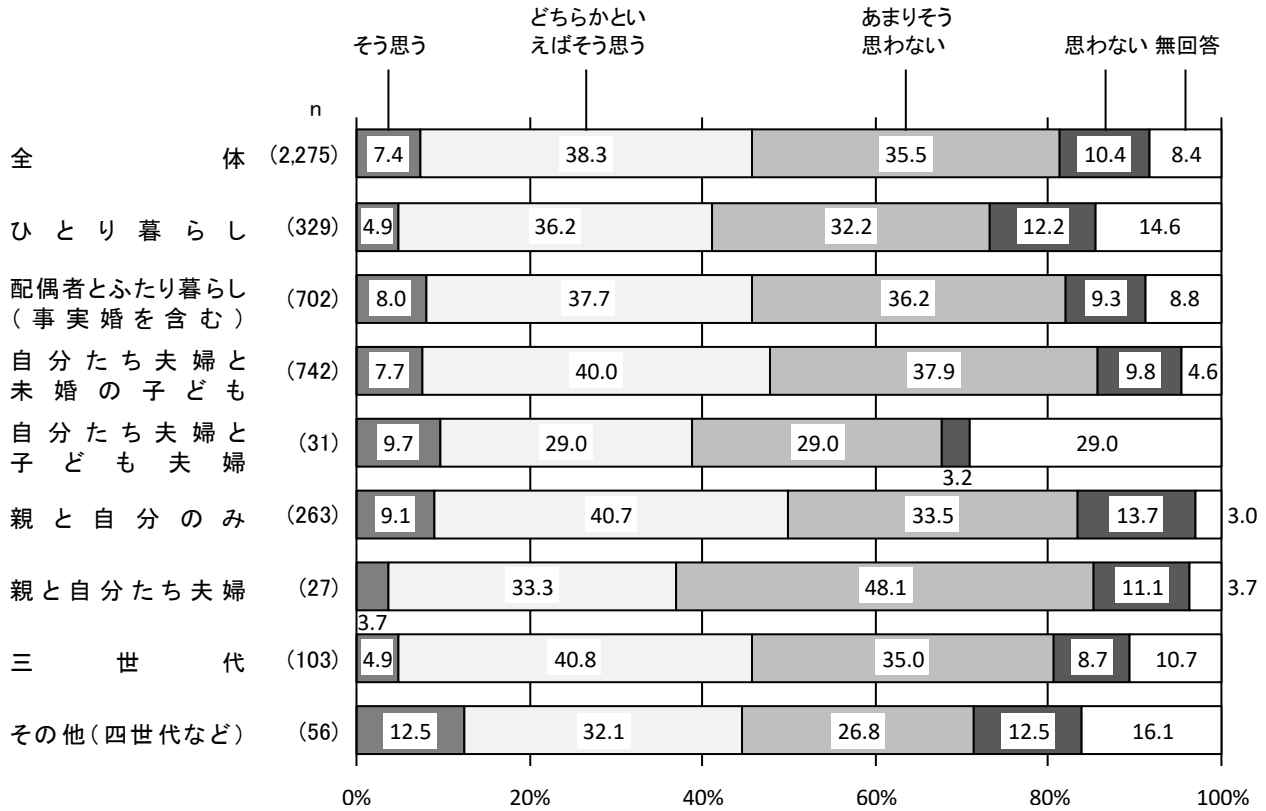
居住地域別にみると、「**思わない**」は、傾向に大きな違いはみられないが、「あまりそう思わない」は、由木・由木東・南大沢（東部地域）（40.6%）が約4割と高くなっている。（図 23-18）

図 23-19 男女共同参画が実現していると思うか (エ) 地域 - 職業別



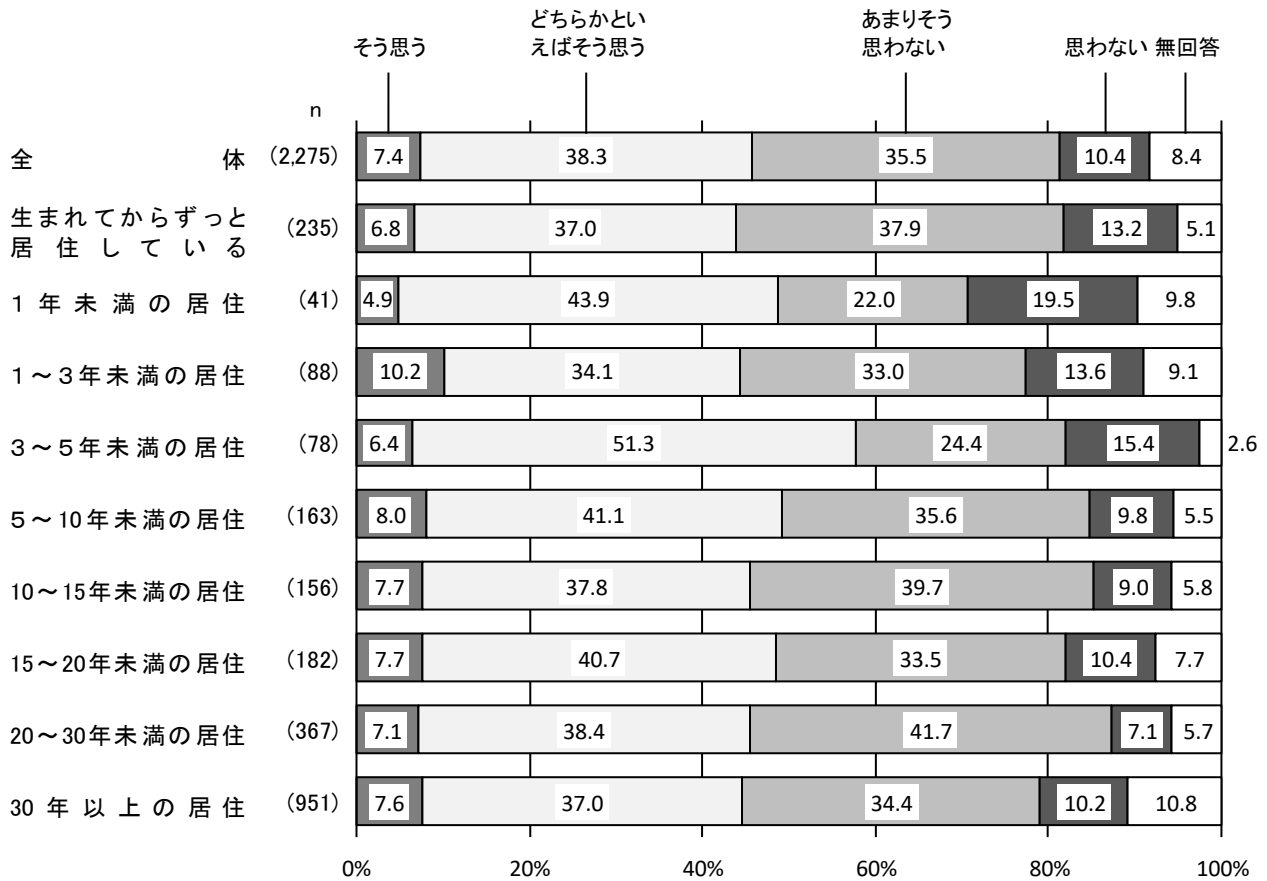
職業別にみると、「思う」は、学生 (60.4%) が約6割、教員・公務員 (51.5%) が5割強と高くなっている。(図 23-19)

図 23-20 男女共同参画が実現していると思うか（エ）地域 — 世帯構成別



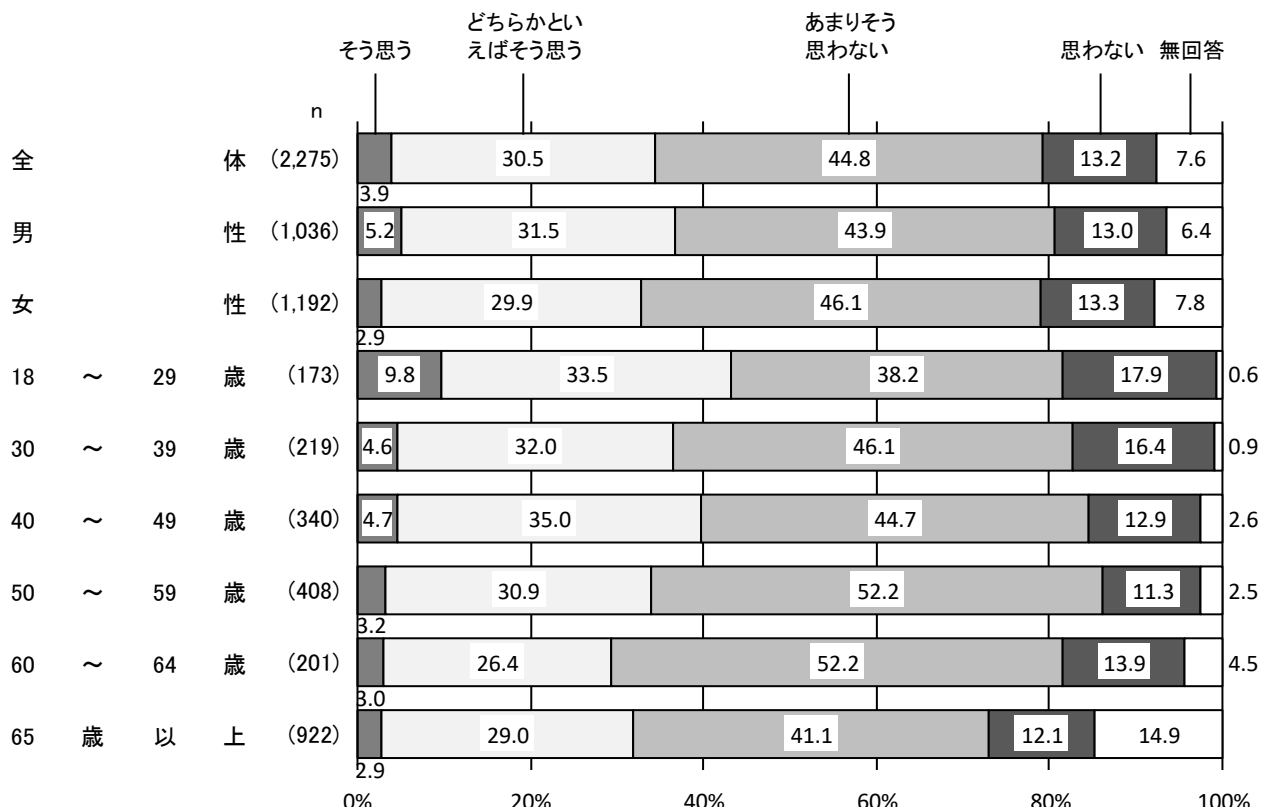
世帯構成別にみると、「思わない」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（32.2%）が3割強と低くなっている。
 (図 23-20)

図 23-21 男女共同参画が実現していると思うか (エ) 地域 — 居住年数別



居住年数別にみると、「思う」は、3～5年未満の居住 (57.7%) が6割近くと高くなっている。一方、「思わない」は、生まれてからずっと居住している (51.1%) が5割強と高くなっている。(図 23-21)

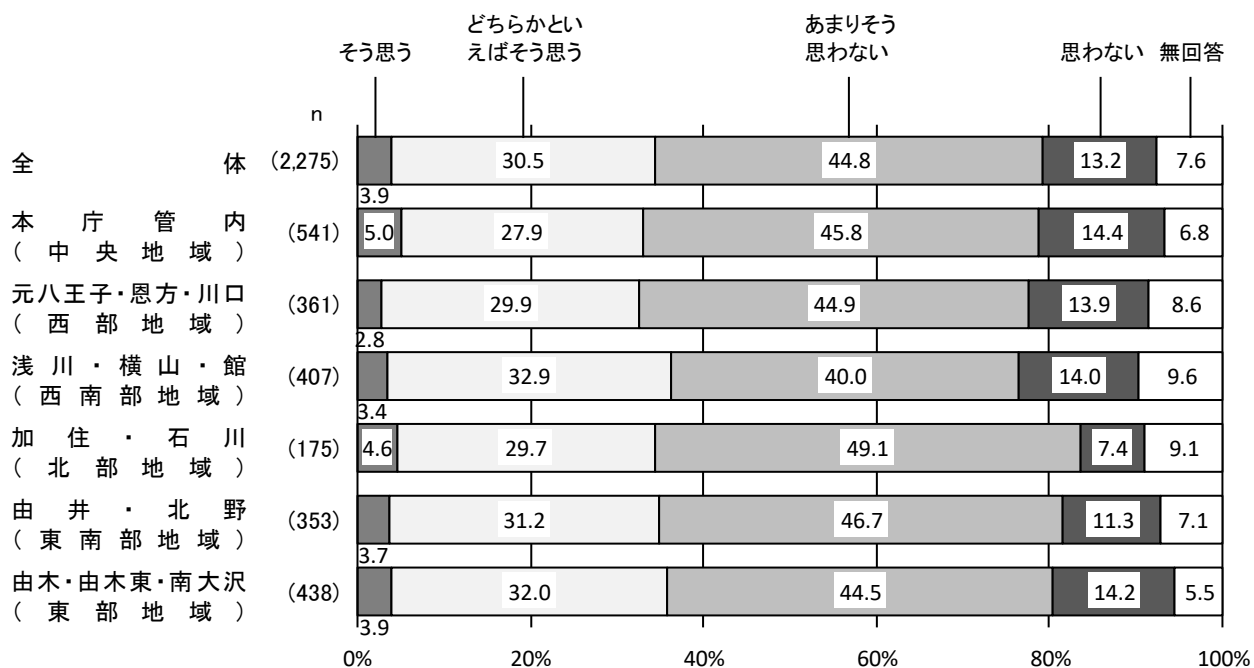
図 23-22 男女共同参画が実現していると思うか（オ）社会全体 - 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。

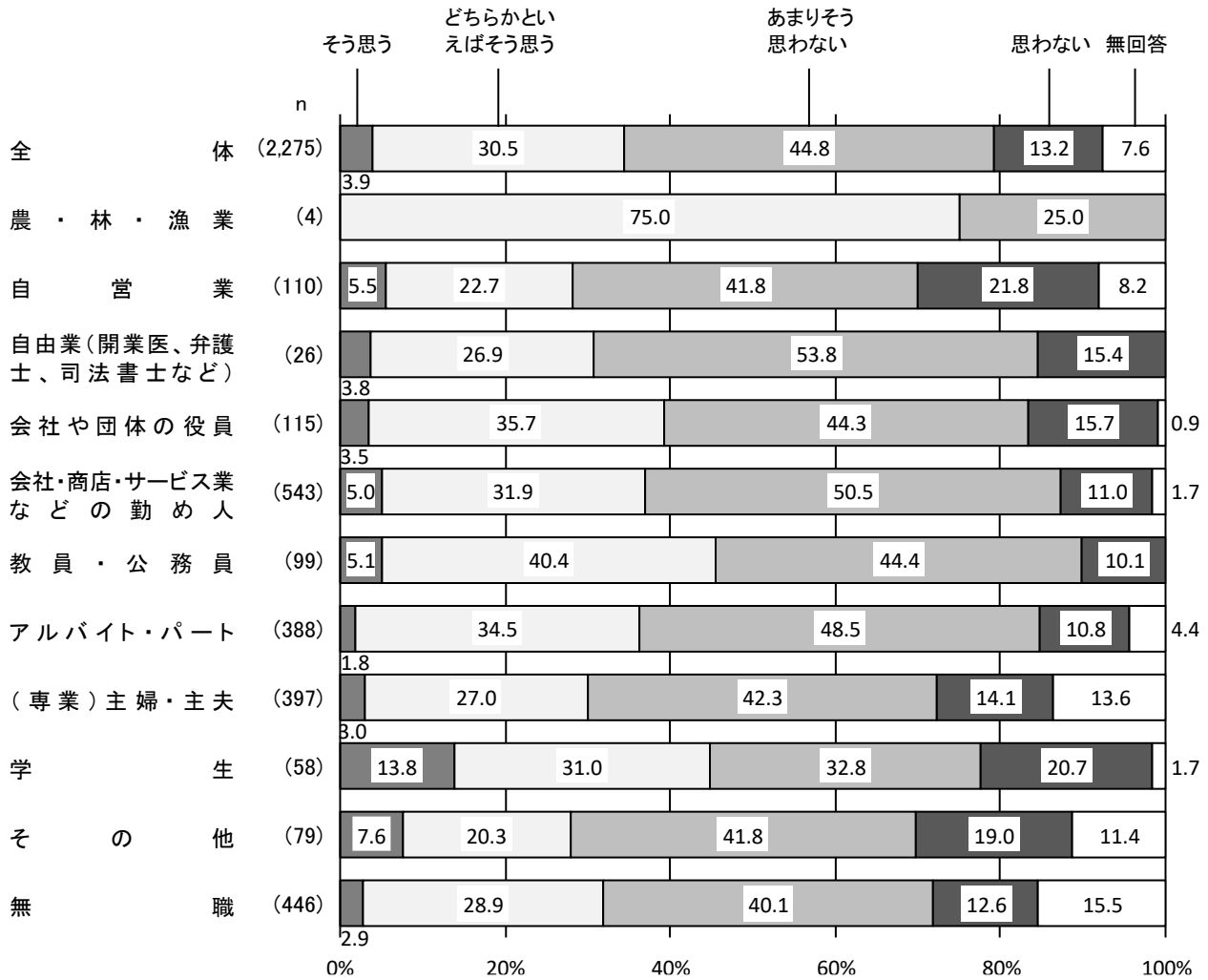
年齢別にみると、「思う」は、18～29歳（43.3%）が4割強、40～49歳（39.7%）が4割弱と高くなっている。一方、「思わない」は、60～64歳（66.1%）が7割近く、50～59歳（63.5%）が6割強と高くなっている。（図 23-22）

図 23-23 男女共同参画が実現していると思うか（オ）社会全体 - 居住地域別



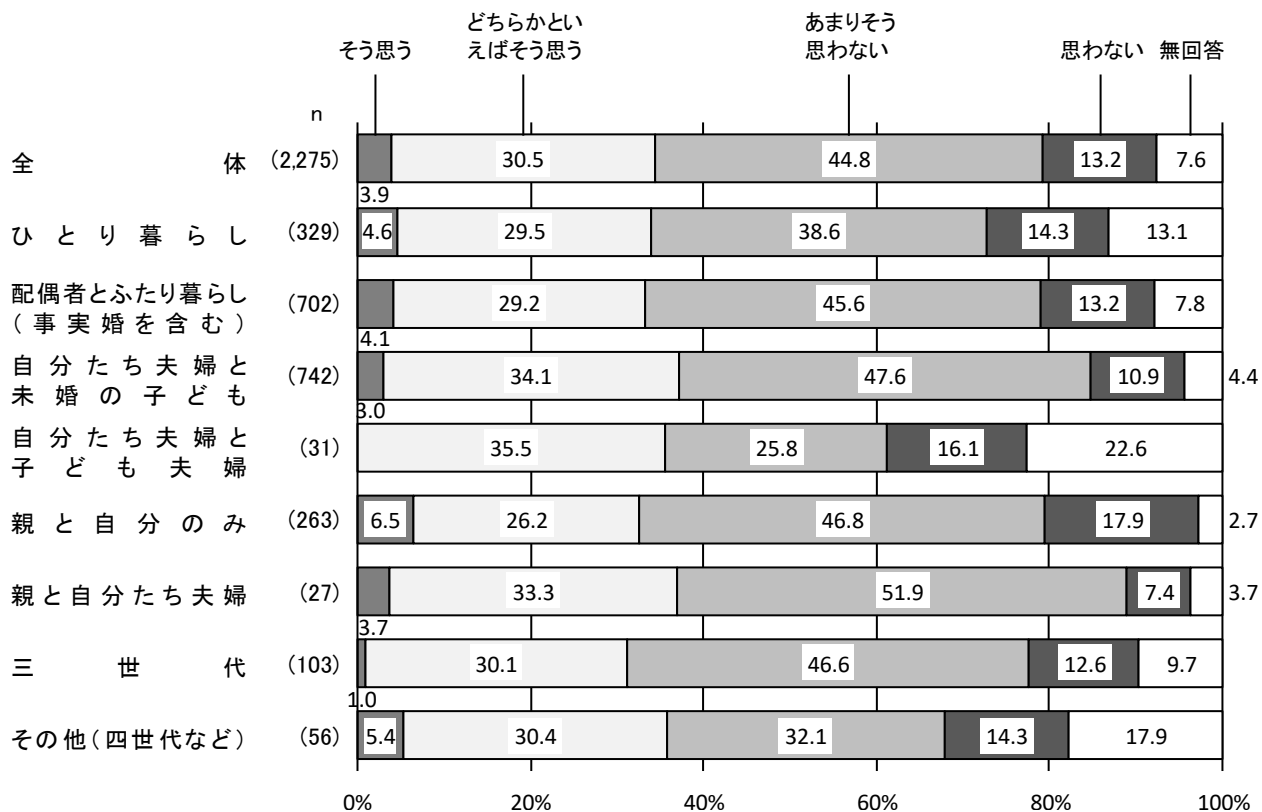
居住地域別にみると、「思わない」は、傾向に大きな違いはみられないが、「思わない」は、加住・石川（北部地域）（7.4%）が1割近くと低くなっている。（図 23-23）

図 23-24 男女共同参画が実現していると思うか（オ）社会全体 - 職業別



職業別にみると、「思う」は、教員・公務員（45.5%）、学生（44.8%）がそれぞれ4割台半ばと高くなっている。一方、「思わない」は、自営業（63.6%）が6割強と高くなっている。（図 23-24）

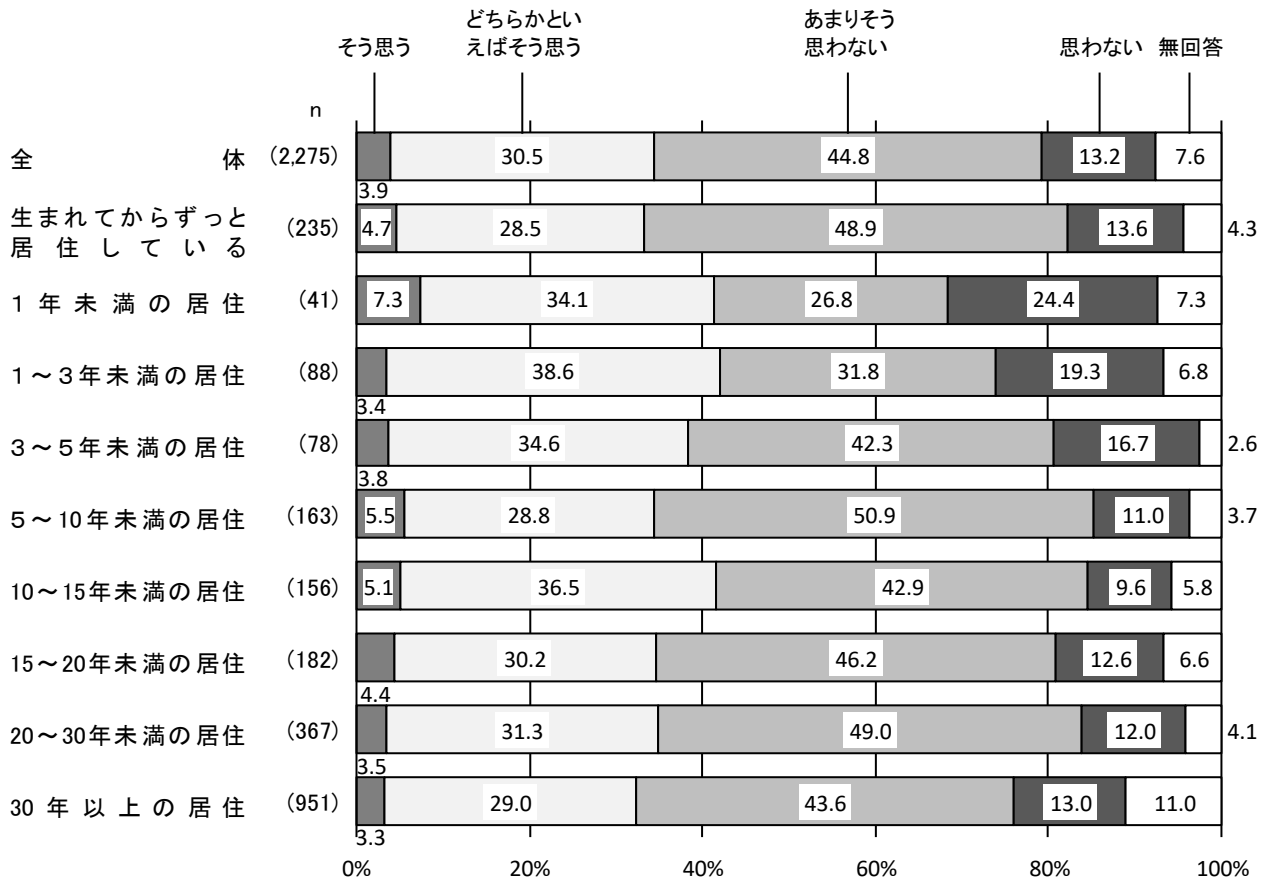
図 23-25 男女共同参画が実現していると思うか (オ) 社会全体 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思わない」は、親と自分のみ (64.7%) が6割台半ばと高くなっている。

(図 23-25)

図 23-26 男女共同参画が実現していると思うか (オ) 社会全体 - 居住年数別

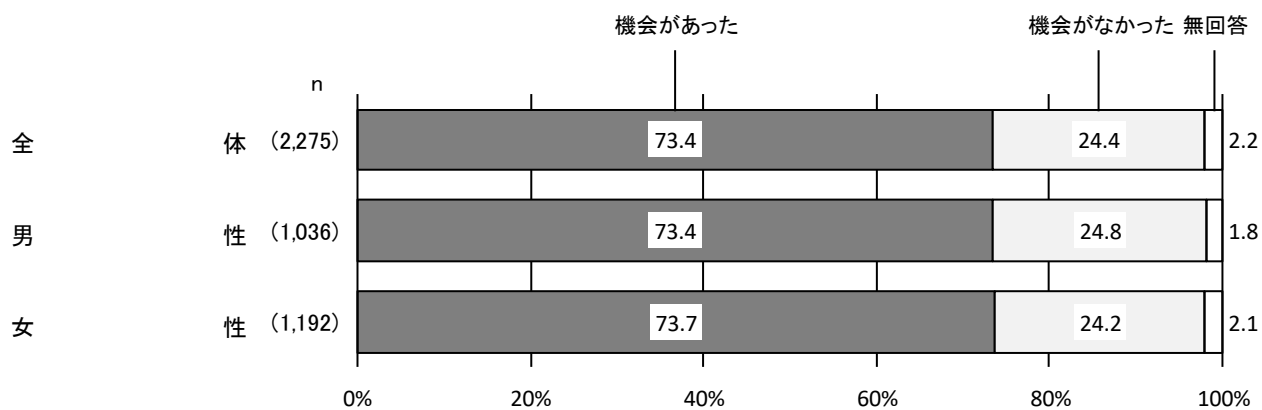


居住年数別にみると、「思う」は、1～3年未満の居住 (42.0%)、10～15年未満の居住 (41.6%)、1年未満の居住 (41.4%) がそれぞれ4割強と高くなっている。(図 23-26)

(24) 自然と触れ合う機会の有無

問 23 あなたは、この1年間に、自然と触れ合う機会がありましたか。(○は1つだけ)

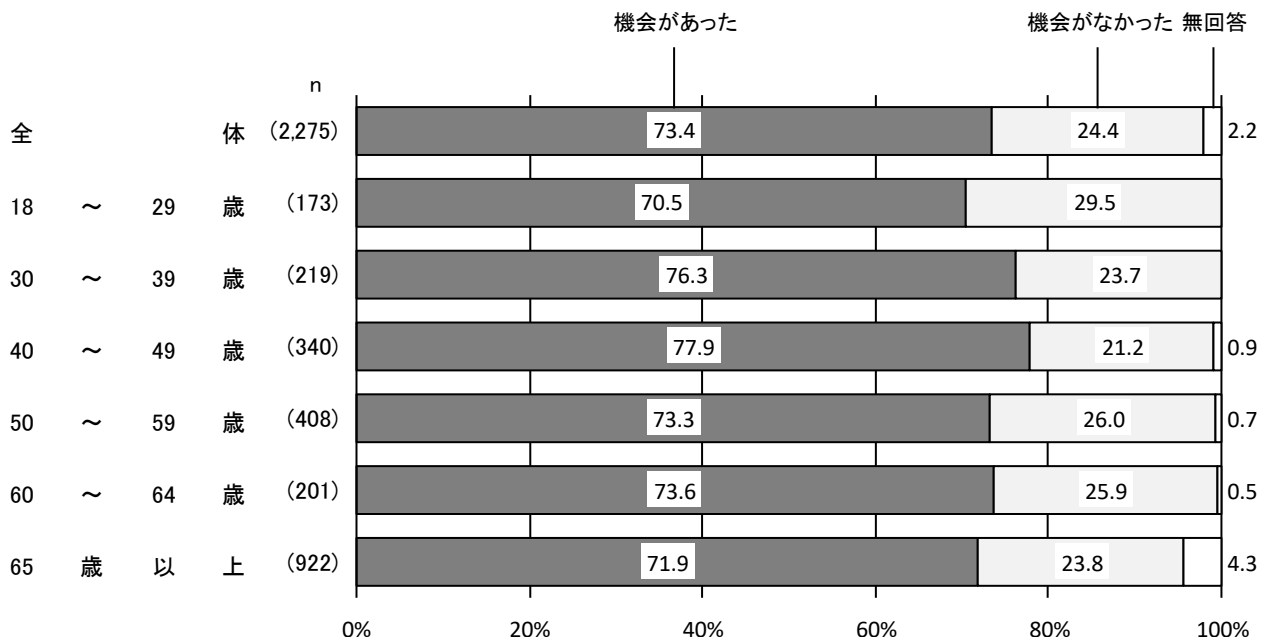
図 24-1 自然と触れ合う機会の有無 - 全体、性別



自然と触れ合う機会があるかを聞いたところ、「機会があった」(73.4%)は7割強となっている。一方、「機会がなかった」(24.4%)は2割台半ばとなっている。

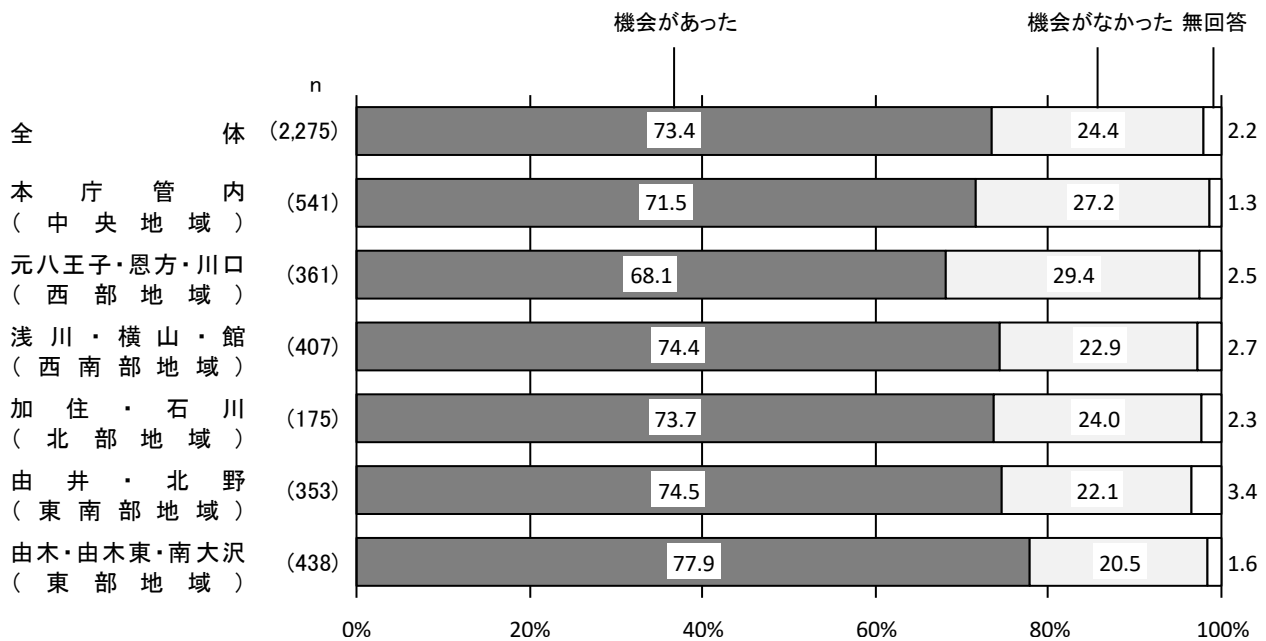
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 24-1)

図 24-2 自然と触れ合う機会の有無－年齢別



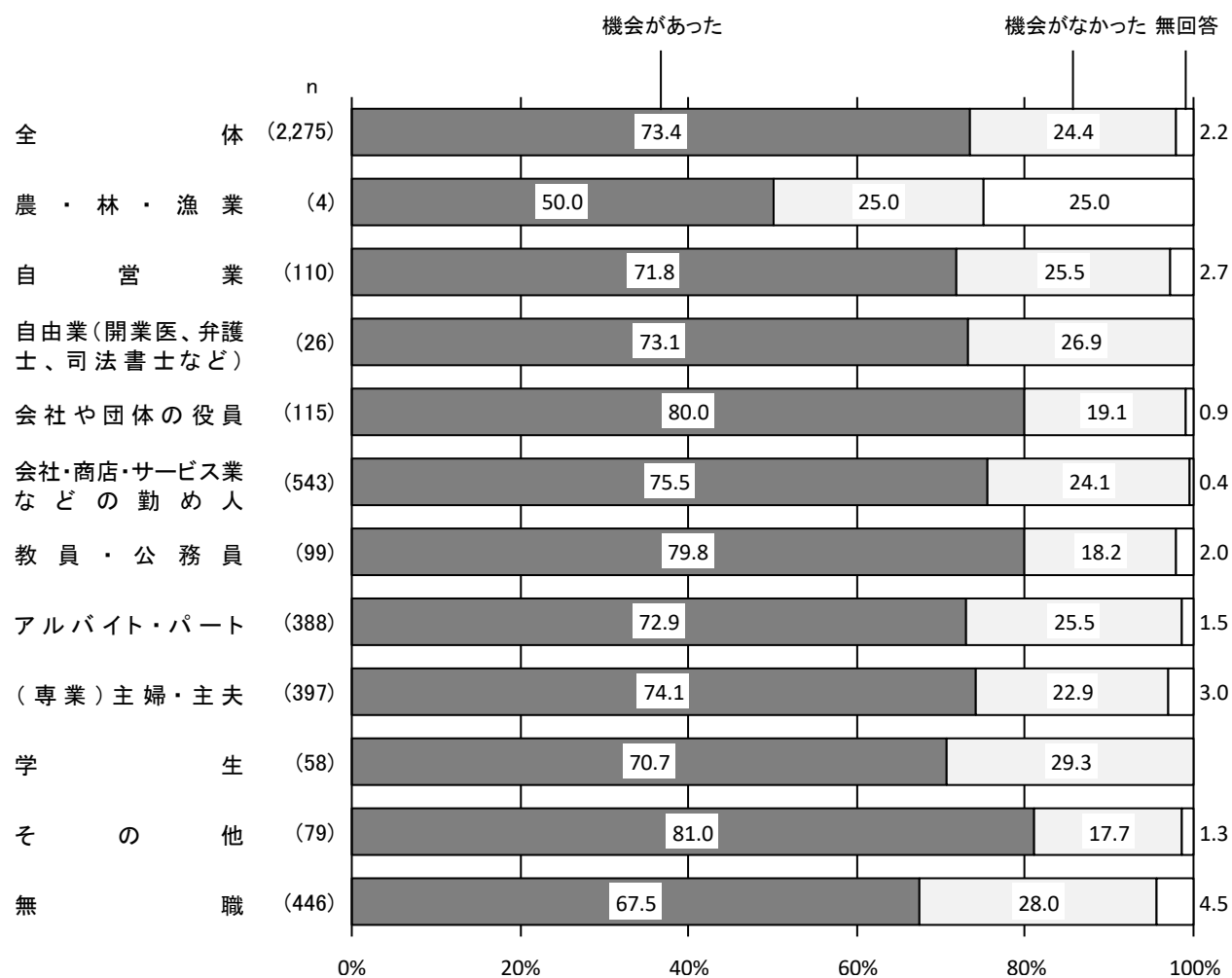
年齢別にみると、「機会がなかった」は、18～29歳（29.5%）が3割弱と高くなっている。（図 24-2）

図 24-3 自然と触れ合う機会の有無－居住地域別



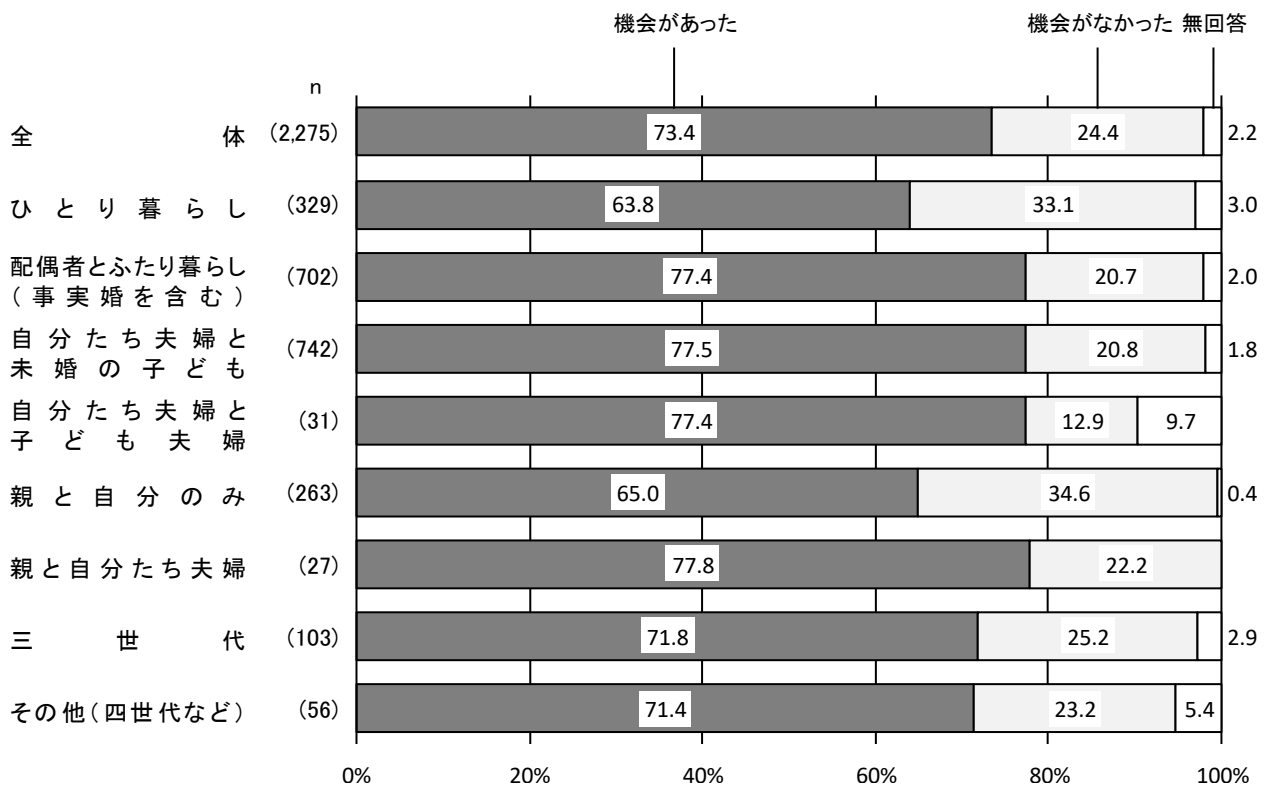
居住地域別にみると、「機会があった」は、元八王子・恩方・川口（西部地域）（68.1%）が7割近くと低くなっている。（図 24-3）

図 24-4 自然と触れ合う機会の有無 - 職業別



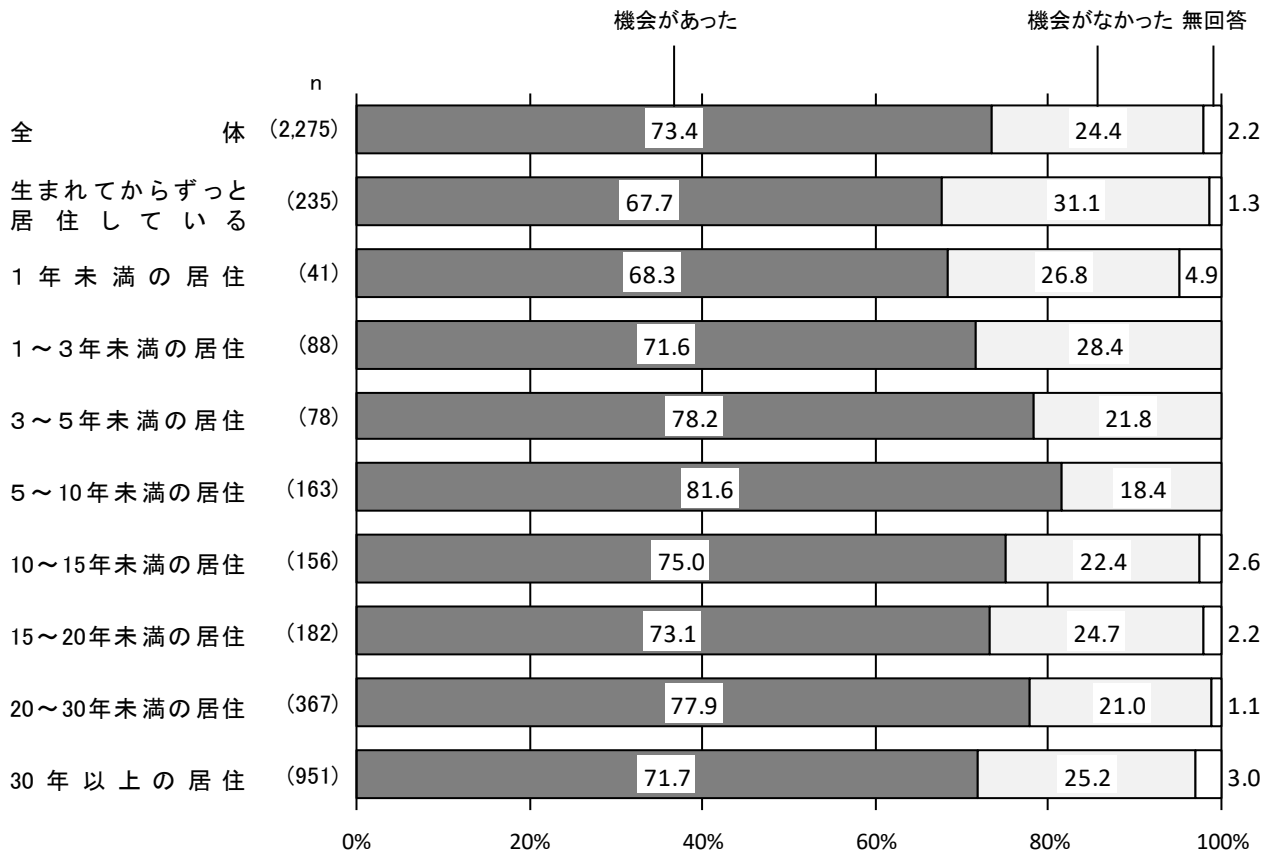
職業別にみると、「機会があった」は、その他(81.0%)が8割強、会社や団体の役員(80.0%)が8割、教員・公務員(79.8%)が8割弱と高くなっている。(図 24-4)

図 24-5 自然と触れ合う機会の有無 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「機会がなかった」は、親と自分のみ（34.6%）が3割台半ば、ひとり暮らし（33.1%）が3割強と高くなっている。（図 24-5）

図 24-6 自然と触れ合う機会の有無 - 居住年数別



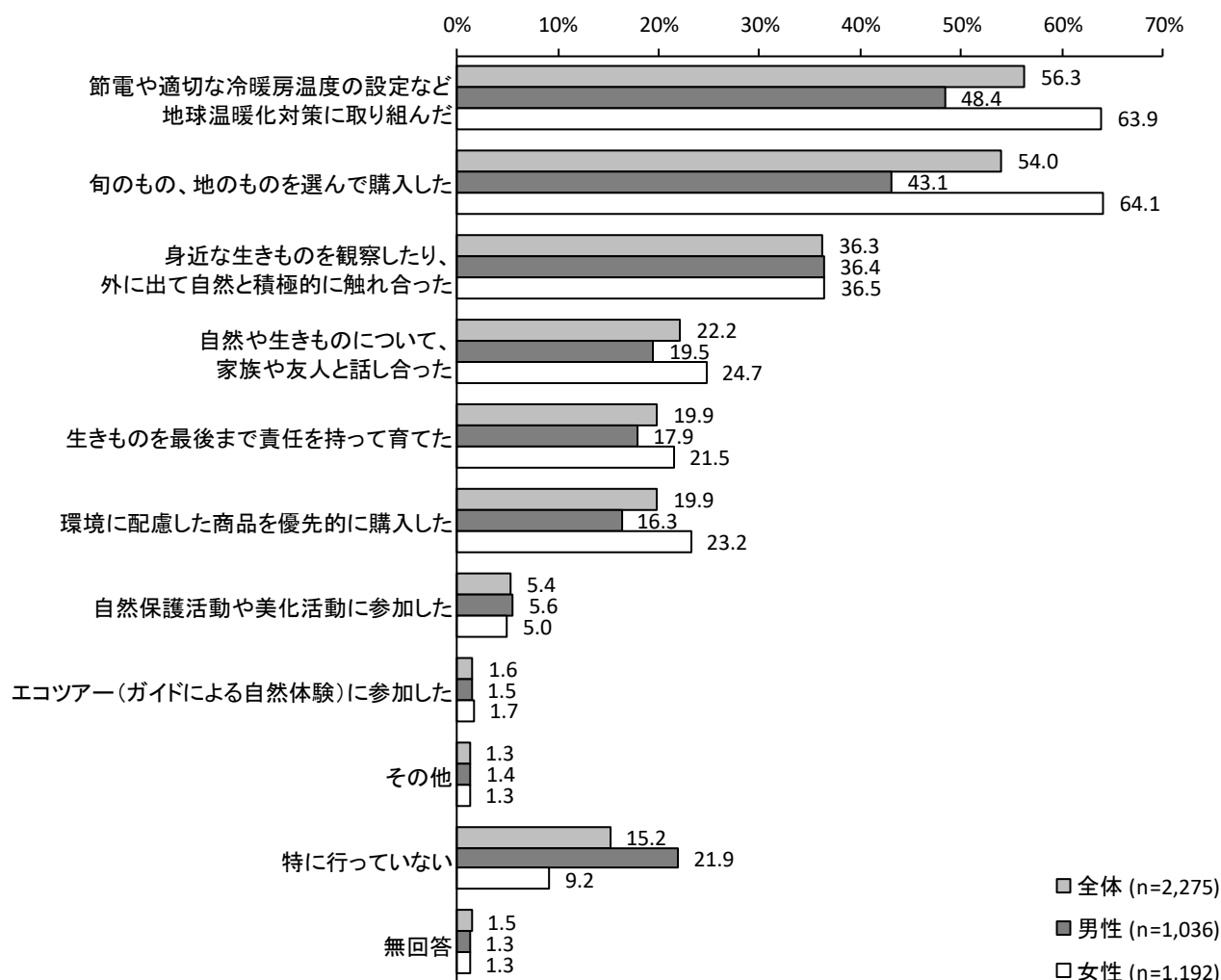
居住年数別にみると、「機会があった」は、5～10年未満の居住（81.6%）が8割強と高くなっている。一方、「機会がなかった」は、生まれてからずっと居住している（31.1%）が3割強と高くなっている。

(図 24-6)

(25) 生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったこと

問 24 あなたは、この1年間に、生物多様性に配慮したライフスタイルとして、どのようなことを行いましたか。
(〇はいくつでも)

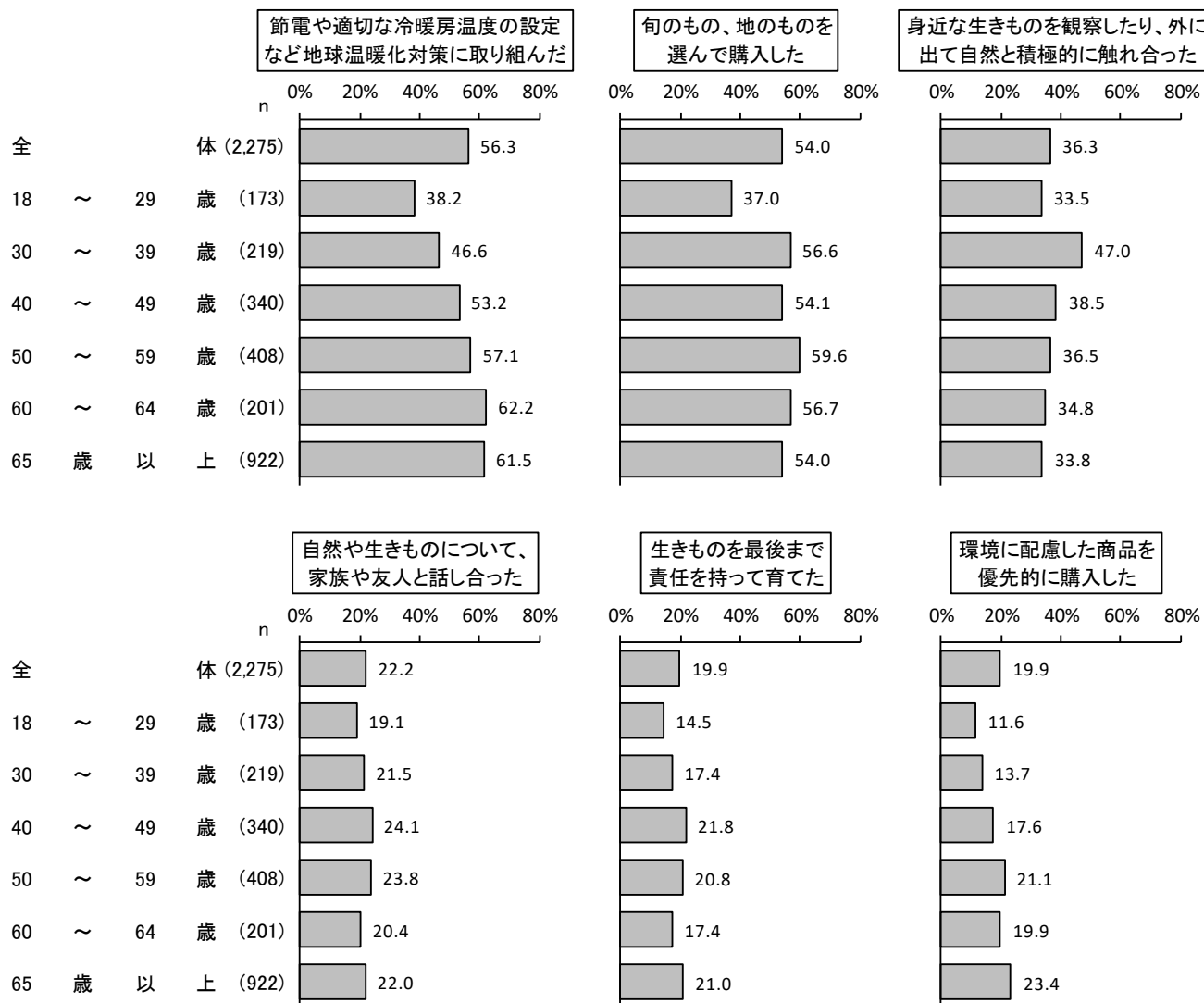
図 25-1 生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったこと - 全体、性別



生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったことを聞いたところ、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ」(56.3%)が6割近くと最も高くなっている。次いで、「旬のもの、地のものを選んで購入した」(54.0%)、「身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的に触れ合った」(36.3%)、「自然や生きものについて、家族や友人と話し合った」(22.2%)などの順となっている。

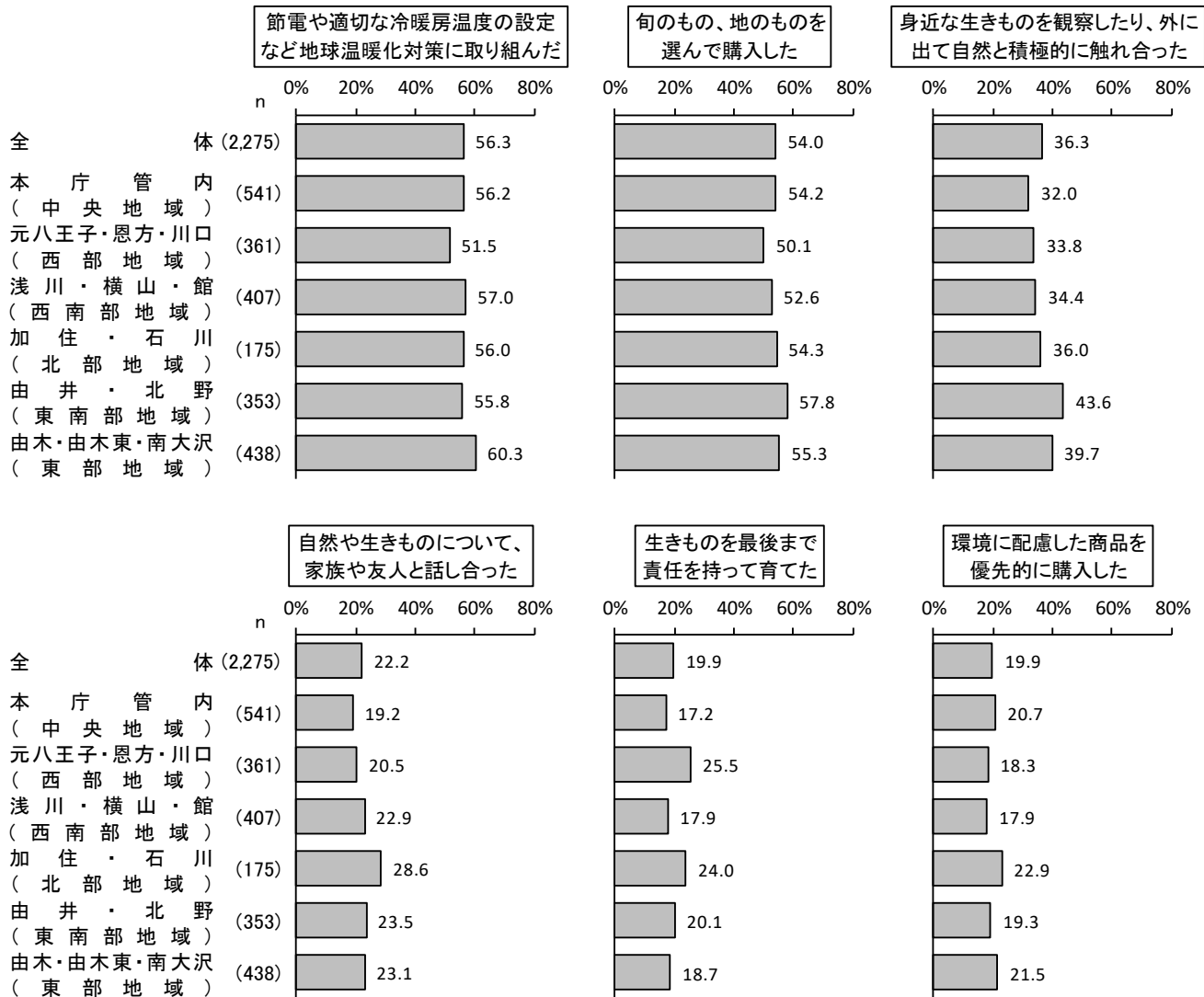
性別にみると、「旬のもの、地のものを選んで購入した」は、女性(64.1%)が男性(43.1%)より21.0ポイント高くなっている。「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ」は、女性(63.9%)が男性(48.4%)より15.5ポイント高くなっている。「環境に配慮した商品を優先的に購入した」は、女性(23.2%)が男性(16.3%)より6.9ポイント高くなっている。「自然や生きものについて、家族や友人と話し合った」は、女性(24.7%)が男性(19.5%)より5.2ポイント高くなっている。「特に行ってない」は、男性(21.9%)が女性(9.2%)より12.7ポイント高くなっている。(図25-1)

図 25-2 生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったこと - 年齢別（上位6位）



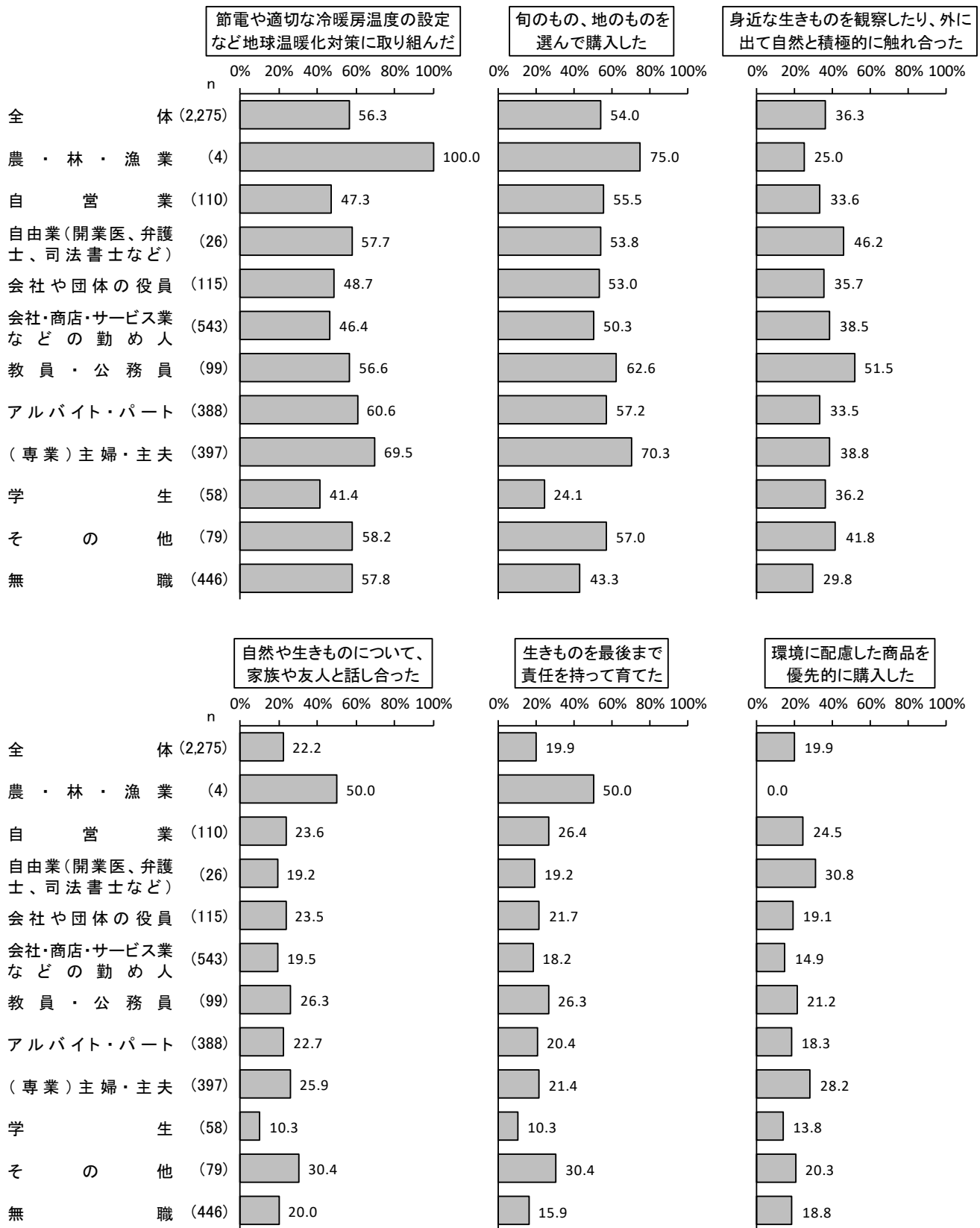
年齢別にみると、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ」は、60～64歳（62.2%）、65歳以上（61.5%）がそれぞれ6割強と高くなっている。「旬のもの、地のものを選んで購入した」は、50～59歳（59.6%）が6割弱と高くなっている。「身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的に触れ合った」は、30～39歳（47.0%）が5割近くと高くなっている。「生きものを最後まで責任を持って育てた」は、18～29歳（14.5%）が1割台半ばと低くなっている。「環境に配慮した商品を優先的に購入した」は、18～29歳（11.6%）が1割強と低くなっている。（図 25-2）

図 25-3 生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったこと - 居住地域別（上位6位）



居住地域別にみると、「身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的に触れ合った」は、由井・北野（東南部地域）（43.6%）が4割強と高くなっている。「自然や生きものについて、家族や友人と話し合った」は、加住・石川（北部地域）（28.6%）が3割近くと高くなっている。「生きものを最後まで責任を持って育てた」は、元八王子・恩方・川口（西部地域）（25.5%）が2割台半ばと高くなっている。（図 25-3）

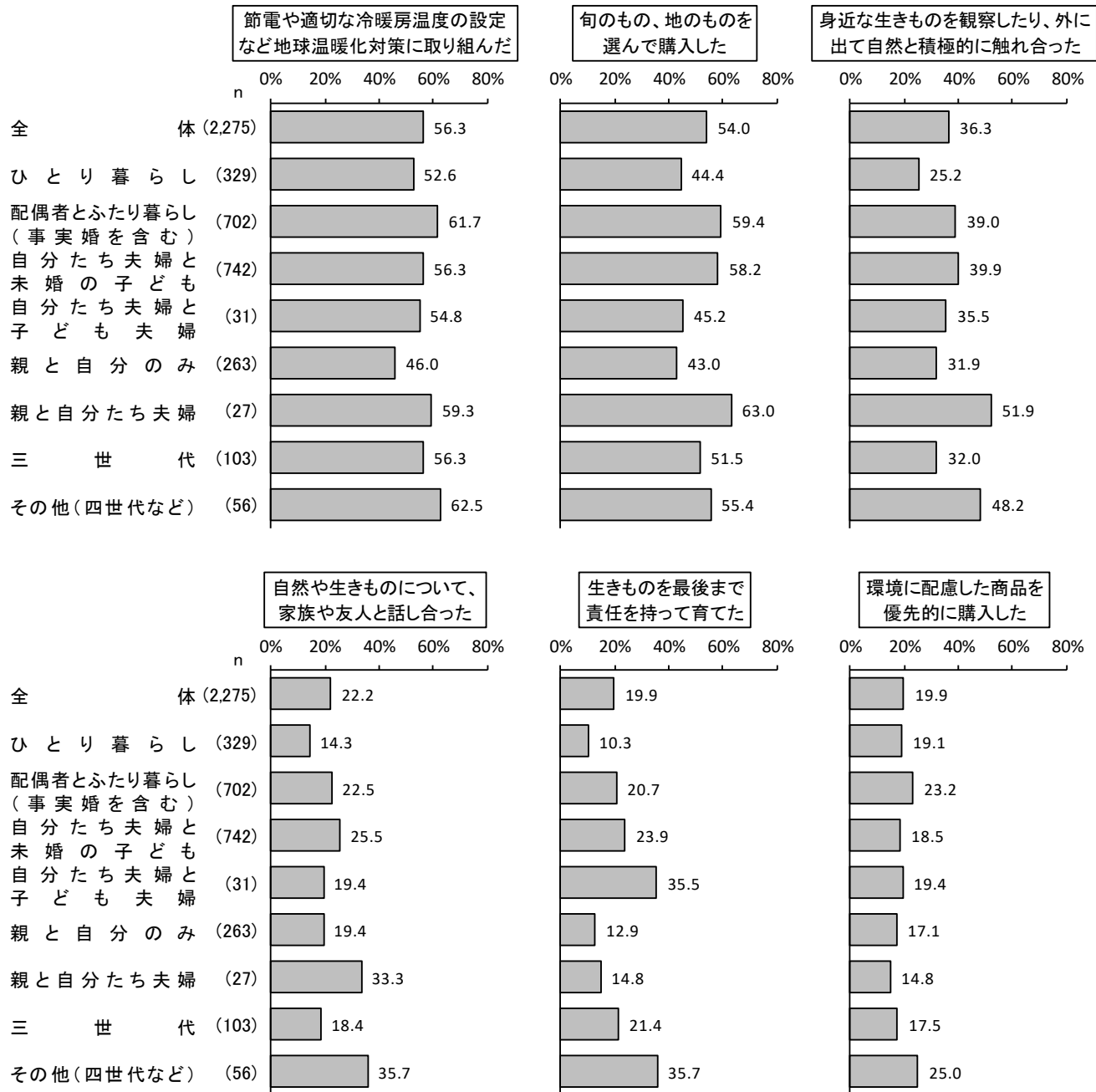
図 25-4 生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったこと - 職業別（上位6位）



職業別にみると、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ」は、(専業)主婦・主夫(69.5%)が7割弱と高くなっている。「旬のもの、地のものを選んで購入した」は、(専業)主婦・主夫(70.3%)が約7割、教員・公務員(62.6%)が6割強と高くなっている。「身近な生きものを観察したり、

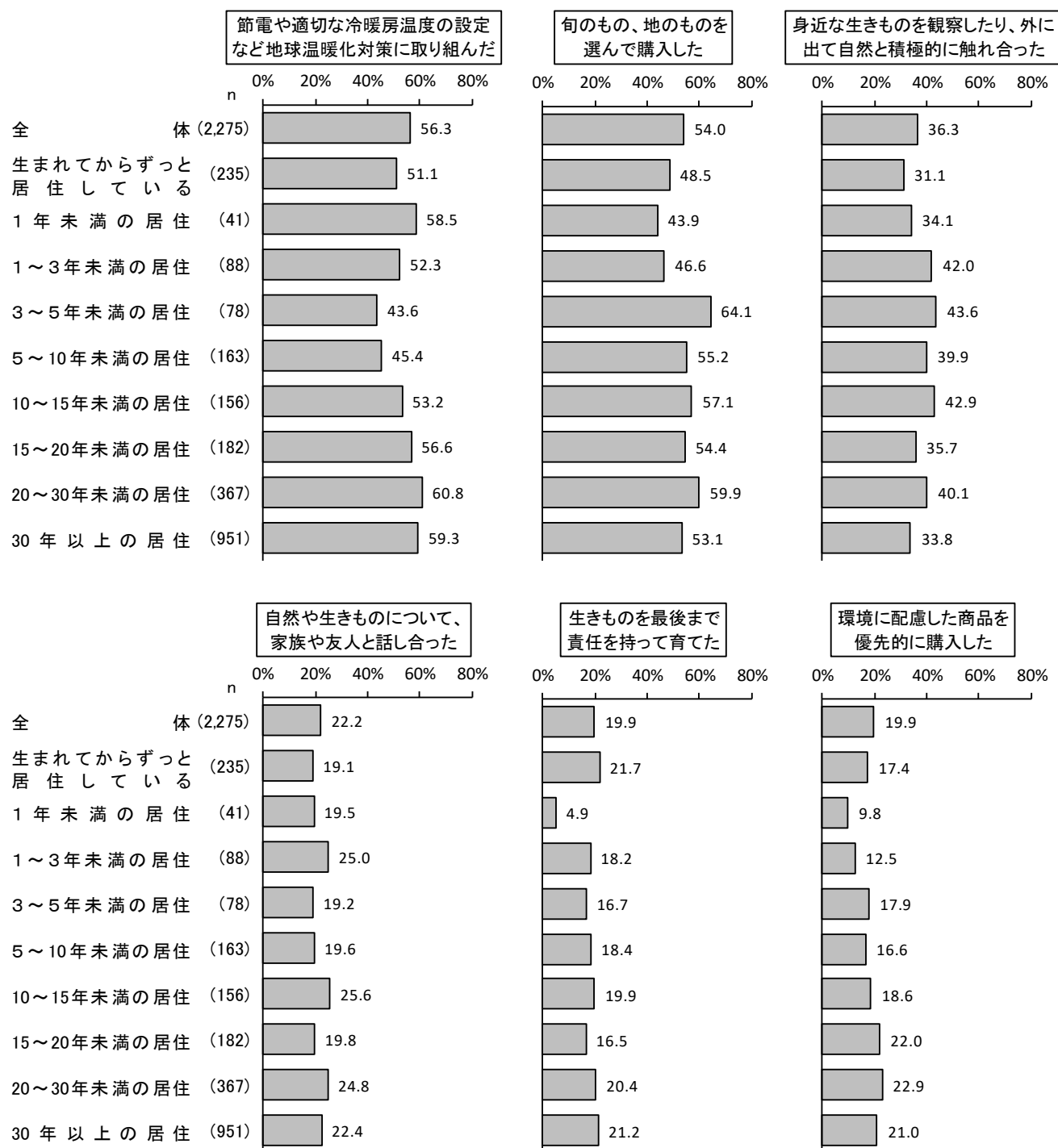
外に出て自然と積極的に触れ合った」は、教員・公務員（51.5%）が5割強、その他（41.8%）が4割強と高くなっている。「自然や生きものについて、家族や友人と話し合った」は、その他（30.4%）が約3割と高くなっている。「生きものを最後まで責任を持って育てた」は、その他（30.4%）が約3割、自営業（26.4%）、教員・公務員（26.3%）がそれぞれ3割近くと高くなっている。「環境に配慮した商品を優先的に購入した」は、（専業）主婦・主夫（28.2%）が3割近くと高くなっている。（図25-4）

図 25-5 生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったこと ― 世帯構成別（上位6位）



世帯構成別にみると、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ」は、その他（四世代など）（62.5%）が6割強、配偶者とふたり暮らし（事実婚を含む）（61.7%）が6割強と高くなっている。「旬のもの、地のものを選んで購入した」は、配偶者とふたり暮らし（事実婚を含む）（59.4%）が6割弱と高くなっている。「身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的に触れ合った」は、その他（四世代など）（48.2%）が5割近くと高くなっている。「自然や生きものについて、家族や友人と話し合った」は、その他（四世代など）（35.7%）が3割台半ばと高くなっている。「生きものを最後まで責任を持って育てた」は、その他（四世代など）（35.7%）、自分たち夫婦と子ども夫婦（35.5%）がそれぞれ3割台半ばと高くなっている。「環境に配慮した商品を優先的に購入した」は、その他（四世代など）（25.0%）が2割台半ばと高くなっている。（図 25-5）

図 25-6 生物多様性に配慮したライフスタイルとして行ったこと - 居住年数別（上位6位）

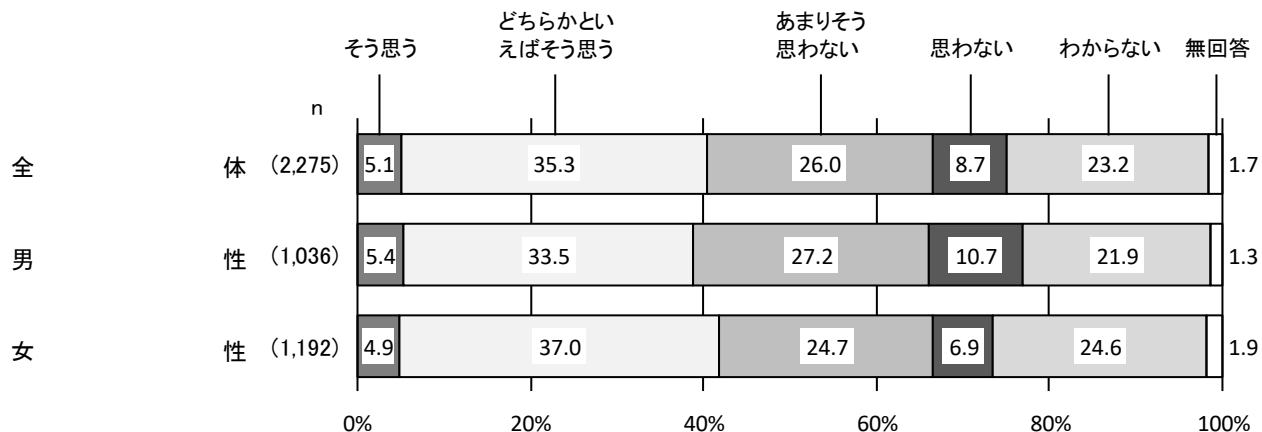


居住年数別にみると、「節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ」は、3～5年未満の居住（43.6%）が4割強と低くなっている。「旬のもの、地ものを選んで購入した」は、3～5年未満の居住（64.1%）が6割台半ば、20～30年未満の居住（59.9%）が6割弱と高くなっている。「身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的に触れ合った」は、3～5年未満の居住（43.6%）、10～15年未満の居住（42.9%）、1～3年未満の居住（42.0%）がそれぞれ4割強と高くなっている。「生きものを最後まで責任を持って育てた」は、1年未満の居住（4.9%）が1割未満と低くなっている。「環境に配慮した商品を優先的に購入した」は、1年未満の居住（9.8%）が1割弱と低くなっている。（図 25-6）

(26) 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか

問 25 あなたは、八王子市が地域で助け合いや交流があるなど、「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思いますか。(〇は1つだけ)

図 26-1 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか - 全体、性別

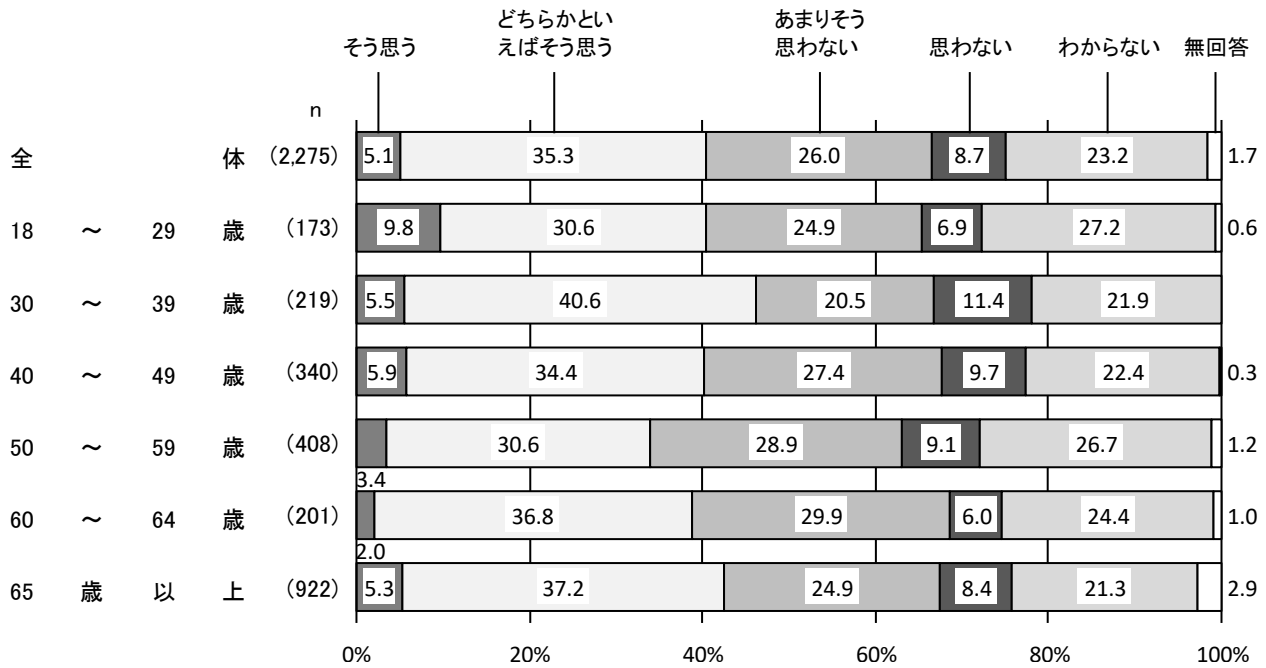


「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うかを聞いたところ、「そう思う」(5.1%)と「どちらかといえばそう思う」(35.3%)を合わせた《思う》(40.4%)は約4割となっている。一方、「あまりそう思わない」(26.0%)と「思わない」(8.7%)を合わせた《思わない》(34.7%)は3割台半ばとなっている。

性別にみると、《思わない》は、男性(37.9%)が女性(31.6%)より6.3ポイント高くなっている。

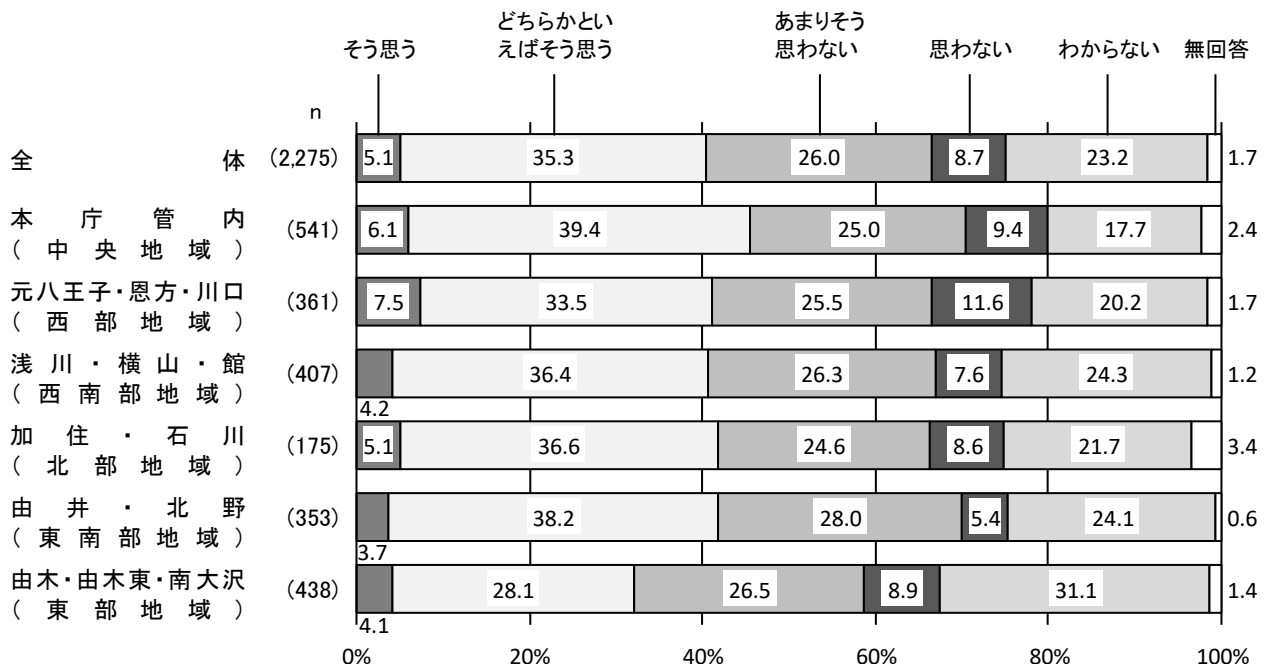
(図 26-1)

図 26-2 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか - 年齢別



年齢別にみると、「思う」は、30～39歳（46.1%）が5割近くと高くなっている。（図 26-2）

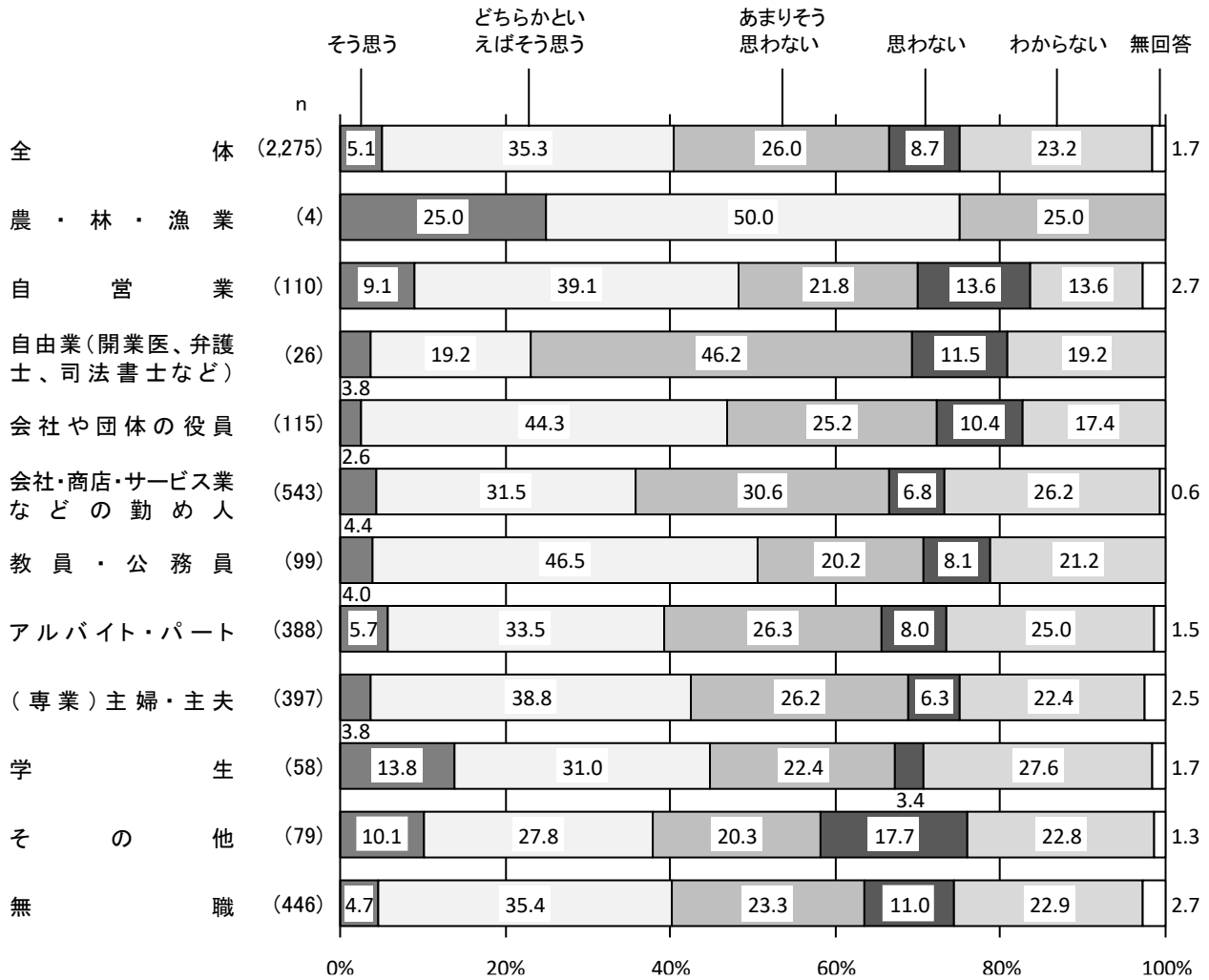
図 26-3 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか - 居住地域別



居住地域別にみると、「思う」は、本庁管内（中央地域）（45.5%）が4割台半ばと高くなっている。

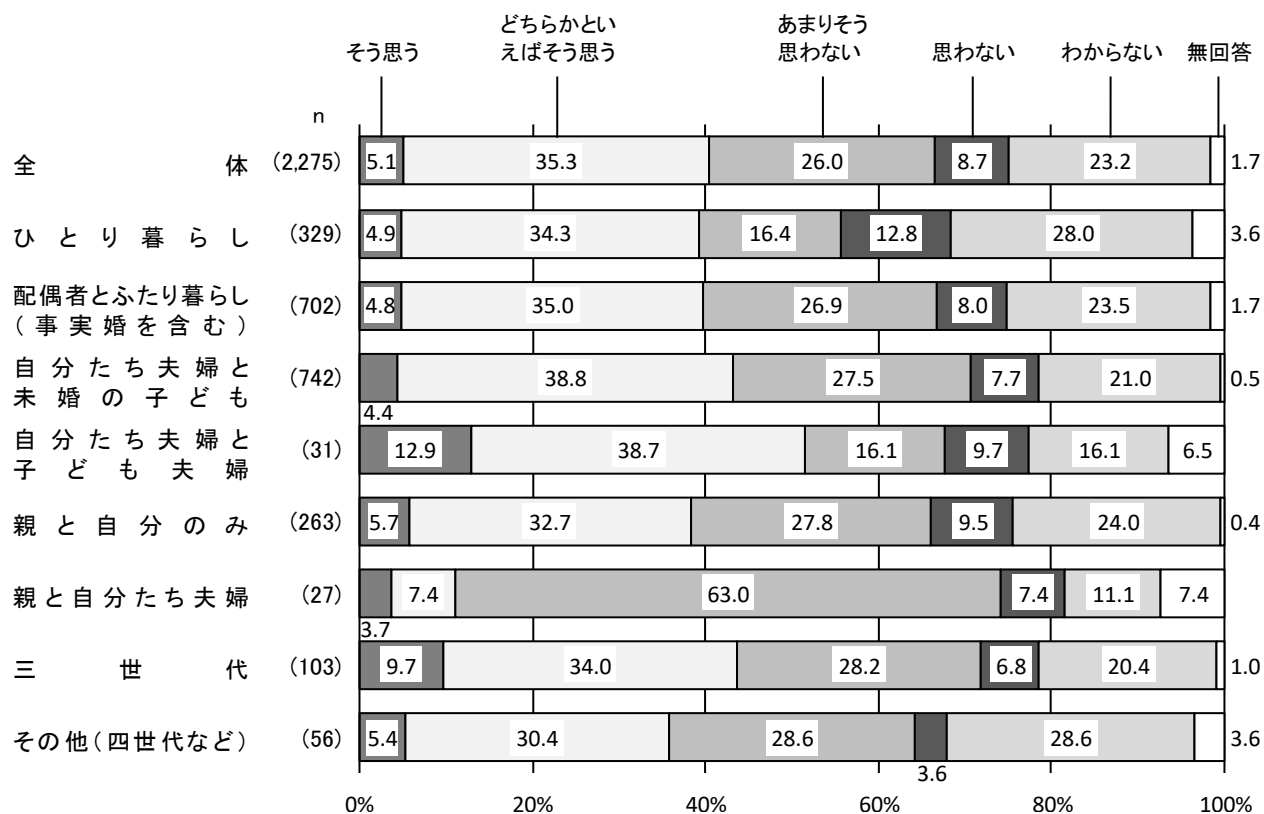
（図 26-3）

図 26-4 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか - 職業別



職業別にみると、「思う」は、教員・公務員（50.5%）が約5割、自営業（48.2%）、会社や団体の役員（46.9%）がそれぞれ5割近くと高くなっている。（図 26-4）

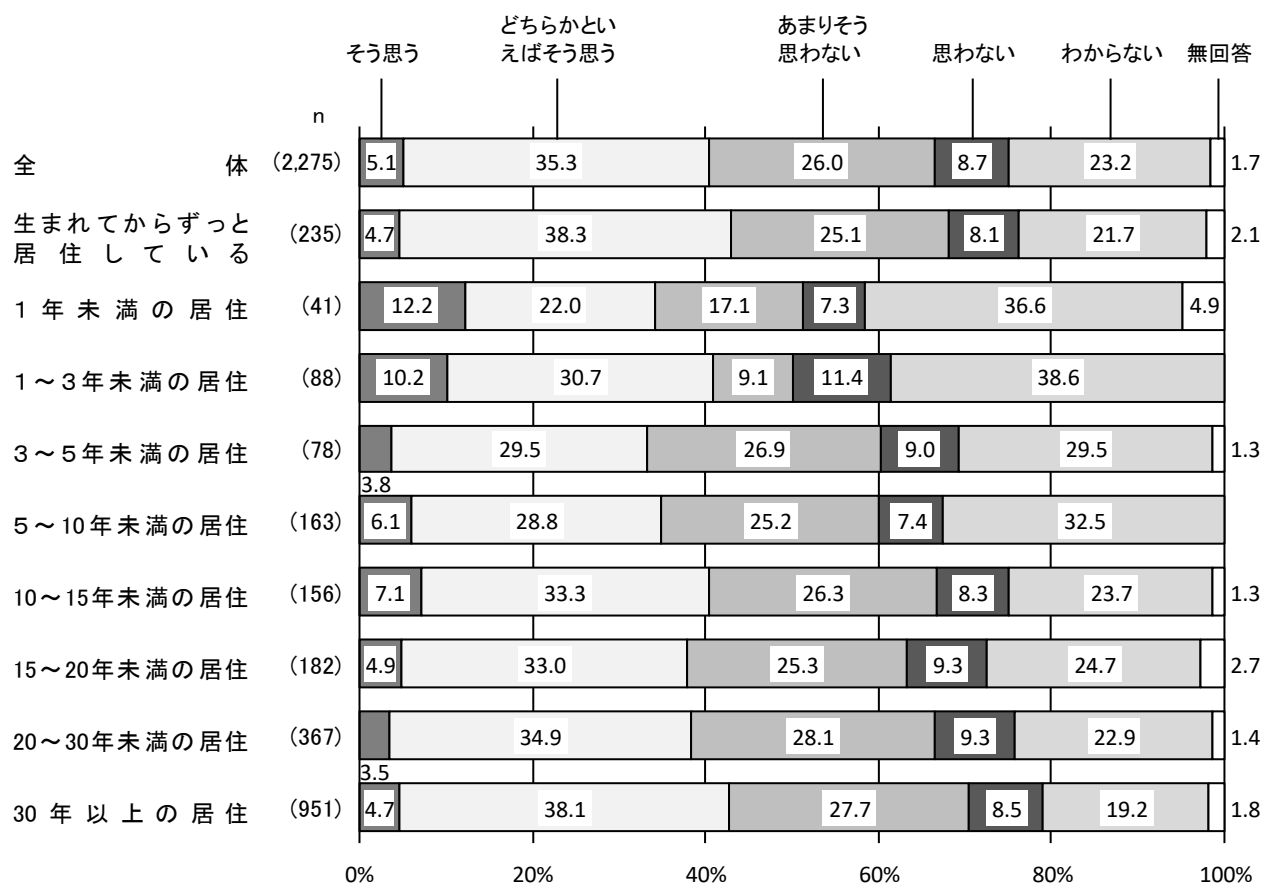
図 26-5 「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思うか - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「思う」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（51.6%）が5割強と高くなっている。

(図 26-5)

図 26-6 「人とひとつのつながりがあるまち」になっていると思うか - 居住年数別



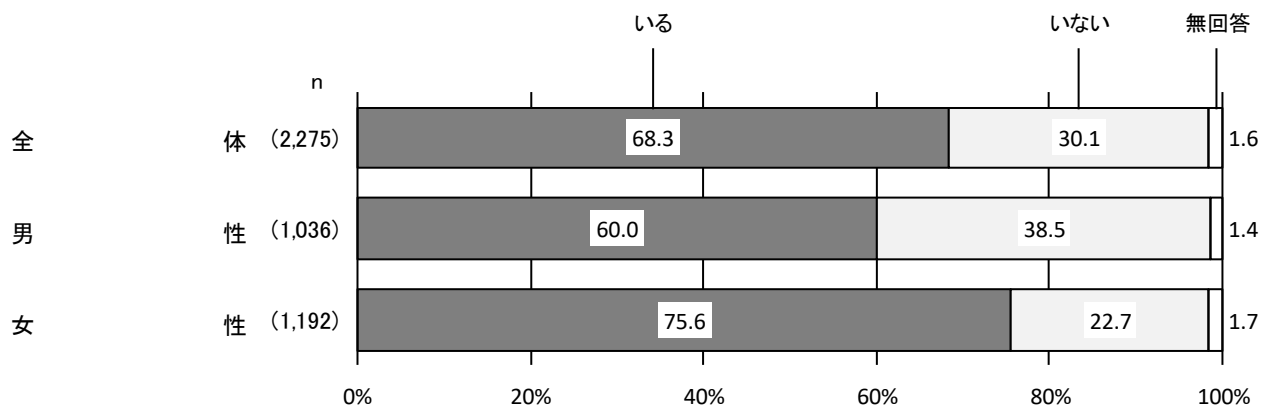
居住年数別にみると、「思わない」は、1～3年未満の居住（20.5%）が約2割と低くなっている。

(図 26-6)

(27) 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無

問 26 あなたは、身近な場所に困りごとを相談したり、助け合ったりできる人がいますか。(○は1つだけ)

図 27-1 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無 - 全体、性別

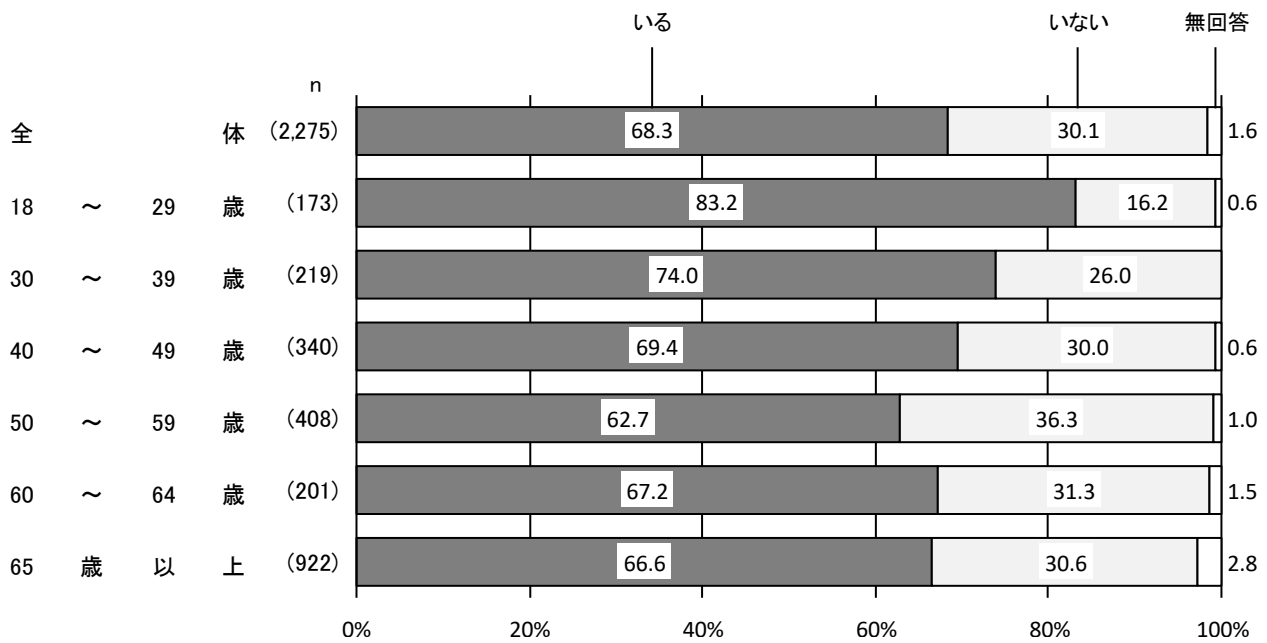


身近な場所に困りごとを相談したり、助け合ったりできる人がいるかを聞いたところ、「いる」(68.3%)は7割近くとなっている。一方、「いない」(30.1%)は約3割となっている。

性別にみると、「いない」は、男性(38.5%)が女性(22.7%)より15.8ポイント高くなっている。

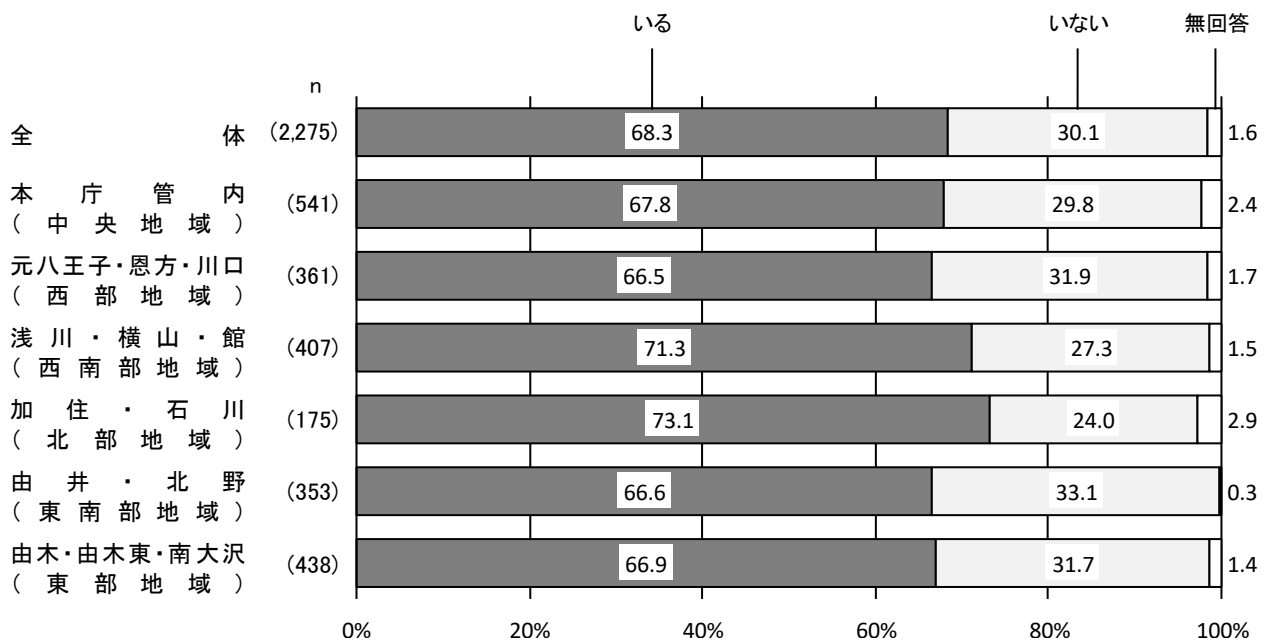
(図 27-1)

図 27-2 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無 - 年齢別



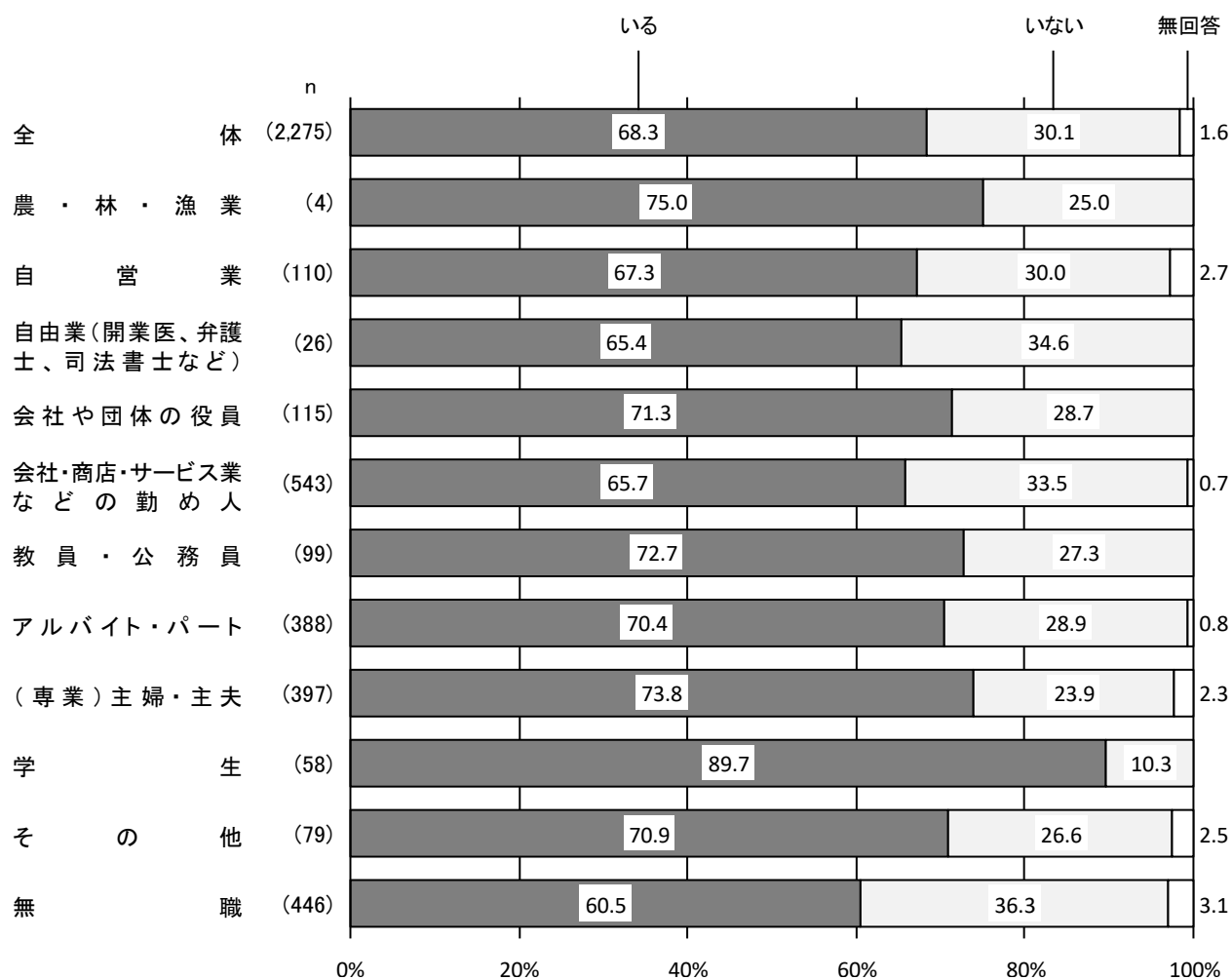
年齢別にみると、「いる」は、18~29歳（83.2%）が8割強、30~39歳（74.0%）が7割台半ばと高くなっている。一方、「いない」は、50~59歳（36.3%）が4割近くと高くなっている。（図 27-2）

図 27-3 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無 - 居住地域別



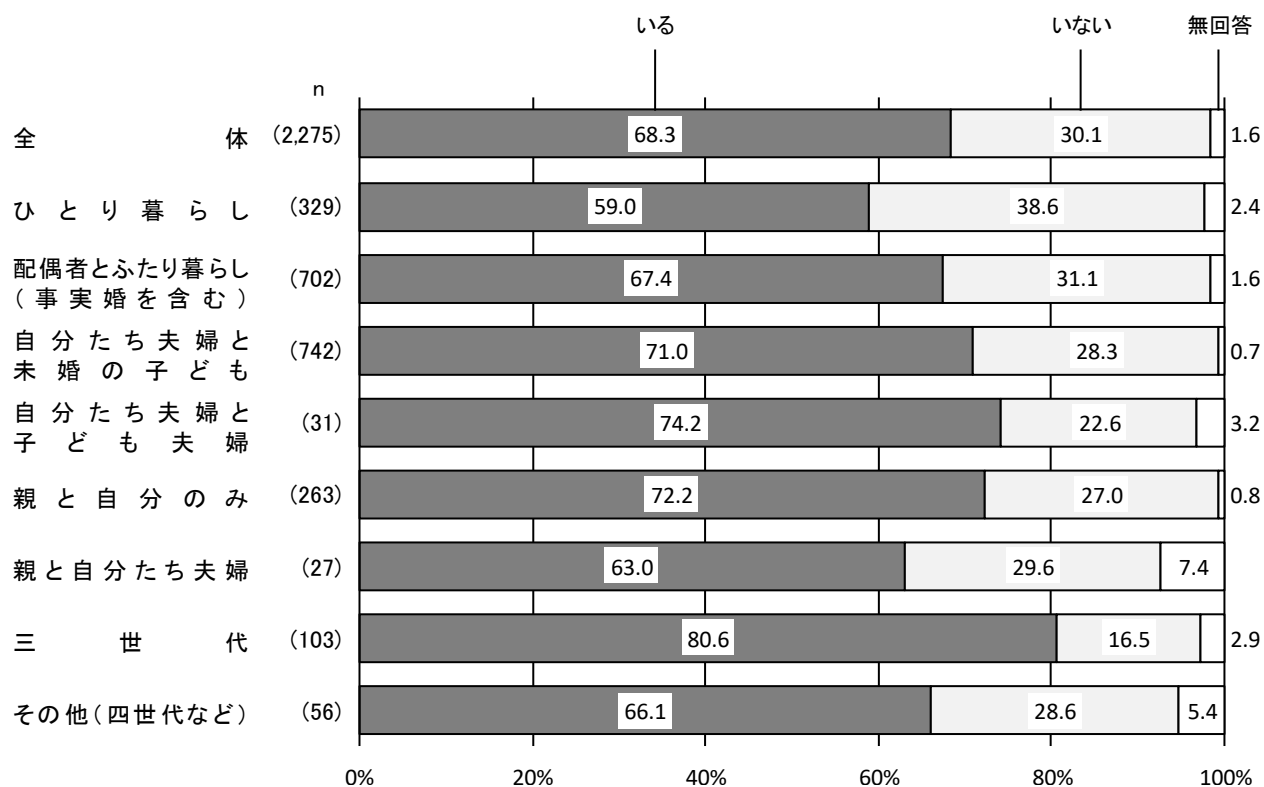
居住地域別にみると、「いない」は、加住・石川（北部地域）（24.0%）が2割台半ばと低くなっている。（図 27-3）

図 27-4 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無 - 職業別



職業別にみると、「いる」は、学生 (89.7%) が9割弱、(専業)主婦・主夫 (73.8%) が7割強と高くなっている。一方、「いない」は、無職 (36.3%) が4割近くと高くなっている。(図 27-4)

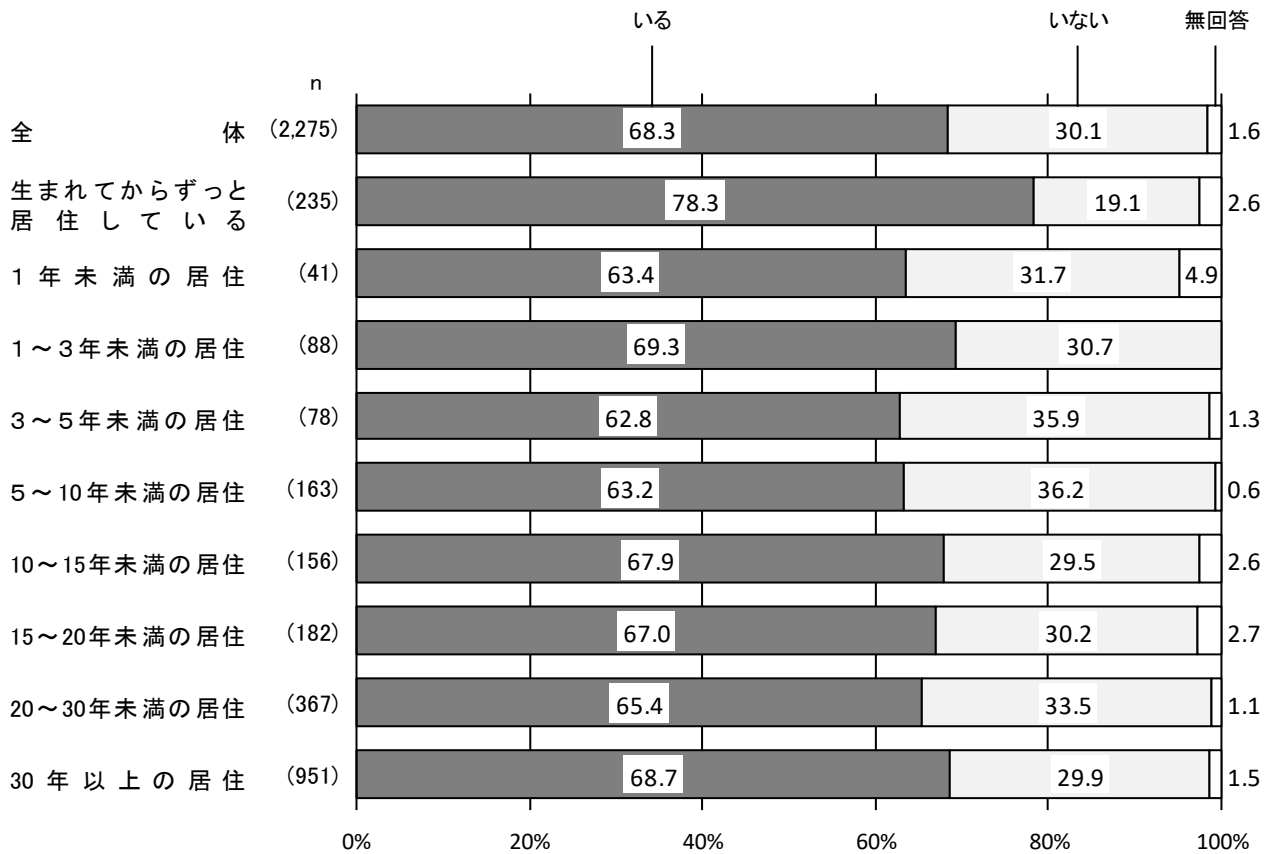
図 27-5 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「いる」は、三世代（80.6%）が約8割、自分たち夫婦と子ども夫婦（74.2%）が7割台半ばと高くなっている。一方、「いない」は、ひとり暮らし（38.6%）が4割近くと高くなっている。

(図 27-5)

図 27-6 身近な場所に相談や助け合いのできる人の有無 - 居住年数別

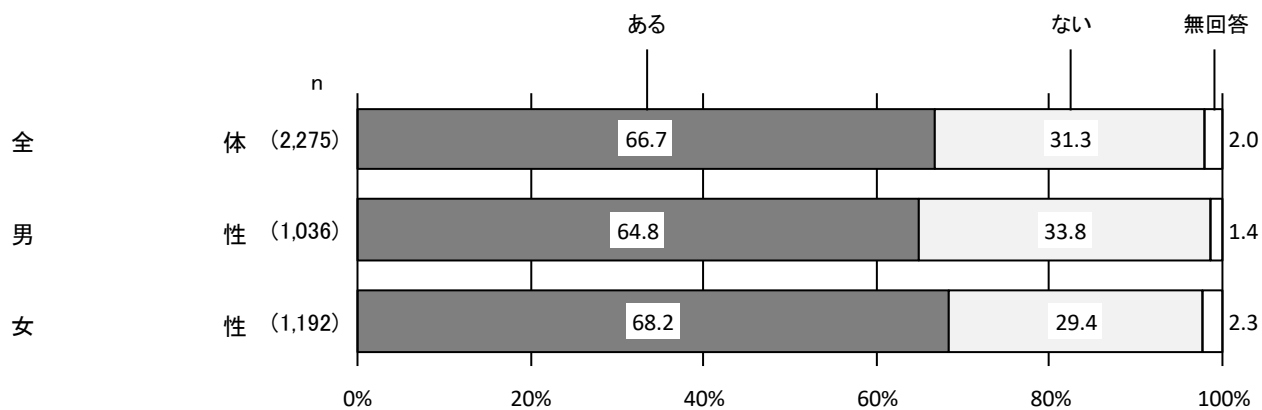


居住年数別にみると、「いる」は、生まれてからずっと居住している（78.3%）が8割近くと高くなっている。一方、「いない」は、5～10年未満の居住（36.2%）が4割近く、3～5年未満の居住（35.9%）が3割台半ばと高くなっている。（図 27-6）

(28) 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無

問 27 あなたにとって、身近な地域に気軽に立ち寄れる場所（公共施設（集会所や図書館など）、飲食店やカフェなどの民間施設、公園、サロンなど）はありますか。（○は1つだけ）

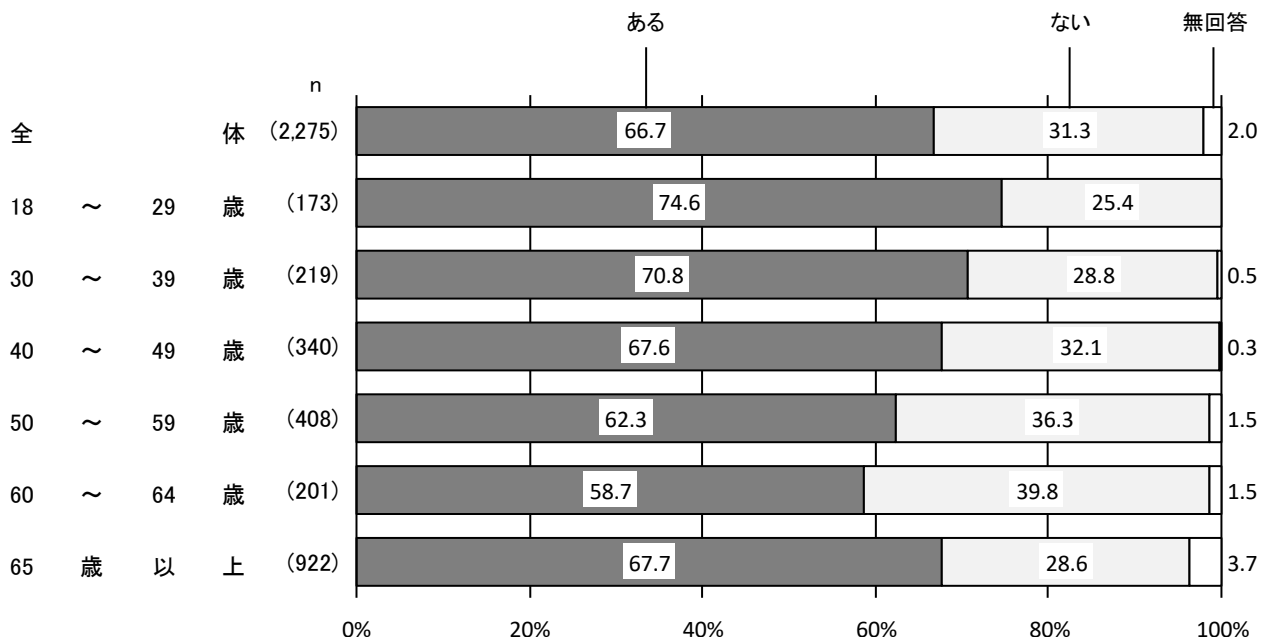
図 28-1 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無 - 全体、性別



身近な地域に気軽に立ち寄れる場所などがあるかを聞いたところ、「ある」(66.7%)は7割近くとなっている。一方、「ない」(31.3%)は3割強となっている。

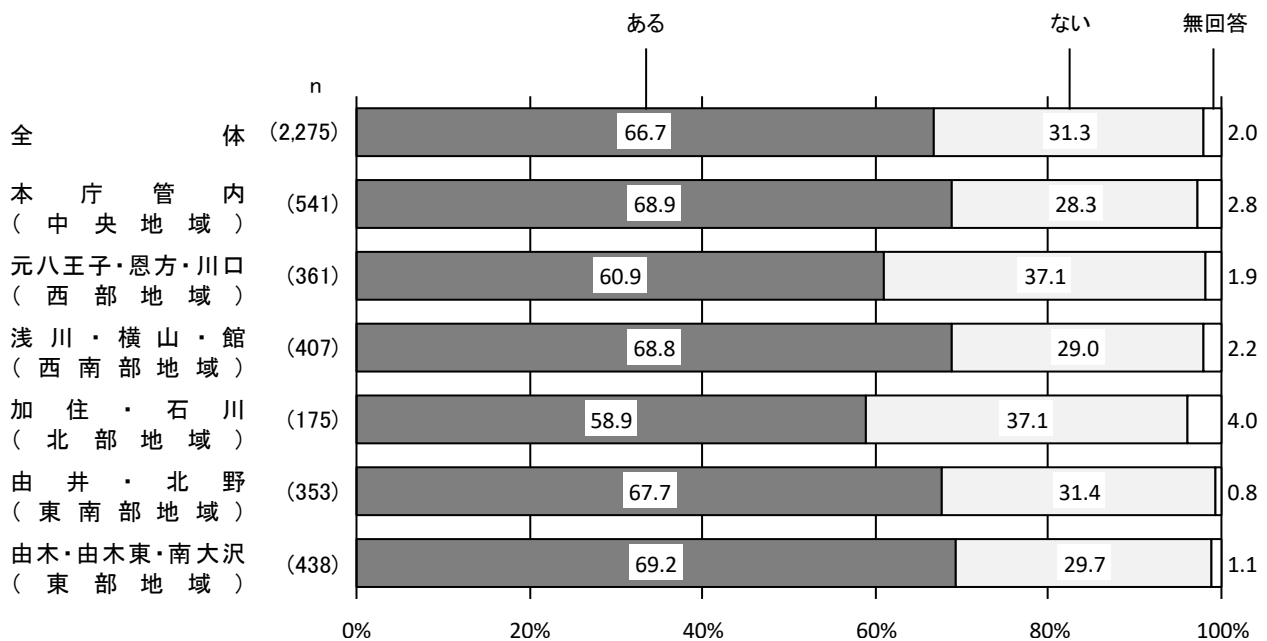
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 28-1)

図 28-2 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無 - 年齢別



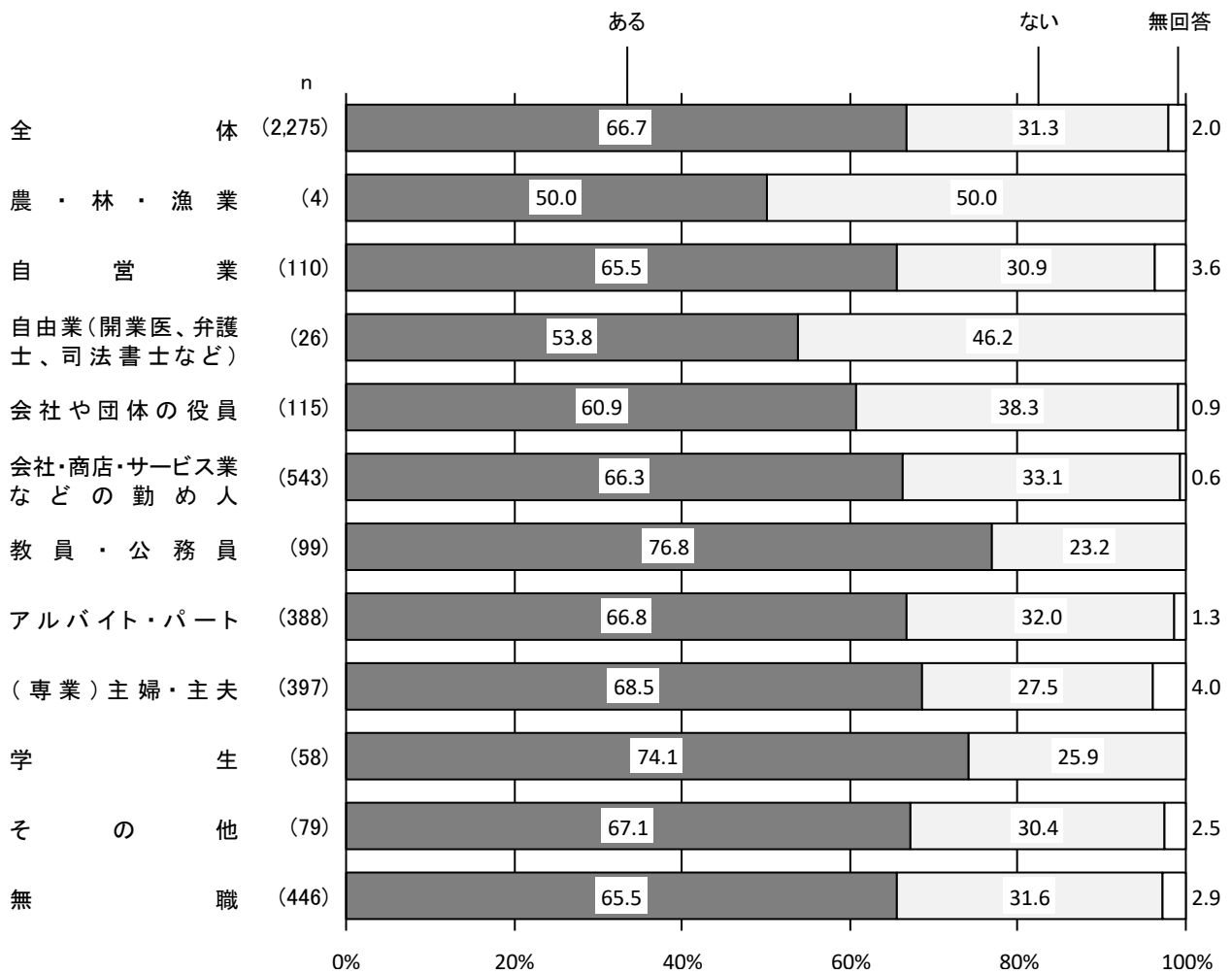
年齢別にみると、「ある」は、18~29 歳 (74.6%) が7割台半ばと高くなっている。一方、「ない」は、60~64 歳 (39.8%) が4割弱と高くなっている。(図 28-2)

図 28-3 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無 - 居住地域別



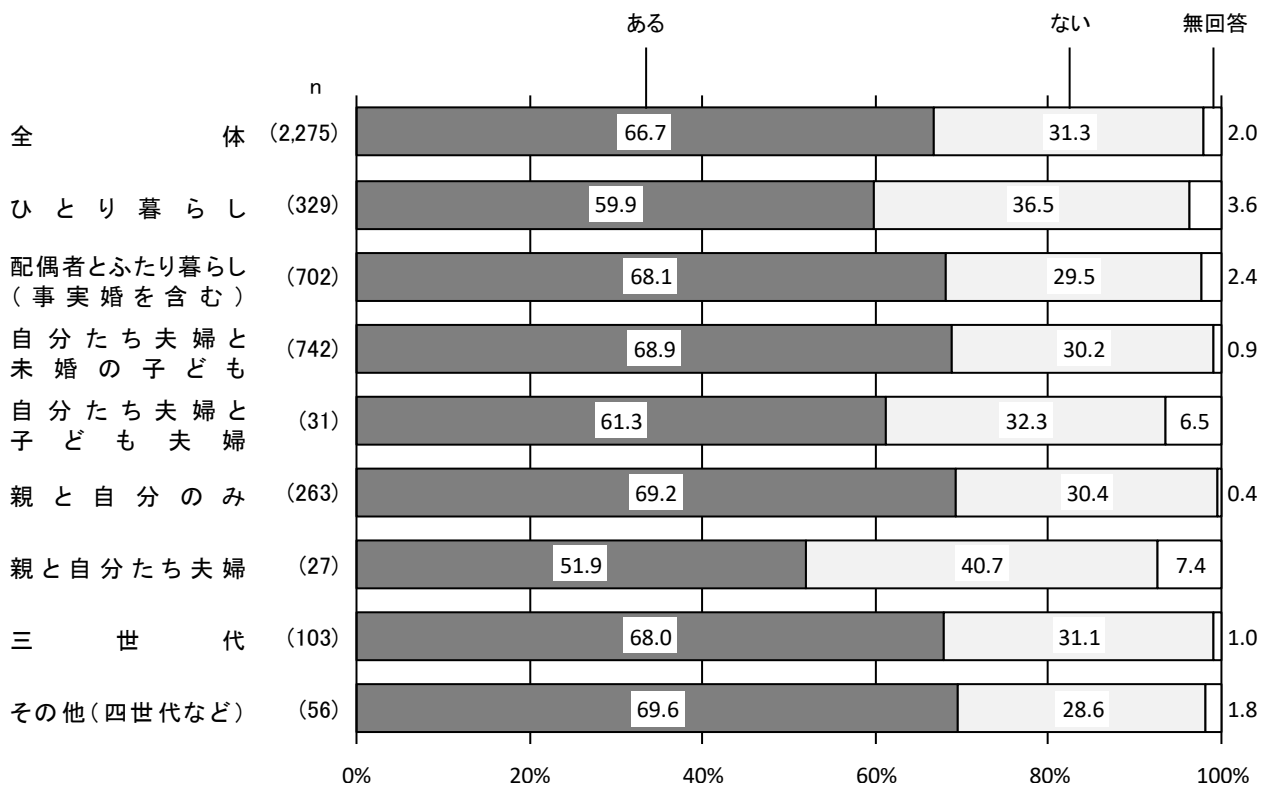
居住地域別にみると、「ない」は、元八王子・恩方・川口 (西部地域) (37.1%)、加住・石川 (北部地域) (37.1%) がそれぞれ4割近くと高くなっている。(図 28-3)

図 28-4 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無 - 職業別



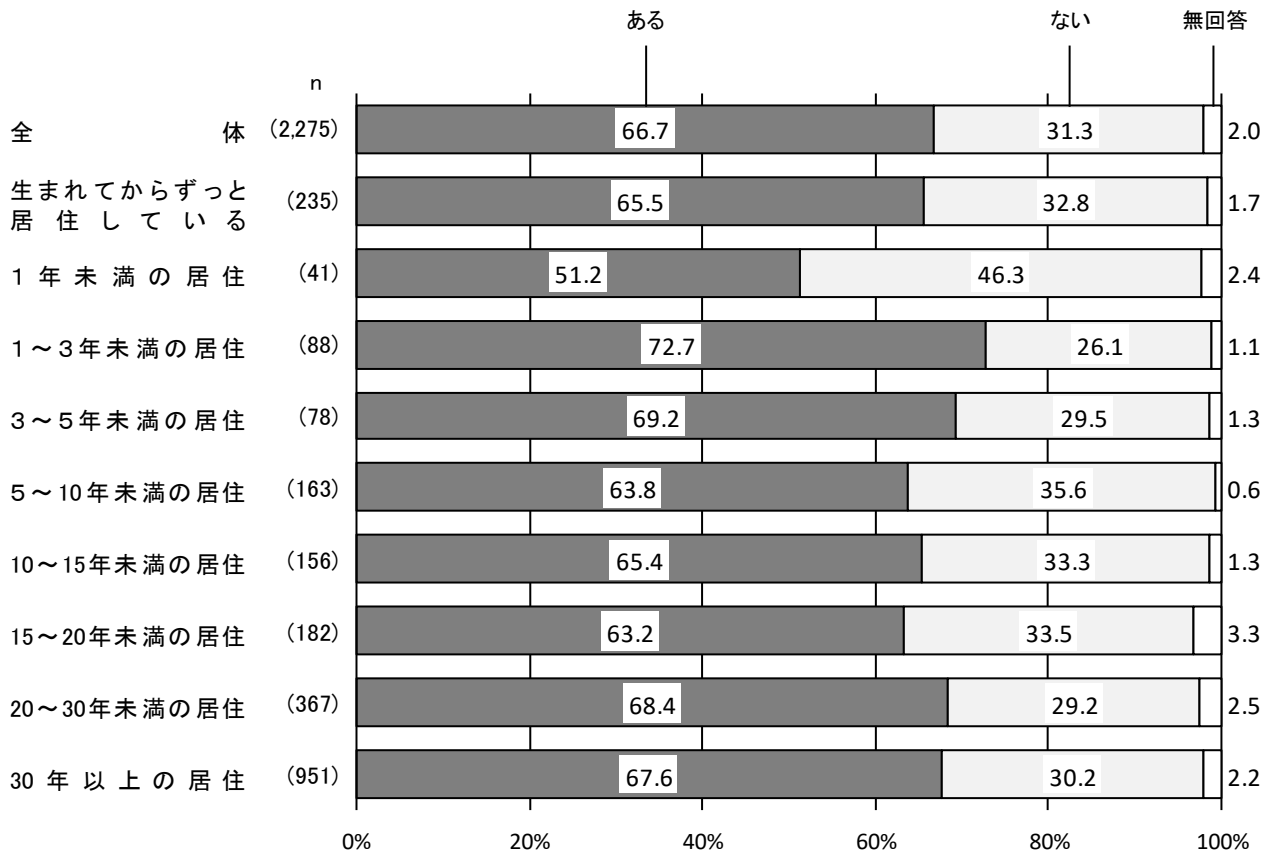
職業別にみると、「ある」は、教員・公務員 (76.8%) が 8 割近く、学生 (74.1%) が 7 割台半ばと高くなっている。一方、「ない」は、会社や団体の役員 (38.3%) が 4 割近くと高くなっている。(図 28-4)

図 28-5 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「ない」は、ひとり暮らし (36.5%) が4割近くと高くなっている。(図 28-5)

図 28-6 身近な地域に気軽に立ち寄れる場所の有無 - 居住年数別



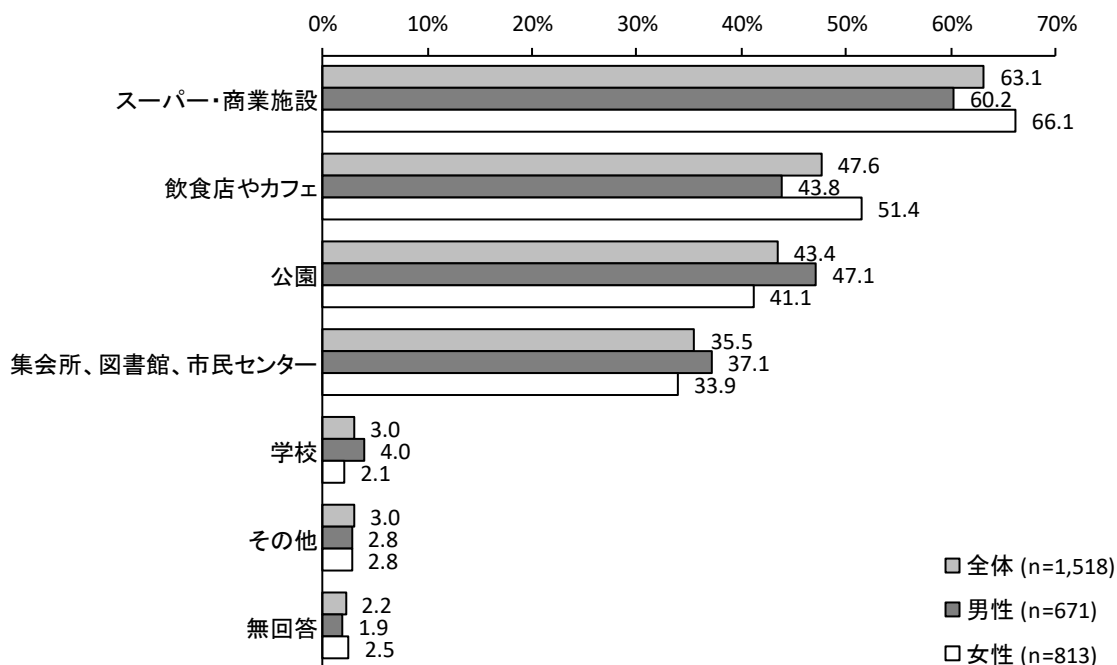
居住年数別にみると、「ある」は、1～3年未満の居住（72.7%）が7割強と高くなっている。一方、「ない」は、1年未満の居住（46.3%）が5割近くと高くなっている。（図 28-6）

(29) 気軽に立ち寄れる場所

(問 27 で、「1 ある」とお答えの方へ)

問 27-1 あなたの身近な地域に気軽に立ち寄れる場所はどこですか。(〇は3つまで)

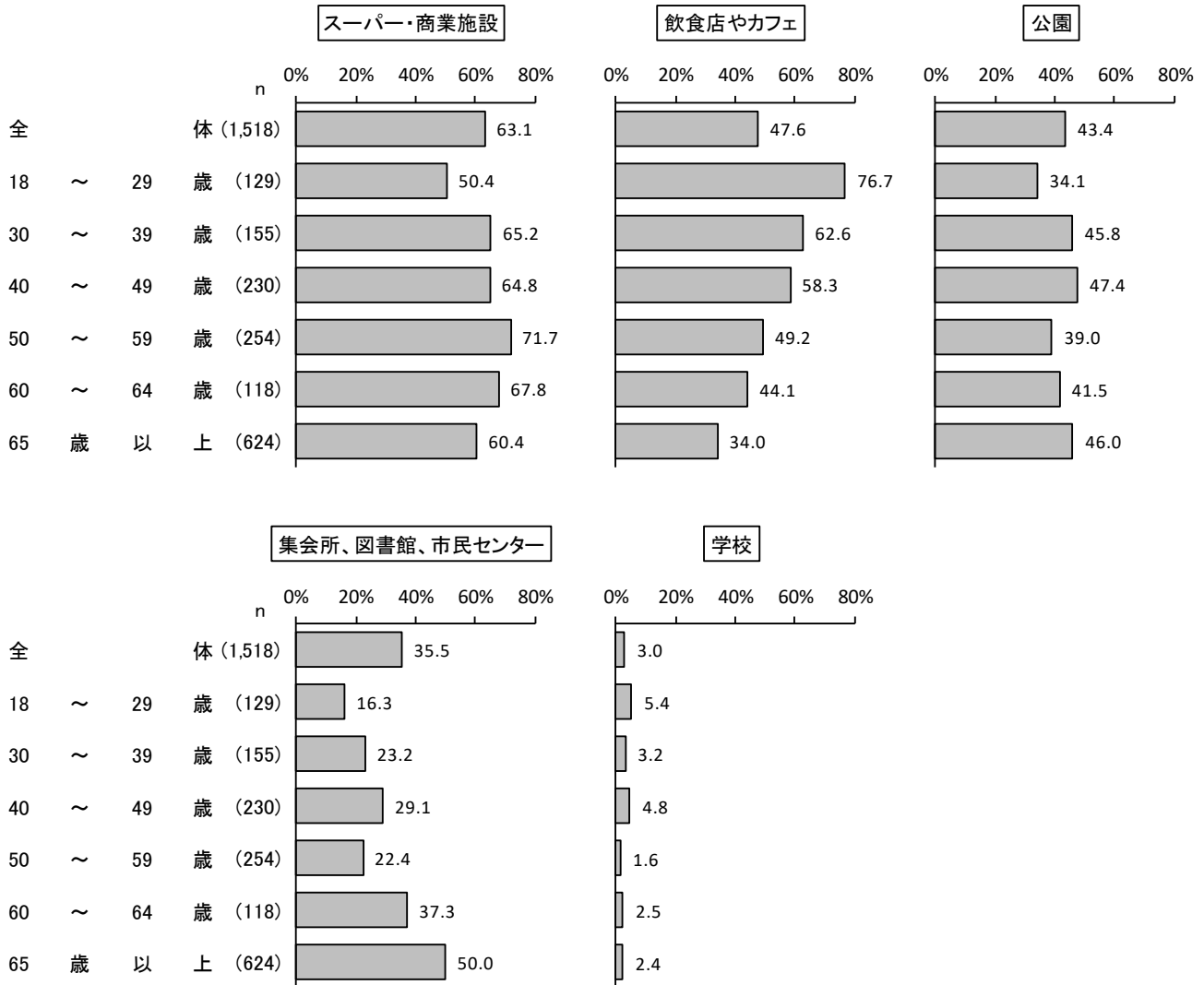
図 29-1 気軽に立ち寄れる場所 - 全体、性別



気軽に立ち寄れる場所を聞いたところ、「スーパー・商業施設」(63.1%)が6割強と最も高くなっている。次いで、「飲食店やカフェ」(47.6%)、「公園」(43.4%)、「集会所、図書館、市民センター」(35.5%)などの順となっている。

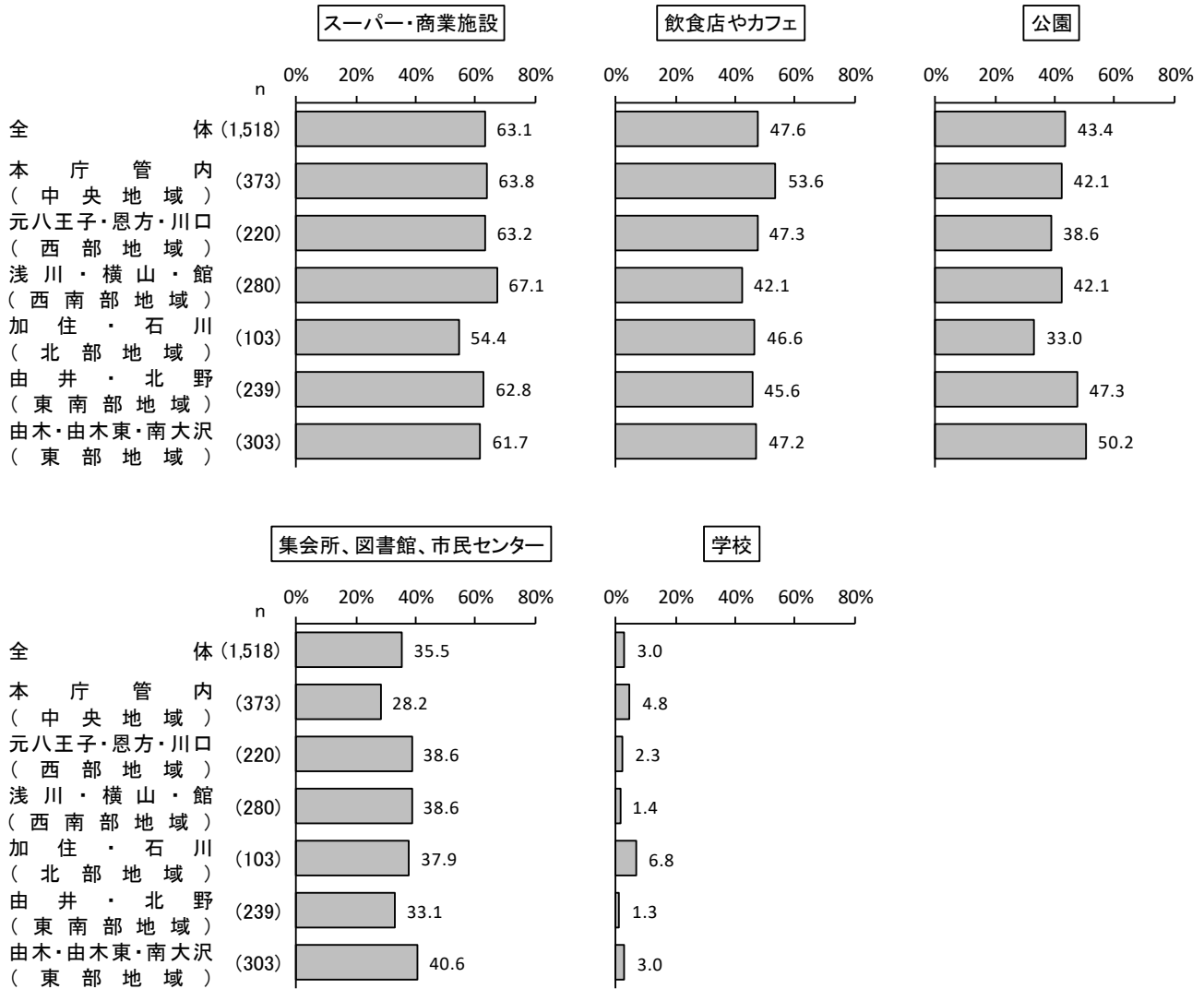
性別にみると、「飲食店やカフェ」は、女性(51.4%)が男性(43.8%)より7.6ポイント高くなっている。「公園」は、男性(47.1%)が女性(41.1%)より6.0ポイント高くなっている。「スーパー・商業施設」は、女性(66.1%)が男性(60.2%)より5.9ポイント高くなっている。(図 29-1)

図 29-2 気軽に立ち寄れる場所 - 年齢別



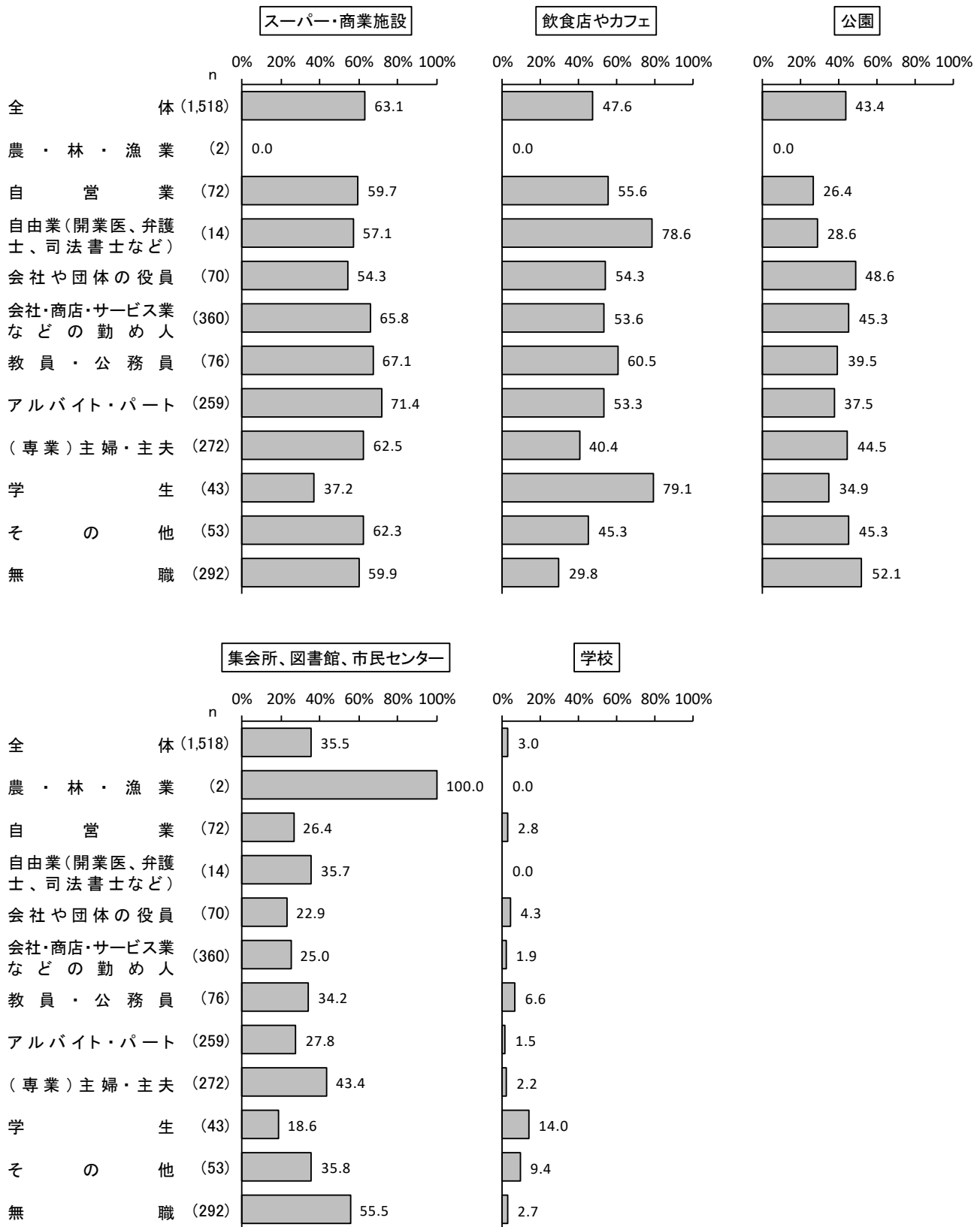
年齢別にみると、「スーパー・商業施設」は、50～59 歳（71.7%）が7割強と高くなっている。「飲食店やカフェ」は、18～29 歳（76.7%）が8割近く、30～39 歳（62.6%）が6割強、40～49 歳（58.3%）が6割近くと高くなっている。「公園」は、18～29 歳（34.1%）が3割台半ばと低くなっている。「集会所、図書館、市民センター」は、65歳以上（50.0%）が5割と高くなっている。（図 29-2）

図 29-3 気軽に立ち寄れる場所 - 居住地域別



居住地域別にみると、「スーパー・商業施設」は、加住・石川（北部地域）（54.4%）が5割台半ばと低くなっている。「飲食店やカフェ」は、本庁管内（中央地域）（53.6%）が5割強と高くなっている。「公園」は、由木・由木東・南大沢（東部地域）（50.2%）が約5割と高くなっている。「集会所、図書館、市民センター」は、由木・由木東・南大沢（東部地域）（40.6%）が約4割と高くなっている。（図 29-3）

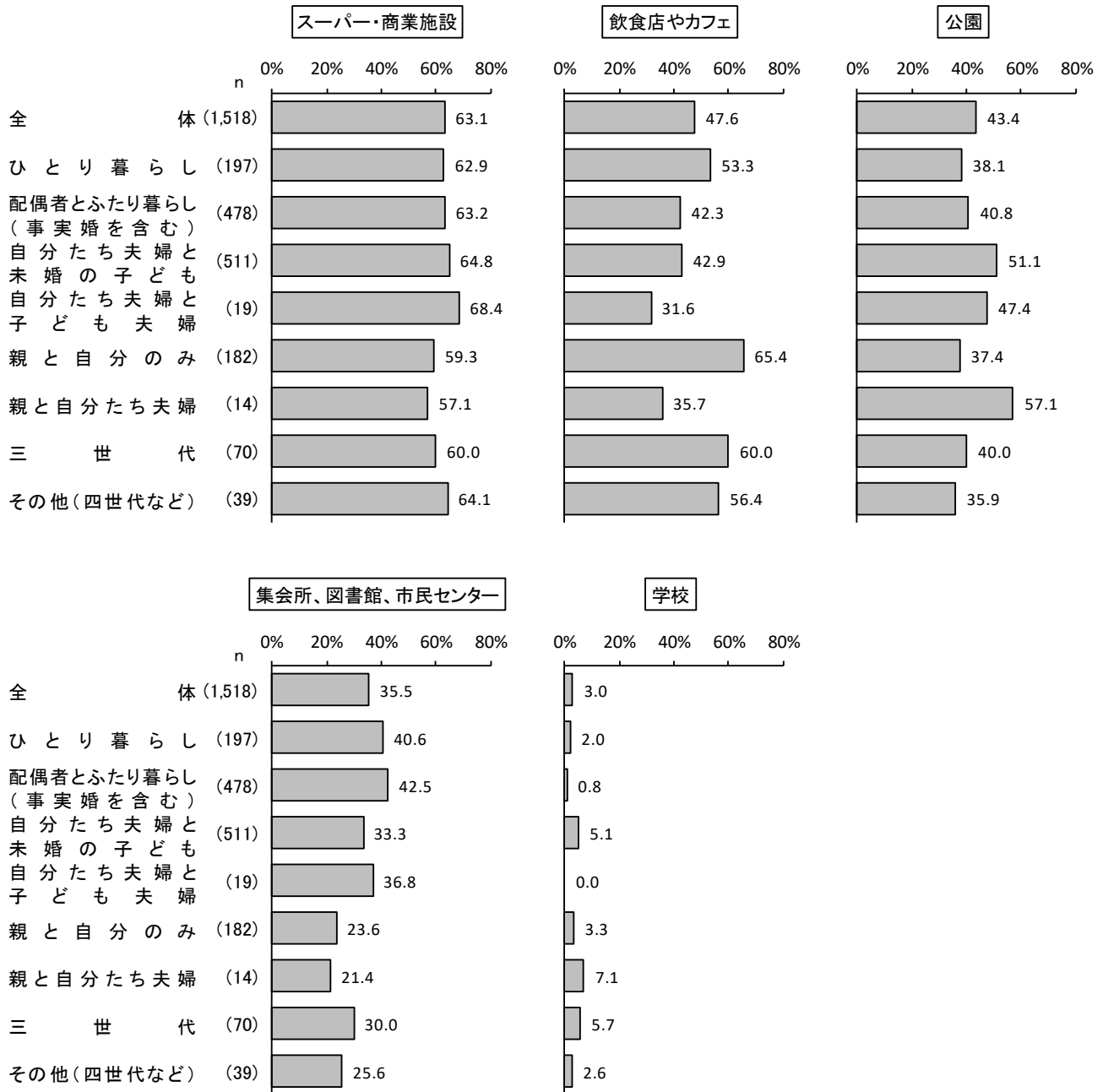
図 29-4 気軽に立ち寄れる場所 - 職業別



職業別にみると、「スーパー・商業施設」は、アルバイト・パート(71.4%)が7割強と高くなっている。「飲食店やカフェ」は、学生(79.1%)が8割弱、教員・公務員(60.5%)が約6割、自営業(55.6%)、会社や団体の役員(54.3%)がそれぞれ5割台半ば、会社・商店・サービス業などの勤め人(53.6%)、アルバ

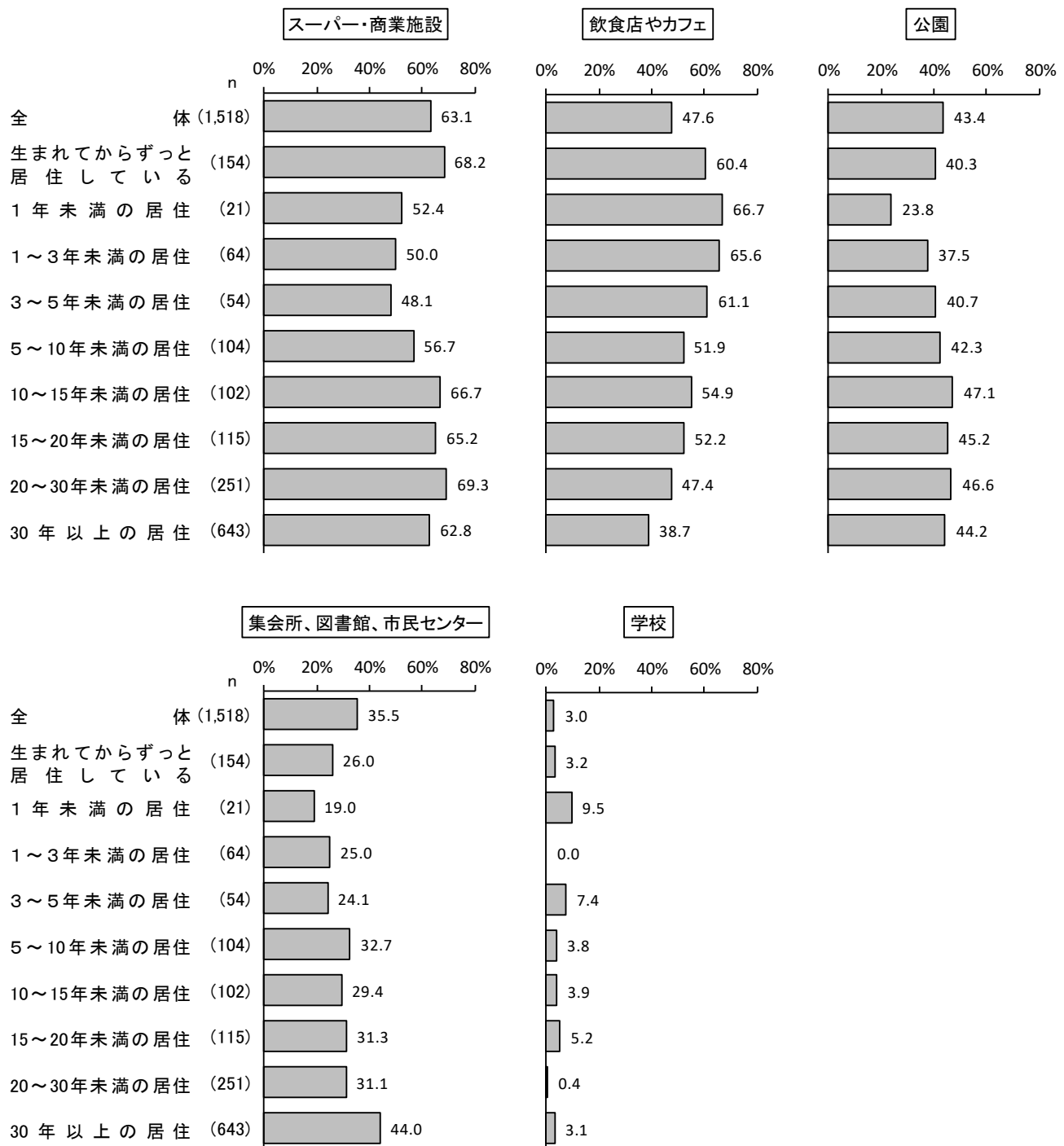
イト・パート（53.3%）がそれぞれ5割強と高くなっている。「公園」は、無職（52.1%）が5割強、会社や団体の役員（48.6%）が5割近くと高くなっている。「集会所、図書館、市民センター」は、無職（55.5%）が5割台半ば、（専業）主婦・主夫（43.4%）が4割強と高くなっている。「学校」は、学生（14.0%）が1割台半ば、その他（9.4%）が1割弱と高くなっている。（図29-4）

図 29-5 気軽に立ち寄れる場所 - 世帯構成別



世帯構成別にみると、「飲食店やカフェ」は、親と自分のみ（65.4%）が6割台半ば、三世代（60.0%）が6割、その他（四世代など）（56.4%）が6割近く、ひとり暮らし（53.3%）が5割強と高くなっている。「公園」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（51.1%）が5割強と高くなっている。「集会所、図書館、市民センター」は、配偶者とふたり暮らし（事実婚を含む）（42.5%）が4割強、ひとり暮らし（40.6%）が約4割と高くなっている。（図 29-5）

図 29-6 気軽に立ち寄れる場所 - 居住年数別

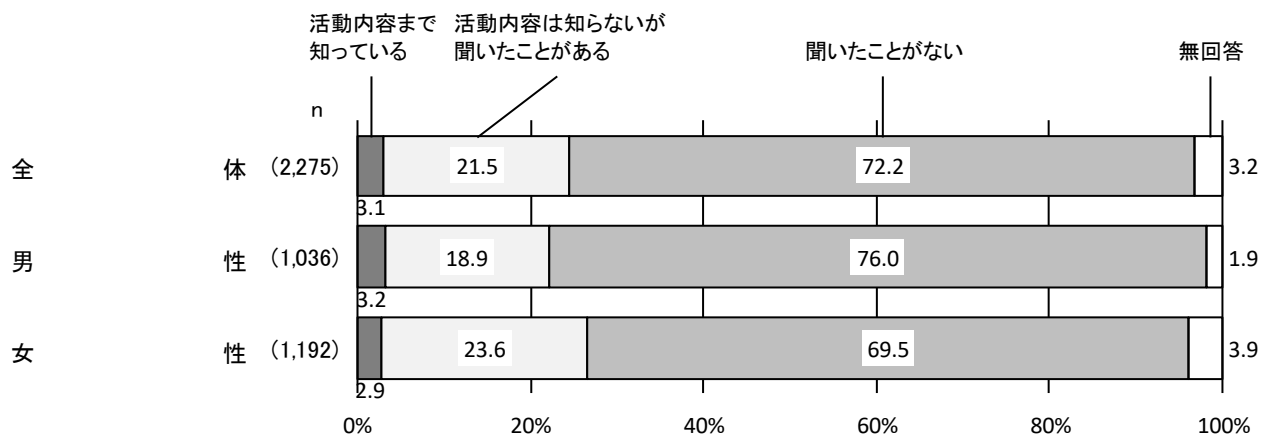


居住年数別にみると、「スーパー・商業施設」は、20～30年未満の居住（69.3%）が7割弱、生まれてからずっと居住している（68.2%）が7割近くと高くなっている。「飲食店やカフェ」は、1～3年未満の居住（65.6%）が6割台半ば、3～5年未満の居住（61.1%）が6割強、生まれてからずっと居住している（60.4%）が約6割、10～15年未満の居住（54.9%）が5割台半ばと高くなっている。「公園」は、1～3年未満の居住（37.5%）が4割近くと低くなっている。「集会所、図書館、市民センター」は、30年以上の居住（44.0%）が4割台半ばと高くなっている。（図 29-6）

(30) 「地域づくり」を進めるための取組の認知度

問 28 八王子市は、「地域づくり」を進めるために、中学校区ごとに「地域づくり推進会議」を設置しています。あなたは、この取組をご存じですか。(○は1つだけ)

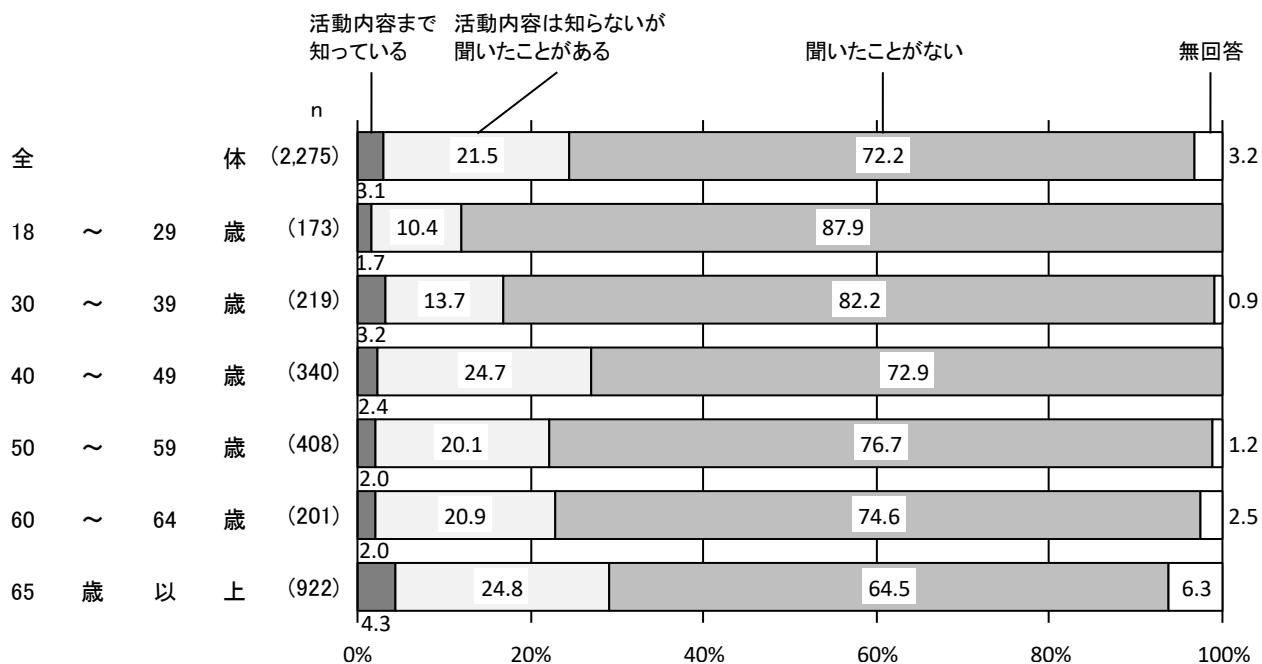
図 30-1 「地域づくり」を進めるための取組の認知度 — 全体、性別



「地域づくり」を進めるための取組の認知度について聞いたところ、「活動内容まで知っている」(3.1%)は1割未満、「活動内容は知らないが聞いたことがある」(21.5%)は2割強、「聞いたことがない」(72.2%)は7割強となっている。

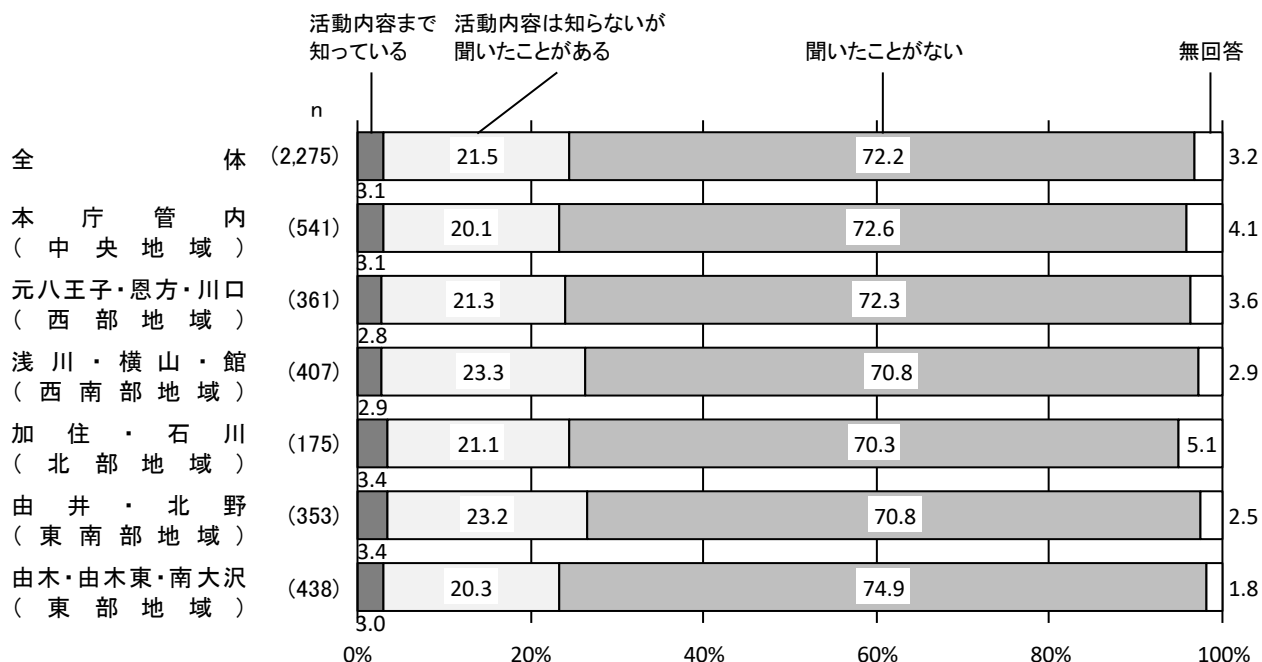
性別にみると、「聞いたことがない」は、男性(76.0%)が女性(69.5%)より6.5ポイント高くなっている。(図30-1)

図 30-2 「地域づくり」を進めるための取組の認知度 — 年齢別



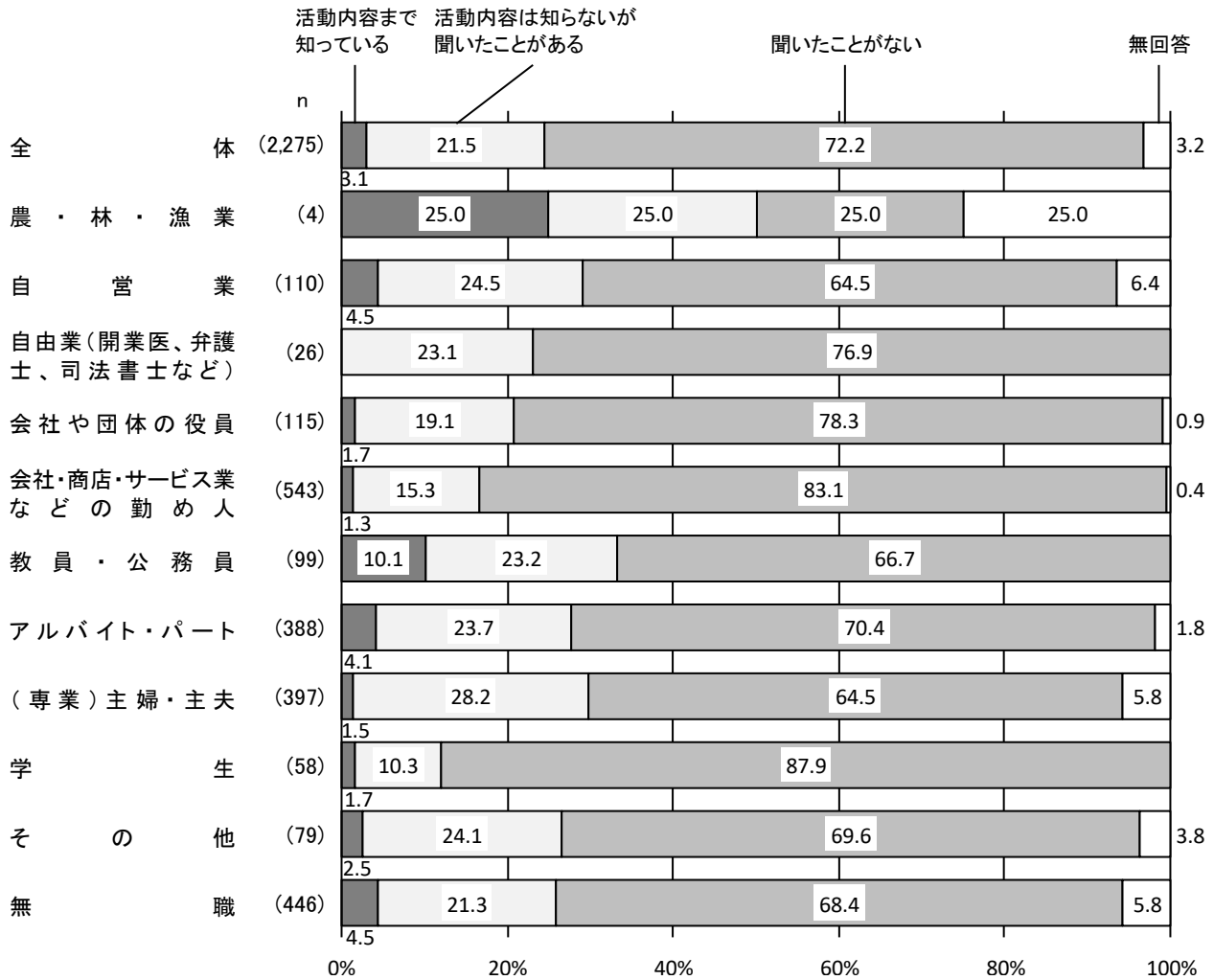
年齢別にみると、「聞いたことがない」は、18~29歳（87.9%）が9割近く、30~39歳（82.2%）が8割強と高くなっている。（図 30-2）

図 30-3 「地域づくり」を進めるための取組の認知度 — 居住地域別



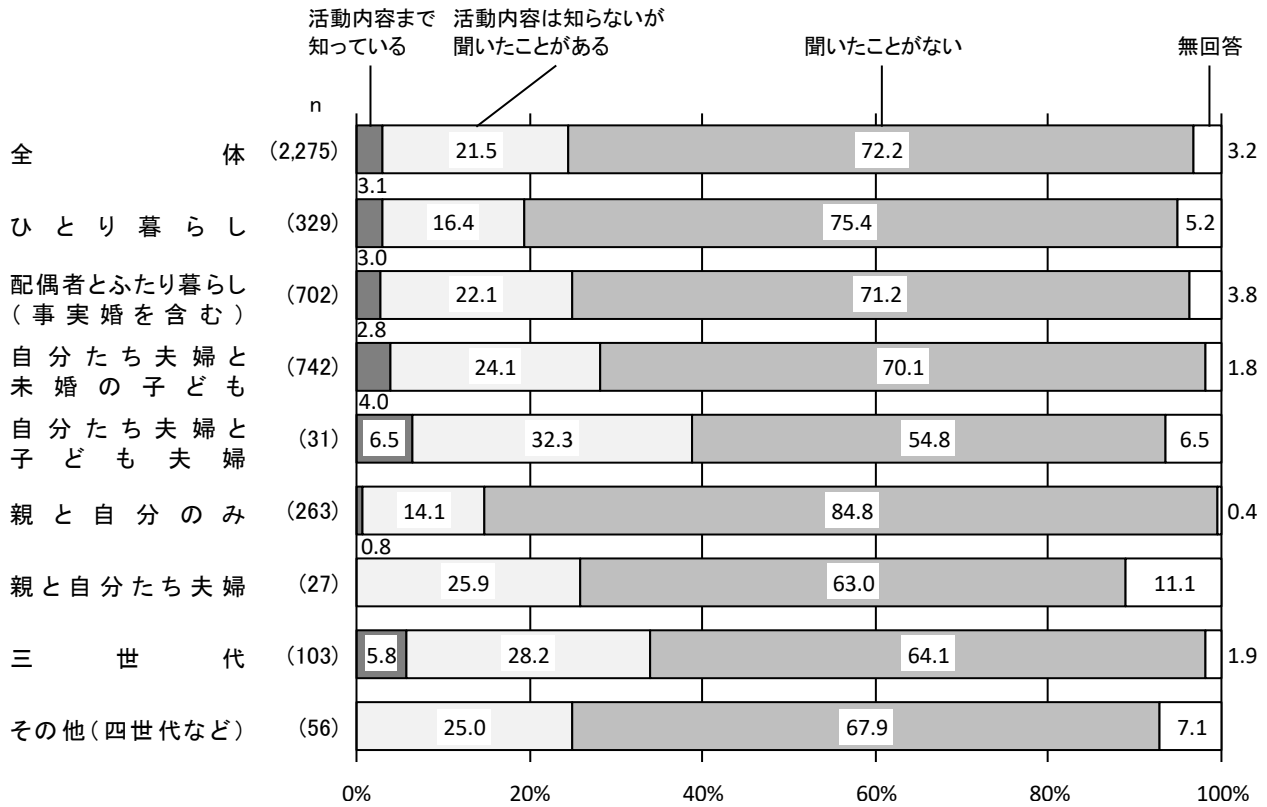
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。（図 30-3）

図 30-4 「地域づくり」を進めるための取組の認知度 - 職業別



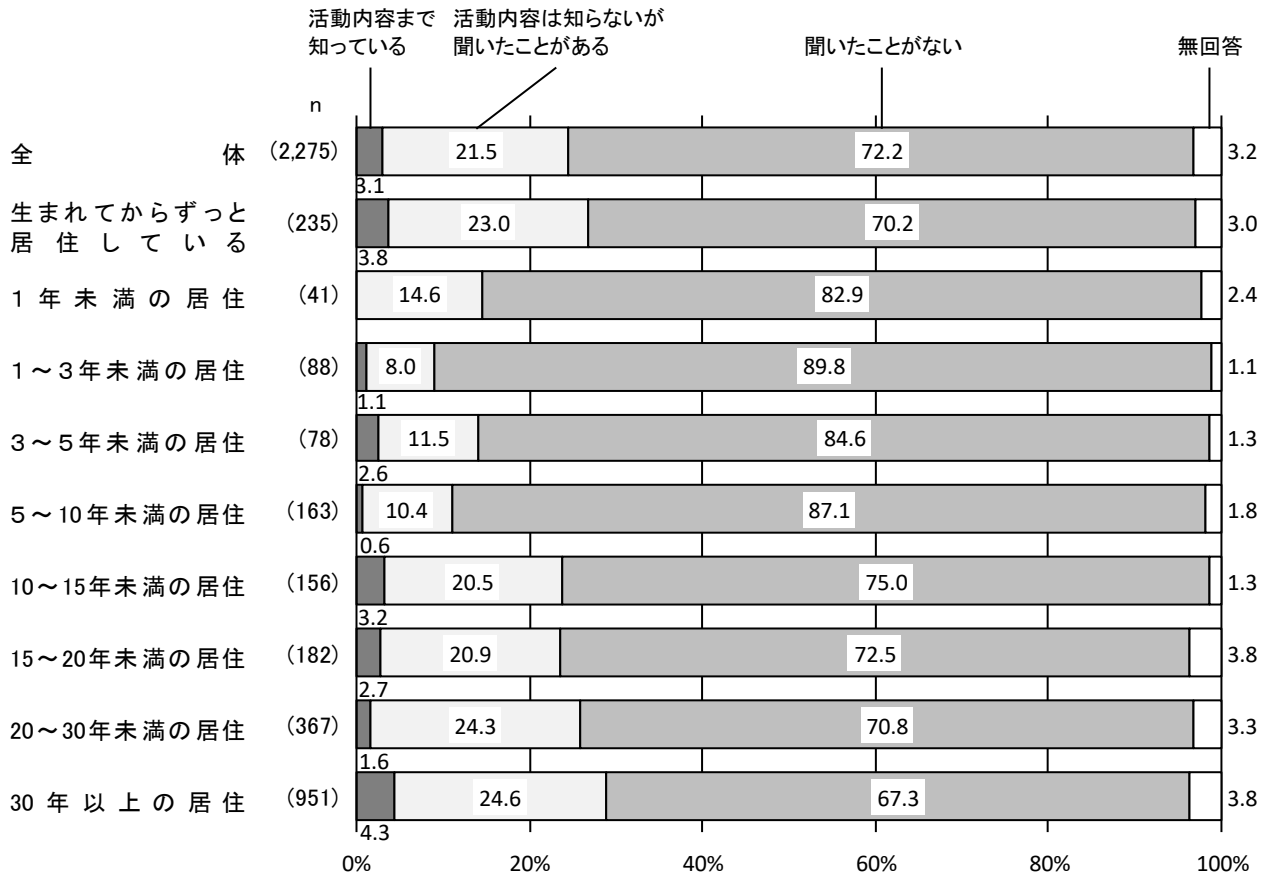
職業別にみると、「活動内容まで知っている」は、教員・公務員（10.1%）が約1割と高くなっている。「活動内容は知らないが聞いたことがある」は、(専業)主婦・主夫（28.2%）が3割近くと高くなっている。「聞いたことがない」は、学生（87.9%）が9割近く、会社・商店・サービス業などの勤め人（83.1%）が8割強、会社や団体の役員（78.3%）が8割近くと高くなっている。（図 30-4）

図 30-5 「地域づくり」を進めるための取組の認知度 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「活動内容は知らないが聞いたことがある」は、自分たち夫婦と子ども夫婦 (32.3%) が3割強、三世代 (28.2%) が3割近くと高くなっている。「聞いたことがない」は、親と自分のみ (84.8%) が8割台半ばと高くなっている。(図 30-5)

図 30-6 「地域づくり」を進めるための取組の認知度 - 居住年数別



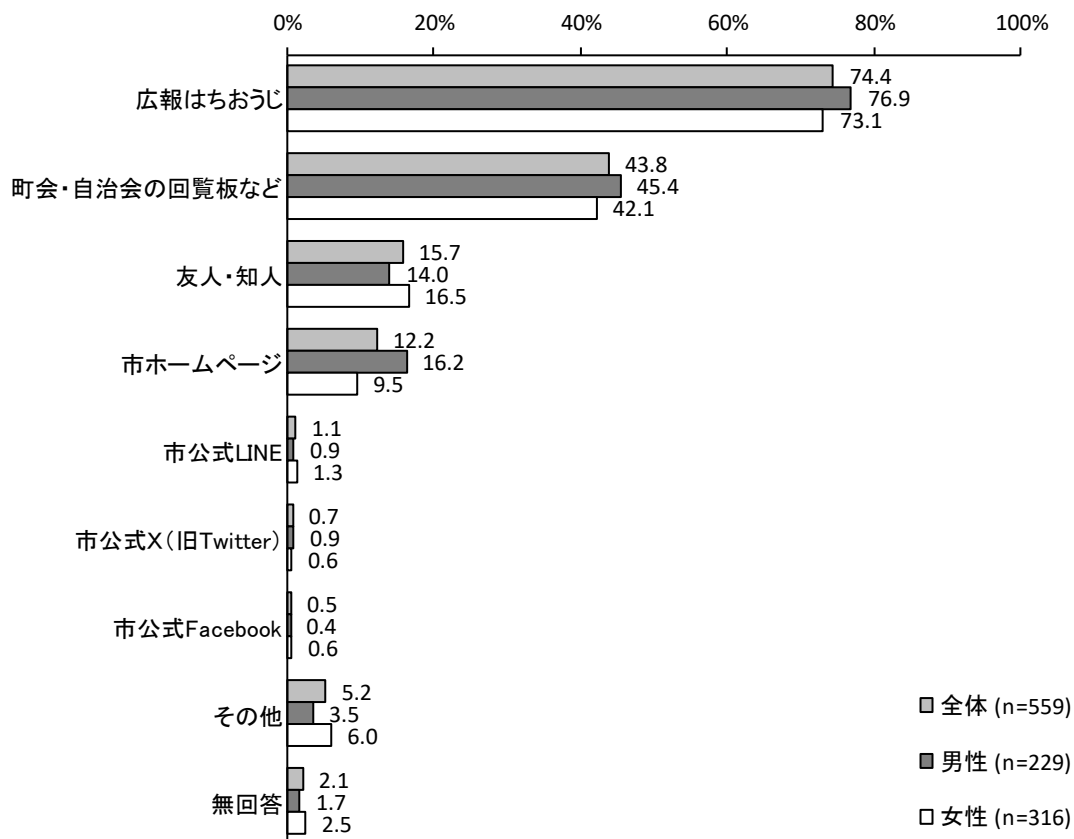
居住年数別にみると、「聞いたことがない」は、1～3年未満の居住（89.8%）が9割弱、5～10年未満の居住（87.1%）が9割近く、3～5年未満の居住（84.6%）が8割台半ば、1年未満の居住（82.9%）が8割強と高くなっている。（図 30-6）

(31) 地域づくりの取組を知ったきっかけ

(問 28 で、「1 活動内容まで知っている」または「2 活動内容は知らないが聞いたことがある」とお答えの方へ)

問 28-1 あなたは、地域づくりの取組をどこで知りましたか。(〇は3つまで)

図 31-1 地域づくりの取組を知ったきっかけ - 全体、性別

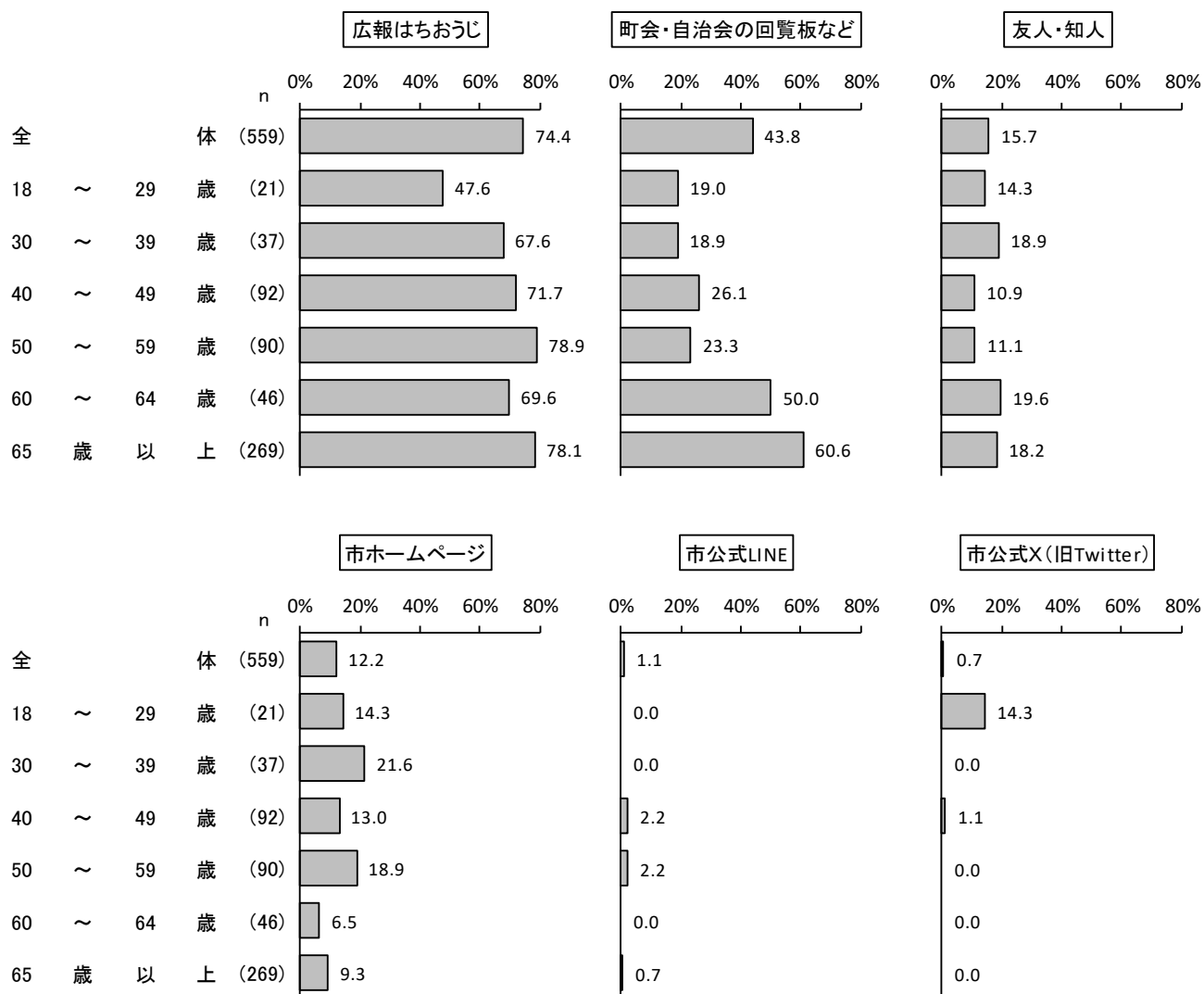


地域づくりの取組を知ったきっかけを聞いたところ、「広報はちおうじ」(74.4%)が7割台半ばと最も高くなっている。次いで、「町会・自治会の回覧板など」(43.8%)、「友人・知人」(15.7%)、「市ホームページ」(12.2%)などの順となっている。

性別にみると、「市ホームページ」は、男性(16.2%)が女性(9.5%)より6.7ポイント高くなっている。

(図 31-1)

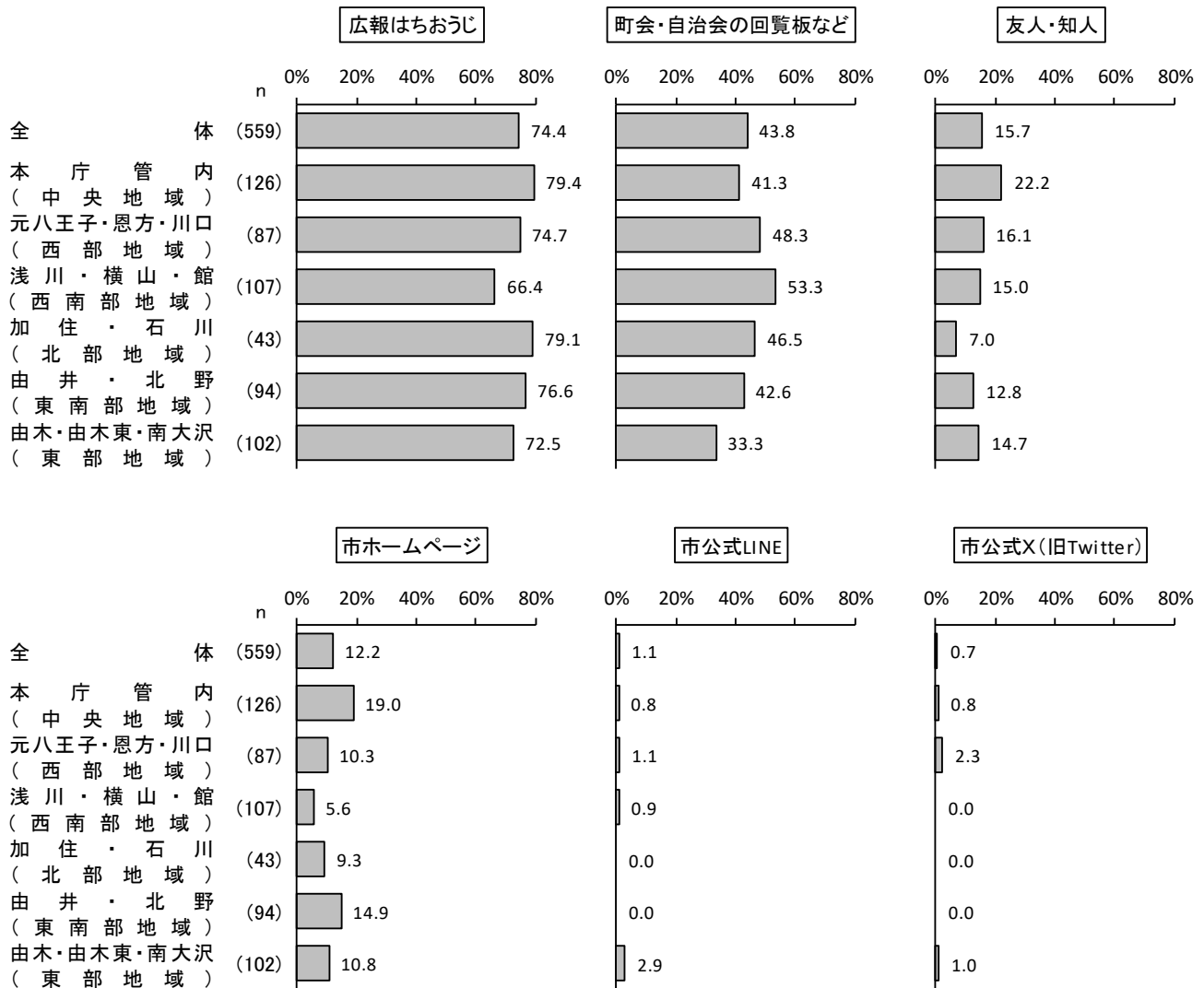
図 31-2 地域づくりの取組を知ったきっかけ - 年齢別 (上位6位)



年齢別にみると、「広報はちおうじ」は、30～39 歳（67.6%）が7割近くと低くなっている。「町会・自治会の回覧板など」は、65 歳以上（60.6%）が約6割、60～64 歳（50.0%）が5割と高くなっている。「市ホームページ」は、30～39 歳（21.6%）が2割強、50～59 歳（18.9%）が2割近くと高くなっている。

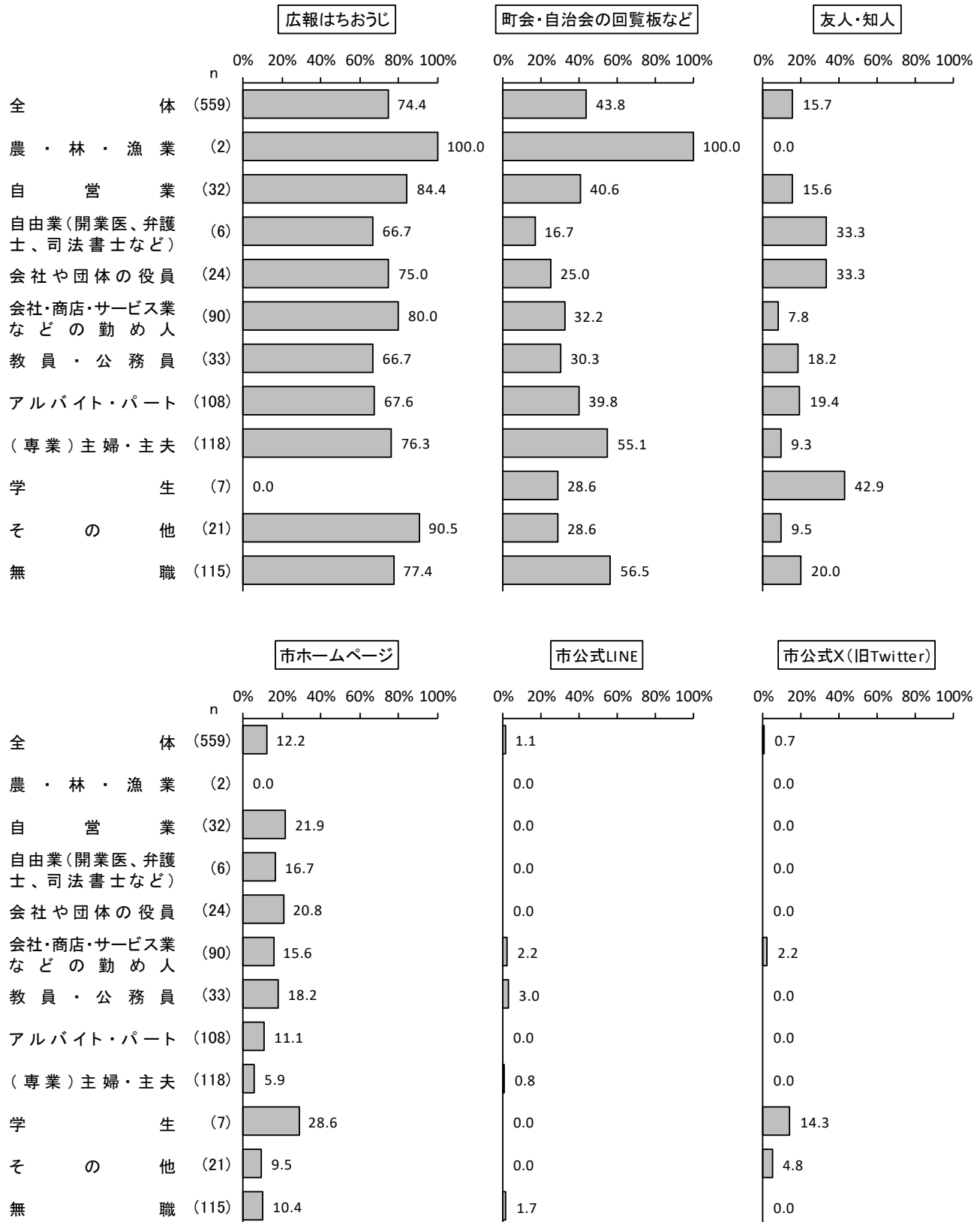
(図 31-2)

図 31-3 地域づくりの取組を知ったきっかけ - 居住地域別 (上位6位)



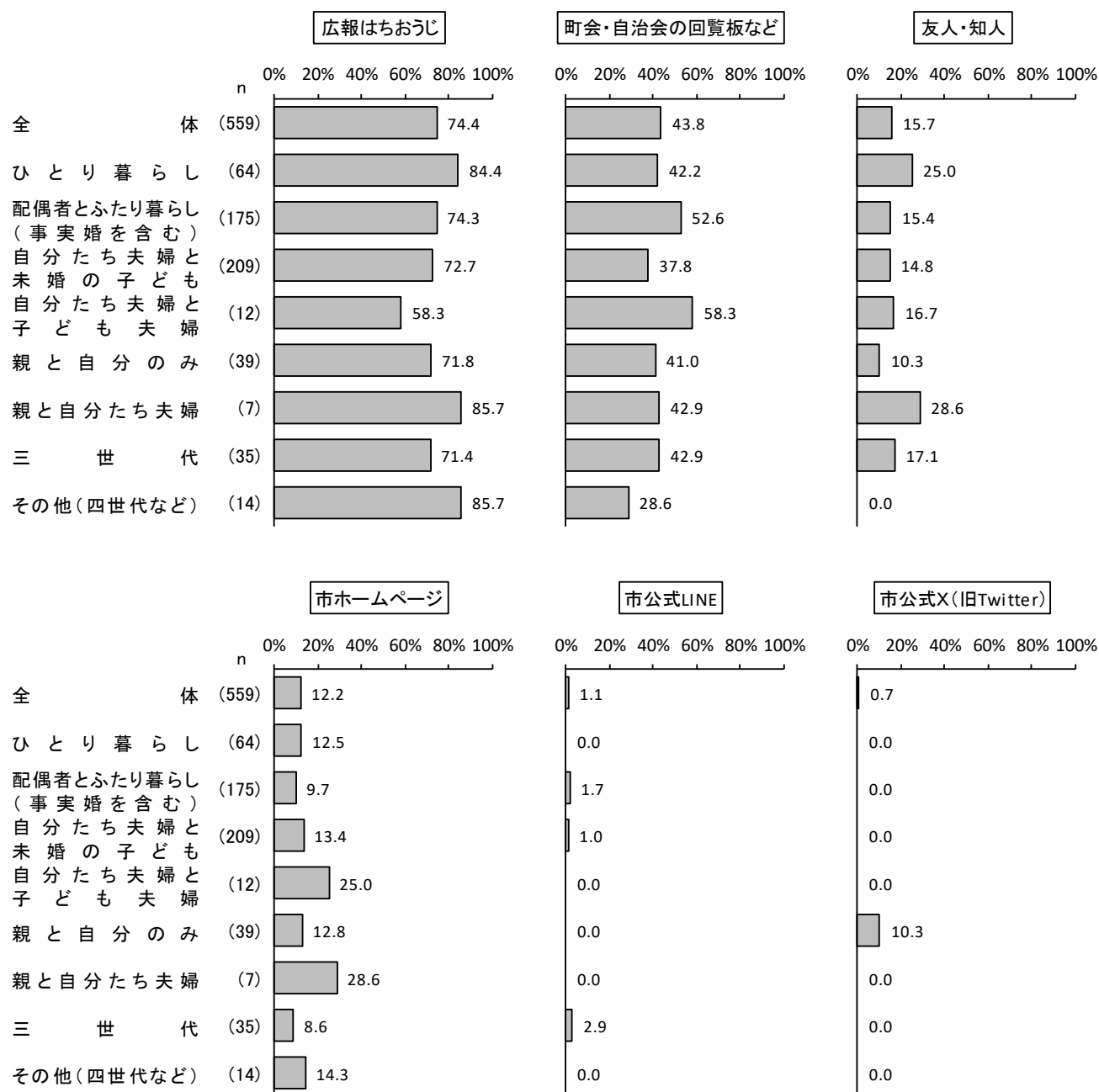
居住地域別にみると、「広報はちおうじ」は、浅川・横山・館（西南部地域）（66.4%）が7割近くと低くなっている。「町会・自治会の回覧板など」は、浅川・横山・館（西南部地域）（53.3%）が5割強と高くなっている。「友人・知人」は、本庁管内（中央地域）（22.2%）が2割強と高くなっている。「市ホームページ」は、本庁管内（中央地域）（19.0%）が2割弱と高くなっている。（図 31-3）

図 31-4 地域づくりの取組を知ったきっかけ - 職業別 (上位6位)



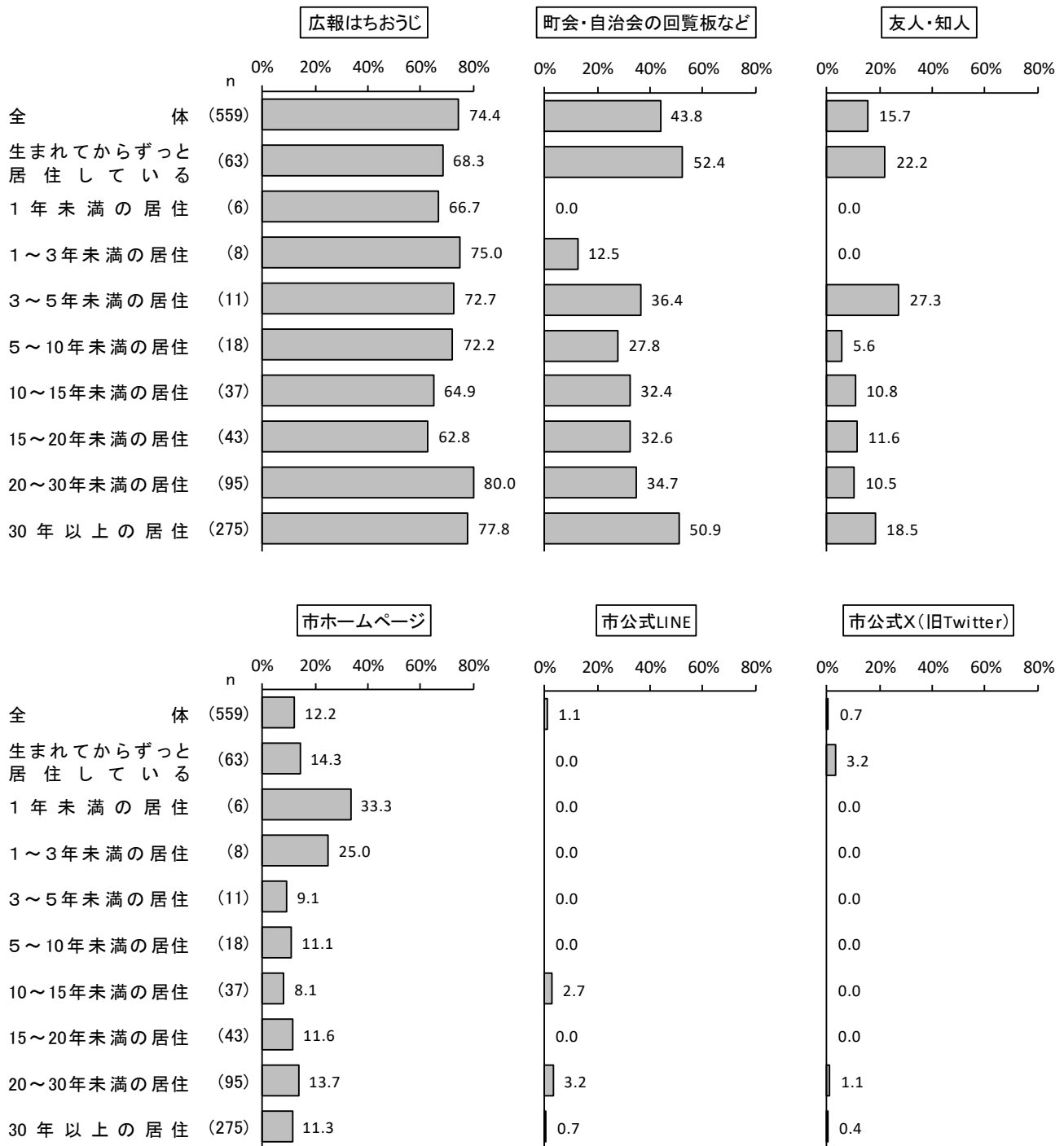
職業別にみると、「広報はちおうじ」は、自営業 (84.4%) が8割台半ば、会社・商店・サービス業などの勤め人 (80.0%) が8割と高くなっている。「町会・自治会の回覧板など」は、無職 (56.5%) が6割近く、(専業)主婦・主夫 (55.1%) が5割台半ばと高くなっている。「友人・知人」は、会社・商店・サービス業などの勤め人 (7.8%) が1割近くと低くなっている。「市ホームページ」は、自営業 (21.9%) が2割強、教員・公務員 (18.2%) が2割近くと高くなっている。(図 31-4)

図 31-5 地域づくりの取組を知ったきっかけ - 世帯構成別 (上位6位)



世帯構成別にみると、「広報はちおうじ」は、ひとり暮らし (84.4%) が8割台半ばと高くなっている。「町会・自治会の回覧板など」は、配偶者とふたり暮らし (事実婚を含む) (52.6%) が5割強と高くなっている。「友人・知人」は、ひとり暮らし (25.0%) が2割台半ばと高くなっている。「市公式X (旧 Twitter)」は、親と自分のみ (10.3%) が約1割と高くなっている。(図 31-5)

図 31-6 地域づくりの取組を知ったきっかけ - 居住年数別（上位6位）

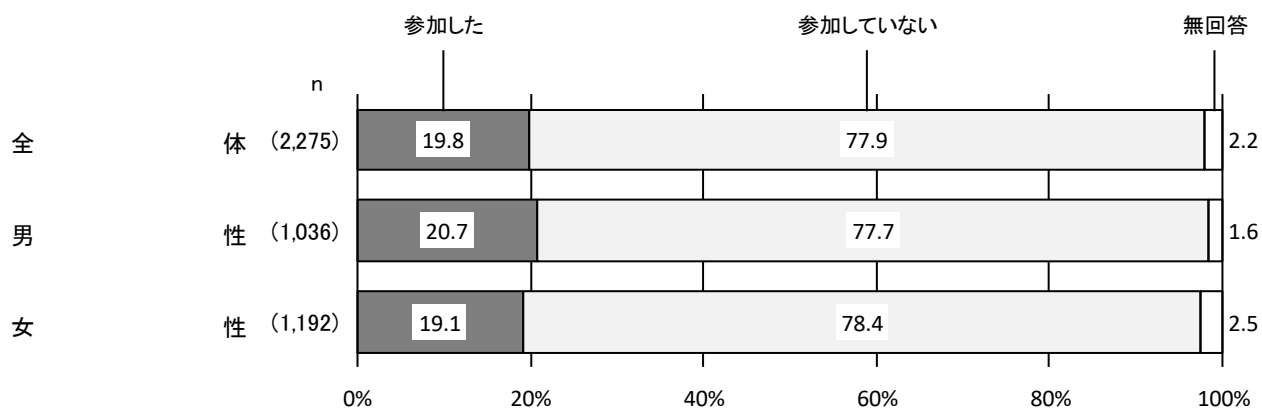


居住年数別にみると、「広報はちおうじ」は、20～30年未満の居住（80.0%）が8割と高くなっている。「町会・自治会の回覧板など」は、生まれてからずっと居住している（52.4%）が5割強、30年以上の居住（50.9%）が約5割と高くなっている。「友人・知人」は、生まれてからずっと居住している（22.2%）が2割強と高くなっている。（図 31-6）

(32) 地域コミュニティ活動への参加状況

問 29 あなたは、この1年間に、地域コミュニティの活動に参加しましたか。(○は1つだけ)

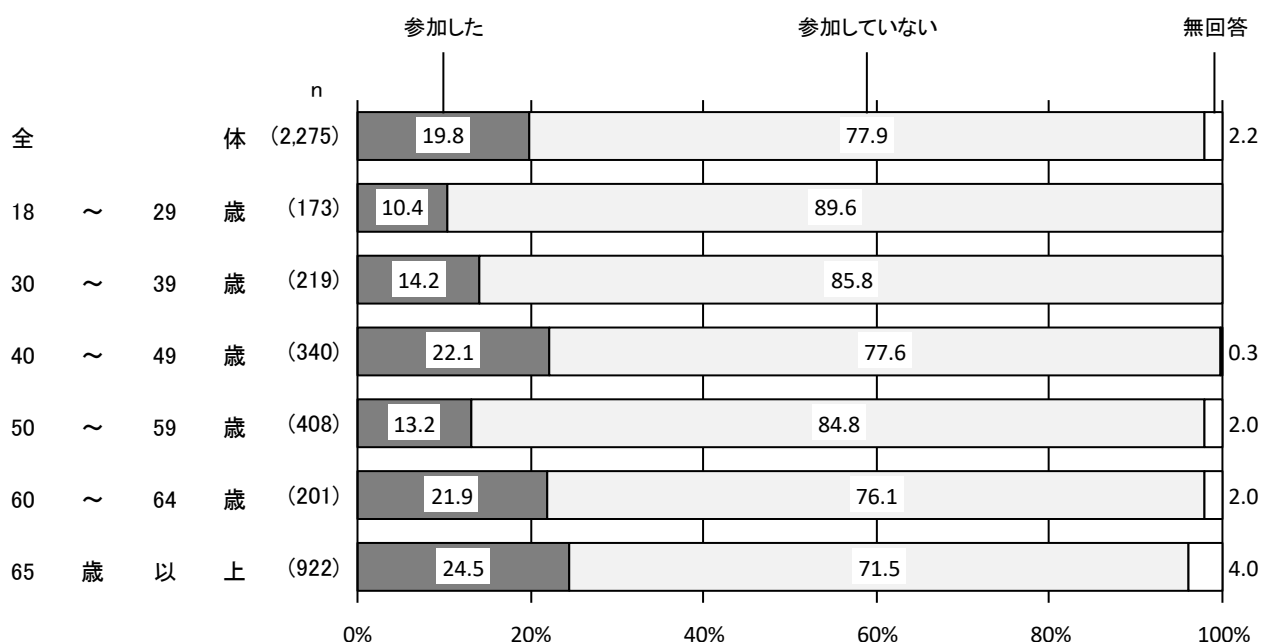
図 32-1 地域コミュニティ活動への参加状況 - 全体、性別



地域コミュニティの活動への参加状況を聞いたところ、「参加した」(19.8%)は2割弱となっている。一方、「参加していない」(77.9%)は8割近くとなっている。

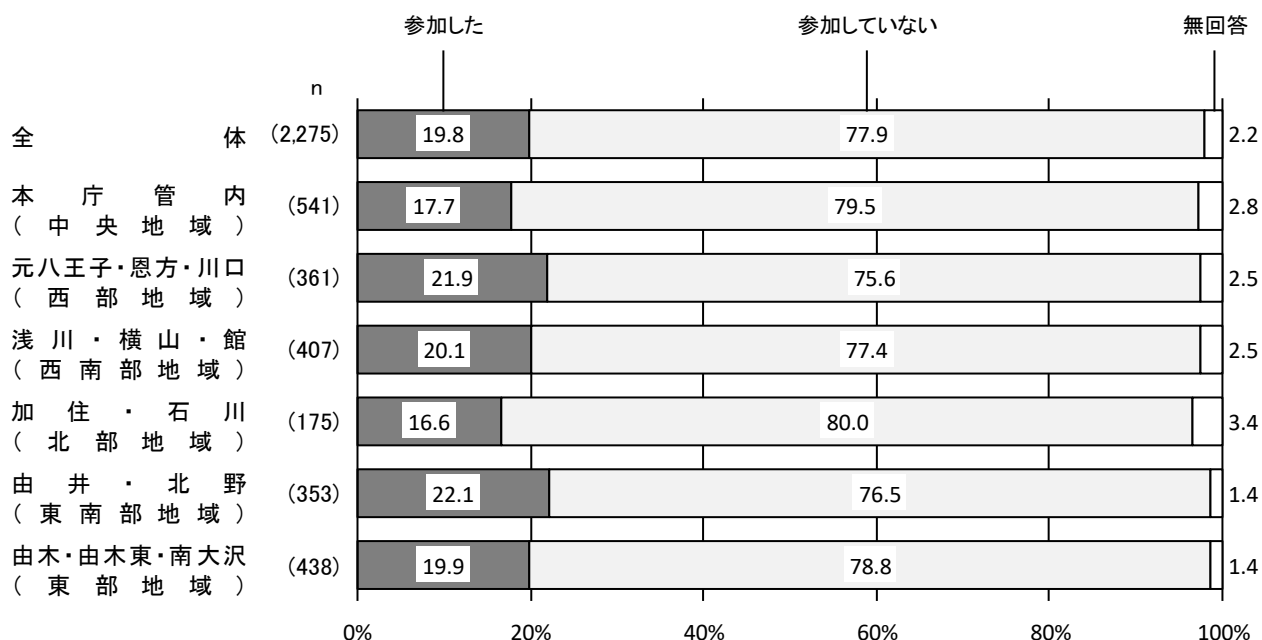
性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 32-1)

図 32-2 地域コミュニティ活動への参加状況 — 年齢別



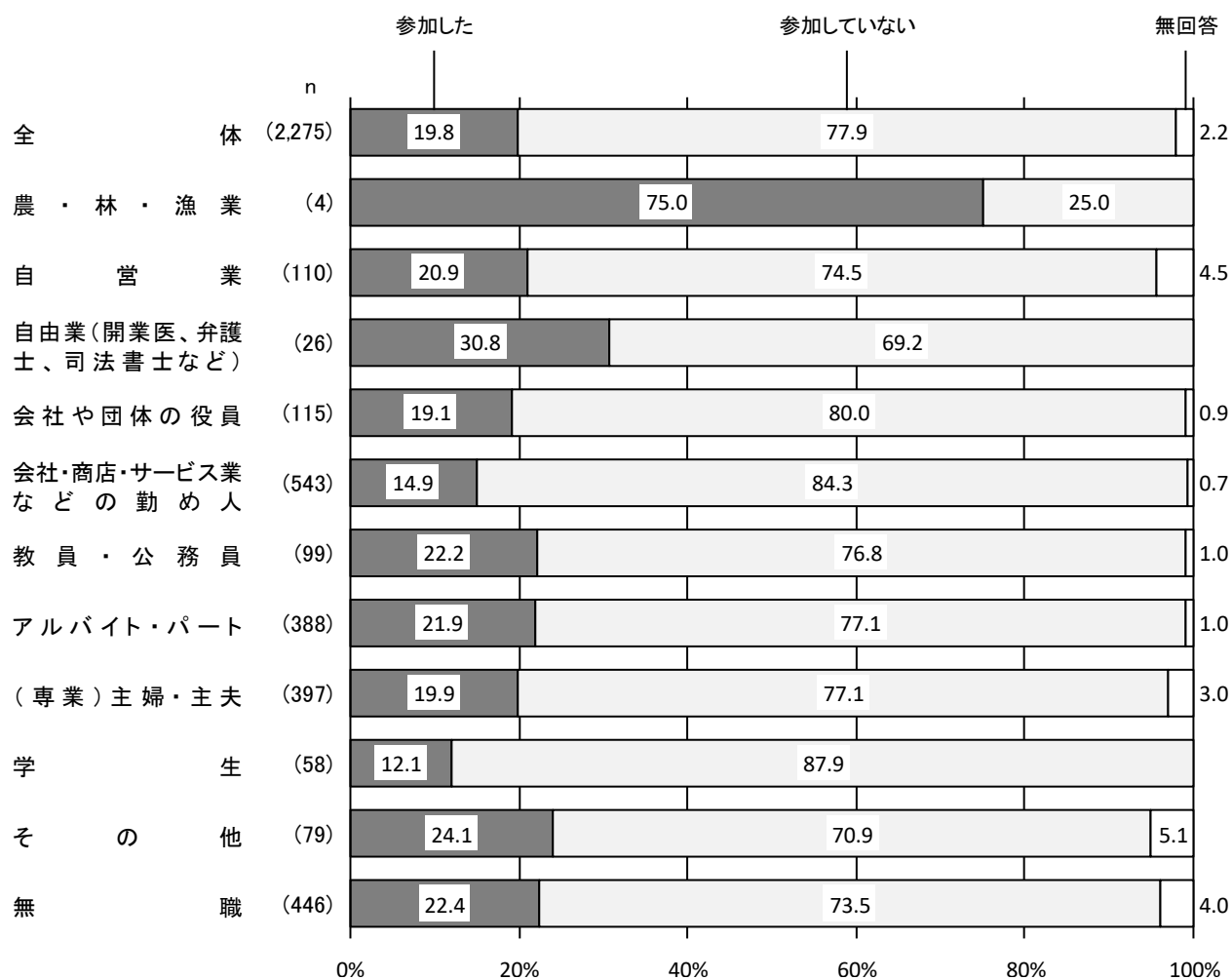
年齢別にみると、「参加していない」は、18~29 歳 (89.6%) が 9 割弱、30~39 歳 (85.8%)、50~59 歳 (84.8%) がそれぞれ 8 割台半ばと高くなっている。(図 32-2)

図 32-3 地域コミュニティ活動への参加状況 — 居住地域別



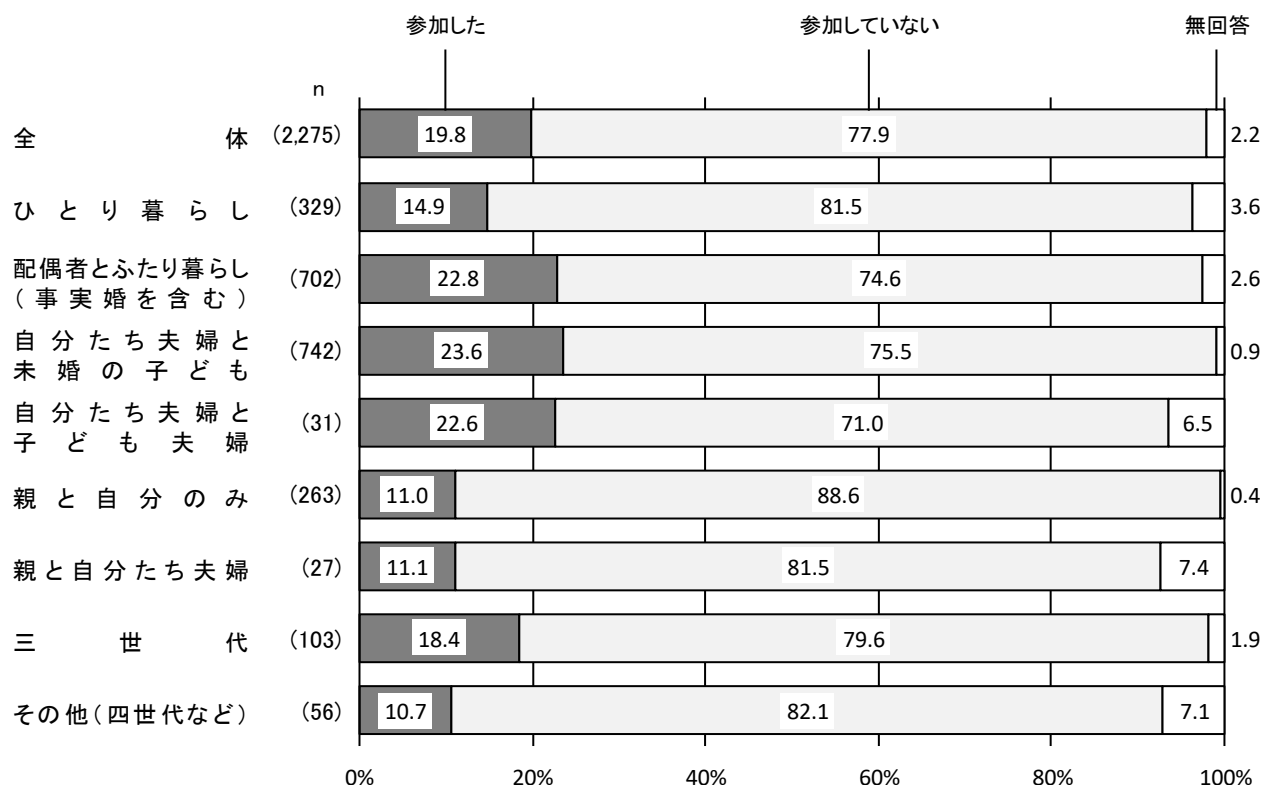
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 32-3)

図 32-4 地域コミュニティ活動への参加状況 — 職業別



職業別にみると、「参加していない」は、学生（87.9%）が9割近く、会社・商店・サービス業などの勤め人（84.3%）が8割台半ばと高くなっている。（図 32-4）

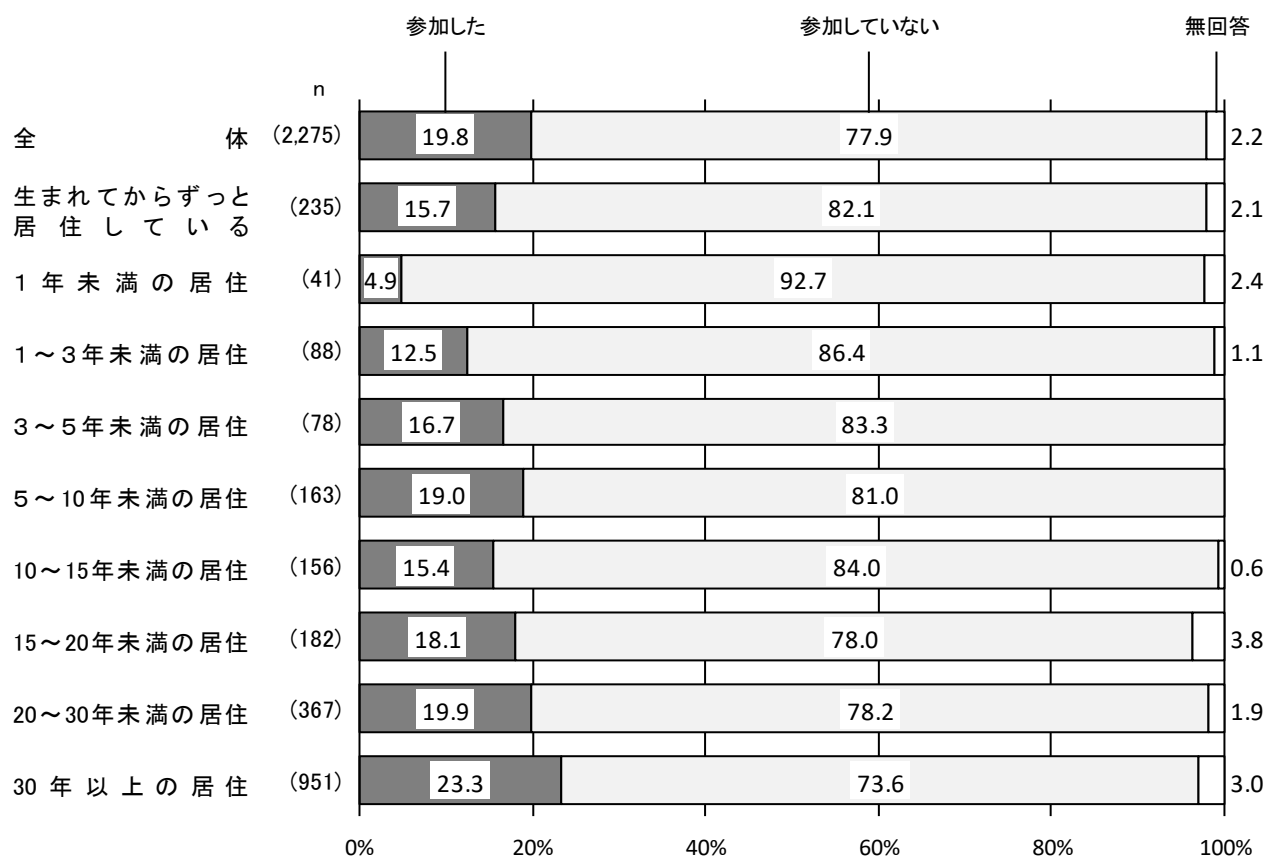
図 32-5 地域コミュニティ活動への参加状況 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「参加していない」は、親と自分のみ（88.6%）が9割近くと高くなっている。

(図 32-5)

図 32-6 地域コミュニティ活動への参加状況 — 居住年数別



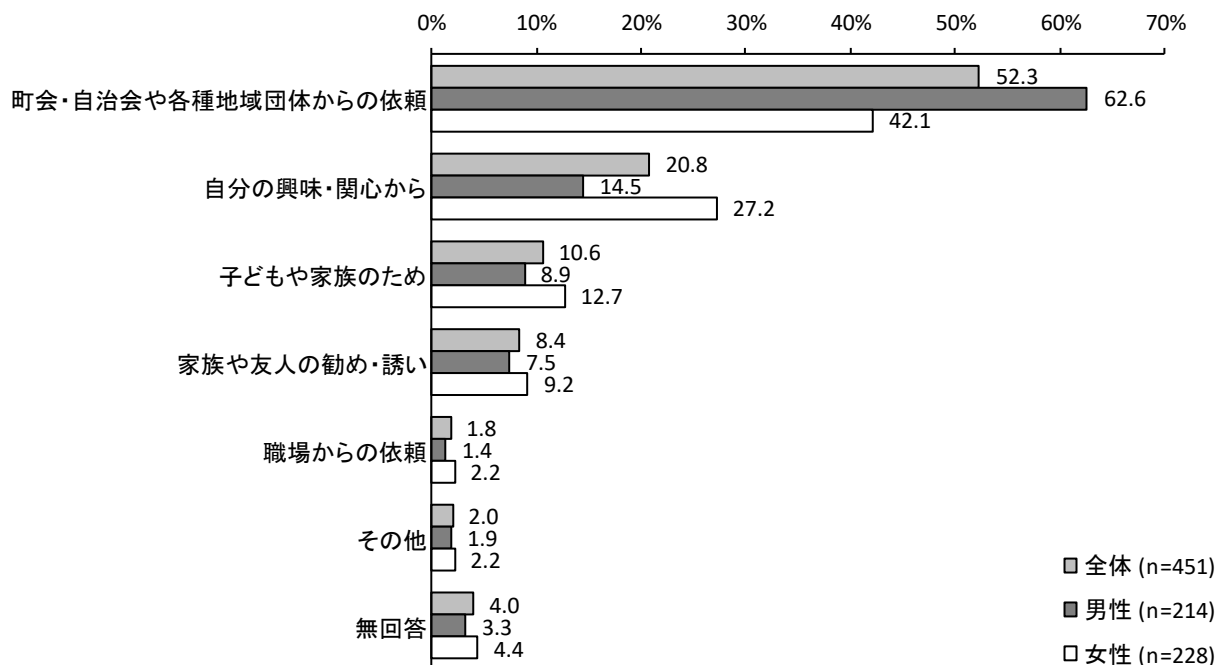
居住年数別にみると、「参加していない」は、1年未満の居住（92.7%）が9割強、1～3年未満の居住（86.4%）が9割近く、10～15年未満の居住（84.0%）が8割台半ば、3～5年未満の居住（83.3%）が8割強と高くなっている。（図 32-6）

(33) 地域コミュニティの活動に参加した理由

(問 29 で、「1 参加した」とお答えの方へ)

問 29-1 参加した理由を以下から選択してください。(○は1つだけ)

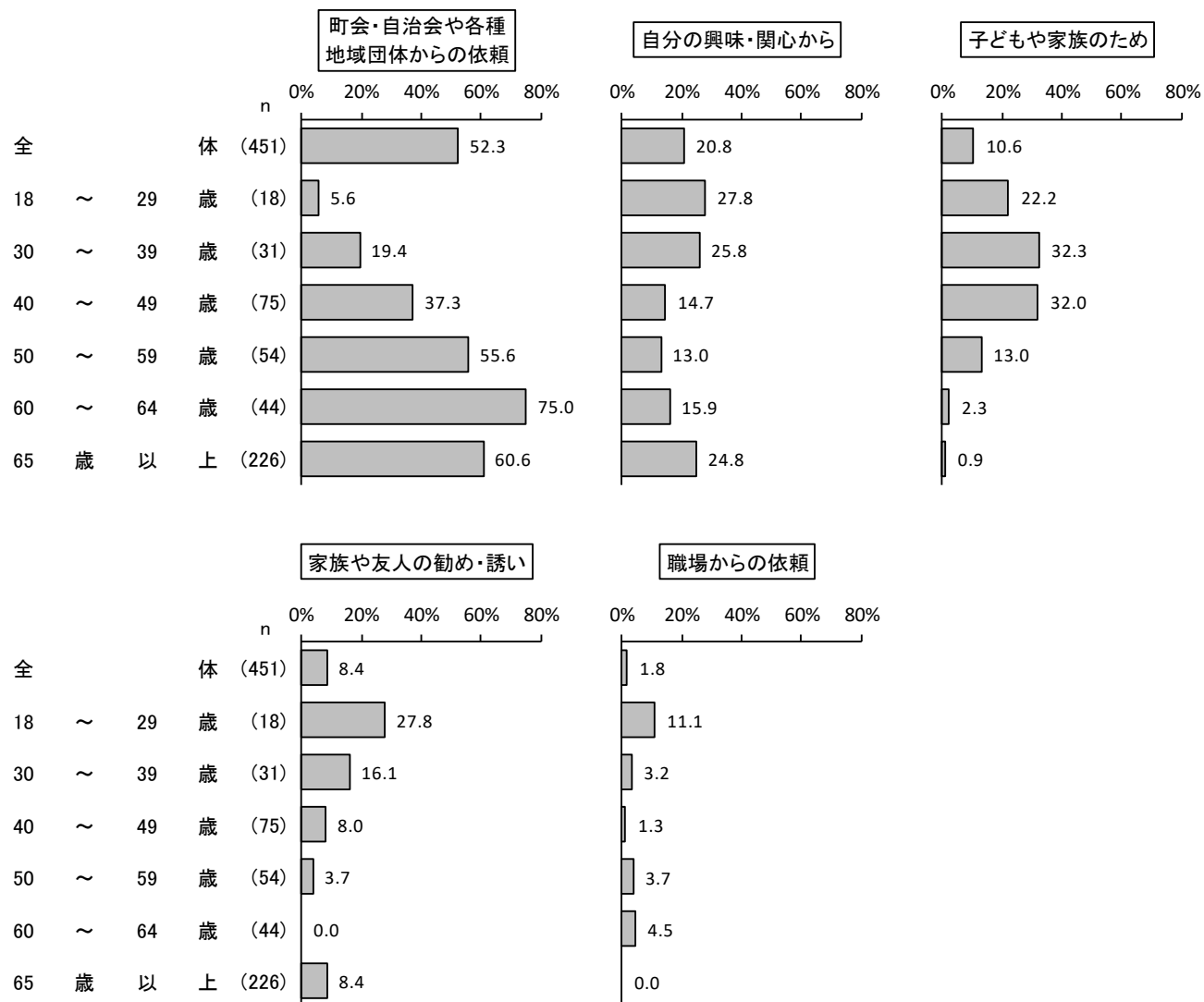
図 33-1 地域コミュニティの活動に参加した理由 — 全体、性別



地域コミュニティの活動に参加した理由を聞いたところ、「町会・自治会や各種地域団体からの依頼」(52.3%)が5割強と最も高くなっている。次いで、「自分の興味・関心から」(20.8%)、「子どもや家族のため」(10.6%)、「家族や友人の勧め・誘い」(8.4%)などの順となっている。

性別にみると、「町会・自治会や各種地域団体からの依頼」は、男性(62.6%)が女性(42.1%)より20.5ポイント高くなっている。「自分の興味・関心から」は、女性(27.2%)が男性(14.5%)より12.7ポイント高くなっている。(図33-1)

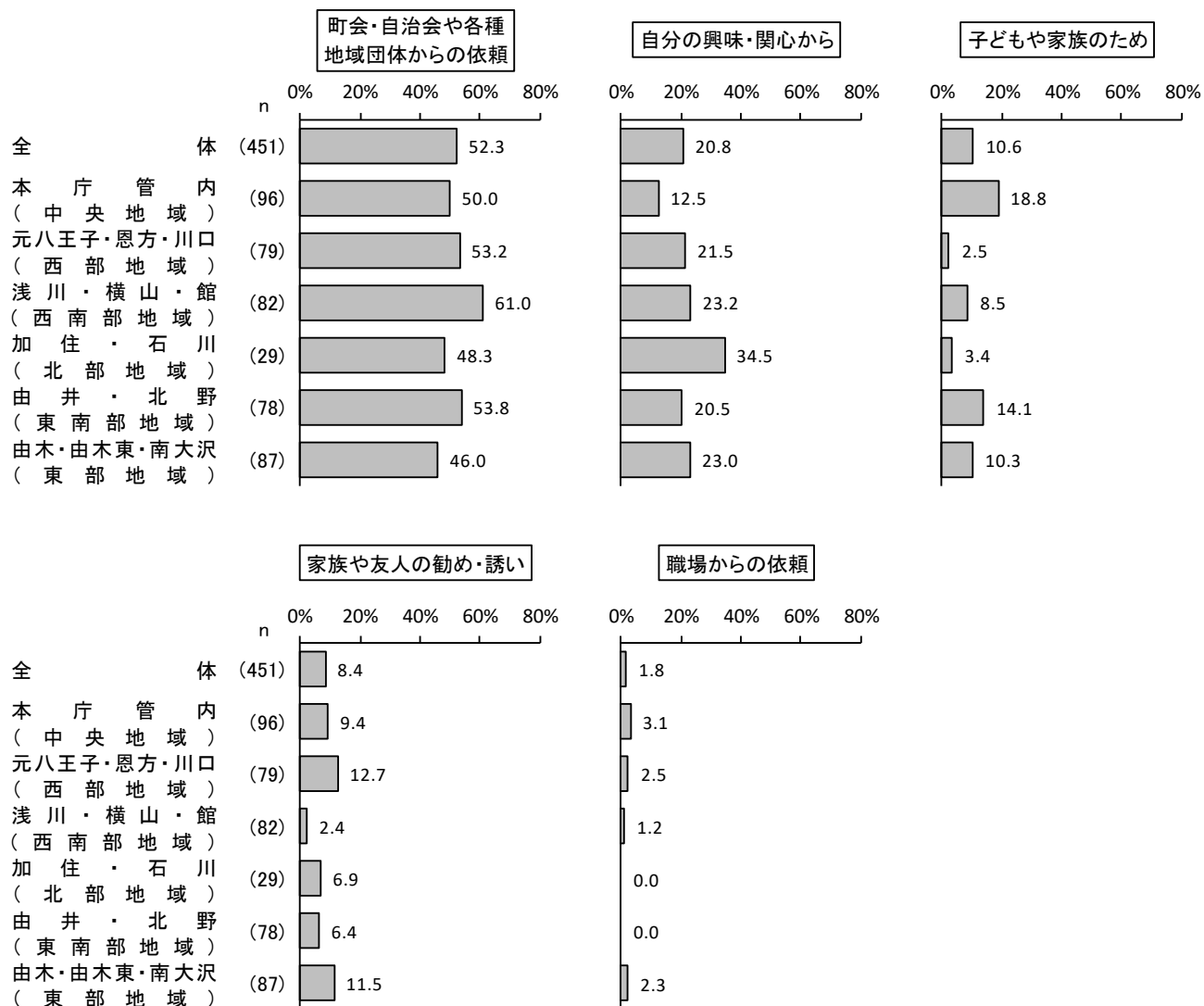
図 33-2 地域コミュニティの活動に参加した理由 - 年齢別



年齢別にみると、「町会・自治会や各種地域団体からの依頼」は、60～64 歳（75.0%）が7割台半ば、65 歳以上（60.6%）が約6割と高くなっている。「自分の興味・関心から」は、50～59 歳（13.0%）が1割強と低くなっている。「子どもや家族のため」は、30～39 歳（32.3%）、40～49 歳（32.0%）がそれぞれ3割強と高くなっている。「家族や友人の勧め・誘い」は、30～39 歳（16.1%）が2割近くと高くなっている。

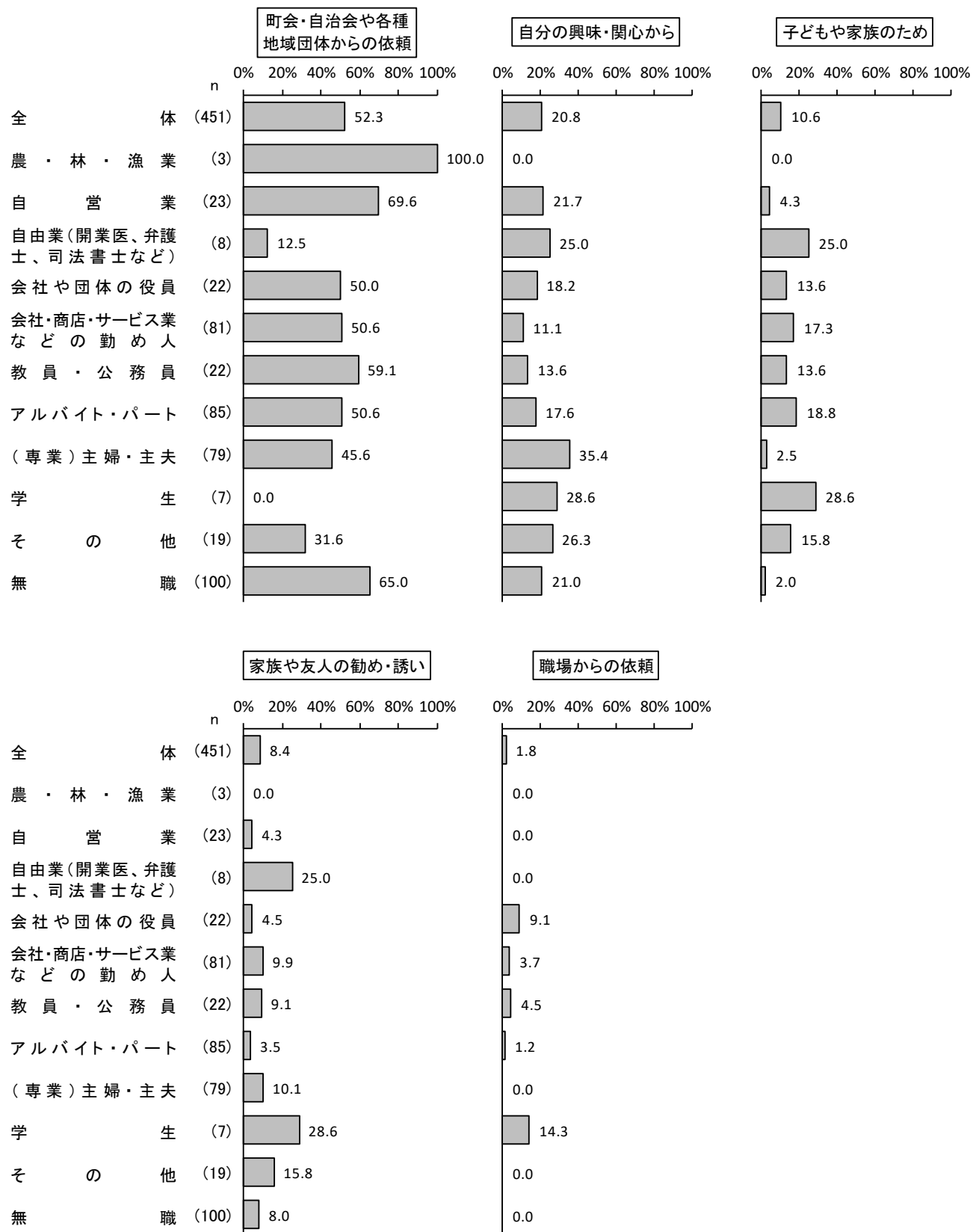
(図 33-2)

図 33-3 地域コミュニティの活動に参加した理由 — 居住地域別



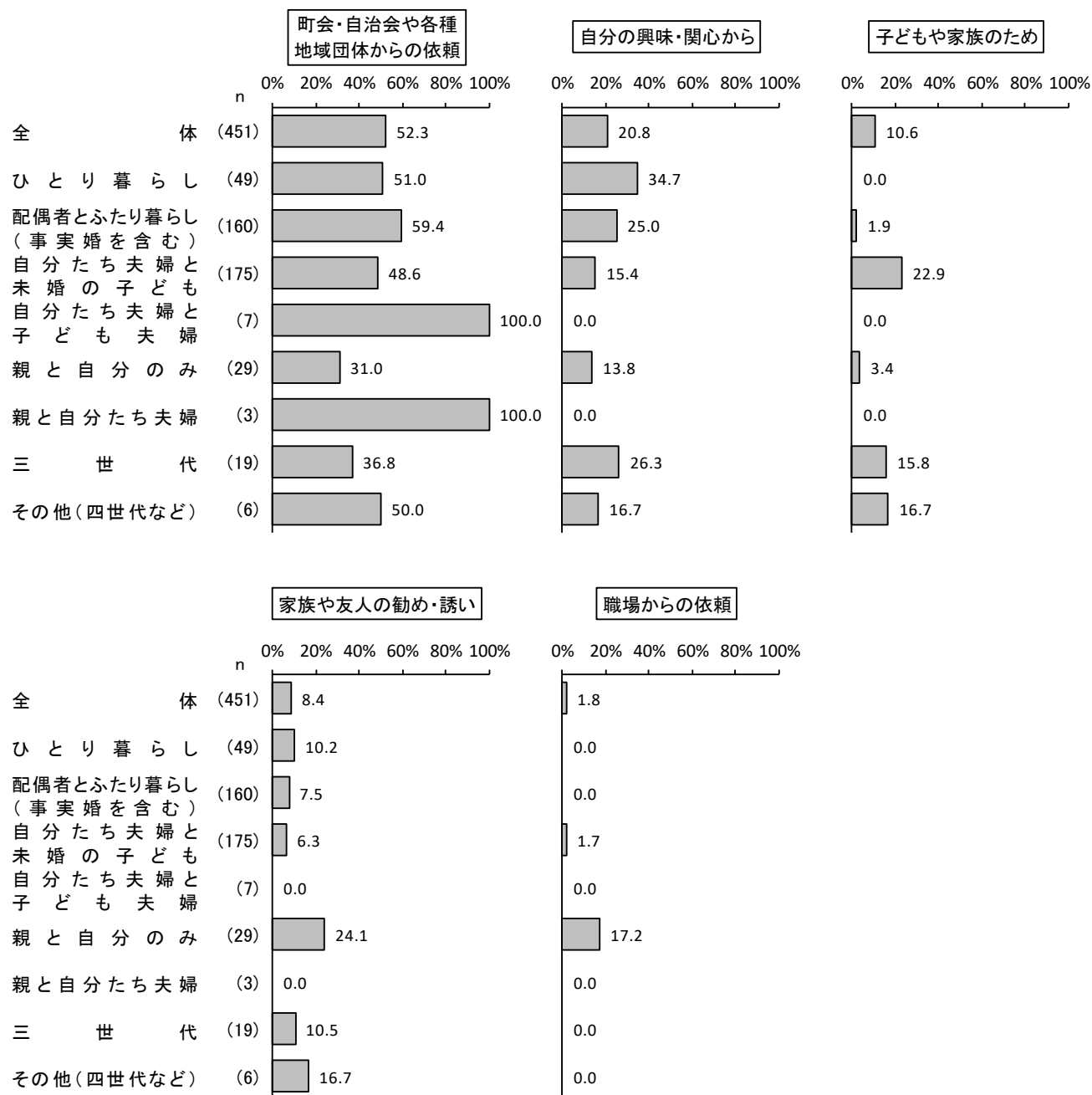
居住地域別にみると、「町会・自治会や各種地域団体からの依頼」は、浅川・横山・館（西南部地域）（61.0%）が6割強と高くなっている。「自分の興味・関心から」は、本庁管内（中央地域）（12.5%）が1割強と低くなっている。「子どもや家族のため」は、本庁管内（中央地域）（18.8%）が2割近くと高くなっている。「家族や友人の勧め・誘い」は、浅川・横山・館（西南部地域）（2.4%）が1割未満と低くなっている。（図 33-3）

図 33-4 地域コミュニティの活動に参加した理由 - 職業別



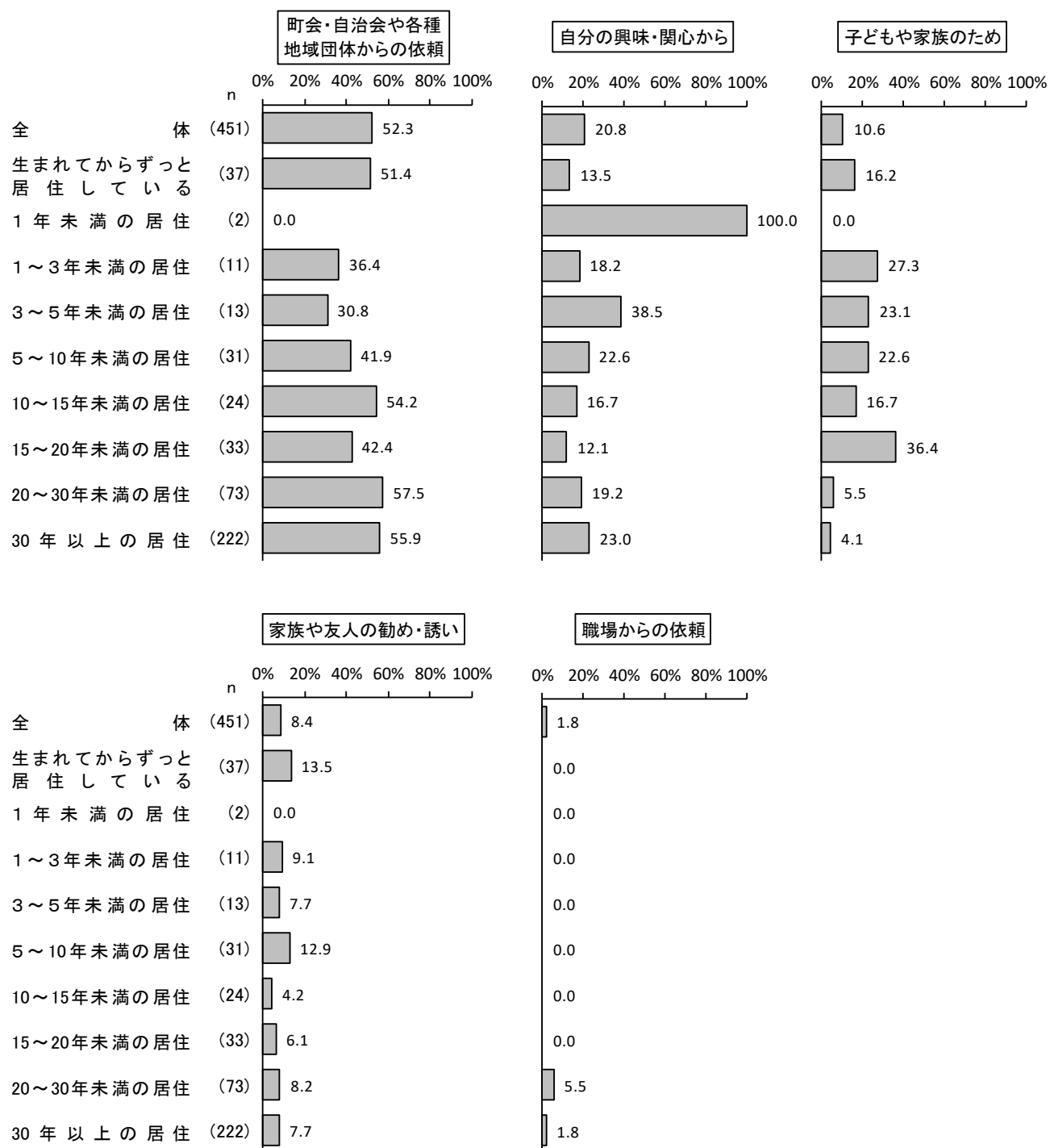
職業別にみると、「町会・自治会や各種地域団体からの依頼」は、無職（65.0%）が6割台半ばと高くなっている。「自分の興味・関心から」は、(専業)主婦・主夫（35.4%）が3割台半ばと高くなっている。「子どもや家族のため」は、アルバイト・パート（18.8%）、会社・商店・サービス業などの勤め人（17.3%）がそれぞれ2割近くと高くなっている。（図 33-4）

図 33-5 地域コミュニティの活動に参加した理由 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「町会・自治会や各種地域団体からの依頼」は、配偶者とふたり暮らし（事実婚を含む）（59.4%）が6割弱と高くなっている。「自分の興味・関心から」は、ひとり暮らし（34.7%）が3割台半ばと高くなっている。「子どもや家族のため」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（22.9%）が2割強と高くなっている。（図 33-5）

図 33-6 地域コミュニティの活動に参加した理由 - 居住年数別

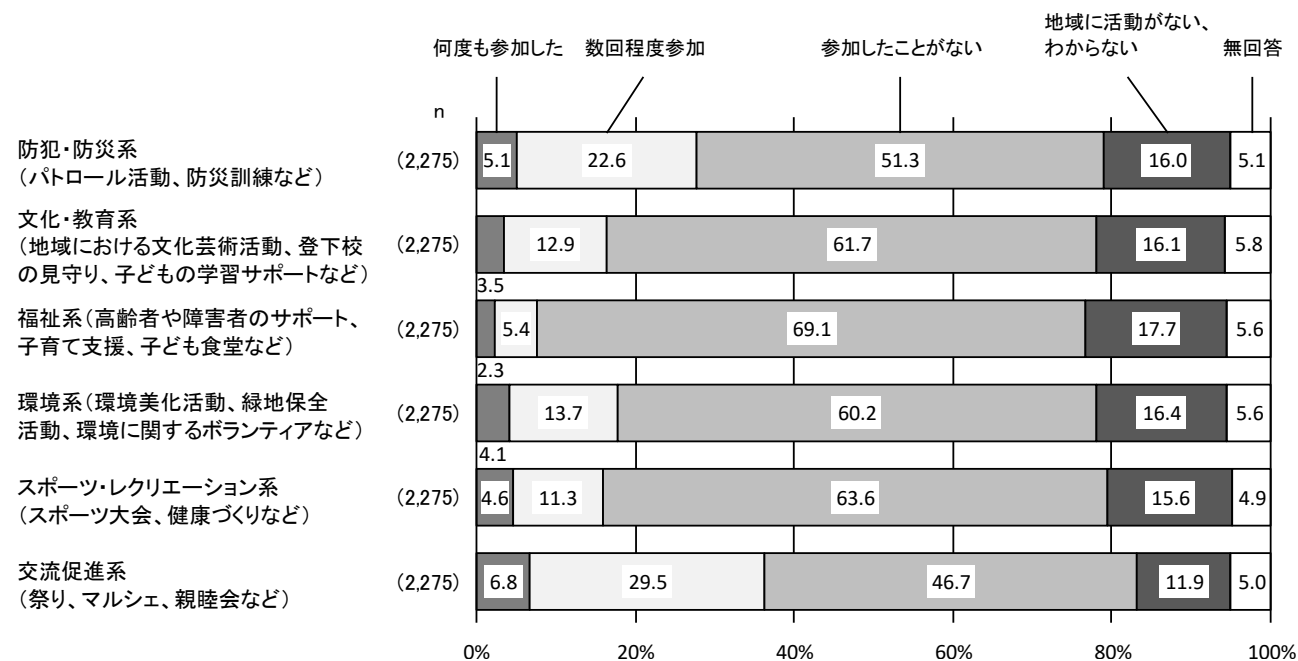


居住年数別にみると、「町会・自治会や各種地域団体からの依頼」は、20～30年未満の居住（57.5%）が6割近くと高くなっている。「自分の興味・関心から」は、15～20年未満の居住（12.1%）が1割強と低くなっている。「子どもや家族のため」は、15～20年未満の居住（36.4%）が4割近く、5～10年未満の居住（22.6%）が2割強、生まれてからずっと居住している（16.2%）が2割近くと高くなっている。「家族や友人の勧め・誘い」は、生まれてからずっと居住している（13.5%）が1割強と高くなっている。（図 33-6）

(34) 地域コミュニティの活動の参加頻度

問 30 以下の地域コミュニティの活動について、これまで、あなたの参加頻度はどれくらいでしたか。
(〇はそれぞれ1つずつ)

図 34-1 地域コミュニティの活動の参加頻度 - 全体



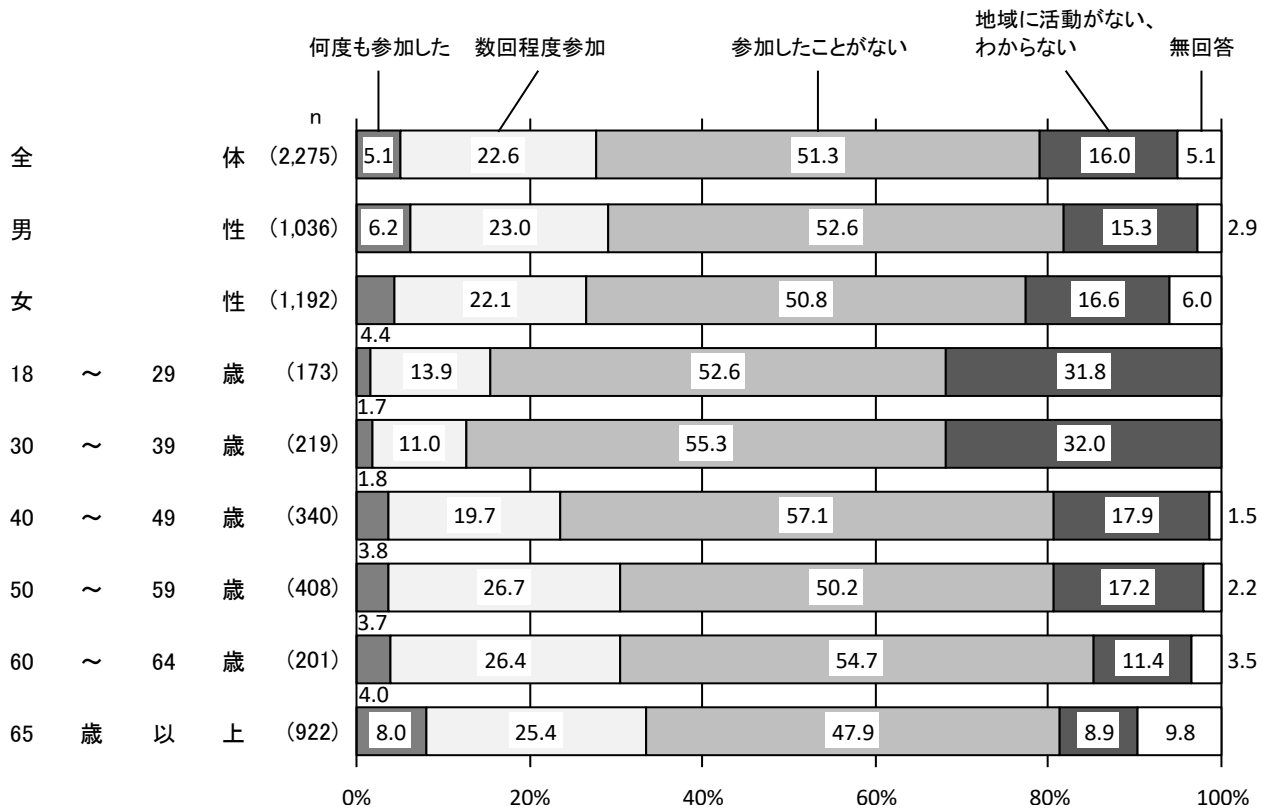
地域コミュニティの活動の参加頻度を聞いたところ、「何度も参加した」は、「交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）」(6.8%)が1割近くと最も高くなっている。次いで、「防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）」(5.1%)が1割未満と高くなっている。

「数回程度参加」は、「交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）」(29.5%)が3割弱と最も高くなっている。次いで、「防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）」(22.6%)が2割強と高くなっている。

「参加したことがない」は、「福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）」(69.1%)が7割弱と最も高くなっている。次いで、「スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど）」(63.6%)が6割強と高くなっている。

「地域に活動がない、わからない」は、「福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）」(17.7%)が2割近くと最も高くなっている。次いで、「環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど）」(16.4%)が2割近くと高くなっている。(図 34-1)

図 34-2 地域コミュニティの活動の参加頻度 防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）
 - 性別、年齢別

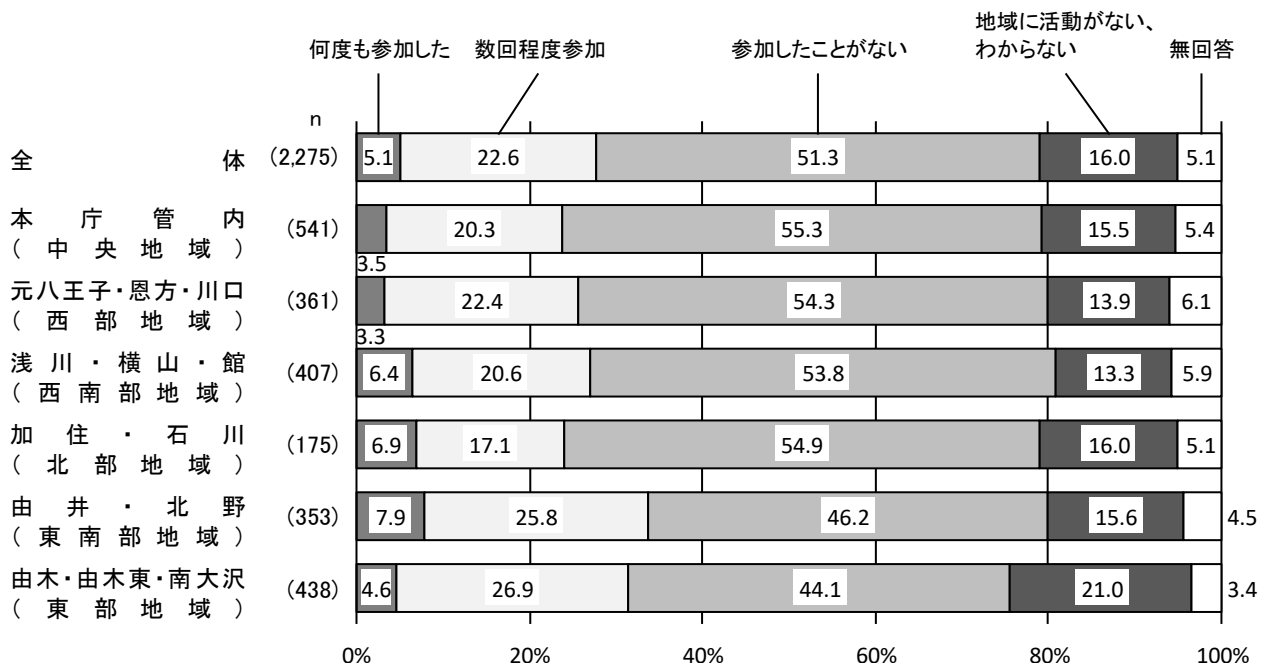


性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。

年齢別にみると、「参加したことがない」は、40~49 歳（57.1%）が6割近くと高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、30~39 歳（32.0%）、18~29 歳（31.8%）がそれぞれ3割強と高くなっている。

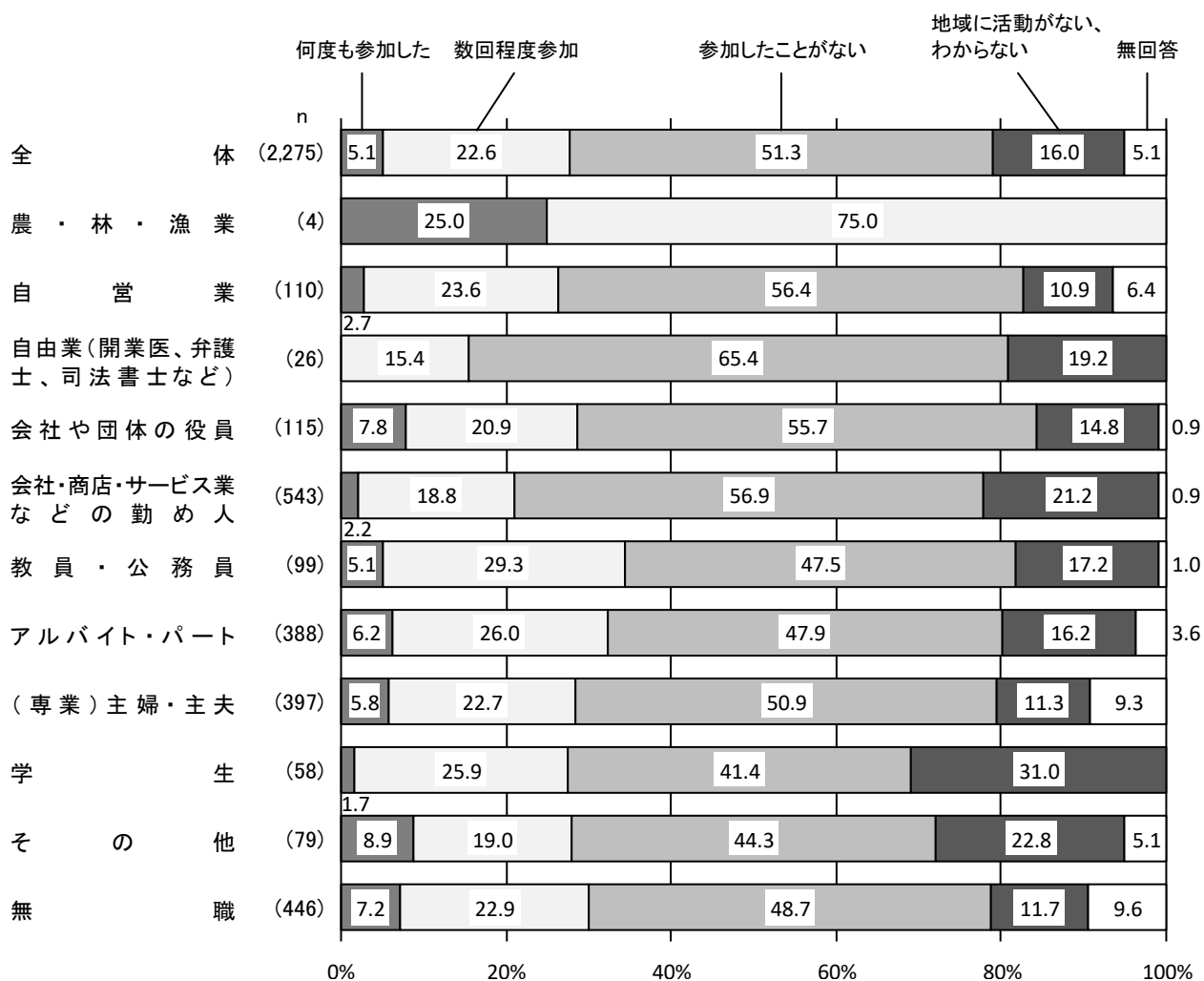
(図 34-2)

図 34-3 地域コミュニティの活動の参加頻度 防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）
 - 居住地域別



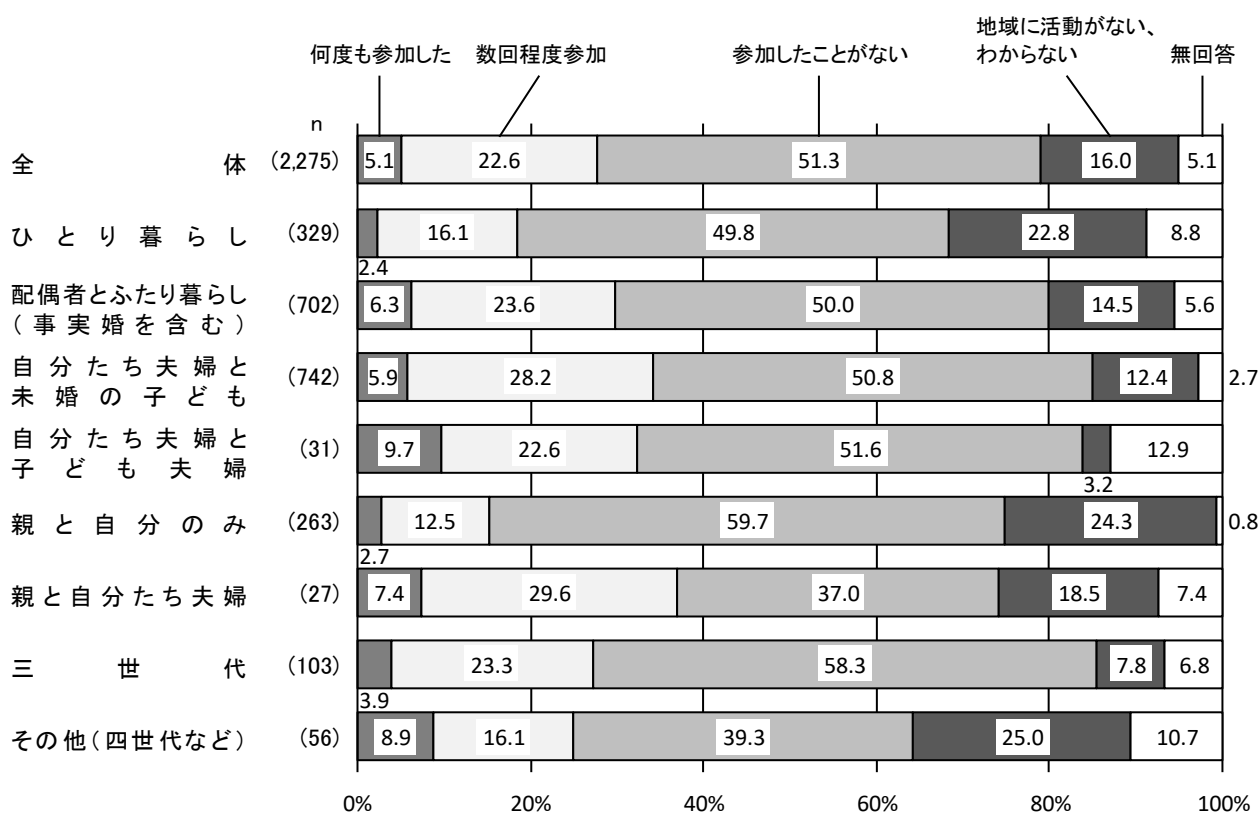
居住地域別にみると、「数回程度参加」は、加住・石川（北部地域）（17.1%）が2割近くと低くなっている。「参加したことがない」は、由木・由木東・南大沢（東部地域）（44.1%）が4割台半ばと低くなっている。（図 34-3）

図 34-4 地域コミュニティの活動の参加頻度 防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）
 - 職業別



職業別にみると、「数回程度参加」は、教員・公務員（29.3%）が3割弱と高くなっている。「参加したことがない」は、会社・商店・サービス業などの勤め人（56.9%）、自営業（56.4%）がそれぞれ6割近くと高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、学生（31.0%）が3割強、その他（22.8%）、会社・商店・サービス業などの勤め人（21.2%）がそれぞれ2割強と高くなっている。（図 34-4）

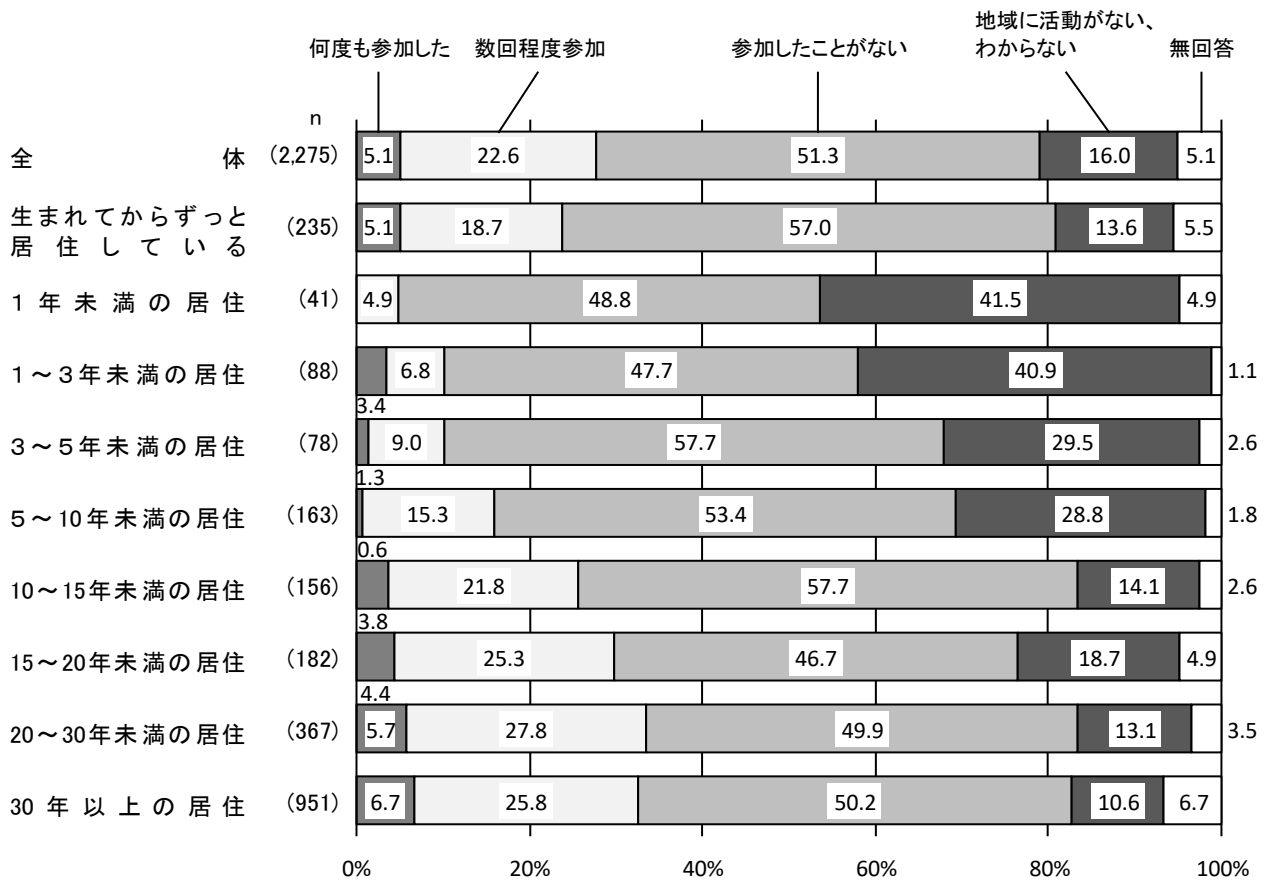
図 34-5 地域コミュニティの活動の参加頻度 防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）
 — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「数回程度参加」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（28.2%）が3割近くと高くなっている。「参加したことがない」は、親と自分のみ（59.7%）が6割弱、三世代（58.3%）が6割近くと高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、その他（四世代など）（25.0%）、親と自分のみ（24.3%）がそれぞれ2割台半ば、ひとり暮らし（22.8%）が2割強と高くなっている。（図 34-5）

図 34-6 地域コミュニティの活動の参加頻度 防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）

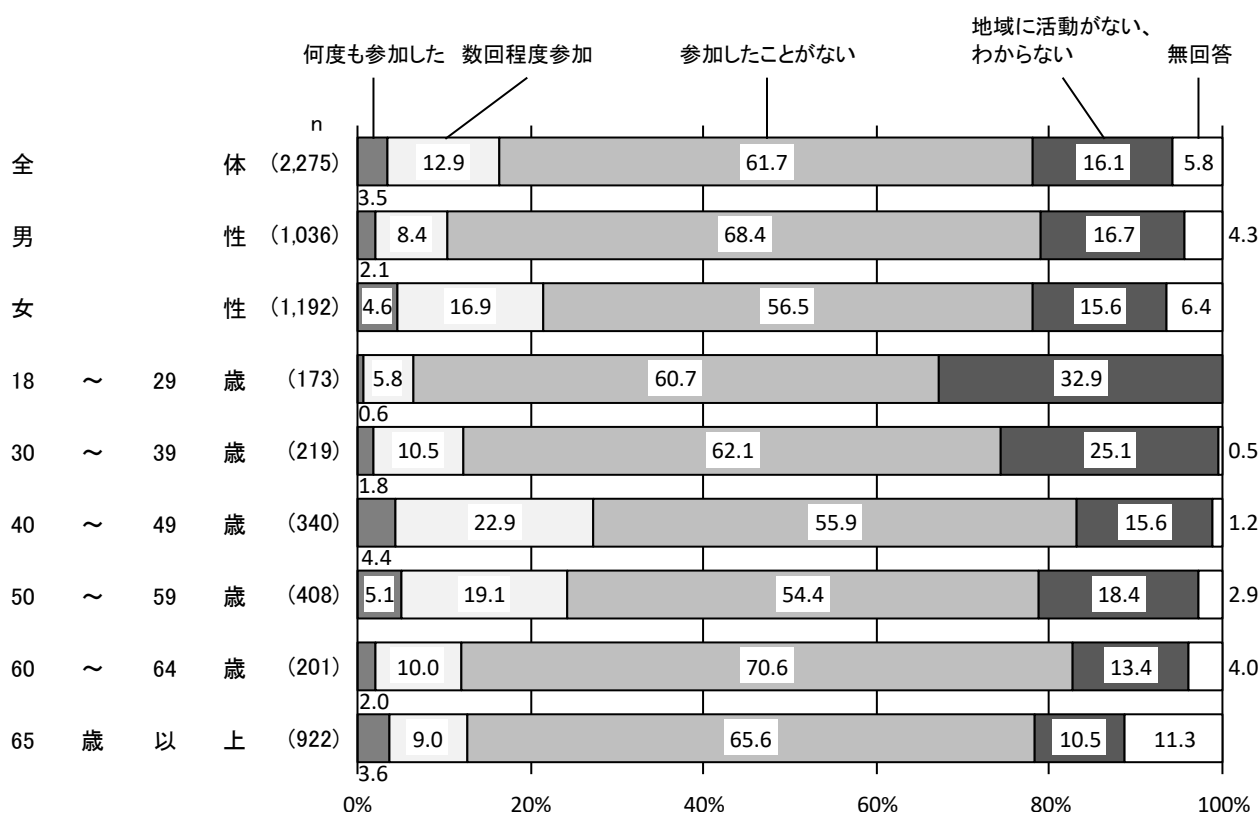
－ 居住年数別



居住年数別にみると、「数回程度参加」は、20～30年未満の居住（27.8%）が3割近くと高くなっている。「参加したことがない」は、3～5年未満の居住（57.7%）、10～15年未満の居住（57.7%）、生まれてからずっと居住している（57.0%）がそれぞれ6割近くと高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、1年未満の居住（41.5%）が4割強、1～3年未満の居住（40.9%）が約4割、3～5年未満の居住（29.5%）が3割弱、5～10年未満の居住（28.8%）が3割近くと高くなっている。（図 34-6）

図 34-7 地域コミュニティの活動の参加頻度

文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど）－ 性別、年齢別



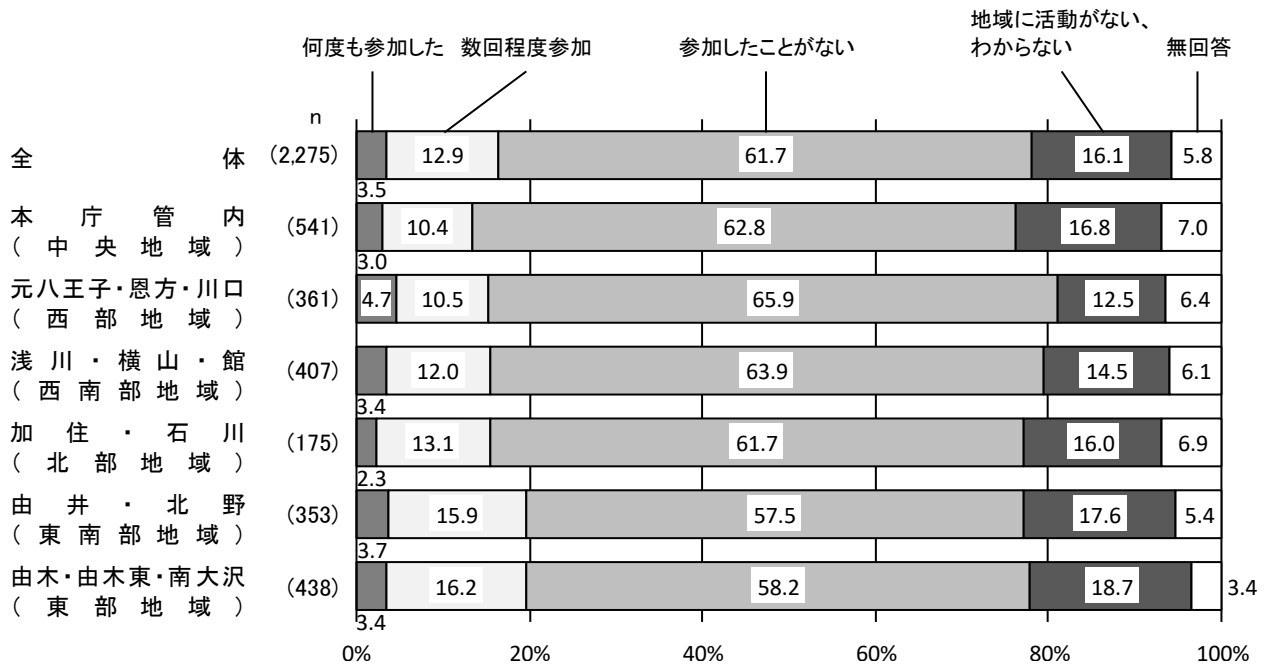
性別にみると、「参加したことがない」は、男性（68.4%）が女性（56.5%）より 11.9 ポイント高くなっている。「数回程度参加」は、女性（16.9%）が男性（8.4%）より 8.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「数回程度参加」は、40～49歳（22.9%）が2割強、50～59歳（19.1%）が2割弱と高くなっている。「参加したことがない」は、60～64歳（70.6%）が約7割と高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、18～29歳（32.9%）が3割強、30～39歳（25.1%）が2割台半ばと高くなっている。

（図 34-7）

図 34-8 地域コミュニティの活動の参加頻度

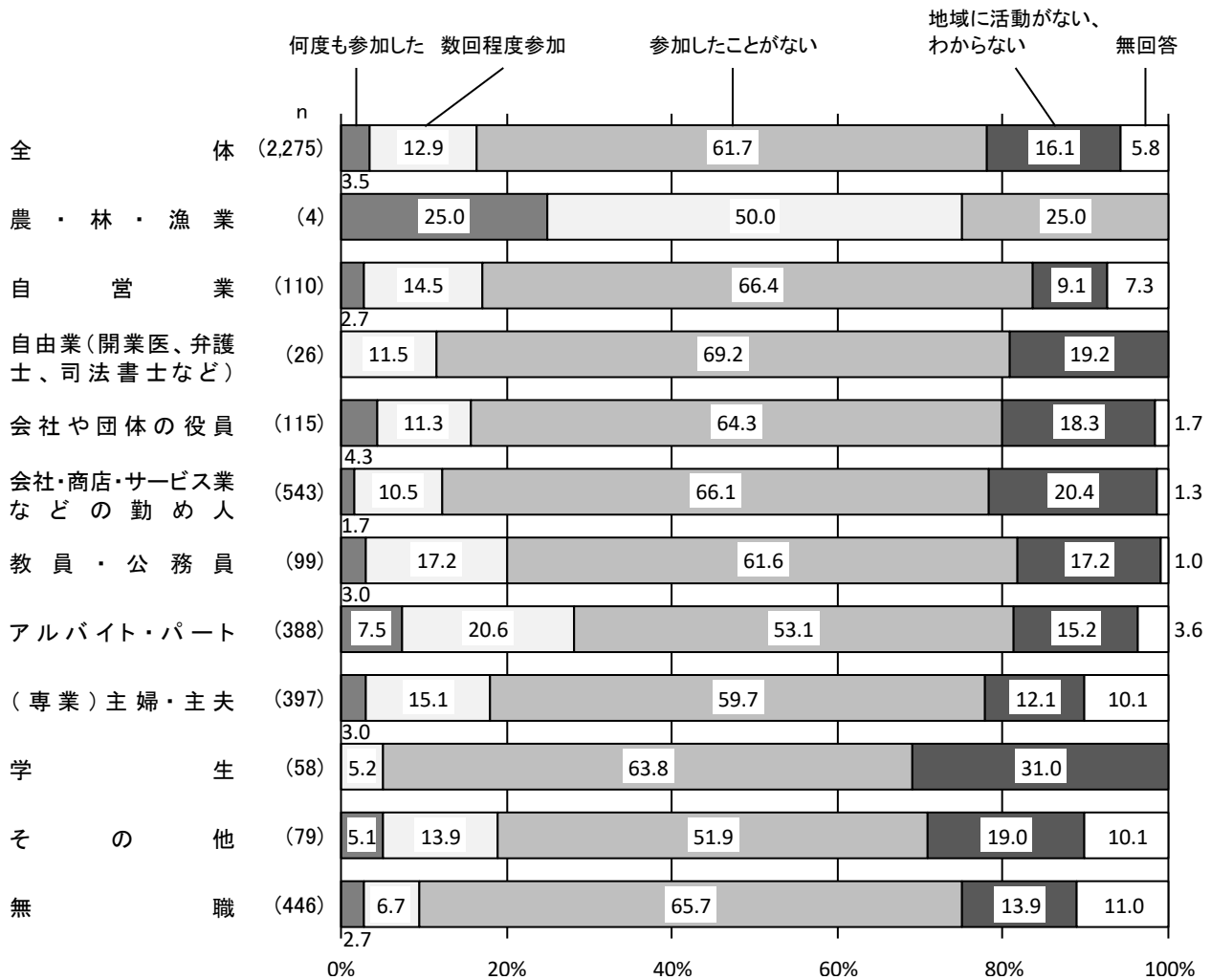
文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど）－ 居住地域別



居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 34-8)

図 34-9 地域コミュニティの活動の参加頻度

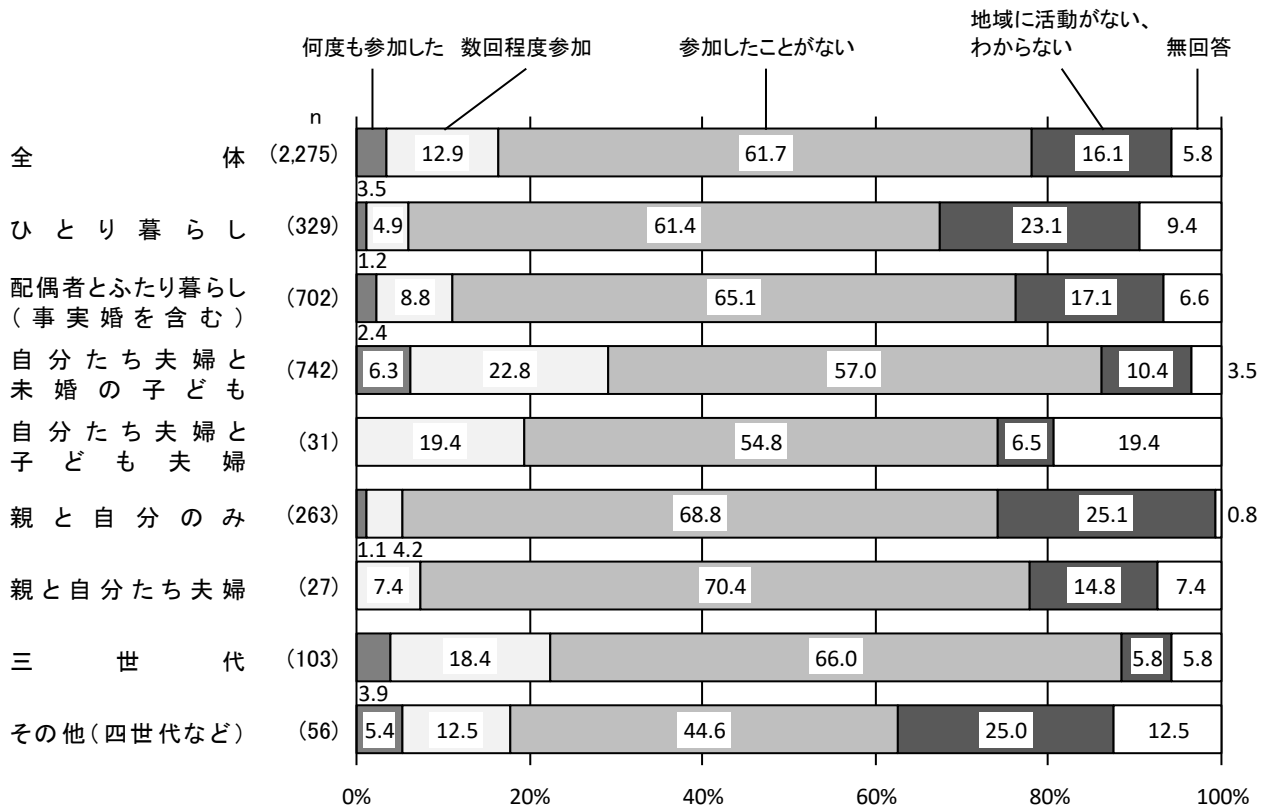
文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど）－ 職業別



職業別にみると、「数回程度参加」は、アルバイト・パート（20.6%）が約2割と高くなっている。「参加したことがない」は、その他（51.9%）が5割強と低くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、学生（31.0%）が3割強と高くなっている。（図 34-9）

図 34-10 地域コミュニティの活動の参加頻度

文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど） — 世帯構成別

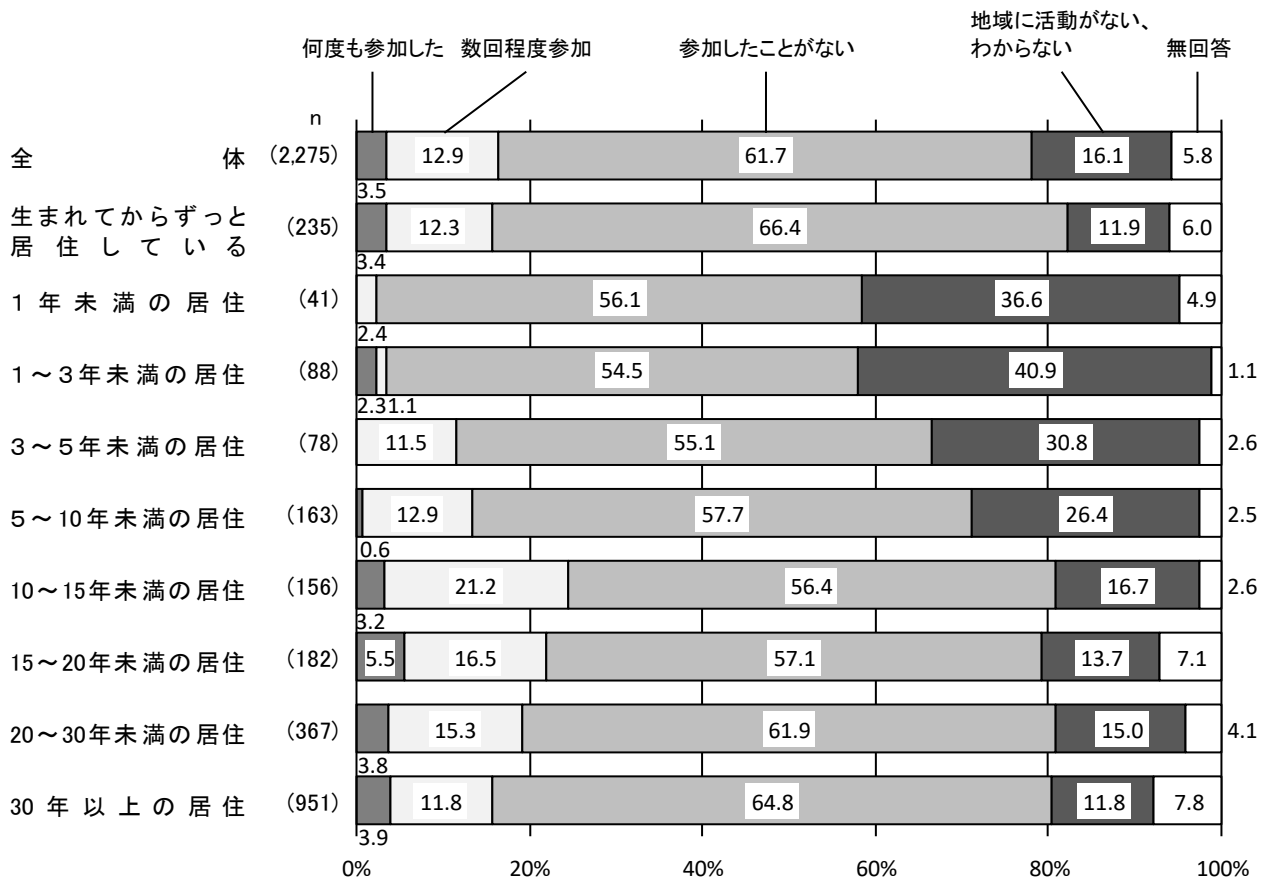


世帯構成別にみると、「数回程度参加」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（22.8%）が2割強、自分たち夫婦と子ども夫婦（19.4%）が2割弱と高くなっている。「参加したことがない」は、親と自分のみ（68.8%）が7割近くと高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、親と自分のみ（25.1%）、その他（四世代など）（25.0%）がそれぞれ2割台半ば、ひとり暮らし（23.1%）が2割強と高くなっている。

(図 34-10)

図 34-11 地域コミュニティの活動の参加頻度

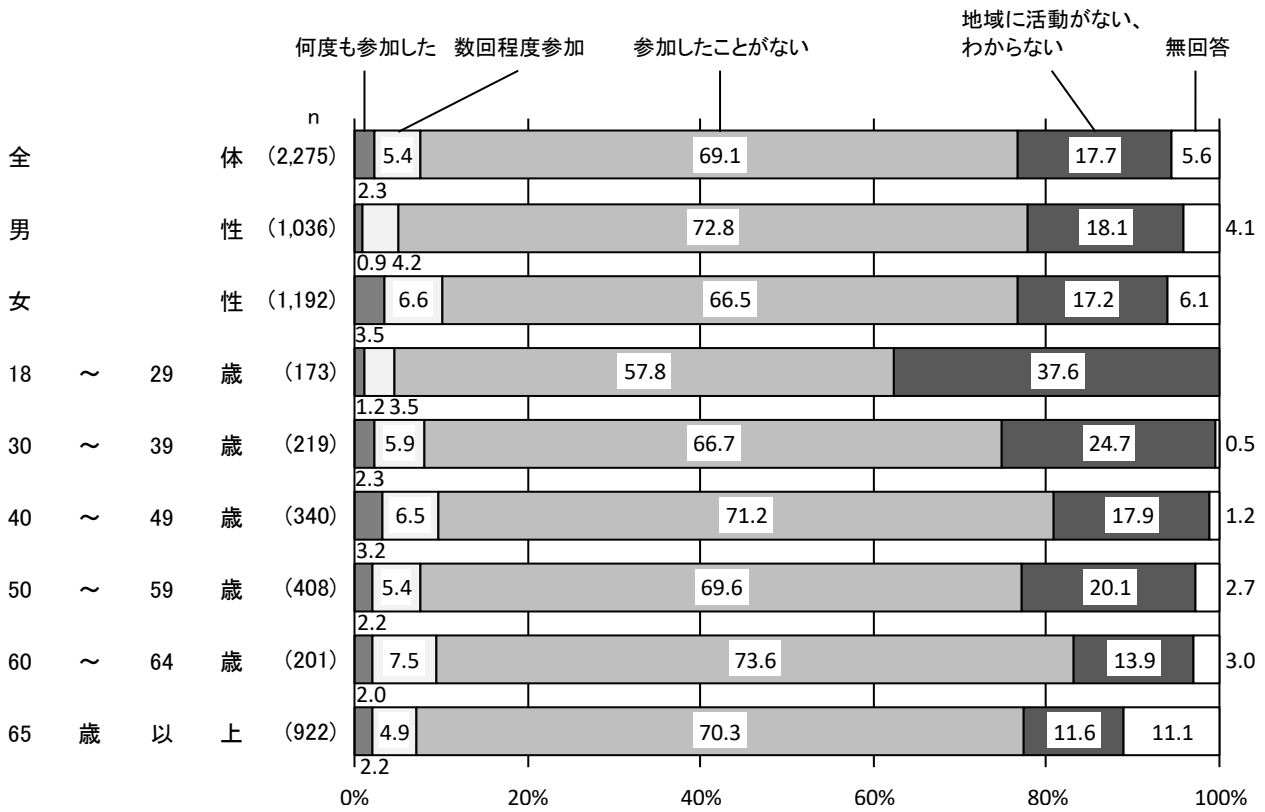
文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど）－ 居住年数別



居住年数別にみると、「数回程度参加」は、10～15年未満の居住（21.2%）が2割強と高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、1～3年未満の居住（40.9%）が約4割、1年未満の居住（36.6%）が4割近く、3～5年未満の居住（30.8%）が約3割、5～10年未満の居住（26.4%）が3割近くと高くなっている。（図 34-11）

図 34-12 地域コミュニティの活動の参加頻度

福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）－ 性別、年齢別

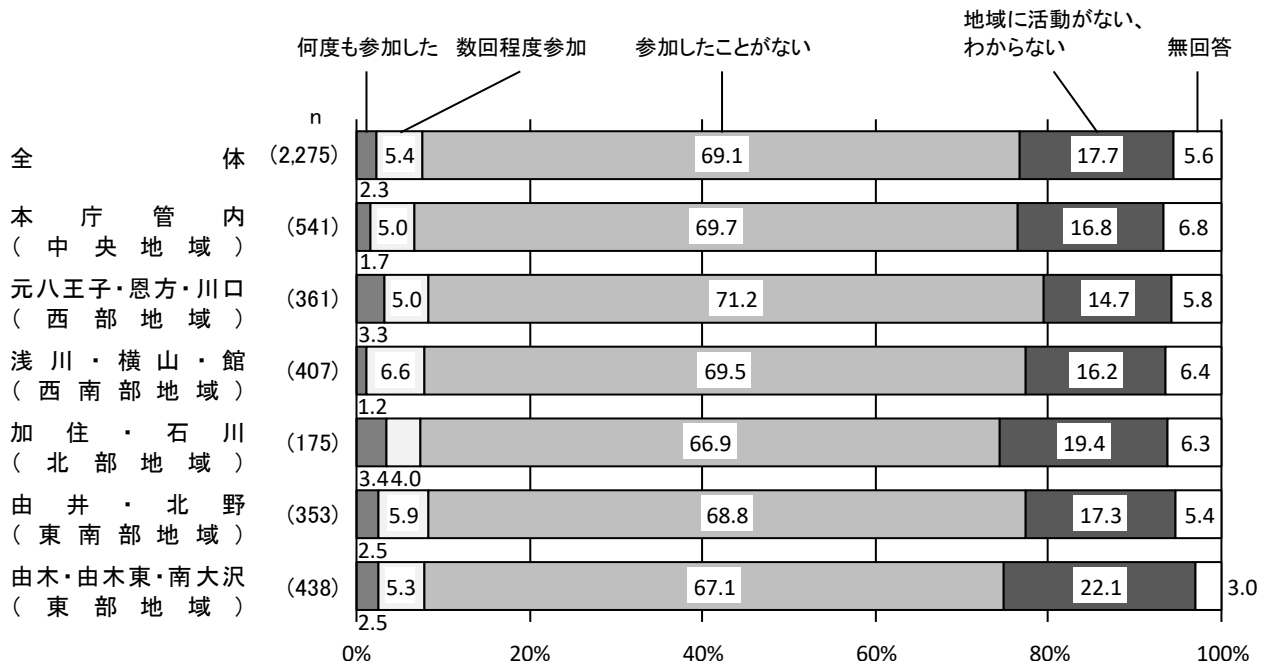


性別にみると、「参加したことがない」は、男性（72.8%）が女性（66.5%）より 6.3 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「地域に活動がない、わからない」は、18～29 歳（37.6%）が 4 割近く、30～39 歳（24.7%）が 2 割台半ばと高くなっている。（図 34-12）

図 34-13 地域コミュニティの活動の参加頻度

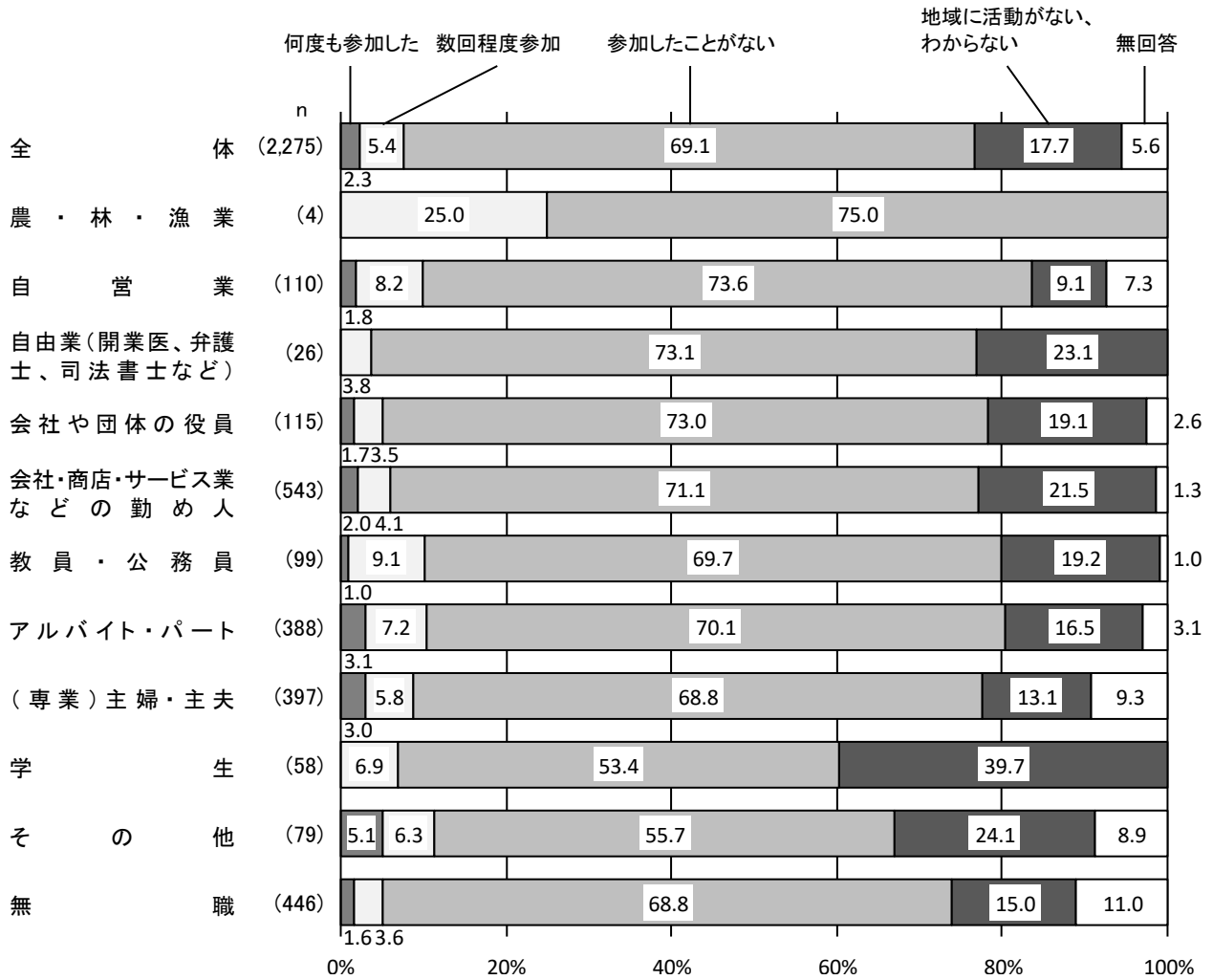
福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）－ 居住地域別



居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 34-13)

図 34-14 地域コミュニティの活動の参加頻度

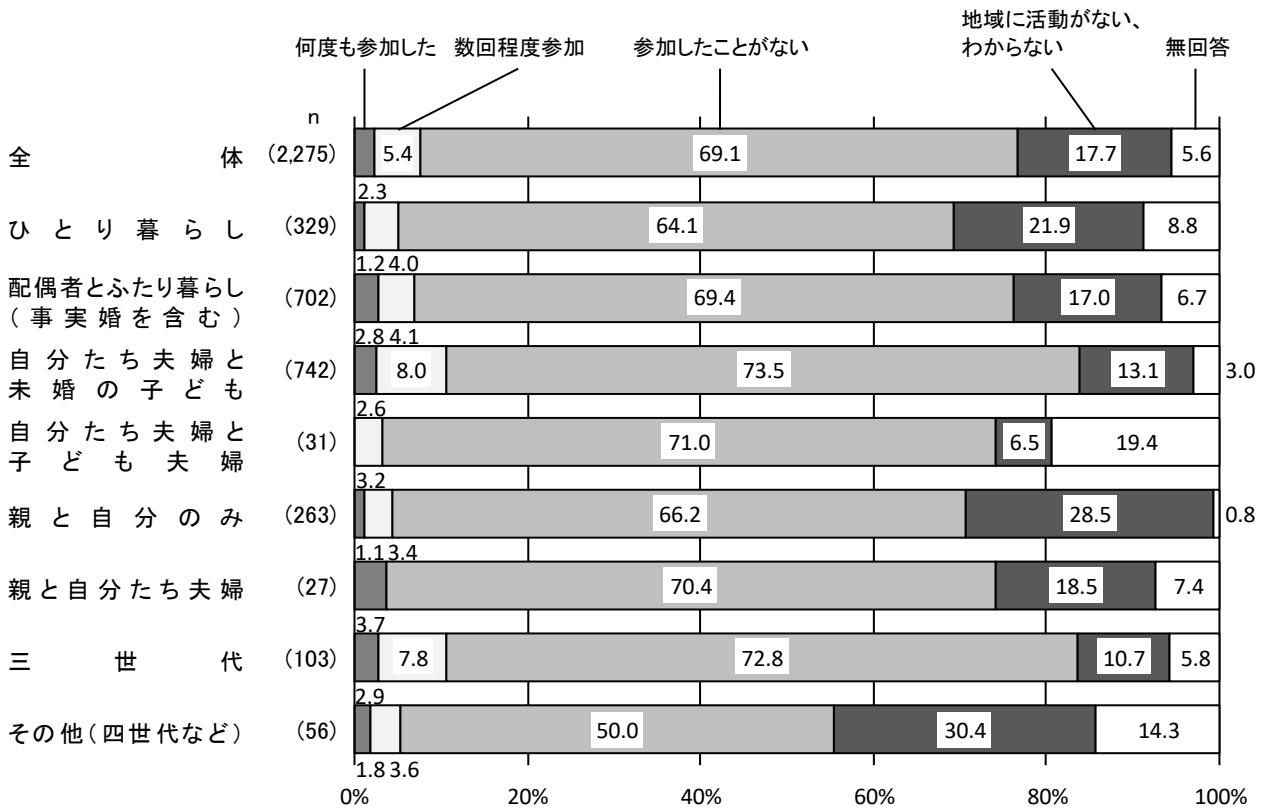
福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）－ 職業別



職業別にみると、「地域に活動がない、わからない」は、学生（39.7%）が4割弱、その他（24.1%）が2割台半ばと高くなっている。（図 34-14）

図 34-15 地域コミュニティの活動の参加頻度

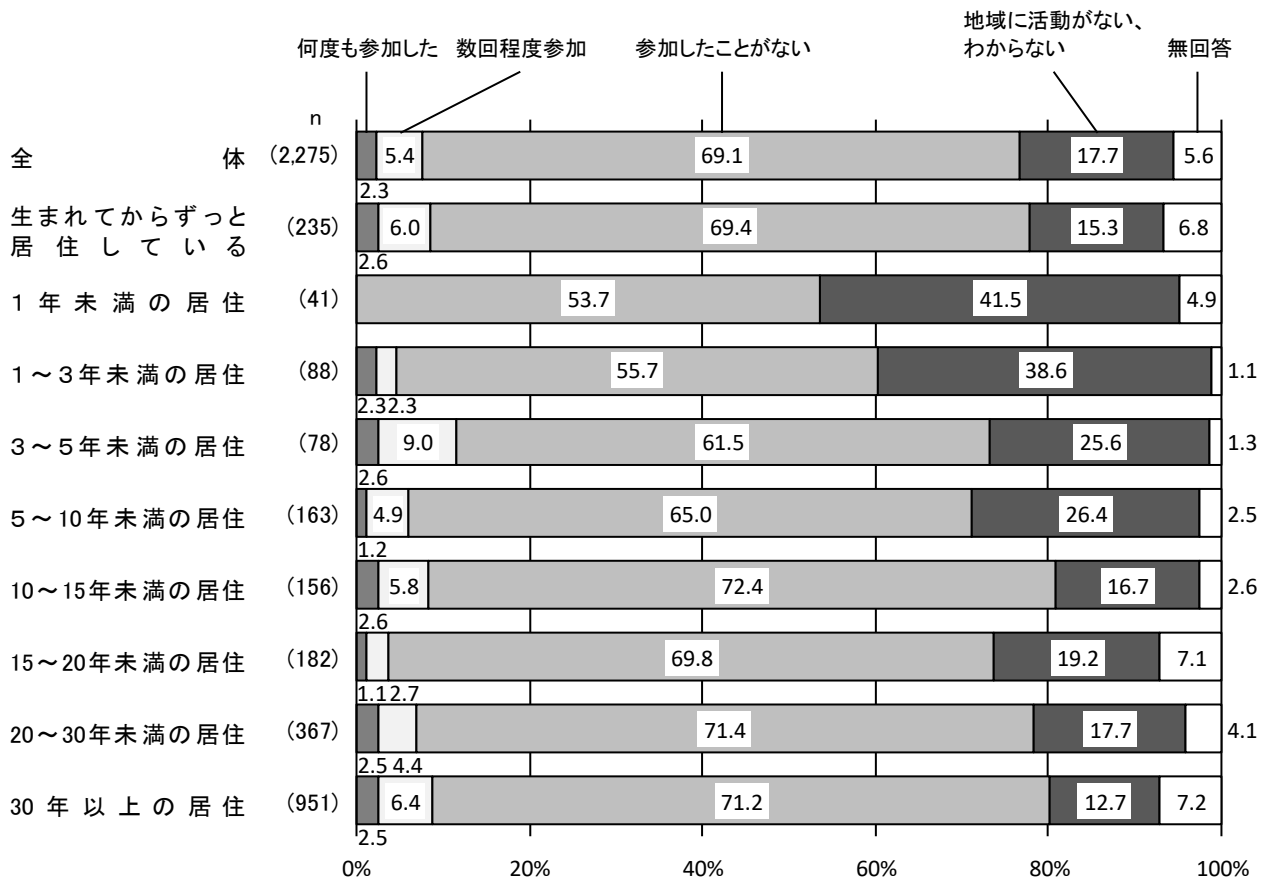
福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など） — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「地域に活動がない、わからない」は、その他（四世代など）（30.4%）が約3割、親と自分のみ（28.5%）が3割近くと高くなっている。（図 34-15）

図 34-16 地域コミュニティの活動の参加頻度

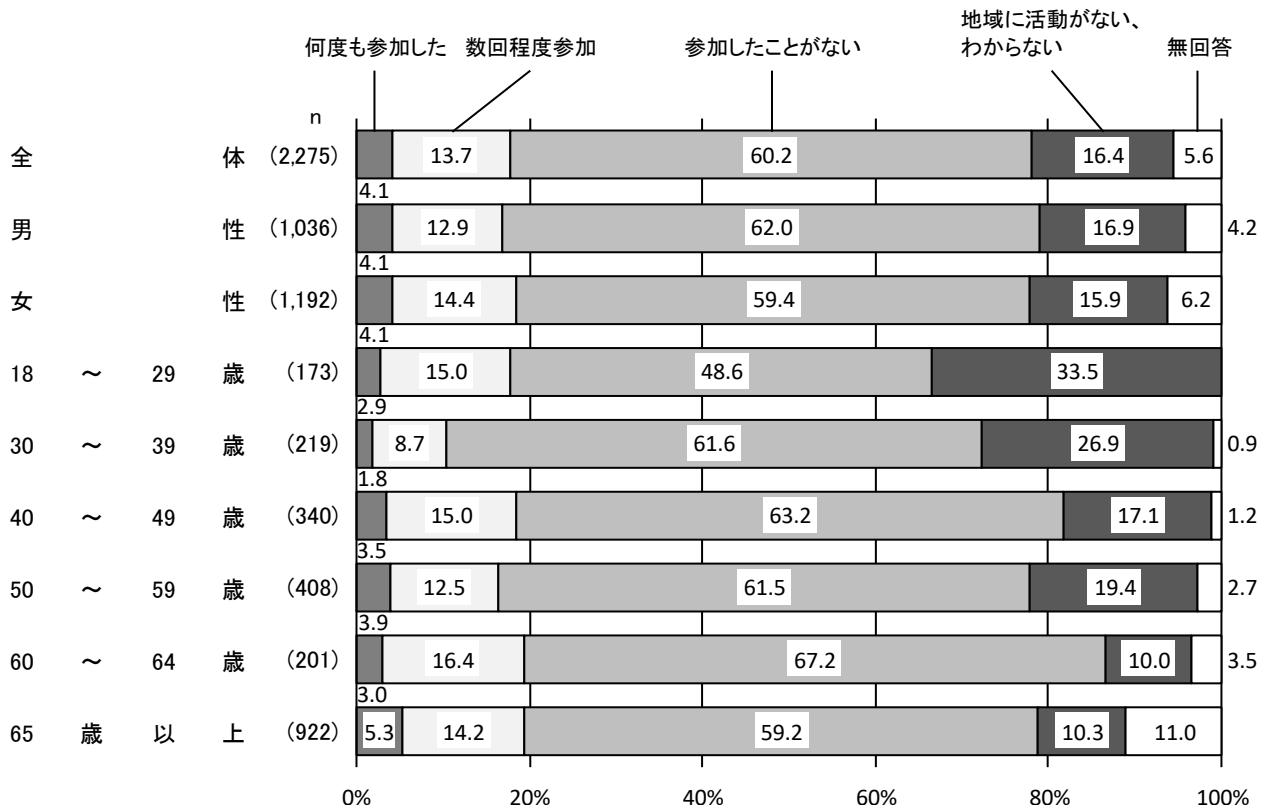
福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）－ 居住年数別



居住年数別にみると、「地域に活動がない、わからない」は、1年未満の居住（41.5%）が4割強、1～3年未満の居住（38.6%）が4割近く、5～10年未満の居住（26.4%）が3割近く、3～5年未満の居住（25.6%）が2割台半ばと高くなっている。（図 34-16）

図 34-17 地域コミュニティの活動の参加頻度

環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど）－ 性別、年齢別

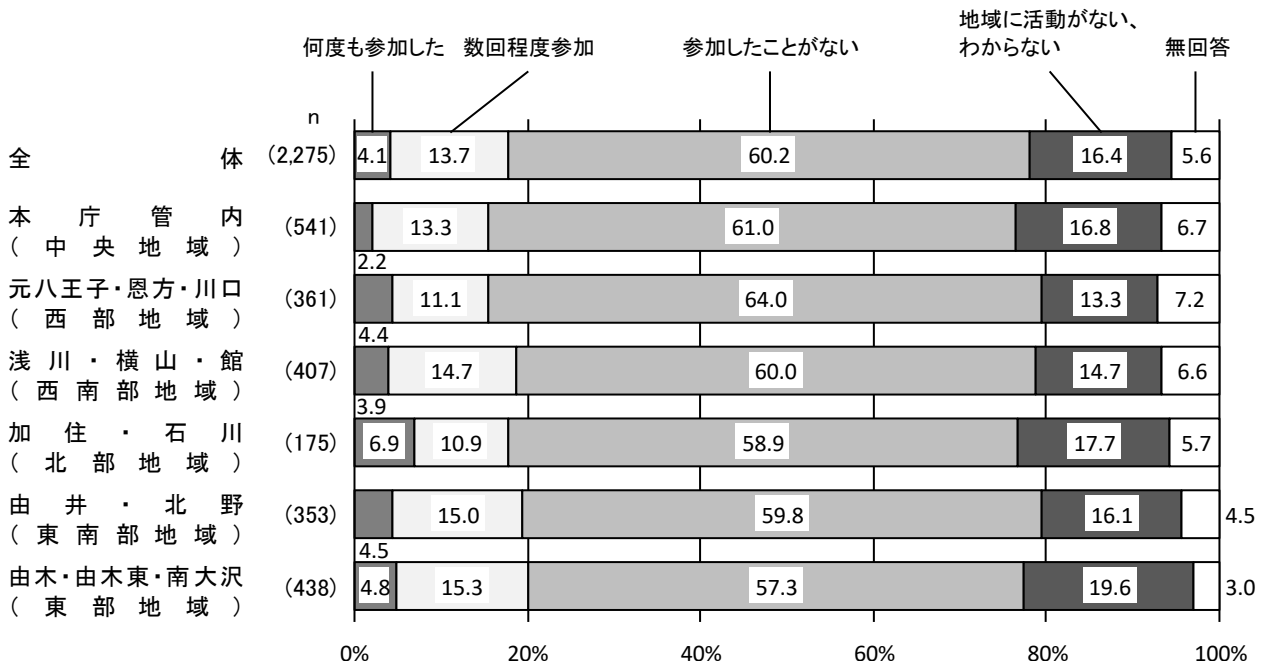


性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。

年齢別にみると、「参加したことがない」は、60～64歳（67.2%）が7割近くと高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、18～29歳（33.5%）が3割強、30～39歳（26.9%）が3割近くと高くなっている。（図 34-17）

図 34-18 地域コミュニティの活動の参加頻度

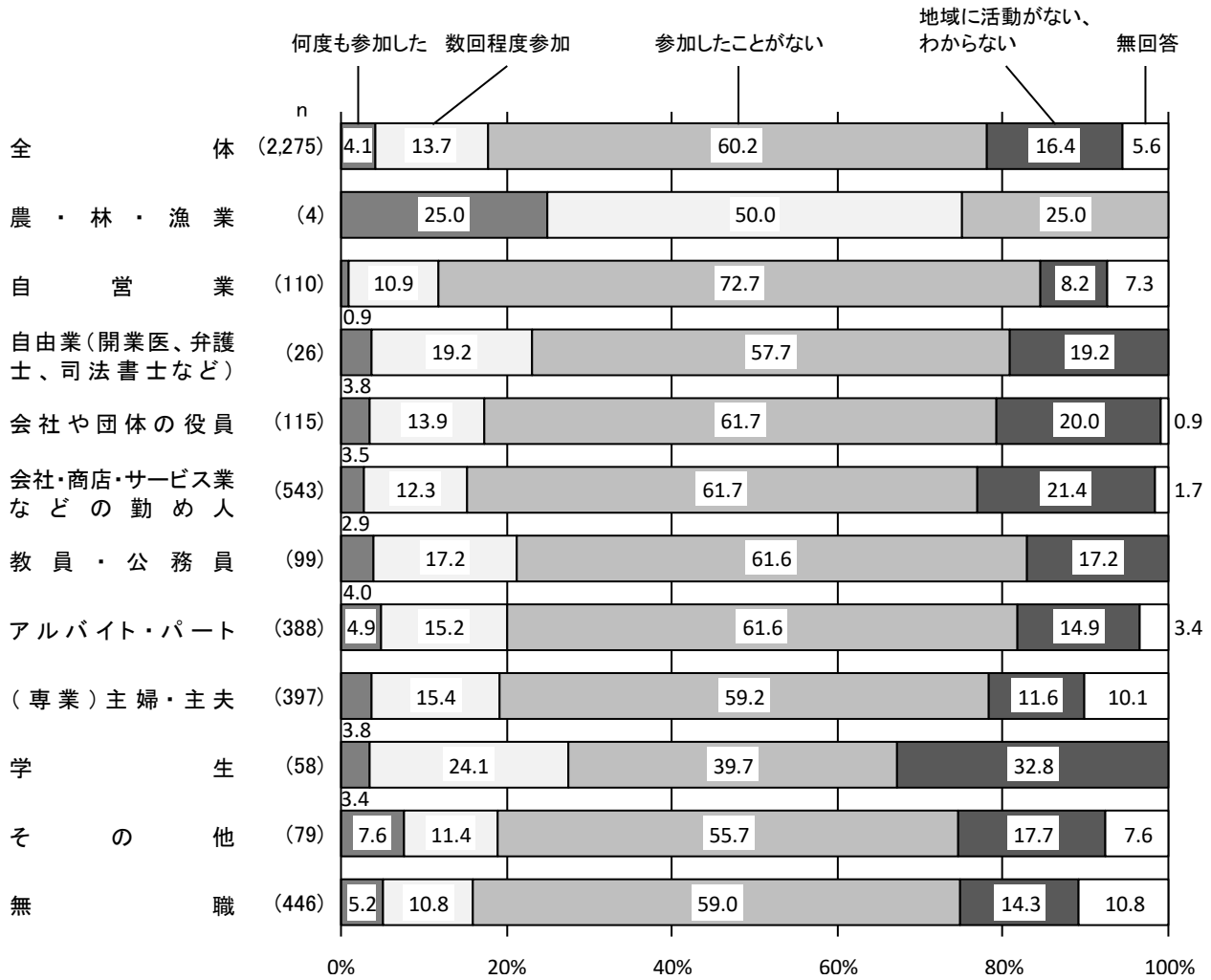
環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど）－ 居住地域別



居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 34-18)

図 34-19 地域コミュニティの活動の参加頻度

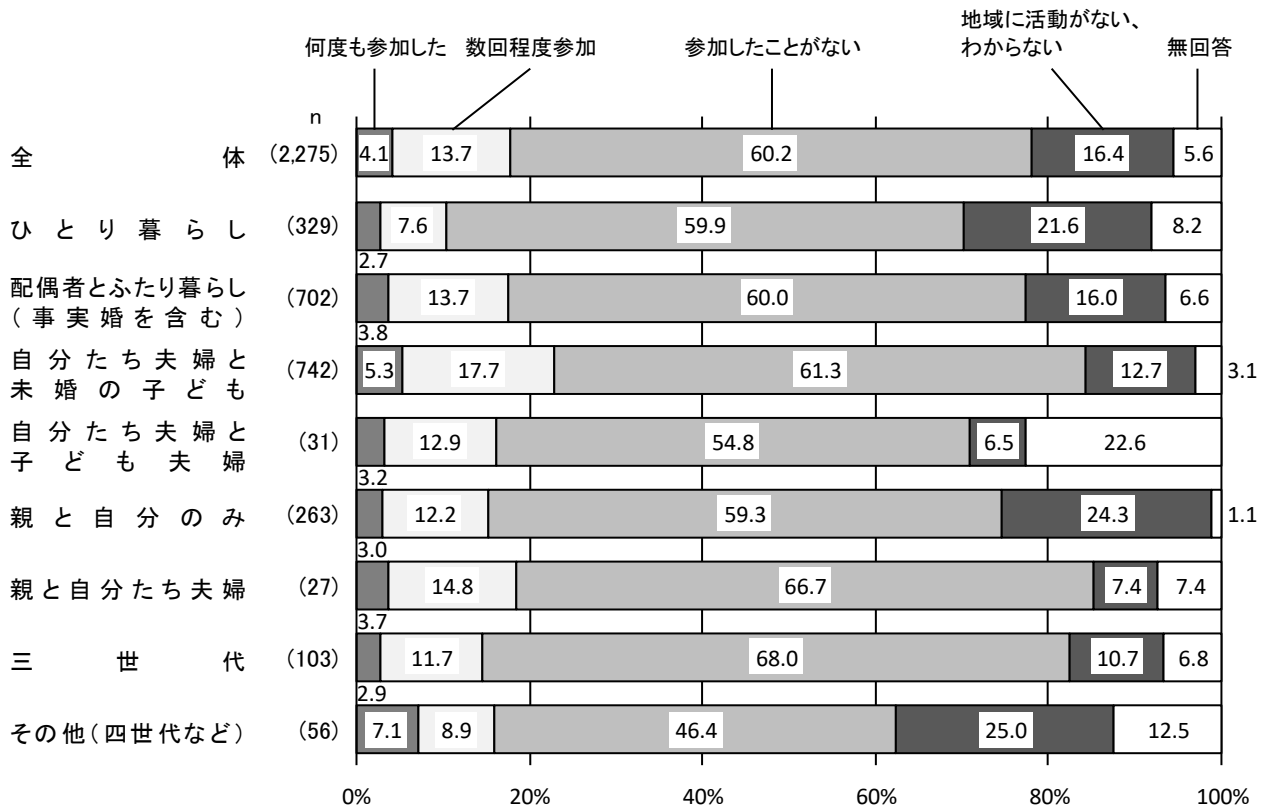
環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど）－ 職業別



職業別にみると、「数回程度参加」は、学生（24.1%）が2割台半ばと高くなっている。「参加したことがない」は、自営業（72.7%）が7割強と高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、学生（32.8%）が3割強と高くなっている。（図 34-19）

図 34-20 地域コミュニティの活動の参加頻度

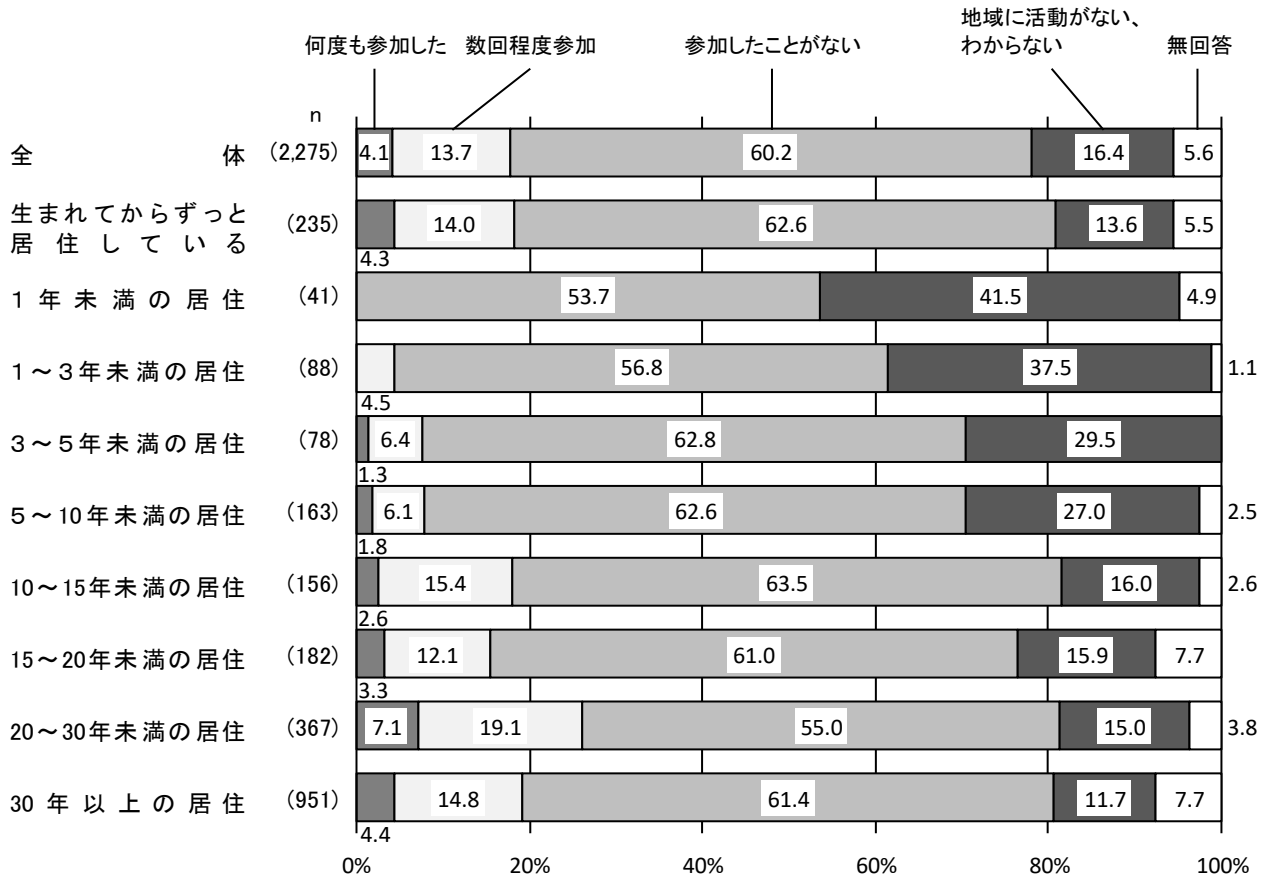
環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど）－世帯構成別



世帯構成別にみると、「参加したことがない」は、三世代（68.0%）が7割近くと高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、その他（四世代など）（25.0%）、親と自分のみ（24.3%）がそれぞれ2割台半ば、ひとり暮らし（21.6%）が2割強と高くなっている。（図 34-20）

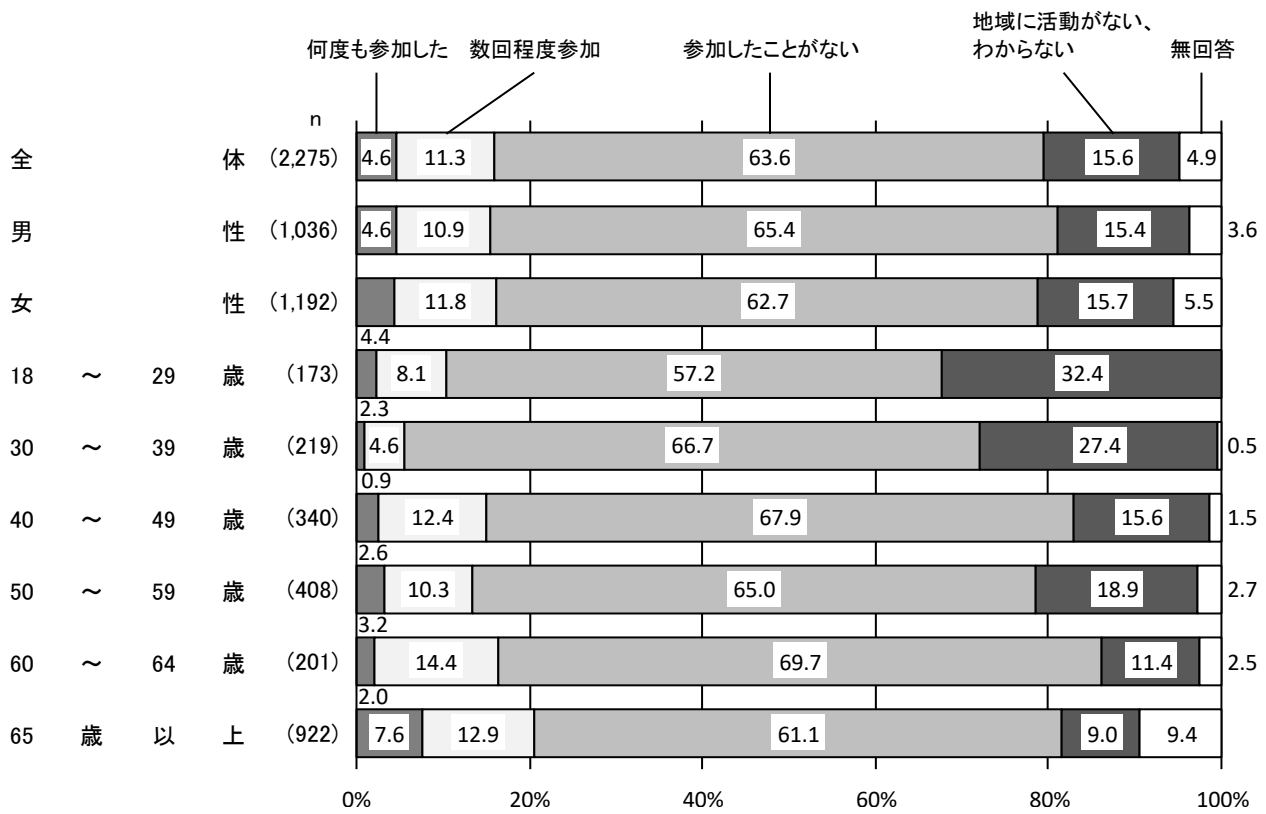
図 34-21 地域コミュニティの活動の参加頻度

環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど）－ 居住年数別



居住年数別にみると、「数回程度参加」は、20～30年未満の居住（19.1%）が2割弱と高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、1年未満の居住（41.5%）が4割強、1～3年未満の居住（37.5%）が4割近く、3～5年未満の居住（29.5%）が3割弱、5～10年未満の居住（27.0%）が3割近くと高くなっている。（図 34-21）

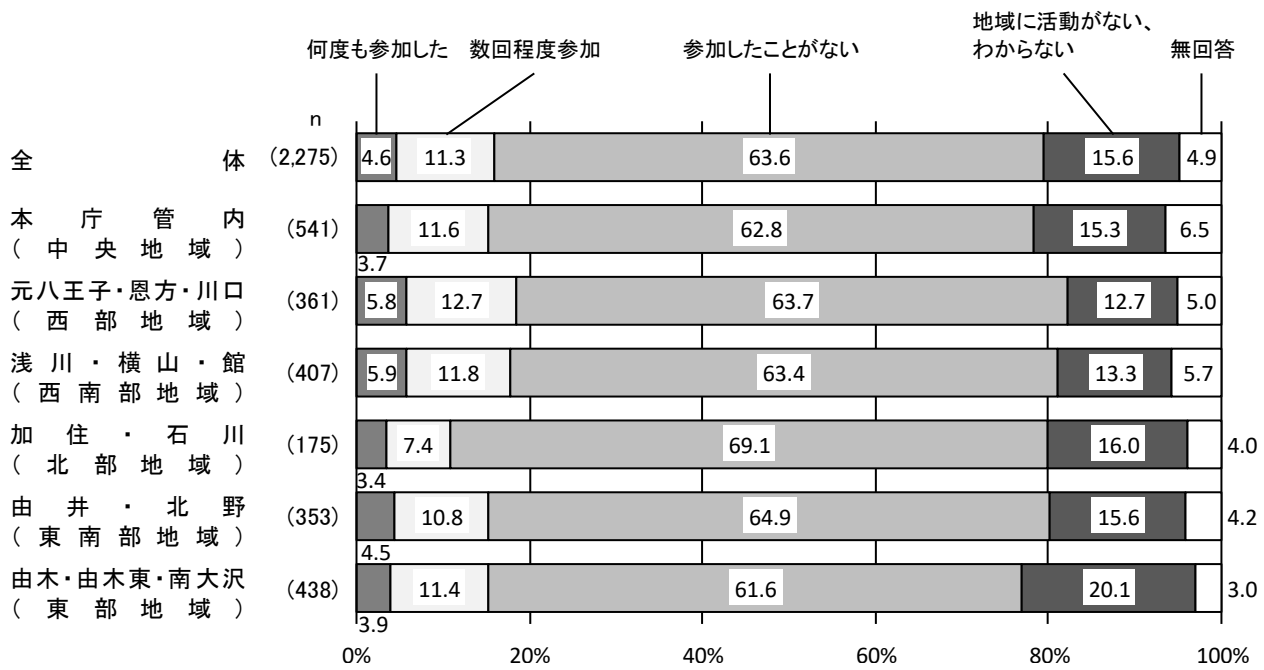
図 34-22 地域コミュニティの活動の参加頻度
 スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど） — 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。

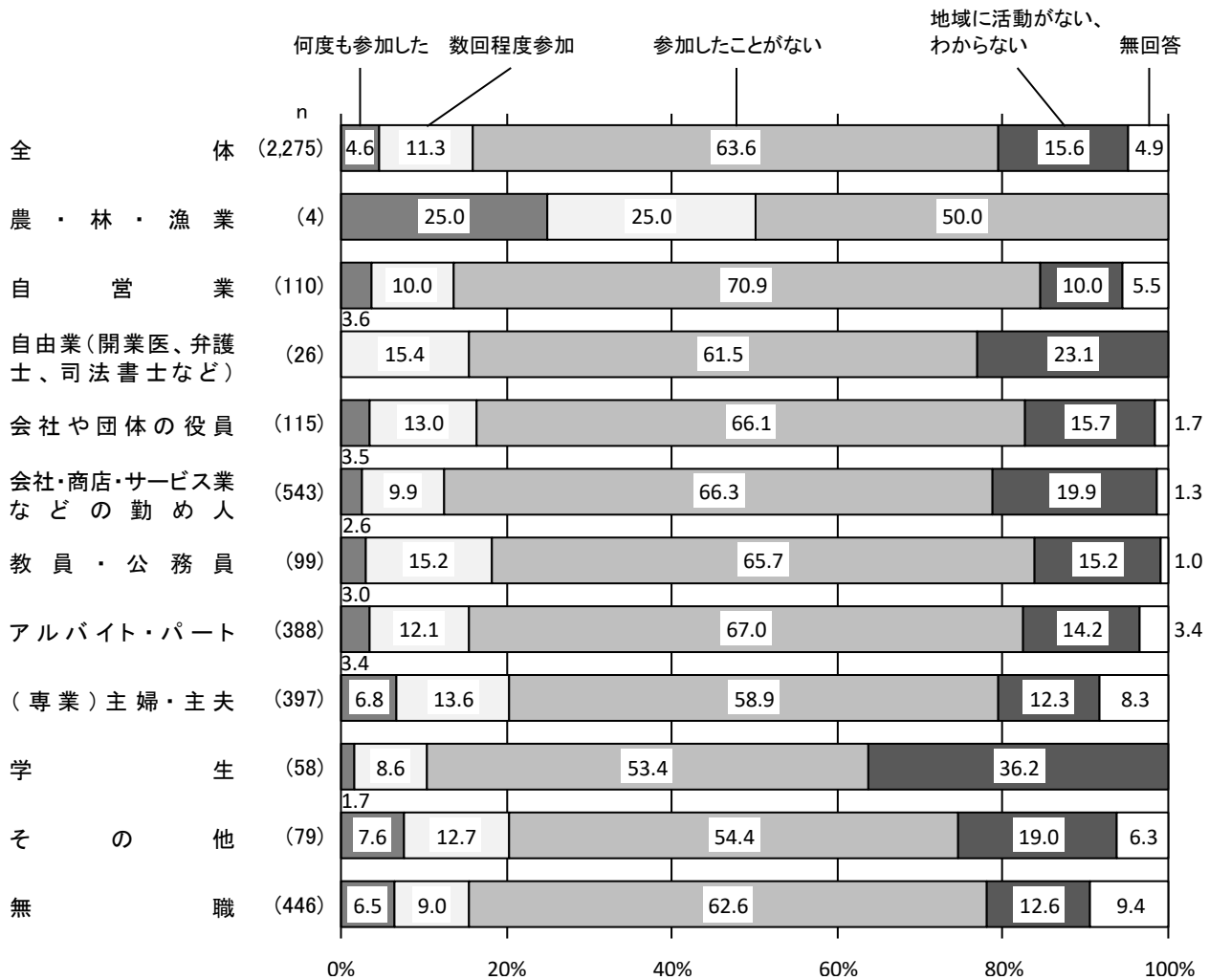
年齢別にみると、「参加したことがない」は、60~64 歳（69.7%）が7割弱と高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、18~29 歳（32.4%）が3割強、30~39 歳（27.4%）が3割近くと高くなっている。（図 34-22）

図 34-23 地域コミュニティの活動の参加頻度
 スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど）－ 居住地域別



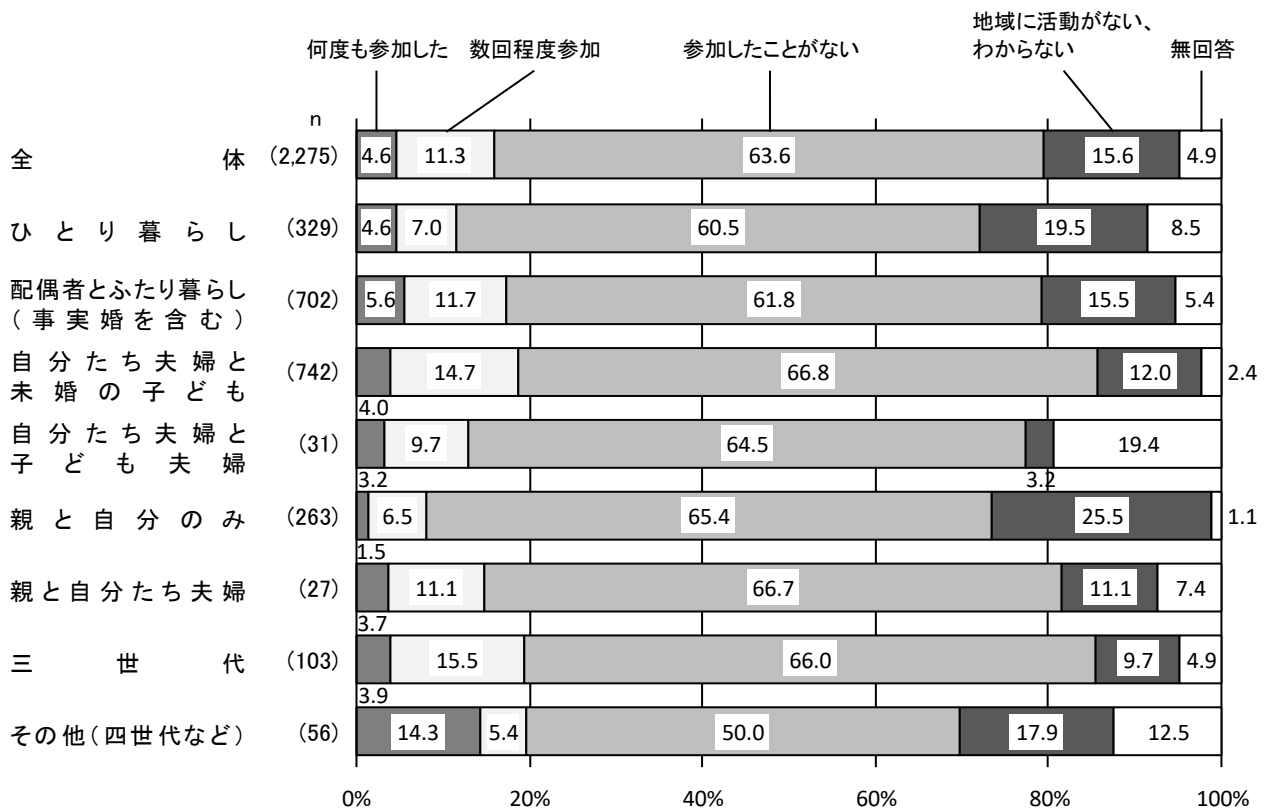
居住地域別にみると、「参加したことがない」は、加住・石川（北部地域）（69.1%）が7割弱と高くなっている。（図 34-23）

図 34-24 地域コミュニティの活動の参加頻度
 スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど）－ 職業別



職業別にみると、「参加したことがない」は、自営業（70.9%）が約7割と高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、学生（36.2%）が4割近くと高くなっている。（図 34-24）

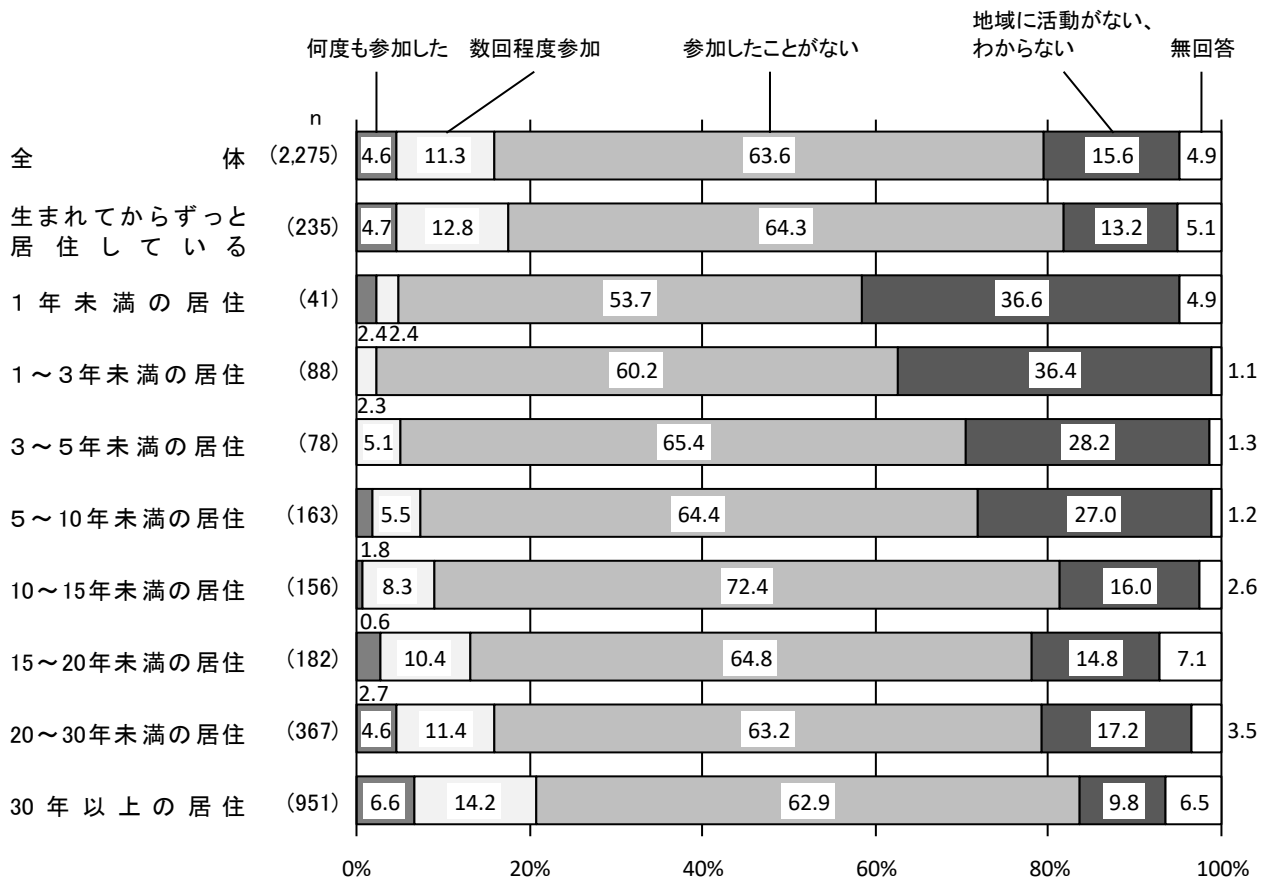
図 34-25 地域コミュニティの活動の参加頻度
 スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど） — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「何度も参加した」は、その他（四世代など）（14.3%）が1割台半ばと高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、親と自分のみ（25.5%）が2割台半ばと高くなっている。

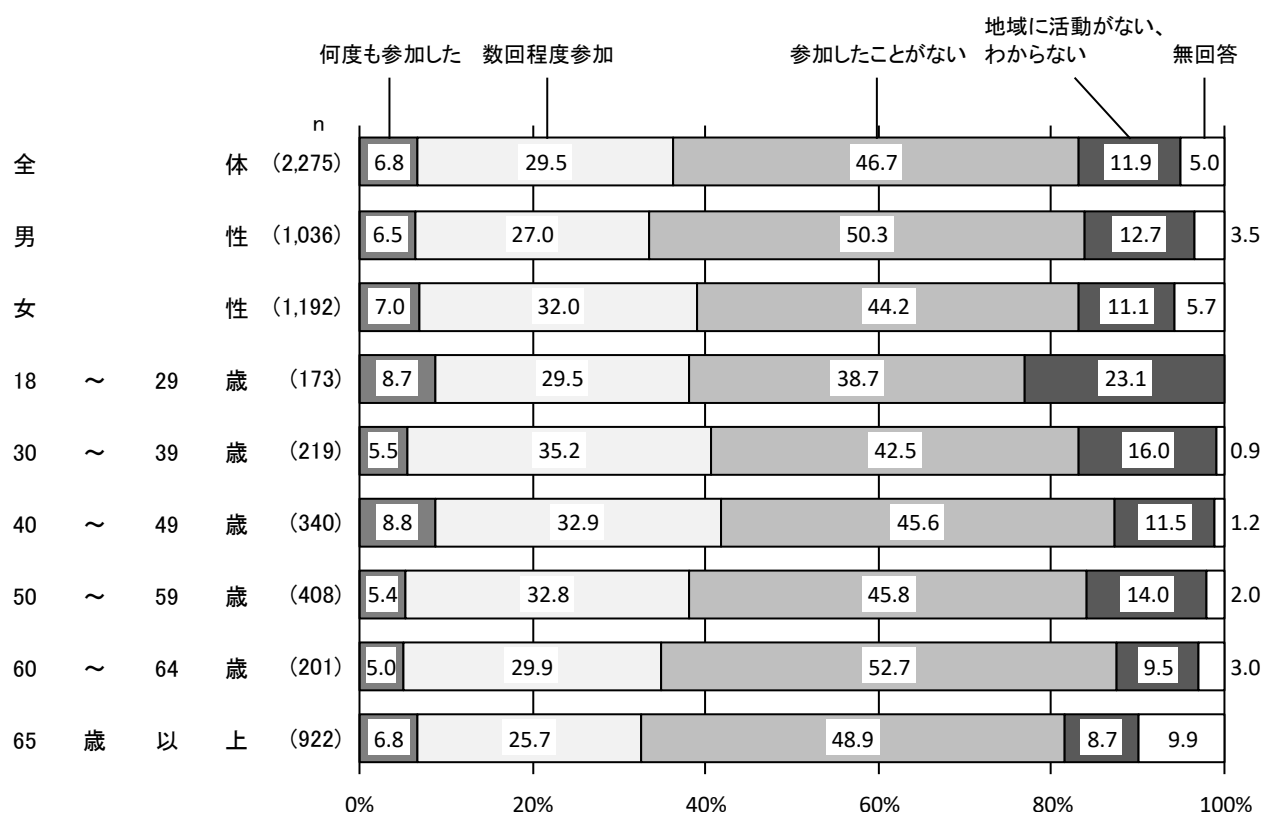
(図 34-25)

図 34-26 地域コミュニティの活動の参加頻度
 スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど）－ 居住年数別



居住年数別にみると、「参加したことがない」は、10～15年未満の居住（72.4%）が7割強と高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、1年未満の居住（36.6%）、1～3年未満の居住（36.4%）がそれぞれ4割近く、3～5年未満の居住（28.2%）、5～10年未満の居住（27.0%）がそれぞれ3割近くと高くなっている。（図 34-26）

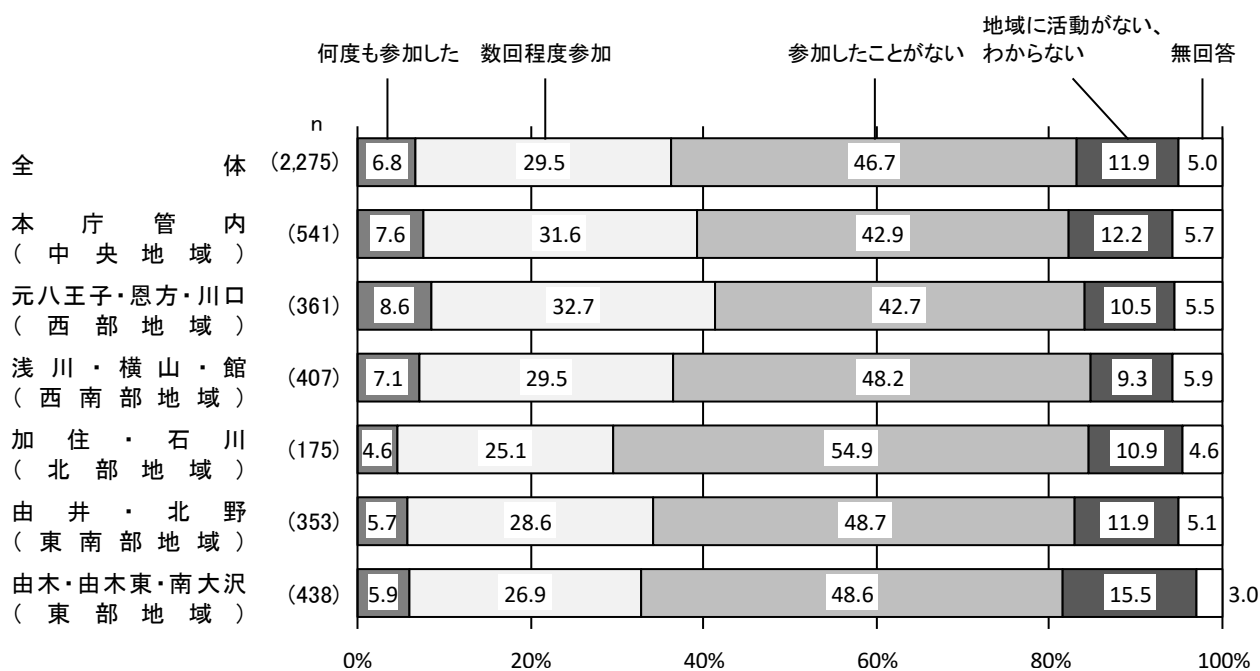
図 34-27 地域コミュニティの活動の参加頻度
 交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）－ 性別、年齢別



性別にみると、「参加したことがない」は、男性（50.3%）が女性（44.2%）より 6.1 ポイント高くなっている。

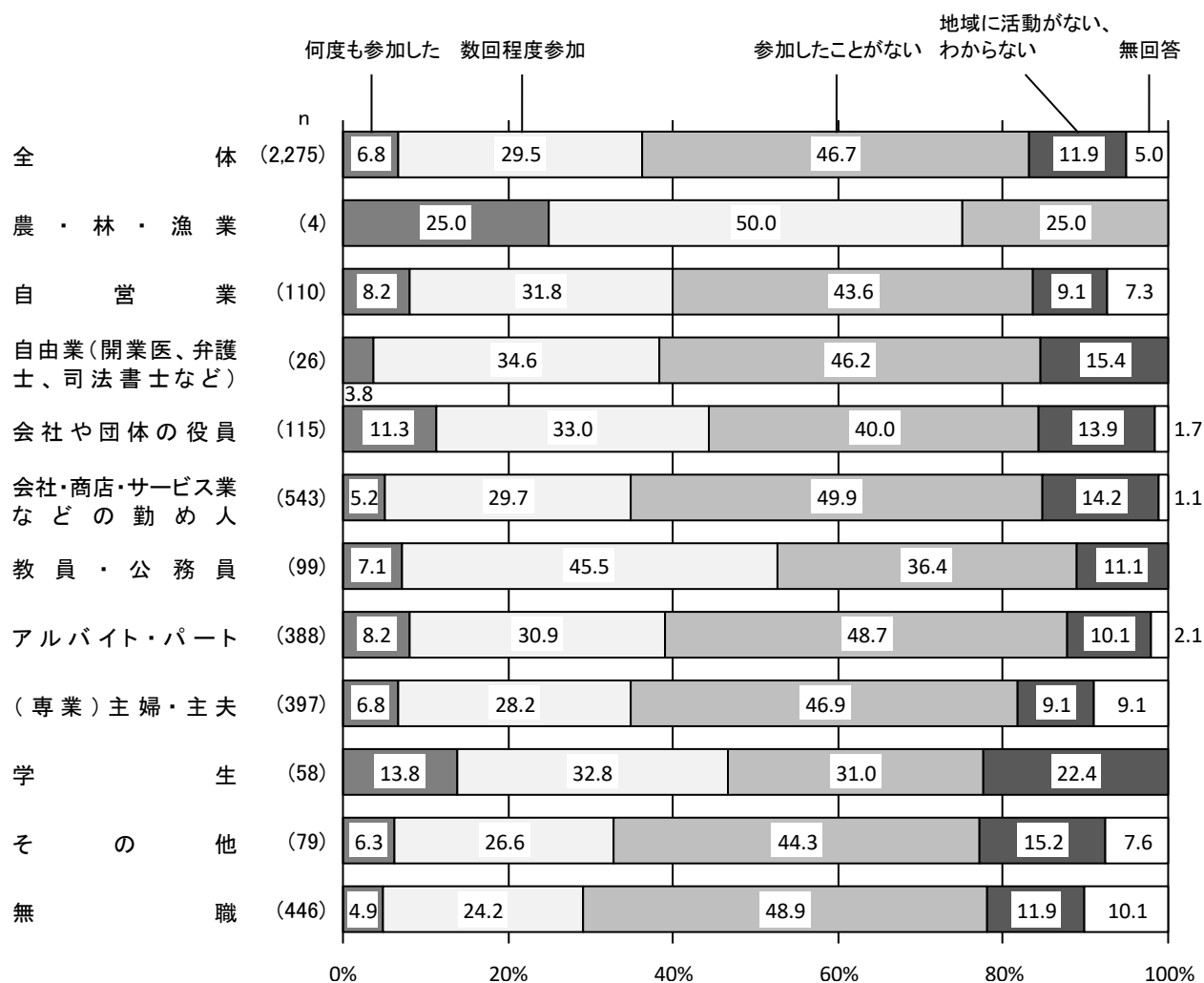
年齢別にみると、「数回程度参加」は、30～39 歳（35.2%）が 3 割台半ばと高くなっている。「参加したことがない」は、60～64 歳（52.7%）が 5 割強と高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、18～29 歳（23.1%）が 2 割強と高くなっている。（図 34-27）

図 34-28 地域コミュニティの活動の参加頻度
 交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）－ 居住地域別



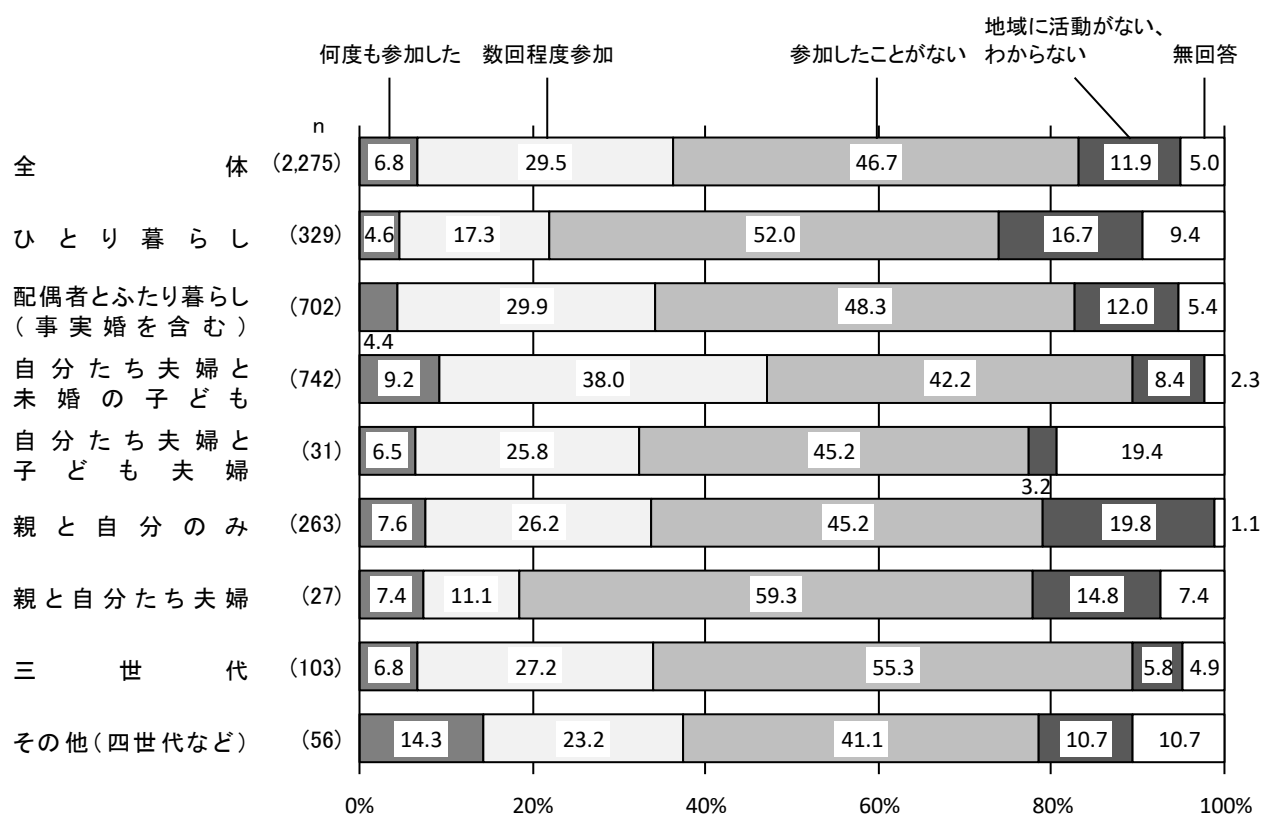
居住地域別にみると、「参加したことがない」は、加住・石川（北部地域）（54.9%）が5割台半ばと高くなっている。（図 34-28）

図 34-29 地域コミュニティの活動の参加頻度
交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）－ 職業別



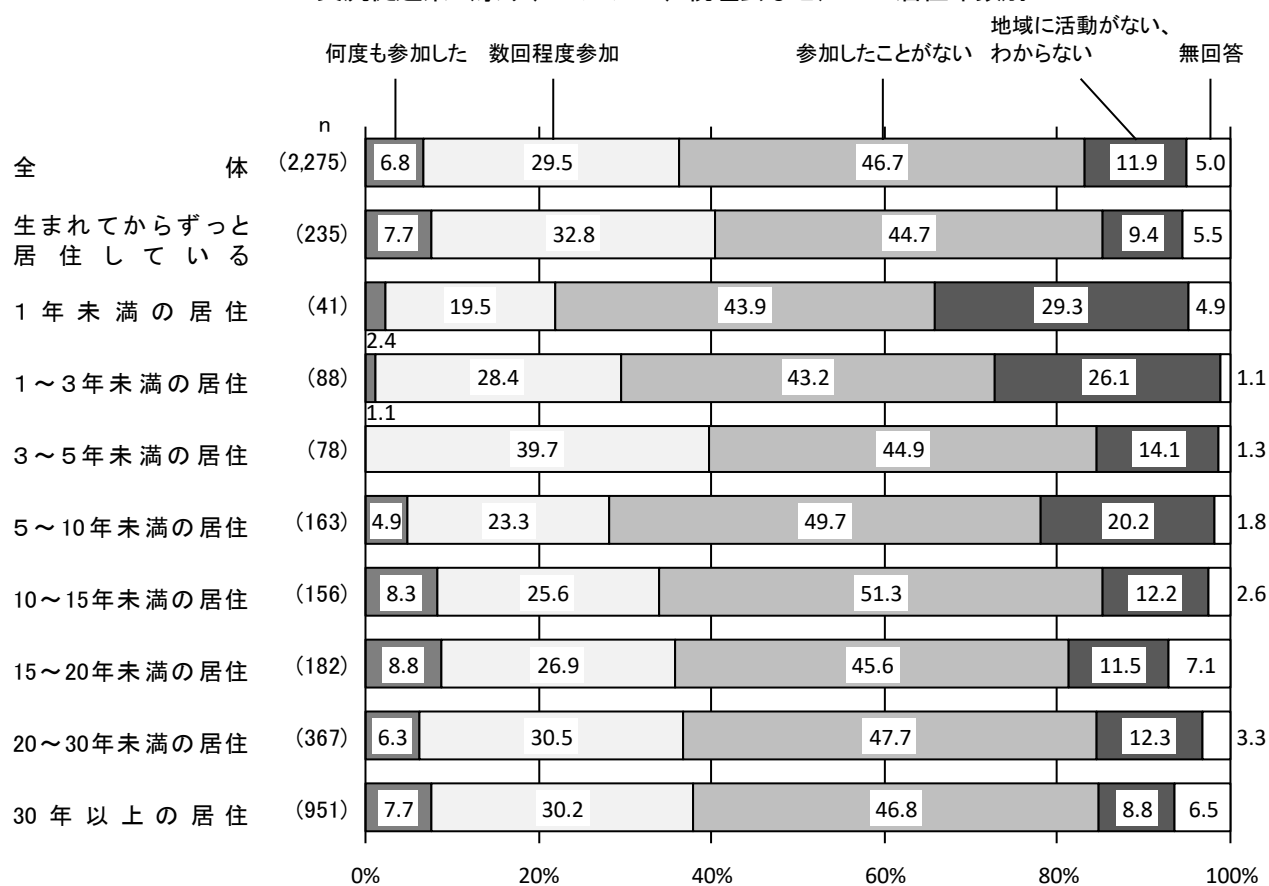
職業別にみると、「何度も参加した」は、学生（13.8%）が1割強と高くなっている。また、「地域に活動がない、わからない」についても、学生（22.4%）が2割強と高くなっている。「数回程度参加」は、教員・公務員（45.5%）が4割台半ばと高くなっている。（図 34-29）

図 34-30 地域コミュニティの活動の参加頻度
 交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）－ 世帯構成別



世帯構成別にみると、「何度も参加した」は、その他（四世代など）（14.3%）が1割台半ばと高くなっている。「数回程度参加」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（38.0%）が4割近くと高くなっている。「参加したことがない」は、三世代（55.3%）が5割台半ば、ひとり暮らし（52.0%）が5割強と高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、親と自分のみ（19.8%）が2割弱と高くなっている。（図 34-30）

図 34-31 地域コミュニティの活動の参加頻度
 交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）－ 居住年数別

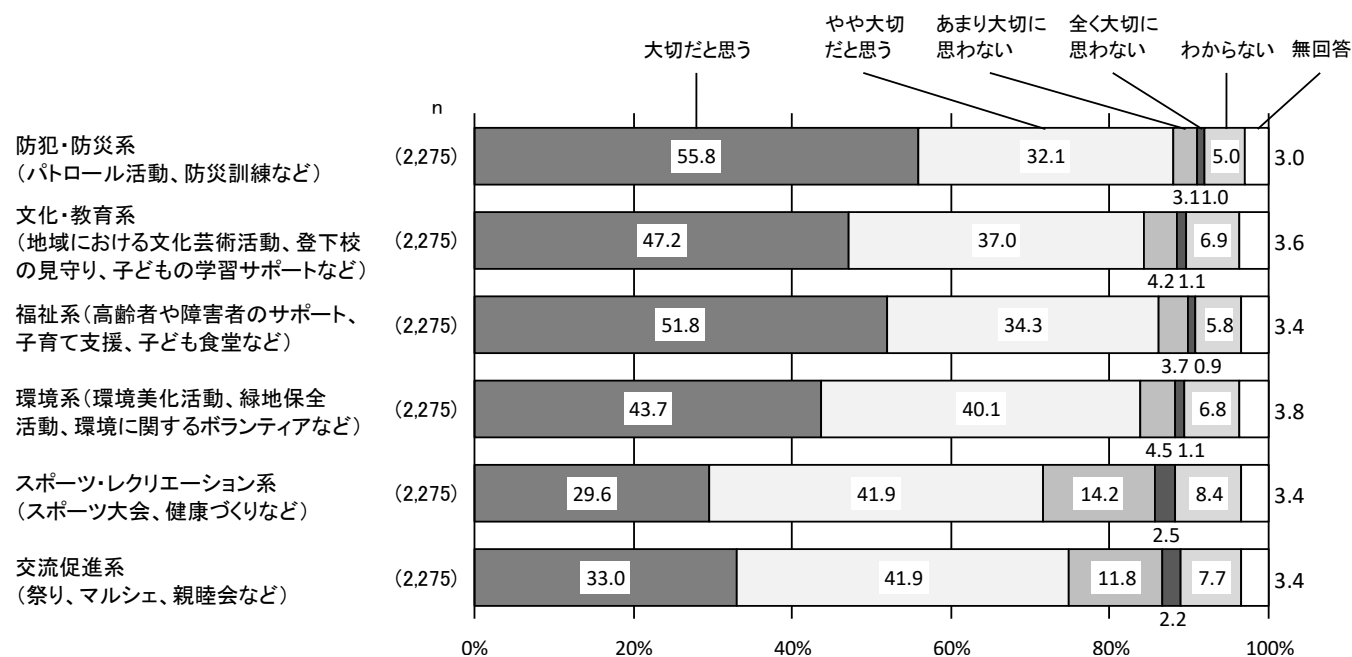


居住年数別にみると、「数回程度参加」は、3～5年未満の居住（39.7%）が4割弱と高くなっている。「地域に活動がない、わからない」は、1年未満の居住（29.3%）が3割弱、1～3年未満の居住（26.1%）が3割近く、5～10年未満の居住（20.2%）が約2割と高くなっている。（図 34-31）

(35) 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか

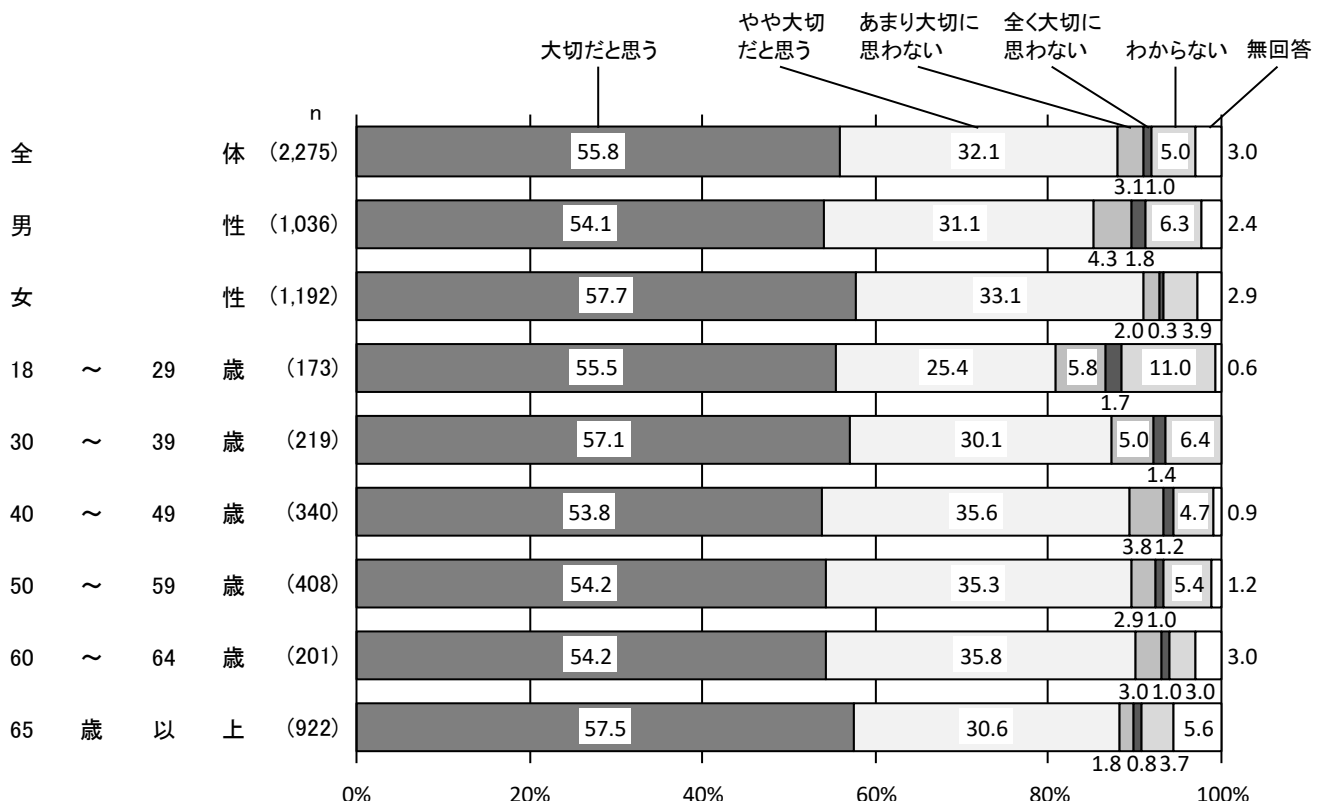
問 31 以下の地域コミュニティの活動について、あなたは地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると考えますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

図 35-1 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか - 全体



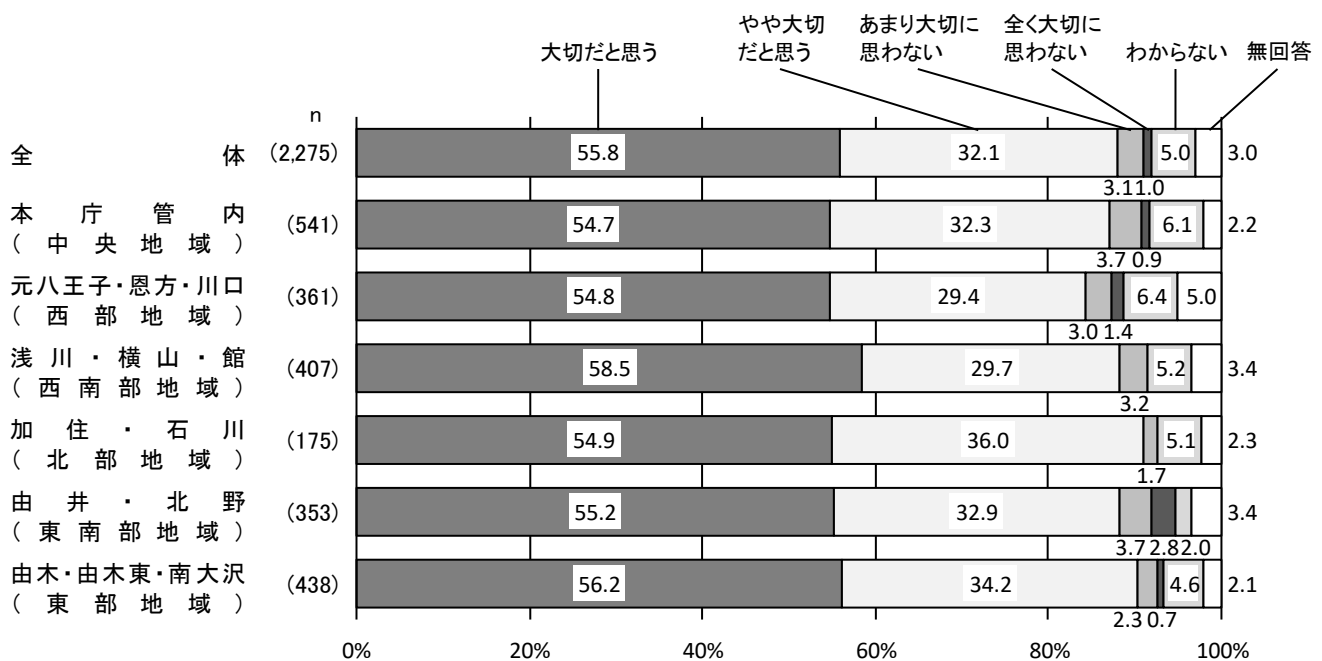
地域コミュニティの活動において、地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか聞いたところ、「大切だと思ふ」と「やや大切だと思ふ」を合わせた「大切だと思ふ」は、「防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）」（87.9%）が9割近くと最も高くなっている。次いで、「福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）」（86.1%）が9割近くと高くなっている。一方、「あまり大切に思わない」と「全く大切に思わない」を合わせた「大切に思わない」は、「スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど）」（16.7%）が2割近くと最も高くなっている。次いで、「交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）」（14.0%）が1割台半ばと高くなっている。（図 35-1）

図 35-2 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）－ 性別、年齢別



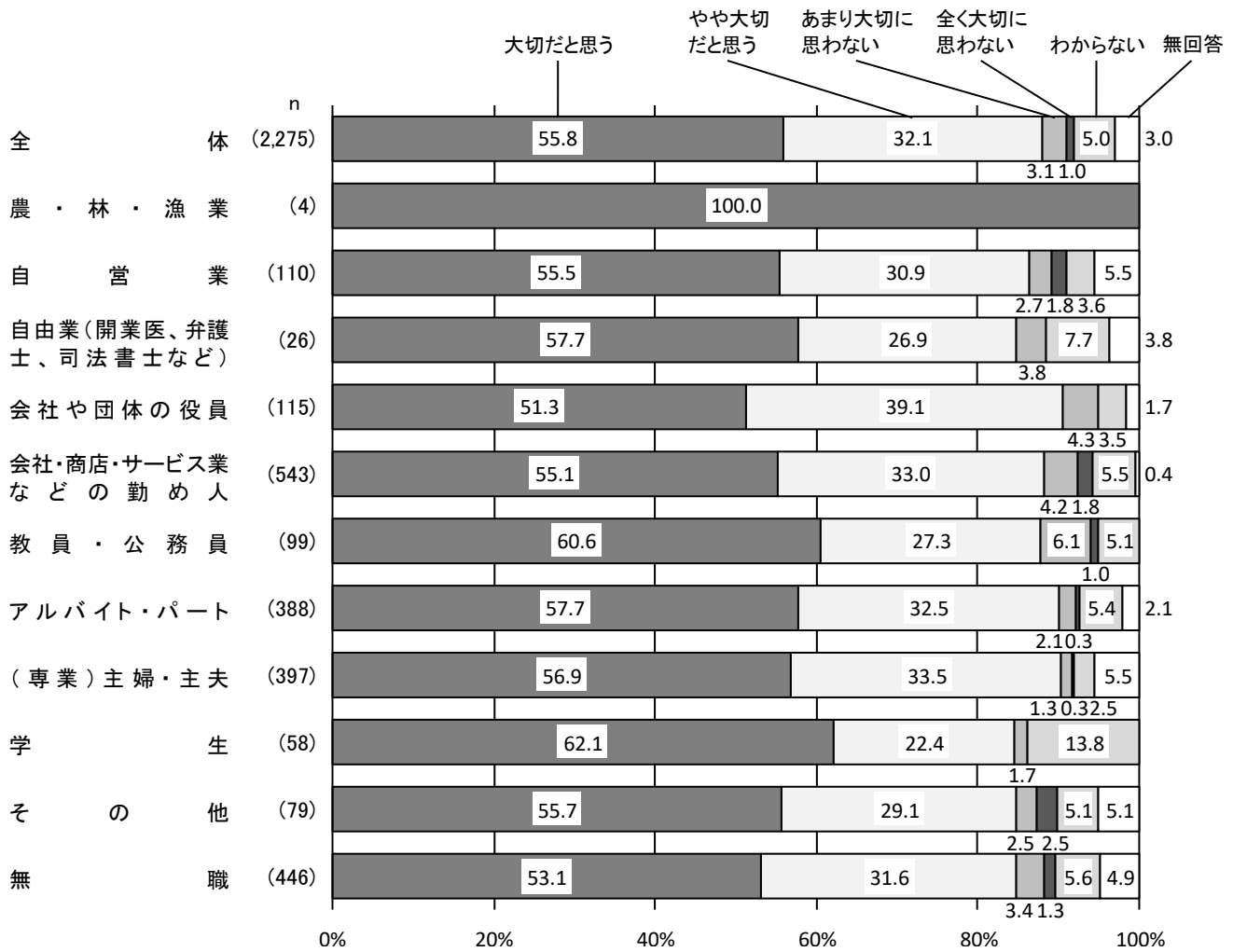
性別にみると、「大切だと思う」は、女性（90.8%）が男性（85.2%）より 5.6 ポイント高くなっている。年齢別にみると、「大切だと思う」は、18～29歳（80.9%）が約 8割と低くなっている。（図 35-2）

図 35-3 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）－ 居住地域別



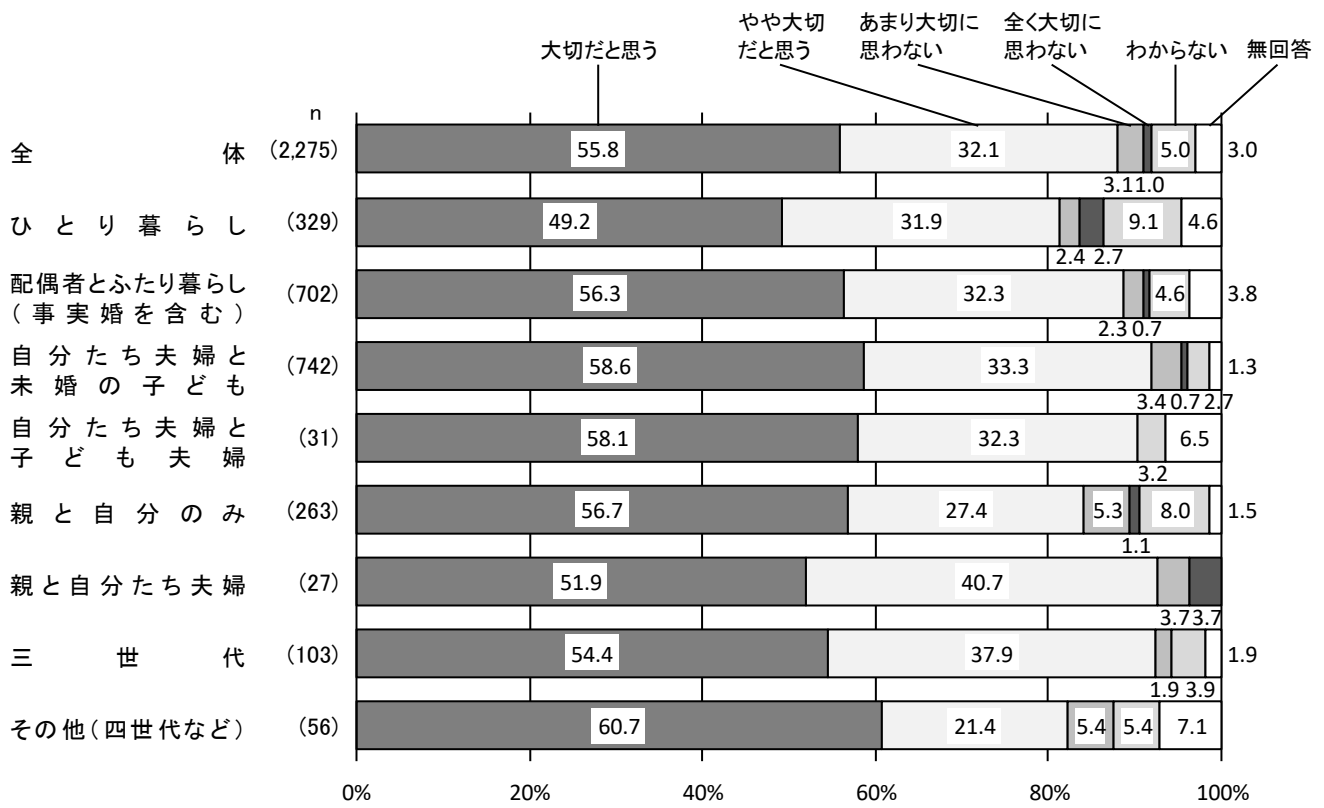
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。（図 35-3）

図 35-4 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）－ 職業別



職業別にみると、「大切だと思う」は、傾向に大きな違いはみられないが、「大切だと思う」は、学生(62.1%)が6割強と高く、「やや大切だと思う」は、会社や団体の役員(39.1%)が4割弱と高くなっている。(図 35-4)

図 35-5 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）－ 世帯構成別

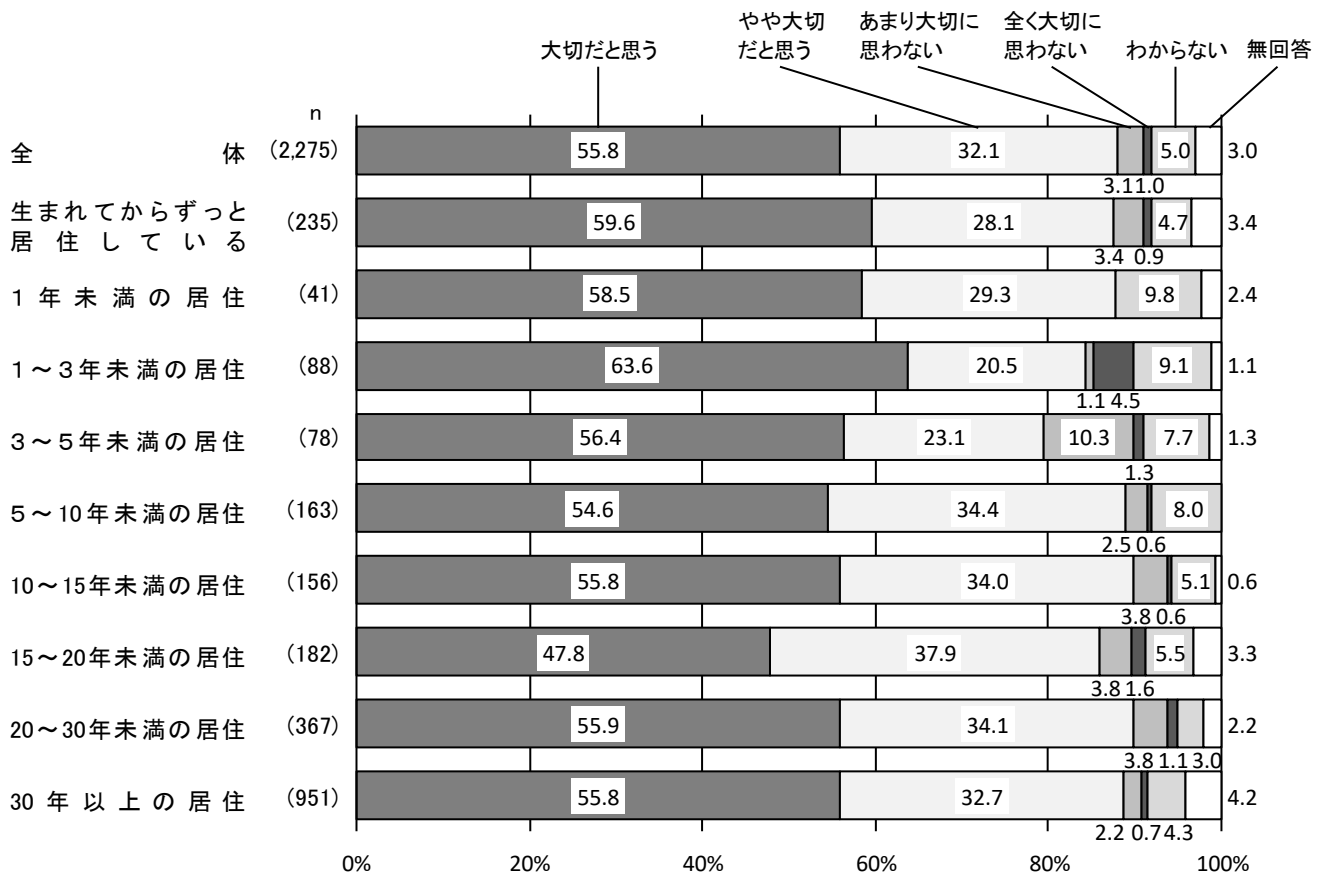


世帯構成別にみると、「大切だと思う」は、ひとり暮らし（81.1%）が8割強と低くなっている。

(図 35-5)

図 35-6 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか

防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）－ 居住年数別

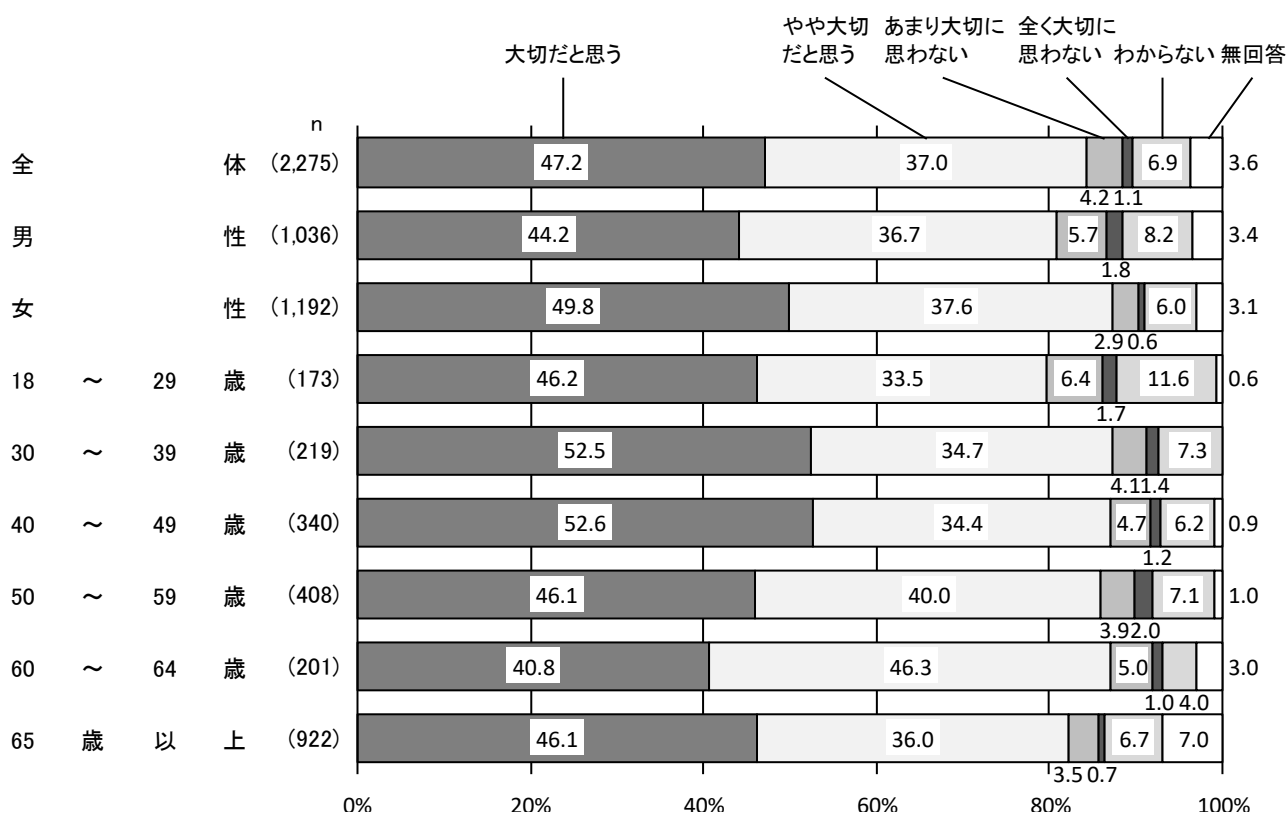


居住年数別にみると、「大切に思わない」は、3～5年未満の居住（11.6%）が1割強と高くなっている。

(図 35-6)

図 35-7 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか

文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど） — 性別、年齢別

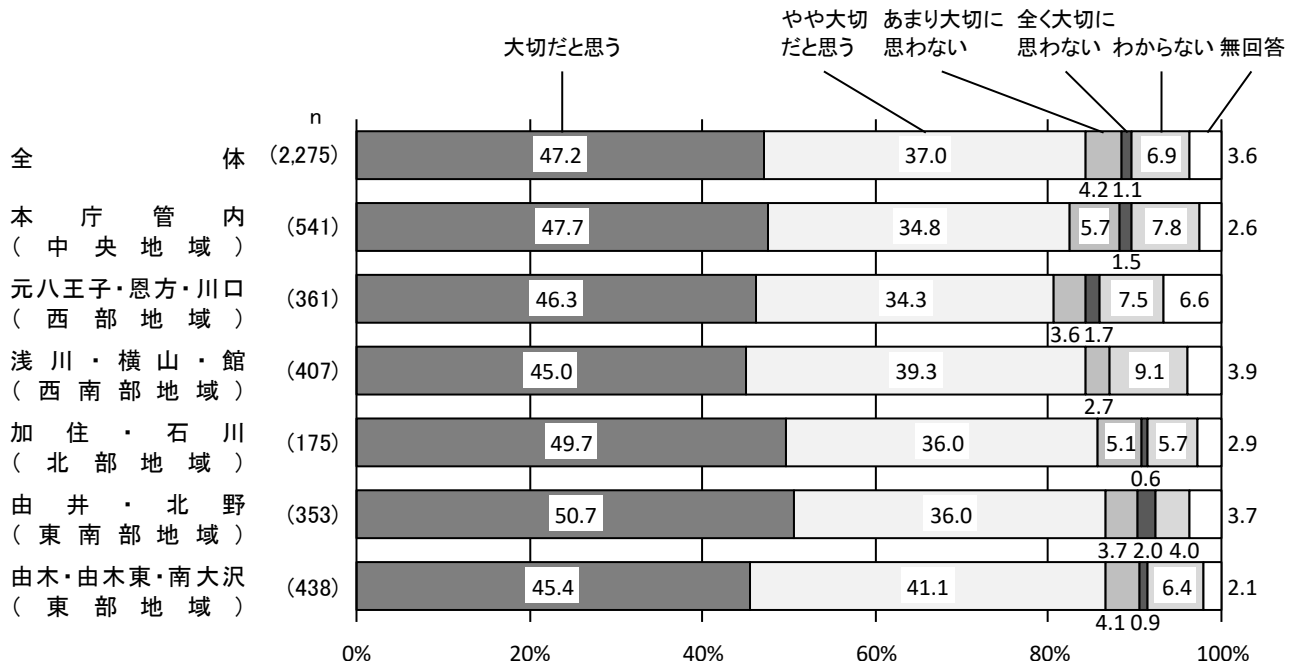


性別にみると、「大切だと思う」は、女性（87.4%）が男性（80.9%）より 6.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「大切だと思う」は、傾向に大きな違いはみられないが、「大切だと思う」は、40～49 歳（52.6%）、30～39 歳（52.5%）がそれぞれ 5 割強と高く、「やや大切だと思う」は、60～64 歳（46.3%）が 5 割近くと高くなっている。（図 35-7）

図 35-8 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか

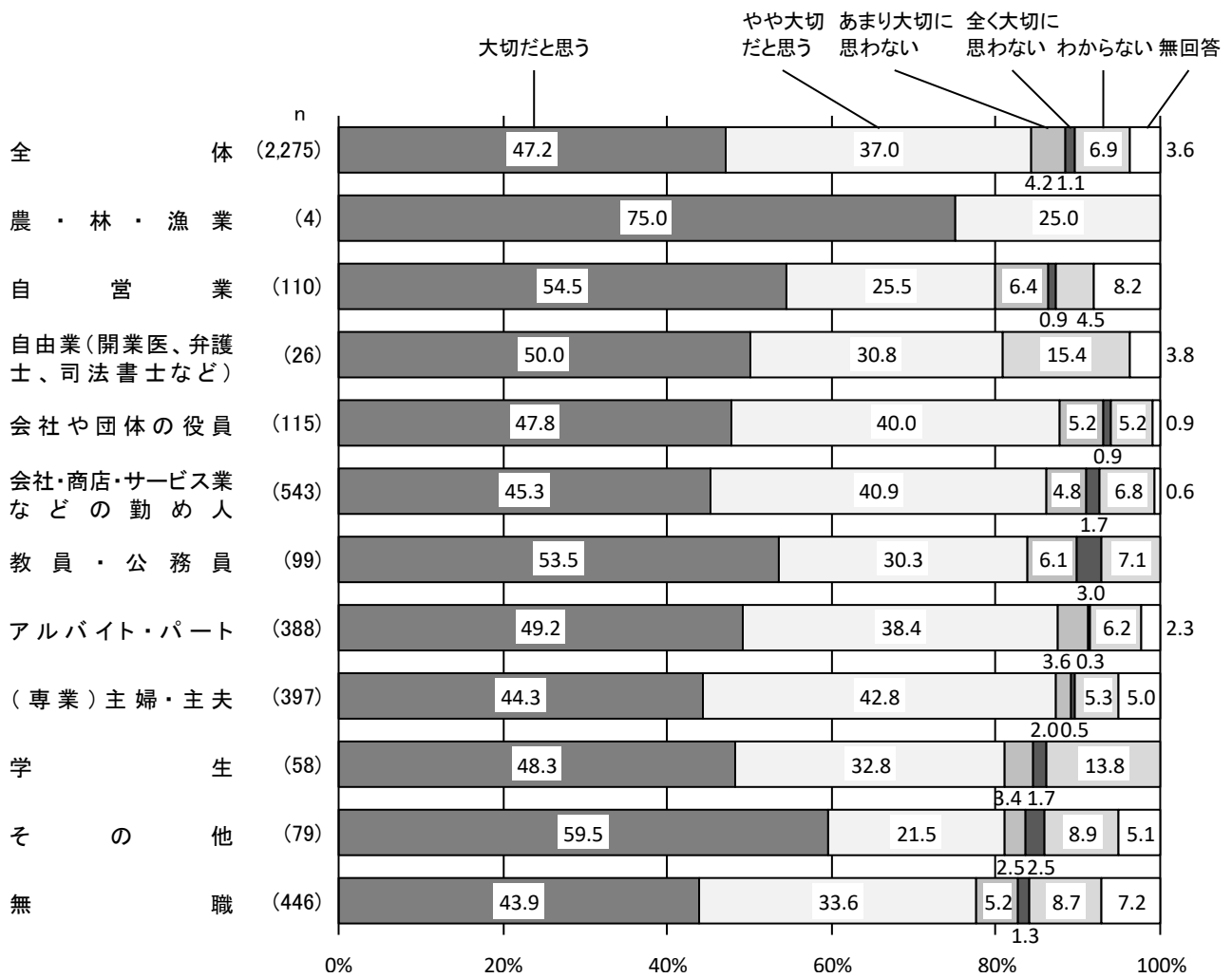
文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど）－ 居住地域別



居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 35-8)

図 35-9 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか

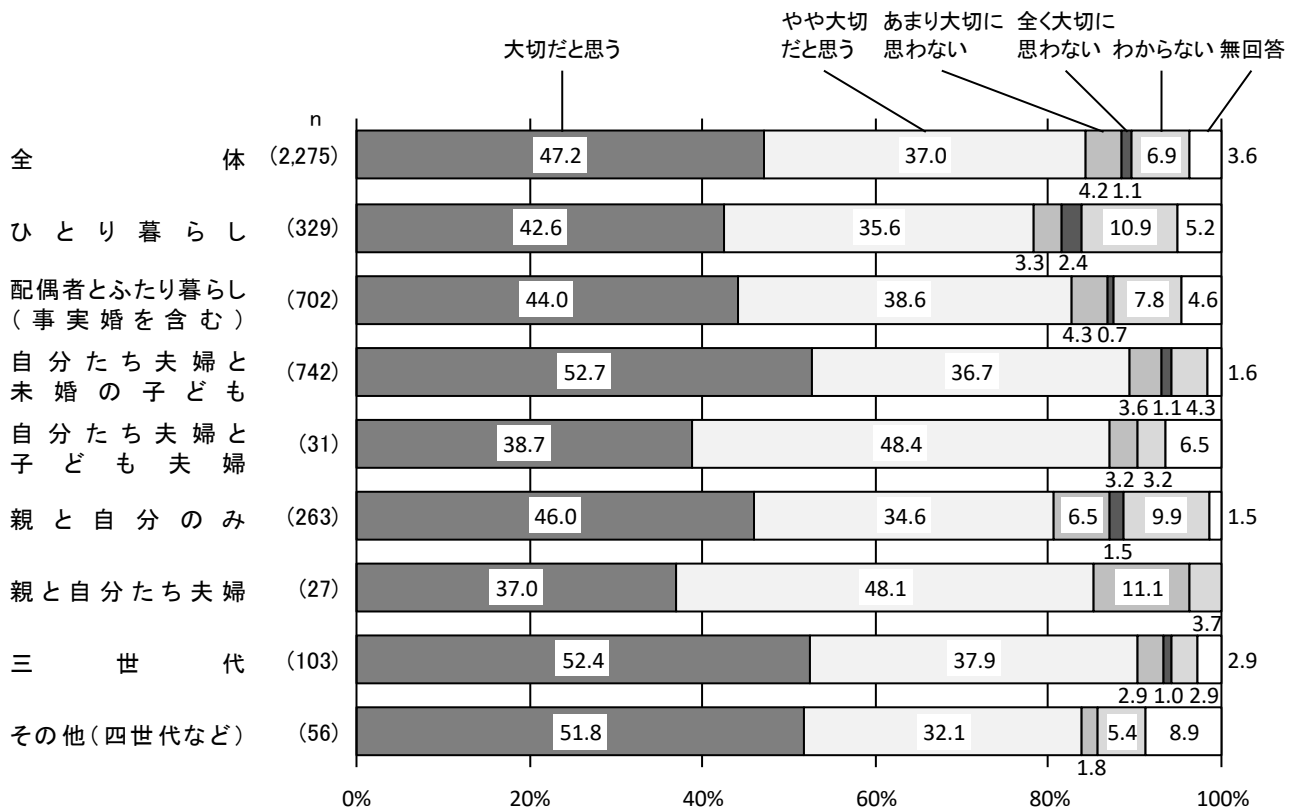
文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど）－ 職業別



職業別にみると、「大切だと思う」は、無職（77.5%）が8割近くと低くなっている。（図 35-9）

図 35-10 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか

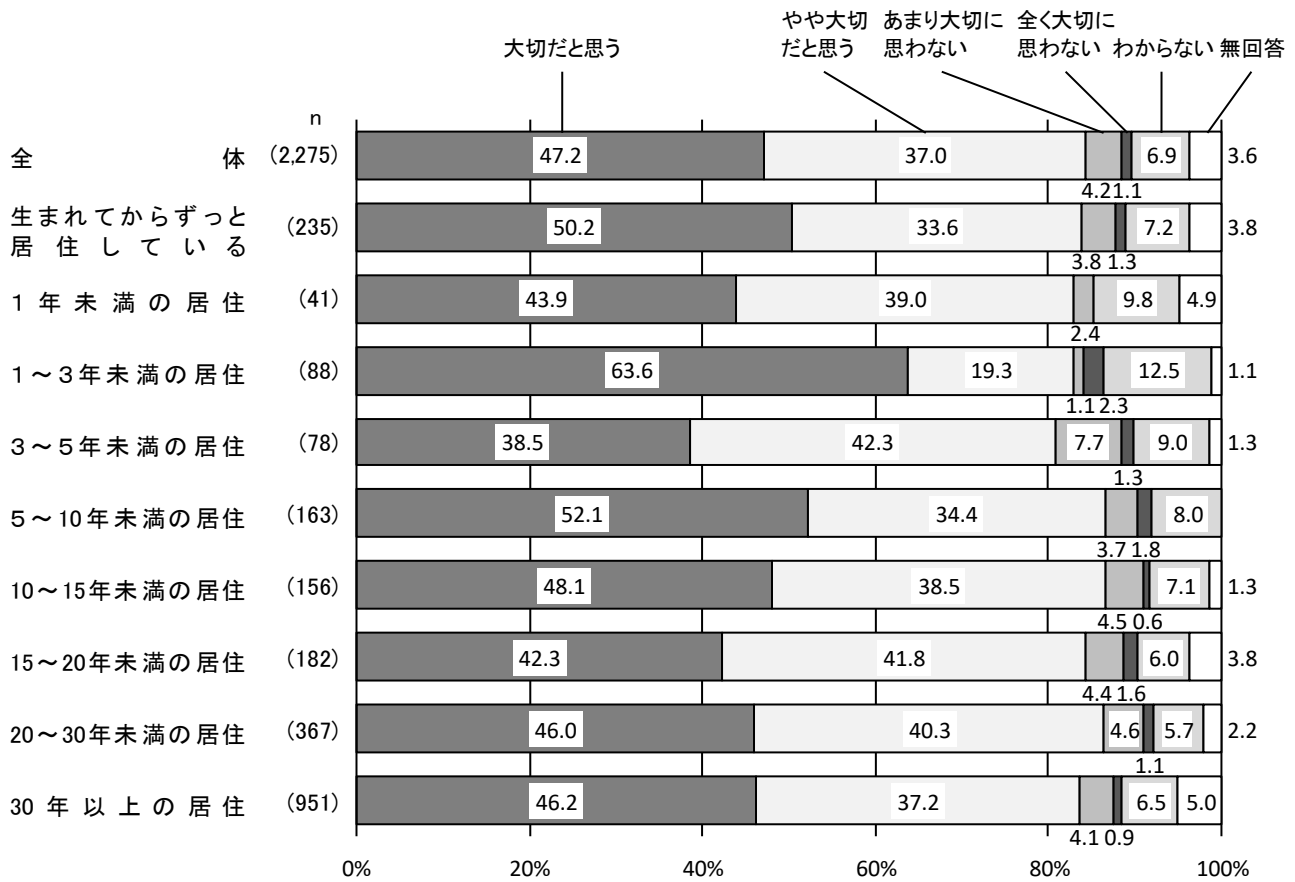
文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど） — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「大切だと思う」は、三世代（90.3%）が約9割、自分たち夫婦と未婚の子ども（89.4%）が9割弱と高くなっている。（図 35-10）

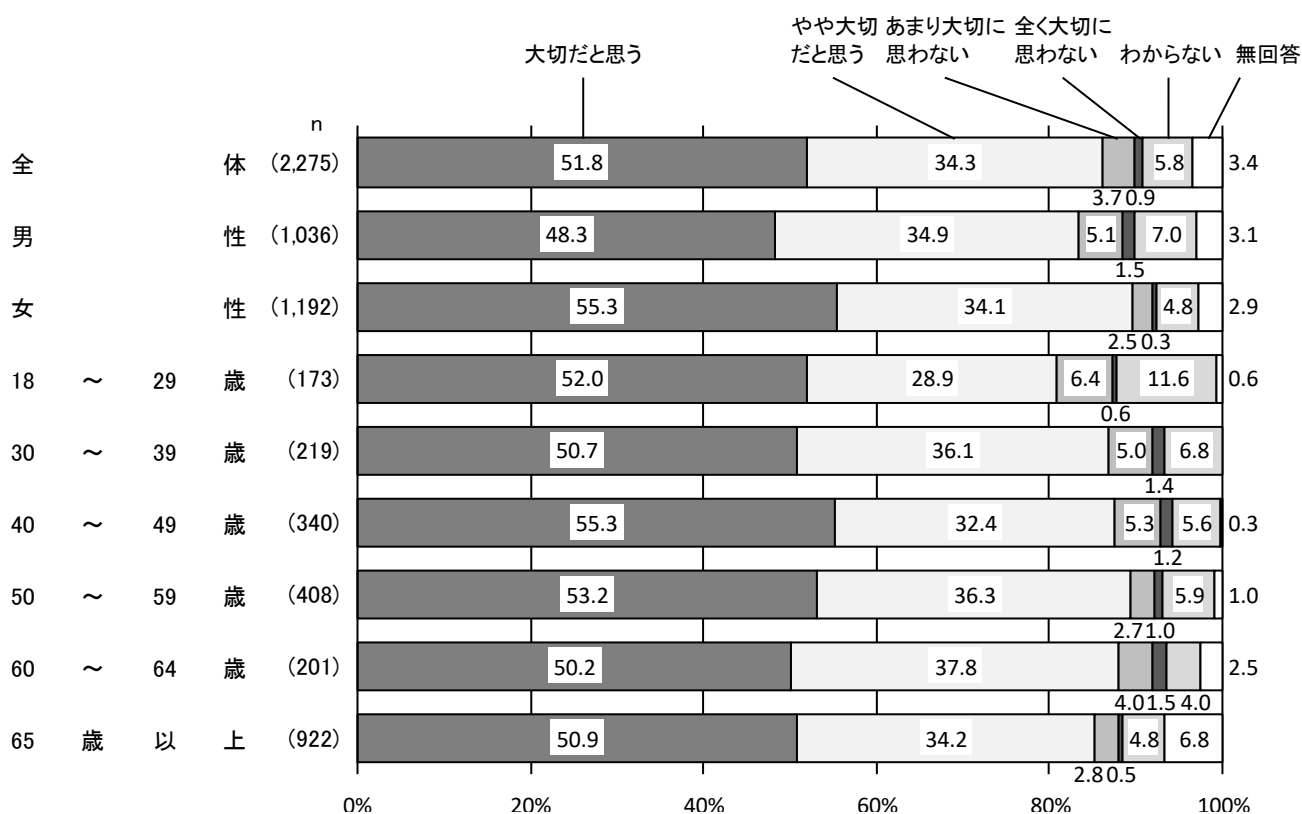
図 35-11 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか

文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど）－ 居住年数別



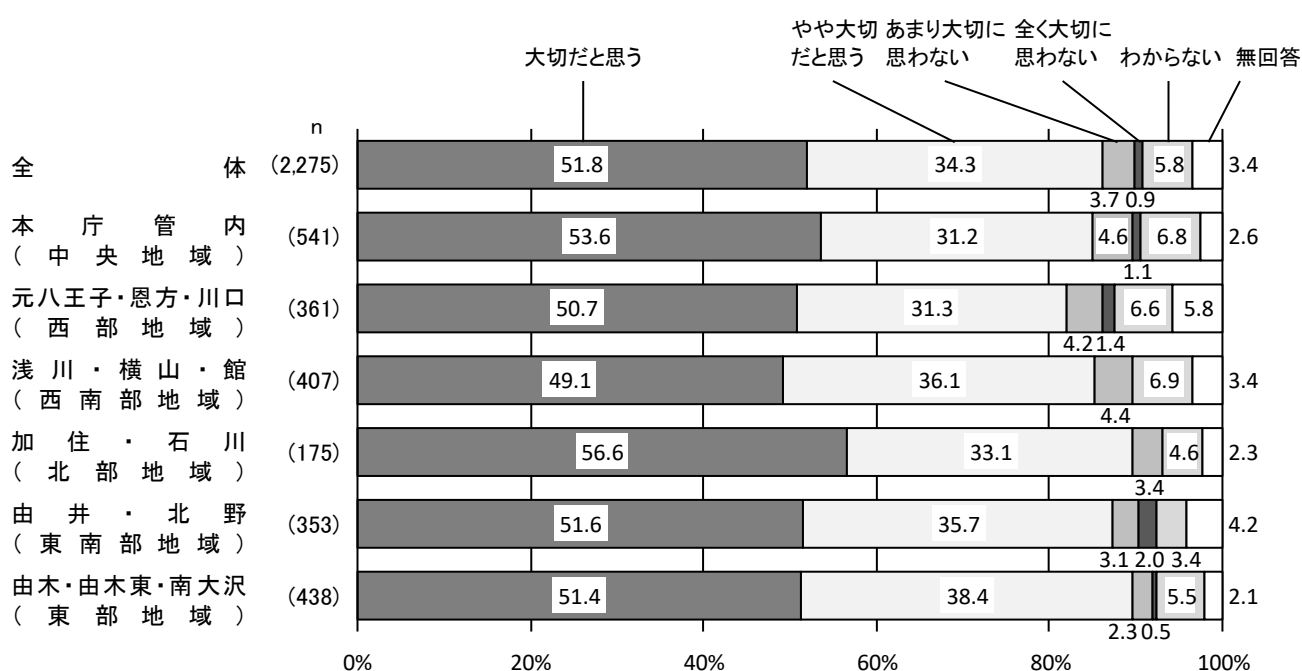
居住年数別にみると、「大切だと思う」は、傾向に大きな違いはみられないが、「大切だと思う」は、1～3年未満の居住（63.6%）が6割強と高く、「やや大切だと思う」は、3～5年未満の居住（42.3%）が4割強と高くなっている。（図 35-11）

図 35-12 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）－ 性別、年齢別



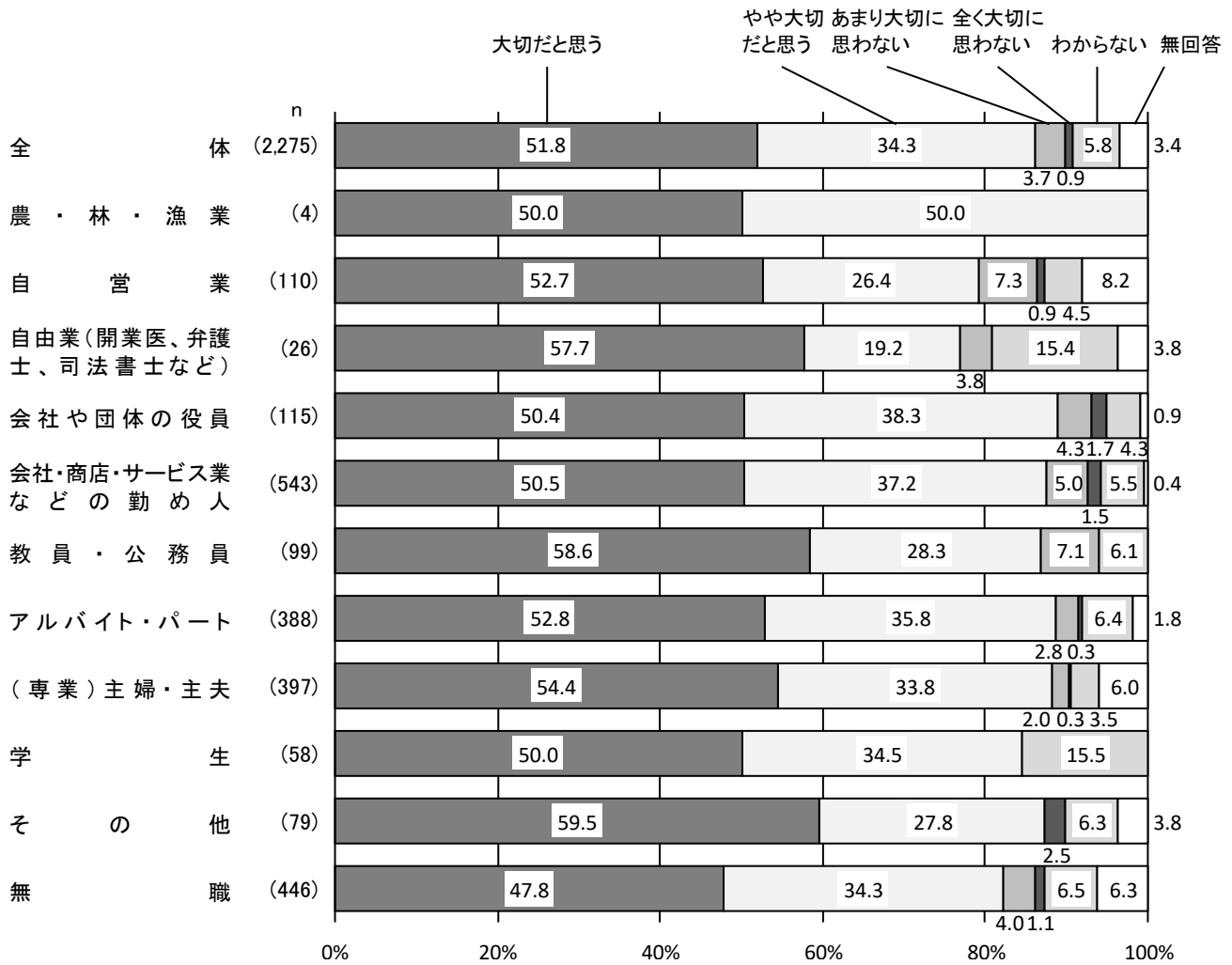
性別にみると、「大切だと思う」は、女性（89.4%）が男性（83.2%）より 6.2 ポイント高くなっている。年齢別にみると、「大切だと思う」は、18～29 歳（80.9%）が約 8 割と低くなっている。（図 35-12）

図 35-13 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）－ 居住地域別



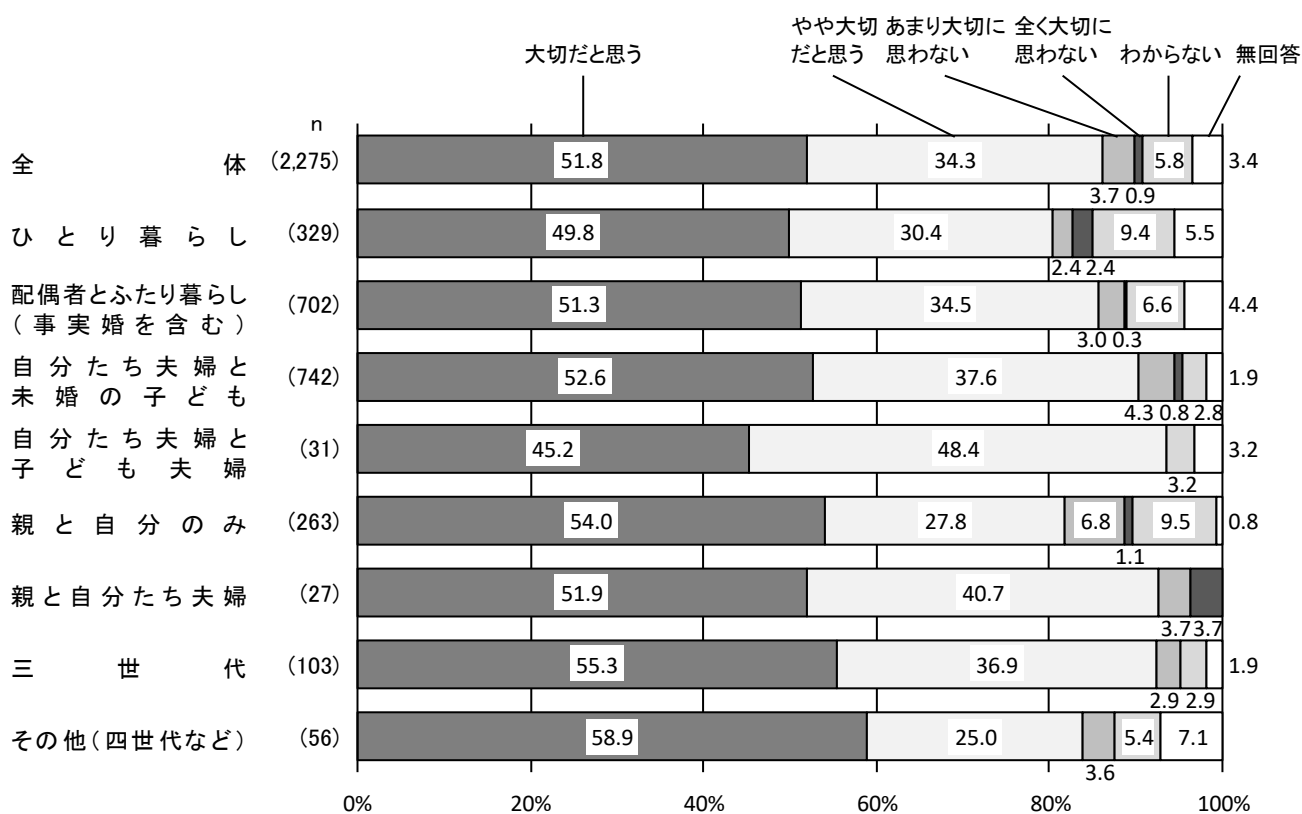
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。（図 35-13）

図 35-14 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）－ 職業別



職業別にみると、「大切だと思う」は、自営業（79.1%）が8割弱と低くなっている。（図 35-14）

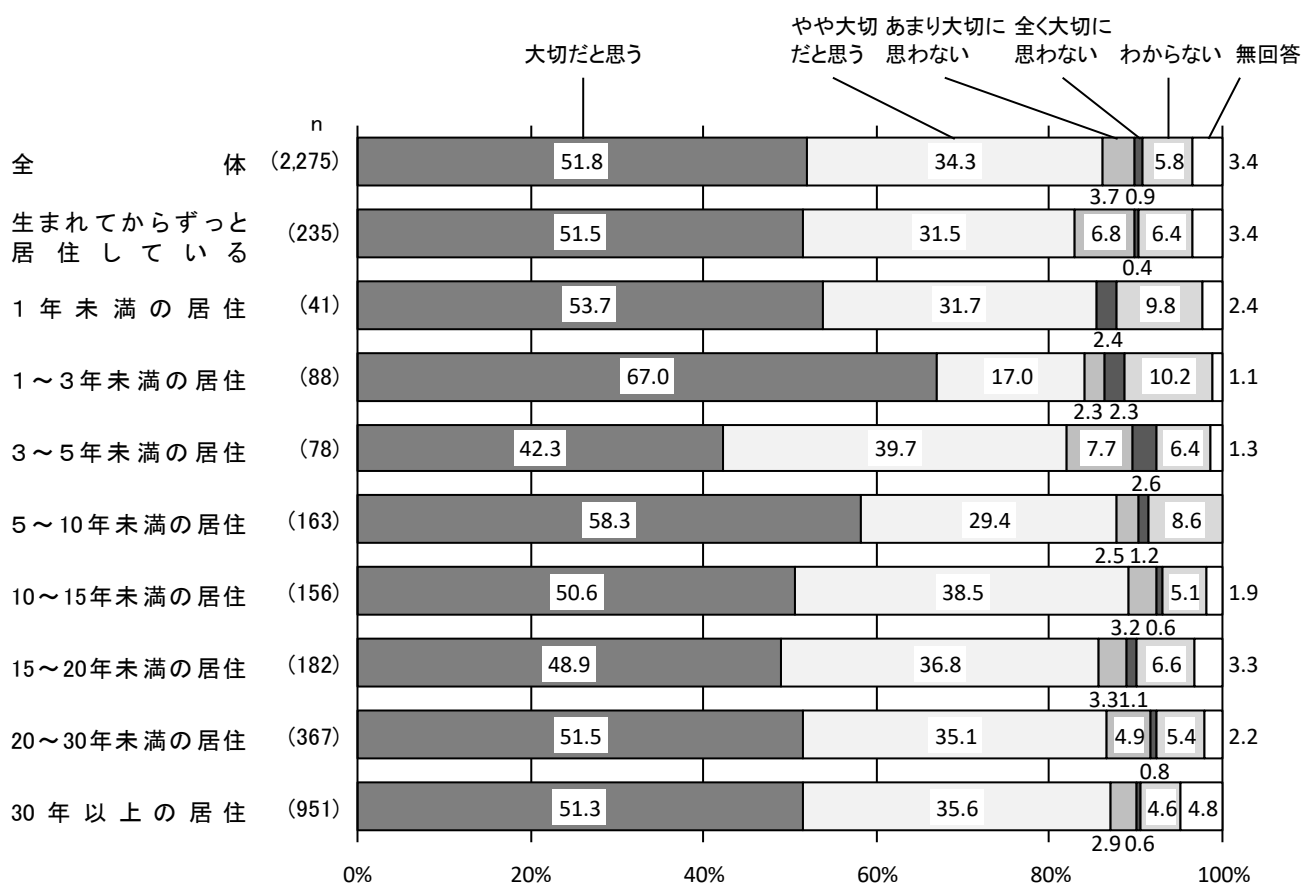
図 35-15 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）－ 世帯構成別



世帯構成別にみると、「大切だと思う」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（93.6%）、三世代（92.2%）がそれぞれ9割強と高くなっている。（図 35-15）

図 35-16 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか

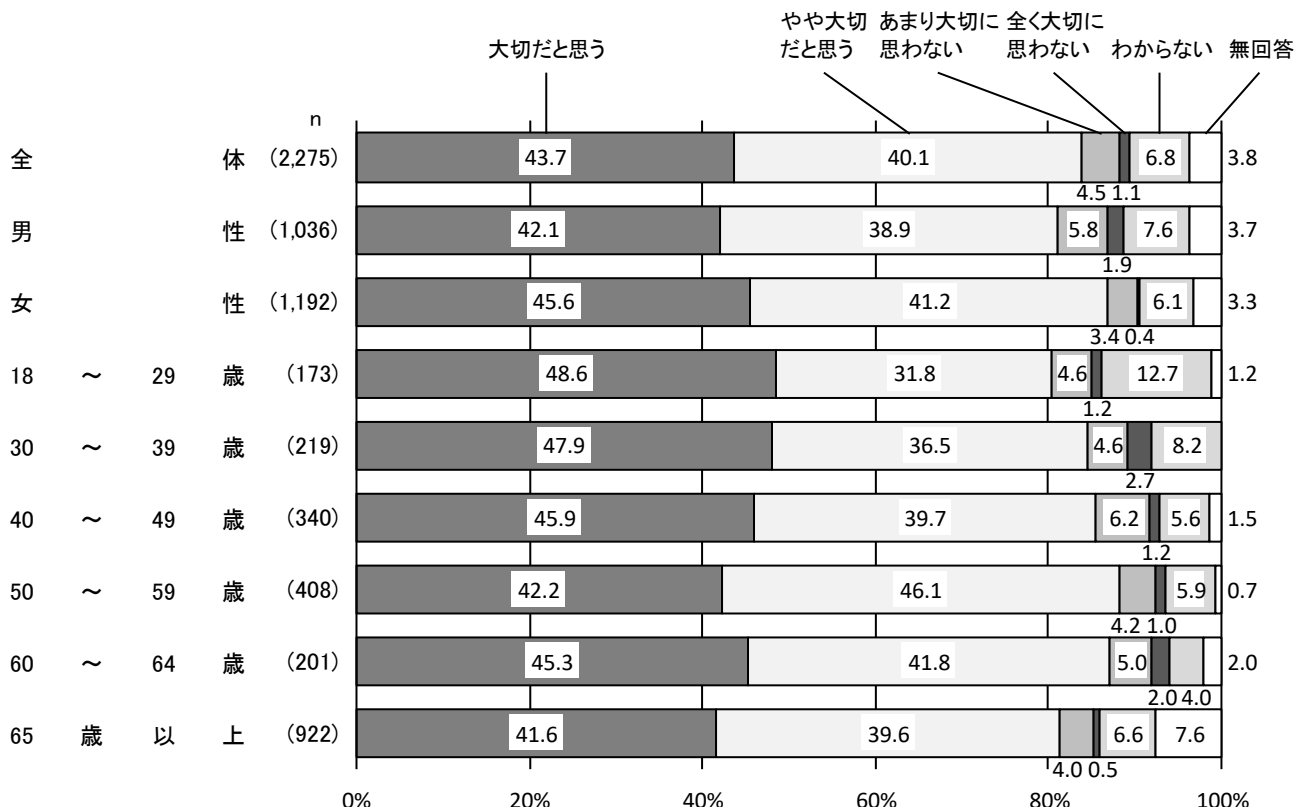
福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）－ 居住年数別



居住年数別にみると、「大切に思わない」は、3～5年未満の居住（10.3%）が約1割と高くなっている。

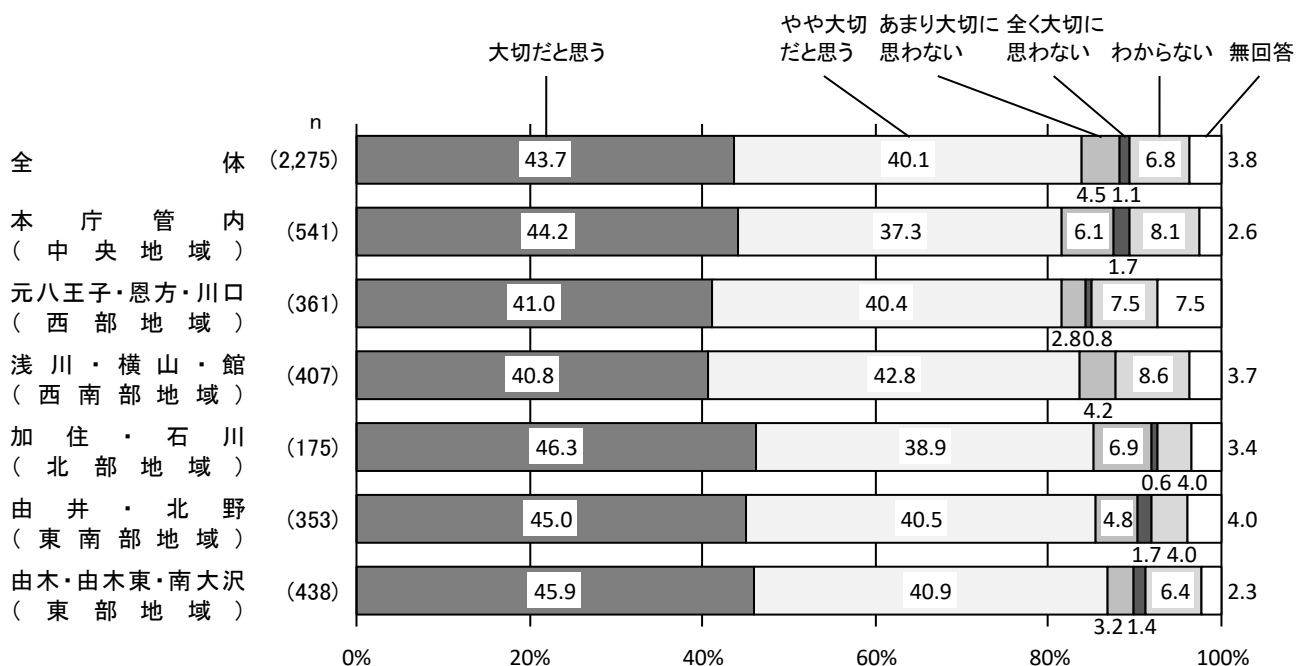
（図 35-16）

図 35-17 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど）－ 性別、年齢別



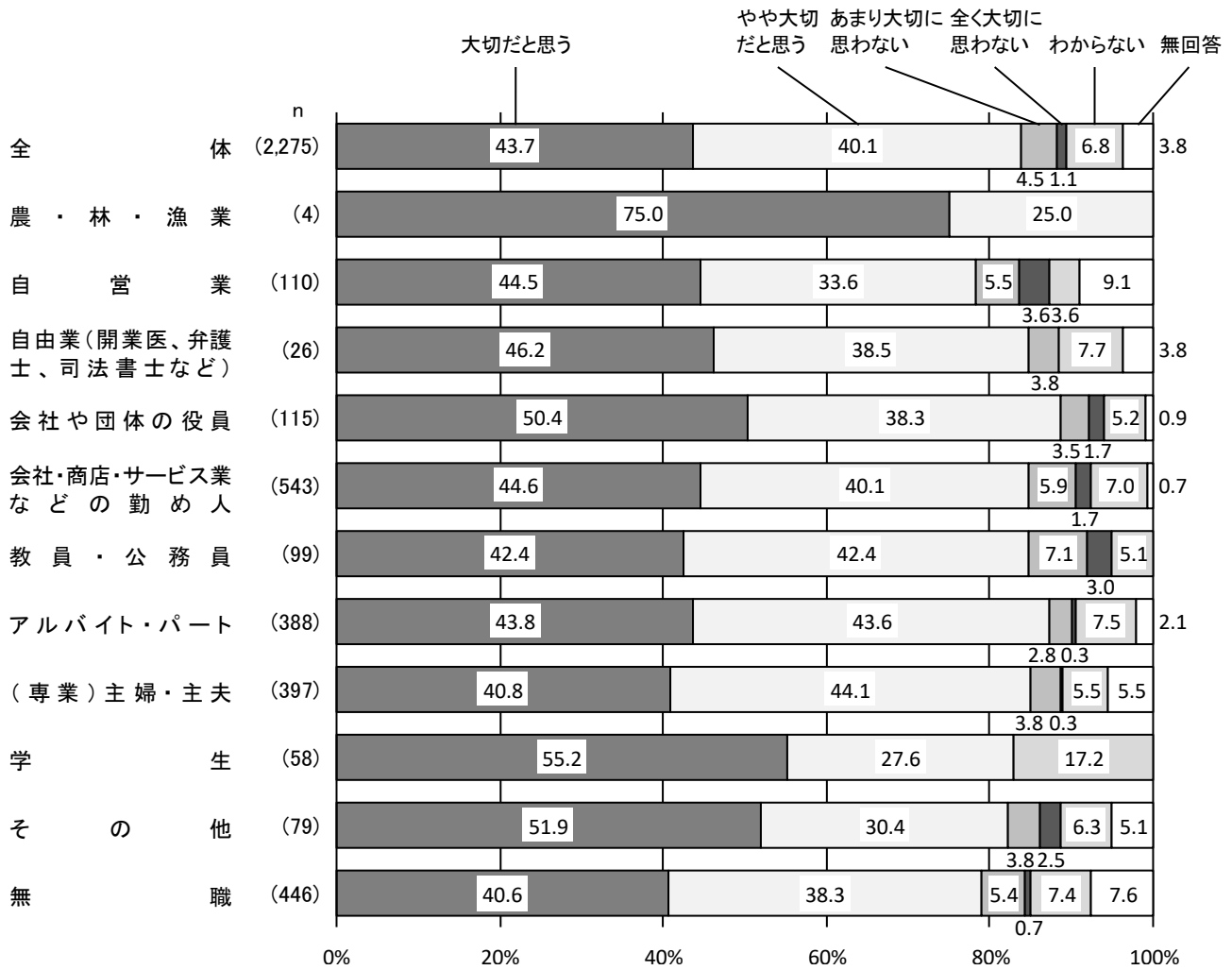
性別にみると、「大切だと思う」は、女性（86.8%）が男性（81.0%）より 5.8 ポイント高くなっている。年齢別にみると、「大切だと思う」は、傾向に大きな違いはみられないが、「やや大切だと思う」は、50～59歳（46.1%）が5割近くと高くなっている。（図 35-17）

図 35-18 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど）－ 居住地域別



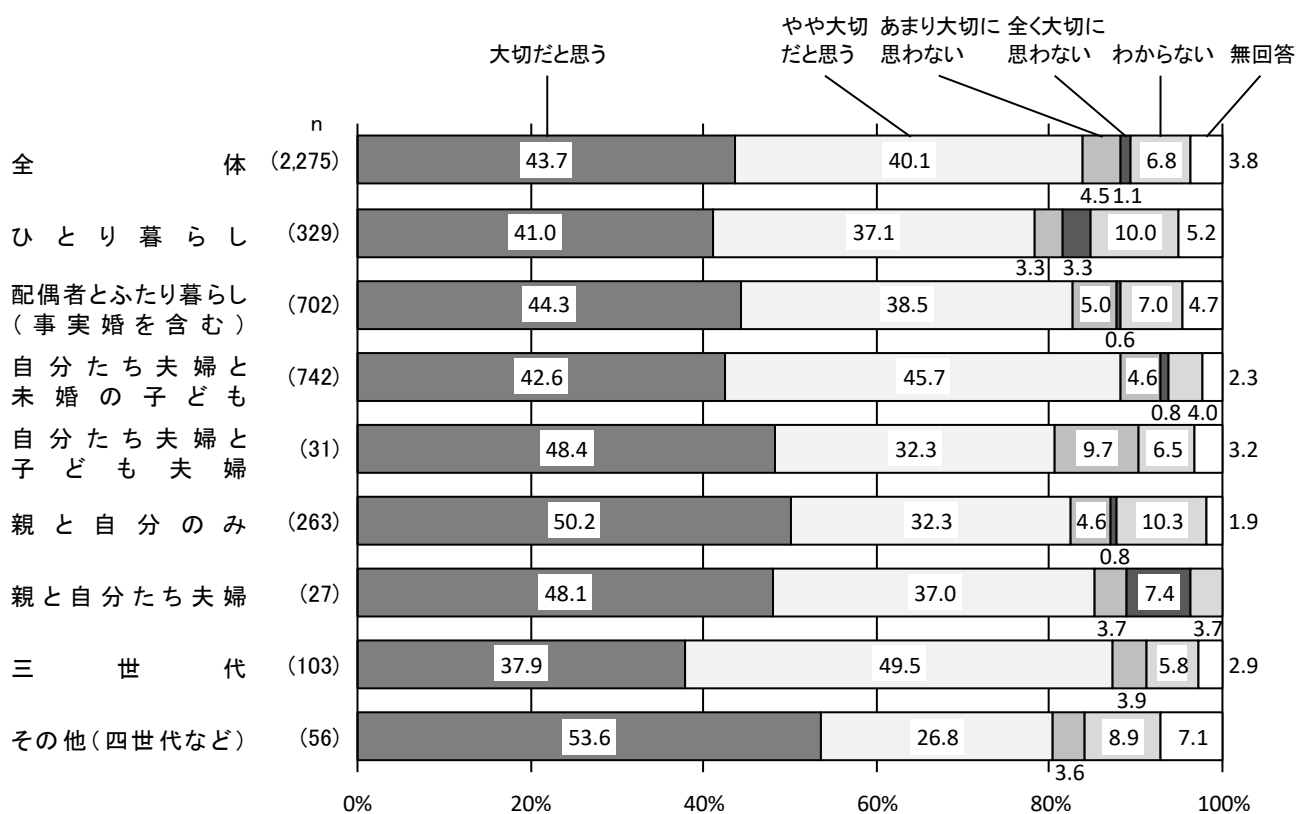
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。（図 35-18）

図 35-19 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど）－ 職業別



職業別にみると、「大切だと思う」は、自営業（78.1%）が8割近くと低くなっている。（図 35-19）

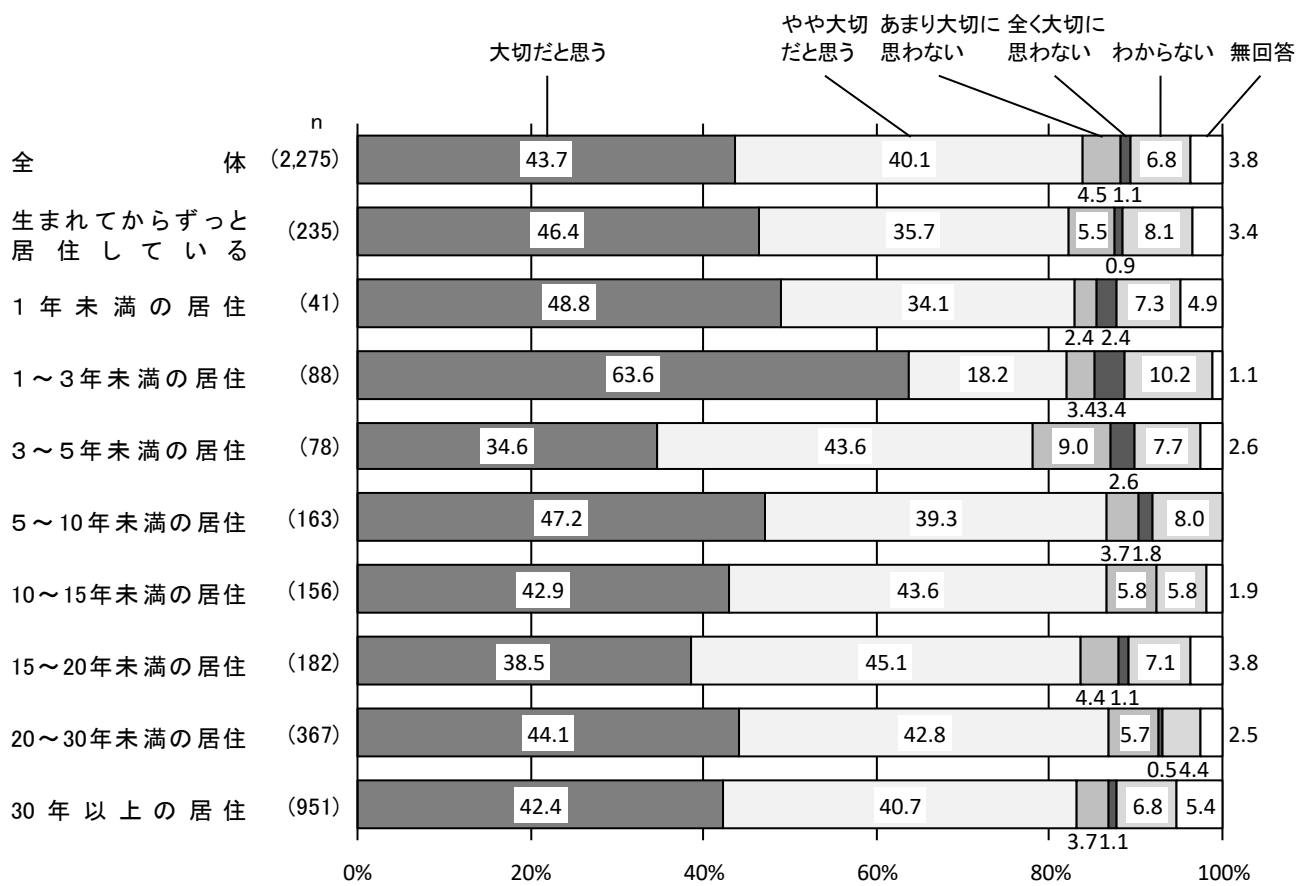
図 35-20 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
 環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど）－世帯構成別



世帯構成別にみると、「大切だと思う」は、ひとり暮らし（78.1%）が8割近くと低くなっている。

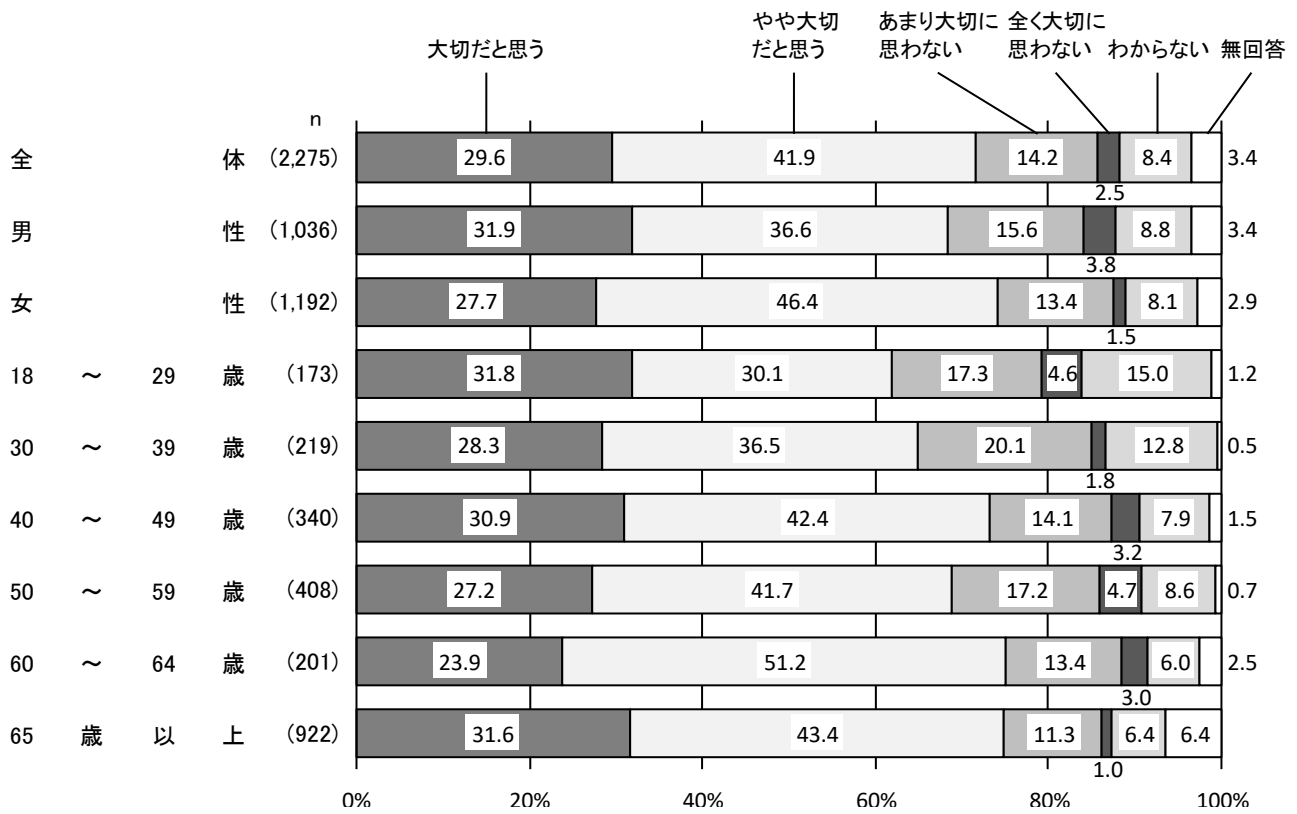
(図 35-20)

図 35-21 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど）－ 居住年数別



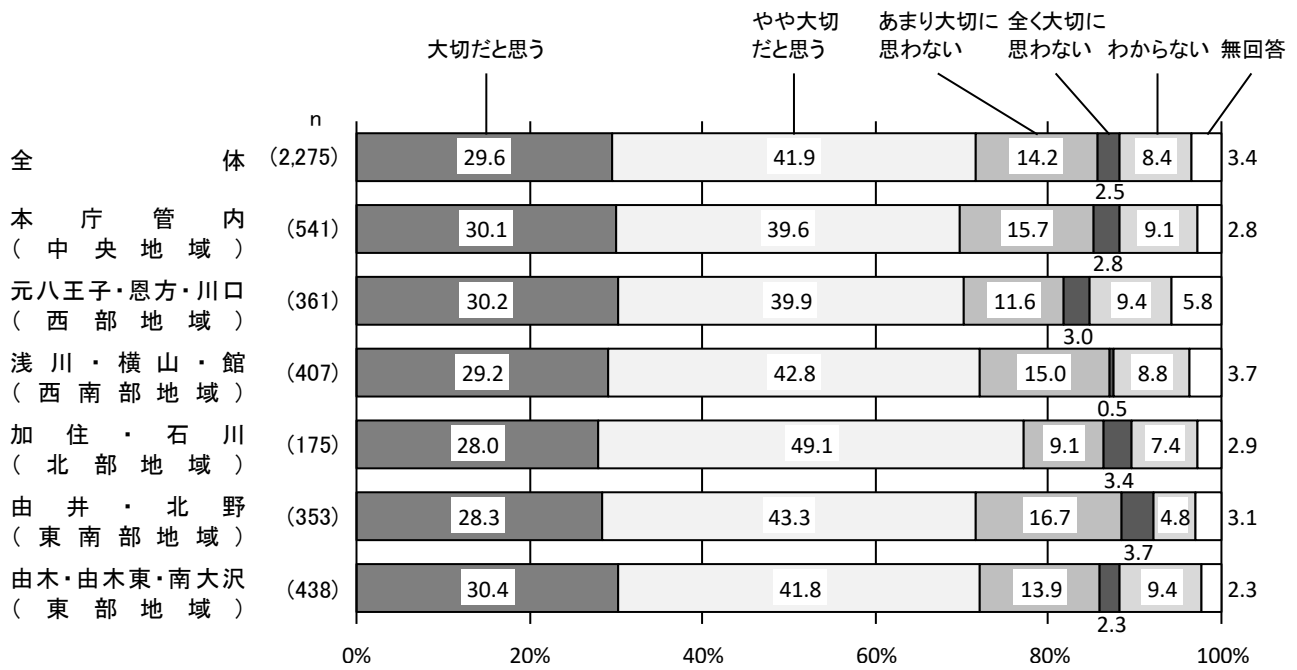
居住年数別にみると、「大切に思わない」は、3～5年未満の居住（11.6%）が1割強と高くなっている。
(図 35-21)

図 35-22 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
 スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど）－ 性別、年齢別



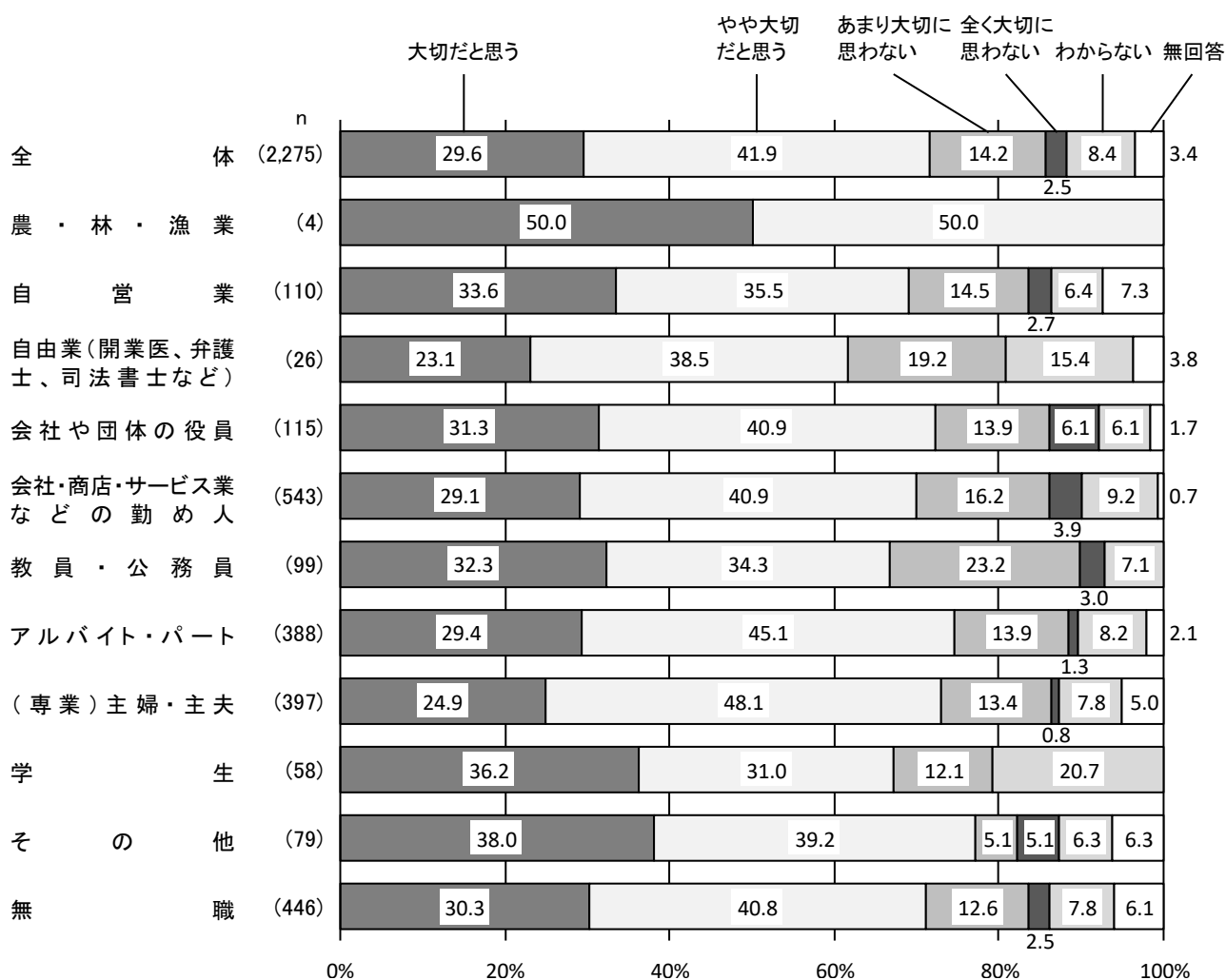
性別にみると、「大切だと思う」は、女性（74.1%）が男性（68.5%）より 5.6 ポイント高くなっている。
 年齢別にみると、「大切に思わない」は、18～29 歳（21.9%）、30～39 歳（21.9%）、50～59 歳（21.9%）
 がそれぞれ 2 割強と高くなっている。（図 35-22）

図 35-23 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
 スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど）－ 居住地域別



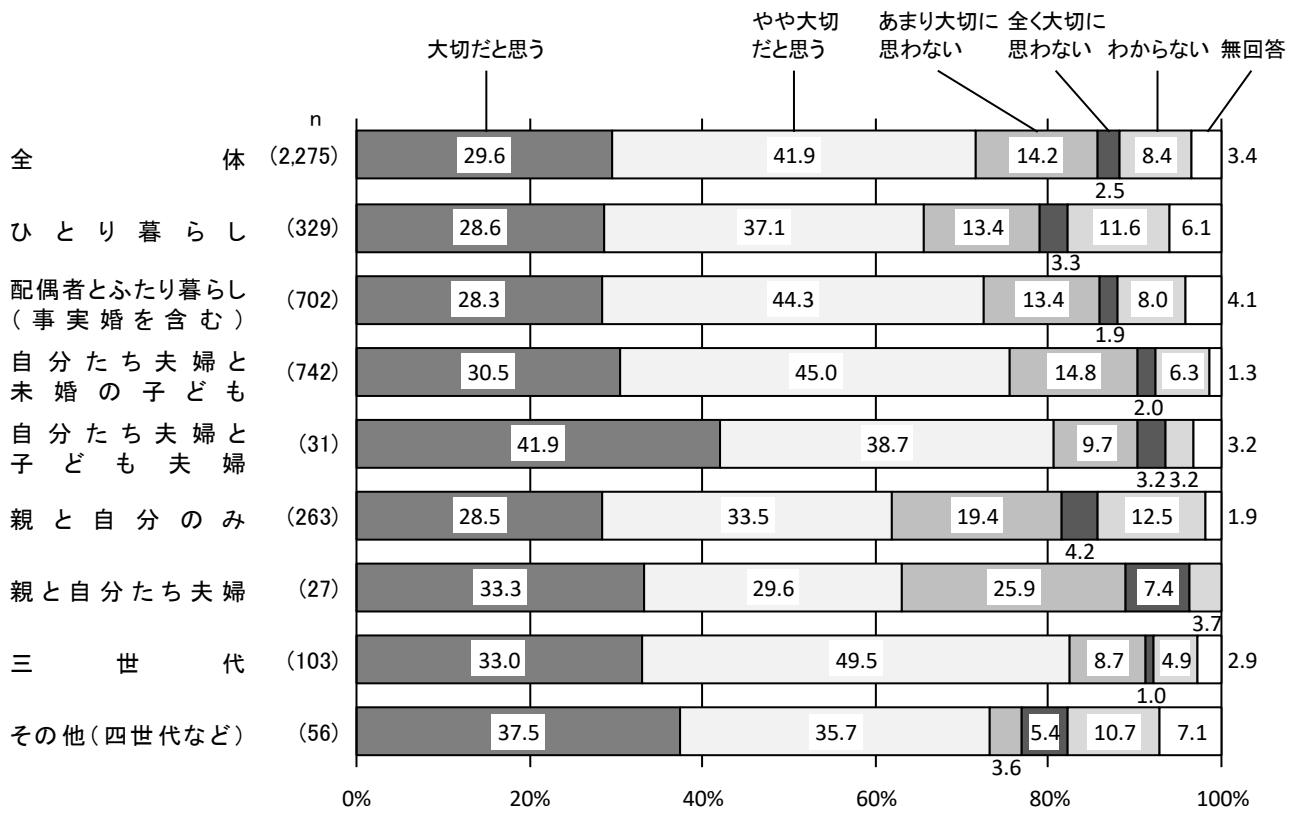
居住地域別にみると、「大切だと思う」は、加住・石川（北部地域）（77.1%）が8割近くと高くなっている。（図 35-23）

図 35-24 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
 スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど）－ 職業別



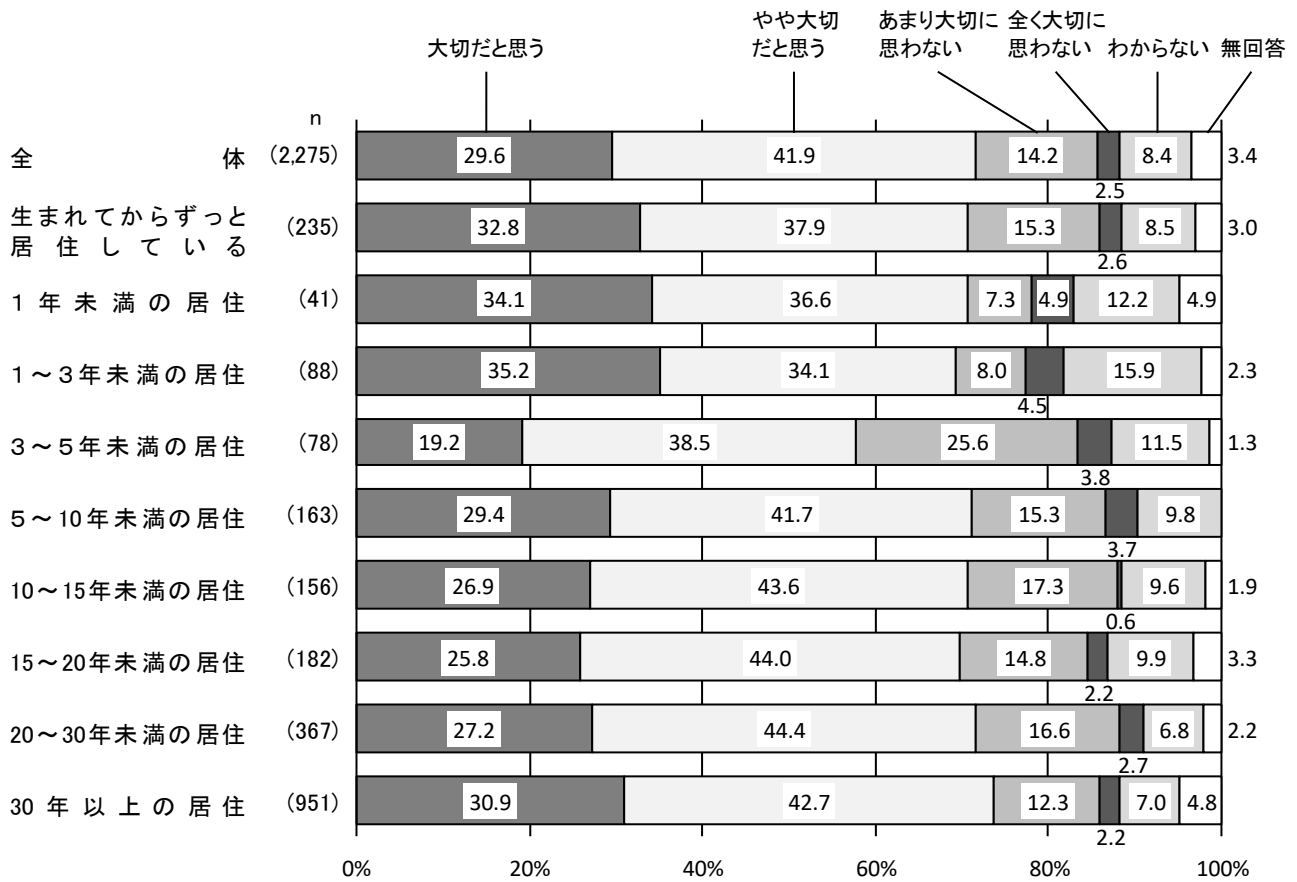
職業別にみると、「大切だと思う」は、その他 (77.2%) が8割近くと高くなっている。一方、「大切に思わない」は、教員・公務員 (26.2%) が3割近くと高くなっている。(図 35-24)

図 35-25 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
 スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど）－ 世帯構成別



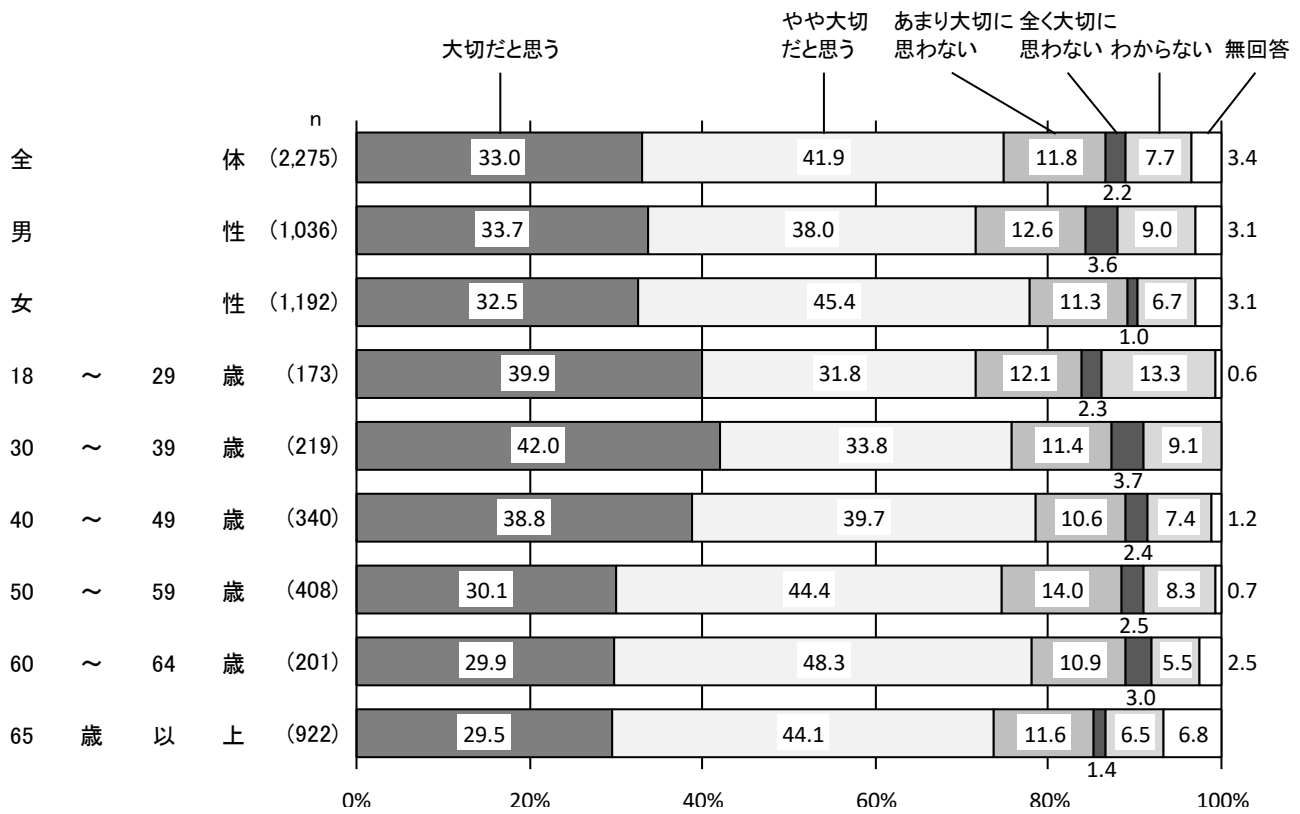
世帯構成別にみると、「大切だと思ふ」は、三世代（82.5%）が8割強、自分たち夫婦と子ども夫婦（80.6%）が約8割と高くなっている。一方、「大切に思わない」は、親と自分のみ（23.6%）が2割強と高くなっている。（図 35-25）

図 35-26 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
 スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど）－ 居住年数別



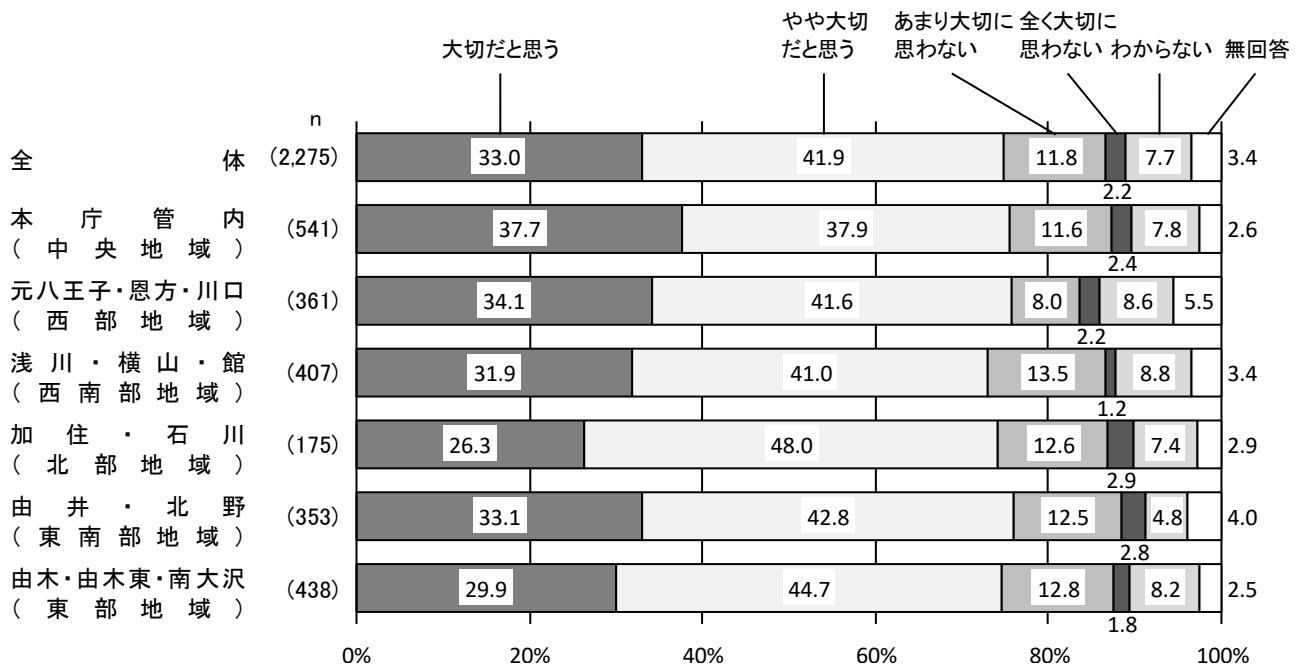
居住年数別にみると、「大切に思わない」は、3～5年未満の居住（29.4%）が3割弱と高くなっている。
 (図 35-26)

図 35-27 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）－ 性別、年齢別



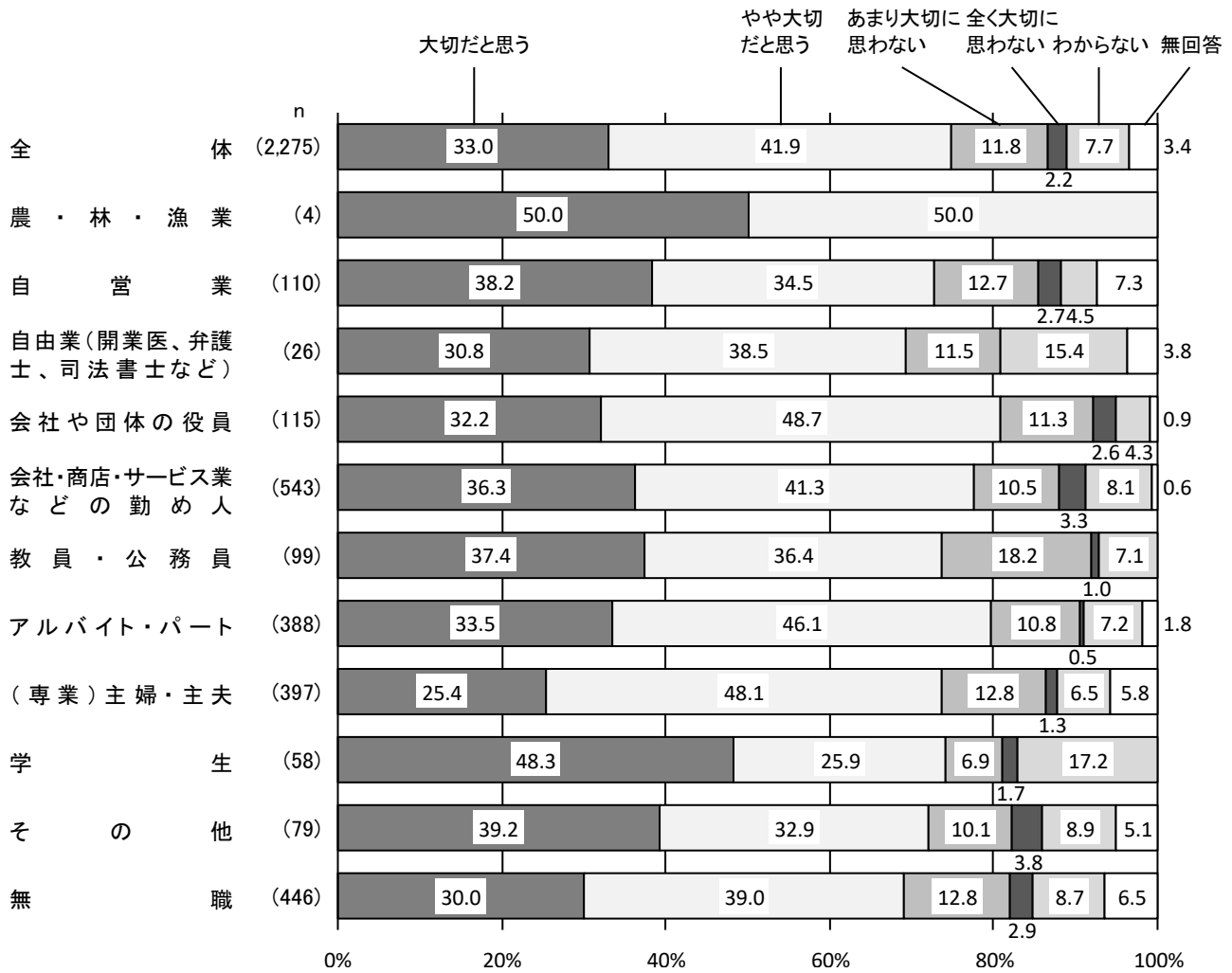
性別にみると、「大切だと思う」は、女性（77.9%）が男性（71.7%）より 6.2 ポイント高くなっている。年齢別にみると、「大切だと思う」は、傾向に大きな違いはみられないが、「大切だと思う」は 30～39 歳（42.0%）が 4 割強、18～29 歳（39.9%）が 4 割弱、40～49 歳（38.8%）が 4 割近くと高く、「やや大切だと思う」は、60～64 歳（48.3%）が 5 割近くと高くなっている。（図 35-27）

図 35-28 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
 交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）－ 居住地域別



居住地域別にみると、「大切だと思う」は、傾向に大きな違いはみられないが、「やや大切だと思う」は、加住・石川（北部地域）（48.0%）が5割近くと高くなっている。（図 35-28）

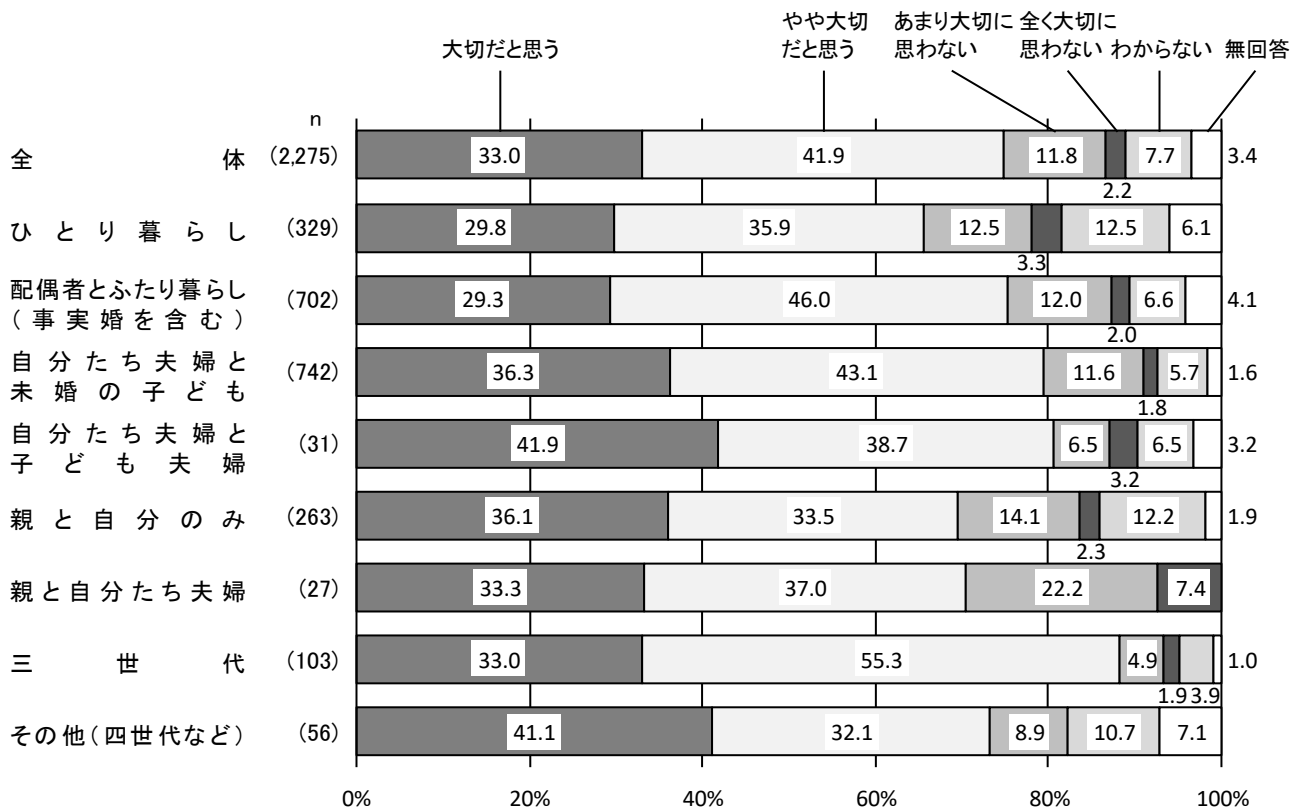
図 35-29 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか
交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）－ 職業別



職業別にみると、「大切だと思う」は、会社や団体の役員（80.9%）が約8割と高くなっている。一方、「大切に思わない」は、教員・公務員（19.2%）が2割弱と高くなっている。（図 35-29）

図 35-30 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか

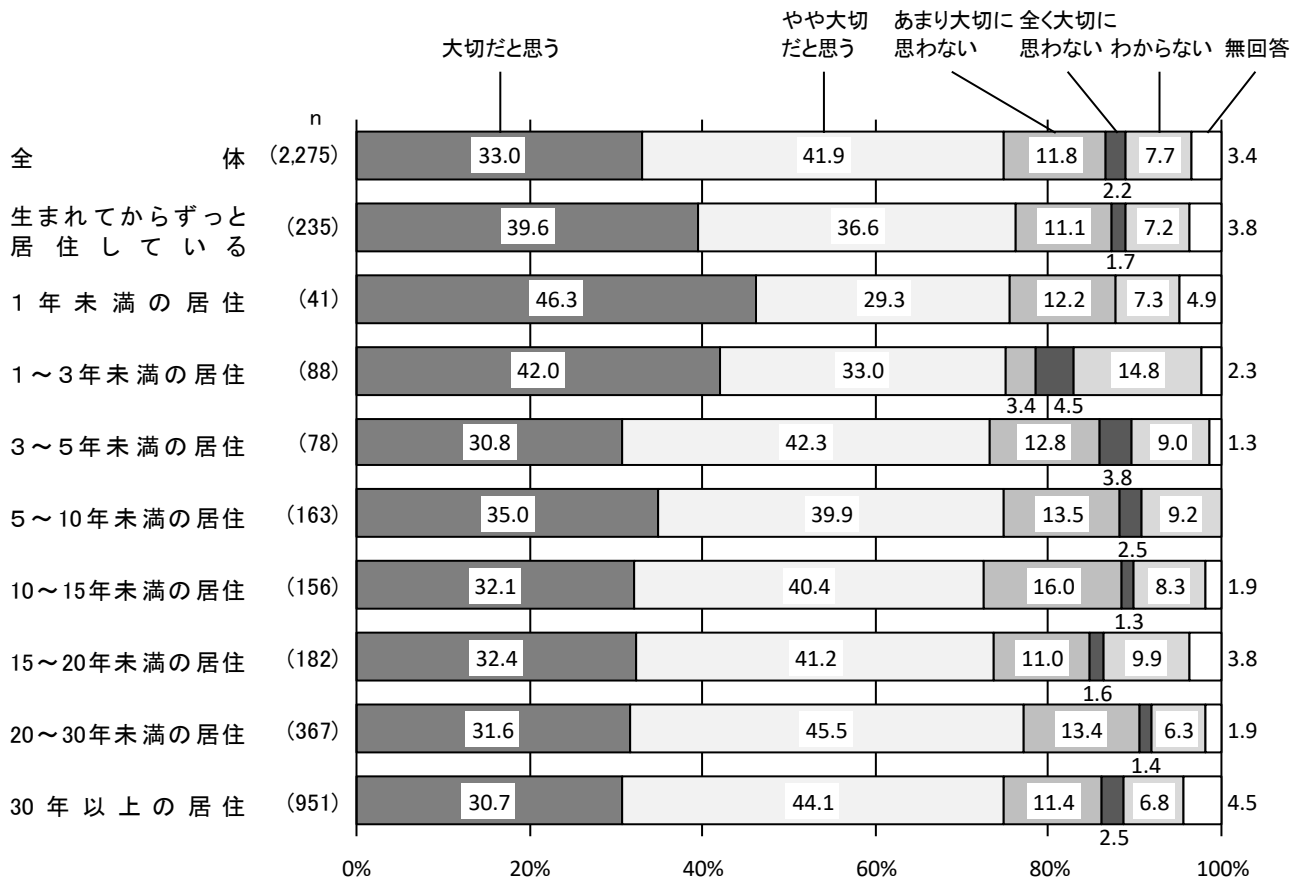
交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）－ 世帯構成別



世帯構成別にみると、「大切だと思う」は、三世代（88.3%）が9割近く、自分たち夫婦と子ども夫婦（80.6%）が約8割と高くなっている。（図 35-30）

図 35-31 地域が主体的に取り組んでいくことが大切であると思うか

交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）－ 居住年数別



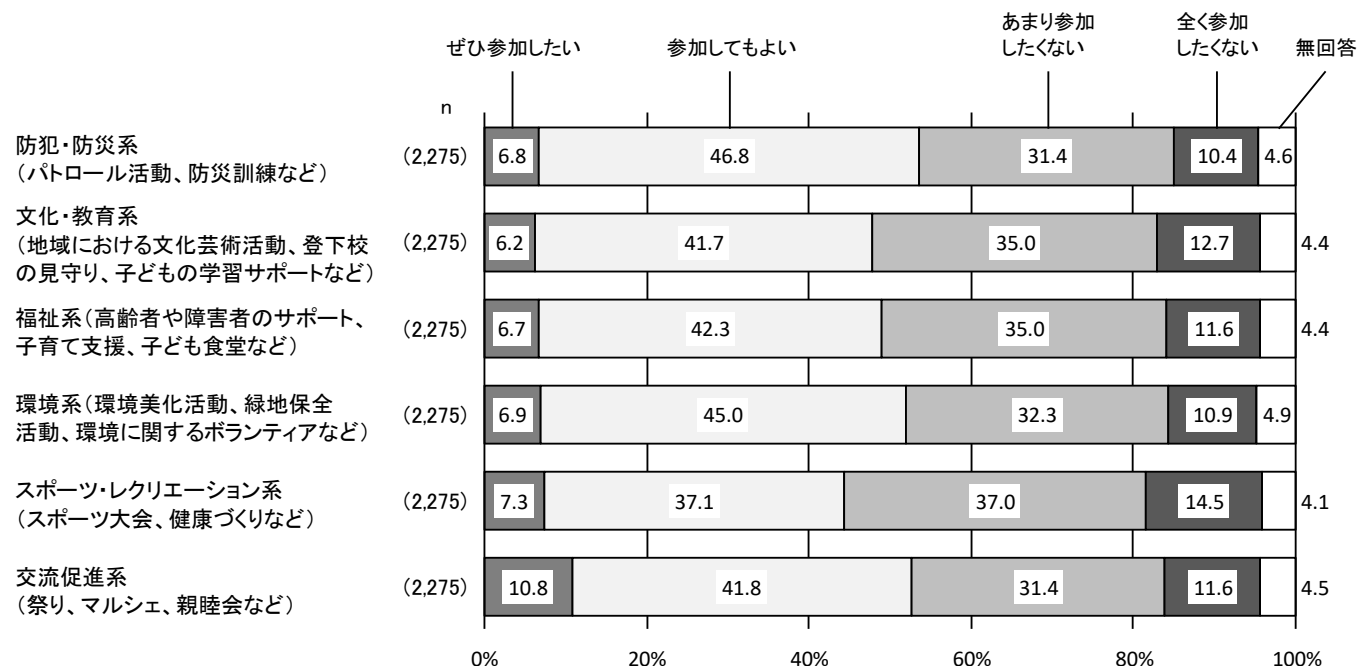
居住年数別にみると、「大切に思わない」は、1～3年未満の居住（7.9%）が1割近くと低くなっている。

（図 35-31）

(36) 地域コミュニティ活動への参加意向

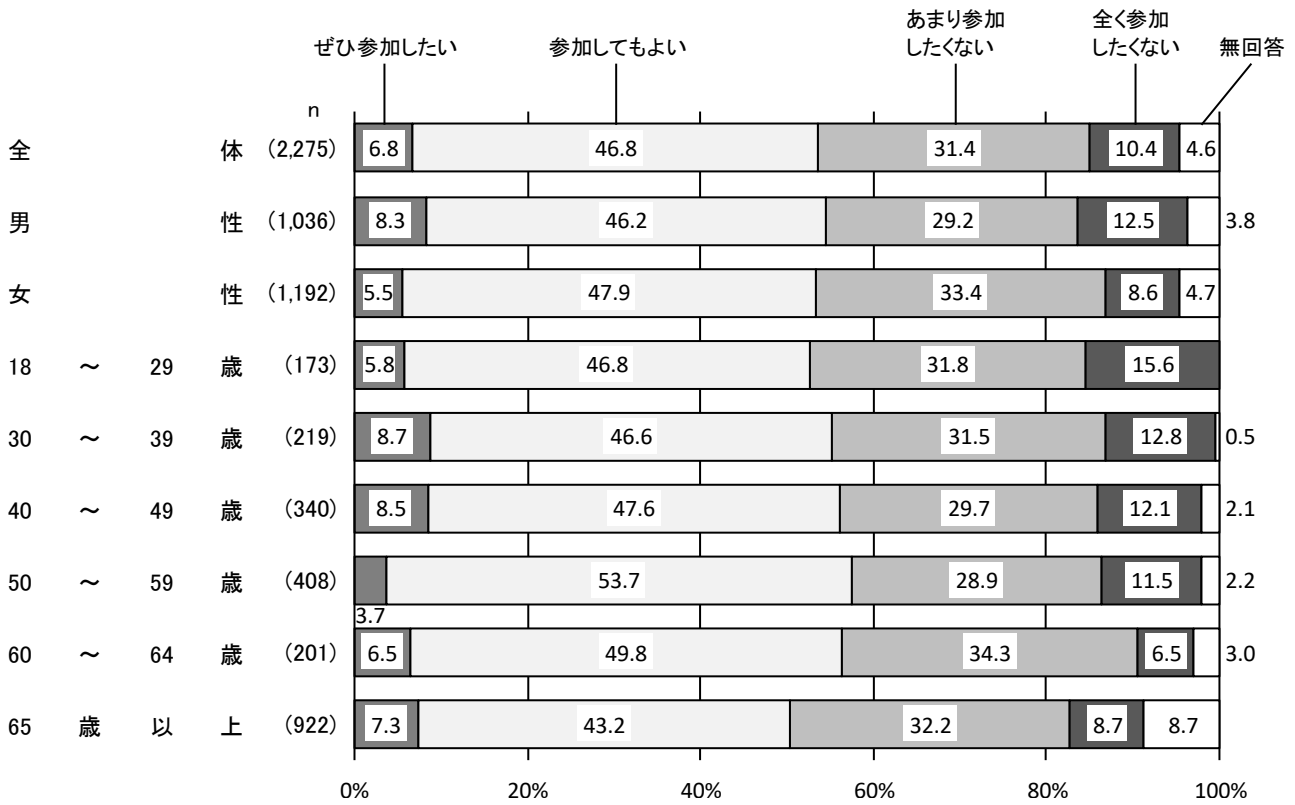
問 32 以下の地域コミュニティ活動について、あなたは今後、参加したいと思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

図 36-1 地域コミュニティ活動への参加意向 - 全体



地域コミュニティ活動への参加意向を聞いたところ、「ぜひ参加したい」と「参加してもよい」を合わせた《参加したい》は、「防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）」（53.6%）が5割強と最も高くなっている。次いで、「交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）」（52.6%）が5割強と高くなっている。一方、「あまり参加したくない」と「全く参加したくない」を合わせた《参加したくない》は、「スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど）」（51.5%）が5割強と最も高くなっている。次いで、「文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど）」（47.7%）が5割近くと高くなっている。（図 36-1）

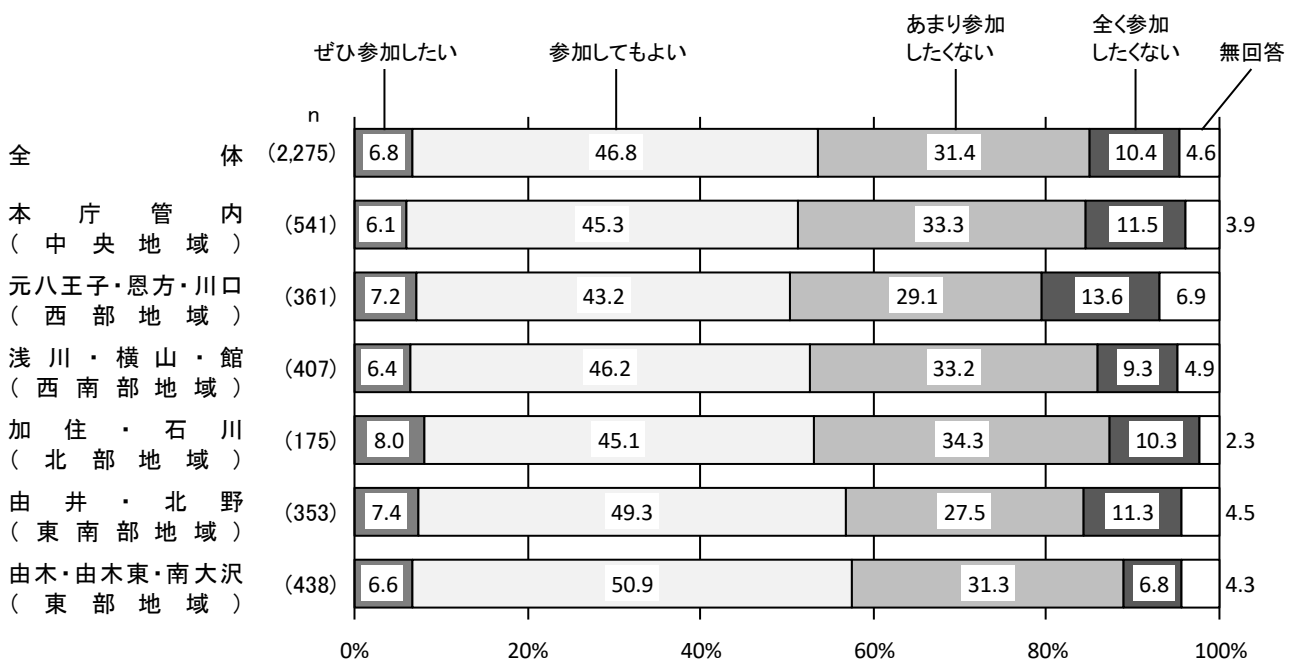
図 36-2 地域コミュニティ活動への参加意向
防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）－ 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。

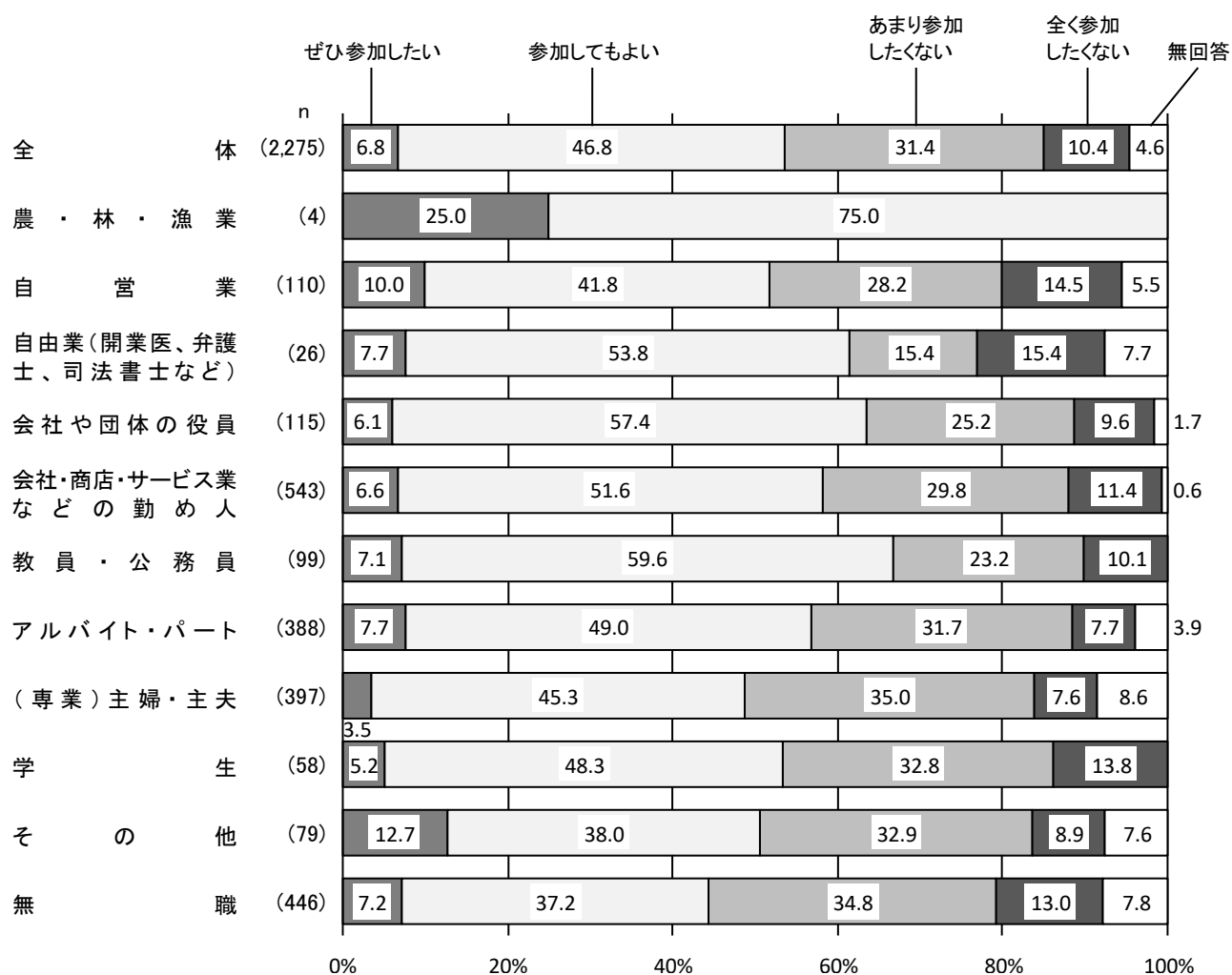
年齢別にみると、「参加したくない」は、18～29歳（47.4%）が5割近くと高くなっている。（図 36-2）

図 36-3 地域コミュニティ活動への参加意向
防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）－ 居住地域別



居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。（図 36-3）

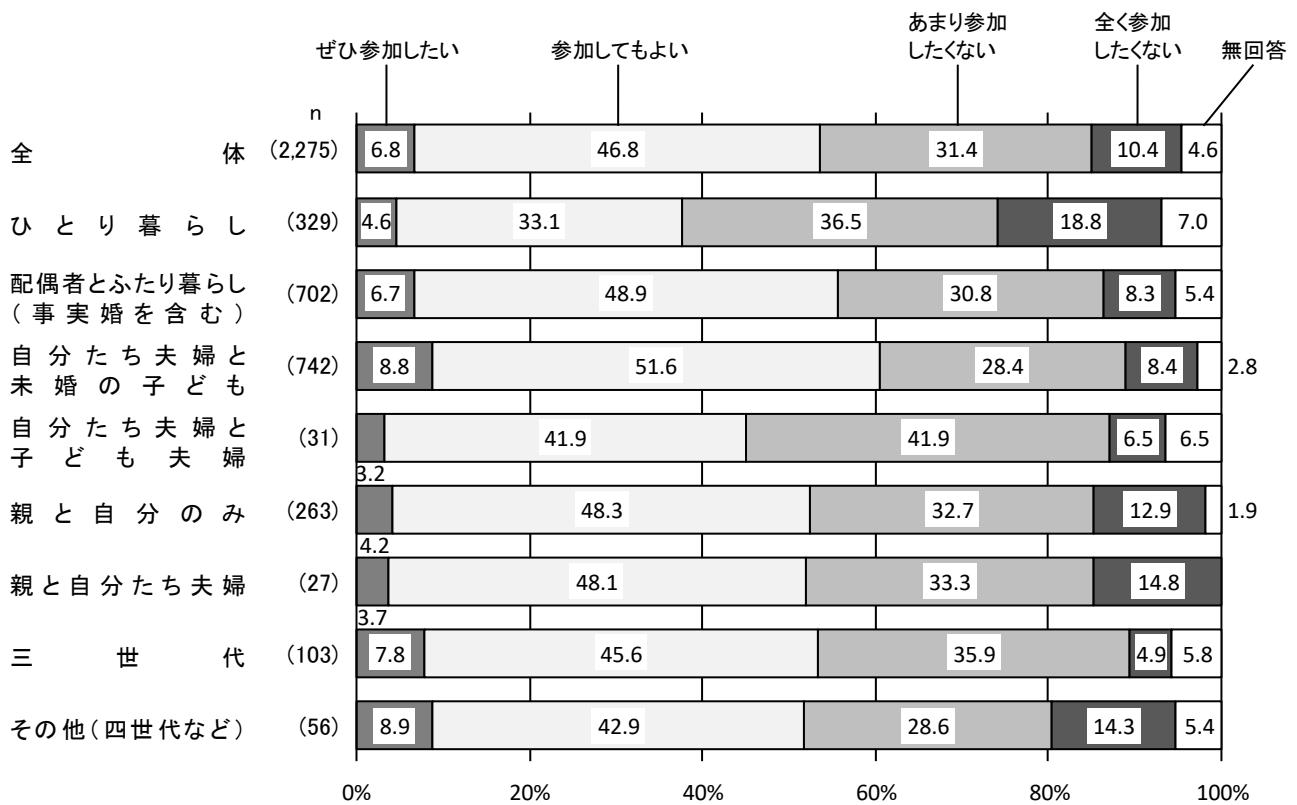
図 36-4 地域コミュニティ活動への参加意向
防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）－ 職業別



職業別にみると、「参加したい」は、教員・公務員（66.7%）が7割近く、会社や団体の役員（63.5%）が6割強と高くなっている。一方、「参加したくない」は、無職（47.8%）が5割近くと高くなっている。

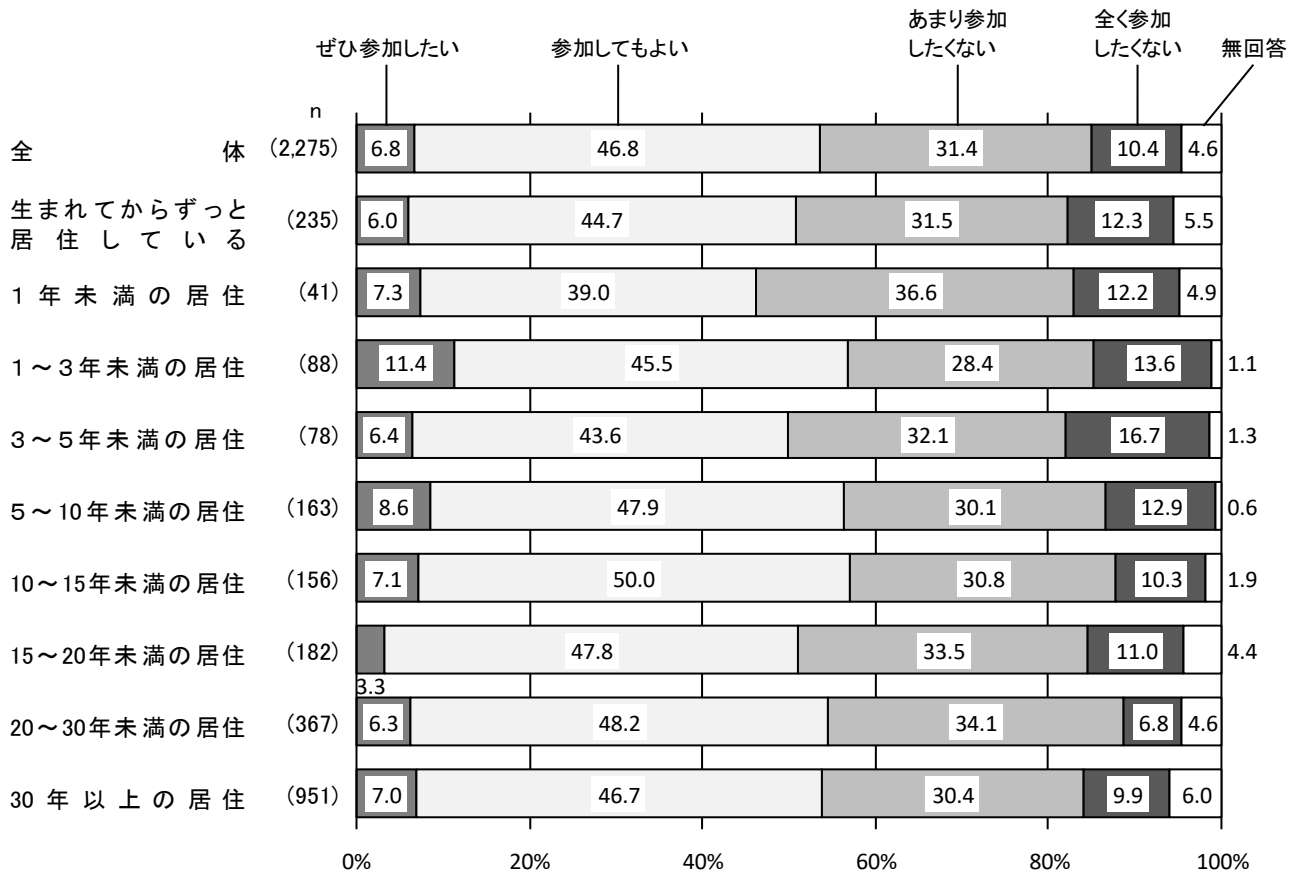
(図 36-4)

図 36-5 地域コミュニティ活動への参加意向
防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など） — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「参加したい」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（60.4%）が約6割と高くなっている。一方、「参加したくない」は、ひとり暮らし（55.3%）が5割台半ば、自分たち夫婦と子ども夫婦（48.4%）が5割近くと高くなっている。（図 36-5）

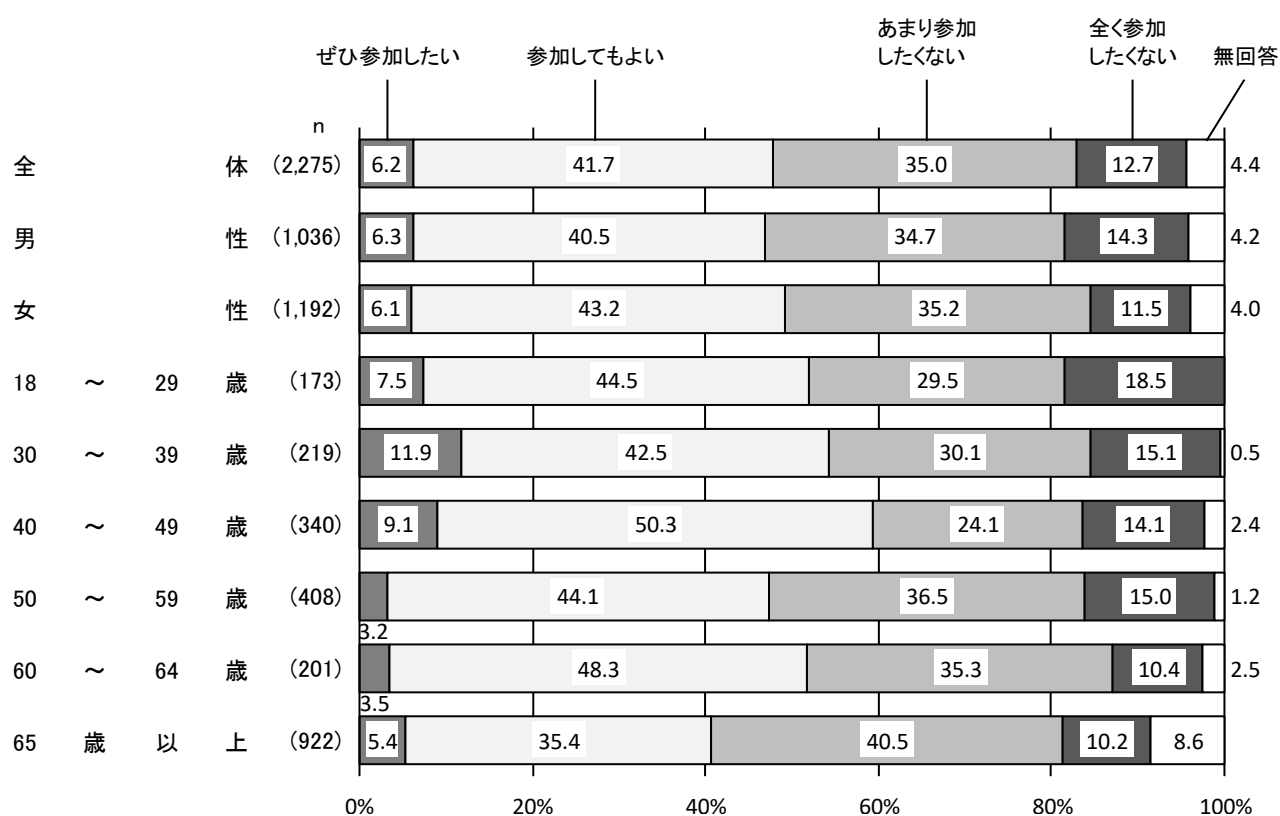
図 36-6 地域コミュニティ活動への参加意向
防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）－ 居住年数別



居住年数別にみると、「参加したくない」は、1年未満の居住（48.8%）、3～5年未満の居住（48.8%）がそれぞれ5割近くと高くなっている。（図 36-6）

図 36-7 地域コミュニティ活動への参加意向

文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど）－ 性別、年齢別

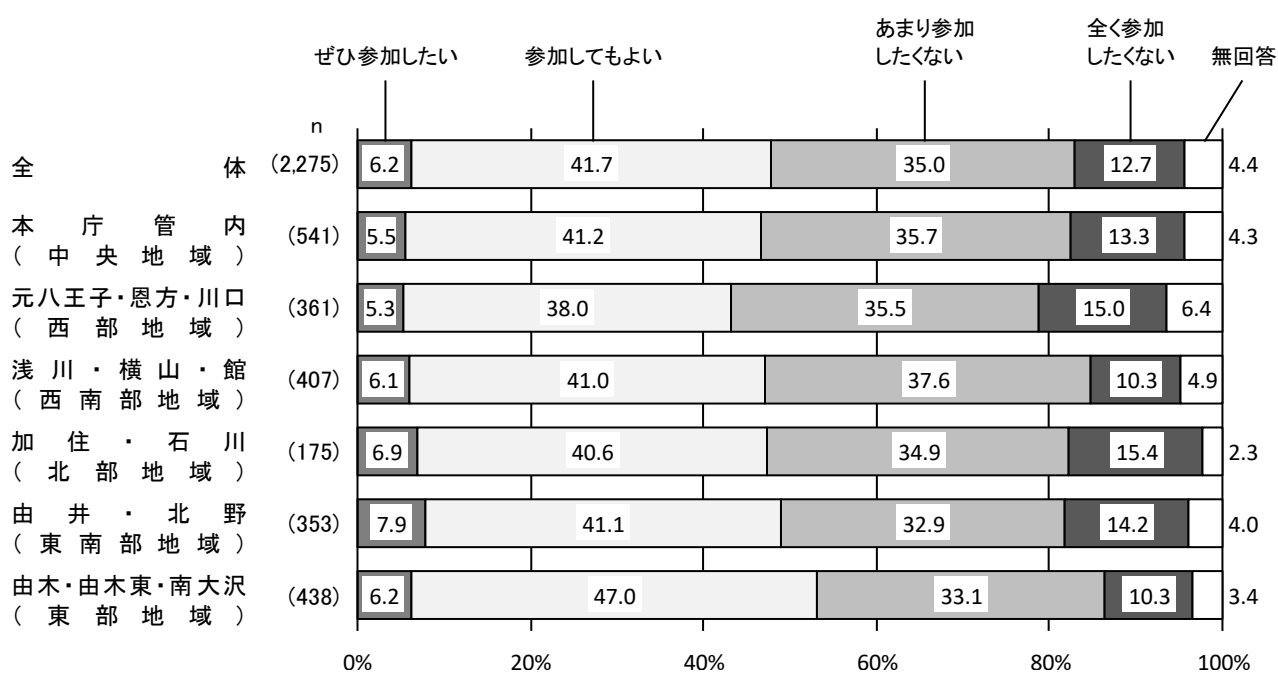


性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。

年齢別にみると、《参加したい》は、40~49 歳 (59.4%) が 6 割弱、30~39 歳 (54.4%) が 5 割台半ばと高くなっている。(図 36-7)

図 36-8 地域コミュニティ活動への参加意向

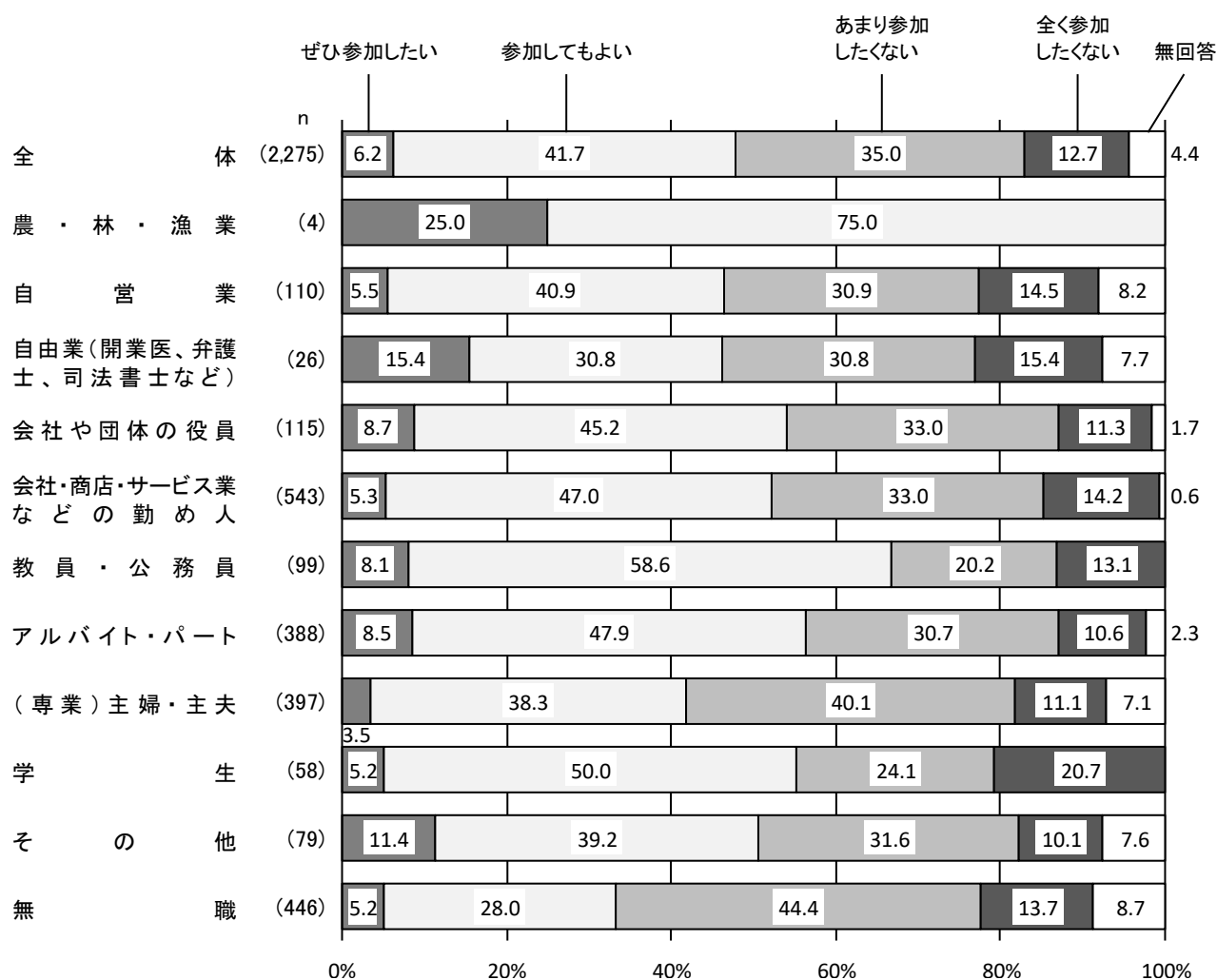
文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど）－ 居住地域別



居住地域別にみると、「参加したい」は、由木・由木東・南大沢（東部地域）（53.2%）が5割強と高くなっている。（図 36-8）

図 36-9 地域コミュニティ活動への参加意向

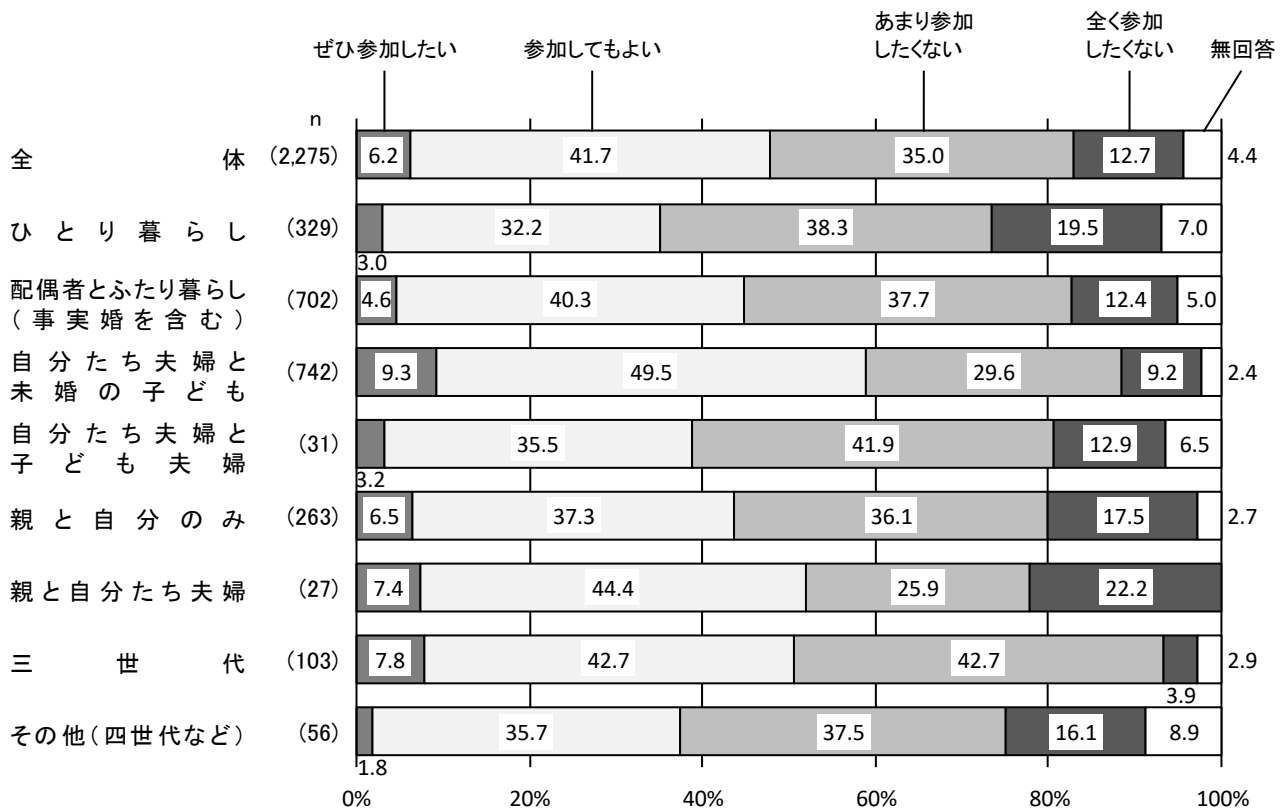
文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど）－ 職業別



職業別にみると、「参加したい」は、教員・公務員（66.7%）が7割近く、アルバイト・パート（56.4%）が6割近く、学生（55.2%）が5割台半ば、会社や団体の役員（53.9%）が5割強と高くなっている。一方、「参加したくない」は、無職（58.1%）が6割近くと高くなっている。（図 36-9）

図 36-10 地域コミュニティ活動への参加意向

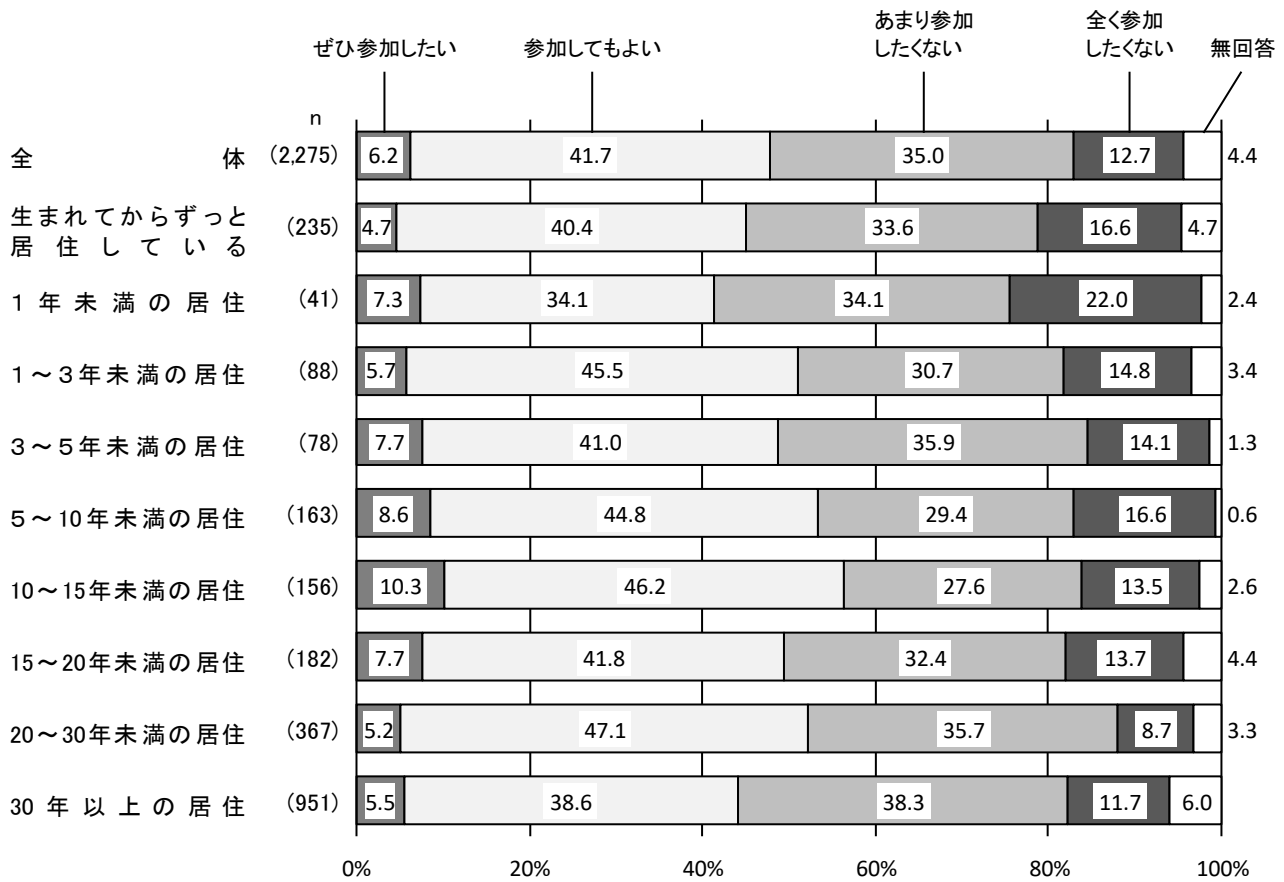
文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど） — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「参加したい」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（58.8%）が6割近くと高くなっている。一方、「参加したくない」は、ひとり暮らし（57.8%）が6割近く、自分たち夫婦と子ども夫婦（54.8%）が5割台半ば、親と自分のみ（53.6%）、その他（四世代など）（53.6%）がそれぞれ5割強と高くなっている。（図 36-10）

図 36-11 地域コミュニティ活動への参加意向

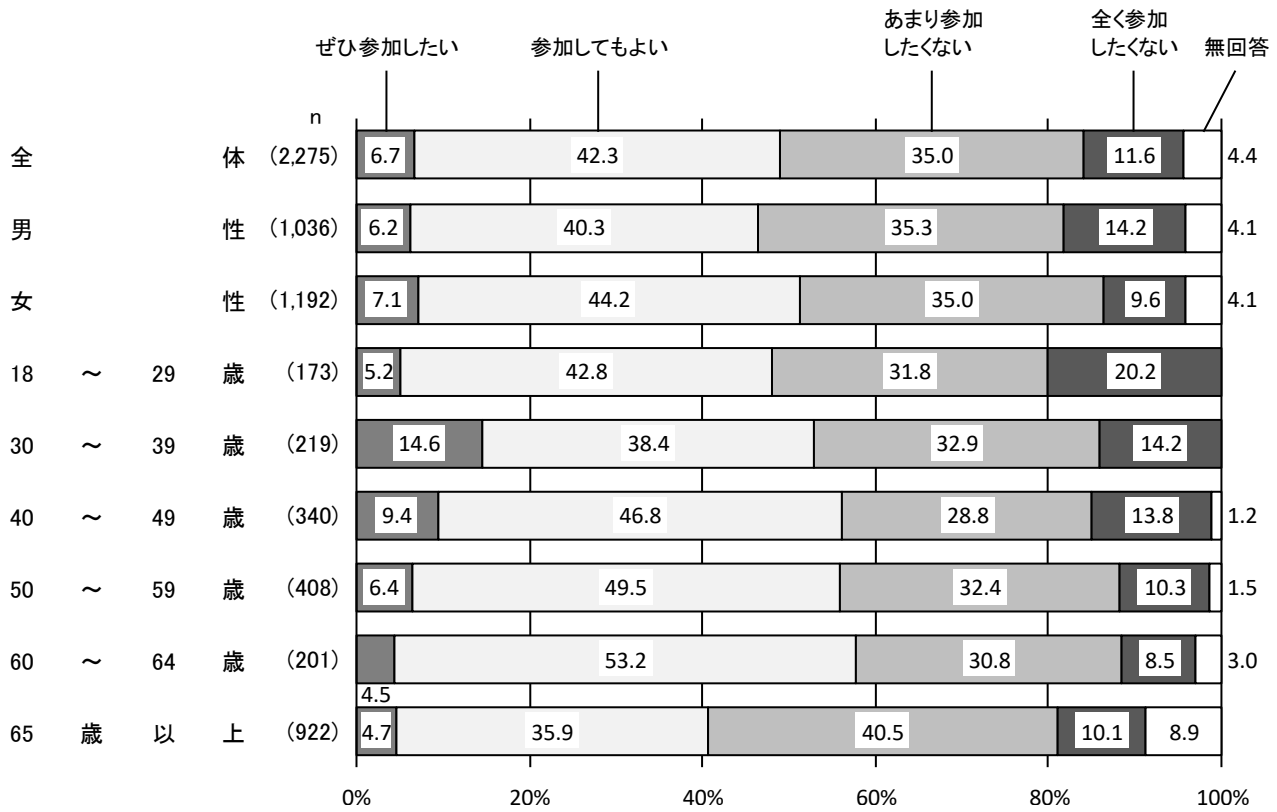
文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど）－ 居住年数別



居住年数別にみると、「参加したい」は、10～15年未満の居住（56.5%）が6割近く、5～10年未満の居住（53.4%）が5割強と高くなっている。一方、「参加したくない」は、1年未満の居住（56.1%）が6割近くと高くなっている。（図 36-11）

図 36-12 地域コミュニティ活動への参加意向

福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）－ 性別、年齢別

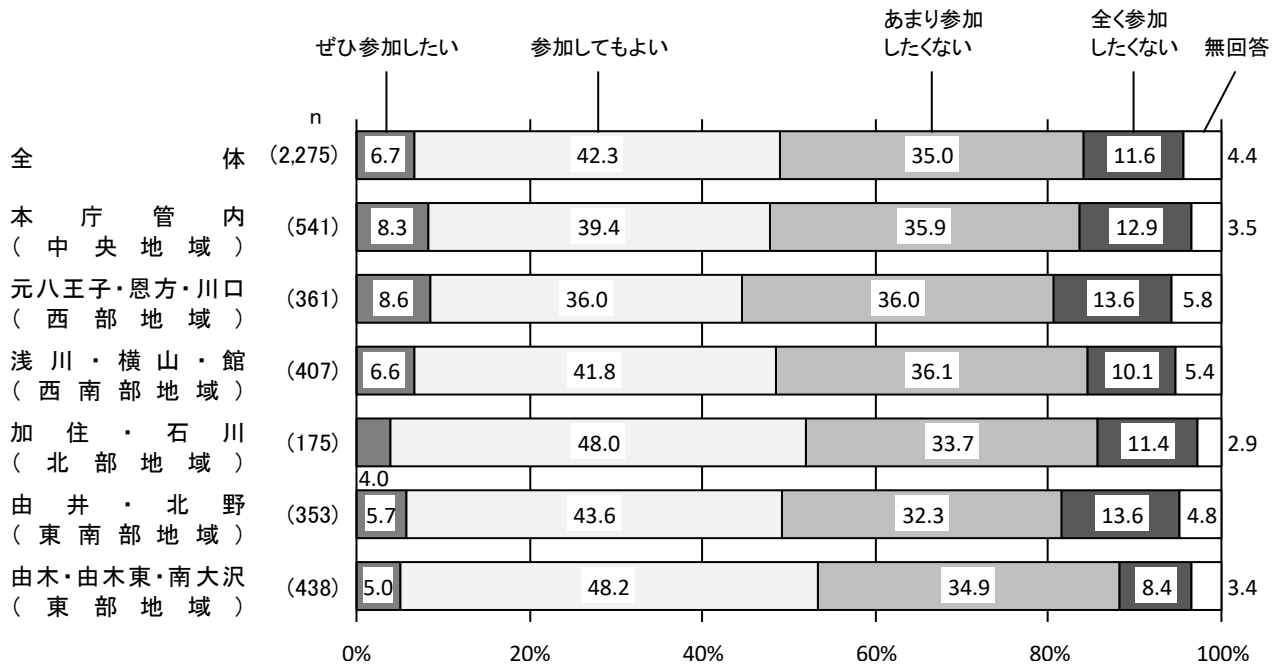


性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。

年齢別にみると、「参加したい」は、60～64歳（57.7%）、40～49歳（56.2%）がそれぞれ6割近く、50～59歳（55.9%）が5割台半ばと高くなっている。一方、「参加したくない」は、18～29歳（52.0%）が5割強と高くなっている。（図 36-12）

図 36-13 地域コミュニティ活動への参加意向

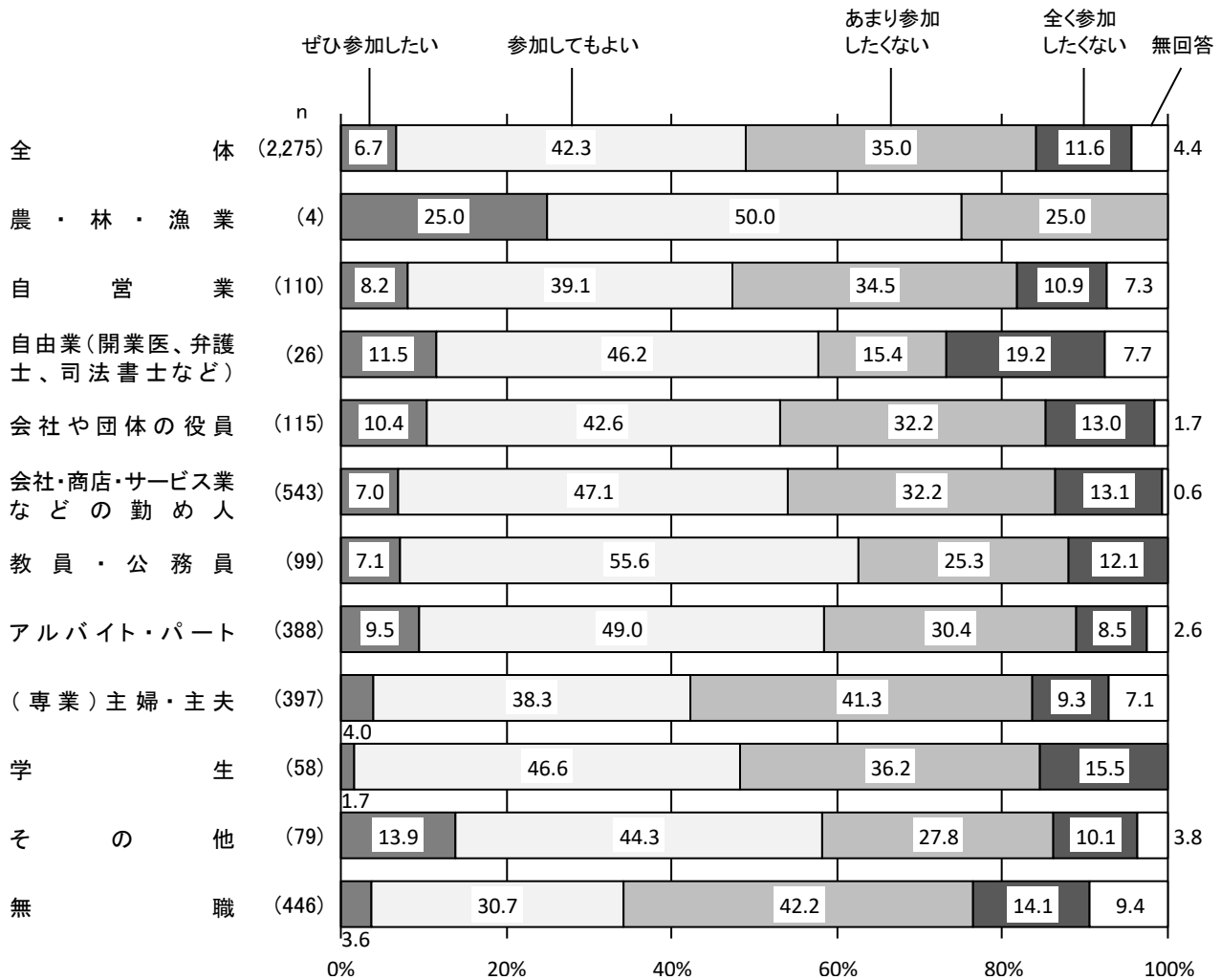
福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）－ 居住地域別



居住地域別にみると、「参加したい」は、傾向に大きな違いはみられないが、「参加してもよい」は、由木・由木東・南大沢（東部地域）（48.2%）、加住・石川（北部地域）（48.0%）がそれぞれ5割近くと高くなっている。（図 36-13）

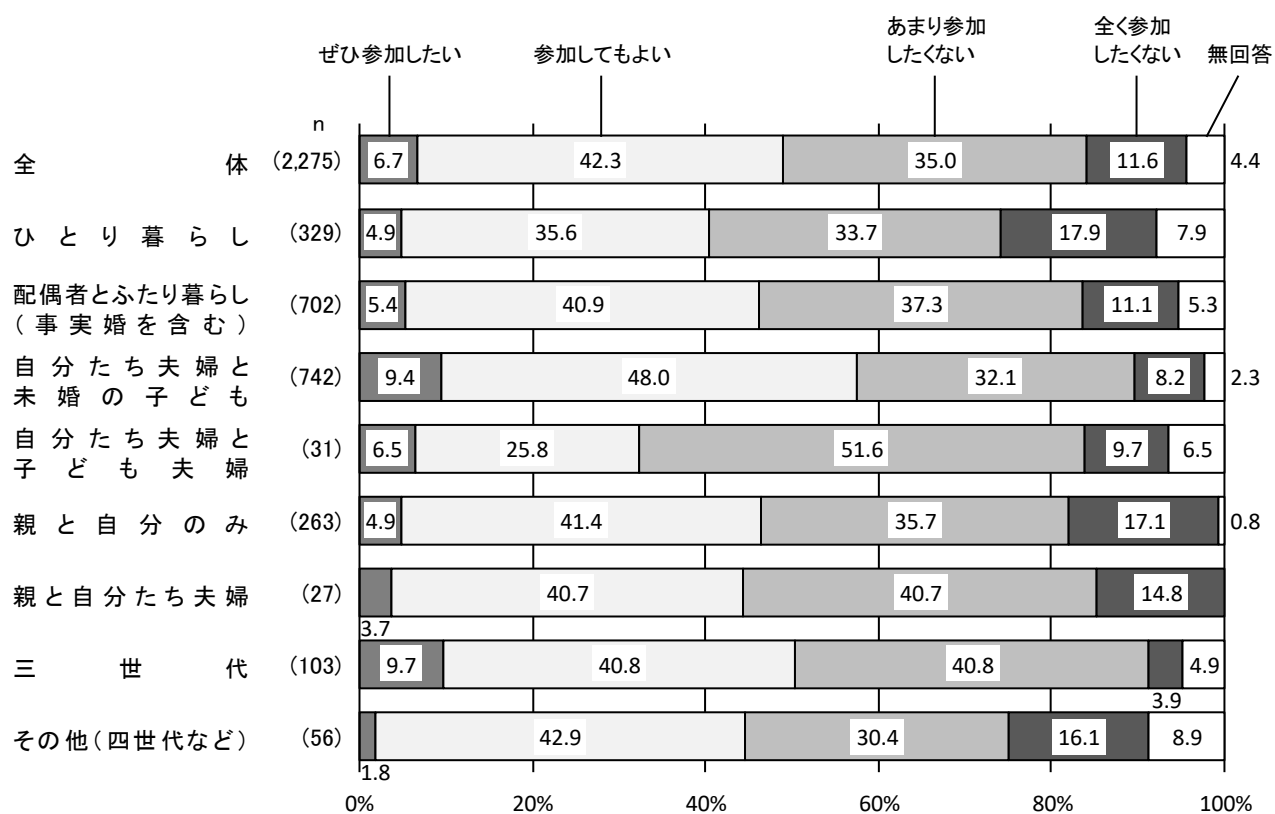
図 36-14 地域コミュニティ活動への参加意向

福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）－ 職業別



職業別にみると、「参加したい」は、教員・公務員（62.7%）が6割強、アルバイト・パート（58.5%）、その他（58.2%）がそれぞれ6割近く、会社・商店・サービス業などの勤め人（54.1%）が5割台半ばと高くなっている。一方、「参加したくない」は、無職（56.3%）が6割近く、学生（51.7%）が5割強と高くなっている。（図 36-14）

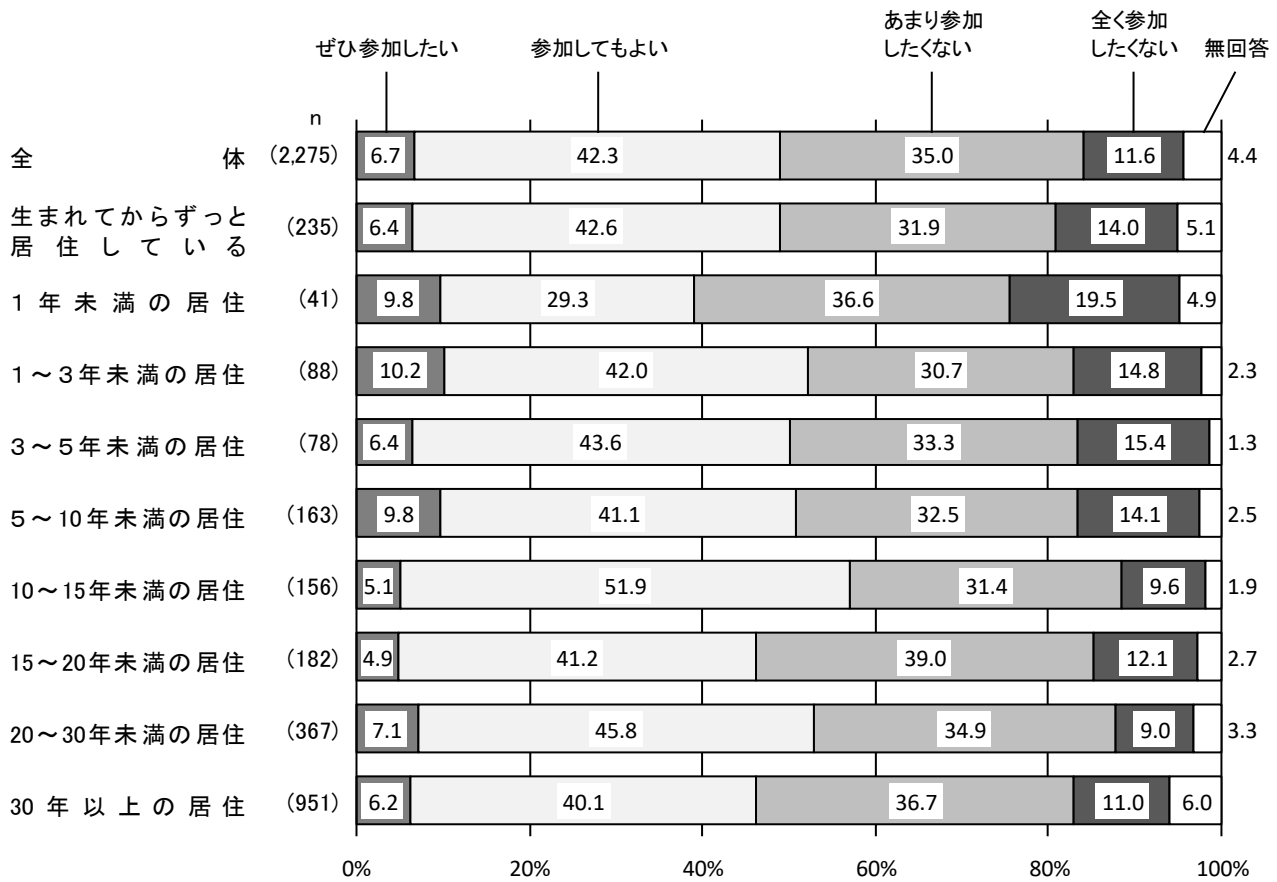
図 36-15 地域コミュニティ活動への参加意向
福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など） — 世帯構成別



世帯構成別にみると、「参加したい」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（57.4%）が6割近くと高くなっている。一方、「参加したくない」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（61.3%）が6割強、親と自分のみ（52.8%）が5割強と高くなっている。（図 36-15）

図 36-16 地域コミュニティ活動への参加意向

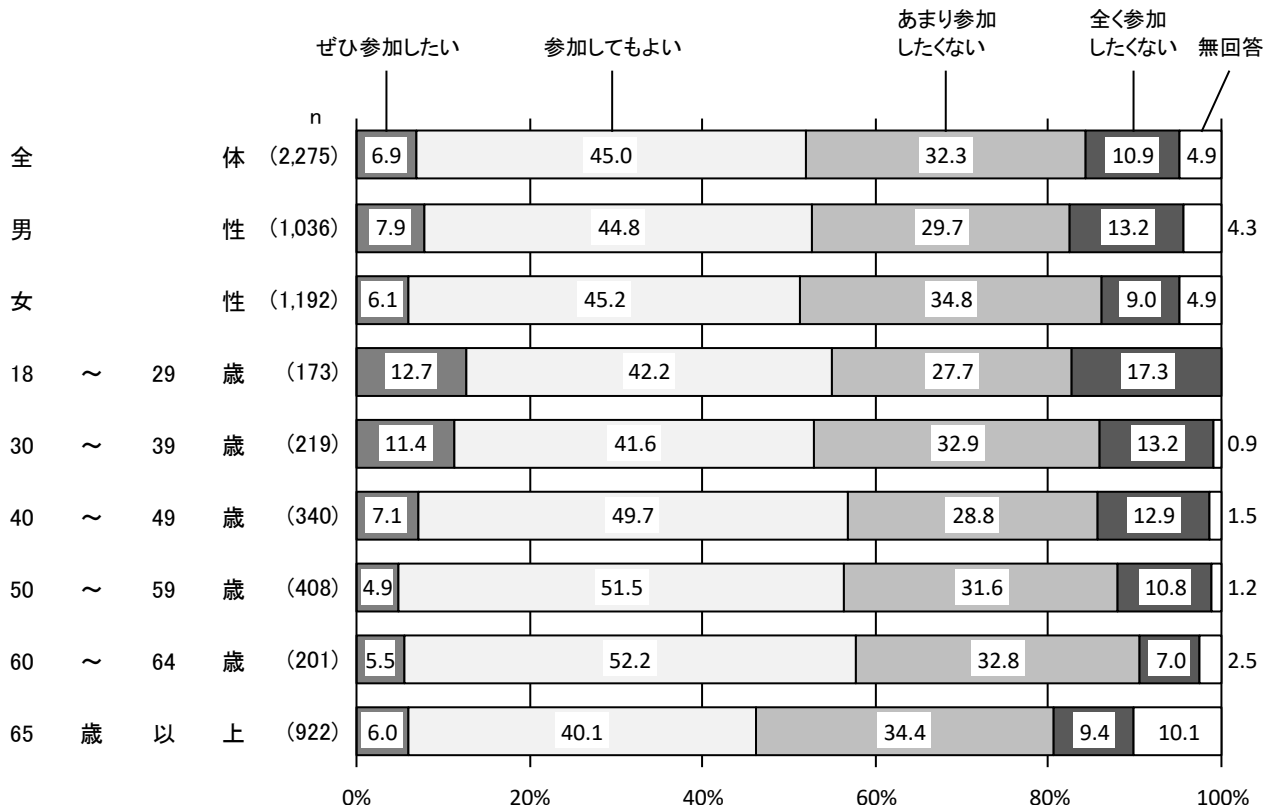
福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）－ 居住年数別



居住年数別にみると、「参加したい」は、10～15年未満の居住（57.0%）が6割近くと高くなっている。一方、「参加したくない」は、1年未満の居住（56.1%）が6割近くと高くなっている。（図 36-16）

図 36-17 地域コミュニティ活動への参加意向

環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど）－ 性別、年齢別

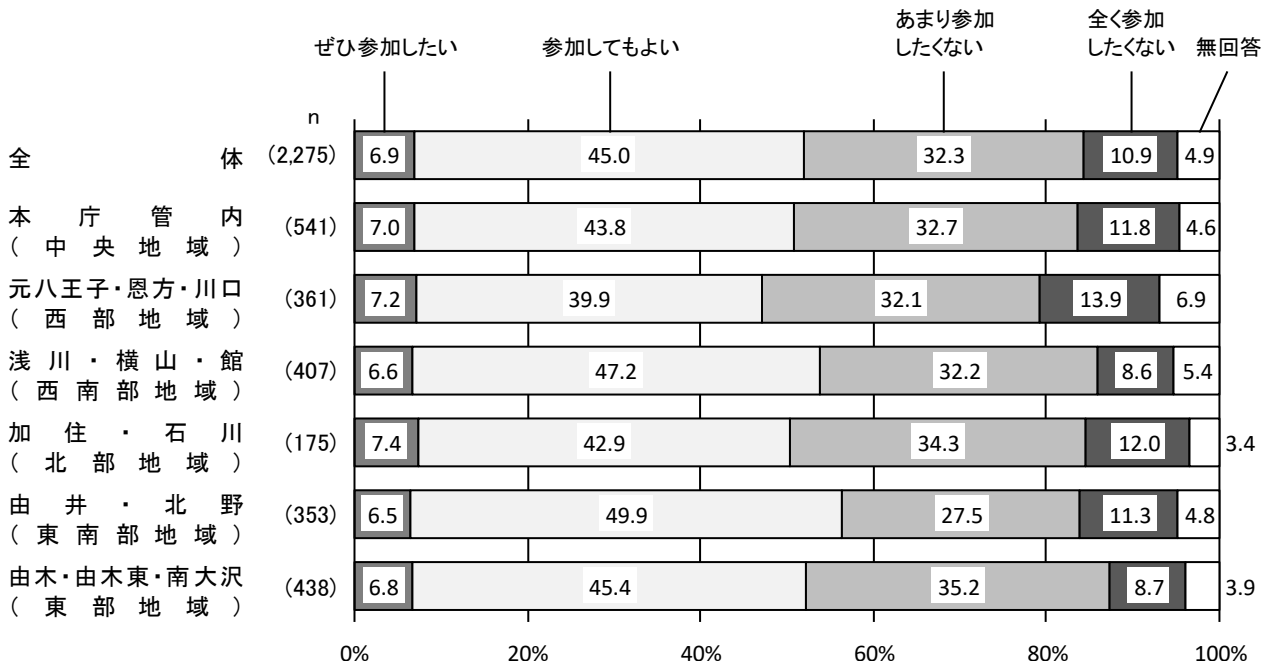


性別にみると、「参加したくない」は、傾向に大きな違いはみられないが、「あまり参加したくない」は、女性（34.8%）が男性（29.7%）より5.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「参加したい」は、60～64歳（57.7%）が6割近くと高くなっている。（図 36-17）

図 36-18 地域コミュニティ活動への参加意向

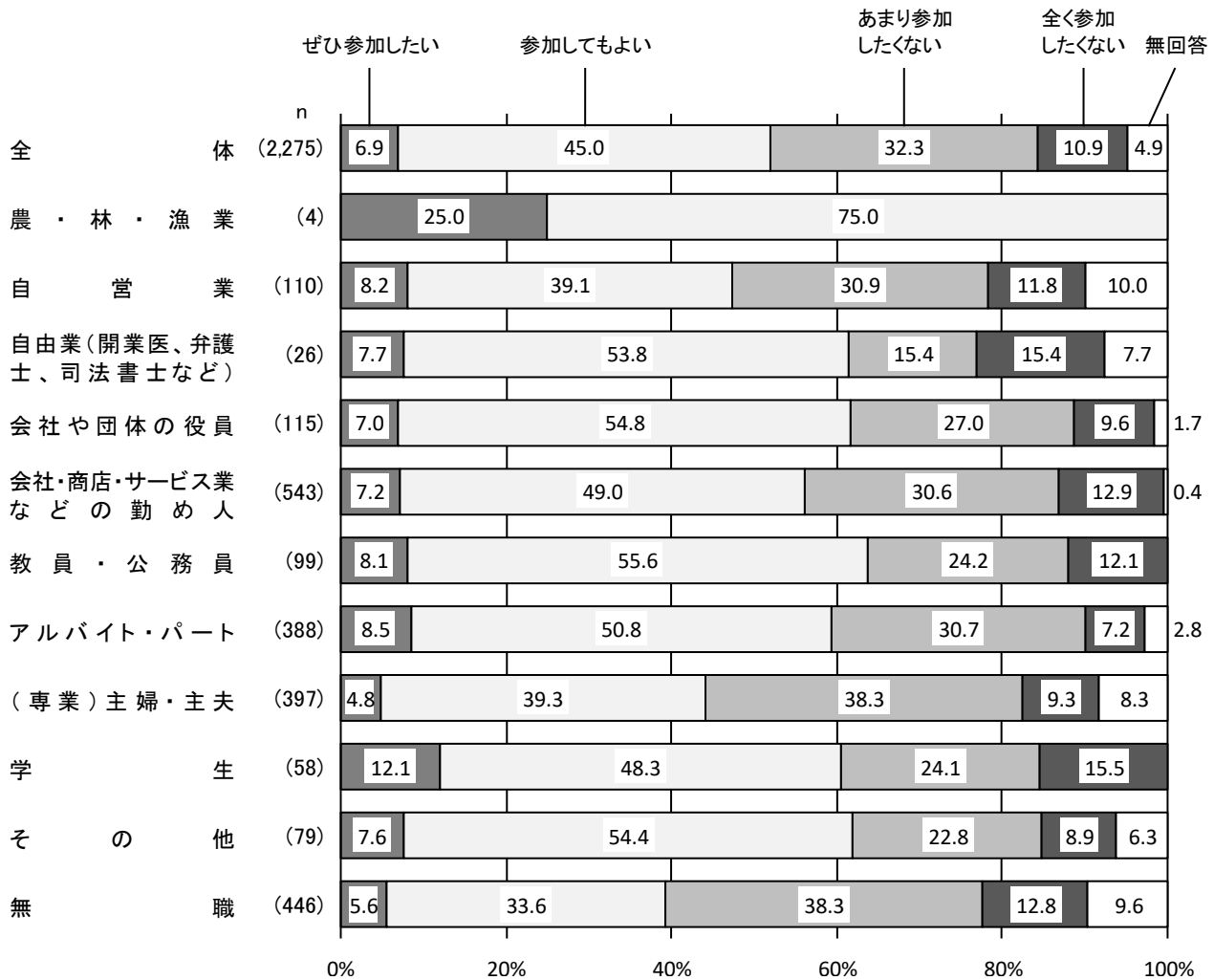
環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど） — 居住地域別



居住地域別にみると、「参加したい」は、傾向に大きな違いはみられないが、「参加してもよい」は、元八王子・恩方・川口（西部地域）（39.9%）が4割弱と低くなっている。（図 36-18）

図 36-19 地域コミュニティ活動への参加意向

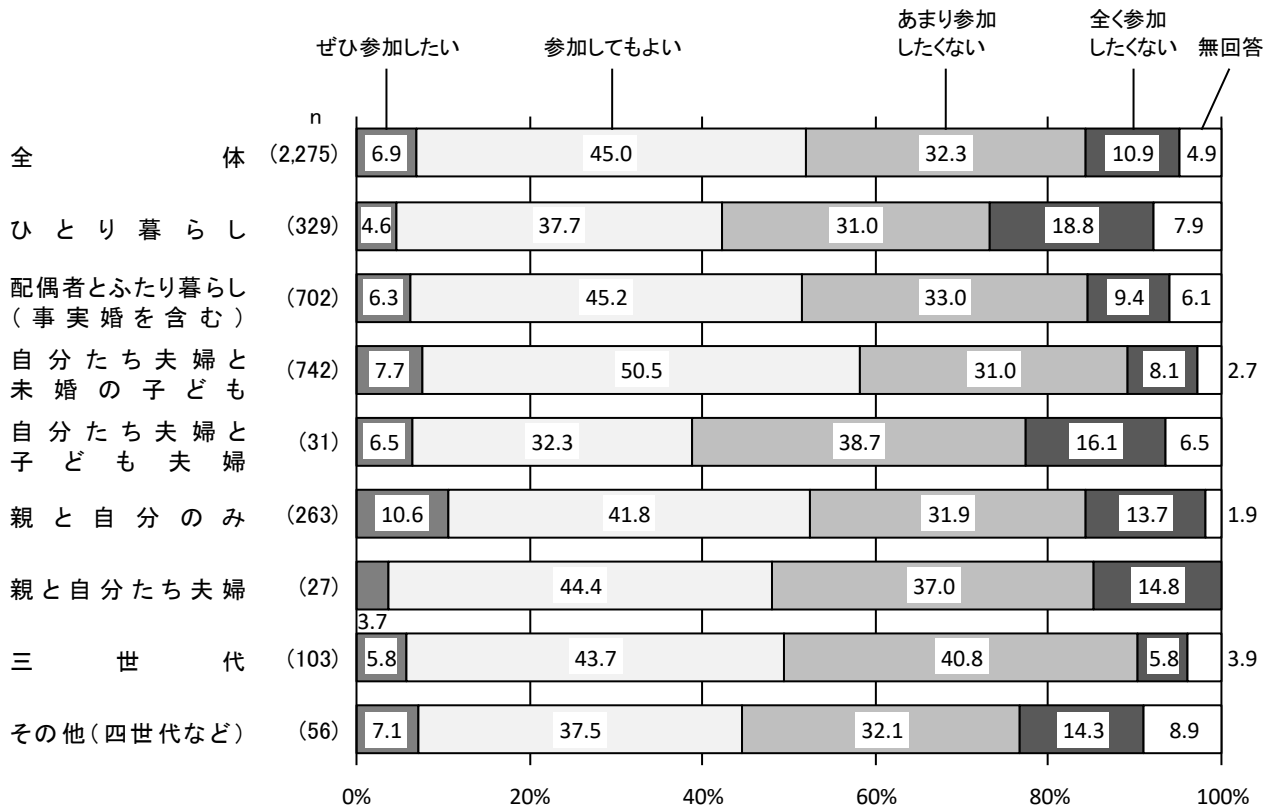
環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど）－ 職業別



職業別にみると、「参加したい」は、教員・公務員（63.7%）、その他（62.0%）、会社や団体の役員（61.8%）がそれぞれ6割強、学生（60.4%）が約6割、アルバイト・パート（59.3%）が6割弱と高くなっている。一方、「参加したくない」は、無職（51.1%）が5割強と高くなっている。（図 36-19）

図 36-20 地域コミュニティ活動への参加意向

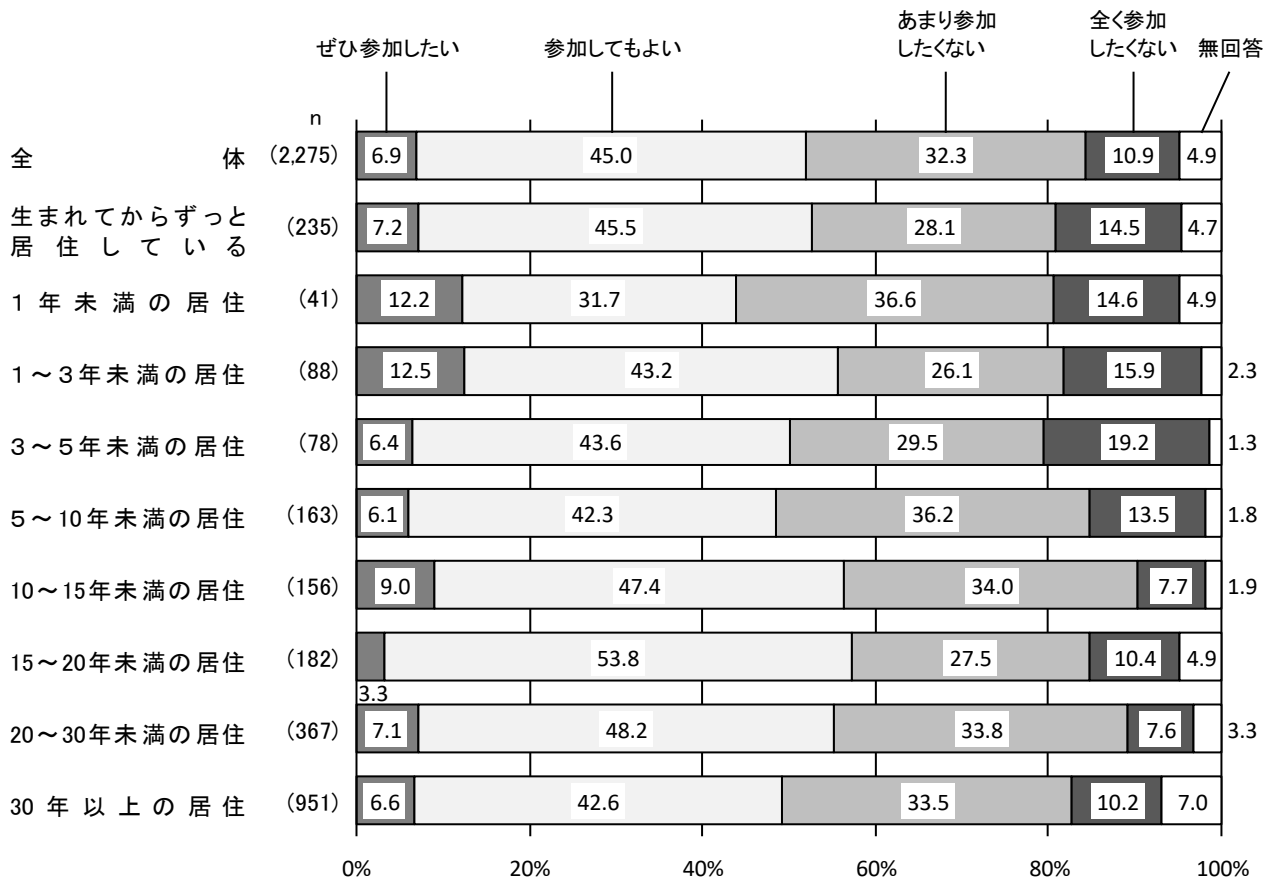
環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど）－世帯構成別



世帯構成別にみると、「参加したい」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（58.2%）が6割近くと高くなっている。一方、「参加したくない」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（54.8%）が5割台半ば、ひとり暮らし（49.8%）が5割弱と高くなっている。（図 36-20）

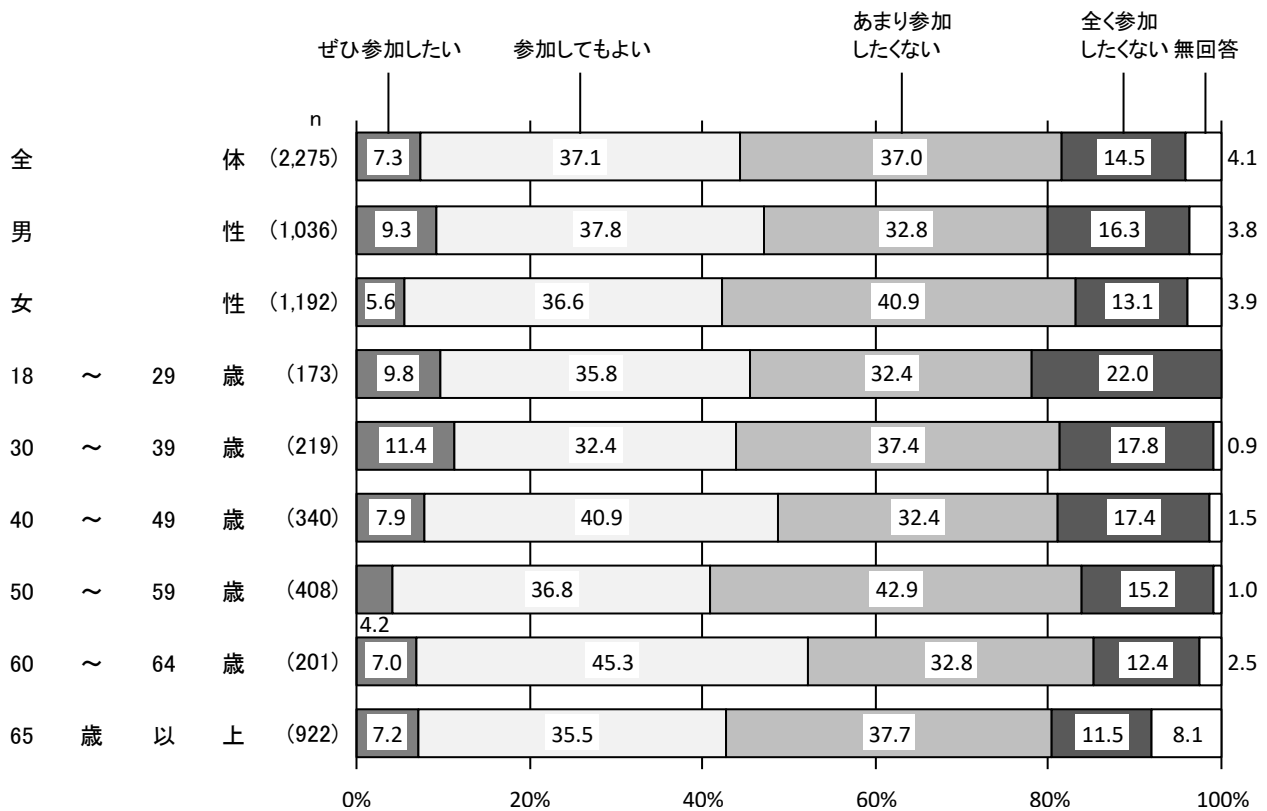
図 36-21 地域コミュニティ活動への参加意向

環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど） — 居住年数別



居住年数別にみると、「参加したい」は、15～20年未満の居住（57.1%）が6割近くと高くなっている。一方、「参加したくない」は、1年未満の居住（51.2%）が5割強、5～10年未満の居住（49.7%）が5割弱、3～5年未満の居住（48.7%）が5割近くと高くなっている。（図 36-21）

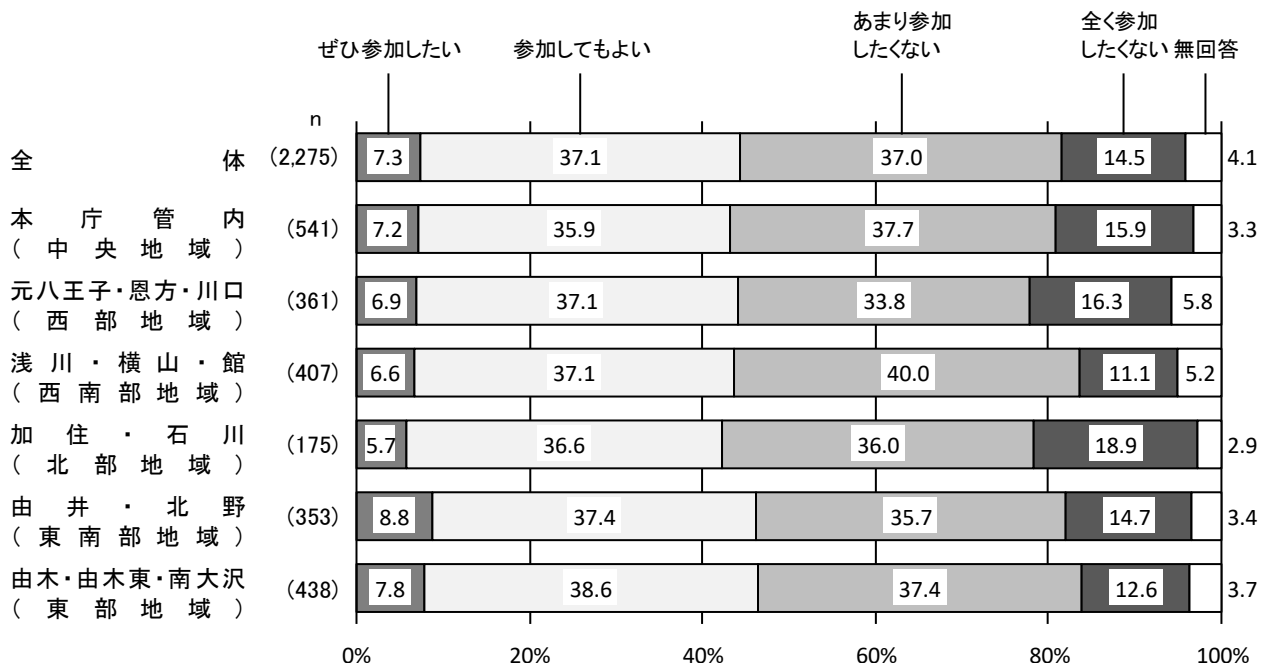
図 36-22 地域コミュニティ活動への参加意向
 スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど）－ 性別、年齢別



性別にみると、《参加したくない》は、傾向に大きな違いはみられないが、「あまり参加したくない」は、女性（40.9%）が男性（32.8%）より8.1ポイント高くなっている。

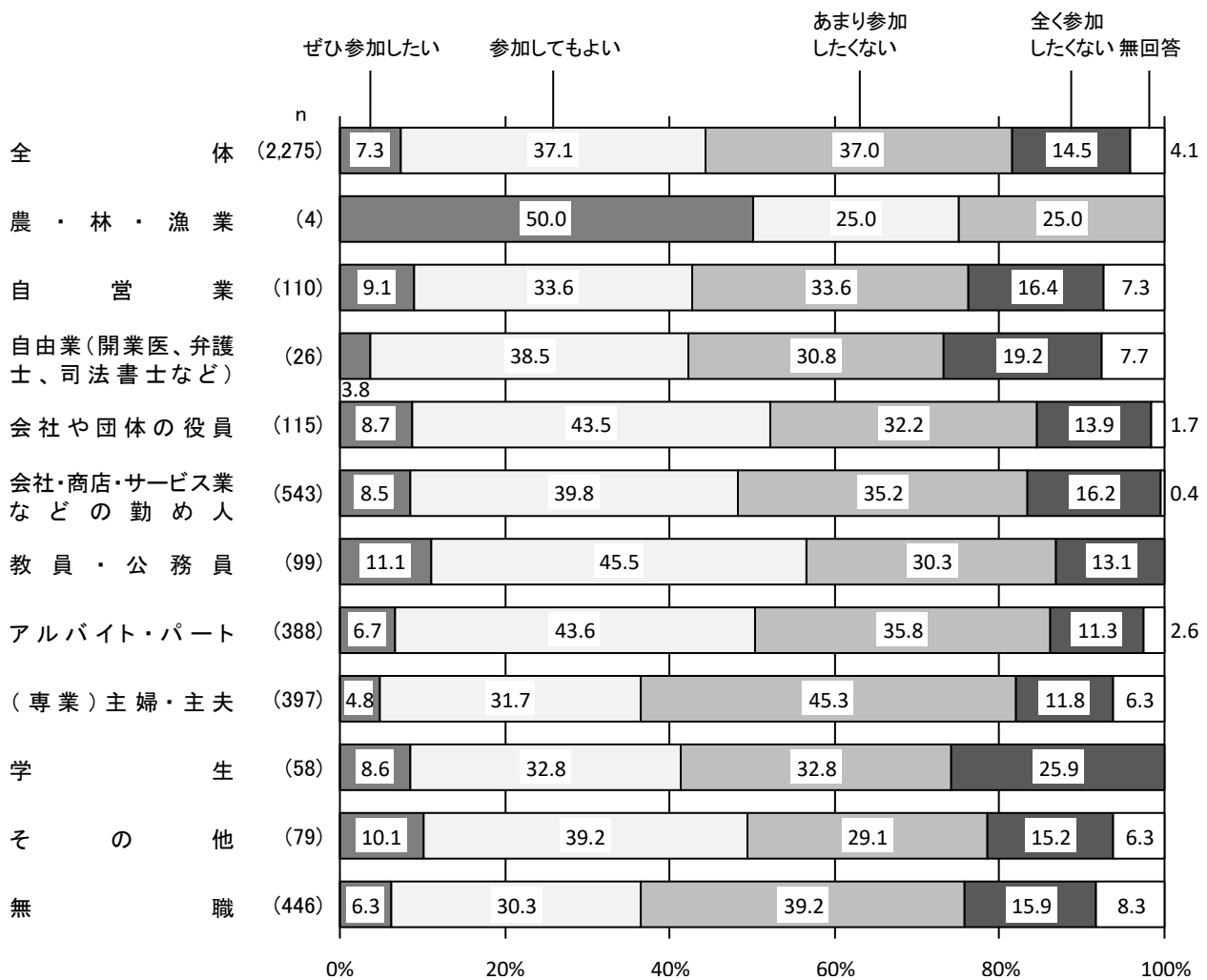
年齢別にみると、《参加したい》は、60～64歳（52.3%）が5割強と高くなっている。一方、《参加したくない》は、50～59歳（58.1%）が6割近くと高くなっている。（図 36-22）

図 36-23 地域コミュニティ活動への参加意向
 スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど）－ 居住地域別



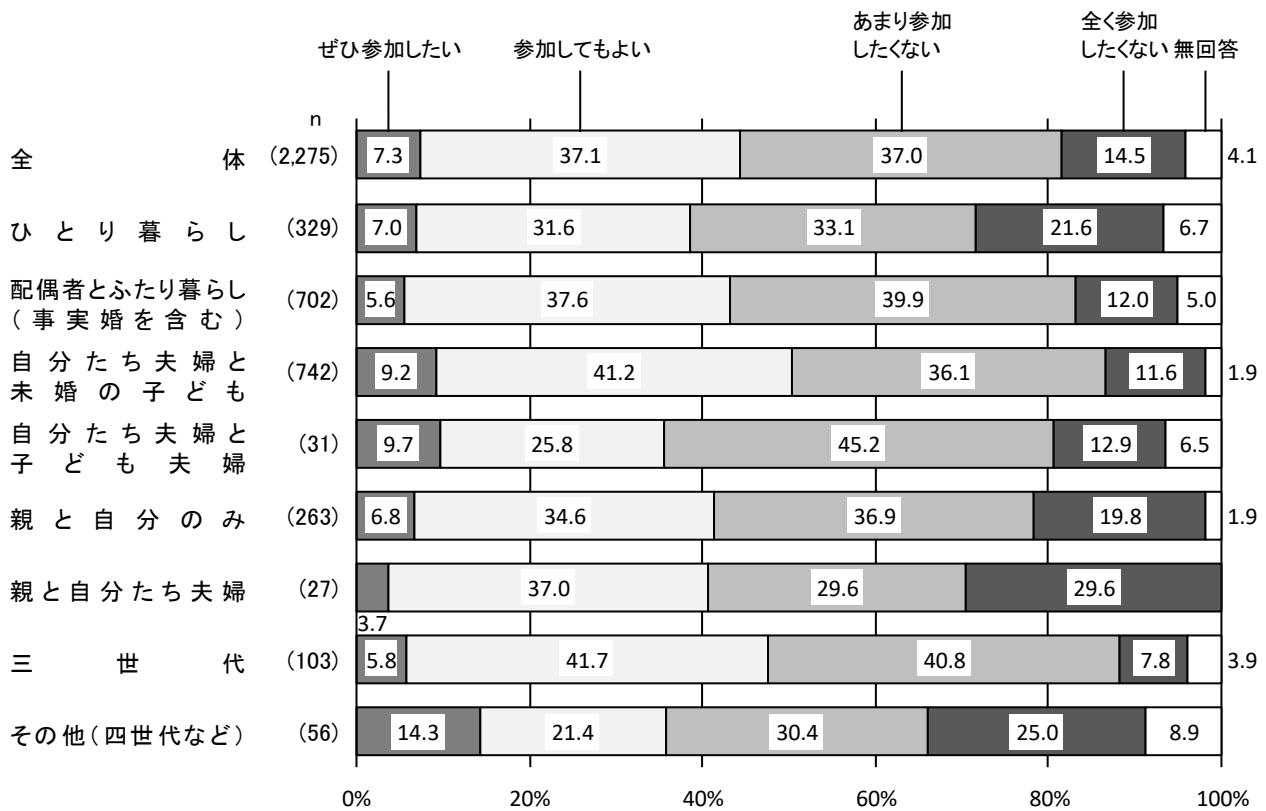
居住地域別にみると、傾向に大きな違いはみられない。(図 36-23)

図 36-24 地域コミュニティ活動への参加意向
 スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど）－ 職業別



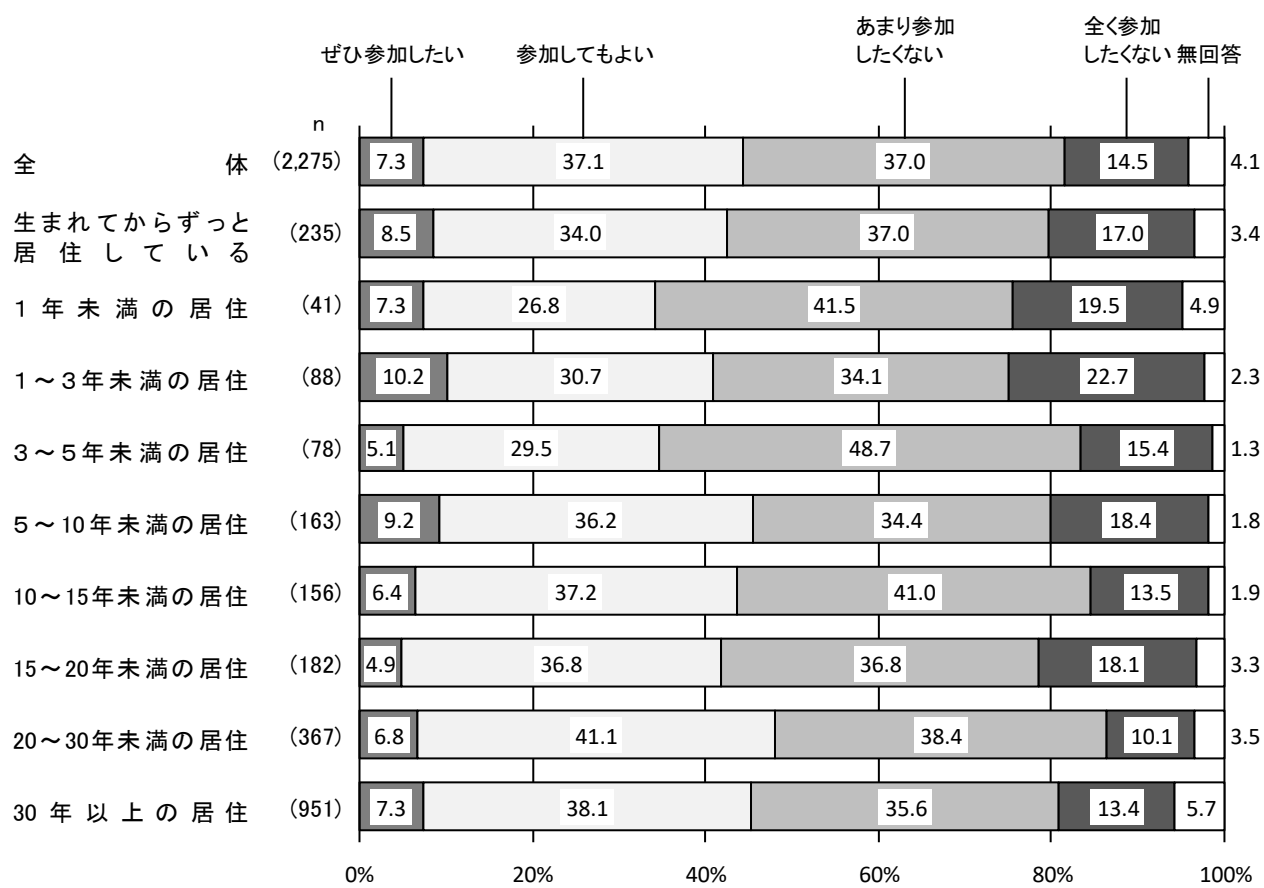
職業別にみると、「参加したい」は、教員・公務員（56.6%）が6割近く、会社や団体の役員（52.2%）が5割強、アルバイト・パート（50.3%）が約5割と高くなっている。一方、「参加したくない」は、学生（58.7%）、（専業）主婦・主夫（57.1%）がそれぞれ6割近くと高くなっている。（図 36-24）

図 36-25 地域コミュニティ活動への参加意向
 スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど） — 世帯構成別



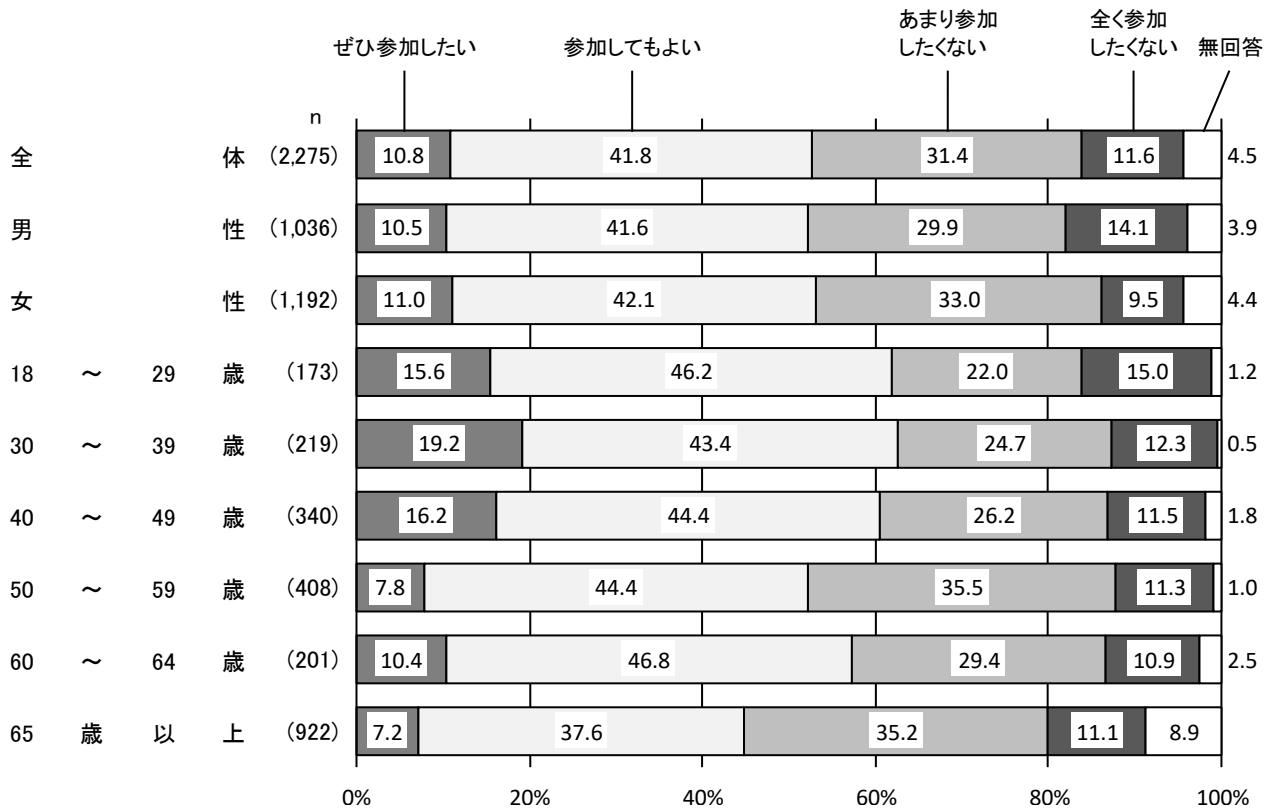
世帯構成別にみると、「参加したい」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（50.4%）が約5割と高くなっている。一方、「参加したくない」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（58.1%）、親と自分のみ（56.7%）がそれぞれ6割近くと高くなっている。（図 36-25）

図 36-26 地域コミュニティ活動への参加意向
 スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど）－ 居住年数別



居住年数別にみると、「参加したくない」は、3～5年未満の居住（64.1%）が6割台半ば、1年未満の居住（61.0%）が6割強、1～3年未満の居住（56.8%）が6割近くと高くなっている。（図 36-26）

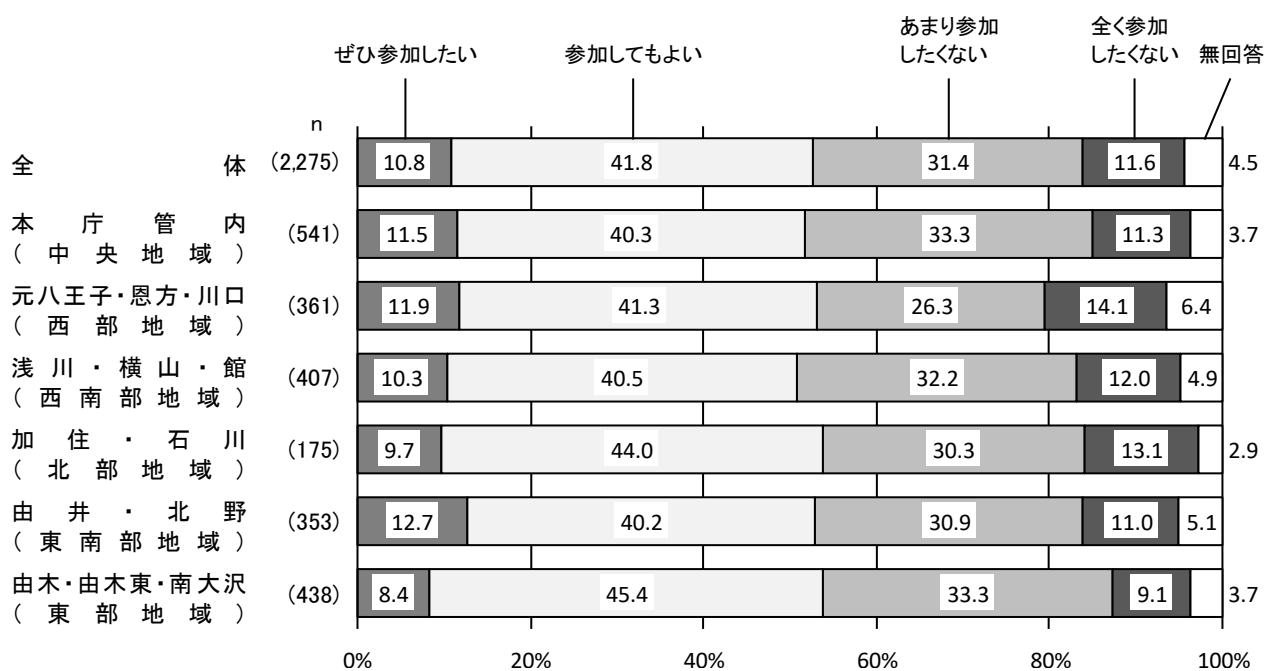
図 36-27 地域コミュニティ活動への参加意向
 交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）－ 性別、年齢別



性別にみると、傾向に大きな違いはみられない。

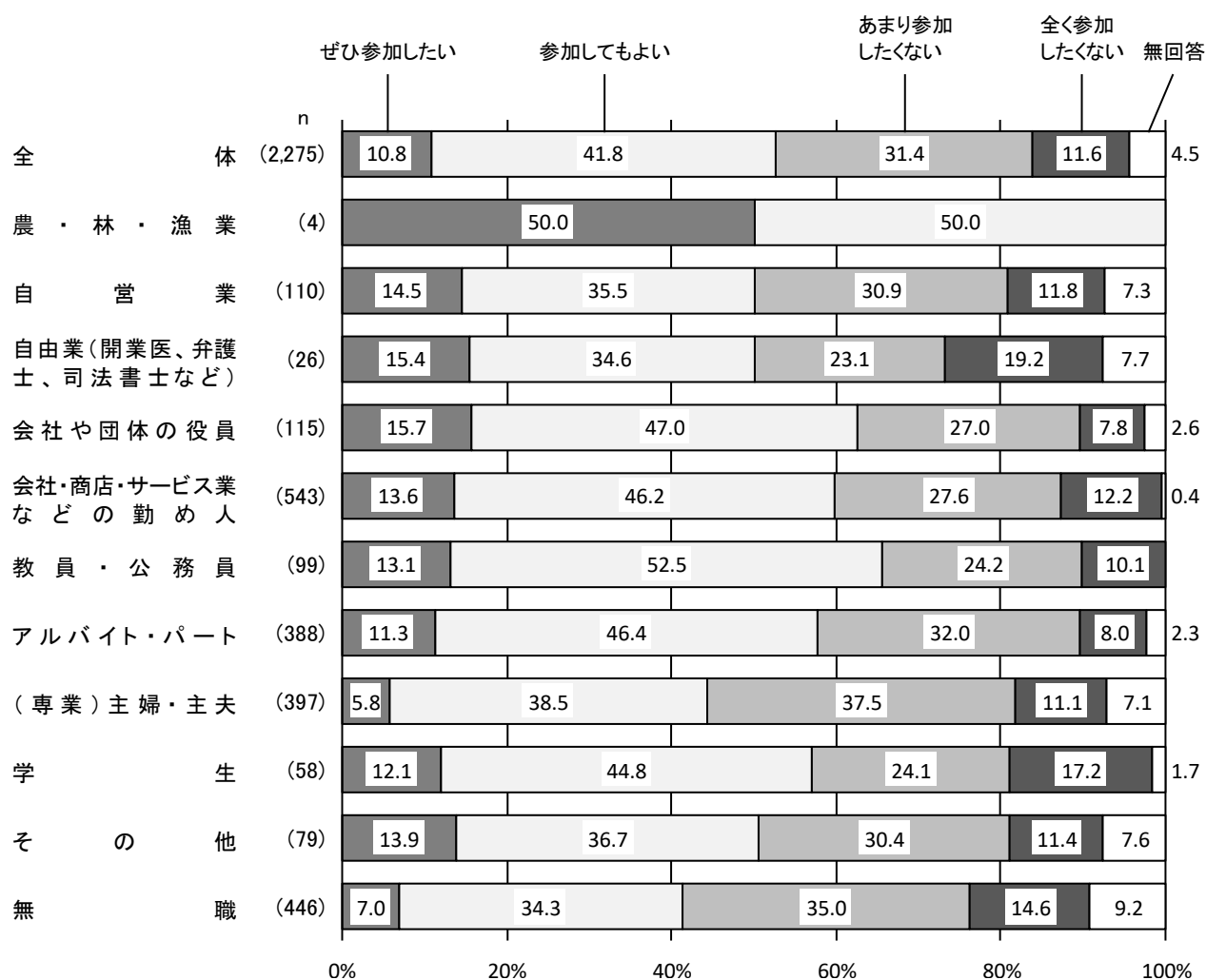
年齢別にみると、《参加したい》は、30～39歳（62.6%）、18～29歳（61.8%）がそれぞれ6割強、40～49歳（60.6%）が約6割と高くなっている。（図 36-27）

図 36-28 地域コミュニティ活動への参加意向
 交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）－ 居住地域別



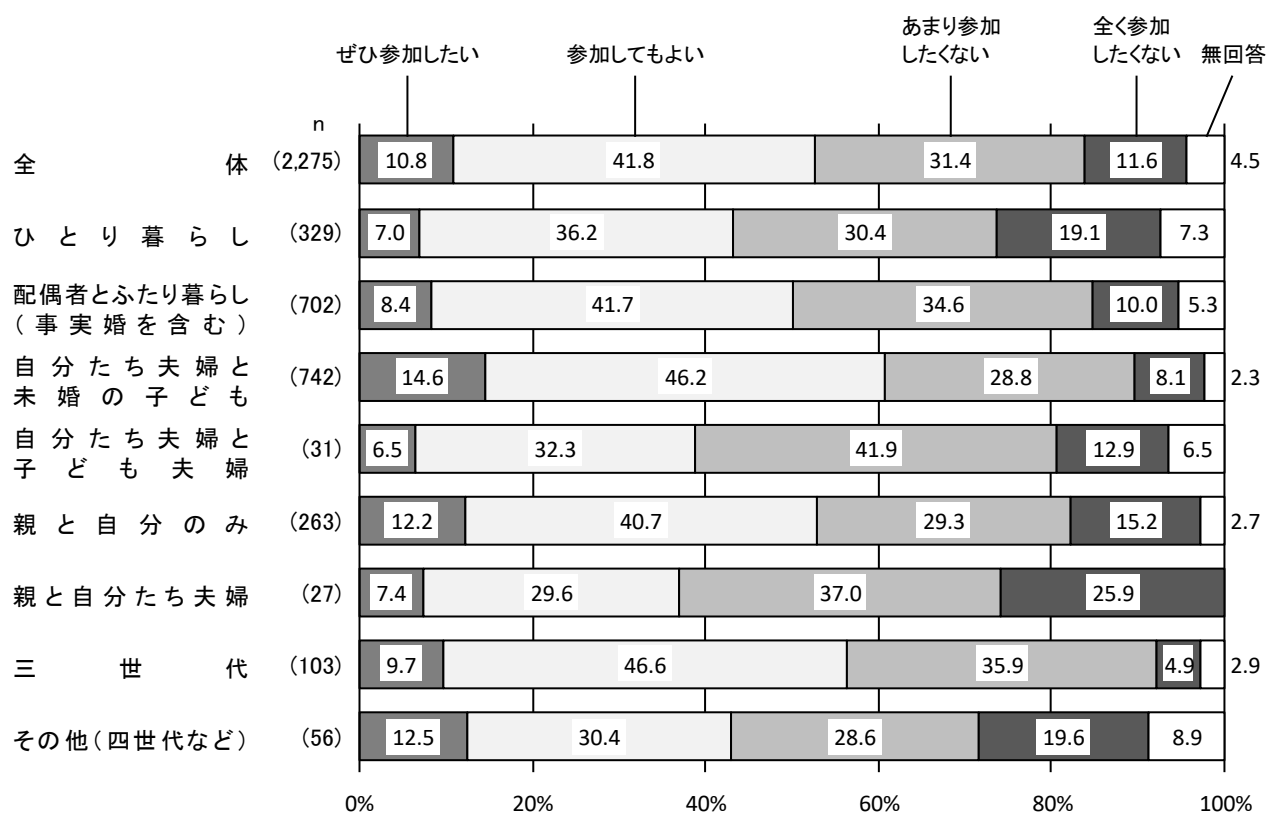
居住地域別にみると、「参加したくない」は、傾向に大きな違いはみられないが、「あまり参加したくない」は、元八王子・恩方・川口（西部地域）（26.3%）が3割近くと低くなっている。（図 36-28）

図 36-29 地域コミュニティ活動への参加意向
交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）－ 職業別



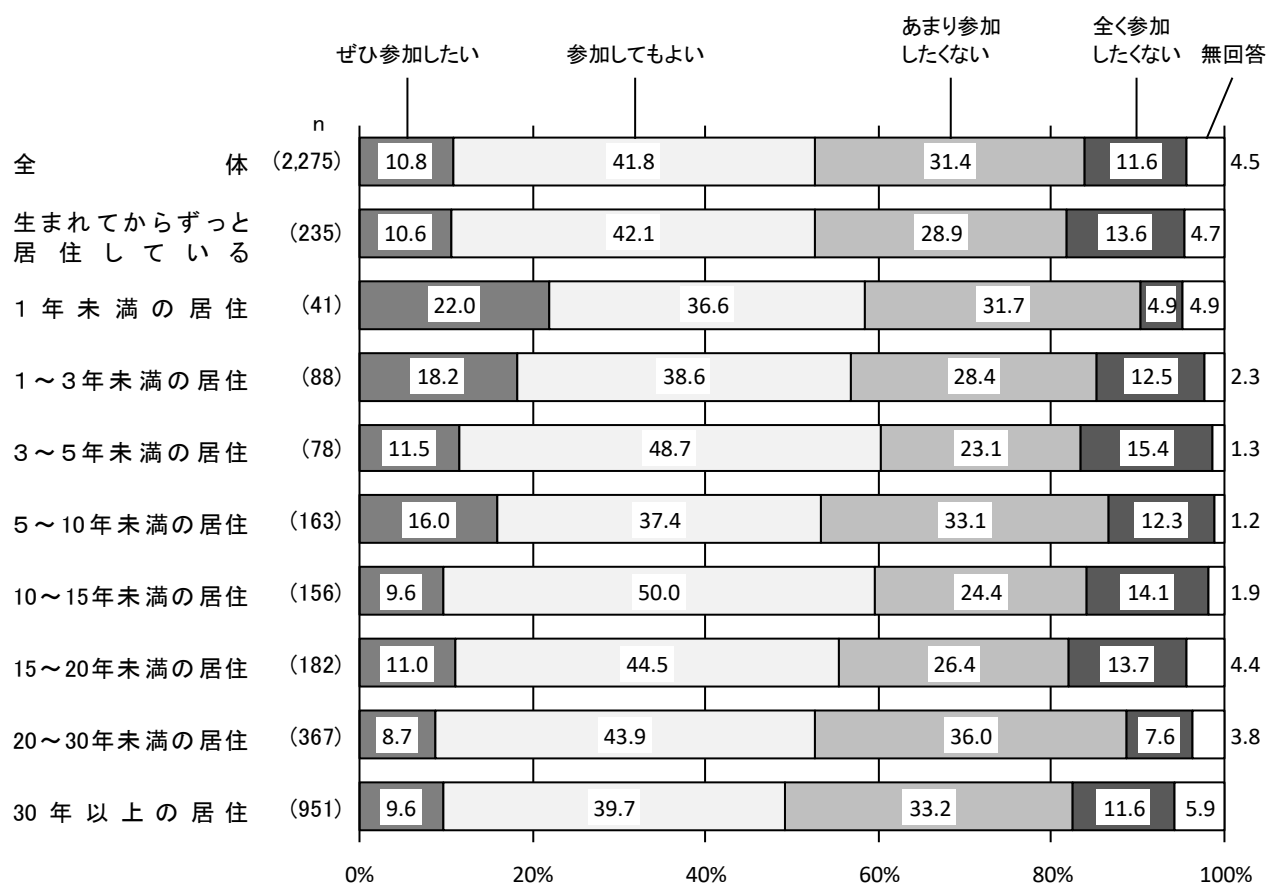
職業別にみると、「参加したい」は、教員・公務員（65.6%）が6割台半ば、会社や団体の役員（62.7%）が6割強、会社・商店・サービス業などの勤め人（59.8%）が6割弱、アルバイト・パート（57.7%）が6割近くと高くなっている。一方、「参加したくない」は、無職（49.6%）が5割弱、(専業)主婦・主夫（48.6%）が5割近くと高くなっている。(図 36-29)

図 36-30 地域コミュニティ活動への参加意向
 交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）－ 世帯構成別



世帯構成別にみると、「参加したい」は、自分たち夫婦と未婚の子ども（60.8%）が約6割と高くなっている。一方、「参加したくない」は、自分たち夫婦と子ども夫婦（54.8%）が5割台半ば、ひとり暮らし（49.5%）が5割弱、その他（四世代など）（48.2%）が5割近くと高くなっている。（図 36-30）

図 36-31 地域コミュニティ活動への参加意向
 交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）－ 居住年数別



居住年数別にみると、「参加したい」は、3～5年未満の居住（60.2%）が約6割、10～15年未満の居住（59.6%）が6割弱、1年未満の居住（58.6%）が6割近くと高くなっている。（図 36-31）

IV 參考資料

インターネット回答用	
申請者ID	
パスワード	

地域No. _____

八王子未来デザイン2040の運用に関する市民アンケート調査

市民アンケート調査へのご協力をお願い

本市の最上位計画である「八王子未来デザイン2040」。この計画では、2040年までの目標として「みんなで目指す2040年の姿」を掲げ、その実現に向けて令和12年度（2030年度）までに重点的・分野横断的に取り組むために「重点テーマ・取組方針」を定めています。この「重点テーマ・取組方針」及びそれに関連付ける取組には数値目標を設定し、着実な進行管理を行っていきます。

今回の調査は、市民の皆さんの生活環境や市政への考えをお聞きし、当計画に掲げる目標に対する現状の把握や、今後の取組に向けた基礎資料とするために実施するものです。

調査の対象者は、市内にお住まいの18歳以上の方々から無作為に5,000名を選ばせていただきました。また、調査は無記名で、調査結果は統計的な処理をしますので、個人にご迷惑をおかけすることはありません。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願いいたします。

令和5年（2023年）11月

八王子市長 石森 孝志

回答にあたってのお願い

- ◆ 必ずあて名のご本人がご回答ください。
- ◆ 回答は、《郵送》または《インターネット（電子申請）》で行うことができます。
どちらかの方法をお選びください。

郵送での回答方法

この調査票に直接ご記入いただき、同封の返信用封筒に入れて郵便ポストへ投函してください。切手を貼る必要はありません。

インターネットでの回答方法

インターネットに接続したパソコン、スマートフォン等から回答できます。詳しくは同封の別紙「インターネットを利用した回答方法」をお読みください。

- ◆ 回答は、令和5年（2023年）11月15日（水）までに投函または送信してください。

◎このページの左上の「地域No.」は、市内を14の地域に分けて集計するための区別に用いるものです。また、右上の「申請者ID」「パスワード」はインターネット回答で使用するものです。これらによってお名前やご住所を特定することはありません。

◎本調査で、市の職員や調査員が訪問や電話をすることはありません。

「お問い合わせ」八王子市総合経営部経営計画課（月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時）

電話：042-620-7200（直通） Fax：042-627-5939

e-mail：b411100@city.hachioji.tokyo.jp

【記入要領】

- ◆ あらかじめ設けてある選択肢の中から、あなたのお考えに最も近い番号を選んで○印をつけてください。
- ◆ 回答の○の数は **○は1つだけ** (○はいくつでも) のように指定していますので、それに合わせてください。
- ◆ ご自分の答えが選択肢の中に入らない場合などは、「その他」を選び、「()」の欄がある場合は、内容を具体的に記入してください。
- ◆ このページから順に最後までお答えください。設問の前に (子育て中の方へ) や (現在 18 歳から 29 歳の方へ) とある場合は、該当の方だけお答えください。なお、問○-1のように、一部の方だけにお答えいただく質問もあります。その場合は矢印や説明文に従ってお答えください。

あなたご自身について ～基本項目 (フェイス・シート)～

最初にあなたご自身のことについておたずねします。

F 1 あなたの性別は、次のどれですか。 (○は1つだけ) n=2,275

1 男性	45.5%	2 女性	52.4%	3 あてはまらない	0.3%	無回答	1.8%
------	-------	------	-------	-----------	------	-----	------

F 2 あなたは現在何歳ですか。 (○は1つだけ) n=2,275

1 18～19 歳	1.4%	2 20～24 歳	3.0%	3 25～29 歳	3.3%	4 30～34 歳	3.8%
5 35～39 歳	5.8%	6 40～44 歳	7.7%	7 45～49 歳	7.3%	8 50～54 歳	8.4%
9 55～59 歳	9.6%	10 60～64 歳	8.8%	11 65～69 歳	9.8%	12 70～74 歳	11.9%
13 75～79 歳	11.2%	14 80 歳以上	7.6%	無回答	0.5%		

F 3 現在、あなたに配偶者 (夫または妻) はいらっしゃいますか (事実婚を含みます)。 (○は1つだけ)

n=2,275

1 いる	67.6%	2 いない (死別)	7.7%	3 いない (離別)	6.2%
4 結婚したことはない (未婚)	17.9%			無回答	0.5%

F 4 お子さんは何人いらっしゃいますか。同居・別居は問いません。 (○は1つだけ) n=2,275

1 いない	29.3%					
2 1人	16.4%	3 2人	38.2%	4 3人	12.9%	
5 4人	1.6%	6 5人以上	0.3%	無回答	1.3%	

→ (F 4で、「2 1人」から「6 5人以上」を選択した方にお聞きします。)

F 4-1 お子さんは次のどの段階にあてはまりますか。 (○はいくつでも) n=1,578

1 0歳～小学校入学前	11.0%	2 小学生	12.8%
3 中学生	6.8%	4 高校生	6.7%
5 大学生 (大学院・専門学校等を含む)	7.8%	6 学校教育終了 (成人・社会人など)	59.8%
7 その他	5.9%	無回答	7.9%

F5 現在、一緒に暮らしているご家族は、あなたを含めて何人ですか。(○は1つだけ) n=2,275

1	1人	16.5%	2	2人	35.1%	3	3人	22.8%	4	4人	16.8%
5	5人	5.1%	6	6人	1.5%	7	7人以上	0.8%		無回答	1.5%

F6 あなたの世帯は、次のように分類した場合、どれにあたりますか。(○は1つだけ) n=2,275

1	ひとり暮らし	14.5%
2	配偶者とふたり暮らし(事実婚を含む)	30.9%
3	自分たち夫婦と未婚の子ども(または、自分と未婚の子どもなど)	32.6%
4	自分たち夫婦と子ども夫婦(または、自分と子ども夫婦など)	1.4%
5	親と自分のみ(または、親と自分と兄弟・姉妹など)	11.6%
6	親と自分たち夫婦	1.2%
7	三世代(例えば、自分たち夫婦と子どもと孫、親と自分と子どもなど)	4.5%
8	その他(四世代など)	2.5%
	無回答	1.0%

F7 あなたの八王子市での通算の居住状況を教えてください。(○は1つだけ) n=2,275

1	生まれてからずっと居住している(年数に関わらず該当者は選択してください。)	10.3%			
2	1年未満の居住	1.8%	3	1~3年未満の居住	3.9%
4	3~5年未満の居住	3.4%	5	5~10年未満の居住	7.2%
6	10~15年未満の居住	6.9%	7	15~20年未満の居住	8.0%
8	20~30年未満の居住	16.1%	9	30年以上の居住	41.8%
	無回答	0.6%			

F8 あなたのご職業は、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ) n=2,275

1	農・林・漁業	0.2%	2	自営業	4.8%
3	自由業(開業医、弁護士、司法書士など)	1.1%	4	会社や団体の役員	5.1%
5	会社・商店・サービス業などの勤め人	23.9%	6	教員・公務員	4.4%
7	アルバイト・パート	17.1%			
8	(専業)主婦・主夫	17.5%	9	学生	2.5%
10	その他	3.5%	11	無職	19.6%
	無回答	0.4%			

(F8で、「1 農・林・漁業」から「7 アルバイト・パート」を選択した方にお聞きします。)

F8-1 あなたの職場は、次のどちらにあたりますか。(○は1つだけ) n=1,285

1	八王子市内	43.6%	2	八王子市外	33.5%	無回答	22.9%
---	-------	-------	---	-------	-------	-----	-------

※テレワークなどで主に在宅勤務の場合・・・

本市民アンケート調査では「1 八王市内」を選択してください。

F9 あなたのお住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つだけ)

n=2,275

1 戸建て (持ち家)	58.7%	2 戸建て (借家)	1.4%
3 分譲マンション	18.6%	4 民間の賃貸アパート・マンション	11.3%
5 公営賃貸住宅 (都営・市営)	3.7%	6 UR (旧公団)・会社の 賃貸住宅または都民住宅	4.2%
7 社宅・官舎・寮	0.6%	8 その他 (間借りなど)	0.7%
無回答	0.7%		

八王子未来デザイン2040の運用に関する市民アンケート調査

問1 あなたは、八王子市が「安心して子育てができるまち」になっていると思いますか。(〇は1つだけ)

n=2,275

1	そう思う	12.6%	2	どちらかといえばそう思う	42.0%
3	あまりそう思わない	16.1%	4	思わない	4.0%
5	わからない	24.1%		無回答	1.1%

(子育て中の方へ)

問2 あなたは、市などの様々な支援により、八王子市は子育てを支える環境が整っていると思いますか。

(〇は1つだけ) n=852

1	そう思う	10.7%	2	どちらかといえばそう思う	44.5%
3	あまりそう思わない	21.9%	4	思わない	6.0%
5	わからない	16.9%		無回答	0.0%

問3 今後、子育て分野において、力を入れた方がよいと考える取組を以下から選択してください。

(〇はいくつでも) n=855

1	子どもへの支援	47.5%
2	家庭への支援	43.5%
3	子ども・子育てを地域で支えるまちづくり	42.5%
4	配慮が必要な子どもと家庭への支援	36.5%
5	若者の社会的自立や社会参加に向けた支援	30.4%
6	その他	6.1%
7	わからない	7.0%
	無回答	0.0%

※若者とは・・・

本市民アンケート調査では高校生世代から29歳までの者とします。

問4 あなたは、子育てに関して困ったときに、いつでも相談できる人がいますか(場がありますか)。

(〇は1つだけ) n=770

1	いる(ある)	76.6%	2	いない(ない)	23.4%		無回答	0.0%
---	--------	-------	---	---------	-------	--	-----	------

(現在 18 歳から 29 歳の方へ)

問5 次の (ア) ~ (カ) の場所は、今のあなたにとって居場所 (ほっとできる場所、安心できる場所) になっていますか。

(ア) ~ (カ) の各項目それぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。

(○はそれぞれ1つずつ) n=173

	1	2	3	4	
	そう思う	どちらかといえば そう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答
(ア) 自分の部屋	74.6%	21.4%	1.2%	1.7%	1.2%
(イ) 家庭 (親せきの家を含む)	60.7%	26.0%	8.1%	2.9%	2.3%
(ウ) 学校	22.5%	35.8%	15.6%	17.3%	8.7%
(エ) 職場	17.3%	36.4%	17.9%	16.8%	11.6%
(オ) 地域 (図書館や公園など、現在住んでいる 周辺やそこにある建物など)	22.0%	46.8%	19.1%	8.1%	4.0%
(カ) インターネット空間 (SNS、YouTube や オンラインゲームなど)	29.5%	40.5%	19.1%	9.2%	1.7%

問6 あなたは、この1年間に、地域の子どもに触れ合う機会がありましたか。(○は1つだけ)

n=2,275

1 機会があった	34.6%	2 機会がなかった	62.9%	無回答	2.5%
----------	-------	-----------	-------	-----	------

問7 あなたは、この1年間に、子どもやその保護者とともに行う次のような活動に参加しましたか。

(○はいくつでも) n=2,275

1 地域のお祭りなどの伝統行事	22.2%
2 学校行事	16.8%
3 地域ボランティア活動	8.3%
4 その他	3.5%
5 特に参加していない	60.3%
無回答	3.2%

問8 あなたは、この1年間に、日本遺産や歴史文化などにふれる地域の行事・活動に参加しましたか。

(○は1つだけ) n=2,275

※日本遺産とは・・・

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形・無形の様々な文化財を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的として、文化庁が認定しています。令和2年(2020年)6月に、桑都・八王子の歴史文化を高尾山との結びつきで物語るストーリー「**「靈気満山 高尾山」～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～**」が、都内で唯一の「日本遺産」に認定されました。

<「日本遺産」の構成文化財(30件)>

- 1 八王子城跡 2 八王子城跡御主殿出土品 3 八王子神社 4 滝山城跡
- 5 北条氏照および家臣墓 6 小仏関跡 7 高尾山 8 高尾山薬王院文書(北条氏照発給文書)
- 9 高尾山薬王院の文化財 10 高尾山のスギ 11 御前立御本尊 飯縄大権現像
- 12 高尾山薬王院浄心門 13 養蚕守護札 14 杉苗奉納石碑 15 火渡り祭 16 水行道場
- 17 高尾山のムササビ 18 桑都日記稿本 19 多摩織 20 絹の道(浜街道)
- 21 八木下要右衛門屋敷跡(絹の道資料館) 22 小泉家屋敷 23 八王子の獅子舞 24 木遣
- 25 八王子車人形および説経浄瑠璃 26 上の祭り・下の祭り(八王子まつり)
- 27 上の祭り・下の祭りの神輿・山車 28 八王子芸妓 29 桑都の銘酒 30 諏訪神社(鏈水)の文化財

1 参加した	23.9%	2 参加していない	74.4%	無回答	1.7%
--------	-------	-----------	-------	-----	------

問9 あなたは、この1年間に、八王子に関連する文化芸術に触れる機会がありましたか。(○は1つだけ)

n=2,275

※文化芸術とは・・・

音楽、美術、メディア芸術、伝統芸能、歴史的な建物や遺跡、文学、生活文化、演劇、舞踊、芸能など市民の暮らしの中にある文化芸術活動の全て。

1 機会があった	21.8%	2 機会がなかった	77.0%	無回答	1.2%
----------	-------	-----------	-------	-----	------

問 10 あなたは、八王子市が「誰もが学び、学んだことを活かせる環境が整っているまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ) n=2,275

※学びとは・・・

学校教育、社会教育、家庭教育のほか、スポーツレクリエーション活動、文化芸術活動、ボランティア活動、職業上必要な技能の習得など

1	そう思う	6.0%	2	どちらかといえばそう思う	29.9%
3	あまりそう思わない	24.0%	4	思わない	7.6%
5	わからない	31.2%	無回答		1.3%

問 11 あなたが思う、八王子の魅力を以下から選択してください。(○はいくつでも) n=2,275

1	自然	80.9%	2	まちなみ	18.7%
3	伝統・歴史	28.0%	4	祭り・イベント	38.0%
5	文化・芸術	11.3%	6	人(市民力・地域力)	10.9%
7	食	11.0%	8	学園都市	26.1%
9	産業(農業を含む)	7.7%	10	その他	1.4%
11	特にない	5.2%	12	わからない	3.5%
	無回答	1.1%			

問 12 あなたは、八王子市に「居心地が良い場所」や「訪れて楽しい場所」がありますか。

(○は1つだけ) n=2,275

1	多くある	13.7%	2	多少ある	68.2%	3	ない	15.4%	無回答	2.6%
---	------	-------	---	------	-------	---	----	-------	-----	------

(問 12 で、「1 多くある」または「2 多少ある」とお答えの方へ)

問 12-1 あなたは、八王子市が「歩きたくなるまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ)

n=1,864

1	そう思う	14.8%	2	どちらかといえばそう思う	51.8%
3	あまりそう思わない	24.4%	4	思わない	3.1%
5	わからない	5.2%	無回答		0.7%

問 13 あなたは、八王子市が「災害に強いまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ) n=2,275

1	そう思う	5.7%	2	どちらかといえばそう思う	27.9%
3	あまりそう思わない	24.0%	4	思わない	7.8%
5	わからない	33.8%	無回答		0.7%

問 14 あなたは、この1年間に、市や町会・自治会、マンション管理組合などが主催する地域の防災訓練に参加しましたか。(○は1つだけ) n=2,275

1	参加した	14.3%	2	参加しなかった	47.7%
3	参加したかったが実施されなかった	4.4%	4	実施されたかわからない	32.7%
	無回答	0.9%			

問15 あなたは、“災害時の避難場所”を家族や友人などと共有していますか。(○は1つだけ)

n=2,275

1 共有している	54.5%	2 共有していない	44.6%	無回答	0.9%
----------	-------	-----------	-------	-----	------

問16 あなたは、“災害時の安否確認の方法”を家族や友人などと共有していますか。(○は1つだけ)

n=2,275

1 共有している	45.5%	2 共有していない	53.4%	無回答	1.1%
----------	-------	-----------	-------	-----	------

問17 あなたの家庭では、災害時にどのような方法で災害情報を入手する考えですか。(○はいくつでも)

n=2,275

1 防災行政無線	35.4%
2 メール配信サービス(防災情報メール)	45.1%
3 市のソーシャルメディア公式アカウント(LINE、X [旧 Twitter]、Facebook)	17.5%
4 市のホームページ	23.9%
5 テレビやラジオ	67.8%
6 東京都防災アプリ	13.0%
7 インターネット	46.1%
8 その他	1.2%
9 特に考えていない	6.0%
無回答	0.6%

問18 あなたは、八王子市が「安心して医療を受けられるまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ)

n=2,275

1 そう思う	14.8%	2 どちらかといえばそう思う	48.5%
3 あまりそう思わない	18.1%	4 思わない	6.2%
5 わからない	11.6%	無回答	0.7%

問19 あなたは、「はちまるサポート」を知っていますか。(○は1つだけ)

n=2,275

※はちまるサポートとは・・・

八王子まるごとサポートセンター(愛称:はちまるサポート)では、社会福祉協議会の職員であるCSW(コミュニティーソーシャルワーカー)が常駐し、地域課題・生活課題を受け付けています。内容に応じて公的機関やサービスにつないだり、地域活動団体や資源とのコーディネートを行っています。(地域でサロンを立ち上げたい、地域で困っている人がいる、どこで相談したらいいかわからないなど高齢者や要援護者に限らず、すべての方を対象に相談を受け付けます。)

1 知っている	13.5%	2 知らない	85.8%	無回答	0.7%
---------	-------	--------	-------	-----	------

問 20 あなたは、八王子市が、「年齢、性別、国籍、障害の有無などにかかわらず誰もが活躍できる環境が整っているまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ) n=2,275

1	そう思う	3.3%	2	どちらかといえばそう思う	22.8%
3	あまりそう思わない	23.9%	4	思わない	9.6%
5	わからない	39.8%		無回答	0.5%

問 21 あなたは、外国人と交流したいと思いますか。(○は1つだけ) n=2,275

1	そう思う	13.7%	2	どちらかといえばそう思う	32.2%
3	あまりそう思わない	26.1%	4	思わない	15.3%
5	わからない	12.1%		無回答	0.7%

問 22 あなたは、次の（ア）～（オ）の分野で男女共同参画が実現していると思いますか。

（ア）～（オ）の各項目それぞれについて、あなたの感じ方に近いものを選んでください。

（○はそれぞれ1つずつ） n=2,275

※男女共同参画社会とは・・・

性別にかかわらず、「社会の対等な構成員」として、自らの意思によって社会のあらゆる分野で活動ができ、それにもなって男女とも同じに利益を受け、責任を担う社会のこと。

※固定的な性別役割分担意識とは・・・

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」「男性は主要な業務、女性は補助的業務」など、性別によって役割を固定する考え方のこと。

	1	2	3	4	
	そう思う	どちらかといえば そう思う	あまりそう 思わない	思わない	無回答
（ア） 家庭 固定的な性別役割分担意識にとらわれず、男女が相互に協力し、家事・育児・介護等に参加している。	15.0%	40.0%	29.3%	9.8%	5.8%
（イ） 職場 固定的な性別役割分担意識にとらわれず、男女がともに能力を発揮し、自分の望む働き方ができている。	12.7%	36.7%	30.9%	9.8%	9.8%
（ウ） 学校教育の場 男女のくくりではなく、子どもたちの個を尊重した男女共同参画の意識形成に向けた取組がなされている。	8.3%	45.5%	26.9%	7.4%	11.9%
（エ） 地域 固定的な役割分担に基づく社会慣行等がなく、男女ともに地域活動へ参加している。	7.4%	38.3%	35.5%	10.4%	8.4%
（オ） 社会全体 固定的な役割分担に基づく社会慣行等がなく、一人ひとりの個性や能力を発揮することができている。	3.9%	30.5%	44.8%	13.2%	7.6%

問 23 あなたは、この1年間に、自然と触れ合う機会がありましたか。(○は1つだけ) n=2,275

1 機会があった	73.4%	2 機会がなかった	24.4%	無回答	2.2%
----------	-------	-----------	-------	-----	------

問 24 あなたは、この1年間に、生物多様性に配慮したライフスタイルとして、どのようなことを行いましたか。(○はいくつでも) n=2,275

※生物多様性とは・・・

動物や植物、昆虫などのいろいろな生きものがいて、それらがつながり合っていることをいいます。この生きものたちのつながりにより、地球では豊かな生態系が保たれています。生物多様性は、衣・食・住だけでなく、きれいな水や空気、薬の原料、文化の源泉など、様々な恵みをもたらしてくれます。

1 旬のもの、地のものを選んで購入した	54.0%
2 身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的に触れ合った	36.3%
3 エコツアー（ガイドによる自然体験）に参加した	1.6%
4 自然保護活動や美化活動に参加した	5.4%
5 生きものを最後まで責任を持って育てた	19.9%
6 環境に配慮した商品を優先的に購入した	19.9%
7 自然や生きものについて、家族や友人と話し合った	22.2%
8 節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組んだ	56.3%
9 その他	1.3%
10 特に行っていない	15.2%
無回答	1.5%

問 25 あなたは、八王子市が地域で助け合いや交流があるなど、「人とひととのつながりがあるまち」になっていると思いますか。(○は1つだけ) n=2,275

1 そう思う	5.1%	2 どちらかといえばそう思う	35.3%
3 あまりそう思わない	26.0%	4 思わない	8.7%
5 わからない	23.2%	無回答	1.7%

問 26 あなたは、身近な場所に困りごとを相談したり、助け合ったりできる人がいますか。(○は1つだけ) n=2,275

1 いる	68.3%	2 いない	30.1%	無回答	1.6%
------	-------	-------	-------	-----	------

問 27 あなたにとって、身近な地域に気軽に立ち寄れる場所（公共施設（集会所や図書館など）、飲食店やカフェなどの民間施設、公園、サロンなど）はありますか。（○は1つだけ） n=2,275

1	ある	66.7%	2	ない	31.3%	無回答	2.0%
---	----	-------	---	----	-------	-----	------

→ (問 27 で、「1 ある」とお答えの方へ)

問 27-1 あなたの身近な地域に気軽に立ち寄れる場所はどこですか。（○は3つまで） n=1,518

1	集会所、図書館、市民センター	35.5%	2	学校	3.0%
3	公園	43.4%	4	飲食店やカフェ	47.6%
5	スーパー・商業施設	63.1%	6	その他	3.0%
	無回答	2.2%			

問 28 八王子市は、「地域づくり」を進めるために、中学校区ごとに「地域づくり推進会議」を設置しています。あなたは、この取組をご存じですか。（○は1つだけ） n=2,275

※「地域づくり」とは・・・

地域が主体的に地域の魅力や課題を把握し、その向上や解決に向けて、地域の多様な活動団体や住民同士、地域と行政が協働していくしくみを指します。

1	活動内容まで知っている	3.1%	2	活動内容は知らないが聞いたことがある	21.5%
3	聞いたことがない	72.2%	無回答		3.2%

→ (問 28 で、「1 活動内容まで知っている」または「2 活動内容は知らないが聞いたことがある」とお答えの方へ)

問 28-1 あなたは、地域づくりの取組をどこで知りましたか。（○は3つまで） n=559

1	広報はちおうじ	74.4%	2	市ホームページ	12.2%
3	市公式X（旧 Twitter）	0.7%	4	市公式 Facebook	0.5%
5	市公式 LINE	1.1%	6	町会・自治会の回覧板など	43.8%
7	友人・知人	15.7%	8	その他	5.2%
	無回答	2.1%			

問 29 あなたは、この1年間に、地域コミュニティの活動に参加しましたか。(○は1つだけ) n=2,275

1 参加した	19.8%	2 参加していない	77.9%	無回答	2.2%
--------	-------	-----------	-------	-----	------

(問 29 で、「1 参加した」とお答えの方へ)

問 29-1 参加した理由を以下から選択してください。(○は1つだけ) n=451

1 自分の興味・関心から	20.8%	2 家族や友人の勧め・誘い	8.4%
3 子どもや家族のため	10.6%	4 町会・自治会や各種地域団体からの依頼	52.3%
5 職場からの依頼	1.8%	6 その他	2.0%
無回答	4.0%		

問 30 以下の地域コミュニティの活動について、これまで、あなたの参加頻度はどれくらいでしたか。

(○はそれぞれ1つずつ) n=2,275

	1 何度も参加した	2 数回程度参加	3 参加したことがない	4 地域に活動がない、 わからない	無回答
防犯・防災系 (パトロール活動、防災訓練など)	5.1%	22.6%	51.3%	16.0%	5.1%
文化・教育系 (地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど)	3.5%	12.9%	61.7%	16.1%	5.8%
福祉系 (高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など)	2.3%	5.4%	69.1%	17.7%	5.6%
環境系 (環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど)	4.1%	13.7%	60.2%	16.4%	5.6%
スポーツ・レクリエーション系 (スポーツ大会、健康づくりなど)	4.6%	11.3%	63.6%	15.6%	4.9%
交流促進系 (祭り、マルシェ、親睦会など)	6.8%	29.5%	46.7%	11.9%	5.0%

問 31 以下の地域コミュニティの活動について、あなたは地域が主体的に取り組んでいくことが大切である
と考えますか。(○はそれぞれ1つずつ) n=2,275

	1	2	3	4	5	
	大切だと思う	やや大切だと思う	あまり大切に思わない	全く大切に思わない	わからない	無回答
防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）	55.8%	32.1%	3.1%	1.0%	5.0%	3.0%
文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど）	47.2%	37.0%	4.2%	1.1%	6.9%	3.6%
福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）	51.8%	34.3%	3.7%	0.9%	5.8%	3.4%
環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど）	43.7%	40.1%	4.5%	1.1%	6.8%	3.8%
スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど）	29.6%	41.9%	14.2%	2.5%	8.4%	3.4%
交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）	33.0%	41.9%	11.8%	2.2%	7.7%	3.4%

問 32 以下の地域コミュニティ活動について、あなたは今後、参加したいと思いますか。

(○はそれぞれ1つずつ) n=2,275

	1	2	3	4	
	ぜひ参加したい	参加してもよい	あまり参加したくない	全く参加したくない	無回答
防犯・防災系（パトロール活動、防災訓練など）	6.8%	46.8%	31.4%	10.4%	4.6%
文化・教育系（地域における文化芸術活動、登下校の見守り、子どもの学習サポートなど）	6.2%	41.7%	35.0%	12.7%	4.4%
福祉系（高齢者や障害者のサポート、子育て支援、子ども食堂など）	6.7%	42.3%	35.0%	11.6%	4.4%
環境系（環境美化活動、緑地保全活動、環境に関するボランティアなど）	6.9%	45.0%	32.3%	10.9%	4.9%
スポーツ・レクリエーション系（スポーツ大会、健康づくりなど）	7.3%	37.1%	37.0%	14.5%	4.1%
交流促進系（祭り、マルシェ、親睦会など）	10.8%	41.8%	31.4%	11.6%	4.5%

- 質問はこれで終わりです。ご協力いただきありがとうございました。
- ご記入済みの調査票は、同封の返信用封筒に入れて、11月15日（水）までに切手を貼らずに郵便ポストに投函してください。お名前を書く必要はありません。

インターネットを利用した回答方法

～パソコン、スマートフォン、タブレット端末で回答できます～

※ 郵送で回答される場合は、この用紙をお読みいただく必要はありません。

※ 携帯電話（フィーチャーフォン）及び一部のスマートフォン（Android4.4 以前または iOS4 以前）でのご利用はできませんので、郵送での回答をお願いします。

調査画面へのアクセス方法

1. パソコンの場合

- (1) 八王子市ホームページトップページの右下にある「オンラインサービス」から「電子申請・届出」を選択してください。
- (2) [次画面] 「八王子未来デザイン2040の運営に関する市民アンケート調査の回答はこちら」を選択してください。
- (3) [次画面] 「パソコンからのご回答（外部リンク）」を選択してください。
- (4) 調査票「八王子未来デザイン2040の運営に関する市民アンケート調査」の右上に記載してある申請者IDとパスワードを入力し、「ログイン」を選択してください。



2. スマートフォン・タブレット端末の場合

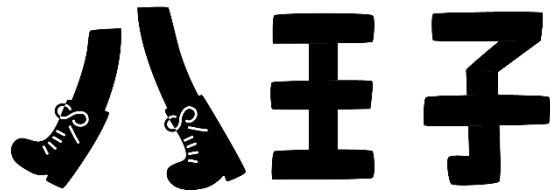
- (1) 右記の二次元コードを読み取ってください。
 - (2) 調査票「八王子未来デザイン2040の運営に関する市民アンケート調査」の右上に記載してある申請者IDとパスワードを入力し、「ログイン」を選択してください。
- ※ 二次元コードを読み取ることができない場合などは、お手数ですが各端末から上記の「1.パソコンの場合」の方法で八王子市ホームページにアクセスし、「スマートフォン・タブレット端末からのご回答（外部リンク）」を選択して下さい。



回答にあたっての注意事項

1. ブラウザ、スマートフォン等の「戻る」機能は使えません。
2. セキュリティ確保のため、調査票画面を開いてから**60分で接続が切れる**仕組みになっておりますので、**時間内に回答くださるようお願いいたします。**
 - (ア) 60分を超える場合や入力を一時中断する場合は、以下の方法で入力内容の一時保存をしてください。
 - ① 入力画面下部の「回答一時保存確認」ボタンを選択します。
 - ② [次画面] 「再開用パスワード」を入力後「回答一時保存」ボタンを選択します。
 - ③ [次画面] 表示された「一時保存番号」と「再開用 URL」を控えておきます。
 - ④ **再開時**は、控えておいた「再開用 URL」のページで、「再開用パスワード」と「一時保存番号」を入力することで再開することができます。
3. すべての回答が終わりましたら「回答内容確認」ボタンを押し、確認後に「回答する」ボタンを選択してください。「回答完了」（到達番号・問い合わせ番号が表示される）の画面が表示されましたら、回答は終了です。
4. インターネットで回答された場合は、調査票を郵送していただく必要はありません。
5. 通信サービスの接続料金は利用者様の負担となります。

あなたのみちを、
あるけるまち。

**八王子**

「八王子未来デザイン2040」の運用に関する
市民アンケート調査報告書
令和6年（2024年）3月

発行 八王子市 総合経営部 経営計画課
〒192-8501 八王子市元本郷町三丁目24番1号
電話 042-620-7200
FAX 042-627-5939